

2025 年

独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター

年 報

(診療業績集)



独立行政法人国立病院機構長崎医療センター シンボルマーク



高度専門医療を目指す独立行政法人国立病院機構長崎医療センターの
シンボルマークは、

国際的な視野での医療拠点（ブルー）

と

離島など地域に足場を置く心暖かい医療（ピンク）

という二つの翼で長崎の地(N)より飛び立つ水鳥をイメージする。
『高度医療』『臨床研究』『教育・研修』『国際医療協力』の四本柱より、
広く世界へ情報発信する図を表している。大いなる歴史と、
世界に目を向けた医療ネットワークの発信拠点である姿を
美しく、親しみやすく、そして雄大にデザインした。



第20回国病久原会総会 2025年10月25日

長崎医療センター診療年報2025

巻頭言

長崎医療センター年報（診療業績集）2025年度版をお届けいたします。

2025年度は、医師の働き方改革が本格運用の段階に入り、タスクシフトやチーム医療の推進が一層重要となっています。限られた医療資源の中で持続可能な医療提供体制を確立するため、今後も柔軟な体制整備を進めてまいります。

経営面においては、依然として厳しい状況が続いております。医療需要の変化に的確に対応し、安定した経営基盤を構築することは喫緊の課題であり、全職員が一丸となって取り組むことが不可欠です。

このような背景のもと、2025年度の当センターの病院目標として、「心理的安全性を確保しつつ、患者に安全・安心な医療を提供すること」および「感染症に強い病院の実現」を掲げました。質の高い医療の提供を通じて患者さんに信頼される病院であると同時に、職員一人ひとりがやりがいを持ち、誇りをもって働ける環境づくりを進めてまいります。さらに、これらの取り組みを支える持続可能な経営体制の確立にも努めてまいります。

さらに、令和9年度から始まる新たな地域医療構想を見据え、当センターは急性期拠点病院として地域医療の中核を担いながら、高齢者救急や在宅医療支援にも積極的に関与してまいります。長崎県においては、他県に比べ少子高齢化が進行しており、救急医療の入口と出口の課題への対応が一層重要となっています。地域の医療機関や高齢者施設等との連携を強化し、切れ目のない医療提供体制の構築を目指してまいります。

本年報には、当センターの現状と各部門の取り組みが反映されております。ぜひご高覧いただき、今後の方向性についてご理解を深めていただければ幸いに存じます。

2026年3月

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

院長 高山隼人

基本理念

高い水準の知識と技術を培い

さわやかな笑顔と真心で

患者さん一人一人の人格を尊重し

高度医療の提供を目指します

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行之、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 救急医療の最後の砦となる
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

長崎医療センターの運営方針

地域・職員から信頼させる病院を目指す

- ・医療者が集う病院
- ・職員が達成感のある医療を提供できる病院
(働き方改革、ハラスメント防止)
- ・患者に安全、安心の医療提供する病院
(医療事故回避)
- ・安定した病院経営

患者さんの権利

- だれもが平等に安心して最善の医療を受ける権利があります
- 病気や検査および治療について十分な説明と情報を得る権利があります
- 治療法など自ら自由に選択できる権利があります
- 個人の尊厳が保て、診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります
- 病院内で起こった出来事で苦情を申し立てる権利があります
- 患者さん自身の診療録の開示を求める権利があります

以上のことをお約束するため、患者さんのご協力をお願い致します

患者さんへのお約束

- 全ての職員は、初めてお会いする時に自己紹介を致します
- 全ての職員は、注射を行う時、薬をお渡しする時、お名前や注射・薬などを声を出して確認いたします
- 患者さんには、検査や手術を行う前に、ご自分のお名前を声に出して言って頂きます
当院では、医療を安全に安心して受けて頂けるよう、患者さんへもご協力頂いております

医の倫理綱領

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医療人は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に平等に奉仕するものである。

1. 医療従事者は生涯学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす
2. 医療従事者はこの職業と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛ける
3. 医療従事者は医療を受ける人びとの人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努める
4. 医療従事者はお互いに尊厳し、他の医療関係者と協力して医療に尽くす
5. 医療従事者は医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努める

目 次

病 院 概 要

病 院 沿 革	1
学会の施設認定の状況	10
病院功労賞 受賞チーム	11
院内学術奨励賞 表彰	12

診 療 ・ 臨 床 統 計

腎 臓 内 科	15
血 液 内 科	20
内分泌・代謝内科	28
リウマチ科	31
総合診療科・総合内科	35
精神科・精神リエゾンチーム	44
呼吸器内科	47
消化器内科	54
肝 臓 内 科	58
循環器内科	70
感染症内科	77
小 児 科	79
外 科	85
呼吸器外科	99
整 形 外 科	105
リハビリテーション科	111
脳神経外科	114
皮 膚 科	123
泌 尿 器 科	127
産 婦 人 科	131
眼 科	141
耳鼻咽喉科	145
放 射 線 科	150
麻 酔 科	163
脳神経内科	165
形 成 外 科	167

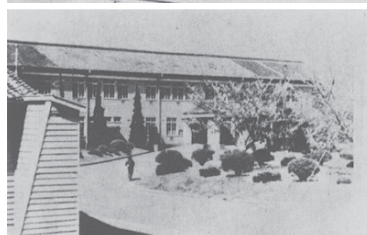
心臓血管外科	175
臨床研究センター	179
海外研修生リスト	208
看護部	209
診療病棟	238
手術センター	251
治療検査センター	252
外来	253
医療相談支援センター	254
診療看護師（JNP）	255
薬剤部	262
病理診断科	273
臨床検査部臨床検査科	280
栄養管理室	296
緩和ケアチーム：Palliative Care Team	301
褥瘡対策委員会	304
NST（栄養サポートチーム）	310
臨床工学室	315
医療安全管理室	319
BLS研修・RRS	324
感染対策チーム	326
クリティカルパス	331
総合情報センター	333
診療情報管理室	335
県央がんセンター	339
治験管理室	344
教育センター	347
高度救命救急センター	359
長崎県ドクターヘリ	367
防災センター・ベッドセンター・車庫	372
NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2024年度】	376
医療情報統計部門	
医事統計	388
eXChart 疾病統計	393
腫瘍集計報告	401

病 院 概 要

病院沿革

昭和

- ① 昭和17年7月1日 佐世保海軍病院大村病舎として創設
- 昭和17年10月1日 大村海軍病院として運営開始
- 昭和22年10月1日 高等看護学院を付設
- 昭和25年7月1日 国立長崎病院を統合
- 昭和32年 小児医療センター未熟児室創設
- 昭和35年8月 循環器センター開設
- 昭和40年7月 がん診療施設開設
- ③ 昭和45年 皇太子殿下、妃殿下御来院：小児センター入院中の病児ご慰問を兼ね、本院開催「長崎県離島医療医療事情に関するご懇談会」へご出席
- 昭和46年4月1日 医師の臨床研修病院へ指定、救急医療センター開設
- 昭和47年4月 血液透析センター開設
- 昭和48年4月 僻地親元病院、臨床検査センターの指定、精神医療センター開設、医学的リハビリテーションセンター施設



④ 昭和50年 4 月 2 日 国立長崎中央病院と名称変更

⑤ 昭和51年 4 月 難病肝疾患基幹施設設置

⑥ 昭和53年 3 月15日 救命救急センター設置（国立病院で初めて）

● 昭和53年 4 月 5 日 臨床研究部設置

● 昭和55年 4 月 母子医療センター設置

⑦ 昭和56年10月 WHO肝炎協力センター指定

昭和56年11月30日 地方腎移植センター設置及び腎移植施設に指定（平成7年改編される）

● 昭和58年10月 1 日 地域医療研修センター設置

● 昭和61年 高度総合診療施設
（九州ブロックセンター）に認定

平成

● 平成2年 5 月 肝臓電子カルテ開発

● 平成2年10月 総合診療センター

● 平成6年 3 月 エイズ拠点病院

● 平成7年 6 月 指定HLA検査センター

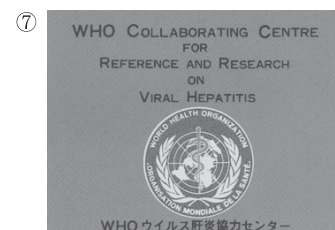
● 平成7年 8 月 赤ちゃんにやさしい病院（ユニセフとWHO）に認定

● 平成7年12月 6 日 腎移植施設登録

● 平成8年12月 基幹災害医療センター

● 平成10年 6 月 臓器提供施設

● 平成10年 9 月 脳死臓器移植指定病院



- 平成11年3月1日 日本初の脳死腎移植
- 平成11年3月19日 高度専門医療施設（準ナショナルセンター）
（肝疾患）の指定
- 平成11年3月 基幹医療施設（成育）の指定
- 平成13年4月1日 国立病院長崎医療センターと名称変更
- 平成14年3月 電算化オーダーリング開始
- 平成14年10月 臨床研究センター開設
- 平成15年4月 地域医療支援病院
- 平成16年4月1日 独立行政法人国立病院機構
長崎医療センターと名称変更
- 平成16年4月 長崎大学大学院医歯薬総合研究科連携
講座（肝臓病講座）開設
- 平成16年10月12日 南京大学医学院附属病院鼓楼医院との
学術交流調印式
- 平成17年1月 がん疾患診療拠点病院に指定
- 平成17年4月25日 日本医療機能評価機構認定
- 平成17年5月12日 南京大学医学院附属鼓楼病院との
～ 17日 第二回日中学術交流会開催
- 平成18年7月1日 DPC運用開始
- 平成18年11月3日 南京大学医学院附属鼓楼病院との
第三回日中学術交流会開催
- 平成18年11月6日 北華大学との学術交流調印式
- 平成18年12月1日 ドクターヘリ運用開始
- 平成19年4月 教育センター開設
- 平成19年4月 カザフ国立循環器病学・内科学科学
研究センター（カザフスタン）との
学術交流締結
- 平成19年7月 総合周産期母子医療センターに指定
- 平成19年8月 肝疾患診療連携拠点病院に指定
- 平成19年9月29日 附属看護学校60周年記念式典



●	平成20年 2 月28日	国立病院機構長崎医療センターホームページ リニューアル	
●	平成20年 3 月20日	日本輸血細胞治療学会 I & A 認定 (国立病院機構の病院としても、九州 の病院としても第 1 号認定)	
16	平成20年 4 月 1 日	米倉正大院長、国立病院機構九州 ブロック担当理事を拝命	
●	平成20年 4 月 1 日	小児循環器学会修練施設認定	
17	平成20年 7 月 1 日	ロシア連邦卒後教育医学アカデミー 学長らの表敬訪問	
●	平成20年 7 月10日	医療相談支援センター開設 (地域医療連携室(前方支援)と MSW(後方支援)が合体)	
●	平成21年 3 月20日	長崎県 DMAT 始動	
18	平成21年 4 月18日	長崎医療センター敷地内に 活水女子大学看護学部開学	
●	平成21年 4 月28日	長崎県ドクターヘリ出動1000件突破	
●	平成21年 6 月12日 ～ 13日	第11回日本医療マネージメント 学術総会を主催	
19	平成21年 7 月16日	皇太子殿下の長崎医療センターご訪問 第45回献血運動推進全国大会が佐世保 で行われ、そのお帰りの際に長崎医療 センターにお立ち寄りになりました	
●	平成21年 9 月14日	新電子カルテシステムへの更新	
●	平成21年10月14日	長崎・アルマティー(カザフスタン) 心臓病診断・治療プロジェクト調印	
●	平成21年11月 9 日	NPO 法人卒後臨床研修評価機構の 『医師臨床研修に関する機能評価』を受審(平成22年 1 月 1 日認定)	
●	平成22年 2 月24日 ～ 26日	病院機能評価(Ver.6)受審(同、5 月 7 日認定)	
●	平成22年 4 月 1 日	医療の質の公開(外来棟に診療科別診療業績を掲示)	
●	平成22年 9 月 2 日	改正臓器移植法後の臓器提供(九州 1 例目)と腎臓移植	
20	平成22年11月26日 ～ 27日	第64回国立病院総合医学会開催	
●	平成22年12月13日	脳死臓器提供	

- 平成23年2月1日 長崎県ドクターヘリ出動2000件達成
- ②① 平成23年3月8日 長崎医療センター附属看護学校第62回生卒業式
- ②② 閉校記念碑除幕式
- ②③ 平成23年3月11日 東日本大震災
- ②④ 平成23年3月13日 長崎医療センター附属看護学校閉校記念式典
- 平成23年4月1日 長崎医療センター附属看護学校閉校
- 平成23年11月12日 第18回日本航空医療学会開催
- 平成23年12月6日 南京大学医学院附属鼓楼医院との第8回日中学術交流会開催



- 平成24年1月29日 長崎県国民保護共同実働訓練～空港テロを想定～
- 平成24年4月1日 江宏典院長新体制
- 平成24年4月9日 予約入院支援センター開設
- 平成24年6月3日 ドクターヘリ出動3000回を超える
- 平成24年9月22日 カザフスタン医科大学との学術交流協定調印
- ②⑤ 平成24年10月5日 臨床研究センター10周年記念式典
- ②⑥ 平成24年10月20日 第15回久原会総会開催
- 平成24年12月15日 南京大学医学院附属鼓楼医院120周年記念式典



- ②⑦ 平成25年2月16日 カザフスタン国立内科循環器病
～ 19日 研究所からの訪問団



- ②⑧ 平成25年 3月25日 長崎医療センター研修医同窓会
“あかしや医師の会” 設立



- ②⑨ 平成25年 4月12日 長崎新聞掲載記事より
経済連携協定（EPA）に基づいた
看護師候補者への教育支援
看護師国家試験外国人候補者合格



- 平成25年 7月 6日 第1回長崎医療センター
がんフォーラム開催

- 平成25年10月14日 南京大学医学院附属鼓楼医院訪問団
～ 18日 第9回学術交流会開催

- ③⑦ 平成26年 1月11日 第1回あかしや医師の会総会開催

- ③① 平成26年 1月27日 カザフスタン国立医科大学副学長来院

- 平成26年 2月 南京大学附属鼓楼醫院からの研修生 2名
の研修終了



平成26年1月11日(土)
第1回「あかしや医師の会」総会

- ③② 平成26年 8月26日 ドクターヘリポート駐機場等落成式



- 平成26年10月 1日 県央がんセンター開設

- ③③ 平成26年10月18日 第16回久原会開催

- 平成26年10月30日 カザフスタン国立医科大学との共同
若手医師教育プログラム締結

- ③④ 平成27年 3月 5日 病院機能評価（3rdG：Ver1.0）
～ 6日 受審（認定）



第16回 国病久原会 平成26年10月18日

- 平成27年 3月27日 人材育成センター落成式

- ③⑤ 平成27年 4月20日 カザフスタン共和国厚生社会開発省発令
カザフ国立医科大学金メダル受賞
（4人同時受賞は初）



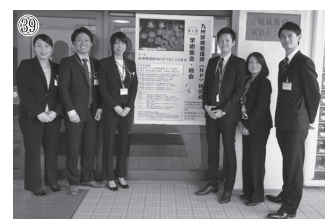
- 平成27年 6月17日 ドクターヘリ
安全運航5000回記念式典

- 平成27年 7月11日 第3回がんフォーラム開催



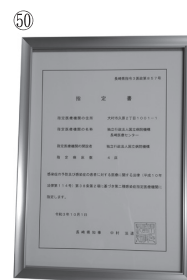
- 36 平成27年 8 月 8 日 広島被爆エノキ植樹式
- 平成27年11月14日 第10回健康フェスタ開催
- 37 平成27年11月28日 あかしや医師の会 第2回総会開催
- 平成28年 3 月 国立病院機構JNP（Japanese Nurse practitioner：診療看護師）研修終了
- 平成28年 4 長崎県内初のDPCⅡ群病院としてスタート
- 平成28年 4 月14日 熊本地震への対応
- 38 平成28年 6 月 4 日 第1回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催
- 平成28年 8 月 6 日 第4回がんフォーラム開催
- 平成28年10月15日 第17回国病久原会開催
- 平成28年11月16日 医科特定共同指導受審
～ 17日
- 平成28年11月26日 第11回健康フェスタ開催
- 39 平成29年 2 月 4 日 第1回九州診療看護師（NP）研究会
学術集会・総会を開催
- 平成29年 3 月 1 日より

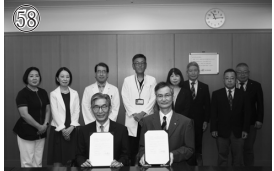
EMTAC（Emergency Medical Team on Ambulance Car）；
長崎医療センター救命救急センター医師が、同敷地内にある県央
地区広域市町村圏組合消防本部大村署久原分署高規格救急車に同
乗し現場へ出動するシステムが運用開始
- 平成30年 3 月10日 九州沖縄スライドコンファランスを
主催
於、長崎医療センターあかしやホール
- 40 平成30年 4 月 高度救命救急センター指定
- 41 平成30年 3 月25日 第1回パープルデ INA がさき2018
於、長崎県庁エントランスホール
- 平成30年 7 月 長崎県ドクターヘリ新機種導入
- 平成30年11月 3 日 平成30年度全国医師会勤務医部会連絡
協議会於、長崎市
『ながさき宣言』
- 平成31年 4 月30日 平成天皇陛下生前退位



令和

- 令和元年 5 月 1 日 新天皇陛下御即位
- 42 令和元年 6 月14日 学校法人九州文化学園長崎国際大学と『教育・研究における連携・協力協定』を締結
- 43 令和元年 6 月22日 第4回長崎医療センターしょうぶフォーラム開催
- 44 令和元年 6 月27日 活水女子大学と『看護連携ユニフィケーション事業基本協定』を締結
- 45 令和元年10月26日 第6回がんフォーラム開催
- 46 令和 2 年 1 月22日 日本医療機能評価機構による
～ 23日 病院機能評価の訪問審査を受審
5 月 8 日 3rdG : Ver.2.0 認定 (証)
- 47 令和 2 年 1 月25日 長崎医療センター研修医同窓会『あかしや医師の会』第4回総会開催
- 令和 2 年 2 月26日 特定行為研修指定研修機関指定 (証) ; 指定研修機関番号2042002
- 3 月14日 壱岐市で新型コロナ発生 (長崎県第1例目) 診療支援に
- 令和 2 年 7 月 8 日 熊本豪雨災害へ
～ 10日 長崎医療センター DMAT派遣
- 48 令和 2 年 9 月 9 日 離島医療連携ヘリ事業開始 (RIMCAS : Remote Island Medical Co-operation Air Service)
- 令和 2 年12月28日 ドクターヘリ 1 万回出動
- 49 令和 3 年 2 月28日 新型コロナワクチン接種開始
- 50 10月 1 日 第二種感染症指定医療機関に長崎県より指定



51	令和4年3月	第7回がんフォーラム開催（WEB）	
52	4月	八橋弘院長就任	
	9月	西九州新幹線開業	
53	12月	救急外来隔離診療棟（I棟）開設	
	令和5年3月13日	第1回サイバー攻撃時対応訓練	
	5月13日から14日	G7長崎保健大臣会合	
	11月11日	第19回国病久原会総会	
	12月19日	ダビンチ手術第1例目	
	令和6年1月1日	石川・能登で震度7（能登半島地震） 長崎医療センター DMAT派遣	
	2月10日	第9回がんフォーラム	
57	4月1日	高山隼人院長就任	
	7月	パリオリンピック 永瀬貴規選手柔道男子81kg級2連覇	
58	8月	純真学園大学との協定締結	
59		赤ちゃんにやさしいNICU（BFNICU） の認定	
	10月	ノーベル平和賞を「日本原水爆被害者団体 協議会（被団協）」が受賞	
60	令和7年4月	第一回長崎医療センター病病・病診連携の会 大阪・関西万博 大阪 夢洲	
	8月5日	病院機能評価受審	
	～6日	「機能種別版評価項目<3rdG:Ver3.0>」 一般病院2 認定番号JC504-5号	
	10月21日	第104代内閣総理大臣に高市早苗氏就任 日本初の女性首相	
	10月25日	第20回国病久原会総会	
61	11月7日	第79回国立病院総合医学会	
	～8日	事務DXチーム 九州グループ最優秀賞受賞	

学会の施設認定状況

日本アフレスシス学会
 日本インターベンショナルラジオロジー学会
 日本プライマリケア連合学会
 日本リウマチ学会
 日本医学放射線科学会
 日本肝臓学会
 日本肝胆膵外科学会
 日本眼科学会
 日本感染症学会
 日本救急医学会
 日本急性血液浄化学会
 日本形成外科学会
 日本血液学会
 日本外科学会
 日本血管外科学会
 日本航空医療学会
 日本高血圧学会
 日本胸部外科学会
 日本呼吸器学会
 日本呼吸器外科学会
 日本呼吸器内視鏡学会
 日本呼吸療法医学会
 日本産婦人科学会
 日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）
 日本周産期・新生児医学会（新生児）
 日本小児科学会
 日本小児循環器学会
 日本小児神経学会研修関連施設
 日本消化器外科学会
 日本消化器内視鏡学会
 日本消化器病学会
 日本食道学会
 日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会
 日本循環器学会
 日本集中治療医学会専門医研修施設
 日本静脈経腸栄養学会
 日本神経学会
 日本心臓外科学会
 日本腎臓学会
 日本膵臓学会
 日本整形外科学会
 日本大腸肛門学会
 日本消化管学会
 日本胆道学会
 日本超音波医学会
 日本手外科学会

日本てんかん学会
 日本透析医学会
 日本糖尿病学会
 内科専門研修プログラム 基幹施設
 総合診療専門医プログラム 基幹施設
 新・家庭医療専門研修プログラム 基幹施設
 日本内分泌学会
 日本内分泌外科学会
 日本乳癌学会
 日本熱傷学会
 日本脳神経外科学会
 日本脳卒中学会
 日本皮膚科学会
 日本泌尿器科学会
 日本病理学会
 日本不整脈心電図学会
 日本放射線腫瘍学会
 日本核医学学会
 日本麻酔科学会
 日本輸血細胞治療学会
 日本臨床細胞学会
 日本臨床腫瘍学会
 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構
 日本がん治療認定医機構
 認定輸血検査技師制度協議会
 日本ステントグラフト実施基準管理委員会
 日本医療機能評価機構
 日本乳がん検診精度管理中央機構
 日本輸血・細胞治療学会I & A
 日本臓器移植ネットワーク
 臨床輸血看護師制度
 JCOG参加施設認定証 乳がんグループ
 JCOG参加施設認定証 リンパ腫グループ
 日本専門医機構
 総合診療専門医検討委員会
 日本心血管インターベンション治療学会
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
 日本医療薬学会 地域ケア専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
 日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修施設
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修施設
 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設（基幹施設）
 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）
 日本医学放射線学会 画像診断管理認定施設（画像人工知能安全管理・MRI安全管理）
 日本核医学学会 PET撮像施設認（I）
 日本臨床衛生検査技師会品質保証施設
 J A L S G 施設会員

病院功労賞 受賞チーム

令和7年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	環境整備隊	岩崎 貴 (管理課)	通常業務にとどまらず、外来のクロス張替や天井のカビ取りを休診日に勤務調整のうえ実施するなど、柔軟で献身的な対応を行った。さらに、樹木伐採による大幅な経費削減や院内道路・標識の補修作業など、専門業者に依頼せず自らの手で対応し、院内の安全性と快適性の向上に大きく貢献したことに對して、表彰する。
2	栄養管理室	四元 有吏 (栄養管理室長)	厳しい状況下においても業務の質を維持しながら、経費節減に尽力し、さらに、患者様の健康を支える栄養指導やNST活動を積極的に推進し、チーム医療の充実に貢献した。その結果、病院機能評価において最高ランクであるS評価を獲得し、病院運営に大きく寄与したことに對して、表彰する。

令和6年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	手術室看護師・臨床工学室ロボット手術導入チーム	榊原 チハル (手術室看護師長) 田代 博崇 (臨床工学技師長)	手術室看護師・臨床工学室ロボット手術導入チームが、今年度新規に導入したロボット手術の円滑・安全な運用と医業収益の増収アップに貢献したことに對して敬意をもって推薦いたします。
2	退院支援コアナースチーム	宮原 香織 (入退院支援コアナース会議代表)	地域医療構想の中で在宅を視野に入れた看護の実践が求められ、入退院支援は重要視されている。急性期病院である当院では、短い在院日数の中で円滑な入退院支援が課題であった。今回、コアナースが中心となってスタッフに教育と周知を行ったことにより、入退院支援の理解と実践が促進され、結果、入退院支援加算の算定件数が月平均で約4倍の増加をみとめるなど、病院の経営に大いに貢献したといえる。よって、ここに感謝の意をもって表彰する。

令和5年度

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	医療安全管理部チーム	井手 時枝 (医療安全管理者) 松内 みゆき (専門職)	医療安全管理部チームが、病院内で発生する医療安全案件の顕性化を防ぐことにより患者や職員に安心感を齎したこと、また患者家族対応にも親身に根気よく対応されたこと、に對して敬意をもって表彰する。
2	めぐみの部屋チーム (教育センター)	斉藤 昌子 (副看護師長) 松本 温子 (看護師)	多忙な医療現場で感染対策のためコミュニケーションの取り辛い職場環境なども相まって、悩みを抱えながら勤務している職員は多くなっている。関係の質を向上する目的で開設されためぐみの部屋は、部署内では飲み込んでしまう心情を吐露し、気持ちを軽くしてくれる個人相談の窓口として月1件以上の相談を受け、相談者の気持ちに寄り添った対応をこころがけることで職員のメンタルヘルス維持に貢献していただいていると感謝の意をもって表彰する。

院内学術奨励賞 表彰

令和7年度

最優秀学術奨励賞

	受賞者	タイトル
1	大石 景子 (治療検査センター看護師)	Oishi K, Nakamura D, Takeda T, Shinchi M, Ashikari T. Effectiveness of thin polyurethane film dressings in preventing acute radiation dermatitis during postmastectomy radiotherapy for breast cancer: A retrospective study. Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing. 2025 Oct 11 ; 12 : 100801. 【IF : 2.8】

優秀学術奨励賞

1	森 英毅 (総合診療科医長)	Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y. Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis : a prospective cohort study. Emergency Medicine Journal. 2025 Jul 22 ; 42(8) : 519-525. 【IF : 2.8】
2	富浦 真秀 (外来看護師)	Tomiura M, Kurusu K, Murakami M, Inada A, Hara K. Factors Associated with Skin Exposure of Central Venous Ports in Patients Undergoing Chemotherapy : A Retrospective Study. BMC Cancer . Accept 2025.11.10. 【IF : 3.4】
3	宮島 隆一 (診療放射線技師長)	Miyajima R, Ueno R, Ichino R, Teraoka S, Yasushi I, Sonoda M. Evaluation of the usefulness of the masking on un-smoothed image method in ²⁰¹ Tl myocardial perfusion SPECT. Radiological Physics and Technology. 2025 Dec ; 18(4) : 1308-1313. 【IF : 1.5】

特別学術奨励賞

1	橋口 里佳 (手術室看護師)	橋口里佳, 井上彩衣, 原健太郎. ルミノール化学発光法を用いた手術室看護師のガーゼカウント時の血液曝露の実態調査. 日本環境感染学会誌. Accept 2025.09.01.
---	-------------------	--

令和6年度

	受賞者	タイトル
1	吉永 龍史 (リハビリテーション科)	Yoshinaga R, Yamada N, Hanada M, Ishimatsu Y, Kozu R. Pre-Admission Predictors of Walking Independence in Critically Ill Patients. Respiratory Care. 2024 Sep 26 ; 69(10) : 1314-1322. 【IF : 2.4】
2	市原 幸大 (9 A病棟)	Ichihara K, Kitagawa M, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Hara K. Leveraging Virtual Reality for Advanced Scrub Nurse Education: A Non-Randomized Comparative Study of Training Effectiveness. Clinical Simulation in Nursing. Accepted : 2024.11.03. 【IF : 3.4】

3	原 健太郎 (手術センター)	Hara K, Tachibana R, Kaneko S, Yamaguchi M, Fujioka M, Kuroki T, Honda S, Sawai T. Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management. Scientific Reports. 2024 Oct 24 ; 4(1) : 25185. 【IF : 3.8】
4	中里 有加 (7 B 病棟)	出産後の母乳育児状況と授乳トラブルへのセルフケア 1 施設における産後 6 ヶ月間の縦断調査から. 母性衛生 65(1) : 98-104, 2024.04.
5	米田 晃 (外科)	Yoneda A, Ogata R, Ryu S, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kitasato A, Sugiyama N, Takeshita H, Minami S, Kuroki T. Prognostic value of systemic inflammation score in patients with esophageal cancer. Annals of Medicine and Surgery. 2024 May 15 ; 86(7) : 3852-3855. 【IF : 1.7】

令和 5 年度

	受賞者	タイトル
1	津野崎 絹代 (JNP)	Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing ≥ 1500 g at birth. Pediatrics International. 2023 ; 65(1) : e15611.
2	福岡 操 (産婦人科)	Achievement of Target Glycemic Goal with Simple Basal Insulin Regimen in Women with Gestational Diabetes : A Prospective Cohort Study. Journal of Diabetes Research. 2023 ; 2023 : 9574563.
3	立花 玲華 (手術室看護師)	全身麻酔下開腹肝胆膵手術におけるディスプレイリトラクター使用時の皮膚障害の予防 第 4 回SGHがん看護研究助成

診療・臨床統計



責任者 岡 哲

診療科の特色

腎臓内科で取り扱う疾患は、慢性腎臓病（CKD）、慢性腎炎症候群やネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急性腎不全などの腎疾患をはじめとして、二次性高血圧、電解質異常、透析患者の導入・管理、腎移植など様々な疾患にも対応しています。特にCKDは透析予備軍であり、原因疾患特定のために腎生検の検討や、腎機能障害進行抑制のための高血圧症や糖尿病、脂質異常症の管理などの集学的治療を行う必要があります。そのために地域の先生方との密接な病診連携を心がけるようにしています。腎機能障害が進行した場合には、患者背景も考慮しながら腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の選択を行い、スムーズな移行とその後の管理、合併症への対応など行っています。さらに泌尿器科と連携し、腎移植手術、内シャント造設や腹膜透析カテーテル留置など腎不全外科手術にも積極的に関与しており、腎移植後の内科的管理や移植腎生検も行っています。心疾患など他科で透析患者の併存疾患の治療が必要な場合は、入院中の透析治療の管理を担当します。また薬物療法のみでは治療が困難な難治性疾患（神経疾患や炎症性腸疾患、膠原病、血液疾患など）に対して、アフェレーシス治療（血漿交換や血漿吸着など）にも取り組んでいます。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
4,718人	12.9人	256人	328人	19人	16.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
106件	89.7%	646件	512.7%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
182人(56.9%)	53人(16.6%)	5人(1.6%)	6人(1.9%)	2人(0.6%)	21人(6.6%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
12人(3.8%)	6人(1.9%)	6人(1.9%)		1人(0.3%)	15人(4.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
3人(0.9%)	2人(0.6%)		2人(0.6%)		1人(0.3%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
			3人(0.9%)		320人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
末期腎不全	N185	106	2
IgA腎症	N028	25	0
透析シャント機能低下・狭窄・閉塞	T82	22	0
細菌性肺炎	J159	16	3
ネフローゼ症候群	N049	16	1
うっ血性心不全	I500	11	0
慢性糸球体腎炎	N039	9	0
感染性胃腸炎	A090	8	0
COVID-19	U071	6	0
急性腎盂腎炎	N10	6	0

主要検査件数

検査	症例数
固有腎生検	34
移植腎生検	24
経皮的内シャント拡張術・血栓除去術、シャント造影	33

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1) 血液透析・血液濾過（透析）・限外濾過（ECUM）		299	3257	28
2) 腹膜透析		13	—	0
3) 血液透析と腹膜透析の併用		3	—	—
4) 顆粒球除去療法（GCAP）		5	43	—
5) 単純血漿交換療法		8	45	—
6) 血漿吸着療法		0	0	—
7) 二重膜濾過血漿交換療法		1	2	—
8) 腹水濾過濃縮再循環静注法（CART）		4	4	—
9) LDLアフェレーシス		3	36	—

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
腎臓内科カンファレンス	1回/週
透析センター多職種合同カンファレンス	1回/週
泌尿器科・腎臓内科合同カンファレンス	1回/週
5階A病棟多職種合同カンファレンス	1回/週
院内腎病理カンファレンス	1回/週

■ ■ 実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	抗好中球細胞質抗体関連血管炎における治療反応性の検討	観察	オプトアウト	長崎大学病院腎臓内科 西野 友哉	岡 哲

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	2	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	6	5

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国際	国内		
件数	0	0		

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

■ ■ 研究業績

論文発表

B：和文

B-a1：和文原著

- 1) 非透析慢性腎臓病患者と血液透析患者における血清アルブミン濃度と血清亜鉛濃度の関連の比較.

安藤翔治、岡哲、山下由恵、荒木慎平、千上みどり、四元有吏.

医療 2025；79(3)：133-140.

B-a2：和文症例報告

- 1) 全尿路全摘術後の血液透析患者に対し献腎移植を施行した1例.

大仁田亨、岩田隆寿、柿田聖太、松島俊樹、鹿子木桂、伊達雅浩、山下由恵、岡哲、錦戸雅春.

日本臨床腎移植学会雑誌 2025；13(2)：161-164.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) PWAT部への大網癒着により大網巻絡を来した腹膜透析の1例.

- 岡哲、伊達雅浩、中村麻衣子、松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、西野友哉。
一般演題 5 PD関連 2. 第4回日本腎不全合併症医学会学術集会. 那覇, 2025.2.15.
- 2) PWAT部への大網癒着により腹膜透析カテーテル大網巻絡を来した1例。
片山あかり、岡哲、伊達雅浩、中村麻衣子、松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、西野友哉。
一般演題IV. 第51回長崎県人工透析研究会. 大村, 2025.3.2.
- 3) 被嚢性腹膜硬化症に対し外科的治療を施行した一例。
伊達雅浩、中村麻衣子、岡哲、西野友哉。
一般演題IV. 第51回長崎県人工透析研究会. 大村, 2025.3.2.
- 4) 血液透析導入期の指導を多職種協議で統一化する。
大瀧彩加、緒方瑛里奈、和田愛、石橋和子、芦刈智美、松本育海、加来泰志、伊達雅浩、中村麻衣子、山下由恵、岡哲。
一般演題V. 第51回長崎県人工透析研究会. 大村, 2025.3.2.
- 5) Nocardia脳膿瘍を発症した顕微鏡的多発血管炎合併血液透析患者の一例。
中村麻衣子、岡哲、伊達雅浩、山下由恵、前川明洋、西野友哉。
一般演題（口演）感染症 1. 第70回日本透析医学会学術集会. 大阪, 2025.6.27.
- 6) アバコパン投与中に胆管消失症候群によると考えられる急性肝不全を来した血液透析患者の1例。
野口美波、岡哲、田川孝樹、中村麻衣子、児嶋知仁、添田李子、伊東正博、西野友哉。
一般演題（口演）血管炎 1（アバコパン、肝障害）. 第55回日本腎臓学会西部学術大会. 奈良, 2025.10.12.
- 7) カフ型カテーテル外部および内部破損を認めた維持血液透析患者の一例。
中村麻衣子、田川孝樹、岡哲、川島大輝、近藤翼、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、西野友哉。
一般演題17 [バスキュラーアクセス 4]. 第57回九州人工透析研究会. 熊本, 2025.11.30.

<ポスター>

- 1) 全尿路全摘術後の血液透析患者に対し献腎移植を施行した1例。
大仁田亨、岩田隆寿、柿田聖太、松島俊樹、鹿子木桂、荒木慎平、伊達雅浩、山下由恵、岡哲、錦戸雅春。
一般演題 ポスター 3 レシピエント手術. 第58回日本臨床腎移植学会. 広島, 2025.2.6.
- 2) 献腎移植後導入期に薬剤性が疑われる急性膵炎を発症した1例。
岡哲、伊達雅浩、山下由恵、松島俊樹、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、西野友哉。
一般演題 ポスター 5 内科的合併症 2. 第58回日本臨床腎移植学会. 広島, 2025.2.6.
- 3) 急性腎障害を伴う加速型一悪性高血圧に対して早期にサクビトリルバルサルタンを導入した一例。
田川孝樹、岡哲、伊達雅浩、中村麻衣子、片渕瑛介、中山敏幸、西野友哉。
一般演題（ポスター）電解質、高血圧、血行動態. 第55回日本腎臓学会西部学術大会. 奈良, 2025.10.11.

B-c：研究会発表

<講演>

- 1) 腎硬化症における血圧管理。
岡哲。
長崎 Renal Seminar ―実践的な血圧管理―. 長崎, 2025.1.21.
- 2) CKD治療戦略～GLP-1受容体作動薬への期待～。
岡哲。
CKD Update Meeting. 大村, 2025.1.29.
- 3) 糖尿病性腎症進展抑制のための治療戦略～微量アルブミン尿期からの早期治療介入の重要性～。
岡哲。
腎重症化予防を考える会. 大村, 2025.3.19.
- 4) 日常診療に潜むCKDと向き合うために。
岡哲。

Omura IMAGINE Project 講演会～地域で取り組むCKD～. 大村, 2025.7.30.

- 5) 大村市の新規透析患者の減少に向けて何ができるか～これまでとこれからの取り組み～.
岡哲.

大村CKD学術講演会. 大村, 2025.8.26.

E, F：学術講演他

E：研究会世話人

<研究会世話人>

- 1) 岡哲.

第51回長崎県人工透析研究会. 大村, 2025.3.2.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<司会>

- 1) CKD診療に地域で取り組むために.

岡哲.

Omura IMAGINE Project 講演会～地域で取り組むCKD～. 大村, 2025.7.30.



血液内科

責任者 今泉 芳孝・吉田 真一郎

診療科の特色

血液内科では血液疾患全般の診療を行っています。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍や、再生不良性貧血、免疫性血小板減少症といった血液難病がその主なものです。適応となる症例には自家末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植（長崎大学病院に紹介）、キメラ抗原受容体T細胞療法（長崎大学病院、九州大学病院などに紹介）を実施しています。造血器悪性腫瘍の治療ではJALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）、JCOG（日本臨床腫瘍研究グループリンパ腫グループ）などの全国的多施設共同臨床研究に参加し、全国の施設と共同して標準治療の確立と治療成績の向上に努めています。国立病院機構ネットワーク共同研究血液グループでも、血液疾患の治療成績向上のため臨床研究を行っています。化学療法センター病棟（9A病棟）には10室の無菌室があり、厳重な無菌管理を必要とする移植療法や急性白血病に対する寛解導入、抗がん剤大量療法などを安全に実施可能です。また長崎県HIV診療拠点病院としてHIV感染者の外来、入院診療、カウンセリングを感染症内科と協力して行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,459人	31.4人	526人	580人	33人	20.7日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
141件	88.0%	241件	145.2%	1件	3.0%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
231人(40.2%)	89人(15.5%)	19人(3.3%)	19人(3.3%)	12人(2.1%)	75人(13.1%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
61人(10.6%)	48人(8.4%)	10人(1.7%)		2人(0.3%)	

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.2%)			

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
	5人(0.9%)		2人(0.3%)	574人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1) 非ホジキンリンパ腫	C82-C85	258	5
2) 急性骨髄性白血病	C92.0、C92.4、C92.5	78	6
3) 成人T細胞白血病・リンパ腫	C91.5	68	6
4) 多発性骨髄腫	C90	55	3
5) 骨髄異形成症候群 (慢性骨髄単球性白血病を含む)	C91 D46、C92.7	39	3
6) 急性リンパ性白血病	C91	15	1
7) 特発性血小板減少性紫斑病	D69.3	13	3
8) ホジキンリンパ腫	C81	11	0
9) 慢性骨髄性白血病	C92.1	6	0
10) 自己免疫性溶血性貧血	D59.1	4	0

主要検査件数

検査	症例数
骨髄検査	319

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
自家末梢血幹細胞移植	血球減少症	1	1	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
血液カンファレンス	3 /週
移植症例TVカンファレンス	必要時
スミアカンファレンス	1 /週

実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	高齢者急性骨髄性白血病 (AML) の層別化により化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第Ⅱ相臨床試験 (JALSG GML219)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
2	初発BCR-ABL 1 陽性急性リンパ性白血病 (Ph+ALL) を対象としたダサチニブ、ボナチニブ併用化学療法および造血幹細胞移植の臨床第Ⅱ相試験 (JALSG PhALL219)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
3	再発または難治性のFLT 3 遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とするMEC (ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン) とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験 (JALSG-RR-FLT 3 -AML220)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
4	t (8 ; 21) および inv (16) 陽性 AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する 臨床第 II 相試験 (JALSG-CBF-AML220)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
5	本邦の初発 APL に対する ATRA+ATO 療法 の多施設共同第 II 相試験 (JALSG APL220 Study)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
6	高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究 (JALSG GML219-Molecular)	観察	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
7	小児・AYA・成人に発症した B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第 III 相臨床試験 (JPLSG ALL-B19)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
8	小児・AYA・成人に発症した T 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第 III 相臨床試験 (JPLSG ALL-T19)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
9	FLT 3-ITD 変異陽性初発急性骨髄性白血病患者を対象としたキザルチニブと標準化学療法併用の有効性及び安全性を評価するための非盲検単群試験 (JALSG-AML224-F LT 3-I TD)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
10	初回治療不応の若年成人難治性急性骨髄性白血病に対するベネトクラクス/アザシチジン併用療法の標準化学療法に対する優越性を検証する第 III 相試験 (JALSG-AML224-PI F)	介入	同意書	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎
11	未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第 III 相試験 ver1.0 (JCOG1411)	介入	同意書	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
12	高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ+メルファラン+ブレドニゾロン+ボルテゾミブ (D-MPB) 導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ+ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第 III 相試験 (JCOG1911)	介入	同意書	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
13	多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究 (JCOG1911A1)	観察	同意書	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
14	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第 III 相試験 (JCOG2008)	介入	同意書	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
15	中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第 III 相試験 (JCOG2201)	介入	同意書	JCOG リンパ腫グループ	今泉 芳孝
16	未治療末梢性 T 細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第 III 相試験 (JCOG2210)	介入	同意書	JCOG リンパ腫グループ	今泉 芳孝
17	AI 深層学習による Interim PET 画像診断支援ソフトウェア開発のための探索的研究 (JCOG1305A1)	観察	オプトアウト	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
18	JCOG バイオバンクプロジェクト	観察	同意書	JCOG リンパ腫グループ	吉田真一郎
19	移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド+デキサメタゾン (Rd) 療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性 (W-JHS MM01)	観察	同意書	西日本血液臨床研究グループ (W-JHS)	吉田真一郎

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
20	未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者 (以下、「DLBCL」という。)に対するポラツ ズマブ ベドチン (以下「Pola」という。) + R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多 機関共同前向き観察研究-W-JHS NHL03 (POLASTAR) -	観察	同意書	西日本血液臨床研究 グループ (W-JHS)	吉田真一郎
21	未治療CLL/SLL 患者に対するAcalabrutinib+ Obinutuzumab 療法またはAcalabrutinib 単剤 療法の治療継続性に関する観察研究 (W-JHS_ CLL01試験)	観察	同意書	西日本血液臨床研究 グループ (W-JHS)	今泉 芳孝
22	日本人慢性期慢性骨髄性白血病症例に対す る1st/2nd lineアシミニブ治療のDMR達成お よびTFR評価を行う前向き観察研究 (W-JHS CML01)	観察	同意書	西日本血液臨床研究 グループ (W-JHS)	吉田真一郎
23	アグレッシブATLの予後に影響する因子につ いて検討する多施設共同前向き観察研究	観察	同意書	福田 隆浩 (国立がん研究センター 中央病院)	吉田真一郎
24	成人T細胞白血病・リンパ腫に対するバレメト スタットのバイオマーカー研究 (BIVA study)	観察	同意書	楠本 茂 (愛知県がんセンター)	今泉 芳孝
25	HBV既往感染歴を有する造血器腫瘍における iTACTiTACT-HBcrAgモニタリングによるHBV 再活性化対策の有用性:多施設共同前方視的 観察研究	観察	同意書	田中 靖人 (熊本大学病院消化器内 科)	今泉 芳孝
26	再発・難治性大細胞型B細胞リンパ腫に対す るLisocabtagene maraleucel治療の多施設共同 観察研究	観察	同意書	加藤 光次 (九州大学大学院医学研 究院病態修復内科学分)	今泉 芳孝
27	70歳以上の高齢びまん性大細胞型B細胞リン パ腫患者を対象とした 高齢者機能評価の意義 を明らかにするための多施設前方視的観察研 究 (G-POWER)	観察	同意書	坂田麻実子 (筑波大学附属病院)	今泉 芳孝
28	長崎県における骨髄異形成症候群患者のQOL に関する多施設共同研究	観察	同意書	佐藤 信也 (長崎大学)	吉田真一郎
29	標準的化学療法を行ったALK陽性未分化大細 胞リンパ腫の予後因子探索を目的とした多機 関共同試験 (ALCL-MDDMRD)	観察	同意書	深野 玲司 (産業医科大学)	今泉 芳孝
30	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴 静注300mg特定使用成績調査:低体重かつ高 年齢の患者における安全性の確認	観察	同意書	MSD (株)	吉田真一郎
31	ハイヤスタ錠10mg再発または難治性の成人T 細胞白血病リンパ腫 (ATL) 患者における一 般使用成績調査 (全例調査)	観察	同意書	Meiji Seika ファルマ(株)	吉田真一郎
32	ハイヤスタ錠10mg再発又は難治性の末梢性T 細胞リンパ腫 (PTCL) 患者における一般使用 成績調査 (全例調査)	観察	同意書	Meiji Seika ファルマ(株)	吉田真一郎
33	エザルミア錠一般使用成績調査	観察	同意書	第一三共 (株)	吉田真一郎
34	イムブルピカカプセル140mg原発性マクログ ロブリン血症/リンパ形質細胞リンパ腫を対象 とした特定使用成績調査	観察	同意書	ヤンセン ファーマ(株)	今泉 芳孝
35	アトガム点滴静注液250mg一般使用成績調査 (プロトコールNo.B5411004)	観察	同意書	ファイザー (株)	今泉 芳孝
36	ボイデヤー一般使用成績調査 (全例調査)	観察	同意書	アレクシオンファーマ 合同会社	今泉 芳孝
37	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴 静注300mg特定使用成績調査:希少真菌感染 症患者における有効性の確認	観察	同意書	MSD (株)	吉田真一郎
38	タズベリク錠200mg特定使用成績調査-再発 又は難治性のEZH 2 遺伝子変異陽性の濾胞性 リンパ腫患者 (標準的な治療が困難な場合 に限る)における安全性に関する調査 (全例調 査) -	観察	同意書	エーザイ (株)	今泉 芳孝

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0 (1)	4 (3)	1 (0)	3 (0)

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	0	5

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Lipidomic profiling of plasma from patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1).
Ri M, Iida S, Saito K, Saito Y, Maruyama D, Asano A, Fukuhara S, Tsujimura H, Miyazaki K, Ota S, Fukuhara N, Negoro E, Kuroda J, Yoshida S, Ohtsuka E, Norifumi T, Tabayashi T, Takayama N, Saito T, Suzuki Y, Harada Y, Mizuno I, Yoshida I, Maruta M, Takamatsu Y, Katsuya H, Yoshimitsu M, Minami Y, Kanato K, Munakata W, Nagai H.
Cancer Chemother Pharmacol. 2025 ; 95(1) : 29.
- 2) Efficacy of Azacitidine Plus Venetoclax in Acute Myeloid Leukemia Transformed from Myelodysplastic Syndrome after Failure of Azacitidine Monotherapy.
Furumoto T, Ando K, Toriyama E, Hata T, Katsuoka S, Nishimura S, Ichinose M, Hashimoto M, Fujioka M, Sakaki C, Sakamoto H, Chiwata M, Kamijo R, Kobayashi Y, Kitanosono H, Nakashima J, Kato T, Taguchi M, Horai M, Matsuo M, Makiyama J, Itonaga H, Sato S, Baba M, Sawayama Y, Takasaki Y, Taguchi J, Imanishi D, Imaizumi Y, Kawaguchi Y, Tsushima H, Jo T, Yoshida S, Moriuchi Y, Miyazaki Y.
Intern Med 2025 ; Online ahead of print.
- 3) Comprehensive analysis of serum immune complexes identifies chronic graft-versus-host disease-associated antigenic molecules: A study by the Nagasaki transplant group.
Fujioka M, Itonaga H, Sawayama Y, Aibara N, Kojima A, Kirino Y, Watanabe H, Yamada Y, Sakamoto H, Taguchi M, Kato T, Horai M, Ohyama K, Miyazaki Y.
Hum Immunol 2025 ; 86(5) : 111569.

- 4) Final results of JCOG0601 randomized trial of R-CHOP versus CHOP combined with dose-dense rituximab for diffuse large B-cell lymphoma.

Ohmachi K, Kinoshita T, Maruyama D, Machida R, Sano Y, Yamauchi N, Fukuhara N, Uchida T, Yamamoto K, Miyazaki K, Tsukamoto N, Iida S, Yoshida I, Imaizumi Y, Suzuki Y, Yoshida S, Masaki Y, Murayama T, Yakushijin Y, Suehiro Y, Nosaka K, Dobashi N, Kuroda J, Takamatsu Y, Munakata W, Ando K, Ishizawa K, Ogura M, Yoshino T, Hotta T, Tsukasaki K, Tobinai K, Nagai H.

Jpn J Clin Oncol 2025 ; 55(12) : 1357-1364.

A-a2 : 英文症例報告

- 1) Donor lymphocyte infusion-based therapy for relapsed adult T-cell leukemia/lymphoma after HLA-haploidentical hematopoietic stem cell transplantation.

Katsuoka S, Itonaga H, Hashimoto M, Sakamoto H, Furumoto T, Yamada Y, Kato T, Horai M, Sato S, Ando K, Nagai K, Matsumoto N, Sasaki D, Hasegawa H, Imaizumi Y, Yanagihara K, Miyazaki Y.

Transpl Immunol 2025 ; 92 : 102262.

A-b : 英文総説

- 1) Treatment strategy for indolent adult T-cell leukemia-lymphoma.

Kato T, Imaizumi Y, Miyazaki Y.

Leuk Res 2025 ; 155 : 107714.

学会・研究会・講演

A : 国際学会, 国際会議

A-b2 : 一般演題

<Poster>

- 1) IMPACT OF RITUXIMAB EARLY ADMINISTRATION ON OUTCOMES IN ADVANCED STAGE LOW TUMOR BURDEN FOLLICULAR LYMPHOMA: SUBGROUP ANALYSIS OF PHASE III JCOG1411/FLORA STUDY.

D. Maruyama, S. Yoshida, N. Fukuhara, K. Ishizawa, Y. Sano, R. Machida, S. Makita, W. Munakata, S. Ota, M. Ichikawa, E. Negoro, T. Murayama, R. Suzuki, I. Yoshida, H. Morimoto, M. Tokunaga, K. Ohmachi, H. Takahashi, Y. Suehiro, S. Yoshida, K. Nosaka, T. Kawakita, Y. Sekiguchi, K. Kataoka, S. Murakami, M. Maruta, K. Takase, J. Makiyama, K. Ishitsuka, K. Tsukasaki, H. Nagai.

18th International Conference on Malignant Lymphoma. Lugano, Switzerland, 2025.6.17.

B : 国内学会

B-b2 : 一般演題

<ポスター>

- 1) ロミデプシン投与中に増悪を認めたもののツシジノスタットが奏効した血管免疫芽球形T細胞リンパ腫.

小林裕児、今泉芳孝、西村紗央里、渡辺春香、伊藤正博、三好寛明、吉田真一郎.

第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会. 名古屋, 2025.7.6.

- 2) フローサイトメトリーと免疫組織化学染色にてCD30の発現が異なった成人T細胞白血病リンパ腫.

渡辺春香、石飛俊介、西村紗央里、添田李子、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.

第87回日本血液学会学術集会. 神戸, 2025.10.11.

- 3) RS3PE症候群に対してメソトレキセート投与中に発症した成人T細胞白血病リンパ腫.

桐野祐子、小林裕児、渡辺春香、今泉芳孝、三原裕美、三浦史郎、吉田真一郎.

日本HTLV-1学会. 鹿児島, 2025.11.8

4) びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する加療後に発症した成人T細胞白血病リンパ腫.

平良瞭典、西村紗央里、今泉芳孝、桐野祐子、渡辺春香、小林裕児、三原裕美、添田季子、伊東正博、吉田真一郎.

日本HTLV-1学会. 鹿児島, 2025.11.8.

5) RAISING法を用いたHTLV-1クロナリティスクリーニングの新たな可能性.

松本成良、今泉芳孝、佐々木大介、斎藤益満、加藤丈晴、長谷川博雄、宮崎泰司、柳原克紀.

日本HTLV-1学会. 鹿児島, 2025.11.8.

<口演>

1) COVID-19罹患後に発症した後天性血友病A.

中村駿吾、小林裕児、西村紗央里、渡辺春香、今泉芳孝、吉田真一郎.

第15回日本血液学会九州地方会. 博多, 2025.3.8.

2) Longitudinal Analysis of γ δ T Cell Dynamics in Patients with Adult T-cell Leukemia-Lymphoma (ATL).

Maho Nakashima, Yoshitaka Imaizumi, Yoshimasa Tanaka, Takeharu Kato, Yasushi Miyazaki, Hiroyuki Murota.

日本研究皮膚科学会 第50回年次学術大会・総会. 甲府, 2025.12.6.

3) Impact of Anti-CD38 Antibody Introduction on Treatment Outcomes in Transplant-ineligible Patients with Multiple Myeloma.

三道康永、今泉芳孝、河北敏郎、斉藤明生、高瀬謙、伊藤謙一、黒田芳明、藤本勝也、大塚真紀、吉田近思、山口桂子、高月浩、吉田功、柴山浩彦.

第87回日本血液学会学術集会. 神戸, 2025.10.12.

<座長>

1) B細胞リンパ腫7.

今泉芳孝.

第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会. 名古屋, 2025.7.6.

2) T/NK/HL: ATL後方視的解析・症例検討.

今泉芳孝.

第87回日本血液学会学術集会. 神戸, 2025.10.12.

B-c: 研究会発表

<口演>

1) 末梢血で異常リンパ球増多をきたした症例.

桐野祐子、渡辺春香、小林裕児、今泉芳孝、吉田真一郎.

長崎造血管腫瘍研究会. 長崎, 2025.9.27.

2) PTCLの経過中に小腸穿孔をきたした症例.

渡辺春香.

長崎リンパ腫WEBカンファランス. 長崎, 2025.3.4.

3) 悪性リンパ腫と最近の治療について.

小林裕児.

県央地区CRSマネジメントセミナー. 大村, 2025.9.25.

F, G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

- 1) MCLの分子病態～再発・難治性MCL治療における次世代BTK阻害剤の役割を考える～.
今泉芳孝.
Hematology seminar in NGS. 長崎, 2025.2.18.
- 2) ATLの診断と治療について.
今泉芳孝.
Nagasaki Hematology Seminar. 長崎, 2025.9.4.
- 3) CRSマネジメントパート.
今泉芳孝.
県央地区CRSマネジメントセミナー. 大村, 2025.9.25.
- 4) 症例報告.
吉田真一郎.
タバリス錠WEB講演会. 長崎, 2025.9.30.
- 5) CLLの最新の治療戦略2025.
今泉芳孝.
Hematology seminar in NGS. 長崎, 2025.12.19.

<司会>

- 1) 今泉芳孝.
第559回大村医師会CPC. 大村, 2025.6.18.

G：その他

<パネリスト>

- 1) ディスカッションパート.
小林裕児.
長崎レプロジル発売1周年記念講演会. 長崎, 2025.8.23.

診療科の特色

内分泌・代謝内科は、糖尿病を中心とした代謝性疾患と、下垂体・甲状腺・副腎疾患を中心とした内分泌疾患を主に診療している。糖尿病では種々の合併症を来すため、その発症予防・進展阻止が重要である。入院が必要な患者には、クリニカルパスを活用し、治療・合併症検査・教育並びに支援（糖尿病看護認定看護師による療養指導や管理栄養士による栄養指導を含む）を円滑に行っている。

また、産婦人科と定期的に合同カンファレンスを行い、妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠・甲状腺疾患を含む内分泌疾患を合併した妊婦（必要に応じて妊娠前から介入）の情報を共有し、妊娠前・妊娠中のリスク管理を行っている。妊娠糖尿病の既往があり、産後に糖尿病と診断された場合も早期に介入している。

内分泌疾患に関しては、二次性高血圧症の原因として頻度の高い原発性アルドステロン症に対し、3日間のクリニカルパスを活用し、円滑に検査を行っている。また、甲状腺腫瘍に関しては、適応があれば甲状腺穿刺吸引細胞診を行い、外科や耳鼻咽喉科と連携し、診療を行っている。

糖尿病性ケトアシドーシス・高血糖高浸透圧症候群、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼなど緊急入院が必要な疾患に関しては、救命科を中心に複数の診療科と連携し、診療を行っている。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
1,643人	4.5人	111人	134人	1人	13.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
132件	74.4%	327件	181.7%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
77人(58.8%)	25人(19.1%)	3人(2.3%)			6人(4.6%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
4人(3.1%)	4人(3.1%)	4人(3.1%)			4人(3.1%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
			2人(1.5%)		
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
		2人(1.5%)			131人

入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
2型糖尿病	E11	83	0
1型糖尿病	E10	11	0
副腎皮質機能低下症（疑い含む）	E27	8	0
下垂体前葉機能低下症（疑い含む）	E23	7	0
褐色細胞腫（疑い含む）	D35	3	0

主要検査件数

検査	症例数
甲状腺穿刺吸引細胞診	67

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
内分泌代謝内科カンファレンス	毎週金曜日
産婦人科合同カンファレンス	第4火曜日

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	2	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	5

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 免疫チェックポイント阻害薬投与中に副腎不全および敗血症性ショックとの鑑別を要したサイトカイン放出症候群の一例.
徳満純一、安井順一、加藤遼、山崎悠介、岩永希、竹下浩明.
第25回日本内分泌学会九州支部学術集会. 久留米市, 2025.8.30.
- 2) 甲状腺眼症に対するステロイド加療終了後に1型糖尿病を発症した多腺性自己免疫症候群3型の1例.
加藤遼、徳満純一、安井順一.
第63回日本糖尿病学会九州地方会. 北九州市, 2025.10.31-11.1.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<特別講演>

- 1) 安井順一.
大村地区糖尿病講演会. 大村市, 2025.2.20.
- 2) 安井順一.
長崎県糖尿病治療を考える会. 大村市, 2025.2.27.
- 3) 安井順一.
大村地区糖尿病講演会. 大村市, 2025.11.21.
- 4) 安井順一.
糖尿病×高血圧治療のUpdate Seminar in NAGASAKI. 大村市, 2025.11.28.

<講演>

- 1) 徳満純一.
包括的に考える糖尿病疾患. 大村市, 2025.7.16.



責任者 岩永 希

診療科の特色

当科の担当疾患は、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの膠原病、自己炎症性疾患、不明熱など多岐にわたる。

関節リウマチに関しては、血液検査に関節エコーやMRIなどの画像検査を組み合わせ、早期診断、早期治療開始を行っている。メトトレキサートなどの標準的治療で効果不十分な症例に対しては生物学的製剤やJAK阻害剤を積極的に導入している。また膠原病患者の多くは、初診時にはほとんど診断がついておらず、総合診療科を中心に他科から紹介となることが多い。重症例や多臓器障害を有する場合は、複数科と協力して集学的治療を行っている。一方、関節リウマチ・膠原病を基礎疾患に持つ患者さんが、様々な合併症のため他科に入院となることも多い。合併症の治療の際に免疫抑制療法の調整が必要な場合は、当科が介入している。また関節リウマチ、膠原病に対する生物学的製剤および低分子化合物を用いた分子標的療法の臨床治験に参加している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
2,537人	7.0人	84人	110人		26.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
66件	74.7%	178件	195.6%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
72人(65.5%)	16人(14.5%)	1人(0.9%)	2人(1.8%)		6人(5.5%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
1人(0.9%)	6人(5.5%)	3人(2.7%)			

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
			1人(0.9%)	1人(0.9%)	

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
	1人(0.9%)			110人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
関節リウマチ	M0690	21	0
顕微鏡的多発血管炎	M317	13	0
全身性エリテマトーデス	M329	7	0
皮膚筋炎	M331	7	0
IgG4関連疾患	M359	6	0
全身性強皮症	M340	4	0
巨細胞性動脈炎	M31.6	3	0
RS3PE症候群	M0600	2	0
成人スティル病	M0610	1	0
多発性筋炎	M332	1	0

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
膠原病カンファレンス	週1回

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0 (6)	2 (0)	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0 (0)	7 (2)	4 (0)	0 (0)

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Distinct clinical outcomes based on multiple serum cytokine and chemokine profiles rather than autoantibody profiles and ultrasound findings in rheumatoid arthritis: a prospective ultrasound cohort study.
Shoichi Fukui, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Furukawa K, Morimoto S, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Tamai M, Origuchi T, van Schie KAJ, Ueki Y, Eiraku N, Yoshitama T, Matsuoka N, Suzuki T, Okada A, Hamada H, Ayano M, Hidaka T, Tsuru T, Maeda T, Huizinga TWJ, Toes REM, Kawakami A, Kawashiri SY.
RMD Open 2025 ; 11(1) : e005163. doi.
- 2) Enhancing systemic lupus erythematosus treatment outcomes with an early initiation of belimumab : insights from a multicenter retrospective study within the first five years.
Kanao Kojima, Ichinose K, Umeda M, Shimizu M, Sato S, Suzuki T, Nakashima Y, Okada A, Horai Y, Fujikawa K, Aramaki T, Miyashita T, Furuyama M, Matsuoka N, Kawakami A.
Arthritis Research & Therapy 2025 ; 27(1) : 116.
- 3) Elevated soluble CD226 in Takayasu arteritis is useful for differentiation from giant cell arteritis, disease activity assessment, and prognosis prediction.
Miki Nakano, Ayano M, Fukui S, Iwanaga N, Tatsutani T, Takaki-Kuwahara A, Kimoto Y, Akahoshi M, Migita K, Kawakami A, Tada Y, Niino H.
Medicine (Baltimore) 2025 ; 104(25) : e42844.
- 4) Structural and functional outcomes in rheumatoid arthritis after 10-year therapy with disease-modifying antirheumatic drugs under tight control: evidence from real-world cohort data.
Shunsuke Mori, Ichinose K, Umeda M, Shimizu M, Sato S, Suzuki T, Nakashima Y, Okada A, Horai Y, Fujikawa K, Aramaki T, Miyashita T, Furuyama M, Matsuoka N, Kawakami A.
Journal of Clinical Medicine 2025 ; 14(19)6832.
- 5) Urine phospholipid profiling in patients with rheumatoid arthritis and nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.
Hiroshi Furukawa, Oka S, Higuchi T, Okamoto A, Fujimori M, Matsui T, Ihata A, Hirano F, Okada A, Migita K, Tohma S.
Scientific Reports 2025 ; 15(1)35694.
- 6) Treatment outcomes stratified by interferon profile and autoantibodies in rheumatoid arthritis.
Shoichi Fukui, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Furukawa K, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Tamai M, Origuchi T, van Schie KA, Ueki Y, Eiraku N, Yoshitama T, Matsuoka N, Suzuki T, Okada A, Hamada H, Ayano M, Hidaka T, Tsuru T, Huizinga TWJ, Toes REM, Kawakami A, Kawashiri SY.
Journal of Autoimmunity 2025 ; 157 : 103490.

B：和文

B-a2：和文症例報告

- 1) アニフロブマブ投与中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス（SLE）の一例。
中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田覚丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純。
九州リウマチ 2025 ; 45(2) : 53-57.

2) 診断に難渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの1例.

原あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛.

九州リウマチ 2025 ; 45(2) : 71-76.

学会・研究会・講演

B : 国内学会

B-b2 : 一般演題

<口演>

1) アニフロルマブ治療中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス (SLE) の一例.

中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田覚丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純.

臨床研修医セッション1. 日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 那覇, 2025.3.15.

2) 移動性の側頭部腫脹を呈した限局性筋炎の一例.

岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、川上純.

口演6 筋炎. 日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 那覇, 2025.3.16.

3) 胃印環細胞癌と同時診断された血清反応陽性多発関節炎の一例.

後藤すみれ、岩永希、添田李子、峯彩子、岡田覚丈、三浦史郎、米田晃、和泉泰衛、川上純.

口演9 関節リウマチ・合併症. 日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 那覇, 2025.3.16.

4) 生検が早期診断に有用であった多発筋膿瘍類似の他の医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患 (OIIA-LPD) の1例.

山領優斗、森隆浩、石飛俊介、櫛知佳、原敦子、川原知瑛子、岡田覚丈、岩永希、三浦史郎、和泉泰衛.

口演9 関節リウマチ・合併症. 日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 那覇, 2025.3.16.

5) 膵癌に合併した腫瘍随伴性RS3PE症候群の一例.

門松英和、泉泰衛、大野渚、末廣智之、岡田覚丈、岩永希.

第70回九州リウマチ学会. 福岡, 2025.9.13.

6) 長期寛解後に無菌性髄膜炎が再燃した再発性多発軟骨炎の一例.

岡田覚丈岩永希、和泉泰衛、徳田昌紘、赤城翠、川上純.

同上. 福岡, 2025.9.14.

7) 関節リウマチに伴う肺非結核性抗酸菌症の新規バイオマーカーの探索.

古川宏、岡笑美、樋口貴士、岡本享、藤森美鈴、松井利浩、井畑淳、平野史倫、岡田覚丈、右田清志、當間重人.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

<ポスター>

1) 3回の妊娠経過を観察できた抗リン脂質抗体症候群 (APS) の一例.

岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡, 2025.4.25.

2) 生物学的製剤 (bDMARD) 及びJAK阻害剤 (tsDMARD) による治療を受けた関節リウマチ患者における臨床的、構造的及び機能的寛解の達成: FIRST registryの実臨床データより.

園本格士朗、中山田真吾、田中宏明、永安敦、有富貴史、岡田覚丈、古賀智裕、村上孝作、渡部龍、矢野紘一郎、奥野洋史、Zhong Yan、深田治彦、田中良哉.

同上. 福岡, 2025.4.25.

<座長>

1) 一般演題1 薬物治療1 第70回九州リウマチ学会. 福岡, 2025.9.13.



総合診療科・総合内科

責任者 和泉 泰衛

診療科の特色

＜診療＞ 当科では、「フットワークが軽く何でも相談に乗り、常に全体に注意を払いながら、継続性を重視する診療を、現場のニーズに合わせて日常的に行なっている臨床医」をジェネラリストと定義しており、そのような臨床医として日々の診療を実践している。総合外来、時間外外来、救急外来、病棟において、その患者の背景、症状、疾患の種類に関わらず、幅広い診療を行うことを心がけ、実践している。

＜教育＞ 臨床教育における当科が果たす役割は大きい。医学生、初期研修医、専攻医、診療看護師、特定行為研修者に対する教育を行っている。医学生、初期研修医、診療看護師、特定行為研修者に対しては臨床の基本を教えている。専門医研修としてはジェネラリストになるための教育に力を入れている。当科は日本プライマリ・ケア連合学会が認定する家庭医療後期研修プログラム、新専門医制度での内科・総合診療科の専門研修を担当しており、地域の医療機関と協力して、各専門医を育成している。

＜研究＞ 初期・後期研修医、診療看護師の学会発表、論文作成に力を入れている。また、今後問題となってくる高齢者医療を中心にプライマリ・ケア、地域医療、医学教育領域のリサーチも行っている。AIを使った臨床研究やワクチン・抗生剤の新規治験などにも積極的に参加している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
21,138人	57.9人	2,158人	1,255人	66人	12.6日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
884件	94.7%	1,551件	105.7%	10件	14.9%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
881人(69.6%)	195人(15.4%)	33人(2.6%)	15人(1.2%)	4人(0.3%)	55人(4.3%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
11人(0.9%)	20人(1.6%)	20人(1.6%)		1人(0.1%)	9人(0.7%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.1%)	2人(0.2%)		1人(0.1%)
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
	2人(0.2%)	6人(0.5%)	9人(0.7%)		1,265人

入院患者数・死亡数

主な疾患名	患者数	死亡者数
★ <u>呼吸器系疾患 ICD-10 J～</u> (肺炎・インフルエンザ・気管支喘息・膿胸・胸膜炎・肺気腫・扁桃炎・肺結核等)	240	25
★ <u>消化器系疾患 ICD-10 K～</u> (虚血性腸炎・憩室炎・虫垂炎・イレウス・胆管炎・穿孔性腹膜炎・消化管潰瘍等)	143	3
★ <u>ウイルス感染症および寄生虫症 ICD-10 A～B～</u> (感染性腸炎・ウイルス感染・敗血症・菌血症・带状疱疹等)	121	12
★ <u>循環器系疾患 (循環器・脳血管疾患) ICD-10 I～</u> (心不全・感染性心内膜炎・起立性低血圧・脳梗塞・不整脈・深部静脈血栓症等)	116	10
★ <u>神経系疾患 ICD-10 G～R～</u> (てんかん・失神・一過性意識障害・睡眠時無呼吸・薬物熱等)	94	4
★ <u>腎疾患 ICD-10 N～</u> (急性腎盂腎炎・尿路感染症・前立腺炎・急性腎不全・水腎症など)	88	1
★ <u>特殊目的コード ICD-10 U～</u> (COVID-19・COVID-19の疑い)	78	2
★ <u>内分泌・代謝疾患 ICD-10 E～</u> (電解質異常・脱水症・甲状腺機能異常・糖尿病・脱水症等)	73	2
★ <u>筋骨格系および結合組織疾患 ICD-10 M～</u> (関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛・線維筋痛症・ベーチェット病・偽痛風・血管炎・化膿性関節炎等)	70	1
★ <u>耳及び乳様突起の疾患 ICD-10 H～</u> (良性発作性頭位めまい症・メニエール病・前庭神経炎等)	46	
★ <u>損傷、中毒及びその他の外因の影響 ICD-10 T～</u> (熱中症・薬物中毒・低体温・アナフィラキシーショック・CO中毒等)	41	
★ <u>皮膚及び皮下組織の疾患 ICD-10 L～</u> (蜂巣炎・薬疹・褥瘡等)	39	
★ <u>整形外科疾患 ICD-10 S～</u> (脊椎圧迫骨折・脊髄損傷・外傷等)	39	3
★ <u>血液・造血器・免疫機構の障害 ICD-10 D～</u> (貧血・好酸球増加症・脳腫瘍等)	27	1
★ <u>新生物 (悪性) ICD-10 C～</u> (悪性リンパ腫・転移性骨腫瘍・胃癌・直腸癌・肺癌・癌性腹膜炎等)	25	2
★ <u>精神及び行動の障害 ICD-10 F～</u> (神経症・うつ病・解離性障害・アルコール離脱せん妄等)	15	
総 計	1,255	66

■ ■ 研修・教育

初期研修医、後期研修医、医学部学生に対する教育を日常実践している。初期研修医には1年目2か月、2年目2か月の計4ヶ月のローテーションが義務付けられており常時数名の初期研修医が診療に参加している。医学部学生については毎年4～5名の高次臨床研修（1か月間）を担当し、教育を行っている。後期研修医に対しては新専門医制度に則った教育研修を行っている。また、看護師の特定行為研修や診療看護師の実践研修も担当しており、常に診療看護師、特定行為研修者が当科で研修している。

院外活動として、当科スタッフはJMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）のインストラクターとして年に4～5回、臨床研修指導者講習会や特定行為指導者講習会のタスクとしても年に6～7回参加している。

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
入院患者カンファランス	医師・診療看護師・特定行為研修生・医学生	25名	3/週
研修医発表	同上	25名	1～2/週
スタッフレクチャー	同上	25名	1/月
レジデントレクチャー	同上	25名	1/月

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	3（1）	4（0）	0（0）	7（0）

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0（0）	8	18	2

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類	セミナー	シンポジウム	研修会	
件数		1	11	

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Laryngeal Web Caused by Mucous Membrane Pemphigoid.
Saishoji Y, Ishii N, Iwanaga N, Izumi Y.
Intern Med. 2025 ; doi : 10.2169/internalmedicine. 5011-24. Online ahead of print.
- 2) Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis: a prospective cohort study.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; emermed-2024-214210. doi : 10.1136/emered-2024-214210. Online ahead of print.
- 3) Response to : Correspondence on 'Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis : a prospective cohort study' by Mori et al.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; <https://doi.org/10.1136/emered-2025-215572>.
- 4) Practice-based Research Network activities and future nationwide plans in Japan.
Yamanashi H, Anna Dania, Makoto Kaneko, Takamasa Watanabe, Takahiro Mochizuki, Moe Kuroda, Mariko Ishisaka, Tadao Okada, Takuya Aoki, Yoshihiro Okura, Hiroshi Takayanagi, Jun Hamano, Koichiro Kadota, Yuya Motoishi, Jun Miyata, Koichiro Hamada, Shingo Masuda, Takahiro Maeda.
Journal of General and Family Medicine 2025 ; <https://doi.org/10.1002/jgf2.70091>.

B：和文

B-a2：和文症例報告

- 1) 診断に難渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの1例.
原あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛.
九州リウマチ 2025 ; 45(2) : -71-76.

B-b：和文総説

- 1) 【第1特集】高齢者のCKD診療、輸液と電解質 高齢者CKDのカリウムー外来での高K血症を主に－.
中村昌平、永井友基.
治療 2025 ; 107(4) : 456-459.
- 2) 【総論：病棟の輸液の基本】維持輸液の基本.
山中萌奈美.
レジデントノート～病棟の輸液 病態に応じた始め方、減らし方、止め時～, 2025 ; 27(1) : 28-32.
- 3) 【総論：病棟の輸液の基本】輸液の基本.
永井友基.
レジデントノート～病棟の輸液 病態に応じた始め方、減らし方、止め時～, 2025 ; 27(1) : 20-27.

B-c2：和文著書 [分担]

- 1) 【第1章：医師としての基本のキ】 3. 臨床推論の考え方・使い方～診断エラーしないために.
永井友基.
みんなで楽しくホスピタリストになろう！エビデンスと実臨床の架け橋、株式会社じほう, 2025 ; pp20-29.

- 2) 【第2章：基本の検査のみかた】 6. 血液ガスはお作法どおりに読めるようになろう.

山中萌奈美.

みんなで楽しくホスピタリストになろう！エビデンスと実臨床の架け橋、株式会社じほう, 2025 ; pp103-114.

- 3) 【第3章：カルテの型から学ぶ患者さんの診かた】 6. 感染症患者さんのカルテの型.

吉岡瑞姫.

みんなで楽しくホスピタリストになろう！エビデンスと実臨床の架け橋、株式会社じほう, 2025 ; pp157-167.

- 4) 【第4章：救急外来、病棟管理で絶対マスターしたい疾患対応】 1. 敗血症/敗血症性ショックの初期治療～循環の立ち上げと感染症治療の2軸を回そう.

馬場あかね.

みんなで楽しくホスピタリストになろう！エビデンスと実臨床の架け橋、株式会社じほう, 2025 ; pp188-197.

- 5) 【第4章：救急外来、病棟管理で絶対マスターしたい疾患対応】 17. アルコール離脱・アルコール性ケトアシドーシス～お酒をたくさん飲んでる人をちゃんとみれますか？.

日高悠介.

みんなで楽しくホスピタリストになろう！エビデンスと実臨床の架け橋、株式会社じほう, 2025 ; pp389-399.

- 6) 【第2特集】 長引く咳 診療をアップデートせよ！咳と検査とタイミングをアップデートせよ！.

永井友基.

治療 2025 ; 107(7) : 78-83.

- 7) かかりつけ医が見逃したくない蜂窩織炎.

近藤俊介、永井友基.

週刊 日本医事新報 2025 ; 5302号.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演，教育講演

<口演発表>

- 1) 根拠に基づく予防医療の実践 個々の患者に対するアプローチ症例発表.

森英毅、向原圭、宮崎景、北村和也、斉藤さやか、日下伸明、香田将英.

第16回日本プライマリ・ケア連合学会大会. 札幌, 2025.6.21.

- 2) ワールドカフェで学ぶPractice Based Research Network (PBRN).

森英毅、山梨啓友、金子惇、西村正大、高橋徳幸、篠原孝宏.

日本プライマリ・ケア連合学会秋季セミナー. 大阪, 2025.11.2.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

<シンポジウム>

- 1) 離島出身の地域枠医師の現状と展望.

鋸崎翔太.

第16回全国シンポジウム「地域推薦枠医師の卒前・卒後教育をどうするか?」. 東京, 2025.2.21.

B-b2：一般演題

<口演発表>

- 1) ペンタゾシン10錠/日内服を和温療法や患者教育で離脱できた線維筋痛症の一例。
蒲原将暉、和泉泰衛。
第30回日本病院総合医学会. 広島市, 2025.2.22.
- 2) 軽度認知機能が低下した高齢独居の患者に対し8Psで評価することで自宅退院に繋げることができた一例。
吉岡瑞姫。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 3) 認知症やうつ病のある独居の高齢者に対して患者中心の医療のフレームワークを用いた症例。
小川紗智。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 4) 生検が早期診断に有用であった多発筋腫瘍類似の他の医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患（OII-LPD）の1例。
山領優斗、森隆浩、榊知佳、原敦子、川原知瑛子、岡田寛丈、岩永希、和泉泰衛。
日本リウマチ学会九州沖縄支部総会. 沖縄, 2025.3.15.
- 5) ひとり親の健康問題と支援についての検討。
梅木悠希、森英毅。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 6) “知らされない”という選択を尊重する一病状告知を望まない患者の多職種ケア。
大野渚。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 7) 治癒困難な下血が続く超高齢者と、ケアや治療への要望が強い娘との共同意思決定を繰り返し行い在宅生活を多職種で支援した1例。
野口栞、森英毅。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 8) 終末期ケアに関するポートフォリオ事例。
草野晋平、森英毅。
日本プライマリケア学会長崎支部 ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.3.15.
- 9) chromobacterium haemolyticum菌血症により敗血症性ショックに至った症例。
西浦壮志、山中（井上）萌奈美、永井友基、窪田佳史、渡辺直樹、渡智久、大塚善人、和泉泰衛。
第349回日本内科学会 九州地方会. 沖縄, 2025.5.25.
- 10) 急性膵炎、膵島十二指腸切除後に生じた門脈体循環シャントによって繰り返す意識障害を呈した一例。
藤原もも佳、森英毅、釘山有希。
第16回日本プライマリ・ケア連合学術大会. 札幌, 2025.6.21.
- 11) 外側半規管型良性発作性頭位めまい症類似の方向交代性背地性眼振をきたした神経血管圧迫症候群の一例。
鈴木駿、森英毅、足利裕哉。
第16回日本プライマリ・ケア連合学術大会. 札幌2025.6.21.
- 12) 教育の質を高め、総合内科医・総合診療医の増加に挑む。
永井友基。
第75回日本病院学会. 長崎, 2025.7.24.
- 13) 誤嚥性肺炎を繰り返す認知症患者において多職種で協議し方針を決定した一例。
小川紗智。
第13回ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.8.23.

- 14) 複数診療科が関与する高齢CKD患者に対する家族と共に進めた慢性疾患ケア。
大野渚。
第13回ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.8.23.
- 15) 障害とリハビリテーション。
草野晋平、森英毅。
第13回ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.8.23.
- 16) 脳梗塞患者に対してICF評価とアプローチにより自宅退院と趣味継続を達成した一例。
鋸崎翔太、森英毅。
第13回ポートフォリオ発表会. 長崎, 2025.8.23.
- 17) 長期的関係の中で慢性心不全の経過における転機に対して介入できた一例。
樋口悠真、森英毅。
第13回ポートフォリオ発表会. 長崎（五島ふれあい診療所）, 2025.8.23.
- 18) 膵癌に合併した腫瘍随伴性RS3PE症候群の一例。
門松英、和泉泰衛、大野渚、末廣智之、岡田覚丈、岩永希。
第70回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部会. 福岡, 2025.9.13.
- 19) SGLT2阻害薬中止後も持続する尿糖排出により著明な高Na血症と多尿を呈した一例。
西浦壮志、永井友基、和泉泰衛。
第352回日本内科学会 九州地方会. 福岡, 2026.1.25.

<ポスター>

- 1) 急性膵炎、膵島十二指腸切除後に生じた門脈体循環シャントによって繰り返す意識障害を呈した一例。
藤原もも佳、森英毅、釘山有希。
日本プライマリケア学会長崎支部. 長崎, 2025.3.15.
- 2) 外側半規管型良性発作性頭位めまい症類似の方向交代性背地性眼振をきたした神経血管圧迫症候群の一例。
鈴木駿、森英毅、足利裕哉。
日本プライマリケア学会長崎支部. 長崎, 2025.3.15.
- 3) 身体所見が契機となり診断された進行期乳房外パジェット病の一例。
草野晋平、森英毅、鳥巢裕一、石川博士、和泉泰衛。
日本プライマリケア学会長崎支部. 長崎, 2025.3.15.
- 4) 網羅的遺伝子診断技術を用いた感染性胃腸炎病原体解析。
菅田健、河口亜津彩、河村吉紀、中井英剛、水上智之、森英毅、三浦浩樹。
第29回日本ワクチン学会・第66回日本臨床ウイルス学会合同学術大会. 新潟, 2025.9.26.

B-c：研究会発表

<口演発表>

- 1) 大腿骨近位部骨折における骨粗鬆症治療の実態調査研究（記述研究）。
吉岡瑞姫、森英毅、宮本俊之、和泉泰衛。
院内研究発表会. 長崎, 2025.3.07.
- 2) 舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発。
森英毅、山崎一美。
新産業を産む科学技術研究成果報告会2025. 東京, 2025.6.24.

F,G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

1) 和泉泰衛.

若手医師フォーラム第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

G：その他

<口演発表>

1) 骨も診るってこんなに大事！.

吉岡瑞姫.

第194回大村市ケアセミナー. 大村, 2025.1.16.

2) もう一度見直そう！感染予防対策.

小川紗智.

第199回大村市ケアセミナー. 大村, 2025.11.20.

<オンライン講演>

1) GCSFはいつ使うのか.

永井友基.

ひたちなか総合病院 教育カンファランス. オンライン, 2025.2.6.

2) 演栄養療法のきほん.

永井友基 諫早総合病院 消化器内科.

民間医局コネクトセミナー. オンライン, 2025.3.5.

3) アナフィラキシーの初療についてAntaa Slideと本で勉強してみよう.

永井友基.

Antaaウェビナー. オンライン, 2025.3.19.

4) 輸血不応性の血小板減少をみたら.

永井友基.

ひたちなか総合病院 教育カンファランス. オンライン, 2025.4.17.

5) 血液ガスのミカタ.

山中萌奈美、永井友基.

民間医局コネクトセミナー. オンライン, 2025.4.30.

6) Mたんぱくのみかた.

永井友基.

ひたちなか総合病院 教育カンファランス. オンライン, 2025.6.4.

7) まわりと差をつける尿路感染症診療.

鈴木駿、永井友基.

民間医局コネクトセミナー. オンライン, 2025.7.2.

8) 臨床推論入門～システム1とシステム2を使いこなせ～.

永井友基.

野口グラウンドラウンド. オンライン, 2025.9.10.

9) 汎血球減少のみかた.

永井友基.

ひたちなか総合病院 教育カンファランス. オンライン, 2025.10.8.

<タスク>

- 1) 森隆浩.
関東信越指導医講習会. 東京, 2025.7.11.
- 2) 森隆浩.
良質な医師を育てる研修. 東京, 2025.7.19.

<座長>

- 1) 和泉泰衛.
第199回大村市ケアセミナー . 大村, 2025.11.20.


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

精神科・精神リエゾンチーム

責任者 蓬萊 彰士

診療科の特色

1-1. 診療科の紹介

＜外来部門＞ 2階外来月曜日から金曜日まで初診の方は受付時間9：30から10：00まで。院内紹介のみ

1-2. 診療内容

精神障害全般の診断・治療を行っています。

1-3. 診療スタッフの紹介（医長）、専門医・指導医

	氏名	資格	所属学会	専門分野
医 長	蓬萊 彰士	精神保健指定医 日本精神神経学会 指導医・専門医	日本精神神経学会日本総合病院精神 医学会日本サイコオンコロジー学会	コンサルテーション・リエ ゾン精神医学サイコオンコ ロジー
心理士	越本 莉香	臨床心理士		心理検査

1-4. 特色、特殊治療、先端医療の紹介

◆他の身体科との連携により、主に入院中の患者に生じた、精神的問題に対して診察・治療（コンサルテーション・リエゾン精神医学：Consultation-LiaisonPsychiatry）を行います。またチーム医療の一環で精神リエゾンチーム、緩和ケアチーム、拘束最小化チームに参加し、回診を通して相談、助言等を行っています。

※精神・リエゾンセンターは精神科医の減少に伴い令和6年5月より休止中となっています。

入院診療実績

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1) m-ECT	なし	1	7	0

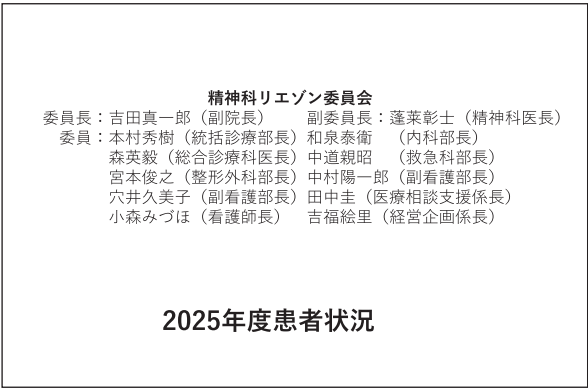
研修・教育

カンファレンス

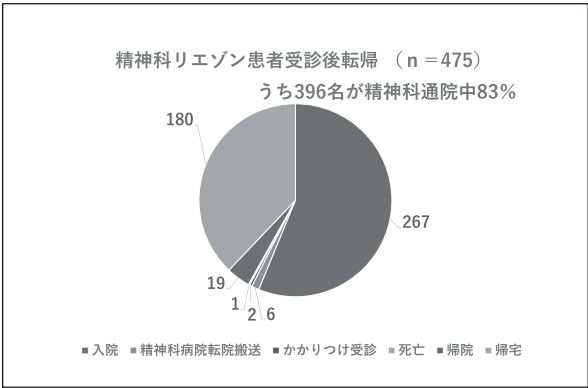
名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
病棟カンファレンス	医師・看護師	10名	1 / 日
新患カンファレンス	医師	3 名	1 / 週



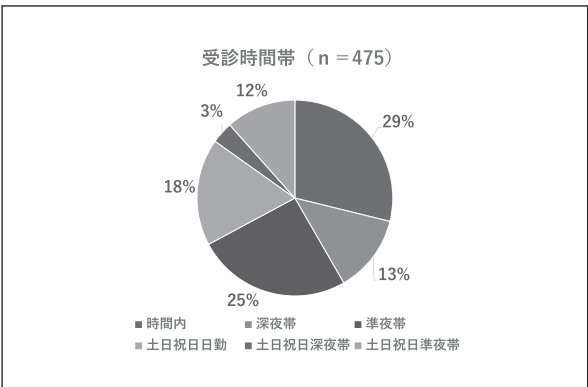
精神科リエゾン委員会



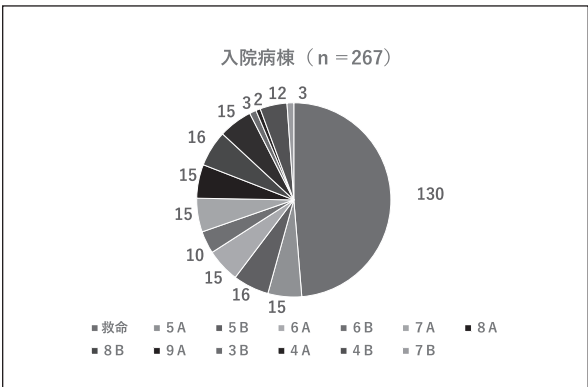
1



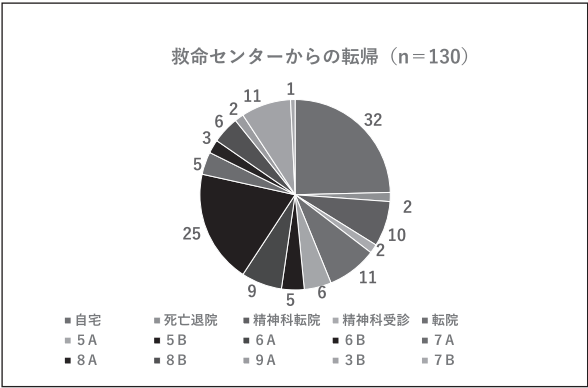
2



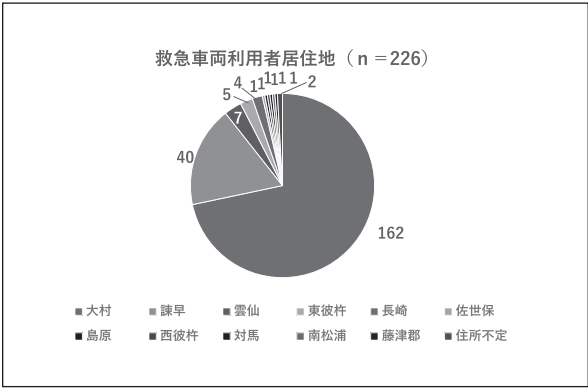
3



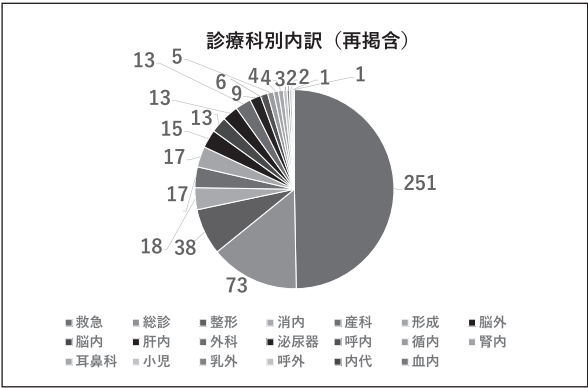
4



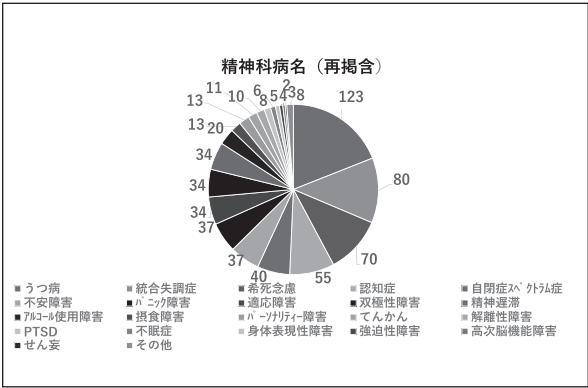
5



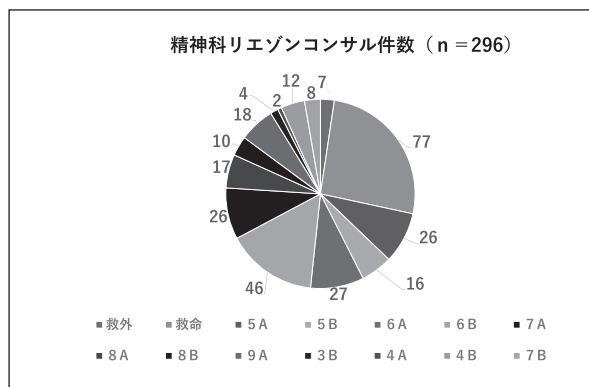
6



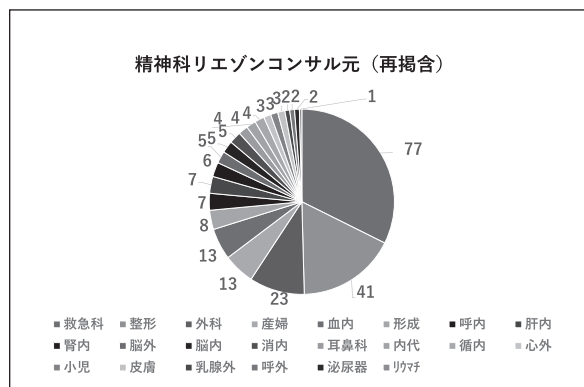
7



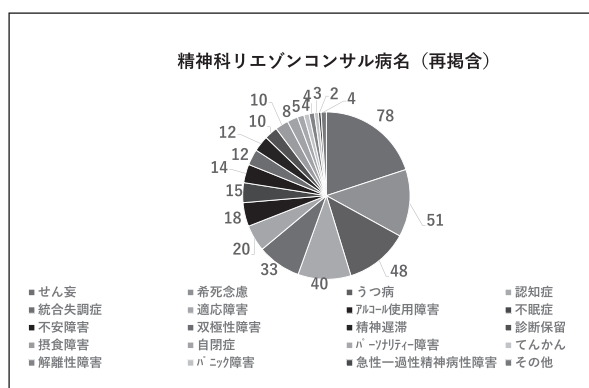
8



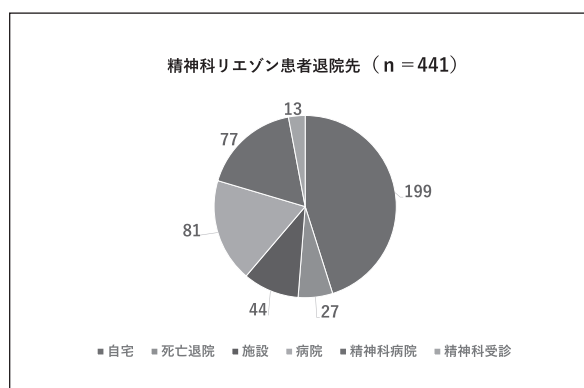
9



10



11



12



責任者 近藤 晃

診療科の特色

呼吸器内科は、スタッフ医師5名および修練医1名が在籍し、呼吸器疾患全般の診療を行っています。呼吸器疾患による年間退院患者数は872名であり、その主な内訳は肺癌453名、肺炎145名、間質性肺炎74名です。

肺癌は患者数の多い疾患であり、長崎県央地区を中心に多数の患者さんが受診されています。治療は、進行肺癌や周術期における薬物療法や化学放射線療法を行っています。治療方針は、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科が参加する呼吸器合同カンファレンスで検討し、診療の質および治療成績の向上に努めています。

さらに、感染症診療にも注力しており、特に肺炎については、救命救急科や総合診療科と連携し、迅速な診断と適切な治療を行っています。また、間質性肺炎、気管支喘息、COPD、気胸など、幅広い呼吸器疾患に対応しています。

検査・診断においては、画像診断や呼吸機能検査に加え、呼吸器内視鏡検査を実施しています。通常の気管支内視鏡検査のほか、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）、超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）、極細径気管支内視鏡を用いた診断を行い、診断精度の向上を図っています。また、気管支鏡下レーザー治療、気管支充填術、気道異物除去術、ステント留置術などの内視鏡治療も実施しています。

長崎医療センターは、多くの学会の認定施設であり、呼吸器内科関連では、日本内科学会教育病院、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本がん治療認定医機構、日本臨床腫瘍学会、日本感染症学会の認定施設となっています。これらの認定のもと、呼吸器専門医、臨床腫瘍専門医、感染症専門医の取得に必要な研修環境が整備されており、研修医および修練医が日々研鑽を積んでいます。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,101人	30.4人	693人	872人	49人	14.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
244件	78.5%	484件	142.8%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
550人(63.4%)	146人(16.8%)	28人(3.2%)	30人(3.5%)	2人(0.2%)	46人(5.3%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
22人(2.5%)	39人(3.3%)	6人(0.7%)		1人(0.1%)	2人(0.2%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.1%)					
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
	2人(0.2%)	2人(0.2%)	1人(0.1%)	868人	

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
肺癌	C34, C41, C37, D38	453	14
縦隔腫瘍その他の悪性腫瘍	C79, C78, C85, C48, C49, C44, C38	11	2
肺炎	J15, J69, J13, J18, B59	145	9
肺炎以外の感染症（TB含む）	A31, J86, J85, U07, J10, B45, B44, A16, A41, J12, N10, B24, A77, K83, K57, K80, B34, A43	74	5
呼吸不全（COPD含む）	J44, J96, J43	18	1
気管支喘息	J45, J46	13	0
間質性肺炎	J84, J67, J82, J99, J64	74	7
気胸	J93	17	1
サルコイドーシス	D86	9	0
その他	J70, R04, I50, J90, I28, E87, T68, M54, A09, M62, I48, B02, S22, G93, G41, T40, E86, E27, K71, D59, A43, I26, K26, I20, K10, H81, I71	58	4

主要検査件数

検査	症例数
気管支内視鏡検査（総数）	323
気管支超音波内視鏡（EBUS）	168
異物除去・気管支充填術・ステント留置	2



研修・教育



カンファレンス

名称	開催頻度
呼吸器カンファレンス	1 回/週
新患紹介	1 回/週
呼吸器合同カンファレンス	1 回/週

実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析	観察	同意書	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学	原 敦子
2	間質性肺疾患を対象とした肺炎発症を規定する細胞表面マーカー、IgGサブクラス分画探索研究	観察	同意書	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学	原 敦子
3	アジアにおける肺癌個別化医療の確立を目指したゲノムスクリーニング研究 (LC-SCRUM-Asia)	観察	同意書	国立がん研究センター東病院	池田喬哉
4	進展型小細胞肺癌に対する複合免疫療法後のイリノテカン療法の第Ⅱ相試験	介入	同意書	長崎大学病院呼吸器内科	池田喬哉
5	成人市中肺炎患者における肺炎球菌の血清型分布に関する前向きサーベイランス研究	観察	同意書	長崎大学大学院/医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野 (臨床検査医学)	近藤 晃
6	高齢者市中発症肺炎に対するアンピシリン・スルバクタムと比較したラスクフロキサシンスイッチ療法の有効性を評価する多施設共同無作為非盲検比較試験	観察	同意書	長崎大学病院呼吸器内科	近藤 晃
7	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に対するモノクローナル抗体製剤及び迅速診断法の開発	観察	同意書	長崎大学病院呼吸器内科	近藤 晃
8	市中肺炎/医療・介護関連肺炎の耐性菌出現及び予後に関する後方視研究	観察	オプトアウト	長崎大学病院呼吸器内科	近藤 晃

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員 (それ以外)

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2 (5)	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員 (それ以外)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	5	10	7

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類				
件数				

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Efficacy and Safety of Intravenous-to-Oral Lascufloxacin Switch Therapy in Community-Onset Pneumonia : A Single-Arm, Open-Label Clinical Trial.
Iwanaga N, Hosogaya N, Takazono T, Tsukamoto Y, Morio R, Irifune S, Miyamura T, Harada Y, Nagayoshi Y, Kondo A, Mihara T, Kohno Y, Fukuda Y, Kobayashi T, Sasaki E, Sawai T, Imamura Y, Morikawa T, Hashiguchi K, Futsuki Y, Inoue Y, Fukushima K, Suyama N, Senju H, Tanaka H, Kawazoe Y, Morimoto S, Ito Y, Yoshida M, Takeda K, Ide S, Sakamoto N, Izumikawa K, Yanagihara K, Mukae H.
Cureus 2025 ; 17(3) : e80404. doi : 10.7759/cureus. 80404.
- 2) Risk Factors and Long-Term Prognosis for Coinfection of Nontuberculous Mycobacterial Pulmonary Disease and Chronic Pulmonary Aspergillosis: A Multicentre Observational Study in Japan.
Tanaka Y, Ide S, Takazono T, Takeda K, Iwanaga N, Yoshida M, Hosogaya N, Tsukamoto Y, Irifune S, Suyama T, Mihara T, Kondo A, Kobayashi T, Fukuda Y, Sasaki E, Sawai T, Higashiyama Y, Hashiguchi K, Hanaka M, Ii T, Fukushima K, Komiya K, Miyazaki T, Yatera K, Izumikawa K, Furumoto A, Yanagihara K, Mukae H.
Mycoses 2025 ; 68(6) : e70083. doi : 10.1111/myc. 70083.
- 3) Multicentre retrospective observational study for development and validation of MAC prognostic score model.
Takeda K, Takazono T, Ide S, Yoshida M, Iwanaga N, Hosogaya N, Tsukamoto Y, Irifune S, Suyama T, Mihara T, Kondo A, Kobayashi T, Fukuda Y, Sasaki E, Sawai T, Higashiyama Y, Hashiguchi K, Hanaka M, Ii T, Fukushima K, Komiya K, Miyazaki T, Yatera K, Izumikawa K, Furumoto A, Yanagihara K, Mukae H.
Scientific Reports 2025 ; 15(1) : 28539. doi : 10. 1038/s41598-025-14348-7.
- 4) A phase II clinical trial on the efficacy and safety of carboplatin plus nab-paclitaxel in chemotherapy-naïve advanced or recurrent thymic epithelial tumors: protocol of Nab-TET.
Hayashi F, Midori Matsuo 1 2, Shinnosuke Takemoto 1, Ryosuke Ogata 3, Yasuhiro Umeyama 3, Katsumi Nakatomi 4, Takaya Ikeda 5, Nanae Sugasaki 6, Seiji Doi 7, Takeshi Kitazaki 8, Kazumasa Akagi 1 9, Hiromi Tomono 1, Noritaka Honda 1, Yosuke Dotsu 1, Hirokazu Taniguchi 1 9, Hiroshi Gyotoku 10, Minoru Fukuda 11, Hiroshi Soda 3, Hiroshi Mukae 1.
Journal of Thoracic Disease 2025 ; 17(9) : 7343-7351.
- 5) Clinical Significance of a Prospective Large Genomic Screening for SCLC: The Genetic Classification and a Biomarker-Driven Phase 2 Trial of Gedatolisib.
Umemura S, Shigeki Umemura 1, Hibiki Udagawa 1, Takaya Ikeda 1, Haruyasu Murakami 2, Haruko Daga 3, Ryo Toyozawa 4, Toshiyuki Kozuki 5, Jun Sakakibara-Konishi 6, Yuichiro Ohe 7, Masahiro Morise 8, Terufumi Kato 9, Masato Shingyoji 10, Satoshi Hara 11, Naoki Furuya 12, Shuhei Teranishi 13, Saori Takata 14, Shingo Miyamoto 15, Ichiro Nakachi 16, Masashi Wakabayashi 17, Shogo Nomura 18, Akihiro Sato 17, Genichiro Ishii 19, Katsuya Tsuchihara 20, Eri Sugiyama 1, Keisuke Kirita 1, Tetsuya Sakai 1, Yuji Shibata 1, Hiroki Izumi 1, Kaname Nosaki 1, Yoshitaka Zenke 1, Shingo Matsumoto 1, Kiyotaka Yoh 1, Seiji Niho 1, Koichi Goto 21.
J Thoracic Oncol. 2025 ; 20(2) : 177-193.

A-a2：英文症例報告

- 1) Laryngeal cryptococcosis.
Noritomi D, Kondo A.
American Journal of Medicine 2025 ; S0002-9343(25)00829-0.
- 2) Splenomegaly in a Patient with Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia.
Noritomi D, Kido T, Ozasa M, Ishijima S, Sakamoto N, Mukae H.
The American Journal of Medicine 2025.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<Poster>

- 1) 成人におけるRSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザウイルス肺炎の多施設共同後方診研究.
高尾亮太、高園貴弘、小林奨、近藤晃、福田雄一、澤井豊光、夫津木要二、橋口浩二、福島喜代康、迎寛.
第122回日本内科学会総会. 大阪, 2025.4.19.
- 2) 当院で経験したカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae : CPE) アウトブレイク事例
近藤晃、木場みちよ、泉川公一、田中健之、柳原克紀、迎寛.
第40回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜, 2025.7.11.
- 3) 当院で経験したCPEアウトブレイク事例における感染対策.
近藤晃、木場みちよ、泉川公一、田中健之、柳原克紀、迎寛.
第40回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜, 2025.7.11.

<Oral>

- 1) 当院で経験した高悪性度胎児型肺腺癌の1例.
大村直也、池田喬哉、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗、田川努、近藤晃、迎寛.
第65回日本肺癌学会九州支部学術集会/第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.8.
- 2) 外国人就労者末期肺癌患者の治.
療と帰国支援の経験.
夫津木、遼末原照大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、近藤晃、同 放射線科、武田達哉、本多功一、迎寛.
第65回日本肺癌学会九州支部学術集会/第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.8.
- 3) 当院における非結核性抗酸菌症に合併した胸膜炎5例の臨床的検討.
大村直也、末原照大、夫津木遼、乗富大地、武田和明、原敦子、池田喬哉、高園貴弘、近藤晃、迎寛.
第94回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会 九州支部春季学術講演会. 宮崎, 2025.3.8.
- 4) 吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例
片山あかり、乗富大地、夫津木遼、末原照大、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田中藤信、石飛俊介、迎寛.
第94回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会 九州支部春季学術講演会. 宮崎, 2025.3.8.
- 5) 当施設14年間で結核と診断された192例の中で結核腫の診断した2例.
末原照大、乗富大地、芦澤博貴、武田和明、岩永直樹、吉田将孝、原敦子、高園貴弘、近藤晃、迎寛.
第99回日本感染症学会総会・学術講演会第73回日本化学療法学会総会 合同総会. 横浜, 2025.5.8.
- 6) 吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例.
鬼頭貴之、乗富大地、夫津木遼、末原照大、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田中藤信、石飛俊介、迎寛.

第91回九州真菌懇親会・第6回日本医真菌学会九州・中四国支部会. 佐賀, 2025.5.18.

7) 膿胸に対する3例のアルテプラゼ使用経験.

前田康文、乗富大地、茂山航大、川寄光一、松本理宗、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田川努、迎寛.

第95回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会沖縄, 2025.10.31.

8) 肺癌治療中に発症したirAEによる体液貯留の一例

松竹谷海斗、川寄光一、茂山航大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、近藤晃、迎寛.

第95回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会. 沖縄, 2025.10.31.

<口演>

1) 吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例.

片山あかり、乗富大地、夫津木遼、末原照大、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田中藤信、石飛俊介、迎寛.

第94回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会. 宮崎, 2025.3.8.

2) 吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例.

鬼頭貴之、乗富大地、夫津木遼、末原照大、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田中藤信、石飛俊介、迎寛.

第6回日本医真菌学会吸収・中四国支部会. 佐賀, 2025.5.18.

3) 膿胸に対する3例のアルテプラゼ使用経験.

前田康文、乗富大地、茂山航大、川寄光一、松本理宗、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田川努、迎寛.

第95回日本呼吸器学会九州支部秋季学術講演会. 沖縄, 2025.10.31.

4) LC-SCRUM-Supportによる患者の臨床試験参加への啓発と治療薬開発の推進

池田喬哉、西野和美、村上修司、當麻景章、高田佐織、小谷昌広、青野ひろみ、泉大樹、葉清隆、後藤功一.

第66回日本肺癌学会学術集会. 東京, 2025.11.8.

B-c: 研究会発表

<パネルディスカッション>

1) CTD-ILDにおける治療の現状.

原敦子.

CTD-ILD Conference長崎. Web, 2025.8.26.

2) CTD-ILD診療の現状と課題について.

原敦子.

CTD-ILD Conference in Nagasaki 2025. 長崎, 2025.9.4.

3) 実臨床下における複合免疫療法のポジショニング.

池田喬哉.

Lung Cancer Symposium in Nagasaki. 長崎, 2025.3.11.

4) 肺がん周術期治療戦略に関しての現状と今後の展望.

池田喬哉.

AZ肺がん周術期治療セミナー. 長崎, 2025.11.4.

<講演>

1) 当院の間質性肺疾患の診療の現状.

原敦子.

長崎県中央胸部疾患懇話会. 諫早, 2025.8.20.

C,F：学術講演他**C-b：学術講演 [国内]****<Oral>**

- 1) 長崎医療センターにおけるHIV/AIDS診療の現状報告ー2024年度の症例を中心にー.
近藤晃.
第29回エイズ診療ネットワーク in Nagasaki. 長崎, 2025.2.8.
- 2) 長崎医療センターでのアリケイス導入例.
近藤晃.
長崎県MAC症研究会. 長崎, 2025.10.24.

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]**<座長>**

- 1) 当院におけるirAEマネジメント・CRSについて、irAE発現時のステロイドマネジメントについて～使用のタイミングと量、期間、注意点～.
池田喬哉.
irAEマネジメント連携セミナー in長崎. 長崎, 2025.9.12.
- 2) SCLCにおけるテセントリク用法用量追加による有用性.
池田喬哉.
CHUGAI LUNG CANCER WEB SEMINAR. 長崎, 2025.11.18.

診療科の特色

消化管腫瘍（癌・ポリープ・その他）、消化管救急疾患（出血性消化管疾患・イレウスなど）、炎症性腸疾患（クローン病・潰瘍性大腸炎など）の診断・治療を重点的に行っている。

特に、内視鏡を用いた診断・治療には最も力を注いでいる。

内視鏡診療は、最新機器を用いた各種画像強調内視鏡や超音波内視鏡での診断を行っている。炭酸ガス送気の導入で、より安全で苦痛のない検査・治療が可能となっている。早期癌に対しては従来の粘膜切除術（EMR）の他、大きな病変に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）での内視鏡的一括切除術を行っている。当科は保険収載前から先進医療としてこれらを施行しており豊富な症例数と良好な治療成績を有し、各地よりご紹介頂いている。最近では胃粘膜下腫瘍に対して外科と共同で腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除（Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery；LECS）も積極的に導入している。

切除不能進行癌に対する化学療法は、従来の抗癌剤に加え分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を用い、ガイドラインに沿った標準治療を行なっている。化学療法の適応がなくなった患者さんは、地域の開業医の先生と綿密な連携の上でよりよい緩和医療が行えるよう努力している。

消化管救急疾患診療としては、消化管出血に対して緊急内視鏡による止血術、イレウスに対しては経鼻内視鏡を使用した経鼻又は経肛門イレウスチューブ挿入などを行っている。夜間、休日の急患に対しても専門チームで対応可能となっている。

炎症性腸疾患に対しては従来の治療に加え、白血球除去療法、タクロリムス、生物学的製剤などを積極的に導入し良好な治療成績が得られている。生物学的製剤もかつては抗TNF- α 抗体製剤のみだったが、近年使用可能となった各種抗IL抗体、抗インテグリン抗体、JAK阻害剤も積極的に使用している。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
7,644人	20.9人	961人	1,082人	18人	7.5日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
297件	90.5%	740件	206.1%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
541人(49.9%)	200人(18.5%)	34人(3.1%)	46人(4.2%)	2人(0.2%)	89人(8.2%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
40人(3.7%)	78人(7.2%)	28人(2.6%)	1人(0.1%)	6人(0.6%)	7人(0.6%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
					6人(0.6%)
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
		3人(0.3%)	3人(0.3%)		1,084人

入院主要疾患別臨床統計（のべ数）

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
食道癌	C15.0-9	105	4
胃癌	C16.0-9	145	2
大腸癌・直腸癌	C18.0-9	218	3
大腸ポリープ・大腸腺腫	K635,D12.0-9	139	0
潰瘍性大腸炎	K51.0-9	72	0
クローン病	K50.0-9	136	0
胃・十二指腸潰瘍	K25.0-9,K26.0-9	25	0
イレウス（腸閉塞）	K56.0-7	38	0

主要検査件数

検 査	症例数
上部消化管内視鏡検査	2537
上部消化管超音波内視鏡検査	244（細径；98，コンベックス146）
下部消化管内視鏡検査	1324
下部消化管超音波内視鏡検査	51（細径；51）
小腸内視鏡検査（ダブルバルーン）	0

治療成績（入院のべ数）

特殊治療法	症例数
上部消化管腫瘍内視鏡的切除術	80（ESD；50，EMR20）
下部消化管腫瘍内視鏡的切除術	221（ESD；43，EMR178）
イレウス管挿入・stent挿入	イレウス管41（上部；32、下部；9） Stent39（食道；14、大腸；25）
内視鏡的消化管出血止血術	（上部；85、下部；24）
内視鏡的消化管拡張術	（上部；50、下部；6）
食道癌化学療法	43
胃癌化学療法	22
大腸癌化学療法	42
白血球除去療法	7
抗TNF- α 抗体投与療法	194

研修・教育

カンファレンス

名 称	開催頻度
消化管回診（8：45）	一時中断中
消化管臨床カンファレンス（16：00）	1回/週（月）
消化器（管・肝臓）内科カンファレンス（8：45）	1回/週（水）
消化器内科・外科合同カンファレンス（16：00）	1回/週（火）

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0 (0)	0 (0)	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	3

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	研究会			
件数	2			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-c：研究会発表

<症例提示>

1) 胃の症例.

森川竣介、西山仁、後藤高介、中島悠史郎、今村祥子、峯彩子.
大村胃疾患検討会. 大村, 2025.6.7.

2) 胃の症例.

森川竣介、西山仁、後藤高介、中島悠史郎、今村祥子、峯彩子.
長崎胃疾患検討会. 長崎, 2025.8.27.

3) 食道の症例.

峯彩子、西山仁、後藤高介、中島悠史郎、今村祥子、上原里依.
大村胃疾患検討会. 大村, 2025.9.19.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

<講演>

1) 早期肛門管癌の治療方針.

西山仁.
大村胃疾患検討会. 大村, 2025.6.7.

2) 軽症～中等症のUC治療について～ MMXブデゾニドの有用性も含めて～.

中島悠史郎.
オンボー適応追加記念講演会. 長崎, 2025.8.6.

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

- 1) 西山仁.
胃癌治療の最前線. 諫早, 2025.6.20.
- 2) 中島悠史郎.
長崎胃疾患検討会. 長崎, 2025.8.27.

診療科の特色

当院は2007年8月長崎県の肝疾患診療連携拠点病院に選定され、長崎県における肝疾患ネットワークにおける中心的な役割を担っております。当科では毎年約900人の肝胆膵疾患患者が入院しております。

医療スタッフにより下記に示すような医療を行っております。

1. データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療
2. 長期生存を目指した肝癌治療
3. 抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療
4. 治験への積極的関与
5. 臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法開発の模索
6. 胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

1. データに基づいた肝臓病に関する高度な診断と治療

当科では1990年以降に入院した肝臓病患者の2万人を超えるデータベースをもとに肝疾患の診断と治療法を決定しています。例えば、肝癌の診断においては個々の患者の発癌リスクを判断しハイリスクグループを囲い込むことによる肝癌の早期診断を行い、ハイリスクグループに対しては、肝癌抑止を目標とした内服の抗ウイルス療法などを行っています。原因不明の肝障害、自己免疫性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）など診断困難な症例に対しては、肝生検を行い診断することにより治療を行っています。

2. 長期生存を目指した肝癌治療

肝癌の治療は、内科医、外科医、放射線科医、病理医らの合同カンファレンスを行い個々の症例の治療方針を決定しています。外科切除、経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）、経カテーテル的肝動脈化学塞栓療法（TACE）が従来の主要な治療でしたが、定位放射線治療も積極的に行うようになってきました。進行肝癌に対してはソラフェニブ、レンバチニブなど分子標的阻害剤による治療に加え、免疫チェックポイント阻害剤であるアテゾリズマブ＋ベバシズマブ、デュルバルマブ＋トレメリムマブの治療も行っています。ウイルス性肝炎の治療が劇的に改善したことで背景肝の炎症が制御可能となり、肝予備能が保たれるようになったことにより、肝癌の予後が更に改善し、また肝癌発生率も減少しています。

3. 抗ウイルス薬を用いたウイルス肝炎の治療

C型慢性肝炎では、1990年代よりインターフェロンが治療の中心となっていました。2014年よりジェノタイプ1bウイルスに対してインターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤DAAが保険適応になり、2015年からは100%に近い奏功率で副作用が非常に少ない配合剤（核酸型NS5B阻害剤＋NS5A阻害剤）が、保険適応になりました。2017年にはウイルスの遺伝子型や透析の有無などを考慮する必要のない第3世代とも言われるDAA製剤が承認され、最短8週間でウイルス駆除が可能となりました。その結果、C型慢性肝炎は治る病気になりました。

B型慢性肝炎に対しては核酸アナログ製剤の登場によってB型慢性肝炎の病状進展抑制が可能となりました。更に発癌リスクを減らすためにHBs抗原量を低下させることが、有効であることが報告されています。2014年HBs抗原量をより低下させる作用があるとされる新たな核酸アナログ製剤（テノホビル）が保険適応になりました。さらに副作用を抑えたテノホビルのプロドラッグも2017年に保険適応となりました。これらを用いて積極

的にB型肝炎治療を行っています。

4. 治験への積極的関与

治験は医薬品などの承認申請のために実施する臨床試験ですが、新たな薬剤の承認には必須のものです。当院では臨床研究コーディネーター（CRC）を配備し、積極的に治験への関与を行っています。当科におきましても治験に大きく関わっており、患者さんは効果が期待される治療法を早めに試みております。

5. 臨床研究センターとの連携による新たな診断法や治療法の模索

臨床研究センターと連携して、肝炎ウイルスの遺伝子解析やサイトカイン測定、各種薬物濃度測定など、治療方針に関わる因子を解析し、個々の患者さんに応じた情報を提供し診療に役立てています。また、新たな診断法や検査法、治療法をいち早く試みることが可能です。肝線維化マーカーであるM2BPGiがC型慢性肝炎の発癌予測に有用であることを2014年当院より報告しました。現在は保険収載もされています。

6. 胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療、外科との連携、化学療法

最近では高齢化に伴い膵癌、胆管癌などの悪性腫瘍、また胆嚢結石、総胆管結石による胆嚢炎、胆管炎の患者さんが増えています。閉塞性黄疸、胆管炎、胆管結石などに対する、内視鏡的ドレナージや乳頭切開術、結石除去などの胆道内視鏡治療は増加の一途を辿っております。膵腫瘍などの診断を行うために超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）など高度な診断体制を構築しております。これにより早期の膵癌診断が可能となっています。胆膵疾患は特に外科との連携を要します。膵癌に対する化学療法も有効なレジメンが増えています。合同カンファランスで診断、治療方針を決定し、癌の場合には術前化学療法・術後化学療法を含め積極的に治療介入を行っています。

■ 入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,242人	30.8人	776人	931人	43人	13.2日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
391件	86.4%	622件	130.1%	1件	2.3%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
476人(52.1%)	171人(18.7%)	15人(1.6%)	19人(2.1%)	8人(0.9%)	75人(8.2%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
33人(3.6%)	69人(7.6%)	12人(1.3%)	3人(0.3%)	3人(0.3%)	9人(1.0%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
2人(0.2%)			1人(0.1%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
	3人(0.3%)	12人(1.3%)	2人(0.2%)	913人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1) 肝細胞癌	C220	160	3
2) 肝硬変	B181, B182, K703, K746	160	5
3) 慢性肝炎	B181, B182, K739	43	0
4) 急性肝炎	B159, B169, B171, B172, K720	6	0
5) 自己免疫性肝炎	K732	16	0
6) 原発性胆汁性胆管炎	K743	9	0
7) 胆管癌	C221, C240	53	6
8) 膵癌	C250, C251, C252, C253, C257, C259	164	15
9) 胆嚢癌	C23, C240	12	0
10) 総胆管結石	K805	147	0

主要検査件数

検査	症例数
1) 経皮的肝生検	31
2) 肝腫瘍生検	30
3) 経内視鏡的胆管膵管造影 (ERCP)	491
4) 管腔内超音波検査法 (IDUS)	99
5) 超音波内視鏡 (EUS)	146
6) 超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA)	68

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
1) 経皮的ラジオ波焼灼術	発熱	27	27	0
2) 肝動脈塞栓療法	発熱、嘔気	55	55	0
3) 定位放射線治療	なし	17	17	0
4) レンバチニブ	血球減少	11	11	0
5) アテゾリズマブ+ペバシズマブ	なし	4	4	0
6) デュルバルマブ+トレメリムマブ	なし	5	5	0
7) インターフェロンフリー療法	なし	0	0	0
8) 内視鏡的食道静脈瘤結紮術	なし	22	22	1
9) 内視鏡的乳頭切開術	なし	156	156	2
10) チューブステント留置	膵炎	351	351	0
11) メタリックステント留置	膵炎	48	48	0
12) 内視鏡的結石除去術	膵炎	161	161	2
13) 内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ (ERGBD)	なし	10	10	0

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
肝疾患センター診療カンファレンス	週 1 回
肝疾患病理検討会	隔週
内科・外科・放射線科合同カンファレンス	週 1 回
肝疾患リサーチミーティング	不定期

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	6 (10)	1 (0)	10 (0)	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	4 (1)	8 (0)	8 (0)	4 (0)

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演 （件数）

種類	学術講演			
件数	13			

4) 学会座長 （件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	2	5	2	5

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

■ ■ 研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Changes in serum myostatin levels among patients with type C liver cirrhosis treated with direct-acting antivirals.
Suehiro T, Kozuru H, Matusmoto K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Hepatol Res. 2025 ; 55(5) : 631-637. doi : 10.1111/hepr. 14162. Epub 2025 Jan 22.
- 2) Validation of PBC-10 in Japanese patients with primary biliary cholangitis.
Takeuchi A, Abe M, Furukawa S, Namisaki T, Takahashi A, Abe K, Kikuchi K, Miura R, Tachizawa N, Asaoka Y, Takaki A, Ueno Y, Honda A, Terai S, Komori A, Ohira H, Yoshiji H, Yonezawa A, Tanaka A.
Hepatol Res. 2025 ; 55(7) : 986-993. doi : 10. 1111/hepr. 14199. Epub 2025 Apr 26.
- 3) Lactitol may improve the prognosis of hepatocellular carcinoma through the proliferation of Megasphaera as well as Bifidobacterium.
Abiru S, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.

- Front Med (Lausanne). 2025 ; 12 : 1567849. doi : 10.3389/fmed. 2025. 1567849. eCollection 2025.
- 4) Comparison Analysis of Lenvatinib Plus Transcatheter Arterial Chemoembolization Versus Atezolizumab Plus Bevacizumab as First-Line Therapy for Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma Beyond the Up-to-Seven Criteria.
Niizeki T, Mawatari S, Shibata M, Sasaki R, Itoh S, Shakado S, Sugimoto R, Morita Y, Kuwashiro T, Endo M, Iwao M, Motoyoshi Y, Nakano M, Shimose S, Takahashi H, Yatsushashi H, Hirai F, Yoshizumi T, Miyaaki H, Kawaguchi T, Ido A, Harada M.
J Gastroenterol Hepatol. 2025 ; 40(8) : 2060-2067. doi : 10.1111/jgh. 17024. Epub 2025 May 31.
- 5) Pretreatment serum angiopoietin-2 predicts prognosis and liver functional reserve after successful HCV eradication with sofosbuvir and velpatasvir in patients with HCV-related decompensated cirrhosis.
Kawagishi N, Suda G, Tahata Y, Hikita H, Kodama T, Mochida S, Enomoto N, Mawatari S, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Kawada N, Yamashita T, Yatsushashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Miyaaki H, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Ohara M, Sakamoto N, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; 60(9) : 1145-1156. doi : 10.1007/s00535-025-02275-3. Epub 2025 Jun 20.
- 6) Posttreatment serum CXCL10 level stratifies survival in compensated and decompensated cirrhotic patients due to chronic hepatitis C virus infection after direct-acting antiviral therapy.
Suzuki T, Matsuura K, Tahata Y, Hikita H, Sakamori R, Kawada N, Enomoto N, Miki D, Yatsushashi H, Kuroda H, Yamashita T, Yoshiji H, Kurosaki M, Mawatari S, Miyaaki H, Asahina Y, Hiasa Y, Mochida S, Nakamoto Y, Takami T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; 60(10) : 1272-1283. doi : 10. 1007/s00535-025-02282-4. Epub 2025 Jul 1.
- 7) Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis: a prospective cohort study.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; 42(8) : 519-525. doi : 10. 1136/emered-2024-214210.
- 8) Clinical Characteristics and Long-Term Prognosis of Primary Biliary Cholangitis in Japan : Results of the 2nd-Generation Nationwide Survey.
Kugiyama Y, Abe M, Namisaki T, Yoshiji H, Abe K, Ohira H, Shirahashi R, Yokoyama K, Fukunaga A, Kawata K, Umemura M, Honda A, Ikegami T, Miyase S, Nakano T, Komori A, Tanaka A; Japan PBC Study Group.
Hepatol Res. 2025 ; doi : 10. 1111/hepr. 70035. Online ahead of print.
- 9) Serum Growth Differentiation Factor 15 Can Be a Novel Biomarker to Predict the Prognosis of Patients With Hepatitis C Virus Cirrhosis After Virus Elimination.
Myojin Y, Hikita H, Tahata Y, Fukumoto K, Kato S, Sasaki Y, Kumazaki S, Tsuchiya A, Enomoto M, Miki D, Yatsushashi H, Kuroda H, Uchida Y, Yoshiji H, Yamashita T, Mawatari S, Tamaki N, Miyaaki H, Asahina Y, Suda G, Matsuura K, Nakamoto Y, Hiasa Y, Takami T, Shirai K, Maesaka K, Murai K, Makino Y, Saito Y, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.
Hepatol Res. 2025 ; doi : 10. 1111/hepr. 70041. Online ahead of print.
PMID : 40965115.
- 10) Identification of anti-DOK2 antibodies in patients with autoimmune hepatitis via a human protein microarray.
Abe K, Wada J, Hayashi M, Sugaya T, Abe N, Takahata Y, Fujita M, Takahashi A, Kanno Y, Kuroda M, Saito K, Nozawa Y, Migita K, Yatsushashi H, Ohira H.
Hepatol Commun. 2025 ; 9(10) : e0807. doi : 10. 1097/HC9. 0000000000000807. eCollection 2025 Oct 1.
- 11) Denosumab versus zoledronic acid for osteoporosis treatment in patients with primary biliary cholangitis (the DELTA Study) : A multicenter, non-inferiority randomized trial.
Arase Y, Okubo T, Arai T, Abe M, Namisaki T, Uojima H, Matsumoto K, Kakisaka K, Setsu T, Mishima Y, Tsuruya K, Hirose S, Deguchi R, Shiraishi K, Atsukawa M, Ikegami T, Honda A, Terai S, Yoshiji H, Komori A, Tanaka A, Kagawa T.
Hepatol Commun. 2025 ; 9(11) : e0827. doi : 10. 1097/HC9. 0000000000000827. eCollection 2025 Nov 1.

- 12) Population-Based Molecular Surveillance of Hepatitis B Virus Genotypes in the Goto Islands, Japan: A Three Decade Study (1977-2008) of 916 Carriers.
Ko K, Ataa GA, Yamasaki K, Hirase K, Yasaka T, Shirahama S, Akita T, Sugiyama A, Fukuma S, Takahashi K, Tanaka J.
Hepatol Res. 2025 ; doi : 10. 1111/hepr. 70060. Online ahead of print.
- 13) Long-term changes in hepatic reserve and prognosis after direct-acting antiviral treatment in patients with hepatitis C virus-related decompensated cirrhosis : a five-year follow-up study of a Japanese phase 3 trial.
Tahata Y, Hikita H, Takaki A, Kurosaki M, Matsuura K, Yatsushashi H, Kuroda H, Ueno Y, Maekawa S, Nakamura M, Sakamori R, Kodama T, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; doi : 10. 1007/s00535-025-02312-1. Online ahead of print.
- 14) Human Leukocyte Antigen Genotypes Affect Hepatitis B Virus Mutations Associated With Hepatocellular Carcinoma.
Sugiyama M, Nishida N, Khor SS, Shin-I T, Hino K, Honda M, Kaneko S, Yatsushashi H, Koike K, Kurosaki M, Izumi N, Tanaka Y, Murata K, Kang JH, Tanaka E, Taketomi A, Eguchi Y, Suda G, Sakamoto N, Yamamoto K, Tamori A, Hige S, Itoh Y, Mochida S, Mita E, Ide T, Hiasa Y, Watanabe M, Yamamoto K, Sakai A, Wakita T, Mizokami M, Tokunaga K.
Hepatol Res. 2025 ; 55(11) : 1445-1453. doi : 10. 1111/hepr. 70007. Epub 2025 Jul 29.
- 15) Response to : Correspondence on ' Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis : a prospective cohort study ' by Mori et al.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; 43(1) : 69-70. doi : 10. 1136/emered-2025-215572.
- 16) The predictive factors of hyponatremia in patients with chronic liver disease.
Ando S, Komori A, Yatsushashi H, Abiru S, and Yotsumoto Y.
Journal of Nutritional Science. 2025 ; e15 : e3, 1-12. doi : 10. 1017/jns. 2025. 10062.

B : 和文

B-b : 和文総説

- 1) PBC-AIH overlap診療ステートメント2024 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班.
釘山有希、川田一仁、浪崎正、梅村武司、小森敦正、有永照子、高木章乃夫、高橋敦史、大平弘正、原田憲一、田中篤.
厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班PBC-AIH overlap診療ステートメント作成委員会.
肝臓 2025 ; 66(1) : 1-6.
- 2) 医療安全 傾向と対策 当院におけるVTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、尾崎真人、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
医療 2025 ; 79(2) : 99-103.
- 3) 【肝硬変・病態と診断の最新知見】疫学・予後 肝硬変症の予後.
八橋弘.
臨床消化器内科 2025 ; 40(7) : 737-743.
- 4) 【B型肝炎の臨床検査】B型肝炎の検査の歴史と概要.
八橋弘、藤野達也.
臨床検査 2025 ; 69(9) : 934-939.
- 5) 【肝疾患治療の最新動向-新薬の情報とともに】原発性胆汁性胆管炎・原発性硬化性胆管炎—薬物療法の現在と未来.
小森敦正, .
臨床消化器内科 2025 ; 40(12) : 1449-1455.

B-c2：和文著書 [分担]

- 1) 【8. 肝・胆・膵疾患 最近の動向】 原発性胆汁性胆管炎.
小森敦正.
今日の治療指針 2025年版 [デスク判] エビデンスに基づく最新治療, 総編集.
福井次矢、高木誠、小室一成、医学書院, 2025 ; pp548-549.
- 2) 【II. 疾患編／3 消化器疾患】 原発性胆汁性胆管炎.
小森敦正.
今日の診断指針 デスク判 第9版 2025 ; pp705-708.
- 3) 【IV. 肝・胆・膵疾患／A. 肝】 11. 代謝性肝疾患.
小森敦正.
消化器疾患最新の治療2025-2026 2025 ; pp275-276.
- 4) 【Session 3 ; 肝硬変】 C型肝硬変に対するDAA治療—生命予後と死因に関する検討.
八橋弘、山崎一美.
第34回犬山シンポジウム～ウイルス性肝炎・脂肪性肝炎・肝硬変・肝癌, 犬山シンポジウム記録刊行会編,
株式会社アーツユニット. 2025 ; pp63-64.
- 5) 【B. 血液検査】 3. A型肝炎, E型肝炎関連検査.
山崎一美.
これ1冊でカンペキ！肝臓まるかじり～必須知識から最新概念MASLDまで完全ガイド. 診断と治療社. 2025 ;
pp16-19.
- 6) 【B. 血液検査】 5. C型肝炎関連検査.
八橋弘、藤野達也.
これ1冊でカンペキ！肝臓まるかじり～必須知識から最新概念MASLDまで完全ガイド. 診断と治療社. 2025 ;
pp26-30.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<Symposium>

- 1) A study of the dynamics of iTACT HBcrAg and HBsAgGi levels in patients with chronic hepatitis B who achieved HBsAg disappearance.
Yatsuhashi H, Yamasaki K, Nagaoka S.
Symposium1 ; Hepatitis B : Controversy in Diagnosis and Treatment, 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.5.

A-b2：一般演題

<poster>

- 1) Bioinformatic analysis of the spatial transcriptomes of inflamed portal tracts in human primary biliary cholangitis.
Komori A, Kugiyama Y, Kojima T, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Miura S.
Poster ; Immune-mediated and cholestatic : Experimental and pathophysiology, EASL Congress 2025.
Amsterdam, Netherlands, 2025.05.09.
- 2) Clinical Statement for the Diagnosis and Management of PBC-AIH Overlap 2024 : Japanese Experience.
Komori A.
Poster Oral Presentation ; 1. Autoimmune Disease, The Liver Week 2025. Gyeongju, Korea, 2025.5.30.
- 3) Characterization of the function and phenotype of nk cells in patients with chronic hepatitis b who achieved functional cure.

Nakaya Y, Suda G, Yamasaki K, Miura K, Yamada N, Enomoto H, Inoue J, Honda T, Osawa Y, Joshita S, Onomura D, Hoshi Y, Li C, Maiorova E, Mo H, Murata K.

AASLD 2025 (American Association for the Study of Liver Diseases). Washington, D.C., USA, 2025.11.07-11.

4) The study examining the impact of SVR on the prognosis of patients with HCV cirrhosis.

Yatsuhashi H, Yamana H, Imai S, Naganuma A, Sugimoto R, Kojima M, Yamashita M, Iwamoto S, Ario K, Shimada M, Kouno H, Satoh T, Furuta K, Sakamori R, Yamasaki K.

Poster session 3, APDW (Asian Pacific Digestive Week) 2025 in Singapore. Singapore, 2025.11.22.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<シンポジウム>

1) 最良の肝穿刺画像支援を目指す造影エコー：Low-MI THI (Contrast-Enhanced LowMechanical Index Tissue Harmonic Imaging) の応用.

本吉康英、釘山有希、小森敦正.

シンポジウム 1；消化器画像診断の極意. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.

2) C 型肝炎に対する抗ウイルス治療が生命予後に与えた影響に関する検討.

八橋弘、山崎一美.

シンポジウム 5；実臨床における肝硬変診療ガイドラインの妥当性検証. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.5.

3) PBC-AIH overlap 診療ステートメント 2024：自己免疫性肝疾患の診療における役割と特徴.

釘山有希、有永照子.

シンポジウム 6；自己免疫性肝疾患：診療の現状と展望. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

<ワークショップ>

1) 進行肝細胞癌に対する IO-IO シーケンスの課題・当院 ICI 症例47例の検討.

本吉康英, 長岡進矢, 小森敦正.

ワークショップ 1；肝癌診療のupdate～集学的治療～. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.

B-b2：一般演題

<ポスター>

1) 急性膵炎、膵島十二指腸切除後に生じた門脈体循環シャントによって繰り返す意識障害を呈した一例.

藤原もも、佳森英毅、釘山有希.

日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会. 第12回学術集会・講演会. 長崎, 2025.3.15.

2) ラクチトールはBifidobacteriumだけでなくMegasphaeraの増殖を介して肝細胞癌の予後を改善させるかもしれない【優秀演題賞】.

阿比留正剛、小森敦正、八橋弘.

デジタルポスターセッション消048 (消化器病学会)；肝臓 (原発性肝腫瘍) 1. 第67回日本消化器病学会大会. 神戸, 2025.10.31.

3) 治験患者における在庫管理に関する取り組み～調剤室の視点から～.

大津貴寛、大久保房庫、川崎美幸、久保三紀子、木村梨沙、富田英里、瓦田秀美、小森敦正.

ポスター 88；薬剤 1 薬剤師業務. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

<ワークショップ>

1) C型慢性肝疾患におけるSVR後肝発癌リスク因子と可溶性PD-L1.

山崎一美、溝上雅史、八橋弘.

ワークショップ 8 ; 肝疾患のバイオマーカー：現状と新時代への挑戦. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

<口演>

- 1) 肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療 (SBRT) 初回照射と再照射の比較: ALBI gradeを用いた生存解析.
中村太祐、本吉康英、長岡進矢、小森敦正、東家亮.
一般口演 3 ; 放射線治療. 第61回日本肝臓学会. 神戸, 2025.7.10.
- 2) ヒト原発性胆汁性胆管炎における門脈域炎症および胆管細胞の空間トランスクリプトーム解析.
小森敦正、児嶋知仁、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、三浦史郎.
一般口演 5 ; 肝疾患. 第32回肝細胞研究会. 北海道, 2025.7.26.
- 3) 膵癌に合併した腫瘍随伴性 RS3PE 症候群の一例.
門松英、和泉泰衛、大野渚、末廣智之、岡田覚丈、岩永希.
一般演題 5 ; 腫瘍関連. 第70回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 福岡, 2025.9.13.
- 4) 同種同効薬処方に伴う院内での取り組みについて～在庫確保における薬剤部との連携～.
大久保房庫、富田英里、木村梨沙、瓦田秀美、久保三紀子、大津貴寛、川崎美幸、野田晃洋、小園晃生、小森敦正.
一般演題PⅢ- 3 ; 第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025 in 大宮さいたま, 2025.9.15.
- 5) 膵管ステント留置併用EPBDとESBDにおけるERCP後膵炎発生率の比較.
児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢.
口演 1 ; ERCP. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.2.
- 6) アバコパン投与中に胆管消失症候群によると考えられる急性肝不全を来した血液透析患者の 1 例.
野口美波、岡哲、田川孝樹、中村麻衣子、児嶋知仁、添田李子、伊東正博、西野友哉.
一般演題 (口演): 血管炎 1 (アバコパン、肝障害). 第55回日本腎臓学会西部学術大会. 奈良, 2025.10.12.
- 7) アバコパンによる薬剤性肝障害の 1 例.
中村祥暢、児嶋知仁、上原里衣、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表; 肝臓. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 8) 早期ドレナージと集学的治療で救命し得たClostridium perfringens混合感染による急性閉塞性化膿性胆管炎の 1 例.
前田龍弥、上原里依、児嶋知仁、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表; 胆膵 1. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 9) 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の胆道穿破による閉塞性黄疸に対しFC-SEMSとPSによる胆道ドレナージを施行した一例.
平良瞭典、児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、小森敦正.
研修医発表; 胆膵 1. 第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 10) 異なる臨床経過を示した妊娠合併膵炎の2例.
大村直也、児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、小森敦正、長岡進矢、山崎一美、八橋弘.
研修医発表; 胆膵 1. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.

B-c: 研究会発表

<口演>

- 1) 最良の肝穿刺画像支援を目指して: Low-MI THI+Fusion imaging.
本吉康英.
一般演題 1. 第38回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会. 東京, 2025.4.26.

2) PBC-AIH overlap.

釘山有希.

【Session5】PBC. 厚生労働省難治性疾患政策研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班. 第1回金沢ワークショップ. 金沢, 2025.8.3.

C, F, G : 学術講演他

C-b : 学術講演 [国内]

<講演>

1) 膵臓がん～特徴、検査から内科治療まで～.

佐伯哲.

がんフォーラム「膵臓がんを正しく知る」. 第10回長崎医療センター市民公開講座. 大村, 2025.2.15.

2) C型肝炎およびSVR症例における発癌予測.

末廣智之.

講演②. 第16回DAA研究会. 山形, 2025.5.31.

3) 脂肪肝ならびにHCV関連肝癌におけるCK-18F測定の意義.

末廣智之.

ランチョンセミナー 25 ; 非侵襲的検査 (NIT) を使ったMASLD診療の工夫. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

4) 穿刺手技のための最良の画像支援 Fusion imaging with Low MITHI.

本吉康英.

スイーツセミナー 2 ; 日本超音波医学会. 第35回九州地方会学術集会. 佐賀, 2025.10.5.

5) 肝細胞癌に対する免疫療法時代の集学的治療.

釘山有希.

中外eセミナー on Hepatocellular Carcinoma. Web, 2025.10.6.

6) For the Patient : 多種連携で挑む肝炎拾い上げ.

末廣智之.

セッション1, West Japan HCV Elimination Web Seminar 2025. Web, 2025.10.9.

7) 糖鎖マーカー研究の最前線～肝がんとの関係はどうなっているか?～.

山崎一美.

ブレックファーストセミナー 26 (肝臓学会). 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.11.1.

8) 脂肪と生きる : 生活習慣、肥満から脂肪肝まで.

小森敦正.

令和7年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2025.11.21.

9) 自己免疫性肝疾患と最新治療について.

小森敦正.

神戸市・神戸市難病団体連絡協議会主催 医療講演会・医療相談会. 神戸, 2025.12.7.

10) 知っておくべきirAE : サイトカイン放出症候群 (CRS) について.

本吉康英.

中外eセミナー on Hepatocellular Carcinoma. Web, 2025.12.17.

<教育講演>

1) 自己免疫性肝疾患 up to date.

小森敦正.

教育講演会 4. 2025年度日本肝臓学会前期教育講演会. Web, 2025.6.7.

- 2) 当院におけるirAEマネジメント・CRSについて.
本吉康英.
irAEマネジメント連携セミナー in 長崎. 大村, 2025.9.12.

F-a: 学会・研究会座長 [国際学会]

<Moderator>

- 1) Bioinformatic analysis of the spatial transcriptomes of inflamed portal tracts in human primary biliary cholangitis.
Komori A.
1. Advance in autoimmune liver disease. 第111回日本消化器病学会総会/The 14th International Forum of The Japanese Society of Gastroenterology. 東京, 2025.4.25.

<Chair>

- 1) Komori A.
Panel Discussion 3 ; PBC. 4 th JSH International Liver Conference 2025. Tokyo, 2025.9.25.

F-b: 学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

- 1) 釘山有希.
研修医発表; 肝 1. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 2) 小森敦正.
一般口演2; 肝がん. 第32回肝細胞研究会. 北海道, 2025.7.25.
- 3) 小森敦正.
【Session1】基礎(1), 厚生労働省難治性疾患政策研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班.
第1回金沢ワークショップ. 金沢, 2025.8.2.
- 4) 小森敦正.
一般演題; KULDSにおけるレジストリー研究の現状と課題, 肝臓病治療研究会. 福岡, 2025.9.19.
- 5) 本吉康英.
消化器(肝臓1), 日本超音波医学会. 第35回九州地方会学術集会. 佐賀, 2025.10.5.
- 6) 本吉康英.
基調講演; 当院における薬物シーケンス成績からの考察. 第3回Liver cancer optimal use Meeting in 長崎.
長崎, 2025.10.24.
- 7) 小森敦正.
デジタルポスターセッション肝030(肝臓学会); 肝硬変2. 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.10.31.
- 8) 八橋弘.
ブレックファーストセミナー 15(肝臓学会); HCV Duo*: HCV抗体・抗原同時測定がもたらす診療フローの最適化と早期治療アクセスの向上. 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.10.31.
- 9) 小森敦正.
一般演題9; 自己免疫性肝疾患. 第46回日本肝臓学会西部会. 下関, 2025.12.4.

<司会>

- 1) 八橋弘.
講演④. 第16回DAA研究会. 山形, 2025.5.31.
- 2) Yatsuhashi H.
ランチョンセミナー9; これからの肝硬変診療~ CARTの新たなメリットを含めて~. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.5.

<ディスカサント>

1) 小森敦正.

シンポジウム9；若手医師フォーラム. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

G：その他

<長崎県責任者>

1) 小森敦正.

令和7年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2025.11.21.

診療科の特色

循環器内科の特徴

- 1) 冠動脈疾患の治療成績向上と長期予後の改善
- 2) 心房細動を含む不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療
- 3) 心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療
- 4) 学会活動
- 5) 研修医指導

現在循環器内科はスタッフ5名とレジデント1名からなり、そのうちスタッフの4名は日本循環器学会の循環器専門医でかつ当院は日本循環器学会認定循環器専門医研修施設です。2025年のPCI症例数は190例と昨年の214例と比較し若干減少しましたが、下肢血管形成術（EVT）は41例でほぼ前年とかわりません。これは糖尿病を合併した透析患者さんの重症下肢虚血患者さんが相変わらず多くいます。また高齢化に伴い心房細動に対するアブレーション治療も微増しています。虚血や不整脈の再発予防に向けて今後も他科やかかりつけ医の先生方とも連携し、さらに地域医療に貢献して行きたいと思います。

不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療

2025年2月からは、当院でも心房細動例に対して電界を利用したパルスフィールドアブレーション（PFA）を導入しました。従来のアブレーション法では、温熱（加熱または冷却）を利用した手技であったことから、心臓周囲の臓器（食道、肺など）や神経（横隔神経、胃食道神経など）へ影響するリスクがありました。しかし、PFAではそれらのリスクをほとんど無視できるレベルとなっており、手技に伴う安全性が向上しました。さらに、PFAは、その有効性は従来のアブレーション法と同等でありながら、手技時間の短縮が可能です。このため、患者さん及び術者を含めたスタッフの負担軽減に繋がっています。

引き続き、医療の安全な提供を行えるよう万全の注意を払い不整脈治療および検査を行うとともに、仕事の効率化を図っていきます。

PCI治療成績の向上、長期予後の改善

当院には日本心臓血管インターベンション治療学会専門医が3人在籍し、患者さんの治療、若手医師の教育や指導を行っています。また2025年度の長崎PCIライブデモンストレーションを2026年2月21日に行う予定です。県内外から多くの先生方にご参加いただき、4症例の複雑病変のPCIをディスカッションしながら、質の高いPCI治療を目指して頑張りたいと思います。

心臓リハビリテーション・和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療

高齢化に伴い日本全体で心不全患者が増加し、重症心不全患者さんには内服強化療法と心臓リハビリテーションを行っています。それでも心不全がコントロール出来なければ両室同期ペーシング治療や和温療法を行っています。積極的に和温療法を行っているのは県内でも当院のみです。和温療法は重症心不全患者さんや内科的治療やカテーテル治療でも治りにくい重症下肢虚血患者に効果を認めることもあり、看護師や理学療法士を中心に心不全リハビリを頑張っています。

学会活動

2025年も毎年下記のように学会や研究会で数多くの発表を行いました。今後も学会活動は積極的に続けていきます。

研修医指導

毎月1名から2名の研修医がローテーションで循環器内科を廻っています。研修医には可能な限り地方会等での学会発表を行うように指導し、一方毎週一回金曜日の午後に研修医回診を行っています。

■ ■ 入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
7,079人	19.4人	670人	778人	13人	9.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
422件	86.3%	825件	152.8%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
400人(52.1%)	159人(20.7%)	20人(2.6%)	19人(2.5%)	3人(0.4%)	68人(8.9%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
15人(2.0%)	32人(4.2%)	13人(1.7%)			8人(1.0%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
6人(0.8%)			6人(0.8%)		1人(0.1%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
10人(1.3%)		2人(0.3%)	6人(0.8%)	768人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1) 心不全	I50.9, I11.0	98	11
2) 急性心筋梗塞	I21.0-9	61	0
3) 陳旧性心筋梗塞	I25.2	152	0
4) 狭心症	I20.0-9, I25.6	151	0
5) 拡張型心筋症	I42.0	2	0
6) 肥大型心筋症	I42.1-2	7	0
7) 弁膜症	I05.0-9, I06.0-9, I35.0-9, I34.0	16	0
8) 頻脈性不整脈	I45.6, I47.0-9, I48, I49.0-91	134	0
9) 洞不全症候群	I49.5	12	0
10) 完全房室ブロック	I44.2	15	0

主要検査件数

検査	症例数
1) 心臓カテーテル検査	435
2) 臨床電気生理学的検査	5
3) 心エコー（病棟）	約300
4) 経食道心エコー	115
5) CPX検査	1

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	死亡退院数
1) 経皮的冠動脈形成術		190	0
2) 経皮的僧帽弁裂開術		0	0
3) 経皮的血管形成術		41	0
4) ペースメーカ植え込み術	(交換術)	32(7)	0
5) カテーテルアブレーション	(心房細動)	94(69)	0
6) 植え込み型除細動器	(交換術)	5(2)	0
7) 心臓再同期療法	(交換術)	5(3)	0
8) 植え込み型心電計		2	0
9) 下大静脈フィルター		2	0

*ペースメーカ植え込み症例の内、リードレスペースメーカは12症例です。

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
読影カンファレンス	4 / 週
心カテカンファレンス	4 / 週
心外科合同カンファレンス	1 / 週
循環器内科研修医回診	1 / 週
循環器セミナー	1 / 週
循環器内科抄読会	1 / 週

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0 (2)	1	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	7	9	3

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	五島薬剤師会			
件数	1			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	12

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Routine intracoronary imaging-guided left main coronary intervention.
Murasato Y, Nakashima H, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Fujimoto K, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Takami A, Ono Y, Fukae A, Yoshida H.
Sci Rep. 2025 ; 15 (1) : 9504. doi : 10.1038/s41598-025-93763-2.
- 2) Change in incidence of patients with peripartum cardiomyopathy.
Kohno Y, Kawano H, Akashi R, Eguchi M, Matsuo T, Oku K, Suga S, Hyakutake S, Hata S, Muroya T, Hasegawa Y, Miura K, Ikeda S, Maemura K.
Hypertens Res. 2025 ; doi : 10.1038/s41440-025-02463-x. Online ahead of print.

B：和文

B-a2：和文症例報告

- 1) 超音波検査が診断・経過観察に有用であった複雑な形態を呈する頸部仮性動脈瘤の1例.
手嶋翔一朗、西浦哲哉、梅橋功征、石松 卓、於久幸治、安藤諭吉.
超音波検査技術. 2025 ; 50 (4) : 384-390.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) SFAのCTOに対する治療に難渋し、側副血行路を利用して治療に成功した一例.
福田侑甫、小出俊朗、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治.
Young Investigator's Award (VIA). 第38回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 熊本, 2025.1.11.
- 2) PCI不成功に終わった一枚岩のCTO病変.
小出俊朗.
CTO Video Live 1. 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2025. 神戸, 2025.3.15.
- 3) 繰り返す心嚢液貯留の原因精査で発見された心臓腫瘍の一症例.
村橋舞、小出俊朗、福田侑甫、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治、嶋田隆志、有吉毅子男、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎.
研修医セッション3. 第138回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.6.28.
- 4) 心電図で通常型AFL再発と疑われたが Activation map で巣状に興奮するATと診断された一例.
松尾崇史、石松卓、小出俊朗、福田侑甫、森彩、深江貴芸、於久幸治.
一般演題4；不整脈. 第138回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.6.28.
- 5) 当院におけるIVL治療の検討・報告.
深江貴芸、小出俊朗、森彩、福田侑甫、松尾崇史、石松卓、於久幸治.
一般口演35；Rotablator/OAS/DCA/IVL 2. 第33回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会. 大阪, 2025.7.18.
- 6) SFAのCTOに対する治療に難渋し、側副血行路を利用して治療に成功した一例.
福田侑甫、小出俊朗、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治.
YIA2025 地方会優秀演題；地方会優秀演題4（症例検討部門2）. 第33回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会. 大阪, 2025.7.18.

- 7) 通常型心房粗動に対する下大静脈三尖弁輪間峡部へのクライオアブレーション施行から4か月後に完全に電位が復活していた1例。
松尾崇史、石松卓、於久幸治、深江貴芸、森彩、福田侑甫、小出俊朗。
循環器5. 第350回日本内科学会九州地方会. 大分, 2025.8.23.
- 8) 右冠動脈中間部の狭窄病変に対するPCI中に逆行性の上行大動脈解離を合併した一例。
松尾崇史、於久幸治、石松卓、深江貴芸、森彩、福田侑甫、小出俊朗。
一般演題13; 合併症2. 第39回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)九州・沖縄地方会. 鹿児島, 2025.9.6.
- 9) 還元型コエンザイム Q10 の投与により心不全症状の改善を認めた筋ジストロフィー合併重症拡張型心筋症の一例。
村橋舞、石松卓、小出俊朗、福田侑甫、森彩、松尾崇史、深江貴芸、於久幸治。
研修医セッション4. 第139回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.12.6.
- 10) Evolocumab-Induced Paradoxical Rise of LDL-C の1症例。
小出俊朗、於久幸治、森彩、福田侑甫、松尾崇史、深江貴芸、石松卓。
Case Report Award 1. 第139回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.12.6.
- 11) 心膜穿刺の際に右室にPigtailが迷入した1例。
福田侑甫。
一般演題⑩; 心膜・心筋疾患/腫瘍. 第139回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.12.6.

<ポスター>

- 1) Efficacy and Safety of DAPT with Low-Dose Clopidogrel in Elderly Patients 70 years and Older Undergoing Coronary Stenting.
松尾崇史、小出俊朗、森彩、福田侑甫、深江貴芸、石松卓、於久幸治。
ポスターセッション23; PCI 2. 第89回日本循環器学会学術集会 (JCS2025). 横浜, 2025.3.28.
- 2) 左脚前枝領域ベラパミル感受性心室頻拍に対してP1電位を指標にアブレーションを実施した1例。
福田侑甫。
Poster Session. カテーテルアブレーション関連大会2025. 沖縄, 2025.5.30.
- 3) IVUS Depth調整で血管性状を把握し得た1症例。
川満守。
メディカルスタッフポスターセッション; イメージング (OCT/OFDI, IVUS, 血管内視鏡). 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT2025 学術集会. 大阪, 2025.7.18.
- 4) 心不全治療患者における診療ガイドラインに基づく標準治療 (GDMT) の実施状況に関する調査。
田中麻佑花、森山美優、副島啓司、平池美香子、橋本未雷、小山田純治、深江貴芸。
一般演題 (ポスター) 04; 病棟薬剤業務1. 第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.22.
- 5) 心不全患者における診療ガイドラインに基づく標準治療 (GDMT) とポリファーマシーに関する現状調査。
森山美優、田中麻佑花、副島啓司、橋本未雷、小山田純治、深江貴芸。
一般演題 (ポスター) 51; 使用状況調査・意識調査2. 第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.23.

C, F, G: 学術講演他

C-b: 学術講演 [国内]

<講演>

- 1) ACS患者の2次予防はどうされていますか?。
於久幸治。
佐世保分科会. LEQVIO Web Symposium in 佐世保. 佐世保 (Web), 2025.5.20.

- 2) 出血リスクを考慮した抗血栓療法の必要性～CAD合併AFに対するエビデンスからひも解く～.
深江貴芸.
講演 I. 【Web セミナー】抗凝固療法最前線～心房細動・血栓症・肺高血圧の治療戦略～. Web, 2025.9.3.
- 3) ASCVD合併糖尿病患者へのGLP-1RAsの期待.
於久幸治.
講演 2. 循環器疾患予防を見据えた糖尿病治療WEBセミナー. Web, 2025.9.30.

<座長>

- 1) 於久幸治.
長崎県におけるアミロイドーシス診療について. 長崎 ATTR-CM アミロイドーシスセミナー. 長崎, 2025.12.17.

F-b: 学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

- 1) 於久幸治.
長崎の肺高血圧症診療. 肺高血圧カンファランス. 長崎 (Web), 2025.1.22.
- 2) 於久幸治.
Focus Live ; Live1. 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2025. 神戸, 2025.3.14.
- 3) 於久幸治.
備えあれば憂いなし! 合併症の予防と対処. 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2025. 神戸, 2025.3.14.
- 4) 於久幸治.
第二部長崎分科会; 脂質管理とPCSK9製剤の効果. 第3回レクビオ Web Symposium in 九州. ～レクビオの臨床経験から適した患者像を考える～. Web, 2025.4.15.
- 5) 於久幸治.
講演 1 ; “全身を診る”ための尿酸マネジメントー腎臓内科×開業医の視点からー, 講演 2 ; 高尿酸血症から見直す生活習慣病診療～CKD・メタボリックシンドローム・痛風での治療の実際～. 尿酸カンファレンス in 大村. 大村, 2025.7.3.
- 6) 於久幸治.
講演②; 心血管イベントの抑制を目指した糖尿病治療～チルゼパチドに期待すること～. 包括的に考える糖尿病疾患. 大村 (Web), 2025.7.16.
- 7) 於久幸治.
初期研修医ポスターセッション; 初期研修医Case 2. 第33回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT2025 学術集会. 大阪, 2025.7.19.
- 8) 於久幸治.
特別講演; 急性期から慢性期の静脈血栓塞栓症トータルケア～KABUKI Trialとガイドライン改訂を踏まえて～. 【Web セミナー】抗凝固療法最前線～心房細動・血栓症・肺高血圧の治療戦略～. Web, 2025.9.3.
- 9) 於久幸治.
ディスカッション; 循環器疾患での心腎連関. 循環器疾患 Joint Conference. 大村 (Web), 2025.10.8.
- 10) 於久幸治.
特別講演; 心腎予後を見据えた新たなカリウム管理戦略～至適なGDMTの実践を目指して～. 心不全/CKD病態管理セミナー. 大村 (Web), 2025.10.29.
- 11) 於久幸治.
講演①; レクビオ使用 高コレステロール血症での待機的PCIの一例, 講演②; 冠動脈疾患患者における脂質低下療法の重要性～当院の入院中多職種連携も踏まえて～. LEQVIO Web Symposium in 長崎. 大村 (Web), 2025.11.14.

<司会>

- 1) 於久幸治.
ディスカッション；各職種から考える心臓病患者の地域連携について. 第2回長崎の循環器診療の展望を考える～地域で連携して心臓病患者を診る～. 長崎 (Web), 2025.12.4.

G：その他

<コメンテーター>

- 1) 深江貴芸.
一般演題11；分岐部と慢性閉塞病変. 第38回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 熊本, 2025.1.11.
- 2) 於久幸治.
Focus Live；Live 2. 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2025. 神戸, 2025.3.15.
- 3) 深江貴芸.
一般演題8；その他. 第138回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.6.28.
- 4) 於久幸治.
特別企画；PCI-legendからのメッセージ. 第33回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会. 大阪, 2025.7.18.
- 5) 深江貴芸.
一般演題3；石灰化病変1. 第39回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 九州・沖縄地方会. 鹿児島, 2025.9.5.

<ディスカサント>

- 1) 深江貴芸.
ディスカッション；厳格な脂質管理が必要なハイリスク症例とは. 第3回レクビオ Web Symposium in 九州. ～レクビオの臨床経験から適した患者像を考える～. Web, 2025.4.15.

<パネリスト>

- 1) 福田侑甫.
ディスカッション；循環器疾患での心腎連関. 循環器疾患 Joint Conference. 大村 (Web), 2025.10.8.
- 2) 福田侑甫.
パネルディスカッション；理想的なカリウム慢性管理を行うために. 心不全/CKD病態管理セミナー. 大村 (Web), 2025.10.29.



責任者 近藤 晃

診療科の特色

当院は、旧大村海軍病院長 泰山弘道 著「長崎原爆の記録」に記されているように、戦後まもなくペニシリン治療を導入したことで、日本国内における感染症治療の先駆けとなった病院です。平成26年4月1日付で、感染症内科は院内の診療科の一つとして標榜されました。感染症内科はICDの内科医師で構成され、ICT/ASTチームとして薬剤師、臨床検査技師、看護師も参加し、毎週、コンサルテーション症例、許可制抗菌薬や届出制の抗菌薬長期投与症例、血液培養陽性症例のカンファレンスを行っています。また、各診療科で診断・治療に難渋する感染症症例のコンサルテーションを受けています。依頼された症例を主治医と協同して併診し、エビデンスに基づいた診療を行うよう心がけています。新型コロナウイルス感染症に関しては、主にクラスター対応や隔離対応・治療方針に関するコンサルテーションを中心に対応を行っております。また、MDRAを始めとする薬剤耐性菌などの院内感染対策に主導的に取り組んでいます。今年はNICUのESBL、MRSAの院内アウトブレイクに対しての介入を行いました。NICU病棟の病床レイアウトの変更を始めとして動線の確保や、不要物品を整理、ユニット内の作業環境の改善に取り組みました。また、感染対策教育を継続的に取り組めるように、当該診療科当該病棟と緊密に協議を行いながら対策に努めました。その他、地域の医療機関や施設などへの訪問や相互評価を行い、保健所等との行政機関との連携を図りながら、感染症の知識共有や啓蒙啓発活動も担っています。

今後一層の当感染症診療の強化、院内感染対策、抗菌薬適正使用の推進、さらに研修医・レジデント・コメディカルへの教育も積極的に行うよう努力していき、感染症専門医の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

【活動】

1. 入院患者を対象とした感染症診療のコンサルテーション
依頼に応じてラウンドし、週1回カンファレンスで治療方針の検討を行っている。
2. ICT活動として、血液培養陽性症例に対して、適切な治療計画がなされているかカンファレンスで検討。
3. AST活動として、抗菌薬の適正使用への向けての評価・助言・介入の活動。
4. 近隣の医療機関などとの感染対策向上への医療連携。
5. 治験、研究への取り組み 呼吸器内科と共同し、感染症治療薬の治験や臨床研究への取り組み。
6. 各種院内アウトブレイクへの介入。

研修・教育

カンファレンス

名 称	年	開催頻度
感染症内科カンファレンス	44回	1回/週

AST活動

項 目	数
コンサルテーション	27例
血培陽性者	599例

〈届出・許可抗菌薬長期使用者 検討数〉

届出薬	169件
許可薬	
抗MRSA薬	13件
カルバペネム系抗菌薬	75件
その他広域抗菌薬	
TAZ/PIPC	363件
CFPM	101件

〈指定抗菌薬使用届 提出件数〉

- ・抗MRSA薬使用届：263件
- ・抗MRSA薬使用届（許可制薬剤）：18件
- ・カルバペネム系抗菌薬使用届：127件

〈血培陽性者検討数〉 599件

診療科	件数	診療科	件数
総合診療科	181	精神科	0
肝臓内科	70	呼吸器内科	20
外科	71	消化管内科	21
血液内科	39	代謝内科	3
循環器内科	10	整形外科	9
心臓血管外科	3	形成外科	16
呼吸器外科	1	産婦人科	12
耳鼻咽喉科	12	脳神経外科	22
腎臓内科	15	神経内科	20
泌尿器科	33	リウマチ科	5
皮膚科	1	救急科	4
乳腺外科	0	内科当直	4
小児科	25		



National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

小児科

責任者 本村 秀樹・青木 幹弘

診療科の特色

長崎県県央地区の中核病院ならびに離島医療における親元病院として位置づけられています。胎児期から思春期までの子どもたちに対応しています。受け入れ範囲はヘリコプター搬送により島原半島を含めた県央、県北・佐賀県西部、五島、対馬、壱岐などの離島など広範囲にわたっています。少子化と医療技術の進歩による感染症入院の減少に対して、効率的なベッド運用を検討しています。

—NICU—

長崎県総合周産期センターの指定をうけており、超低体重出生児の対応を含めた高度な周産期医療を行っています。NICU 9床で対応しています。NICUの入院数は2022年161人、2023年135人でした。2024年108人でした。2025年は110人でした。2024年に「baby friendly NICU」の認定を受けています。

—一般小児科—

24時間・365日体制で一次から三次医療まで対応しています。この3年間の一般小児科入院年間入院数は2023年1220人、2024年1174人、2025年1196人でした。また、時間外受診者および時間内外の救急車による来院者数は2025年2840人（入院544人）でした。診療分野は、血液・腫瘍疾患以外の疾患にほぼ対応しています。

—専門診療—

てんかん診療に関しては2014年からてんかんセンターとして機能しており、長崎県てんかんセンターに指定されました。ビデオモニタリングシステム、SPECTなど術前評価を行い、手術を行っています。2025年の小児のてんかん外科手術は12人に行いました。小児循環器領域では小児心臓カテーテル検査にも対応しています。また、胎児期から心疾患が疑われる場合は産婦人科の先生と一緒に出生後の経過を予測し、分娩施設の選択を行っています。アレルギー外来を開設し、食物アレルギーの負荷試験にも対応できるようになりました。小児内分泌外来からのホルモン負荷試験も行っています。

—専門医育成—

日本専門医機構から小児科専攻医研修基幹施設ならびに小児科専攻医研修支援施設に認定されています。また、日本周産期・新生児医学会研修基幹施設、日本小児循環器学会研修施設、日本小児神経学会研修基幹施設にも認定されており、若手医師の育成・指導にも力を入れています。小児科専門医育成については当院のプログラムで過去6人の小児科専門医を育成しています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
10,587人	29.0人	1,183人	1,196人	4人	8.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
531件	94.6%	1,276件	144.8%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
580人(49.1%)	153人(12.9%)	21人(1.8%)	19人(1.6%)	8人(0.7%)	49人(4.1%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
60人(5.1%)	69人(5.8%)	30人(2.5%)	9人(0.8%)	1人(0.1%)	20人(1.7%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(0.1%)	4人(0.3%)	1人(0.1%)		2人(0.2%)
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
1人(0.1%)	12人(1.0%)	45人(3.8%)	97人(8.2%)		1,182人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1) 喘息・喘息性気管支炎	J450, J451, J458, J459, J46	31	0
2) 気管支炎	J20	95	0
3) 肺炎	J15	40	1
4) RSウイルス感染症	B348, J12, J20, J21	49	0
5) 川崎病	M303	25	0
6) てんかん	G40, G40-G409	203	0
7) 心室中隔/心房中隔欠損症	Q210, Q211	9	0
8) アナフィラキシー	T780, T781	13	0
9) 超低出生体重児	P070	14	0
10) 極低体重出生児	P071a	20	0

主要検査件数

検査	症例数
1) 脳波ビデオモニタリング	223
2) 低身長精査	11
3) 心臓カテーテル検査	8

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	症例数	死亡退院数
人工換気 (NICU)	20	0
サーファクタント補充療法	24	0
PDAに関する薬物療法	13	0
インダシン	5	0
イブリーフ	8	0
低体温療法	1	0
NO吸入療法	2	0
腸重積整復	2	0

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
一般小児病棟カンファレンス	毎週月曜 16時から
NICUカンファレンス	毎週金曜 15時から
抄読会	毎週木曜 8時30分から
NICU・一般合同カンファレンス	第3木曜日 8時30分から

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1 (2)	1	5	1

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1	7	3	3

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	医師会関連	研究会		
件数		1		

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

■ ■ 研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Epileptic drop attacks : More than just atonic seizures.

Ono T, Sato K, Honda R, Otsubo H.

Epilepsia Open. 2025 ; (12)epi4.70136.

A-a2：英文症例報告

- 1) Diffuse subcortical band heterotopia : Expanding the phenotype associated with the loss of the YWHAE gene.

Mori K, Maeda K, Kimoto Y, Ikeda T, Honda R, Yoshida K, Moritake H.

Pediatr Int. 2025 ; 67(1) : e70171.

- 2) Late-onset Vitamin B6-dependent epilepsy caused by compound heterozygous pathogenic PLPBP variants.

Nakamura S, Chinen Y, Minema H, Honda R, Ono T, Mizuguchi T, Matsumoto N, Nakanishi K.

Eur J Med Genet. 2025 ; 78 : 105047.

B：和文

B-a2：和文症例報告

- 1) 気道圧迫を認めた小児の深頸部膿瘍.
熊谷知香、畑地耕次、山元みいる、春日亀千寿、石川太郎、石橋信弘、山田洸夢、池田憲呼、西口奈菜子、
石橋洋子、本田涼子、本村秀樹.
長崎医学会雑誌. 2025；100(1) 31-37.

B-c2：和文著書 [分担]

- 1) 小児てんかん診断の進歩.
本田涼子.
医学のあゆみ. 2025；295：491-494.
- 2) CQ8処置実施前の十分な安静時間を確保することは、確保しない場合と比較して、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
米澤かおり、津野崎絹代.
第3版（2025年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン. 2025；p 73-75.
- 3) CQ10非薬理的緩和法を実施することは、実施しない場合と比較して、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
清水彩、津野崎絹代.
第3版（2025年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン. 2025；p 79-91.
- 4) CQ11処置前に口腔内に甘味液（ショ糖）投与を行うことは、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
田中広輔、津野崎絹代.
第3版（2026年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン. 2025；p 92-102.
- 5) CQ15非薬理的緩和法を実施することは、実施しない場合と比較して、新生児の術後痛の緩和に貢献するか？
清水彩、津野崎絹代、藤本智久、木下真里.
第3版（2026年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン. 2025；p 126-129.

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

- 1) 術後痛に対する非薬理的緩和法.
津野崎絹代.
小児看護. 2025；48（10）1178-1181.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

- 1) A Study of the Relationship Between Low Birth Weight Infants and Childhood Respiratory Diseases: 21st Century Longitudinal Survey in Japan.
西口亮、難波文彦.
PAS 2025 PEDIATRICS ACADEMIC SOCIETIES MEETING. ハワイ, 2025.4.25.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

<教育講演>

- 1) これって発作？非発作？～日常生活で遭遇する発作性エピソードのみかた、考え方～.
本田涼子.
教育講演 5. 第67回日本小児神経学会. 米子, 2025.6.5.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等**<シンポジウム>**

- 1) いつ外科紹介を考慮すべきか? どう紹介したらよいか?

本田涼子.

第58回日本てんかん学会. 宇都宮, 2025.10.3.

<ワークショップ>

- 1) 焦点切除を考えたいくなる発作徴候.

本田涼子.

実践教育セミナー 4. 第67回日本小児神経学会. 米子, 2025.6.4.

B-b2：一般演題

- 1) 大村市の成長曲線健診を契機に診断に至った重度の甲状腺機能低下症の一例.

和泉啓、川村遥、二里茉莉.

第223回日本小児科学会長崎地方会. 長崎, 2025.4.13

- 2) 当院で経験したヘリコプター搬送を要した小児症例の検討.

山田洸夢、青木幹弘、本村秀樹、本田涼子、濱口陽、石橋洋子、武田敬子、西口奈菜子、西口亮、池田憲呼、石川太郎、石橋信弘.

第128回日本小児科学会学術集会. 名古屋, 2025.4.20.

- 3) 20年間ににおける心房間交通維持を必要とする疾患の振り返りー非手術施設からー.

山田洸夢、石橋洋子、石橋信弘、本村秀樹.

第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 津, 2025.7.10.

- 4) 病歴聴取と運動負荷心電図の重要性を再認識したカテコラミン誘発多形性心室頻拍例.

石橋信弘、石橋洋子、山田洸夢、本村秀樹.

第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 津, 2025.7.12.

- 5) MD双胎の一方に重篤な症状を認め、先天性ミオパチー関連遺伝子であるNEB遺伝子に変異を認めた1例.

黒岩かほり、高橋克仁、鳴尾聡一郎、石川太郎、西口亮、濱口陽、西口奈菜子、武田敬子、本田涼子、本村秀樹、青木幹弘.

第100回佐賀小児科地方会・第224回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 長崎, 2025.7.20.

- 6) けいれんとの鑑別に苦慮したSandifer症候群の乳児例.

片山あかり、鳴尾聡一郎、石川太郎、石橋信弘、山田洸夢、池田憲呼、西口奈菜子、桑原義典、本田涼子、本村秀樹.

第100回佐賀小児科地方会・第224回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 長崎, 2025.7.20.

- 7) 低位落下で急性硬膜下血腫(ASDH)を発症し、開頭減圧術を行った一例.

中村駿吾、石川太郎、池田憲呼、西口奈菜子、本田涼子、本村秀樹.

小児・成育医療2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

- 8) 新生児搬送中の状態悪化を契機に救急隊と連携強化を行った一例.

津野崎絹代、武田敬子、西口亮、青木幹弘.

周産期・医療システム1. 第69回日本新生児成育医学会学術集会. 神奈川, 2025.11.13.

B-c：研究会発表

＜講演＞

- 1) 小児てんかん外科のリアル～手術選択から術後の適応支援を支えるチーム医療～.
本田涼子.
第28回臨床医のためのてんかんセミナー . 札幌, 2025.6.27.
- 2) レノックス・ガストー症候群に対する薬物治療～治療のセカンドライン・サードラインをどう考えるか～.
本田涼子.
難治性てんかんWebセミナー . Web, 2025.9.2.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

＜口演＞

- 1) 1500g以上の新生児に対する末梢静脈カテーテルとミッドラインカテーテルの比較検討.
津野崎絹代.
第7回Cardinal Health NICU webiner ～PIカテーテルにまつわる様々なTopics～ . Web, 2025.12.2.

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]

- 1) 本村秀樹.
心筋炎・心筋心膜疾患. 第61回日本小児循環器学会総会・学術集会. 津, 2025.7.10.
- 2) 本田涼子.
第67回日本小児神経学会. 米子, 2025.6.6.
- 3) 本田涼子.
第2回薬剤師のための勉強会. Web, 2025.7.23.
- 4) 本田涼子.
移行期医療検討委員会 ディベートセッション. 第58回日本てんかん学会. 宇都宮, 2025.10.2.



責任者 黒木 保・南 恵樹・竹下 浩明・米田 晃・原 貴信・釘山 統太

診療科の特色

高い知識と技術の習得に努め、各診療科と連携を図り、患者に優しい診療を目指している。具体的には、1) 安全かつ確実な手術 2) 低侵襲手術の提供 3) 先端医療の提供 4) 診療成績の公表 5) 地域医療機関との密な連携 6) 臨床研修指定病院としての初期/後期臨床研修の教育、外科医師教育 7) 臨床研究の推進である。

入院診療実績

外科

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
12,044人	33.0人	780人	875人	16人	14.6日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
218件	86.3%	783件	275.7%	1 件	6.3%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
392人(46.0%)	184人(21.6%)	27人(3.2%)	26人(3.1%)	5 人(0.6%)	73人(8.6%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
25人(2.9%)	74人(8.7%)	21人(2.5%)	1 人(0.1%)		6 人(0.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		3 人(0.4%)			1 人(0.1%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
2 人(0.2%)	4 人(0.5%)	4 人(0.5%)	4 人(0.5%)	852人	

乳腺内分泌外科

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
1,857人	5.1人	275人	281人	2 人	6.7日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
206件	94.9%	300件	138.2%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
142人(50.7%)	80人(28.6%)	3人(1.1%)	2人(0.7%)	1人(0.4%)	23人(8.2%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
7人(2.5%)	9人(3.2%)	6人(2.1%)	2人(0.7%)		
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		1人(0.4%)			
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
	1人(0.4%)	2人(0.7%)	1人(0.4%)		280人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

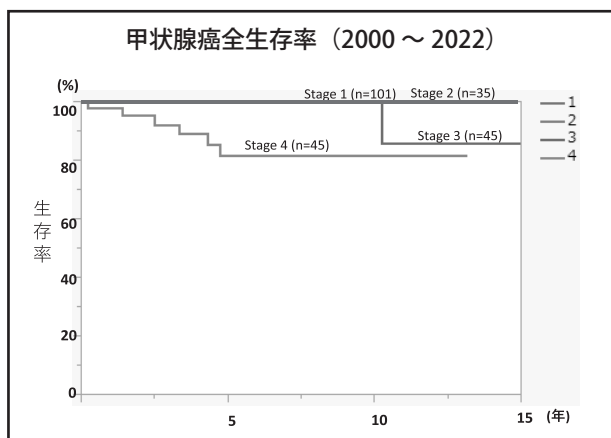
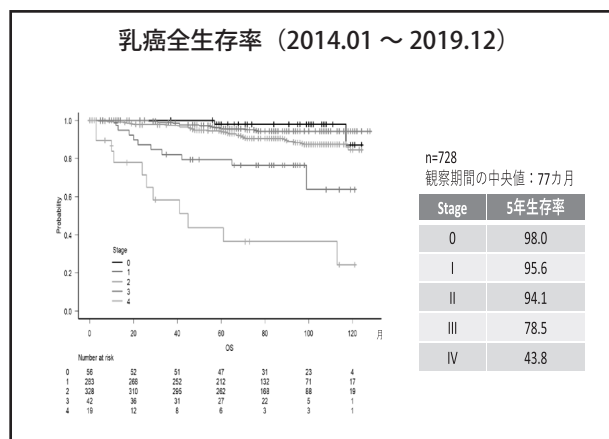
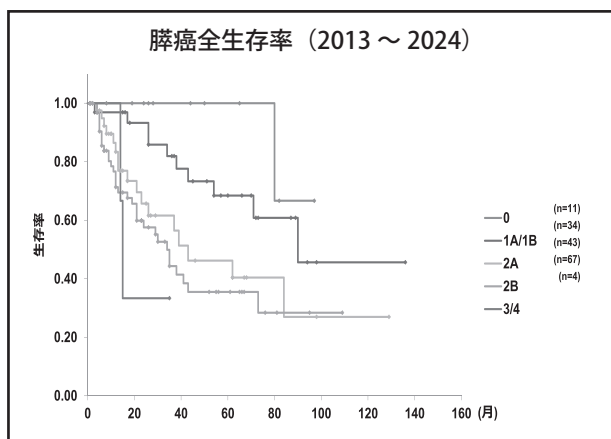
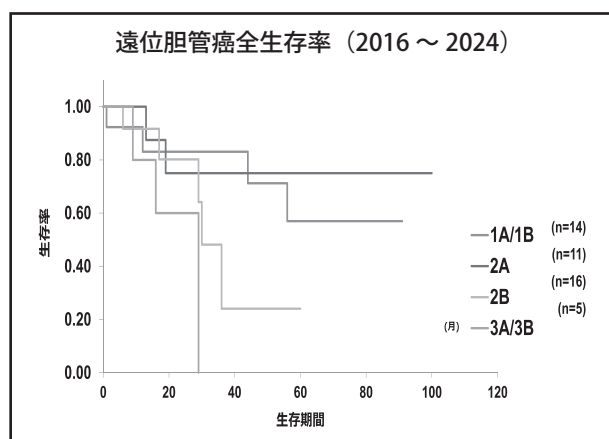
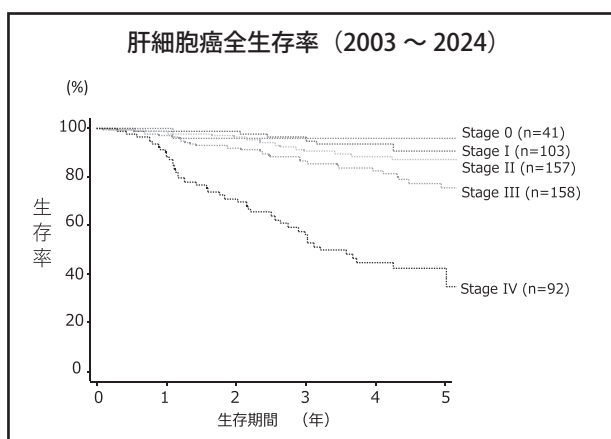
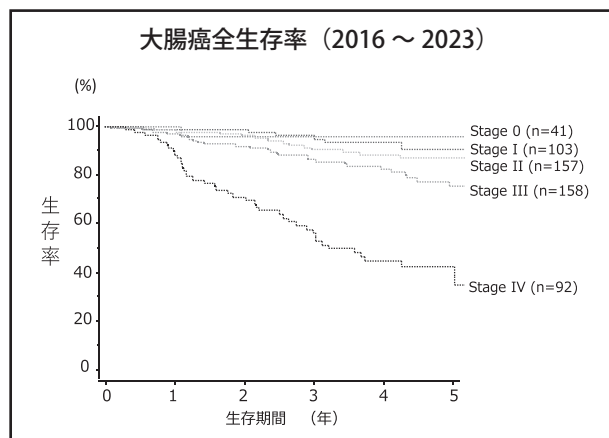
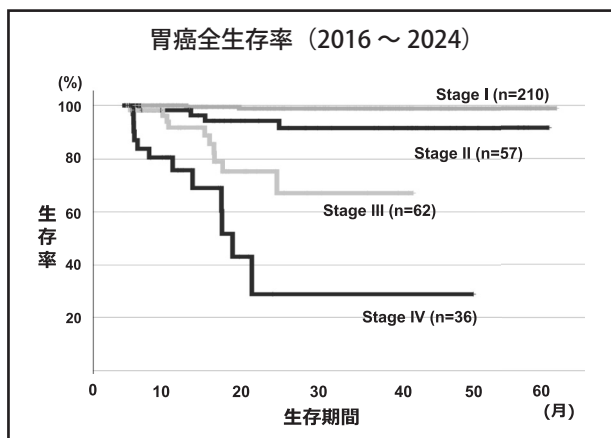
疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
食道癌	C15	39	
胃癌	C16	54	1
結腸癌	C18	76	1
直腸癌	C20	53	1
肝癌	C22	37	1
胆のう癌	C24	6	
膵癌	C25	31	
乳癌	C50	215	1
胆のう結石、胆のう炎	K80	156	
鼠経ヘルニア	K40	53	

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数
胸部食道切除再建術	K529-21	11
甲状腺・副甲状腺手術	K462、4611、4641	27
乳腺手術	K4762、4763、4765	179
腹腔鏡下胃切除術	K655-23	20
腹腔鏡下結腸切除術	K719-3、12	81
腹腔鏡下直腸切除術	K740-21、22	31
肝部分切除術	K695-21	17
肝区域切除・肝葉切除術	K695-23	10
膵頭十二指腸切除術	K7032	20
腹腔鏡下胆のう摘出術	K672-2	161

手術件数と麻酔

総手術数	緊急手術	待機手術
852	135	687



研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
術前カンファレンス	1 回/週
術後カンファレンス	1 回/週
新患カンファレンス	1 回/週
カルテ回診	1 回/週
抄読会・勉強会	不定期
M&Mカンファレンス	不定期

実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	薬物療法非抵抗性StageIV乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なし versus あり）に関するランダム化比較試験（JCOG1017）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
2	再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローアップの比較第III相試験（JCOG1204）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
3	エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1505）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
4	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験（JCOG1607）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
5	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験（JCOG1806）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
6	オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験（OLIGAMI）（JCOG2110）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
7	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌局所領域再発に対する根治的治療後アベマシクリブの有効性を評価するランダム化比較試験（JCOG2313）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
8	閉経前ホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳癌患者に対する術前内分泌療法によるレスポンスガイド治療の有用性を検証するランダム化比較試験（JCOG2402）	介入	同意書	JCOG乳がんグループ	南 恵樹
9	術前化学療法を施行する食道癌・胃癌における十全大補湯によるQOL改善を検討するオープンラベル比較第II相試験（QuEST Study）	介入	同意書	長崎大学病院	米田 晃
10	男性乳がんの臨床病理学的特徴と予後因子についての多機関共同後向き研究（OASIS MALE BC）	観察	オプトアウト	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター がん総合内科 診療科長	南 恵樹
11	乳癌の原発部位から転移再発部位におけるHER2発現のダイナミクスを検討する多機関共同後向きコホート研究（HER2 PRIME study）	観察	オプトアウト	杏林大学医学部 乳腺外科学	南 恵樹

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
12	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHER2 陽性原発乳癌に対する非切除療法を目指すJCOG1806治療戦略を経験した際の心理的葛藤の有無を患者経験価値にて評価する横断的観察研究 (JCOG1806A1)	観察	同意書	群馬県立がんセンター 乳腺科	南 恵樹
13	腹腔鏡下直腸癌切除における技術認定医手術参加の有用性に関する検討 (EnSSURE study)	観察	オプトアウト	北海道大学病院 消化器外科 I	竹下 浩明
14	肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の腫瘍学的安全性を評価する後ろ向き試験多施設共同研究	観察	オプトアウト	大分大学	竹下 浩明
15	長崎県内の大腸癌手術症例に対する多施設共同研究グループNagasaki Colorectal Oncology Group (NCOG) によるデータ集積	観察	オプトアウト	長崎大学病院	竹下 浩明
16	腹腔鏡下直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究 (LANDMARK試験)	観察	オプトアウト	横浜市立大学 外科治療学	竹下 浩明



学会・論文など



1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1 (24)	1	3	

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	(2)	31	15	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国内			
件数	1			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3	3	1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)



研究業績



論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Risk of Life-Threatening Complications After Colorectal Cancer Surgery : A Japanese Multicenter Study.
Ono R, Tominaga T, Nonaka T, Ishii M, Hisanaga M, Araki M, Sumida Y, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Asian J Endosc Surg. 2025 ; 18(1) : e70078. doi : 10.1111/ases. 70078.
- 2) Prognostic Impact of Additional Surgery Following Endoscopic Resection for pT1 Colorectal Cancer in Patients Aged Over 80 Years.
Ishimaru K, Tominaga T, Nonaka T, Hashimoto S, Yamashita M, Noda K, Tei S, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Oishi K, Moriyama M, Uchida F, Shiraishi T, Kunizaki M, Matsumoto K.
Asian J Endosc Surg. 2025 ; 18(1) : e70107. doi : 10.1111/ases. 70107.

- 3) Prevention of Skin Damage Using Disposable Retractors in Open Hepatobiliary Surgery: A Nonrandomized Controlled Trial Comparing Film Drapes and Sewn Gauze.
Tachibana R, Hara K, Kitasato A, Kuroki T.
Cureus. 2025 ; 17(1) : e77116. doi : 10.7759/cureus. 77116. eCollection 2025 Jan.
- 4) Real-world efficacy of radiomics versus clinical predictors for microvascular invasion in patients with hepatocellular carcinoma: Large cohort study.
Kinoshita S, Nakaura T, Yoshizumi T, Itoh S, Ide T, Noshiro H, Hamada T, Kuroki T, Takami Y, Nagano H, Nanashima A, Endo Y, Utsunomiya T, Kajiwaru M, Miyoshi A, Sakoda M, Okamoto K, Beppu T, Takatsuki M, Noritomi T, Baba H, Eguchi S.
Hepatol Res. 2025 ; 55(4) : 567-576. doi : 10.1111/hepr. 14149. Epub 2024 Dec 12.
- 5) Survival paradox and effect of adjuvant chemotherapy for high-risk Stage II and low-risk Stage III colorectal cancer.
Noda K, Tominaga T, Nonaka T, Ono R, Oishi K, Takamura Y, Shiraishi T, Hashimoto S, Hisanaga M, Takeshita H, Ishii M, Oyama S, Ishimaru K, Sawai T, Matsumoto K.
Int J Clin Oncol. 2025 ; 30(6) : 1183-1192. doi : 10.1007/s10147-025-02743-z. Epub 2025 Mar 21.
- 6) CORRIGENDUM TO “EFFICACY AND SAFETY OF A DEXAMETHASONE-BASED MOUTHWASH TO PREVENT CHEMOTHERAPY-INDUCED STOMATITIS IN WOMEN WITH BREAST CANCER : A MULTICENTRE, OPEN-LABEL, RANDOMISED PHASE 2 STUDY” [J EVID BASED DENT PRACT. 2023 SEP ; 23(3) : 101896].
Kuba S, Maeda S, Shibata K, Soutome S, Yamanouchi K, Matsumoto M, Tanaka A, Morita M, Hatachi T, Otsubo R, Yano H, Kawashita Y, Sato S, Taniguchi H, Kanetaka K, Umeda M, Nagayasu T, Eguchi S.
J Evid Based Dent Pract. 2025 ; 25(2) : 102054. doi : 10.1016/j. jebdp. 2024. 102054. Epub 2024 Dec 10.
- 7) Characteristics and Outcomes of Patients Who Underwent Curative Resection for Colorectal Cancer Local Recurrence.
Maruyama K, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Katayama H, Hashimoto S, Yamashita M, Noda K, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Oishi K, Uchida F, Matsumoto K.
Cancer Diagn Progn. 2025 ; 5(4) : 478-484. doi : 10.21873/cdp. 10461. eCollection 2025 Jul-Aug.
- 8) Impact of obesity on the short-term outcomes of robotic surgery for rectal cancer: a Japanese multicenter study.
Katayama H, Tominaga T, Takamura Y, Hashimoto S, Yamashita M, Tei S, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Oishi K, Moriyama M, Uchida F, Shiraishi T, Nonaka T.
Surg Today. 2025 ; doi:10.1007/s00595-025-03116-9. Online ahead of print.
- 9) Correction : Impact of obesity on the short-term outcomes of robotic surgery for rectal cancer: a Japanese multicenter study.
Katayama H, Tominaga T, Takamura Y, Hashimoto S, Yamashita M, Tei S, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Oishi K, Moriyama M, Uchida F, Shiraishi T, Nonaka T, Matsumoto K.
Surg Today. 2025 ; doi : 10.1007/s00595-025-03138-3. Online ahead of print.
- 10) Risk Factors for Conversion to an Open Surgery during Laparoscopic Surgery for Patients with Colon Cancer with Body Mass Index ≥ 25 kg/m².
Tsuchiya Y, Sugimoto K, Nojiri S, Kojima Y, Sakamoto K, Fujii Y, Takeshita H, Taketa T, Akagi T, Nakajima K, Nakamura T, Kagawa Y, Ohnuma S, Inomata M, Yamamoto S, Naitoh T.
J Anus Rectum Colon. 2025 ; 9(4) : 428-436. doi : 10.23922/jarc. 2025-005. eCollection 2025.
- 11) Impact of the log odds of positive lymph nodes on the prognosis in pathological stage 3 patients with obstructive colorectal cancer treated with colonic stents: a retrospective multicenter study in Japan.
Shiraishi T, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Fukuda A, Moriyama M, Uchida F, Motoyama K, Kunizaki M, Matsumoto K.
Surg Today. 2025 ; 55(11) : 1552-1561. doi : 10.1007/s00595-025-03064-4. Epub 2025 May 15.

- 12) Risk factors for anastomotic leakage and long-term outcomes after laparoscopic right colectomy: a multicenter study in a Japanese rural area.
Ono R, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Hisanaga M, Fukuda A, Moriyama M, Maruyama K, Tei S, Ishimaru K, Matsumoto K.
Surg Today. 2025 ; 55(11) : 1609-1620. doi : 10.1007/s00595-025-03066-2. Epub 2025 May 29.
- 13) A retrospective multi-center cohort study investigating safety of sentinel lymph node biopsy for axillary staging in clinical T3-4c breast cancer.
Kuba S, Sagara Y, Yano H, Maeda S, Sakai T, Kojima Y, Hattori M, Asaga S, Tokunaga E, Shien T, Bando H, Anan K, Iwakuma N, Minami S, Yamaguchi M, Harao M, Oikawa M, Sangai T, Ishitobi M, Nakayama T, Hayashida T, Tada M, Tamaki K, Kutomi G, Tomiguchi M, Harada-Shoji N, Kurashita K, Terata K, Yamanouchi K, Kubo M, Yumura C, Takahashi Y, Imoto S, Ohno S, Hayashi N.
Breast Cancer. 2025 ; 32(6) : 1298-1307. doi : 10.1007/s12282-025-01749-9. Epub 2025 Aug 1.
- 14) Efficacy and Safety of Robotic Surgery for Bulky Colorectal Tumors.
Maruta H, Noda K, Tominaga T, Hashimoto S, Yamashita M, Tei S, Ono R, Hisanaga M, Oishi K, Inao A, Moriyama M, Uchida F, Shiraishi T, Kunizaki M, Nonaka T, Matsumoto K.
Anticancer Res. 2025 ; 45(11) : 5139-5146. doi : 10.21873/anticancer. 17853.
- 15) Comparison of Short-Term Outcomes of Colorectal Cancer Surgery Performed by Male and Female Surgeons: A Japanese Multicenter Study.
Ono R, Tominaga T, Nonaka T, Shiraishi T, Hashimoto S, Noda K, Araki M, Sumida Y, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Ishimaru K, Matsumoto K.
Asian J Endosc Surg. 2025 ; 18(1) : e70017. doi : 10.1111/ases. 70017.
- 16) Spheroid morphology of lung cancer cell lines correlates with oncological profiles.
Oishi K, Matsumoto K, Hashimoto S, Uchida F, Hara R, Nishimuta M, Matsumoto T, Iwatake M, Tomoshige K, Doi R, Machino R, Obata T, Nagayasu T.
Discov Oncol. 2025 ; 16(1) : 627. doi : 10.1007/s12672-025-02132-y.
- 17) Comparison of robotic and laparoscopic approaches in short- and long-term outcomes of lateral pelvic lymph node dissection for advanced rectal cancer: a Japanese multicenter study.
Ishii M, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Oyama S, Sawai T, Matsumoto K.
Langenbecks Arch Surg. 2024 ; 410(1) : 18. doi : 10.1007/s00423-024-03596-2.
- 18) Surgical risk and cause of death among octogenarian and nonagenarian patients with colorectal cancer: a Japanese multicenter study.
Hashimoto S, Nonaka T, Tominaga T, Shiraishi T, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Fukuoka H, Fukuoka KT, Tanaka K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K. .
Jpn J Clin Oncol. 2025 ; 55(4) : 341-348. doi : 10.1093/jjco/hyae171.
- 19) Effect of the lymphocyte-to-monocyte ratio on the prognosis of patients with obstructive colorectal cancer with a colonic stent: a retrospective multicenter study in Japan.
Shiraishi T, Shiraishi T, Tominaga T, Nonaka T, Takamura Y, Oishi K, Hashimoto S, Noda K, Ono R, Hisanaga M, Takeshita H, Ishii M, Oyama S, Ishimaru K, Kunizaki M, Sawai T, Matsumoto K.
Surg Today. 2025 ; 55(1) : 36-51. doi : 10.1007/s00595-024-02875-1.
- 20) Risk factors for male sexual dysfunction after minimally invasive surgery for rectal cancer : a multicenter prospective subanalysis of the LANDMARC study.
Sakurai T, Yamaguchi T, Numata M, Sakamoto T, Hida K, Akagi T, Shiomi A, Inada R, Shiozawa M, Kazama K, Hotchi M, Yamamoto D, Hasegawa S, Miguchi M, Ohnuma S, Uehara K, Munakata K, Horie H, Miyake T, Takahashi H, Furutani A, Matoba S, Sakamoto K, Kagawa H, Kinugasa Y, Yamaguchi S, Watanabe M, Naitoh T ;

LANDMARC Collaborative Study Group of the Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery.
Surg Endosc. 2025 ; doi : 10.1007/s00464-025-12345-5. Online ahead of print.

- 21) Robotic versus laparoscopic right hemicolectomy with complete mesocolic excision using a cranial approach : a propensity score-matched retrospective cohort study.
Nonaka T, Tominaga T, Takamura Y, Kaido O, Noda K, Sawai T, Matsumoto K.
Tech Coloproctol. 2025 ; 29(1) : 181. doi : 10.1007/s10151-025-03223-2.
- 22) The Usefulness of Robot-assisted Surgery for Elderly Colorectal Cancer Patients.
Tei S, Noda K, Tominaga T, Takamura Y, Katayama H, Hashimoto S, Yamashita M, Ono R, Ishii M, Hisanaga M, Oishi K, Moriyama M, Uchida F, Shiraishi T, Nonaka T, Matsumoto K.
In Vivo. 2026 ; 40(1) : 355-363. doi : 10.21873/invivo. 14199.
- 23) Effect of Pathological Response After Neoadjuvant Chemotherapy on Long-term Outcomes in Locally Advanced Colorectal Cancer : A Japanese Multicenter Study.
Noda K, Tominaga T, Hashimoto S, Yamashita M, Maruta H, Tei S, Ono R, Ishii M, Oishi K, Inao A, Moriyama M, Onoda T, Shiraishi T, Kunizaki M, Nonaka T, Matsumoto K.
Anticancer Res. 2026 ; 46(1) : 327-336. doi : 10.21873/anticancer. 17947.
- 24) Effect of the Endoscopic Surgical Skill Qualification System for Colorectal Cancer Surgery With Multivisceral Resection on Long-term Outcomes : Japanese Multicenter Analysis.
Katayama H, Noda K, Tominaga T, Hashimoto S, Yamashita M, Maruta H, Tei S, Ono R, Ishii M, Oishi K, Inao A, Moriyama M, Onoda T, Shiraishi T, Kunizaki M, Nonaka T, Matsumoto K.
Anticancer Res. 2026 ; 46(1) : 457-465. doi : 10.21873/anticancer. 17959.

B : 和文

B-a1 : 和文原著

- 1) 外科専属診療看護師 (NP) による内視鏡外科手術助手の現況と信頼度調査.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、北里周、竹下浩明、黒木保.
日本内視鏡外科学会雑誌 2025 ; 30(5) : 363-366.

B-b : 和文総説

- 1) 医療安全 傾向と対策 当院におけるVTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、尾崎真人、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
医療 2025 ; 79(2) : 99-103.
- 2) リハビリテーション科医に必要な消化器疾患の知識と近年の進歩 消化器外科移植術.
福井彩恵子、曾山明彦、江口晋.
Journal of Clinical Rehabilitation 2025 ; 34(5) : 522-527.
- 3) 手術手技 傍ストーマヘルニア、ストーマ脱出に対するVASCS (video-assisted subcutaneous surgery) による修復術.
竹下浩明、中村裕紀子、福田明子、米田晃、北里周、黒木保.
手術 2025 ; 79(9) : 1439-1445.

学会・研究会・講演

A : 国際学会, 国際会議

A-b2 : 一般演題

- 1) A randomized phase III trial for evaluating the efficacy of adjuvant a bamaciclib in patients with locoregional recurrence of hormone receptor-positive, HER2-negative breast cancer: JCOG2313 (AURA).
E. Tokuda, Y. Ozaki, F. Hara, C. Funasaka, Y. Naito, A. Shimomura, A. Yoshida, N. Maeda, T. Sangai, T. Ishiba, S. Minami, Y. Sagara, Y. Kajiwara, N. Mitome, K. Sasaki, T. Shibata, T. Fujisawa, H. Iwata, T. Shien study.
2025 San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, Texas, 2025.12.09-12.

- 2) Evaluation of a novel diagnostic kit using the semi-dry dot-blot method with an automated reader for detecting breast cancer metastases in sentinel lymph nodes: A combined analysis of two multicenter prospective studies in Japan.

Otsubo R, Hara Y, Urakawa S, Tanaka A, Akashi M, Kuba S, Matsumoto M, Kaseida F, Morita M, Minami S, Yano H, Yamanouchi K, Baba M, Ogiya A, Shima H, Takei H, Yamaguchi R, Yanagihara K, Matsumoto K.

Taipei International Breast Cancer Symposium (TIBCS) 2025. Taipei, Taiwan, 2025.10.25-26.

<Poster>

- 1) A case of hepatic hemangioma mimicking malignant tumor.
Kitasato A, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kuroki T.
Poster 7 ; Liver, Case 1, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会. 軽井沢, 2025.6.13.
- 2) A Clinical Experience: Surgical Placement of Nestleep and Stereotactic Body Radiation Therapy for Recurrent Hepatocellular Carcinoma.
Yoshino K, Kitasato A, Fukui S, Kugiyama T, Kuroki T.
Poster 53 ; Liver, Case 4, 第37回日本肝胆膵外科学会学術集会. 軽井沢, 2025.6.14.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム、パネルディスカッション等

- 1) 改革1年後の外科医療における診療看護師（NP）の戦略的活用～改革の先を照らす、外科医の実感と診療看護師（NP）の役割～.
中原未智、米田晃、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、釘山統太、森田道、原貴信、藤井美緒、竹下浩明、南恵樹、山口峻、蒲原行雄、黒木保.
学術集会特別企画5；チーム医療による外科医師の働き方改革へのマネジメント. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.

<パネルディスカッション>

- 1) 感染性 WON に対する鏡視補助下後腹膜アプローチの有用性 ―オーバーチューブ法の試み―.
釘山統太、又野護、福井彩恵子、古野恭平、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
パネルディスカッション10；膵局所合併症に対するintervention治療. 第56回日本膵臓学会大会. 東京, 2025.7.26.

<主題>

- 1) 直腸癌に対する術前治療後の非切除対応例のサーベイランスとサルベージ手術に関する検討.
竹下浩明、大石海道、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、黒木保.
主題1；多様化する大腸癌診療：集学的治療. 第50回日本大腸肛門病学会九州地方会. 北九州, 2025.10.4.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 胆管内乳頭状腫瘍に対して肝切除術を施行した3例.
又野護、北里周、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
症例報告・一般演題1；稀な症例. 第45回九州肝臓外科学会学術集会. 福岡, 2025.1.18.
- 2) 副腎転移と鑑別が困難であった左副腎結節を伴う肝細胞癌の1切除例.
吉岡奈那、北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保、石飛俊介.
研修医セッション；肝胆膵. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.

- 3) 難治性胆汁瘻に対し胆管塞栓術が奏功した1例。
村橋舞、釘山統太、福井彩恵子、又野護、吉野恭平、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；肝胆膵. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 4) Child Pugh 分類 grade Bの肝硬変を伴った胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した一例。
川添綾子、米田晃、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；胃・十二指腸. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 5) 周期性四肢麻痺を繰り返すバセドウ病で術後にハングリーボーン症候群を呈した1例。
犬養真衣、南恵樹、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保。
研修医セッション；乳腺・内分泌外科1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 6) 局在診断に造影CTが有用であった同時性両側副甲状腺腺腫の1例。
野田知生、森田道、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；乳腺・内分泌外科1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 7) 腹腔鏡下肝部分切除を施行したMulticystic biliary hamartomaの一例。
又野護、北里周、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
一般演題；肝・胆道1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 8) 術後の腹部コンパートメント症候群を念頭に周術期管理を行った両側鼠径ヘルニアの1例。
吉野恭平、米田晃、又野護、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
一般演題；ヘルニア. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.8.
- 9) 繰り返し再発する肝細胞癌に対する吸収性スプーサー留置術と定位放射線治療の外科的経験。
吉野恭平、北里周、又野護、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
肝胆膵/その他. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 10) 右鎖骨下動脈起始異常を伴う胸部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除術を施行した1例。
古賀万貴、米田晃、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
消化管/その他. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 11) 胃印環細胞癌と同時診断された血清反応陽性多発関節炎の一例。
後藤すみれ、岩永希、添田李子、峯彩子、岡田寛丈、三浦史郎、米田晃、和泉泰衛、川上純。
口演9；関節リウマチ・合併症. 第69回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会. 沖縄, 2025.3.16.
- 12) 食道癌術前化学療法前後の免疫・栄養因子の変化は術後合併症及び予後と関連するか。
米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
サージカルフォーラム115；食道-周術期管理. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.12.
- 13) 直腸癌に対してNOM (nonoperative management) /watch & waitを行った症例の検討。
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保。
サージカルフォーラム118；直腸-術前治療. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.12.

- 14) 外傷性肝損傷後の難治性胆汁漏に対し胆管塞栓術が奏効した1例。
相浦章吾、釘山統太、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医発表；その他. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 15) 子宮頸がん再発に対する抗PD-1抗体と血管新生阻害薬による治療中にirAE 腸炎を発症し経過中に放射線性腸炎による盲腸穿孔を起こした一例。
大村直也、福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保。
研修医発表；その他. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 16) 食道癌患者におけるNAC中の骨格筋量及び免疫・栄養因子の変化と術後短期・長期成績との関連。
米田晃、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
一般演題1；食道：栄養. 第80回日本消化器外科学会総会神戸, 2025.07.16.
- 17) 直腸癌に対する術前治療後の非切除対応例のサーベイランスとサルベージ手術に関する検討。
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保。
一般演題83；大腸：悪性9. 第80回日本消化器外科学会総会神戸, 2025.7.16.
- 18) Borderline resectable大腸癌肝転移に対する術前化学療法の有用性。
北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、米田晃、竹下浩明、黒木保。
一般演題129；肝臓：転移性肝腫瘍2. 第80回日本消化器外科学会総会神戸, 2025.7.17.
- 19) 乳癌化学療法中に発症したニューモシスチス肺炎の一例：リンパ球減少とステロイド投与量に着目して。
川原理克、森田道、堀川修一、南恵樹。
一般演題：初期研修医・学生. 第23回日本乳癌学会九州地方会. 久留米, 2025.09.06.
- 20) 当院における胆嚢癌疑診例に対する診断的治療としての外科手術の位置付け。
福井彩恵子、福井彩恵子、黒木保、釘山統太。
口演32；胆嚢低侵襲手術（主題関連）. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.3.
- 21) アレルギー薬剤投与によるアナフィラキシー発症予防に向けた医療安全管理室の取り組み。
西田美咲、井手時枝、松永望東子、黒木保。
口演2；医療安全 活動. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 22) 進行直腸癌に対する至適な側方郭清と術前治療についての検討～側方リンパ節郭清省略の可能性～。
竹下浩明、大石海道、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、黒木保。
般演題（口演）20；直腸癌に対する側方郭清2. 第80回日本大腸肛門病学会学術集会. 東京, 2025.11.15.
- 23) 食道癌術後の残食道捻転に対して再吻合術を要した1例。
藤井美緒、米田晃、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、釘山統太、森田道、原貴信、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
重要演題（口演）2；食道症例報告. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.
- 24) 繰り返す胃潰瘍を契機に正中弓状靱帯圧迫症候群（Median Arcuate Ligament Syndrome：MALS）と診断された1症例。
釘山統太、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、森田道、原貴信、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
重要演題（口演）9；胃良性症例報告. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.
- 25) 主膵管内に結節形成を呈した膵神経内分泌腫瘍の一例。
久保飛翔、釘山統太、黒木保。
重要演題（口演）42；膵稀な疾患. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.21.
- 26) 膵切除術後膵液瘻のリスク因子としての術前栄養評価の有用性。
吉野恭平、釘山統太、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
重要演題（口演）78；膵臓術後合併症. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.22.

- 27) 経腹的な直接縫合閉鎖により治療し得た外傷性横隔膜損傷の2例。
平山奈々恵、福井彩恵子、原貴信、北里周、吉野恭平、久保飛翔、大石海道、堀川修一、森田道、釘山統太、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
重要演題（研修医セッション）17；ヘルニア3。第87回日本臨床外科学会学術集会。東京, 2025.11.22.
- 28) 経過観察後に増大し摘出術を試行した乳管腺腫の1例。
長岡倫子、森田道、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、釘山統太、原貴信、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
重要演題（研修医セッション）21；乳腺・内分泌。第87回日本臨床外科学会学術集会。東京, 2025.11.22.
- 29) 臍全体に進展したintraductal papillary mucinous neoplasm (IPMC) に対して臍全摘術を施行した1例。
宮崎咲月、久保飛翔、釘山統太、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、森田道、原貴信、藤井美緒、米田晃、南恵樹、黒木保。
重要演題（研修医セッション）24；臍臓2。第87回日本臨床外科学会学術集会。東京, 2025.11.22.
- 30) 胃および横行結腸へ浸潤した腹腔内デスマイド腫瘍の1例。
吉田雄哉、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、石飛俊介、黒木保。
研修医発表；大腸・その他。第126回日本消化器病学会九州支部例会。大分, 2025.11.28.
- 31) 腹腔鏡下に完全切除しえた下腹神経由来神経鞘腫の一例。
森悠河、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、三原裕美、黒木保。
研修医発表；大腸。第126回日本消化器病学会九州支部例会。大分, 2025.11.28.
- 32) 総胆管内腫瘍栓を伴った肝内胆管の一例。
林田慶大、原貴信、福井彩恵子、久保飛翔、釘山統太、大石海道、堀川修一、森田道、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、石飛俊介、三浦史郎、黒木保。
研修医発表；肝臓。第126回日本消化器病学会九州支部例会。大分, 2025.11.28.
- 33) 局所進行大腸癌（T4）症例に対するロボット手術の安全性。
大石海道、富永哲郎、高村祐磨、片山宏己、白石斗土雄、橋本慎太郎、山下真理子、久永真、竹下浩明、森山正章、内田史武、丸山圭三郎、野中隆、松本桂太郎。
一般演題（口演）82；下部 他臓器浸潤2。第38回日本内視鏡外科学会総会。横浜, 2025.12.12.
- 34) 高度側弯症を伴うBarrett食道癌に対して胸腔鏡・腹腔鏡下に食道切除術を施行した1例。
米田晃、福井彩恵子、大石海道、釘山統太、原貴信、藤井美緒、竹下浩明、黒木保。
ミニオーラル69／食道悪性 症例報告2。第38回日本内視鏡外科学会総会。横浜, 2025.12.12.
- 35) 骨盤内後腹膜腔発生の神経鞘腫に対する腹腔鏡下手術。
竹下浩明、大石海道、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、藤井美緒、米田晃、黒木保。
ミニオーラル227；ヘルニア 神経鞘腫・癌。第38回日本内視鏡外科学会総会。横浜, 2025.12.12.
- 36) 肝S7亜区域切除における右下肝静脈温存の意義。
原貴信、黒木保、松島肇、福井彩恵子、釘山統太、堀川修一、木下綾華、曾山明彦江口晋。
主題セッション6；低侵襲性肝切除の手技の工夫と極み。第19回肝臓内視鏡外科研究会。東京, 2025.11.19.

<ポスター>

- 1) 肝細胞癌切除後再発に対する外科的治療の位置づけ。
北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
ポスターセッション105；肝臓－肝細胞癌－3。第125回日本外科学会定期学術集会。仙台, 2025.4.11.
- 2) 肝実質への浸潤を認めた胆管内乳頭状腫瘍の1例。
中村駿吾、北里周、福井彩恵子、又野護、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医の発表セッション7；肝胆脾臓－1。第125回日本外科学会定期学術集会。仙台, 2025.4.11.

- 3) BRCA2病的バリエントを有するStageIIIA若年性乳癌の1例.
南恵樹、森田道.
第37回日本内分泌外科学会総会. 鎌倉, 2025.5.22-24.
- 4) 呼吸器外科との連携によって低侵襲手術が可能であった縦隔甲状腺腫の1例.
森田道、南恵樹.
第37回日本内分泌外科学会総会. 鎌倉, 2025.5.22-24.
- 5) Nivolumab 投与中止後も治療効果が持続している術後再発食道癌肉腫の一例.
米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.
一般演題ポスター 35；症例報告・特殊2. 第79回日本食道学会学術集会. 京都, 2025.6.27.
- 6) IHCではER陽性だがOncotype DXではER陰性であり化学療法施行に納得を得られたapocrine carcinomaの1例.
森田道、南恵樹.
e-Poster24；症例報告. 第33回日本乳癌学会学術総会. 東京, 2025.7.10.
- 7) 乳癌術後内分泌療法と脂質代謝との関連.
南恵樹、森田道.
e-Poster15；薬物療法（術前、術後）. 第33回日本乳癌学会学術総会. 東京, 2025.07.10.
- 8) ケロイドとの鑑別に苦慮した乳房全切除後ドレーン痕部再発の1例.
犬養真衣、森田道、南恵樹.
e-Poster24；症例報告. 第33回日本乳癌学会学術総会. 東京, 2025.7.10.
- 9) 肝切除術後の離断型胆汁瘻に対するNBCAを用いた経皮的胆管塞栓術が奏効した2例.
釘山統太、釘山統太、福井彩恵子、原貴信、黒木保.
ポスター 2；術後合併症. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.2.

B-c：研究会発表

- 1) Amyand's herniaに対して二期的に腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した一例.
又野護、又野護、釘山統太、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題. 第31回長崎内視鏡外科研究会. 長崎, 2025.2.1.
- 2) 下部消化管外科におけるロボット支援下手術.
大石海道.
大村市胃腸疾患検討会. 大村, 2025.9.19.

C、F：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

<講演>

- 1) 膵臓がんの外科治療～ロボット支援下手術の導入と今後の展望～.
釘山統太.
がんフォーラム「膵臓がんを正しく知る」. 第10回長崎医療センター市民公開講座. 大村, 2025.2.15.

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]

<司会>

- 1) 黒木保.
症例報告・一般演題3；手術の工夫・集学的治療. 第45回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2025.01.18.
- 2) 黒木保.
ポスターセッション16；胆道－良性－2. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.10.

<座長>

- 1) 米田晃.
企画演題：腹腔鏡ロボット支援手術の現状と未来. 第31回長崎内視鏡外科研究会. 長崎, 2025.2.1.
- 2) 黒木保.
学生セッション；肝胆膵 1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会.
沖縄, 2025.2.7.
- 3) 黒木保.
一般演題173；膵臓：手術手技 2. 第80回日本消化器外科学会総会神戸, 2025.7.17.
- 4) 黒木保.
ポスター 15；若手セッション. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.2.

<口演>

- 1) 黒木保.
一般演題（口演）88；胆嚢炎 成績. 第38回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2025.12.12.



責任者 田川 努・朝重 耕一・松本 理宗・富山 哲弘

診療科の特色

- ①最新かつ最高レベルの呼吸器外科診療を提供する。
- ②早期肺癌は患者さんにやさしい胸腔鏡下手術を行う。
- ③進行肺癌の手術を安全かつ確実に行う。
- ④地域医療に貢献する。
- ⑤修練医師の教育を行い、外科治療のすばらしさ、やりがい伝える。
- ⑥基幹病院として学会発表、論文などで国内外に発信していく。
- ⑦臨床試験に積極的に参加する。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
1,305人	3.6人	107人	122人		11.4日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
23件	63.2%	56件	147.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
47人(39.2%)	29人(24.2%)	4人(3.3%)	1人(0.8%)	1人(0.8%)	10人(8.3%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
13人(10.8%)	9人(7.5%)	1人(0.8%)		1人(0.8%)	

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
			2人(1.7%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
			2人(1.7%)	120人	

入院主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	胸腔鏡手術数	死亡退院数
1) 肺癌	C34	70	66(94.3%)	0
2) 転移性肺腫瘍	C78	10	10(100%)	0
3) 気胸	J939	14	14(100%)	0
4) 縦隔腫瘍	D383	7	7(100%)	0
5) 膿胸	J869	3	3(100%)	0
6) 肺良性	D143	7	7(100%)	0
7) 肺感染症	A31.0, B44	0	0(100%)	0
8) その他		6	6(100%)	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	全身麻酔＋硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
120	119	0	0	1	2	118

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術
待機手術	118	0	0	0
緊急手術	2	0	0	0



研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数(平均)	実施回数
手術前カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週
手術後カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週
呼吸器カンファレンス	呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科	11	1回/週



治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

*NHO EBMネットワーク研究

No.	分類NW共同研究 (グループ名) 多施設共同	研究課題名	本研究の主任 研究者	当院分担研究者	同意文書 あり/なし	当院実施 症例数
1	癌（呼吸器）	肺癌術前の待機期間における炎症・免疫 バランスの変化が術後の短期・長期予後 に与える影響の評価：肺癌NLR研究	原田洋明	松本理宗	あり	11

*厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化）

なし

*日本学術振興会

なし

*臨床研究

なし

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1 (0)	1 (0)		

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1 (0)	11 (0)	1 (0)

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	学術講演			
件数				

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	その他
件数		3	1	

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

1) A Case of type A thymoma with vascular invasion.

Shimoyama K, Fujise Y, Hida T, Sato S, Miura S, Tagawa T.

Acta Medica Nagasakiensia. 2025.3.10 Accepted.

B：和文

B-a2：和文症例報告

1) 胸腔内穿破2週後に胸腔鏡下切除を施行した縦隔成熟型奇形腫の2例.

下山孝一郎、町野隆介、竹井大貴、山口彩、三浦史郎、田川努.

日本呼吸器外科学会雑誌. 2025；39（7）：616-621.

学会・研究会発表・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム、パネルディスカッション等

B-b2：一般演題

【全国学会】

<口演>

1) 胃癌術後縫合不全に伴う縦隔炎・膿胸に対する外科的治療の検討－3例の経験から－.

松本理宗、富山哲宏、田川努.

ミニオーラル 呼吸器8；周術期管理, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.24.

【地方会】

＜口演＞

- 1) 気管支鏡検査で診断に至らなかった縦隔原発ホジキンリンパ腫の一例.
荻野裕行、松本理宗、田川努.
研修医セッション, 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会.
福岡, 2025.2.9.
- 2) 肺単一病変として発見され肺癌との鑑別が困難であった IgG4 関連呼吸器疾患の 1 例.
鬼頭貴之、松本理宗、田川努.
研修医セッション, 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会.
福岡, 2025.2.9.
- 3) 当院で経験した高悪性度胎児型肺腺癌の 1 例.
大村直也、池田喬哉、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗、田川努、近藤晃、
迎寛.
研修医セッション, 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会.
福岡, 2025.2.9.
- 4) CheckMate-816レジメンが奏功した腎細胞癌肺転移の 1 例.
中島健翔、松本理宗、田川努.
胸部（心臓血管外科/呼吸器）, 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 5) 気胸術後に人工呼吸器管理で新生した肺嚢胞が誘因となった緊張性気胸の一例.
林田啓佑、松本理宗、田川努.
胸部（心臓血管外科/呼吸器）, 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 6) 心膜周囲脂肪を用いた肺瘻閉鎖の工夫と術後管理.
松本理宗.
一般演題, 第20回長崎呼吸器外科研究会. 長崎, 2025.4.25.
- 7) 経時的に位置変化を認めた上縦隔心膜嚢胞の一例.
野口美波、松本理宗、富山哲宏、朝重耕一、添田李子、伊東正博、田川努.
JATS Case Presentation Awards 6（呼吸器 1）, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.
- 8) 気胸術後のステープラーによる炎症性肉芽腫と肺癌の鑑別が困難であった一手術例.
富山哲宏、松本理宗、田川努、三浦史郎、三原裕美.
一般演題10；肺良性腫瘍, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.
- 9) 積極的区域切除をやめたくなる 1 例（cT1a, (0.7cm), pT1mi (inv: 0.1cm) N0M0への右S1区域切除後胸膜播種再発）.
田川努、下山孝一郎、富山哲宏、添田李子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗.
一般演題24；肺悪性腫瘍 2, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.25.
- 10) 胸腔鏡下左上葉切除術における術中肺静脈熱損傷後の遅発性再出血に対し再手術にて救命し得た一例.
松本理宗、富山哲宏、朝重耕一、田川努.
一般演題26；肺移植、呼吸器感染症 2, 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.25.
- 11) 胃癌術後縫合不全に伴う縦隔炎・膿胸に対する外科的治療の検討－3 例の経験から－.
松本理宗、富山哲宏、田川努.
ミニオーラル 呼吸器 8；周術期管理, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.24.

12) 膿胸に対する 3 例のアルテプラーゼ使用経験.

前田康文、乗富大地、茂山航大、川崎光一、松本理宗、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田川努、迎寛.

ことはじめ甲子園,

第95回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 沖縄, 2025.10.31.

C-b: 学術講演<国内学会>

なし

D: 学会・研究会開催

なし

E, F: 学術講演他

E: 学会・研究会 世話人

1) 田川努.

県央地区外科研究会代表世話人

2) 田川努.

長崎呼吸器疾患と移植再生フォーラム

3) 田川努.

長崎呼吸器外科研究会

4) 田川努.

長崎胸部腫瘍セミナー

F-b: 学会・研究会座長<国内学会>

<座長>

1) 田川努.

一般演題(口演) 39; 縦隔腫瘍 2, 第42回日本呼吸器外科学会学術集会東京, 2025.5.16.

2) 田川努.

JATS Case Presentation Awards 4 (呼吸器 3), 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.

3) 田川努.

ミニオーラル 呼吸器 3; 縦隔・補助循環, 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.23.

4) 田川努.

一般演題ポスター 46; (胸腺腫瘍に対する) 手術手技 1, 第66回日本肺癌学会学術集会. 東京, 2025.11.7.

【査読委員】

1) 田川努.

第42回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京, 2025.5.16-17.

2) 田川努.

第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 仙台, 2025.6.12-13.

3) 田川努.

第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.23-25.

4) 田川努.

第66回日本肺癌学会学術集会. 東京, 2025.11.6-8.

【その他】

- 1) 田川努.
長崎大学非常勤講師（腫瘍外科学）
- 2) 田川努.
日本呼吸器外科学会 会誌編集委員会委員
- 3) 田川努.
日本呼吸器外科学会 医療安全地域個別調査部会員
- 4) 田川努.
日本肺癌学会 利益相反管理委員会委員
日本肺癌学会 指導医・専門医資格認定委員会委員



責任者 宮本 俊之

診療科の特色

部長交代から3年が経過し、県央地区の整形外科の砦として日々高エネルギー外傷から高齢者の脆弱性骨折や小児骨折まで幅広く対応しています。他科連携を推進して、高齢者の大腿骨近位部骨折に対しては年間160例の殆ど(97%)を受診48時間以内に手術しています。2025年8月から人工関節置換術においてロボット手術(MAKO)を導入し、9月から本格稼働しています。これまでの急性疾患(外傷)に加えて慢性疾患(変形性関節症)にも積極的に対応し、県央各地から患者さんが来院されています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
10,507人	28.8人	647人	627人	2人	16.5日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
361件	92.3%	563件	100.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時(または月末時)の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。(入院後に転科した場合)

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
362人(56.3%)	130人(20.2%)	15人(2.3%)	14人(2.2%)	3人(0.5%)	27人(4.2%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
11人(1.7%)	26人(4.0%)	18人(2.8%)	1人(0.2%)		11人(1.7%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)		2人(0.3%)	3人(0.5%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
		1人(0.2%)	18人(2.8%)	643人

入院主要疾患主要疾患別臨床統計

疾患名	ICD-10コード	症例数
骨折観血的手術(大腿骨)	K0461	106
人工骨頭挿入術(股)	K0811	58
人工関節置換術(膝)	K0821	47
人工関節置換術(股)	K0821	25
骨折観血的手術(下腿)	K0462	48
骨折観血的手術(前腕)	K0462	33
骨折観血的手術(上腕)	K0461	30

主要手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数
骨折観血的手術（大腿骨）	K0461	106
人工骨頭挿入術（股）	K0811	58
人工関節置換術（膝）	K0821	47
人工関節置換術（股）	K0821	25
骨折観血的手術（下腿）	K0462	48
骨折観血的手術（前腕）	K0462	33
骨折観血的手術（上腕）	K0461	30

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
整形外科モーニングカンファ	毎日
長崎整形外科勉強会	1回/月
県央整形外科医会	2回/年

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	2	2	

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1	13	0	6

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類				
件数				

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	2	7	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

<Poster>

- 1) Treatment experience of patients with femoral metastatic bone tumors and the impact of tumor boards at our hospital.
Shingo Ota, Takashi Miyamoto, Masashi Umeki, Jyunya Mukai, Hayato Ito.
International Orthopaedic Trauma Association Triannual meeting. Guadajarara, 2025.10.21.

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

- 1) 整形外科医が考えている足関節後果骨折の治療.
宮本俊之.
日本足の外科学会学術集会. 軽井沢, 2025.11.13.

<シンポジウム>

- 1) テリパラチド連日製剤と週1回製剤の大腿骨近位部の皮質骨・海綿骨への異なる効果—TERABIT studyおよびVBMによる追加解析—.
向井順哉.
第27回日本骨粗鬆症学会. 千葉, 2025.9.14.
- 2) 働き方改革と共働き家庭の効率化～パッシブハウスが支える新しい医師の暮らし～.
梅木雅史、出口大智、伊藤勇人、梅木雅史、前田純一郎、宮本俊之.
第115回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2025.11.8.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) RFNA side locking plateの治療経験.
梅木雅史、伊藤勇人、梅木雅史、太田真悟、宮本俊之.
第50回九州膝関節研究会. 福岡, 2025.3.8.
- 2) 期のBP製剤によって生じた両側の非定型尺骨骨折の1例.
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、梅木雅志、太田真悟.
第149回西日本整形・災害外科学会学術集会. 久留米, 2025.6.8.
- 3) 当院における高齢者大腿骨近位部骨折の緊急整復固定加算・緊急挿入加算の算定阻害因子.
向井順哉、宮本俊之、太田真悟、梅木雅志.
第51回日本整形外傷学術集会. 横浜, 2025.6.27.
- 4) 非定型大腿骨骨折に対する手術治療の検討と切迫骨折に対する予防的髓内釘固定の有用性.
向井順哉、宮本俊之、太田真悟、梅木雅志.
第51回日本整形外傷学術集会. 横浜, 2025.6.27.
- 5) 当院における大腿骨近位部転移性骨腫瘍に対する手術治療例.
太田真悟、宮本俊之、森圭介、梅木雅史、向井順哉、伊藤勇人.
第51回日本整形外傷学会学術集会. 横浜, 2025.6.28.

- 6) 大腿骨近位部骨折に対する早期手術治療。
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、太田真悟、梅木雅志。
第51回日本整形外傷学術集会. 横浜, 2025.6.28.
- 7) 当院における腓骨遠位端骨折に対する髓内釘法の短期成績。
向井順哉、宮本俊之、前田純一郎、梅木雅志、伊藤勇人。
第150回西日本整形・災害外科学会学術集会. 宮崎, 2025.11.15.
- 8) 大腿骨幹部骨折を契機に診断された骨肉腫の1例。
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、梅木雅志、前田純一郎。
第150回西日本整形・災害外科学会学術集会. 宮崎, 2025.11.15.

<ポスター>

- 1) 大腿骨骨幹部骨折にDISHを伴う椎体骨折を合併した2例。
梅木雅史、伊藤勇人、梅木雅史、前田純一郎、宮本俊之。
第51回日本整形外傷学術集会. 横浜, 2025.6.27.
- 2) Voxel-Based Morphometry (VBM) を用いた大腿骨近位部の骨密度解析：標準画像の作成。
向井順哉。
第27回日本骨粗鬆症学会. 千葉, 2025.9.12.
- 3) Perioperative management and early surger for hip fracture in elderly patients: a single-center report.
吉野由羅, Junya Mukai, Yoshifumi Mizokami, Hayato Ito, Masashi Umeki, Junichiro Maeda, Takashi Miyamoto.
第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

B-c：研究会発表

<口演>

- 1) Polytraumaでコンパートメント症候群を合併した下腿開放骨折。
向井順哉。
重度四肢外傷PRM. Web, 2025.2.9.
- 2) RFNA side locking plateの治療経験。
梅木雅史、伊藤勇人、梅木雅史、前田純一郎、宮本俊之。
第114回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2025.6.21.
- 3) 当院における膝蓋骨骨折の治療。
梅木雅史。
長崎外傷勉強会. Web, 2025.12.8.

C,D,E,F,G：学術講演他

C-a：学術講演 [国際]

<講演>

- 1) 整形外傷医が実践している足関節周囲骨折。
宮本俊之。
北海道下肢と足部疾患研究会. 札幌, 2025.8.23.

C-b：学術講演 [国内]

- 1) 術後創部感染の早期診断と治療。
宮本俊之。
日本整形外傷セミナー. 東京, 2025.11.23.

<ワークショップ>

- 1) Elastic stable intramedullary nailing for pediatric fracture.
宮本俊之.
日本小児整形外科学会研修会. 横浜, 2025.8.30.

<講演>

- 1) 整形外科医は骨粗鬆症治療をスタートさせよう.
宮本俊之.
骨折骨粗鬆症研究会. 鹿児島, 2025.10.3.
- 2) 小児上肢骨折の治療.
宮本俊之.
長崎手の外科研究会. 長崎, 2025.11.11.

E: 研究会世話人

- 1) 宮本俊之.
九州重度四肢外傷シンポジウム.
- 2) 宮本俊之.
日本整形外傷シンポジウム.
- 3) 宮本俊之.
長崎整形外傷勉強会.
- 4) 宮本俊之.
長崎県央整形外科医会.

F-a: 学会・研究会座長 [国際学会]

- 1) Takashi Miyamoto.
Concurrent paper sessions Tibia.
International Orthopaedic Trauma Association Triannual meeting. Guadrajara, 2025.10.21.
- 2) Takashi Miyamoto.
Concurrent paper sessions Infection.
International Orthopaedic Trauma Association Triannual meeting. Guadrajara, 2025.10.21

F-b: 学会・研究会座長 [国内学会]

- 1) 宮本俊之.
教訓的シリーズ 外傷.
西日本整形・災害外科学会学術集会. 久留米, 2025.6.7.
- 2) 宮本俊之.
整形外科診療に伴う職業被曝.
日本整形外傷学会学術総会. 横浜, 2025.6.27.
- 3) 宮本俊之.
腓骨髄内釘.
日本整形外傷学会学術総会. 横浜, 2025.6.27.
- 4) 宮本俊之.
整形外傷センターの未来.
日本整形外傷学会学術総会. 横浜, 2025.6.27.

- 5) 宮本俊之.
多発肋骨骨折の固定範囲とアプローチの工夫.
日本整形外傷学会学術総会. 横浜, 2025.6.28.
- 6) 宮本俊之.
Lisfranc関節の靱帯損傷と高エネルギー外傷.
日本足の外科学会学術集会. 軽井沢, 2025.11.14.
- 7) 宮本俊之.
外傷：膝・下腿・その他.
西日本整形・災害外科学会学術集会. 宮崎, 2025.11.16.

G：その他

- 1) 大腿骨転移性骨腫瘍の骨折をどう診療・治療するか.
太田真悟.
第32回長崎整形外傷勉強会. Web, 2025.1.27.

<口演>

- 1) Fracture related infection.
宮本俊之.
第33回長崎整形外傷勉強会. Web, 2025.2.24.
- 2) 脊椎外傷.
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、梅木雅志、太田真悟.
第34回長崎整形外傷勉強会. Web, 2025.4.28.
- 3) 大腿骨近位部骨折に対する早期手術治療.
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、梅木雅志、太田真悟.
第15回整形外科セミナー. 佐賀, 2025.5.10.
- 4) 診療看護師（NP）が参画する当院のFracture Liaison Service.
向井順哉.
第114回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2025.6.21.
- 5) 感染.
伊藤勇人、宮本俊之、向井順哉、梅木雅志、前田純一郎.
第38回長崎整形外傷勉強会. Web, 2025.8.25.
- 6) 脛骨高原骨折の初期診療.
向井順哉.
長崎外傷勉強会. Web, 2025.10.27.
- 7) 非定型大腿骨骨幹部切迫骨折に対して矯正骨切りを併用した予防的髄内釘法を用いた治療経験.
向井順哉、宮本俊之、前田純一郎、梅木雅志、伊藤勇人.
第115回長崎整形外科懇話会. 長崎, 2025.11.8.
- 8) 大腿骨近位部骨折に対する早期手術.
伊藤勇人、宮本俊之、出口大智、向井順哉、梅木雅志、前田純一郎.
第53回佐賀骨折研究会. 佐賀, 2025.11.29.



リハビリテーション科

責任者 宮本 俊之・峰松 俊介

診療科の特色

リハビリテーション科は、リハビリテーション科医長1名（整形外科部長併任）、理学療法士13名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、事務助手1名が在籍しており、施設基準は運動器リハ（Ⅰ）・脳血管疾患等リハ（Ⅰ）・廃用症候群リハ（Ⅰ）・心大血管疾患リハ（Ⅰ）・呼吸器リハ（Ⅰ）・がん患者リハを取得しています。2024年は24診療科より新規リハビリ介入依頼があり、多岐多様な疾患に対応しています。主な疾患は、整形外科では骨接合術・人工関節置換術の症例、脳外科・脳神経内科では脳血管疾患の術後また発症直後の症例、外科では悪性腫瘍摘出術後の症例であり早期介入を行っています。また高度救命センターにおける早期離床リハビリテーションやNICUにも対応しています。スタッフの資格取得状況は、心臓リハビリテーション指導士3名、心不全療養指導士4名、3学会合同呼吸療法認定士8名、がんのリハビリテーション研修受講者が15名であり、より専門的なリハビリの提供へつなげています。また土曜・祝日勤務も行い急性期病院として早期介入、早期離床を図り効果的な機能回復に向けて取り組んでいます。院内チーム医療として、糖尿病教室やNSTに参加しています。当院DMATにおいてスタッフ1名が業務調整委員として活動しています。地域貢献においては、県央地区広域リハビリテーションセンターの協力施設として登録し、市内各地域で行われる出前講座や通いの場での地域住民への支援を行っています。

入院診療実績

理学療法・作業療法実績

	理学療法	作業療法	合計
実施延べ件数	30,682	6,820	37,502
実施延べ単位数	37,497	8,339	45,836

※実施延べ件数・単位数は2025年に理学療法・作業療法を実施した件数・単位数

※2025年の新規介入依頼数は3,575件

※2024.4より3A早期離床リハビリテーション加算算定に関してPT 1名配置

リハビリ処方主要10疾患 疾患別臨床統計

疾患名	ICD-10コード	症例数
1) 廃用症候群	M6259	428
2) 肺炎等	J120～J189	310
3) 頭蓋内出血	I600～I619	256
4) 関節疾患	M0096～M2457	197
5) 脳梗塞	I630～I660	195
6) 大腿骨骨折	S7200～S7240	184
7) 消化器の悪性腫瘍	C151～C252	159
8) 呼吸不全	J9600～J9699	159
9) 心不全	I500～I518	130
10) 誤嚥性肺炎	J690	118

※2025年 主病名にてリハ処方件数を分類集計

リハビリ処方患者の主な診療科と実患者数・比率

診療科	患者人数	比率 (%)
整形外科	616	17.23
総合診療科	600	16.78
脳神経内科	395	11.05
脳外科	291	8.14
呼吸器内科	257	7.19
外科	240	6.71
血液内科	198	5.54
循環器内科	196	5.48

※上記診療科を含め、24診療科よりリハビリ介入依頼あり

言語聴覚療法実績

	入院	外来
疾患別算定件数	4,580	17
疾患別算定単位数	5,016	34
摂食・嚥下療法件数	525	49

※2025年に言語療法、摂食・嚥下療法（嚥下評価のみも含む）を実施した件数

※VE検査・VF検査は耳鼻咽喉科医師と共に施行

研修・教育

1. カンファレンス等

	参加職種	参加人数 (平均)	開催頻度
整形外科カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、地域連携室	10	2 / 週
7 A カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	5 ～ 8	1 / 週
緩和ケアカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、MSW	10	1 / 週
救命病棟リハカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	5	月～金
循環器カンファレンス	医師、理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW	8	1 / 週
3 B 病棟カンファレンス	医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、地域連携室	8	1 / 週
血液内科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士	8	1 / 週
呼吸器外科内科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、MSW	7	1 / 週
心臓外科カンファレンス	医師、看護師、理学療法士、薬剤師、MSW	8	1 / 週
RSTカンファレンス	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学技士	8	1 / 週
NICUカンファレンス	医師、看護師、理学療法士、作業療法士	8	1 / 2 週
摂食・嚥下カンファレンス	医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士	8	1 / 2 週

2. 研修（国立病院機構等主催分）

- 1) R7年度 医療職（二）等職場長管理研修
6.9 Web 峰松 俊介
- 2) R7年度 リハビリテーション職特定派遣技能研修（Ⅱ）「心臓リハビリテーション」
11.20（AM）-11.21 鹿児島医療センター
福川 愛子
- 3) R7年度 中堅職員マネジメント力向上研修
11.27（PM） Web 前田 健一
- 4) R7年度 リハビリテーション研修「急性期」
8.8～10.31 eラーニングシステム
山口 睦美

3. リハビリテーション科勉強会

- | | | |
|-----------------------|-------|------------|
| 1) MI-Eについて | 3.14 | 指山 博伸 |
| 2) 医療安全 | 4.10 | 田縁 尚 |
| 3) 療法外業務の効率化に向けての取り組み | 5.12 | 前田 健一 |
| 4) FIMについて | 9.18 | 福川 愛子 |
| 5) 医療安全0レベル | 10.29 | 小田 洋子 |
| 6) 筋肉とたんぱく質 | 12.18 | 荒木 翔太管理栄養士 |

院内研修（7月24日開催）

「適正なりハビリテーション処方・算定について」

長崎大学病院 リハビリテーション科 高島 英昭 教授

4. 理学・作業療法士等養成校臨床実習受け入れ

R7.11.17-12.19 見学実習1名 長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 2年

指導者：福川 愛子

**研究業績****学会・研究会・講演****B：国内学会****B-b2：一般演題**

<ポスター>

- 1) 早産時に対するポジショニングアプローチの心肺機能に与える影響について.
川崎奈穂.
第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.



脳神経外科

責任者 案田 岳夫

診療科の特色

4名の脳神経外科学会専門医（うち日本脳卒中学会専門医2名、日本脳卒中の外科学会技術指導医1名、日本脳神経血管内治療学会専門医1名、脳血栓回収療法実施医1名、日本てんかん学会専門医1名、日本小児神経外科学会認定医2名、日本臨床神経生理学会専門医1名）、および1名の脳神経外科専攻医が主に脳神経外科診療に携わっています。対象疾患は、脳卒中、未破裂脳動脈瘤、てんかん、頭部外傷、脳腫瘍、水頭症、機能的脳神経外科疾患（顔面けいれんなど）などで、年間手術症例は毎年300例を超えています。一次脳卒中センターに認定されている当院では、本土・離島に関わらず広く、また365日24時間絶え間なく患者さんを受け入れています。救急患者受け入れにおいては、救命救急医、脳神経内科医と連携し脳卒中ホットラインを運用しています。離島発症超急性期脳梗塞患者に対しては、画像伝送システムを駆使し全国に先駆けて“t-PA drip and ship”を開始し、近年ではさらに血管内治療による血栓回収療法を組み合わせた“drip, ship and retrieve”を行っています。脳動脈瘤に対するカテーテル塞栓術の進歩も劇的で、全国的に従来の直達手術によるクリッピング術から、塞栓術へのシフトが進んでいますが、当院でも同様です。てんかんセンターでもある当院では、てんかん患者に対する的確に診断を行い、特に難治症例に対する手術治療を行っています。全国から患者さんが来院し、小児科医、臨床心理士、およびMSWと連携し包括的な診療を提供しています。その他、公的、私的研究費を獲得し、臨床研究にも励んでおり多数の研究発表を行っています。患者さんに速やかに良質の医療を提供することをモットーとして我々は働いていますが、ワーク・ライフバランスも重要視しています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
11,855人	32.5人	515人	514人	36人	23.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
250件	95.2%	409件	108.8%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
188人(36.7%)	113人(22.1%)	7人(1.4%)	9人(1.8%)	3人(0.6%)	46人(9.0%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
7人(1.4%)	15人(2.9%)	16人(3.1%)	3人(0.6%)	2人(0.4%)	8人(1.6%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
		20人(3.9%)	15人(2.9%)		
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
5人(1.0%)	13人(2.5%)	10人(2.0%)	32人(6.3%)		512人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
1) 脳腫瘍	C71	25	3
2) クモ膜下出血	I60	56	12
3) 未破裂脳動脈瘤	I67.1	63	0
4) 脳動静脈奇形	G28.3	7	2
5) 脳梗塞	I63	10	1
6) 脳出血	I61	96	9
7) 頭部外傷	S09	67	4
8) 慢性硬膜下血腫	I62	58	0
9) 水頭症	G91	10	0
10) てんかん	G40	65	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
1) 脳動脈瘤頸部クリッピング	39.51	21	1
2) 脳出血血腫除去術	1.39	13	0
3) 脳腫瘍摘出術	1.59	7	0
4) 頭部外傷開頭血腫除去術	1.24	13	1
5) 慢性硬膜下血腫穿頭血腫ドレナージ術	1.31	66	1
6) 難治てんかん手術	4	27	0
7) 水頭症脳室腹腔シャント術	2.34	13	0
8) 脳梗塞血管吻合術	38.31	4	0
9) 動脈血栓内膜摘出術		2	0
10) 血管内手術（コイル塞栓など）	38.81	77	2

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
310	202	0	0	108	170	140

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	140	0	0	0	0
緊急手術	170	4	3	0	0

手術症例数

総手術症例数：319（A+B）+ 1（C）= 320例

（A）直達手術：235例

・脳血管障害：47例

脳動脈瘤：22例

	破裂17例	未破裂5例
中大脳動脈瘤	10例	4例
内頸動脈瘤	2例	0例
前交通動脈瘤	3例	1例
前大脳動脈瘤	1例	0例
後下小脳動脈瘤	1例	0例

脳内出血：15例

	開頭術13例	定位手術2例
被殻出血	7例	4例
皮質下出血	6例	0例

内頸動脈内膜剥離術：2例

頭蓋内血管バイパス術：5例

STA-MCA吻合5例（うち、もやもや病複合バイパス術3）

脊髄硬膜動静脈瘻導出血管離断術：2例

総頸動脈再建術：1例

・脳腫瘍：9例

神経膠芽腫：2例

髄膜腫：2例

転移性脳腫瘍：1例

悪性リンパ腫：1例

血管芽腫：1例

孤発性繊維性腫瘍：1例

頭蓋骨腫瘍摘出術：1例

・頭部外傷：80例

急性硬膜下血腫：8例

急性硬膜外血腫：5例

脳挫傷：1例

慢性硬膜下血腫：66例

・てんかん：29例

側頭葉切除：1例

前頭葉切除：1例

後頭葉切除：1例

焦点切除：2例

半球離断：1例

脳梁離断：7例

前頭葉離断：1例

頭蓋内電極埋め込み：1例

迷走神経刺激装置埋め込み：5例

迷走神経刺激装置入れ替え：8例

迷走神経刺激装置除去：1例

・水頭症：23例

VP shunt：14例

VA shunt：2例

LP shut：4例

シャント抜去/延長：2例

くも膜嚢胞CP shunt：1例

・減圧開頭術：10例

・頭蓋形成術：14例

・脳室ドレナージ術：13例

・感染：7例

・ICPセンサー留置術：1例

・浅側頭動脈生検術：2例

(B) 血管内治療：84例

・脳動脈瘤コイル塞栓術：29例

	破裂17例	未破裂12例
内頸動脈瘤	6 例	5 例
前交通動脈瘤	7 例	2 例
中大脳動脈瘤	0 例	0 例
椎骨動脈瘤	0 例	3 例
脳底動脈瘤	2 例	2 例
前大脳動脈瘤	1 例	0 例
後下小脳動脈瘤	1 例	0 例

- ・脳動脈瘤Flow diverter：7 例
 - ・脳動脈瘤 WEB：1 例
 - ・硬膜動静脈瘻：6 例（うちOnyx 5 例）
 - ・頸動脈ステント：12例
 - ・血栓回収：25例
 - ・TAE（腫瘍）：1 例
 - ・慢性硬膜下血腫：3 例
- (C) 放射線治療：4 例
- ・定位放射線治療：1 件
 - ・定位放射線治療以外：3 例

競争的資金獲得

（日本学術振興会 科学研究費補助金）

No.	区分	代表 分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継	代表	小野 智憲	小野 智憲	基盤（C）一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
脳神経疾患症例検討会 （脳神経外科、脳神経内科、救命救急科、研修医）	週 1 回
脳卒中モーニングカンファレンス （脳神経外科、脳神経内科、研修医）	平日毎日
院内てんかんカンファレンス	月 1 回
長崎てんかんグループカンファレンス	月 1 回
リハビリカンファレンス （脳神経外科、脳神経内科、看護師、リハビリスタッフ、栄養士、MSW）	週 1 回

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1 (3)	(1)		

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	4	24	4	5

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	学会受賞口演			
件数	1			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1	4		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Bleeding Rate of Concomitant Unruptured Intracranial Aneurysms in Patient With Subarachnoid Hemorrhage During Hospitalization.
Yamaguchi S, Morofuji Y, Maeda H, Izumo T, Kaminogo M, Ando T, Suyama K, Matsuo T.
Nagasaki SAH Registry Study.
Neurosurg Rev. 2025 oct 21 ; 48(1) : 728. doi : 1007/s10143-025-03872-9.

A-a2：英文症例報告

- 1) Late-onset Vitamin B6-dependent epilepsy caused by compound heterozygous pathogenic PLPBP variants.
Nakamura S, Chinen Y, Minema H, Honda R, Ono T, Mizuguchi T, Matsumoto N, Nakanishi K.
Eur J Med Genet. 2025 ; 78 : 105047. doi : 10.1016/j.ejmg.2025.105047. Epub 2025 Sep 19.

A-b：英文総説

- 1) Epileptic drop attacks : More than just atonic seizures.
Ono T, Sato K, Honda R, Otsubo H.
Epilepsia Open. 2025 ; doi : 10.1002/epi4.70136. Online ahead of print.

B：和文

B-a1：和文原著

- 1) てんかん患者におけるペランパネル一次単剤療法に関する観察研究 (PORTABLE Study) の12 ヶ月時中間報告.
赤松直樹、中本英俊、落合卓、久保田有一、二宮宏智、花谷亮典、渡辺雅子、小出泰道、脇田雄介、兼子直、金村英秋、小野智恵、萩原綱一、上原平、前原健寿、本岡大道、寺田清人、西本昇平、田中華鈴、鶴田大生.
てんかん研究 2025 ; 42(3) : 635-649.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

<口演>

- 1) The pathophysiology of developmental epileptic encephalopathy may involve the selective functional immaturity of astrocytes during cortical development.
Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.
24th Annual Meeting of the Infantile Seizure Society (ISS) . Kuala Lumpur. Malaysia, 2025.7.17-19.
- 2) The pathophysiology of developmental epileptic encephalopathy may involve the selective functional immaturity of astrocytes during cortical development.
Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.
一般口演（英語） 3 ; English Session3. The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society（第58回日本てんかん学会学術集会）. 宇都宮, 2025.10.3.
- 3) Surgical treatments for patients with bilateral perisylvian syndrome.
後藤純寛、小野智憲、本田涼子、佐藤和明、定方英作、原口渉、案田岳夫。
委員会企画 4 ; YES-Japan English Oral Presentation Session 第3部. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.4.

<ポスター>

- 1) Secondary epileptogenesis in human : a case with mesial temporal lobe epilepsy following childhood stroke.
Ta Hong Nhung, Ono T, Sato K, Honda R, Miyata H.
一般ポスター（英語） 3 ; English session3. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.4.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

<特別講演>

- 1) 薬剤抵抗性てんかんの最適な治療を届けるために。
小野智憲。
難治性てんかん診療Cooperation Seminar in Kyushu. WEB, 2025.2.26.
- 2) 60点のてんかん診療：側頭葉てんかん編。
小野智憲。
てんかん診療セミナー in 岐阜. 岐阜, 2025.2.28
- 3) 乳幼児・小児てんかん外科～脳梁離断・半球離断術の経験と術後発達～。
小野智憲。
第9回Kobe Epilepsy TERA KOYA. 神戸, 2025.3.11.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<シンポジウム>

- 1) Epilepsy surgery improves postoperative developmental rates in children with drugresistant seizures.
小野智憲。
シンポジウム 5 ; てんかん外科治療の長期予後－外科治療による真の benefit を考える－. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.7.

- 2) What is an epileptic drop attack, and what should we treat surgically?

Ono T.

19th Asian Epilepsy Surgery Congress. HongKong SAR, China, 2025.11.21-23.

B-b2：一般演題

<Oral>

- 1) Surgical treatment for patients with bilateral perisylvian syndrome.

Yoshihiro Goto, Tomonori Ono, Ryoko Honda, Kazuaki Sato, Eisaku Sadakata, Wataru Haraguchi, Takeo Ando.

English Session4, 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.

<口演>

- 1) 稀少な発作症状を伴う非定型欠伸発作の1例.

西口奈菜子、石川太郎、池田憲呼、本田涼子、佐藤和明、小野智恵.

第32回九州山口てんかん外科研究会. 福岡, 2025.1.25.

- 2) ヘリ搬送までに時間を要した急性硬膜下血腫の1例.

定方英作、原口渉、後藤純寛、松野聡夏、吉田道春、小野智恵、案田岳夫.

頭部外傷. 第30回日本脳神経外科救急学会. 東京, 2025.2.6.

- 3) 傍シルビウス裂症候群のてんかん発作に対する脳梁離断術の経験.

後藤純寛、小野智恵、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫.

一般口演8-4「緩和的外科治療・凝固術」. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.

- 4) 血栓回収療法後のLuxury Perfusionによる再灌流障害.

定方英作、諸藤陽一、立石洋平、堀江信貴、出雲剛、森川実、辻野彰、松尾孝之.

画像診断-MRI/CT 3. STROKE2025. 大阪, 2025.3.7.

- 5) 頭部外傷により発症したdirect CCFの1例.

松野聡夏、定方英作、後藤純寛、吉田道春、小野智恵、原口渉、案田岳夫.

セッション8 外傷・感染・その他(1); B-28. 第149回日本脳神経外科学会九州支部会. 福岡, 2025.3.15.

- 6) 脳神経外科手術の術中脳波計測とCEの業務、役割について～てんかん手術の場合～.

八尋智基、加来泰志、杉山哲司、田代博崇、小野智恵.

一般演題 I. 第17回長崎県臨床工学会. 佐世保, 2025.6.1.

- 7) 全脳梁離断術は術後1年間の発達を好転させる可能性がある.

西口奈菜子、本田涼子、小野智恵、池田憲呼、安忠輝、馬場啓至.

一般演題(口演) 23; てんかん: その他④. 第67回日本小児神経学会学術集会. 米子, 2025.6.6.

- 8) 運動誘発性発作を認めた反射てんかんの一例.

佐藤和明、本田涼子、西口奈菜子、池田憲呼、小野智恵.

一般演題 1. 第20回日本てんかん学会九州地方会. 福岡, 2025.7.12.

- 9) Surgical treatments for patients with bilateral perisylvian syndrome.

後藤純寛、小野智恵、本田涼子、佐藤和明、定方英作、原口渉、案田岳夫.

一般口演(英語) 4; English Session4. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.

- 10) 薬剤抵抗性てんかんにおける外科治療後の発達割合(Developmental rate, DR)に関する検討.

西口奈菜子、小野智恵、佐藤和明、池田憲呼、本田涼子、馬場啓至.

一般口演19; 発達・神経心理. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.

- 11) 髄膜腫との鑑別を要した WHO grade 3 solitary fibrous tumor の一例.

森悠河、後藤純寛、案田岳夫、石飛俊介、三原裕美、定方英作、小野智恵、原口渉.

セッション10; 腫瘍-2. 第150回日本脳神経外科学会九州支部会. 沖縄, 2025.10.11.

<ポスター>

- 1) 破裂動脈瘤の同定に難渋した多発脳動脈瘤の一例.
後藤純寛、吉田道春、案田岳夫、定方英作、小野智恵、原口渉.
1-P1卒外P7-6. STROKE2025. 大阪, 2025.3.6.
- 2) 小児科病棟におけるてんかん外科看護力向上のための取り組み.
林優奈、藤中千佳、岩永恵子、菅明美、池田憲呼、西口奈菜子、本田涼子、小野智恵.
ポスター 5 ; 看護 1. 第12回全国てんかんセンター協議会総会 (JEPICA2025金沢大会). 金沢, 2025.3.22.
- 3) 孔脳症に慢性硬膜下血腫を合併し意識障害を呈した 1 例.
定方英作、吉田光一、角田圭司、松尾孝之.
嚢胞. 第53回日本小児神経外科学会. 奈良, 2025.6.7.
- 4) 破裂内頸動脈blood blister like aneurysm (BBA) に対してステント併用コイル塞栓術を行った 1 例.
定方英作、原口渉、後藤純寛、松野聡夏、小野智恵、案田岳夫.
一般ポスター 10 ; 動脈瘤 3. 日本脳神経外科学会第84回学術総会. 横浜, 2025.10.29.
- 5) 頭部外傷により発症したdirect CCFの 1 例.
松野聡夏、定方英作、後藤純寛、吉田道春、小野智恵、原口渉、案田岳夫.
各種動静脈瘻. 日本脳神経外科学会. 第84回学術総会. 横浜, 2025.10.30.
- 6) 再発破裂内頸動脈blood blister like aneurysm (BBA) に対してFD留置を行った 1 例.
定方英作、原口渉、後藤純寛、小野智恵、案田岳夫.
フローダイバーター・WEB, 第 4 回日本脳神経血管内治療学会学術集会. 大阪, 2025.11.12.
- 7) 硬膜下電極を用いた機能マッピングで補足運動野を同定できた小児薬剤性てんかん症例.
小野智恵、内田大貴、佐藤和明、本田涼子.
第55回日本臨床神経生理学学会学術大会. 沖縄, 2025.11.13-15.
- 8) WHO grade 3 solitary fibrous tumorの経験.
後藤純寛、案田岳夫、日宇健、定方英作、小野智恵、原口渉、松尾孝之.
ポスター 24 ; 症例報告6. 第43回日本脳腫瘍学会学術集会. 天童, 2025.12.7.

<特別企画>

- 1) ベトナムにおけるてんかん診療支援：小さなつながりがいつか大きな広がりへ.
小野智恵、佐藤和明、本田涼子.
特別企画 1 ; アジアのてんかん診療支援. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.2.

B-c : 研究会発表

<口演>

- 1) Tigertriever™の使用経験.
後藤純寛、定方英作、小野智恵、原口渉、案田岳夫.
セッション 1. 第48回長崎脳神経外科研究会. 長崎, 2025.7.5.
- 2) 再発成人くも膜嚢胞に対し嚢胞腹腔シャント術を施行した一例.
後藤純寛、原口渉、定方英作、小野智恵、案田岳夫.
第49回長崎脳神経外科研究会. 長崎, 2025.12.20.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

<講演>

1) SenTivaの使用経験.

小野智憲.

スポンサーセミナー；“VNS is a Life Changer”：迷走神経刺激療法の今. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.

F-a：学会・研究会座長[国際学会]

<座長>

1) 小野智憲.

一般口演（英語）3；English Session3, 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

<座長>

1) 小野智憲.

特別講演2（Video 講演）；How to write better papers. The view of a former Editor-in-Chief of Epilepsia. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.

2) 小野智憲.

一般演題（口演）34；てんかん：その他②. 第67回日本小児神経学会学術集会. 米子, 2025.6.7.

3) 小野智憲.

シンポジウム1；小児のてんかん外科のこれから. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.

4) 小野智憲.

シンポジウム20；てんかんセンターのない地域での診療連携（シリーズ）. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.4.



責任者 石川 博士

診療科の特色

○皮膚炎・蕁麻疹・中毒疹

それぞれの疾患の原因の特定に努め、原因を含めて治療を行います。各種アレルギーの原因検索も行っています。難治性の蕁麻疹にも複数の生物学的製剤が使用できるようになりました。

難治例のアトピー性皮膚炎には生物学的製剤やJAK阻害剤内服も使用しています。そのおかげで入院治療が激減しました。

○尋常性乾癬

内服外用薬に加えて、難治例には免疫抑制剤や生物学的製剤を用いた治療を行います。重症例も長期の入院は不要となり、ほぼ皮疹が消退し、外用剤を少し使用するのみのレベルまで改善が期待できる時代になりました。ほとんどの症例が外来治療可能となりました。

○薬疹

最近の分子標的薬などの抗癌剤では半数以上の症例で何らかの皮膚障害が発生します。しかし、抗ヒスタミン薬やステロイド内服などの対応で殆どの症例で治療継続ができます。原疾患の治療をおし進めることが重要と考えています。

○皮膚腫瘍

種々の皮膚腫瘍に対し、ダーモスコピー、超音波検査、CT、MRI検査や病理検査などの必要な検査を行い、良悪性を判断し、手術や化学療法など最適な治療を提供します。

○带状疱疹

皮膚症状に加えて難治性の神経疼痛に対して早期の治療を行い最適の治療薬を選択して早期の治癒を目指します。带状疱疹のエキスパート医師による水曜日午後の外来あり（予約のみ）。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
861人	2.4人	147人	151人		5.8日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
208件	69.6%	189件	62.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
93人(62.0%)	15人(10.0%)	7人(4.7%)	4人(2.7%)	1人(0.7%)	10人(6.7%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
3人(2.0%)	6人(4.0%)	6人(4.0%)			2人(1.3%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
	1人(0.7%)	1人(0.7%)	1人(0.7%)	150人	

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
皮膚悪性腫瘍 (有棘細胞癌、基底細胞癌等)	C44	45	0
皮膚良性新生物	D23	41	0
带状疱疹 + 水痘	B02	24	0
蜂巣炎	L03	9	0
薬疹 中毒疹	D21	8	0
円形脱毛症	L638	6	0
化膿性汗腺炎	L73	4	0

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	ICD-9コード	患者数	死亡退院数
皮膚腫瘍摘出術	86.3	103	0
皮膚悪性腫瘍切除術	86.3	45	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
140	3	0	0	137		140

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	140	0	0	0	0
緊急手術	0	0	0	0	0

その他診療科別の実績資料

外来皮膚生検＋外来小手術 256例

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
県央皮膚科研究会	2カ月に1回
病理医・皮膚科医、病理検討会	1カ月に1回
皮膚科臨床フォトカンファレンス	1週間に1回
皮膚科病理組織カンファレンス	1週間に1回

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	1	0	

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	3	

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	研究会	市民講座		
件数	2	0		

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

皮膚科 石川 博士

◆原著論文

「サブスペシャリティを決めきれなかった理由～こうして僕は何でも屋になった～そのきっかけとなった3例」
Visual Dermatology Vol.24 No.4 p316-317 2025

◆学会発表

「バリシチニブ内服で発毛、中止で全頭脱毛を疑ったが季節性に脱毛を繰り返すびまん性脱毛の1例」
第357回 日本皮膚科学会長崎地方会 2025年7月13日

◆講演会演者

アトピー性皮膚炎の新しい治療法～外用剤を中心に～
2025年5月28日

◆座長

乾癬領域 ソーティクツ時代の乾癬治療をふりかえる
第357回 日本皮膚科学会 長崎地方会 2025年6月20日

◆講義

活水女子大学看護学科2年、臨床病態学Ⅲ、皮膚科講義 2025年6月

中牟田 瑠璃

◆学会発表

「出生時より全身の膿疱を認め、自然軽快した一例」
第358回 日本皮膚科学会長崎地方会 2025年12月20日

◆講義

向陽高校看護学科 皮膚科学 2024年9月、10月の2回

濱辺 真奈

◆学会発表

「残存した左肘皮下膿瘍の切除に至った原発性皮膚ノカルジア症の1例」

第77回 日本皮膚科学会西部支部学術大会 2025年10月19日

里見 直義

◆学会発表

「ナイロン糸ドレナージにより感染性粉瘤の症状制御しえた一例」

第356回 日本皮膚科学会長崎地方会 2025年4月13日 長崎地方会 野北賞受賞



責任者 大仁田 亨

診療科の特色

2025年3月末で、8年にわたり泌尿器科部長としてご尽力いただきました錦戸雅春先生が定年を迎えられ、4月より大仁田が後任として泌尿器科部長を拝命いたしました。新たに近藤翼先生がスタッフとして、また、レジデントの松島俊樹先生の後任として川島大輝先生が赴任され、鹿子木桂医長を含めたメンバーで日常診療にあたっています。錦戸先生は2025年度より緩和ケア科、泌尿器科兼任として現在も当院でご活躍いただいております。松屋福蔵先生も引き続き月2回の外来診療をお願いし、両先輩方より診療のサポート、アドバイスをいただいております。2023年12月に導入されたダヴィンチによるロボット支援手術も軌道に乗り、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術は50例、腎部分切除術は10例を超える症例数をこなしております。今後さらに適応症を拡大し、症例数を増やしていきたいと思っております。また、尿路結石に対するレーザー手術や、腎代替療法関連の手術、腹腔鏡手術、がん化学療法など、すべての領域でレベルの高い医療を提供できるよう、県央の基幹病院のスタッフとしての自覚を持ち、日々精進していききたいと思います。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
5,041人	13.8人	710人	746人	10人	6.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
299件	85.3%	343件	93.2%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
469人(63.0%)	80人(10.7%)	44人(5.9%)	24人(3.2%)	9人(1.2%)	25人(3.4%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
16人(2.1%)	37人(5.0%)	7人(0.9%)			9人(1.2%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.1%)		3人(0.4%)	1人(0.1%)		4人(0.5%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
1人(0.1%)	1人(0.1%)	10人(1.3%)	4人(0.5%)	745人	

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数	コメント
前立腺癌	C61	188		疑い134
膀胱癌	C679	113	1	疑い5
水腎症	N133	112		
腎尿管結石	N202	99		
腎癌	C64	31	2	
急性腎盂腎炎	N10	20	1	
腎盂癌	C65	22	3	疑い2
前立腺肥大症	N40	19		
尿管癌	C66	6		疑い2
停留精巣	Q53	8		

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
尿管ステント関連手術	K783-2,3	191	0
尿道の尿路結石除去術（TUL）	K781 1	83	0
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術（TURBT）	K803 6	81	0
バスキュラーアクセス関連手術	K610-3 他	63	0
腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術	K773-2	28	0
ロボット支援腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（RARP）	K843-4	22	0
膀胱結石 異物摘出術	K798 1	17	0
停留精巣手術	K836	11	0
経尿道的前立腺切除術（TURP）	K841-1	10	0
ロボット支援下腎悪性腫瘍手術（部分切除）（RAPN）	K773-5-1	8	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
762	222	322	0	218	71	691

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	691	0	0	0	0
緊急手術	71		0	0	0

その他診療科別の実績資料

腹腔鏡下副腎摘除術	8例
経尿道的前立腺水蒸気治療	8例
腹膜透析カテーテル関連手術	7例
経皮腎瘻造設術	7例
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘）	4例
献腎移植術	2例
生体腎移植術	1例
前立腺生検	146例

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
症例カンファレンス	1 回/週
病棟カンファレンス	1 回/週
中地区カンファレンス	1 回/月
県央腎カンファレンス	3 回/年
泌尿器科カンファレンス	1 回/週
腎カンファレンス（腎臓内科合同）	1 回/週

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	2	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類				
件数				

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	2	4

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

5) その他

（社会活動）

錦戸 雅春

日本透析医学会

研究者の利益相反等検討委員会 委員

総務委員会 VA血管内治療認定医制度検討小委員会委員

危機管理委員会 医療安全対策小委員会調査委員

統計調査委員会 地域協力委員

日本臨床腎移植学会 評議員

臓器提供推進委員会 委員

日本腎臓学会 腎移植施設資格審査部会 委員

日本アフレスリス学会 九州地方会世話人

西日本泌尿器科 保険委員

長崎県透析医会 幹事

向陽学園看護専攻科 非常勤講師

大仁田 亨

西日本泌尿器科学会 評議員

九州腎臓移植研究会	幹事
長崎県腎不全対策協会	幹事（事務局）
純真学園大学大学院	非常勤講師

鹿子木 桂	
活水大学看護学部	非常勤講師



研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 術前に腎癌が疑われた類上皮型血管筋脂肪腫の一例.
川島大輝、松島俊樹、近藤翼、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、添田李子、三原祐美.
一般演題セッション2. 第104回長崎泌尿器科学会・第282回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2025.6.21.
- 2) 当院におけるロボット支援腎部分切除術の初期成績.
大仁田亨、川島大輝、松島俊樹、近藤翼、鹿子木桂、錦戸雅春.
一般演題セッション3. 第105回長崎泌尿器科学会・第283回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2025.12.20.

<ポスター>

- 1) 全尿路全摘術後の血液透析患者に対して献腎移植を施行した1例.
大仁田亨、岩田隆寿、柿田聖太、松島俊樹、鹿子木桂、荒木慎平、伊藤雅浩、山下由恵、岡哲、錦戸雅春.
レシピエント手術. 第58回日本臨床腎移植学会. 広島, 2025.2.6-8.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

- 1) 錦戸雅春.
悪性腫瘍. 第58回日本臨床腎移植学会. 広島, 2025.2.6-8.
- 2) 錦戸雅春.
講演1. RCC conference in 佐世保. 佐世保, 2025.2.27.
- 3) 大仁田亨.
講演1. 長崎3医療圏 前立腺癌セミナー（県央・県北・県南）. オンライン配信, 2025.2.28.
- 4) 鹿子木桂.
一般演題セッション1. 第104回長崎泌尿器科学会・第282回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2025.6.21.
- 5) 錦戸雅春.
バスキュラーアクセス/モニタリング2. 第70回日本透析医学会学術集会・総会. 大阪, 2025.6.27-29.
- 6) 大仁田亨.
一般講演. RCC conference in 県央・県北. 長崎, 2025.10.23.
- 7) 大仁田亨.
講演2. 長崎3医療圏 前立腺癌セミナー（県央・県北・県南）. Web, 2025.11.7.
- 8) 鹿子木桂.
一般演題セッション1. 第105回長崎泌尿器科学会・第283回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2025.12.20.



責任者 福田 雅史

診療科の特色

(1) 総合周産期母子医療センター

新生児集中治療認定病床（NICU）9床、母体胎児集中治療室（MFICU）6床を有する県内最大の周産期母子医療センターである。長崎県央および離島地域の第2次・第3次周産期医療センターとして、さらに長崎県全体の第3次周産期医療センターとして、県内最多の母体搬送を受け入れている。救命救急センター、ドクターヘリを併設する総合周産期母子医療センターは全国的にも数カ所しかなく、きわめて緊急性を要する重症疾患の母体搬送に効果を挙げている。切迫早産の子宮収縮抑制剤の短期投与法、経口子宮収縮抑制剤の廃止、分娩時のクリステレル法の撤廃、低い会陰切開施行率など、エビデンスに基づく周産期医療を実践している。糖代謝異常妊娠の管理では臨床研究で全国をリードする。日本周産期・新生児医学会基幹研修施設。全国母体胎児医療連絡協議会（MFICU）幹事施設。

(2) 婦人科がん治療センター

婦人科がんの治療センターとして、各種婦人科がんに対する手術、化学療法、放射線療法などの集学的治療を実施している。放射線治療センター（腔内照射を含む）、外来化学療法センター、PETセンターを有するがん拠点病院である。2022年5月より最新の腔内照射装置を導入し、進行子宮頸がん治療症例数が増加している。子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術では、神経温存術式により術後患者のQOL改善に寄与している。近年の化学療法の進歩に伴い、新規薬物を用いた化学療法にも積極的に取り組んでいる。

(3) 産科オープンシステム

2003年7月、全国に先駆けてオープンシステムを導入し約20年の実績がある。産科オープンシステムは、ローリスク妊娠を対象に、大村市内の1つの産婦人科診療所と完全オープンシステムとして連携し実績を上げている。2025年度からは、市内開業医の分娩取り辞めに伴い、同産婦人科診療所とあらたにオープンシステム契約を結び、地域産科医療の維持に貢献している。

(4) 産婦人科専門医研修プログラム基幹施設

2017年度より開始した産婦人科専門医制度の基幹施設。九州を中心とした総合周産期母子医療センター4基幹施設と連携したプログラムで、これまで亀田総合病院、沖縄中部病院、飯塚病院、鹿児島市立病院から専修医を受け入れている。

(5) 臨床研究活動

臨床実績とともに臨床研究に力を入れており、国内外の産婦人科関連学会に多数の臨床研究を報告し、とくに「妊娠と糖尿病」の分野では国内外の臨床研究をリードする。また、国立病院機構ネットワーク研究では、全国のNHO周産期センターとの多施設共同研究の代表研究者施設として、周産期分野の臨床研究の発展に貢献している。

(6) 産科シミュレーション教育

Advanced Life Support in Obstetrics（ALSO）、Basic Life Support in Obstetrics（BLSO）などの産科シミュレーション教育を毎年開催し地域医療レベルの向上に貢献している。ALSOは、離島の周産期医療従事者、救命救急医、助産師、研修医を対象に、BLSOは、おもに救命救急士、救急隊員を対象に、「安心・安全なお産を提供する」ことをテーマにした周産期の医療安全教育コースである。それらコースの認定インストラクターが複数在籍し、コースの開催・指導を行っている。

■ 入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
11,602人	31.8人	1,354人	1,369人	4人	8.5日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
650件	97.1%	742件	108.6%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
552人(40.5%)	249人(18.3%)	13人(1.0%)	25人(1.8%)	2人(0.1%)	94人(6.9%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
137人(10.1%)	72人(5.3%)	38人(2.8%)	3人(0.2%)	3人(0.2%)	38人(2.8%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
3人(0.2%)	2人(0.1%)	3人(0.2%)	1人(0.1%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
1人(0.1%)	14人(1.0%)	20人(1.5%)	93人(6.8%)	1,363人

産科入院主要10疾患

疾患名	ICD-10コード	症例数
1) 切迫早産	O470	78
2) 前期破水	O429	21
3) 多胎妊娠	O849	24
4) 妊娠高血圧症候群	O130, O141	58
5) 糖尿病・妊娠糖尿病	O240, O241, O244	133
6) 子宮内胎児発育制限	O365	20
7) 胎児奇形・その他の胎児異常・羊水量異常	O359	47
8) 常位胎盤早期剥離・NRFS	O459, O683	38
9) 前置胎盤	O441	13
10) その他の合併症妊娠		48

婦人科入院主要10疾患

疾患名	ICD-10コード	症例数
1) 子宮頸がん	C539	56
2) 子宮頸部上皮内新生物	N872	32
3) 子宮体がん・子宮肉腫	C542, C549	31
4) 子宮内膜増殖症	N850, N851	16
5) 卵巣がん・卵管がん・腹膜がん	C482, C56	28
6) 子宮筋腫	D259	29
7) 良性卵巣腫瘍	D27	32
8) 異所性妊娠・卵巣出血	O009, N838	6
9) 子宮脱	N81	6
10) 外陰がん・膣がん	C519, C52	1

主要産科手術

手術名	Kコード	患者数
帝王切開 緊急	K8981, 8983	120
帝王切開 選択的	K8982	106
頸管縫縮術 緊急	K9061, K9062	13
頸管縫縮術 選択的	K9061, K9062	0
吸引分娩	K893	30
子宮内容清掃術（人工妊娠中絶術を含む）	K909	13
不妊手術	K887-21	25
その他の産科手術		11

主要産科手術

手術名	Kコード	患者数
子宮頸がん手術 広汎	K877	6
子宮頸がん手術 準広汎または単摘	K877	5
子宮頸がん手術 治療的円切	K867	2
子宮頸部上皮内新生物 単摘	K877	7
子宮頸部上皮内新生物 円切	K867	15
子宮体がん手術	K877	21
卵巣がん手術	K889	17
単純子宮全摘術（腹式または腔式）	K877	25
単純子宮全摘術（腹腔鏡）	K877	34
子宮筋腫 核出術（開腹）	K8721, 8722	3
子宮筋腫 核出術（腹腔鏡）	K8722	4
子宮鏡手術	K8723	15
良性卵巣腫瘍手術（開腹）	K8881	9
良性卵巣腫瘍手術（腹腔鏡）	K8882	29
異所性妊娠・卵巣出血手術（開腹）	K9121	0
異所性妊娠・卵巣出血手術（腹腔鏡）	K9122	3
子宮脱手術	K865	6
腔腫瘍・外陰腫瘍手術	K549, 856	0
子宮内膜搔爬術	K861	23
その他の婦人科手術		5

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	予定手術	開腹術	開腹術（帝切除く）	腹腔鏡手術
492	174	258	38	1	137	355	344	118	85

その他診療科別の実績資料

分娩数

	単胎	双胎	品胎	多胎	単胎 帝王切	単胎 帝王切率	双胎 帝王切	品胎 帝王切	多胎 帝王切	多胎 帝王切率	全体 分娩数	全体 帝王切数	全体 帝王切率
早産	93	5	0	5	40	53.0%	5	0	5	100.0%	98	45	45.9%
正期産	539	19	0	19	163	30.2%	18	0	18	94.7%	558	181	32.4%
過期産	1	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	1	0	0.0%
合計	633	24	0	24	203	32.1%	23	0	23	95.8%	657	226	34.4%

週数別分娩数

分娩時妊娠週数	単胎	双胎	品胎以上	総数
22	0	0	0	0
23	1	0	0	2
24	0	0	0	0
25	2	0	0	2
26	2	0	0	2
27	5	0	0	5
28	3	0	0	3
29	2	0	0	2
30	7	3	0	10
31	3	0	0	3
32	4	0	0	4
33	8	0	0	8
34	14	1	0	15
35	22	0	0	22
36	19	1	0	20
37	52	5	0	57
38	130	12	0	142
39	208	2	0	210
40	111	0	0	111
41	38	0	0	38
42	1	0	0	1
計	633	24	0	657

週数別分娩数（帝王切開例）

分娩時妊娠週数	単胎	双胎	品胎以上	総数
22	0	0	0	0
23	2	0	0	2
24	0	0	0	0
25	1	0	0	1
26	2	0	0	2
27	3	0	0	3
28	3	0	0	3
29	1	0	0	1
30	5	3	0	8
31	3	0	0	3
32	1	0	0	1
33	4	0	0	4
34	2	1	0	3
35	9	0	0	9
36	4	1	0	5
37	15	5	0	20
38	51	12	0	63
39	75	1	0	76
40	11	0	0	11
41	11	0	0	11
42	0	0	0	0
計	203	23	0	226

出生体重別分娩数

出生体重	単胎	双胎	品胎以上	総数
500g未満	2	2	0	4
500g-999g	11	2	0	13
1,000g-1,499g	17	2	0	19
1,500g-1,999g	24	3	0	27
2,000g-2,499g	59	22	0	81
2,500g-2,999g	194	11	0	205
3,000g-3,499g	258	6	0	264
3,500g-3,999g	58	0	0	58
4,000g-4,499g	10	0	0	10
4,500g以上	0	0	0	0
計	633	48	0	681

救急搬送受け入れ数

月	搬送数
1月	10
2月	15
3月	13
4月	10
5月	6
6月	6
7月	14
8月	13
9月	8
10月	16
11月	12
12月	7
合計	143
平均	11.9

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
周産期カンファレンス	週1回
術前カンファレンス	週1回
抄読会	週1回
婦人科がん症例カンファレンス	週1回
糖尿病と妊娠カンファレンス	月1回
リサーチミーティング	月1回

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	(1)	5 (1)		

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	5	14	1	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				2

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1	1	1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Impact of maternal overweight/obesity and high fasting plasma glucose on adverse perinatal outcomes in early gestational diabetes mellitus.
Iwama N, Yokoyama M, Yamashita H, Miyakoshi K, Yasuhi I, Kawasaki M, Arata N, Sato S, Iimura Y, Masako W, Kawaguchi H, Masaoka N, Nakajima Y, Hiramatsu Y, Sugiyama T, DREAMBee Study Gestational Diabetes Mellitus Group.
J Diabetes Investig. 2025 ; doi : 10.1111/jdi.14411. Epub ahead of print. PMID: 39856811.

B：和文

B-d：和文報告書

- 1) 妊娠糖尿病の診断時期と周産期予後および産後耐糖能異常との関連についての検討.
横山真紀、岩間憲之、宮越 敬、安日一郎、川崎麻紀、荒田尚子、佐藤志織、飯村祐子、和栗雅子、川口晴菜、正岡直樹、中島義之、平松祐司、杉山 隆.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S75-76.
- 2) ペダーセン仮説：その病態理論の変遷.
安日一郎.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S1-3.
- 3) 母乳哺育は妊娠糖尿病既往女性の産後早期の脂質プロファイルを改善する.
勘澤晴美.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S84-85.
- 4) 妊娠糖尿病既往女性の産後の体重変化と糖尿病発症リスク.
山下洋、勘澤晴美、安日一郎.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S58-59.
- 5) 産褥早期の骨格筋量と妊娠中のインスリン抵抗性との関連性.
古賀恵、林勝仁、山下洋、安日一郎.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S92-93.
- 6) 糖尿病スクリーニング陰性女性における妊娠中体重増加との対筋肉量の関連.
古賀恵、林勝仁、山下洋、安日一郎.
糖尿病と妊娠. 2025 ; 25 (2) : S94-95.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

<Poster>

- 1) Association between Early Postpartum Appendicular Skeletal Muscle Mass Volume and Insulin Resistance during Pregnancy.
Koga M, Hayashi K, Yasuhi I.
SMFM Pregnancy Meeting 2025 (米国母体胎児学会). Denver, USA, 2025.1.30-2.1.

- 2) Association of Hemoglobin A1c and Glycosylated Albumin with Adverse Neonatal Outcomes in Gestational Diabetes.

Suga S, Fukuoka M, Kensuke A, Sugimura Y, Kurata N, Yamashita H, Yasuhi I.

SMFM Pregnancy Meeting 2025 (米国母体胎児学会). Denver, USA, 2025.1.30-2.1.

- 3) Disposition Index as a Predictor of Diabetes Development in Women with Gestational Diabetes.

Yamashita H, Kanzawa H, Yasuhi I.

SMFM Pregnancy Meeting 2025 (米国母体胎児学会). Denver, USA, 2025.1.30-2.1.

- 4) The Past and Future of Medical Care on Remote Islands in Japan.

Yamaguchi J, Yasaka T.

WONCA Asia Pacific Regional Conference 2025. Busan, Korea, 2025.4.24-27.

<Oral>

- 1) Effect of Breastfeeding on the Early Postpartum Lipid Profile in Women with Gestational Diabetes Mellitus.

Kanzawa H, Yamashita H, Yasuhi I.

SMFM Pregnancy Meeting 2025 (米国母体胎児学会). Denver, USA, 2025.1.30-2.1.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

<教育講演>

- 1) 子宮がんについて.

福田雅史.

第11回長崎医療センター市民公開講座. 大村, 2026.2.14.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<パネルディスカッション>

- 1) 長崎県内の各医療圏における周産期医療連携体制.

山下洋.

第7回長崎県周産期医療フォーラム. 長崎, 2025.11.30.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 免疫チェックポイント阻害薬による重篤な免疫関連有害事象を発症した再発子宮頸癌の2例.

濱崎創平、山下洋、杉見創、五十川智司、末英明、野々村美香、山口純子、菅幸恵、小川真幸、古賀恵、福田雅史.

第82回九州連合産科婦人科学会. 熊本, 2025.5.10-11.

- 2) FDPの上昇しない分娩後異常出血症例の血液検査および臨床データの特徴.

多田克彦、宮木康成、吉田瑞穂、野見山亮、江本郁子、佐川麻衣子、田中教文、山口恭平、前田和寿、川上浩介.

第35回日本産婦人科・新生児血液学会. 東京, 2025.6.6.

- 3) 重症常位胎盤早期剥離症例を用いた産後異常出血における血尿症例判別式の妥当性の確認.

吉田瑞穂、宮木康成、多田克彦、野見山亮、江本郁子、佐川麻衣子、田中教文、山口恭平、前田和寿、川上浩介.

第35回日本産婦人科・新生児血液学会. 東京, 2025.6.6.

- 4) 妊娠オウム病が原因と考えられた敗血症性ショックにより母体死亡に至った一例。
山下慶、山口純子、菅幸恵、林田啓佑、濱崎創平、金子甲弥、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎、添田李子、三浦史郎。
第41回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎, 2025.6.31-7.1.
- 5) 過去11年間の当院における梅毒合併妊娠についての検討。
林田啓佑、山口純子、菅幸恵、山下慶、濱崎創平、金子甲弥、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎。
第41回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎, 2025.6.31-7.1.
- 6) 分娩後に発症した特発性縦隔気腫および皮下気腫の1例。
加藤玲奈、山口純子、林田啓佑、山下慶、濱崎創平、金子甲弥、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、菅幸恵、山下洋、福田雅史、安日一郎。
第47回日本母体胎児医学会学術集会. 長崎, 2025.8.22-23.
- 7) 自宅分娩後に出血性ショックとなり子宮摘出が必要となった一例。
山下慶、古賀恵、菅幸恵、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、福田雅史、山下洋、安日一郎。
第47回日本母体胎児医学会学術集会. 長崎, 2025.8.22-23.
- 8) 子宮破裂後数日以内に発症したSheehan症候群の一例。
濱崎創平、古賀恵、菅幸恵、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、福田雅史、山下洋、安日一郎。
第47回日本母体胎児医学会学術集会. 長崎, 2025.8.22-23.
- 9) 外陰ヘルペスを合併し、妊娠後期に感染が判明した梅毒合併妊娠の一例。
林田啓佑、山口純子、菅幸恵、金子甲弥、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、山下洋、福田雅史、安日一郎。
第47回日本母体胎児医学会学術集会. 長崎, 2025.8.22-23.
- 10) 対馬から子宮頸がんをなくそう！！～子宮頸がん予防に対する長崎県対馬市の取り組み～。
志田泰一朗、安日一郎。
第10回 ALSO-Japan 学術集会. 高岡, 2025.10.4.
- 11) 自宅分娩後に出血性ショックを呈し子宮摘出を要した一例。
山下慶、古賀恵、菅幸恵、濱崎創平、林田啓佑、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、山口純子、山下洋、福田雅史、安日一郎。
第10回 ALSO-Japan 学術集会. 高岡, 2025.10.4.
- 12) 選択的帝王切開術の至適タイミング。
杉見創、菅幸恵、濱崎創平、末英明、小川真幸、五十川智司、古賀恵、山口純子、山下洋、福田雅史、安日一郎。
第10回 ALSO-Japan 学術集会. 高岡, 2025.10.4.
- 13) チソツマブ ベドチン (Tisotumab vedotrin) 投与に伴う眼毒性に対する当院での予防的対応と治療経過の概要。
末英明、福田雅史、小川真幸、五十川智司、山口純子、杉見創、古賀恵、菅幸恵、山下洋、安日一郎。
第281回長崎産科婦人科学会・長崎県産婦人科医学会学術集会. 長崎, 2025.12.14.

<ポスター>

- 1) PPHと凝固障害. 第1報: 常位胎盤早期剥離症例を用いた分娩後異常出血における血尿判別式の妥当性の確認。
吉田瑞穂、宮木康成、多田克彦、津村圭介、江本郁子、佐川麻衣子、田中教文、山口恭平、前田和寿、川上浩介。
第61回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪, 2025.7.13-15.

- 2) PPHと凝固障害. 第2報:FDPの上昇しない分娩後異常出血症例の血液検査および臨床データの特徴.
多田克彦、宮木康成、吉田瑞穂、津村圭介、江本郁子、佐川麻衣子、田中教文、山口恭平、前田和寿、
川上浩介.
第61回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪, 2025.7.13-15.

F:学術講演他

F-b:学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

- 1) 教育講演 I 「遺伝性血管浮腫合併妊娠の管理と周産期予後」.
福田雅史.
第280回長崎産科婦人科学会・長崎県産婦人科医会学術集会. 長崎, 2025.9.14.
- 2) シンポジウム② 各地域の取り組み.
菅幸恵.
第10回 ALSO-Japan 学術集会. 高岡, 2025.10.4.
- 3) 長崎県における社会的ハイリスク妊婦への対応.
福田雅史.
第7回長崎県周産期医療フォーラム. 長崎, 2025.11.30.



責任者 前川 有紀

診療科の特色

長崎県内の県央および島原地区の中核病院として、幅広い眼科診療を担っております。現在は4名の眼科専門医と1名の専攻医が在籍し、月・金の午前及び火・木の終日外来診療において、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、緑内障、網膜色素変性、涙道疾患など、様々な疾患に対応しています。斜視・弱視やロービジョンケアはそれぞれ水曜午後および月曜・金曜午後に専門外来を設けており、県央・島原医療圏を超えた地域からもご紹介を受けています。また県内でも規模が大きな当院NICUにおける未熟児網膜症診療は専任の医師が担当しています。

外来では、硝子体内注射やステロイドテノン嚢下注射、眼瞼痙攣に対するボトックス注射などの注射治療や、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症、網膜裂孔に対する網膜光凝固術、緑内障に対する選択的レーザー繊維柱体形成術やレーザー虹彩切開術、後発白内障に対するレーザー切開術などのレーザー治療を行っているほか、日帰り白内障手術、翼状片手術なども実施しております。

入院での白内障手術も可能であり、広域医療圏に対応しています。地域の高齢化に伴い、様々な眼・全身合併症を有する80-90代の白内障手術や、過去に白内障手術を受けられた方の眼内レンズ偏位・脱臼などが年々増加しています。緑内障に対しては、眼球への負担が小さな低侵襲緑内障手術（MIGS）であるiStentW挿入術や繊維柱体切開術（眼内法）を主とし、硝子体手術後の難治例にはAhmed緑内障インプラント挿入術を行っています。裂孔原性網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑円孔、黄斑前膜などの網膜硝子体疾患は視力・見え方への影響が大きい疾患群であり、適切なタイミングでの硝子体手術を心がけています。特に準緊急疾患である裂孔原性網膜剥離に数多く対応しているほか、眼外傷などの緊急手術もお受けしています。また近年では涙道疾患に対する涙道内視鏡を用いた涙道チューブ挿入術や、耳鼻咽喉科と合同での涙嚢鼻腔吻合術（鼻内法）が徐々に増加しており、対応できる分野を拡げています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
917人	2.5人	480人	481人		1.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
490件	88.0%	1,701件	305.4%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
230人(47.9%)	62人(12.9%)	4人(0.8%)	3人(0.6%)	4人(0.8%)	15人(3.1%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
63人(13.1%)	83人(17.3%)	4人(0.8%)	2人(0.4%)		6人(1.3%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)		3人(0.6%)			
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
					480人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績（入院のみの場合、重複なし、(例)）

疾患名	ICD-10コード	件数（例）	死亡退院数
白内障	H25	278	0
網膜剥離	H33	37	0
緑内障	H40	39	0
黄斑前膜	H35	33	0
斜視	H50	19	0
黄斑円孔	H35	10	0
眼内レンズの合併症	T85	8	0
糖尿病網膜症	H36	8	0
水晶体のその他の障害	H27	7	0
翼状片	H11	7	0

主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績（外来手術を含む場合、重複あり、(眼)）

疾患名	ICD-10コード	眼数	死亡退院数
白内障	H25	583	0
網膜剥離	H33	39	0
緑内障	H40	50	0
黄斑円孔	H35	11	0
黄斑前膜	H35	33	0
糖尿病網膜症	H36	8	0
水晶体のその他の障害	H27	9	0
翼状片	H11	15	0
眼内レンズの合併症	T85	12	0
斜視	H50	33	0

手術件数と麻酔（件数（人））

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
668	39	0	0	629	32	636

手術成績（件数（人））

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	636	0	0	0	0
緊急手術	32	0	0	1	1

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
診療カンファレンス	2回/週

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	教育講演			
件数	1			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Glucagon-Like Peptide 1 Receptor Agonist Stimulation Inhibits Laser-Induced Choroidal Neovascularization by Suppressing Intraocular Inflammation.
Machida A, Suzuki K, Nakayama T, Miyagi S, Maekawa Y, Murakami R, Uematsu M, Kitaoka T, Oishi A.
Invest Ophthalmol Vis Sci. 2025 ; 66(5) : 15.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<教育講演>

- 1) 徐々に視機能低下が進行していく就労年齢患者さんの話.
石子智士、仲泊聡、前川有紀、田保和也、木下雄貴、濱田佳世.
IC-3 始めるのにあと一歩勇気がでない方に聞いてほしいロービジョンケア症例集Ⅲ. 第79回日本臨床眼科学会. 大阪, 2025.10.9.

B-b2：一般演題

<ポスター>

- 1) 長崎医療センターにおけるロービジョンケア外来開設1年の経過.
前川有紀、西川久美子.
第26回日本ロービジョン学会学術総会. 広島, 2025.5.23.

B-c：研究会発表

<口演>

- 1) Bilateral diffuse uveal melanocytic proliferation (BDUMP) の2例.
古田彩子、前川有紀、大槻早紀、吉村遥香、中尾志郎、宮城清弦、大石明生.
第236回長崎県眼科集談会. 長崎, 2025.12.14.



責任者 田中 藤信

診療科の特色

常勤スタッフ医師 5 名、言語聴覚士（ST）2 名で診療を行っています。嚥下機能検査、訓練も充実しています。当科は頭頸部領域の腫瘍や慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎などの難治性疾患に対して、外科治療を中心に、抗がん剤動注併用放射線治療などの形態温存治療にも力を入れています。また急性の炎症性疾患や急性の難聴、めまい、顔面神経麻痺など入院が必要な方の治療も行っています。2025 年からは人工内耳の手術と手術不能再発癌への光免疫治療も行っています。

<手術>

- 「脳」と「眼」を除いた頭頸部領域全般の手術を行っています。
- 【頭頸部悪性腫瘍】頭頸部領域の腫瘍摘出術や頸部郭清術から口腔・咽頭・上顎などの広範囲摘出術と再建手術などは形成外科・外科と協力して行っています。
 - 【耳】鼓膜形成術、鼓室形成術、乳突削開術、耳小骨再建術ほか
 - 【鼻】内視鏡下鼻内手術、鼻中隔矯正術ほか
 - 【咽頭】口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ほか
 - 【喉頭】顕微鏡下声帯手術、音声改善手術ほか
 - 【唾液腺】耳下腺手術、顎下腺手術、がま腫摘出術ほか
 - 【甲状腺】甲状腺手術（葉切除、全摘、気管合併切除など）
 - 【頸部】頸部良性腫瘍摘出術、正中頸嚢胞摘出術、側頸嚢胞摘出術、頸部リンパ節生検ほか
 - 【気道】気管切開術、喉頭気管分離術ほか

<特殊検査>

- 【聴性脳幹反応（ABR）検査・聴性定常反応（ASSR）検査】新生児に対する脳波を用いた聴力検査
- 【COR】条件詮索反応聴力検査
- 【平衡機能検査】めまいに対する検査
- 【VF検査・VE検査】嚥下機能評価検査

<ST訓練>

嚥下障害の嚥下機能評価検査を行い。摂食・嚥下の間接・直接訓練、顔面神経麻痺の理学療法、構音訓練、失語に対する訓練、発声訓練などを行っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
7,441 人	20.4 人	617 人	622 人	3 人	12.0 日
紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
724 件	89.8 %	519 件	64.0 %		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
239人(38.4%)	171人(27.5%)	17人(2.7%)	7人(1.1%)	6人(1.0%)	43人(6.9%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
47人(7.6%)	49人(7.9%)	17人(2.7%)			6人(1.0%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
1人(0.2%)		1人(0.2%)		2人(0.3%)	1人(0.2%)
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
1人(0.2%)	2人(0.3%)	8人(1.3%)	4人(0.6%)		622人

主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
内視鏡下鼻内手術	K340, K347	71	0
鼓膜形成・鼓室形成・アブミ骨手術	K318, K319, K320	62	0
扁桃摘出術・アデノイド切除	K370, K377	41	0
鼓膜チューブ留置術	K309	30	0
口腔癌、咽頭癌、喉頭癌	K394, K395, K410, K415	28	0
耳下腺腫瘍（良性＋悪性）	K457, K458	24+4	0
甲状腺腫瘍（良性＋悪性）	K461, K463	4+22	0
リンパ節生検	K626	26	0
気管切開（救命病棟）	K386	18（+39）	0
頸癭・頸嚢摘出術	K467	10	0

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
426	381	0	0	45	25	401

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	401	0	0	1	0
緊急手術	25	0	0	1	0

 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
病棟症例カンファレンス	週1回
摂食嚥下カンファレンス	隔週

■ ■ 実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築	観察	オプトアウト	吉田晴郎	吉田晴郎
2	甲状腺腫瘍発症・進展機序の解明	介入	同意書	光武範吏	南恵樹, 田中藤信, 三浦史郎

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2 (3)	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1 (0)	3 (3)	0	9

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	学会受賞口演			
件数	1			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

■ ■ 研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Long-term outcomes of cochlear implantation in adolescents with early-onset hearing loss.
Yoshida H, Kanda Y, Shojinaga S, Satoh C, Kumai Y, Takahashi H.
Auris Nasus Larynx 2025 ; 52(4) : 471-478.
- 2) Cochlear implantation for inner ear malformations with facial nerve aberrations: A retrospective evaluation of eleven cases.
Satoh C, Hara M, Kanda Y, Yoshida H, Takahashi H, Kumai Y.
Cochlear Implants International 2025 ; 26(6) : 486-492.
- 3) Establishing a comprehensive national auditory implant registry in Japan : Trends and demographics from the first two years (2023-2024).
Akazawa A, Fujita T, Uruguchi K, Kitayama M, Ito T, Osaki Y, Shirai K, Yoshida H, Yamamoto N, Doi K, Iwasaki S, Oishi N.
Auris Nasus Larynx 2025 ; 52(6) : 679-686.

A-a2：英文症例報告

- 1) Refractory and Relapsing Laryngeal Edema Possibly Associated With Chronic Tonsillitis and Mycoplasma Infection, Requiring Reintubation and Tracheostomy.
Tsukamoto Y, Sugimoto T, Umeda M, Furuse Y, Yoshida H, Nagae Y, Ohsato Y, Ueki Y, Takahiro M, Ariyoshi K.
Case Reports in Medicine 2025 ; 6638796.
- 2) Complications After a Mandibular Third Molar Extraction.
Kubota Y, Fukumori Y, Kobuchi Y, Hiu H, Masuda Y, Tanaka F, Nakamichi C.
JACEP open 2025 ; Volume 6, Issue 6

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

<Poster>

- 1) Long-term outcomes of cochlear implantation in adolescents with early-onset hearing loss.
吉田晴郎, Kanda Y, Shojinaga S, Satoh C, Kumai Y, Takahashi H.
the 10th Asia-Pacific Pediatric Otolaryngology Society Conference (APPOS 2025 Seoul). Seoul, 2025.11.8.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

<講演>

- 1) 耳管ピン手術の実際. 手術の注意点と最新画像診断.
吉田晴郎.
耳管ピン手術実施医認定講習会. 第35回日本耳科学会. 福岡市, 2025.11.1.

B-b2：一般演題

<シンポジウム>

- 1) 耳管ピン手術.
吉田晴郎.
第10回耳管開放症研究会. 名古屋市, 2025.7.3.

<口演>

- 1) 小児期に難聴がある人工内耳装用者の大学進学状況.
佐藤智生、神田幸彦、吉田晴郎、木原千春、小路永聡美、熊井良彦.
第126回日本耳鼻咽喉科学会. 横浜市, 2025.5.29.

<ポスター>

- 1) 進行下咽頭癌に対する導入化学療法の治療成績の検討.
諸富幸、西秀昭、松井彰子、吉田晴郎、三浦史郎、田中藤信、熊井良彦.
第49回日本頭頸部癌学会. 札幌市, 2025.6.13.
- 2) 副鼻腔CT・MRIによる鼻性視神経症の視力予後に関わる因子の評価.
吉田晴郎.
第64回日本鼻科学会. 文京区, 2025.9.26.
- 3) 成人後の反復する副鼻腔炎を契機に診断された原発性免疫不全症例.
北岡杏子、吉田晴郎、隈上秀高.
第64回日本鼻科学会. 文京区, 2025.9.26.

B-c：研究会発表

＜口演＞

- 1) 診断に苦慮した限局型多発血管炎性肉芽腫（GPA）症例
吉田晴郎.
第97回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.2.26.
- 2) 進行下咽頭癌に対する導入化学療法の治療成績の検討.
諸富幸、田中藤信、吉田晴郎、松井彰子.
第97回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.2.26.
- 3) 細胞診でClass V となった毛母腫の1例.
松井彰子、田中藤信、吉田晴郎、諸富幸.
第97回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.2.26.

＜講演＞

- 1) 難聴、人工内耳について-最近の話題.
吉田晴郎.
長崎県診療情報管理研究会. 大村市, 2025.4.12.

G：学術講演他

G：その他

＜口演＞

- 1) TS-1のみで治療中の中咽頭癌の1例.
田中藤信、神田悠志、吉田晴郎、澤瀬光佑、福守雄太.
第98回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.5.21.
- 2) 悪性外耳道炎を契機に咽後膿瘍を呈した1例.
澤瀬光佑、神田悠志、吉田晴郎、田中藤信、福守雄太.
第98回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.5.21.
- 3) Long-term outcomes of cochlear implantation in adolescents with early-onset hearing loss.
吉田晴郎, Kanda Y, Shojinaga S, Satoh C, Kumai Y, Takahashi H.
Best Poster presentation award (APPOS 2025 Seoul). Seoul, 2025.11.8.
- 4) 顎下腺内に迷入した魚骨異物例.
前田耕太郎、田中藤信、吉田晴郎、神田悠志、福守雄太.
第100回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.11.19.
- 5) 下顎第三大臼歯抜歯後の咽頭血腫により気道緊急となった1例.
福守雄太、田中藤信、吉田晴郎、前田耕太郎、神田悠志.
第100回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.11.19.
- 6) 頭痛を主訴とし上咽頭軟部陰影を認めた一例.
神田悠志、田中藤信、吉田晴郎、前田耕太郎、福守雄太.
第100回大村耳鼻咽喉科研究会. 大村市, 2025.11.19.

＜座長＞

- 1) 外耳3.
吉田晴郎.
第35回日本耳科学会. 福岡市, 2025.11.1.

診療部門の概要

1. 装置稼働状況および収支状況

CT、MRI、血管造影装置、核医学装置、放射線治療装置はいずれも安定した取扱件数と診療実績を維持している。令和6年度の装置別収支においては、多くの装置で投資回収年数が概ね妥当な範囲に収まっていたが、装置が老朽化して更新予定の放射線治療装置においては件数が伸び悩んでいる状況である。

救急対応を担うER-CTや循環器系血管造影装置では高い収益性が確認され、放射線科全体としての年間収支は約9億6千万円の黒字となり、病院経営に大きく貢献している。

2. 画像診断体制

CT・MRI検査の画像診断においては、画像診断管理加算3の新設に対応し、これにより年間約1,260万円の増収を達成した。また、迅速な画像診断体制ならびに夜間・休日のオンコール体制を構築した結果、CT・MRI検査における翌診療日までの読影率は98.9%を維持しており、緊急性の高い症例に対しても安定して対応可能な体制を確立している。

これらの取り組みは、外部機関による審査においても高い評価を得ている。

3. 看護部門との連携

放射線部門には、CT、MRI、血管造影、PET、放射線治療など各部署に看護師を配置して頂いている。看護師は同意書確認、問診、患者誘導、注射、処置介助、検査説明、副作用管理、精神的ケアなど多岐にわたる業務を担い、すべての業務において観察・記録を含めた対応を行っている。これらの活動は、タスクシフト・タスクシェアによるチーム医療推進の好例であり、診療の質向上と業務効率化の両立に寄与している。

4. アミロイドPETの導入とPET運用改善

新たにアミロイドPET検査を導入し、地域連携による検査獲得を進めた。導入にあたっては、読影トレーニングの受講およびPET撮像施設認証Ⅰを取得している。PET検査枠の運用見直しおよびアミロイドPET専用枠の新設などの予約体制を整備により、35件の検査依頼を受注することができた。

5. 原子力災害医療への参画

原子力災害医療への参画にも積極的に取り組んでいる。令和7年度第1回原子力災害医療派遣チーム研修（令和7年6月13～14日、済生会川内病院）においては、診療放射線技師2名が参加した。中核人材、派遣チーム、甲状腺測定といった各区分において必要人材を確保し、拠点病院としての役割を果たす体制整備を進めている。

6. 今後の課題と提案

老朽化および高稼働装置を中心とした計画的な機器更新を進めるとともに、人材育成と業務効率化を両立させ、診療の質と経営基盤のさらなる強化を図りたい。

■ ■ 入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
5 人		1 人	1 人		5.0日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
1,236件	98.4%	1,535件	122.2%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
1 人(100%)					

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
					1 人

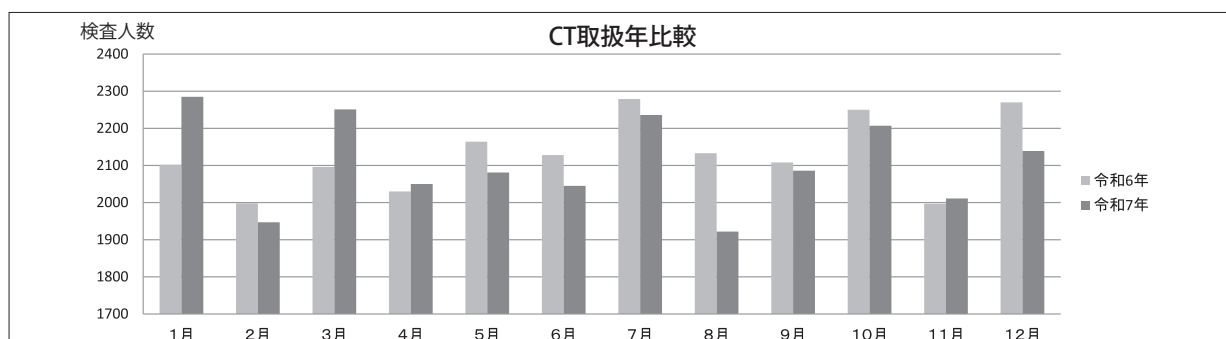
放射線部門診療取扱数年比較

		令和6年	令和7年
総数（人数）		96,029	94,685
一般撮影	総数（人数）	48,490	48,762
	胸部【件数】	42,654	42,945
	腹部【件数】	8,367	8,886
	骨【件数】	15,672	16,370
	乳房【件数】	4,711	4,794
	造影撮影【件数】	0	0
	その他【件数】	2	15
透視	総数（人数）	2,853	2,611
	消化管造影	248	242
	その他造影	2,605	2,367
	透視・撮影のみ	0	2
C T	総数（人数）	25,555	25,260
	頭部	5,646	5,179
	頭部以外	19,909	20,081
M R	総数（人数）	8,100	8,140
	頭部	4,338	4,273
	頭部以外	3,762	3,867
造影管	総数（人数）	1,056	1,001
	アンギオ	414	425
	心カテ	642	576
核医学	総数（人数）	1,483	1,475
	心筋	159	181
	脳血流	55	67
	骨	146	159
	その他	1,117	1,064
	PET-CT	876	872
	非密封RI治療	6	4
放射線治療	総数（人数）	8,492	7,436
	体外照射	8,111	7,146
	密封小線源治療	96	79
	全身照射	0	0
	定位放射線治療	285	211
	（治療計画）別掲	536	460

CT取扱年比較

令和6年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	471	421	444	463	517	483	538	477	478	508	435	482	5,717
	件数	609	529	559	570	665	608	670	598	599	642	547	614	7,210
外来	人数	1,631	1,577	1,652	1,567	1,647	1,645	1,741	1,656	1,630	1,742	1,562	1,788	19,838
	件数	2,047	1,951	2,045	1,942	2,061	2,056	2,162	2,051	2,007	2,170	1,947	2,210	24,649
小計	人数	2,102	1,998	2,096	2,030	2,164	2,128	2,279	2,133	2,108	2,250	1,997	2,270	25,555
	件数	2,656	2,480	2,604	2,512	2,726	2,664	2,832	2,649	2,606	2,812	2,494	2,824	31,859

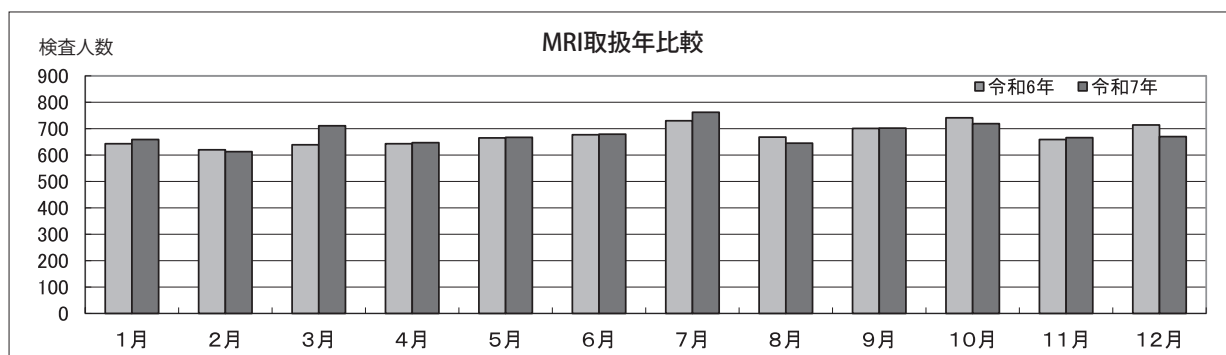
令和7年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	542	408	486	454	401	399	507	410	419	487	482	441	5,436
	件数	684	515	614	562	502	515	656	513	528	634	620	560	6,903
外来	人数	1,743	1,539	1,765	1,596	1,680	1,646	1,729	1,512	1,667	1,720	1,529	1,698	19,824
	件数	2,103	1,901	2,196	1,972	2,077	2,038	2,176	1,882	2,075	2,170	1,887	2,126	24,603
小計	人数	2,285	1,947	2,251	2,050	2,081	2,045	2,236	1,922	2,086	2,207	2,011	2,139	25,260
	件数	2,787	2,416	2,810	2,534	2,579	2,553	2,832	2,395	2,603	2,804	2,507	2,686	31,506



MRI取扱年比較

令和6年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	165	154	145	174	157	168	189	177	177	185	161	181	2,033
	件数	188	175	171	204	190	191	226	208	218	211	181	207	2,370
外来	人数	478	466	494	469	508	509	541	491	524	556	498	533	6,067
	件数	604	583	626	580	633	641	674	632	637	694	625	667	7,596
小計	人数	643	620	639	643	665	677	730	668	701	741	659	714	8,100
	件数	792	758	797	784	823	832	900	840	855	905	806	874	9,966

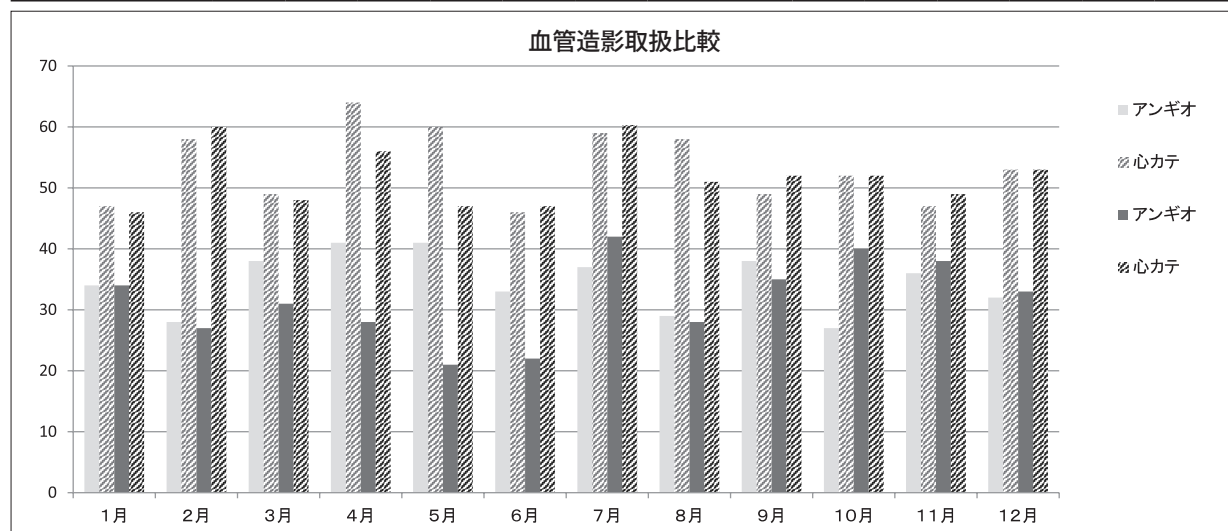
令和7年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	人数	164	164	185	153	163	162	197	165	168	174	165	159	2,019
	件数	187	186	210	170	185	191	225	186	194	199	184	175	2,292
外来	人数	495	449	526	494	504	517	565	480	534	545	501	511	6,121
	件数	612	556	643	604	621	631	684	579	671	661	617	618	7,497
小計	人数	659	613	711	647	667	679	762	645	702	719	666	670	8,140
	件数	799	742	853	774	806	822	909	765	865	860	801	793	9,789



血管造影検査年比較

令和6年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アンギオ (放射線科分)	人数	34	28	38	41	41	33	37	29	38	27	36	32	414
	件数	600	326	599	819	732	614	898	595	633	411	558	427	7,212
心カテ (循環器科分)	人数	47	58	49	64	60	46	59	58	49	52	47	53	642
	件数	875	796	700	888	969	787	975	1,155	817	851	754	918	10,485
合 計	人数	81	86	87	105	101	79	96	87	87	79	83	85	1,056
	件数	1,475	1,122	1,299	1,707	1,701	1,401	1,873	1,750	1,450	1,262	1,312	1,345	17,697

令和7年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アンギオ (放射線科分)	人数	34	27	31	28	21	22	42	28	35	40	38	33	379
	件数	533	552	398	386	387	253	504	439	509	545	679	442	5,627
心カテ (循環器科分)	人数	46	60	48	56	47	47	61	51	52	52	49	53	622
	件数	583	1,026	718	870	721	744	907	856	794	667	649	723	9,258
合 計	人数	80	87	79	84	68	69	103	79	87	92	87	86	1,001
	件数	1,116	1,578	1,116	1,256	1,108	997	1,411	1,295	1,303	1,212	1,328	1,165	14,885



年間

令和7年手技別血管取扱数（総数）

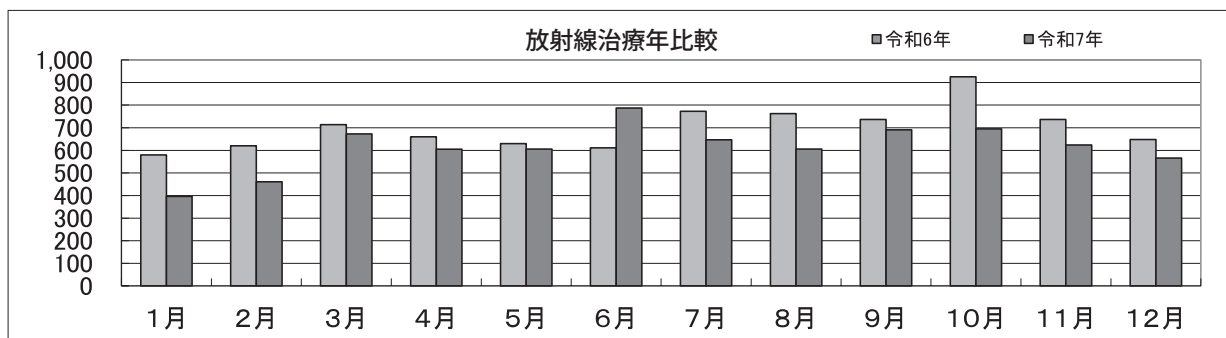
手技区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心カテ診断（大人）	人数	21	21	21	15	14	18	25	20	16	24	27	25	247
	件数	230	224	219	157	139	183	244	179	140	248	268	269	2,500
PCI	人数	12	22	15	21	21	14	18	18	19	10	12	16	198
	件数	259	612	435	560	488	348	458	424	449	263	230	374	4,900
カテーテル アブレーション	人数	9	9	7	7	6	4	9	9	8	11	8	7	94
	件数	56	38	25	15	14	23	70	142	47	42	144	40	656
心カテ診断（小児）	人数	0	1	2	1	1	1	0	0	0	2	0	0	8
	件数	0	4	14	8	3	19	0	0	0	23	0	0	71
頭部血管診断	人数	7	5	9	6	8	6	12	5	9	7	5	9	88
	件数	111	105	152	87	113	89	119	80	112	82	86	98	1,234
脳血管内手術	人数	2	5	3	4	1	3	4	5	3	5	6	7	48
	件数	56	218	80	140	36	68	110	143	60	126	121	150	1,308
脳血栓回収	人数	5	2	0	0	3	0	2	4	0	1	3	3	23
	件数	180	43	0	0	83	0	48	61	0	14	85	75	589
腹部血管診断	人数	0	0	2	0	0	3	1	0	2	4	0	0	12
	件数	0	0	2	0	0	2	10	0	2	32	0	0	48
腹部TAE	人数	3	2	5	2	5	4	3	1	8	5	12	2	52
	件数	20	31	59	16	101	55	39	20	111	71	178	11	712
腹部TACE	人数	8	5	7	8	0	0	7	5	4	6	4	1	55
	件数	71	34	55	113	0	0	91	48	86	110	109	10	727
ステントグラフト	人数	2	2	1	1	0	0	2	1	2	3	2	4	20
	件数	19	48	8	7	0	0	27	19	35	26	29	50	268
シャント拡張術	人数	2	3	2	3	1	0	4	2	2	6	0	5	30
	件数	9	28	17	13	12	0	34	21	17	55	0	32	238
IVCフィルター	人数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	件数	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
その他部位TAE	人数	2	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	7
	件数	35	11	6	8	0	0	10	12	0	0	0	0	82
EVT	人数	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	5
	件数	0	8	0	0	0	0	0	10	75	0	0	0	93
静脈血管診断	人数	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	5
	件数	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	11	0	25
その他	人数	7	7	3	15	8	13	14	7	11	8	7	7	107
	件数	70	169	42	132	119	197	150	136	169	120	67	55	1,426
令和7年 月合計	人数	80	87	79	84	68	69	103	79	87	92	87	86	1,001
	件数	1,116	1,577	1,116	1,256	1,108	997	1,411	1,295	1,303	1,212	1,328	1,164	14,883
令和6年 月合計	人数	81	81	87	105	101	79	96	87	90	81	83	85	1,056
	件数	1,475	1,120	1,299	1,707	1,701	1,401	1,873	1,750	1,450	1,262	1,312	1,345	17,695

（注）人数：血管造影人数、 件数：部位数（ショット数）

放射線治療年比較

令和6年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
リニアック	人数	580	620	714	660	630	611	773	763	737	925	737	648	8,398
腔内（ラルス）	人数	8	16	9	4	4	4	5	6	7	10	12	11	96
治療管理	人数	36	32	31	28	34	32	38	35	27	39	32	25	389

令和7年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
リニアック	人数	396	461	673	605	606	787	647	606	691	695	624	566	7,357
腔内（ラルス）	人数	9	10	5	6	4	5	7	11	10	4	3	4	78
治療管理	人数	21	22	32	31	35	31	27	33	23	37	25	24	341



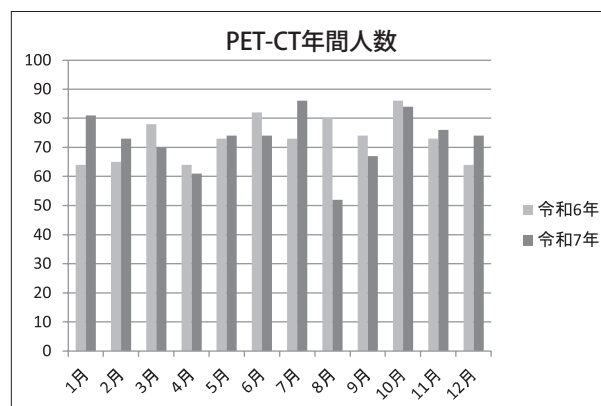
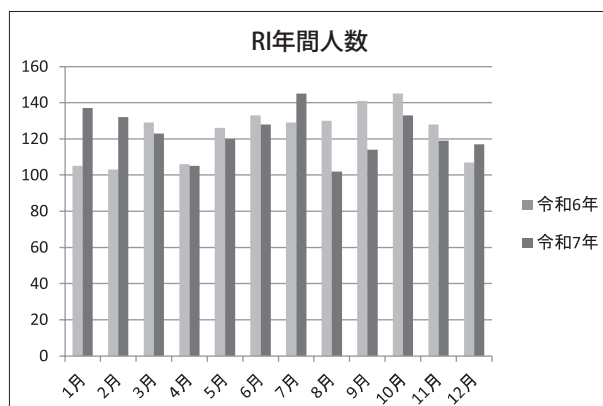
令和7年新規登録症例（原発巣で分類）

疾患名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年合計	6年合計
1. 脳・脊髄	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	3
2. 眼窩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
3. 頭頸部 口腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上咽頭	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	6	0
中咽頭	1	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	1	7	14
下咽頭	1	0	0	1	1	1	0	2	0	1	1	0	8	9
喉頭	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	4
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	1	0	3	4	1	5	3	2	2	6	2	31	29
4. 肺・気管・縦隔	2	5	3	7	3	3	3	4	1	4	3	7	45	77
5. 食道	2	2	0	2	0	4	1	0	0	2	0	1	14	27
6. 胃、十二指腸、小腸	0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	6	10
7. 大腸	1	0	1	1	0	1	2	2	2	1	1	1	13	18
8. 肝・胆・膵	1	4	2	2	3	4	2	4	1	3	2	0	28	28
9. 乳腺	3	2	8	7	5	5	4	6	8	6	3	1	58	49
10. 泌尿器・男性性器	0	2	7	4	6	3	4	3	5	10	3	6	53	35
11. 子宮	5	3	2	4	6	3	5	7	1	5	4	3	48	60
12. その他の女性性器	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	9
13. 骨	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	5	3
14. 皮膚・軟部	0	0	3	1	0	2	0	1	3	0	0	0	10	9
15. 悪性リンパ腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16. 造血器(除悪性リンパ腫)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17. 小児(全)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18. 原発不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19. 良性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20. 転移(骨)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 転移(脳)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. その他	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	4	7
令和7年合計	20	22	30	33	34	31	28	35	24	37	25	25	344	
令和6年合計	40	31	40	27	30	32	38	33	27	38	34	25		395

RI・PET年間

人数		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RI	令和6年	105	103	129	106	126	133	129	130	141	145	128	107	1,482
	令和7年	137	132	123	105	120	128	145	102	114	133	119	117	1,475

人数		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
PET-CT	令和6年	64	65	78	64	73	82	73	80	74	86	73	64	876
	令和7年	81	73	70	61	74	74	86	52	67	84	76	74	872



令和7年核医学検査取扱数

イメージング検査		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
中枢神経	人数	12	10	8	13	11	10	12	10	7	11	10	14	128
	件数	14	11	9	17	14	11	15	13	7	14	16	17	158
循環器	人数	12	17	15	8	12	18	18	14	21	21	11	14	181
	件数	24	34	30	16	24	36	36	28	42	41	22	28	361
呼吸器	人数	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	8
	件数	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	8
内分泌器	人数	10	13	9	2	3	5	6	2	4	3	4	2	63
	件数	10	16	12	2	3	5	6	2	7	3	7	5	78
消化器	人数	6	2	3	5	8	5	4	8	4	4	1	3	53
	件数	6	2	3	5	8	5	4	8	4	5	1	3	54
骨・関節・軟部	人数	14	17	18	14	12	16	18	10	10	9	13	8	159
	件数	28	34	36	28	24	32	36	20	20	18	26	16	318
尿路・生殖器	人数	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3	0	6
	件数	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3	0	6
腫瘍・炎症	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	件数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
PET-CT	人数	81	73	70	61	74	74	86	52	67	84	76	74	872
	件数	81	73	70	61	74	74	86	52	67	84	76	74	872
非密封RIによる治療	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	5
その他(SPECT 再掲)	人数	51	55	50	41	46	50	53	47	39	41	37	37	547
	件数	60	70	64	50	61	65	68	61	54	57	53	51	714
総合計	人数	137	132	123	105	120	128	145	102	114	133	119	117	1,475
	件数	165	170	160	132	147	163	184	129	148	167	152	145	1,862

令和7年超音波検査年報（検査人数）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
胸腹部	318	292	333	350	282	333	372	305	345	358	312	324	3,924
甲状腺	82	87	86	88	86	122	120	86	91	102	107	99	1,156
頭頸部	54	40	45	38	36	51	45	39	38	44	41	47	518
乳腺	41	36	39	50	34	43	40	28	45	58	40	43	497
その他体表	85	59	71	86	70	68	78	69	61	64	68	59	838
心臓	321	302	335	334	329	343	386	344	335	348	313	299	3,989
合計	901	816	909	946	837	960	1,046	871	915	974	881	871	10,927

令和6年	875	874	910	876	889	901	445	401	390	449	420	847	8,277
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

放射線診療に関する資格・認定

取得資格・認定	氏名
医学物理士	伊東 翔太郎
放射線治療専門放射線技師	石田 秀樹、森 康哲
放射線治療品質管理士	石田 秀樹、森 康哲
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	日高 智子、古川 明美、中村 日向子、浅田 菜月、伊東 由紀子
X線CT認定技師	山下 一也、秋田 智和、阿萬 貴史、森 政裕、柳澤 克典
磁気共鳴専門技術者	秋田 智和、阿萬 貴史
救急撮影認定技師	阿萬 貴史、緒方 翔吾
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	宮島 隆一、森 政裕
超音波検査士（消化器）	日高 智子
超音波検査士（体表臓器）	日高 智子
乳がん検診超音波検査実施技師	日高 智子
核医学専門技師	宮島 隆一
Ai認定診療放射線技師	山下 一也、秋田 智和、阿萬 貴史、柳澤 克典
画像等手術支援認定技師	山下 一也、秋田 智和、阿萬 貴史
肺がんCT検診認定技師	阿萬 貴史
PET研修セミナー	宮島 隆一、山下 一也、森 政裕、下田 将輝、儀間 絢音
放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会（調整担当者）	宮島 隆一、日高 智子
塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いたRI内用療法における適正使用に関する安全取扱講習会	下田 将輝、儀間 絢音

放射線や機器管理に関する資格・認定

取得資格・認定	氏名
第一種放射線取扱主任者	宮島 隆一、日高 智子、山下 一也、筒井 昭詔、阿萬 貴史、森 政裕、古川 明美、下田 将輝、伊東 翔太郎、儀間 絢音、伊東 由紀子
衛生工学衛生管理者	日高 智子、山下 一也、石田 秀樹、黒木 慶彦
第一種衛生管理者	日高 智子
第一種作業環境測定士	山下 一也、黒木 慶彦
第二種作業環境測定士	石田 秀樹
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	日高 智子、石田 秀樹
エックス線作業主任者	日高 智子、石田 秀樹
放射線管理士	宮島 隆一、山下 一也、黒木 慶彦、森 政裕
放射線機器管理士	黒木 慶彦、森 政裕
医用画像情報精度管理士	宮島 隆一、黒木 慶彦
医療情報技師	黒木 慶彦

災害医療に関する資格・認定

取得資格・認定	氏名
日本DMAT隊員	森 康哲
原子力災害派遣チーム研修	秋田 智和、柳澤 克典、緒方 翔吾、下田 将輝
原子力災害医療中核人材研修	秋田 智和、黒木 慶彦、柳澤 克典、緒方 翔吾、 下田 将輝、木場 亮
甲状腺簡易計測研修	宮島 隆一、日高 智子、山下 一也、秋田 智和、 黒木 慶彦、阿萬 貴史、緒方 翔吾、木場 亮
原子力災害医療基礎研修	宮島 隆一、日高 智子、山下 一也、秋田 智和、 黒木 慶彦、森 康哲、阿萬 貴史、柳澤 克典、 緒方 翔吾、下田 将輝、木場 亮、大池 朋樹

教育に関する資格・認定

取得資格・認定	氏名
診療放射線技師臨床実習指導者講習会	宮島 隆一、山下 一也



研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
夕焼けカンファレンス	月 1 回
KYT研修	年 2 回



学会・論文など

【医師】

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1			

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類				
件数				

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

学会・論文など

【技師】

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1		(1)	1 (1)

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			2	4

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国内学会	市民公開講座		
件数	1	1		

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

【医師】

学 会 発 表

A：国際学会, 国際会議

A-b2：一般演題

<ポスター>

- 1) Wedged Injection of NBCA Under Occlusion with Microballoon Catheter: Your Ultimate Technique for Challenging situations!

平尾真希、石丸英樹、岡大雅、西村考真、宮村周人、吉見聡美、宮崎敦史、東家亮。

IREE-57. RSNA 2025 Annual Meeting. シカゴ, 2025.11.30.

B：国内学会

B-b2：一般演題

<座長>

- 1) 肩関節：解剖と鍵盤断裂.

宮村周人

整形. 第38回JCRミッドウィンターセミナー. 熊本, 2025.1.25.

【技師】

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Evaluation of the usefulness of the masking on un-smoothed image method in ^{201}Tl myocardial perfusion SPECT.
Ryuichi Miyajima, Ryo Ueno, Ryosuke Ichino, Satomi Teraoka, Yasushi Ishikawa, Masahiro Sonoda.
Radiological Physics and Technology 2025; Volume 18:1308-1313.

B：和文

B-a1：和文原著

- 1) 脳血流シンチグラフィにおける ^{123}I -IMP graph plot法の直線回帰式の検討.
下新原壱成、上野凌、市野凌資、濱田圭介、宮島隆一.
九州国立病院機構診療放射線技師会誌 2025; No.143 September. 2025.

B-d：和文報告書

- 1) 放射線防護具の活用による職業被ばくの防護.
宮島隆一.
放射線防部会誌 2025; Vol.25 No.1 11-18.
- 2) Japan DRLs 2025改定の概要と活用のポイント 6. 診断透視の改定の概要と活用のポイント.
加藤英幸、白神伸之、鶴丸大介、藤淵俊王、松原孝祐、宮島隆一、鷲見和幸、鈴木賢昭、根岸徹、新田見耕太、見本真一、山下一太
INNERVISION 2025; 40巻12号40-43P.

【技師】

学会発表

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<シンポジウム>

- 1) 放射線防護具の活用による職業被ばくの防護.
宮島隆一.
第60回放射線防護部会. 第81回日本放射線技術学会総会学術大会. 横浜市, 2025.4.11.
- 2) 難しい放射線をコントロールしよう.
宮島隆一.
公益社団法人 日本放射線技術学会2025年度市民公開シンポジウム. 京都市, 2025.9.7.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 3Dワークステーションの更新が画像作成時間に与える影響.
緒方翔吾、筒井昭詔、山下一也、日高智子、宮島隆一.
SESSION 3 一般撮影・超音波・手術支援. 令和7年度九州国立病院機構診療放射線技師会学術大会. 福岡, 2025.10.13.
- 2) たんぽぽプロジェクト視察報告.
緒方翔吾.
令和7年度九州国立病院機構診療放射線技師会学術大会. 福岡, 2025.10.13.

B-c：研究会発表

<口演>

- 1) 放射線検査の外来比率増加への取り組み.
宮島隆一.
全国国立病院診療放射線技師長協議会 勉強会. Web, 2025.1.21.
- 2) 内視鏡的逆行性胆管膵造影検査における放射線防護具を用いた水晶体被ばく低減の検討.
森政裕.
会員発表. 令和7年九州国立病院機構診療放射線技師会長崎地区研修会. 大村市, 2025.7.12.
- 3) 施設紹介.
古川明美.
第30回長崎県乳房撮影技術研究会. 長崎, 2025.10.18.

<講演>

- 1) 森康哲.
他施設の検証（運用）方法. 第12回佐賀県放射線治療技術研究会. 佐賀, 2025.7.19.

F：学術講演他

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

<座長>

- 1) 宮島隆一.
放射線防護（放射線管理）. 第81回日本放射線技術学会総会学術大会. 横浜市, 2025.4.10.
- 2) 石田秀樹.
教育公演. 令和7年九州国立病院機構診療放射線技師会長崎地区研修会. 大村市, 2025.7.12.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

麻酔科

責任者 山口 美知子

診療科の特色

術前に病棟へ伺い、身体診察、情報収集と合わせて、麻酔についてのわかりやすい説明を行っています。問題症例のコンサルテーションと休日および手術当日入院患者に対しては、外来で手術室看護師とともに診察・説明を行います。

術中は、適切な麻酔計画、モニタリングにより安全に術中管理できるよう努めています。
手術に関連する痛みを和らげる術後疼痛管理を積極的に行っています。鎮痛薬使用や超音波ガイド下神経ブロック施行により、痛みや不安から解放された快適な周術期を提供することを心掛けています。

2024年4月より、術後疼痛管理チームが発足し、多職種で連携して行う術後疼痛管理を開始しました。現在診療科毎に行われている術後疼痛管理に加えて、横断的なサポートを行うことを目指しています。

入院診療実績

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	脊麻・硬麻（脊硬麻）	神経ブロック	局麻・鎮静	緊急手術	待機手術
3,259	2,967	281・356（186）	1,095	3・1	717	2,542

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
麻酔前カンファランス	5回/週
抄読会	1回/週

学会・論文など

1）原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	2（ 2 ）			

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2）学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3	1	

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3）学術講演 （件数）

種類				
件数				

4）学会座長 （件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Emotional analysis of operating room nurses in acute care hospitals in Japan : insights using ChatGPT.
Hara K, Tachibana R, Kumashiro R, Ichihara K, Uemura T, Maeda H, Yamaguchi M, Inoue T.
BMC Nursing 2025 ; 24 : 30.
- 2) A nonrandomized comparative study of the warning effects of conductive-polymer heating devices in patients undergoing cesarean delivery with spinal anesthesia.
Hagiwara H, Tachibana R, Kumashiro R, Ichihara K, Yamaguchi M, Hara K.
AORN Journal 2025 ; 121(6) : 449-461.
- 3) Preoperative Cutaneous Conditions and Postoperative Skin Injuries in Patients Undergoing Surgery in the Lateral Decubitus Position: A Prospective Cohort Study.
Hara K, Takami S, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro K, Yuge A, Shimoyama K, Tomoshige K, Yamaguchi M, Fujioka M, Tagawa T.
AORN Journal 2025 ; 122(6) : 380-92.

A-a2：英文症例報告

- 1) Anesthetic Management in a Pregnant Woman With Super Morbid Obesity and Severe Obstructive Sleep Apnea Syndrome Undergoing Cesarean Section: A Case Report.
Morimoto T, Ogino H, Hara K, Yamaguchi M, Hara T.
Cureus 2025 ; 17(8) : e90128.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<Poster>

- 1) 腹腔鏡下部消化管手術における術後悪心嘔吐に対するグラニセトロン1mgの予防効果の検討：単施設後方視的研究.
森本崇之、西垣明久、原健太郎、山口美知子.
ポスター：術後評価と管理－術後合併症 2. 日本麻酔科学会第72回学術集会. 神戸, 2025.6.5.
- 2) 周術期の冠攣縮予防－冠攣縮による心室細動既往がある患者に対する術前管理が奏功した高位前方切除術の1例.
巖水慧、東島潮、川副靖晃、和田千香子、吉富修、原哲也.
周術期不整脈. 九州麻酔科学会第63回大会. 熊本, 2025.9.13.

<Oral>

- 1) ウォーミングの有効性に関するランダム化比較試験.
原健太郎、立花玲華、神代竜育、森本崇之、金子翔平、山口美知子.
優秀演題：麻酔科関連 2. 日本麻酔科学会第72回学術集会. 神戸, 2025.6.6.
- 2) 脊椎後方固定術中に投与したオランダセトロンが経静脈的自己調整鎮痛法の中断に与える影響.
副島悠生、寺尾嘉彰、岩永浩貴、大路奈津子、大路牧人、原哲也.
優秀演題候補セッション. 臨床麻酔学会第45回大会. 名古屋, 2025.12.4.


National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center


脳神経内科

責任者 岩永 洋

診療科の特色

当科は例年通り脳梗塞の入院患者が一番多く、ついでてんかんの患者が続いている。2025年は小生の体調不良もあったものの、他の医師の尽力もあり入院患者数は495名と前年比で増加した。来年度は補充人員もくるので、漸次引継ぎを図る。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
9,430人	25.8人	433人	495人	17人	20.3日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
247件	95.7%	499件	125.7%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
260人(53.1%)	82人(16.7%)	12人(2.4%)	4人(0.8%)	3人(0.6%)	43人(8.8%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
8人(1.6%)	14人(2.9%)	17人(3.5%)	3人(0.6%)		8人(1.6%)

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(0.2%)	4人(0.8%)	2人(0.4%)		1人(0.2%)

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
3人(0.6%)	4人(0.8%)	8人(1.6%)	13人(2.7%)		490人

入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数	コメント
脳卒中関連	I63	255	13	
てんかん	G40	104	1	
重症筋無力症	G700	17	0	
CIDP	G618	15	0	
多発性硬化症	G35	9	0	
筋萎縮性側索硬化症	G122	7	3	
パーキンソン病	G20	6	0	
NMOSD	G360	6	0	
ギランバレー症候群	G610	3	0	
フィッシャー症候群	G610	3	0	

主要検査件数

検査	症例数
筋電図・神経電動速度検査	約150

特殊検査ならびに治療成績

特殊治療法	合併症とその内容	症例数	延べ施行回数	死亡退院数
血栓溶解療法		37	37	
血栓回収療法		27	27	2

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
脳外科・脳神経内科合同カンファ	週1回
脳卒中カンファ	週4回

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類				
件数				

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	オンパットロ点滴静注 2 mg/ml 特定使用成績調査	観察	オプトアウト	Alnylam Japan (株)	岩永 洋
2	ソリリス点滴静注 300mg 視神経脊髄炎スペクトラム障害に関する 特定使用成績調査	観察	オプトアウト	アレクシオンファーマ合同会社	岩永 洋
3	アムヴトラ皮下注 25mg シリンジ 特定使用成績調査	観察	オプトアウト	Alnylam Japan (株)	岩永 洋



責任者 藤岡 正樹

診療科の特色

形成外科は先天性（生まれつき）あるいは後天性（けがや腫瘍）に生じた変形や機能障害に対して主に手術を行うことにより、形態および機能を回復させ、さらに精神的な安寧を図り、患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。

基本は創傷処置をはじめとする外傷学ですが、先天奇形、再建、マイクロサージェリー、顎顔面外科レーザー治療へと拡がりを見せています。形成外科では腫瘍、外傷、先天奇形などによる傷や変形を正常に近くなるよう作り直す手術を行います。具体的には、①良性、悪性腫瘍の切除と再建②新鮮外傷③顔面骨骨折④手の外傷⑤熱傷⑥瘢痕とケロイド⑦褥瘡・糖尿病性潰瘍⑧劇症皮膚感染症⑨手足、顔面の先天奇形⑩顎顔面変形に対する治療を主に行っています。

形成外科は上記のように、特定の臓器（呼吸器外科、脳神経外科など）の病気を治療対象とする外科ではなく、全身のあらゆる部位の異常や形態変化を治療対象としています。多くの外科が悪いところを切り取るという「引き算」の手術であることに対して、形成外科は組織の移植などで悪いところを再建するといったいわゆる「足し算」の手術を行うところも特徴といえます。

手術治療概要

国立病院機構長崎医療センター形成外科では毎年800例以上の手術を行っています。多彩な分野に及ぶ形成外科手術ですが、その中でも長崎医療センターは外傷、骨軟部組織感染症といった緊急性の高い疾患と、腫瘍の症例数を多く集めており、全国でも有数の手術数を誇っています。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
4,122人	11.3人	374人	393人	4人	10.7日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
442件	92.4%	244件	49.0%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
127人(33.0%)	106人(27.5%)	13人(3.4%)	7人(1.8%)	5人(1.3%)	27人(7.0%)
島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
28人(7.3%)	23人(6.0%)	12人(3.1%)	2人(0.5%)	1人(0.3%)	4人(1.0%)
平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(0.3%)		1人(0.3%)		
壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計	
1人(0.3%)	2人(0.5%)	14人(3.6%)	11人(2.9%)	385人	

DPC（診断群分類包括評価制度）対象全国5143病院の治療実績・手術件数（2021）

病名	治療実績		順位	
	合計	手術あり	長崎県	全国
熱傷・電撃傷	22	22	1 位	7 位
糖尿病足病変	16	22	2 位	55位
骨軟部の良性腫瘍	77	77	2 位	39位
骨髄炎	18	18	1 位	10位

2025年入院主要10疾患主要疾患別臨床統計ならびに治療成績

疾患名	ICD-10コード	症例数	死亡退院数
外傷	Q70.0-9, C44.0-9, S02.0-9	285	3
腫瘍、母斑、血管腫	D22.0-9, D18.0, D23.0-9, C43.0-9, C44.0-9	307	0
難治性潰瘍	L98	143	0
軟部組織感染症	L97	50	0
先天異常	Q69.0-9, Q70.0-9	43	0
瘢痕・ケロイド		26	0
その他		22	0
合計		876	3

2025年主要10手術方法臨床統計ならびに治療成績

手術名	Kコード	患者数	死亡退院数
創傷処理	86.22	310	
良性腫瘍摘出術	86.21-86	248	
植皮術	86.11-86.3	190	3
皮弁形成術	86.70-75	61	
悪性腫瘍切除術	86.2-86.4	62	
瘢痕形成術	86.84	22	
唇裂・口蓋裂形成術	27.51-59, 27.61-69	12	
筋・動脈皮弁形成術		38	
顔面骨靱血の整復術	76.70-79	21	
遊離皮弁形成術複合組織移植術	86.6	15	

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
876	334	36	0	501	307	529



研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
手術・入院カンファレンス	毎日
病棟回診	1 回/週
褥瘡回診	1 回/週

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別） ①文部科学省科学研究費、②科学研究費助成事業（科学研究費補助金）、③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、④科学技術振興機構科学研究費、⑤その他文部科学省関連研究費、⑥厚生労働省科学研究費、⑦国立高度専門医療センター等研究費、⑧その他厚生労働省関連研究費、⑨日本医療研究開発機構研究費、⑩その他財団等からの研究費、⑪民間セクターからの寄附金	研究課題名	研究者名	研究事業名（依頼業者名）	主任分担	新規継続
1	③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発	藤岡正樹	基盤（C）一般	分担	継続

QOL評価票であるLIBRE Profile-SFの日本語版の開発と同評価票を用いた本邦における熱傷患者の社会参加についての評価の信頼性および妥当性に関する臨床研究
（代表研究者 佐藤幸男 慶応大学）

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	8（1）	9（1）	0	2

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	2	16	8	5

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	2	2

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	3	1

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

1) Investigation of Unavoidable Pressure Injuries in the Actively Dying Stage.

Fujioka M.

Adv Skin Wound Care 2025；38(2)：86-89.

- 2) What degree of deformity resulting from upper auricular wedge resection in elderly patients is acceptable?
Fujioka M, Fujiwara K, Koga K, Hiyoshi N, Nishizono K.
JPRAS Open 2025 ; 44 : 284-290.
- 3) Subclinical Extension of Pigmented Nodular Type Basal Cell Carcinoma in Japanese Patients.
Fujioka M, Noguchi M.
J Plast Reconstr Surg 2025 ; 4(4) : 194-197.
- 4) Changes in social activity in Japan during the COVID-19 pandemic based on the number of trauma surgeries.
Fujioka M, .
J Emerg Med Trauma Surg Care 2025 ; 10(1) : 100076. doi : 10.24966/ETS-8798/100076.
- 5) Trends and issues of foreign patients undergoing plastic surgery over the past 15 year.
Fujioka M, Fujiwara K, Yoshino K, Yoshida D.
J Plast Reconstr Surg. Advance Publication by J-STAGE: November 21, 2025 ; <https://doi.org/10.53045/jprs.2025-0088>.
- 6) Preoperative Cutaneous Conditions and Postoperative Skin Injuries in Patients Undergoing Surgery in the Lateral Decubitus Position : A Prospective Cohort Study.
Hara K, Takami S, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Yuge A, Shimoyama K, Tomoshige K, Yamaguchi M, Fujioka M, Tagawa T.
AORN J 2025 ; 122(6) : 380-392.
- 7) Treatment of unusual complex midcarpal dislocation with open fracture.
Fujioka M.

A-a2 : 英文症例報告

- 1) Case of Fatal Necrotizing Fasciitis caused by *Phaeoacremonium* sp. in Patients undergoing Hemodialysis.
Fujioka M, Fujiwara K, Koga K, Hiyoshi N, Nishizono K.
Am J Biomed Sci & Res 2025 ; 2025 26(1) AJBSR.MS.ID.003405.
- 2) A case of orbital compartment syndrome due to impingement injury caused by piece of wood extending from the orbit to ethmoid sinus.
Fujioka M, Kohei Fujiwara, Kazufumi Koga, Nao Hiyoshi, Keiko Nishizono.
Minerva Ophthalmology in P.
- 3) Successful sclerotherapy for a cervical large lymphatic malformation with Cobb syndrome patient.
Noguchi M, Fujioka M, Fukui K, Yoshino K.
Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques 2025.

B : 和文

B-a1 : 和文原著

- 1) II度熱傷創面の「レッドポイント」は生存真皮表層の新生血管である。
藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子。
熱傷 2025 ; 51(2) : 63-64.

B-b : 和文総説

- 1) 【いまこそupdate! 皮膚悪性腫瘍の治療 part 1】悪性黒色腫の切除縁を再考する。
古賀一史、藤岡正樹。
形成外科 2025 ; 68(2) : 145-152.
- 2) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」四肢の手術 Gustilo-AndersonIII C型骨折は緊急遊離フロースルー皮弁で再建する。
藤岡正樹。
形成外科 2025 ; 68巻 (13増刊) : S102.

- 3) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」
体幹の手術 広範囲熱傷では初回手術でまず頸部をシート植皮する.
藤岡正樹.
形成外科 2025 ; 68巻 (13増刊) : S86.
- 4) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」
頭蓋・顔面の手術 顔面BCCの切除マージンは3 mm以下とする.
藤岡正樹.
形成外科 2025 ; 68巻 (13増刊) : S69.

B-c1 : 和文著書 [編集]

- 1) 藤岡正樹.
形成外科【特集】進行癌に伴う皮膚潰瘍の緩和治療に形成外科医はもっと関心を寄せるべし. 克誠堂. 東京, 2026.3.1.

B-c2 : 和文著書 [分担]

- 1) 形成外科医は末期患者の悪性皮膚腫瘍に対して目を向けるべきである.
藤岡正樹.
『形成外科』【特集】進行癌に伴う皮膚潰瘍の緩和治療に形成外科医はもっと関心を寄せるべし. 克誠堂. 東京, 2026.3.1.
- 2) 進行性癌による顔面fungating ulcer に対する緩和的手術.
藤岡正樹.
『形成外科』【特集】進行癌に伴う皮膚潰瘍の緩和治療に形成外科医はもっと関心を寄せるべし. 克誠堂. 東京, 2026.3.1.
- 3) 日常で遭遇するような急性外傷、熱傷（培養表皮）、創傷管理.
藤岡正樹.
月刊総合医学雑誌「臨牀と研究」特集「形成外科」 大道学館出版.

学会・研究会・講演

A : 国際学会, 国際会議

A-b2 : 一般演題

- 1) Tetra-combined Z-plasty for wide-scar hip contracture including the anus.
Fujioka M.
2025 John A. Boswick Burn and Wound Care Symposium. Maui, Hawaii, 2025.01.25-30.
- 2) Microscopic changes over time in human dermis after exposure to sodium hydroxide.
Fujioka M.
2025 John A. Boswick Burn and Wound Care Symposium. Maui, Hawaii, 2025.01.25-30.

B : 国内学会

B-a : 特別講演, 教育講演

<特別講演>

- 1) 「いい加減目覚めなさい。論文は書かなきゃいけないものじゃありません。書きたいと思うものです」: 英文論文作成の薦め.
藤岡正樹.
信州形成外科学会第91回例会. 長野, 2025.11.29.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<口演>

- 1) 眼窩内から篩骨洞に貫通した枯れ枝状創の治療経験.
日吉尚、藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、西園馨子.
セッション4. 第125回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2025.3.8.

B-b2：一般演題

- 1) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
一般演題(口演) 3. 第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎, 2025.5.17.
- 2) 形成外科手術を受けた外国人患者の15年間の動向と問題点.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
第126回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2025.7.19.
- 4) 眼周囲発生のSCC浸潤のため眼球摘出が必要となった2症例の治療経験.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
第43回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20-21.
- 5) 高齢者の上部耳介SCCは3cm幅まで単純縫縮が許容できる.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
第43回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20-21.
- 6) 同門会ネットワークを利用した多施設共同臨床研究はコスパ最高でかなり美味しい.
藤岡正樹.
第三部信州形成外科学会第91回例会. 長野, 2025.11.29.

<口演>

- 1) DDBに対してネキソブリッド®の効果不十分であった1例.
古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子、藤岡正樹.
第35回九州熱傷学会学術集会. 福岡, 2025.2.8.
- 2) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
一般口演23; 皮膚悪性腫瘍. 第68回日本形成外科学会総会・学術集会東京, 2025.4.17.
- 3) Gustilo IIIB に対するFix and Flap後のdelayed flap troubleに対する考察.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
一般演題(口演) 12; 顔面外傷・骨折. 第17回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2025.7.4.
- 4) Uldag Fournier's gangrene severity index (UFGSI) はフルニエ壊疽の重症度を反映しているか.
藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
一般演題19; 感染・リンパ. 第34回日本形成外科学会基礎学術集会. 鹿児島, 2025.10.17.
- 5) Uldag Fournier's gangrene severity index (UFGSI) は臨床像と大きく乖離している.
吉田大作、藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、日吉尚.
演題1. 第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.

<ポスター>

- 1) カンボジアにおける医療支援活動.形成外科Surgical outreach報告.
藤岡正樹、西條広人、野口美帆.
ポスター 58; 小児・成育医療2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

- 2) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか。
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作。
ポスター 79；皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 3) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美、三浦史郎。
ポスター 79；皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 4) Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の1例。
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作。
ポスター 79；皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 5) 眼窩から篩骨洞に至る杓創により眼窩コンパートメント症候群を呈した症例。
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作。
ポスター 108；救急・集中治療 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 6) 前腕コンパートメントシンドロームの治療経験。
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平。
ポスター 108；救急・集中治療 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 7) 遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美。
ポスター 127；歯科・口腔・頭頸部疾患 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 8) 隆起状皮膚潰瘍を有する末期乳癌患者の問題点と、その解決策としてのpalliative plastic surgery。
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作。
ポスター 135；支持療法・緩和医療 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 9) 形成外科手術を受けた外国人患者の15年間の動向と問題点。
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作。
ポスター 195；医療の質 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 10) Gustilo IIIBに対するFix and Flap後のdelayed flap troubleに対する考察。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子。
ポスター 212；関節・その他. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 11) 右肘関節開放脱臼骨折に対し複数再建術を要した1例。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子。
ポスター 212；関節・その他. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 12) アルカリによる化学損傷の3例。
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平。
ポスター 225；救急・集中治療 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

B-c：研究会発表

- 1) 藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子。
長崎重度四肢外傷Peer Review Meeting Zoom, 2025.2.9.
- 2) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか（アンケート結果報告）。
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚。
第118回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2025.5.24.
- 3) 骨折診療「基本のき」～忘れるな手術前後のレントゲン～。
吉野健太郎、藤岡正樹、藤原洸平、吉田大作。
第3回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2025.12.7.

C, D, F：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

<講演>

- 1) 消毒は毒バイ！！傷をきれいに早く治すコツ.
藤岡正樹.
教育セミナー. 大牟田天領病院講演会. 大牟田, 2025.7.25.
- 2) 藤岡が世界に遺した爪痕.
藤岡正樹.
第3回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2025.12.7.

<特別講演>

- 1) 高齢者はTBSA20%未満でも死亡の転機を遂げます：早期専門施設への搬送の薦め.
藤岡正樹.
第36回日本熱傷学会九州地方会. 大村, 2026.2.7.

<招待講演>

- 1) UPIの実態と終末期患者に生じる創傷（慢性緩和創傷）に対する考え方.
藤岡正樹.
日本褥瘡学会. UPIに関連するミーティング. 東京, 2026.2.15.

D：学会・研究会開催

<会長>

- 1) 藤岡正樹.
第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

- 1) 藤岡正樹.
一般口演3；下肢 外傷・その他. 第68回日本形成外科学会総会・学術集会東京, 2025.4.16.
- 2) 藤岡正樹.
スポンサードセミナー1；レッツトライSorbact～患者さんのQOL向上のために～. 第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎, 2025.5.17.
- 3) 藤原洸平.
一般演題. 第118回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2025.5.24.
- 4) 藤岡正樹.
特別講演. 第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.
- 5) 吉野健太郎.
一般演題. 第119回長崎形成外科懇話会. 松江, 2025.11.22.
- 6) 吉田大作.
一般演題. 第3回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2025.12.7.



責任者 有吉 毅子男

診療科の特色

国立病院機構長崎医療センター心臓血管外科は、大村市を拠点とした県央地区を中心とする心臓血管外科治療の基幹施設です。高齢化社会となり心・大血管疾患に対して外科的治療介入を必要とする患者数はますます増加し、重症化することが予想されます。

心臓血管外科の診療目標

1. 安全な診療（低い死亡率・合併症罹患率）
2. 質の高い手術（低侵襲手術）

・安全な診療を目指して（低い死亡率、合併症罹患率）

高齢化によって症例数が増加し、特に最近では80歳以上の患者も珍しくなくなってきました。高齢化自体が手術の大きなリスクとなることから、「安全な診療」という目標には相反するリスクの増加が心臓血管外科手術には内在しているという大きなジレンマを抱えています。

このため入念な手術計画、確かな手術手技・術後管理を行うことが成績向上には必須となります。

長崎医療センターではスタッフが新しくなった過去13年間で行われた開心術・胸部大血管手術において緊急症例を含めた術後在院死亡率は0.6%と良好な成績を収めています。

・質の高い手術を目指して（手術の低侵襲化）

低侵襲心臓手術

心臓血管外科の「低侵襲」手術には①人工心肺を使用しない②創自体が小さいことによる低侵襲化の2通りが存在します。

前者は心拍動下冠動脈バイパス術（オフポンプ手術）が代表的であり、現在は広く全国に普及しています。一方で①と②の利点を合わせ持つ大動脈瘤治療に対するステントグラフト留置術もほとんどの心臓血管外科を有する施設で可能となっており、当院でも2014年から積極的に取り組んでいます。

心臓手術に目を向けますと、心臓大血管手術には、安全でより低侵襲・美容にも配慮した術式が求められるようになってきました。MICS（Minimally invasive cardiac surgery）といわれる低侵襲心臓手術では、従来の胸骨正中切開（胸骨を縦に離断）を行わず第4肋間切開（約6cm）、右開胸によるアプローチ法により、弁形成術や弁置換術を行うことができます。限られた視野の中で手術を行う必要があり、より高度な技術が求められる手術術式です。

従来の胸骨正中切開に比較して、①胸骨切断を行わないため、胸骨からの術後出血がない。②骨癒合を待つ必要が無いため、より早期の社会活動復帰が可能である。③正中切開よりも創が小さいため、美容上優れるなど数々の利点を有しています。

当科ではこれまで行ってきた僧帽弁・三尖弁領域での手術に加え、2021年度からは大動脈弁でのMICS手術を行っています。また、2026年からは冠動脈バイパス術（CABG）においても主に左第5肋間開胸によるMICS手術を導入するべく現在準備を行っております。

末梢血管治療においても低侵襲化は進んでいます。閉塞性動脈硬化症に対する従来型の末梢動脈へのバイパス手術は減少傾向にあり、かわりにカテーテルによる血管形成術が増加しています。

高齢化に伴い下肢の冷感や痺れ、ABI（Ankle-brachial index：足関節上腕血圧比）の低下で当科に紹介となる患者さんは多く、薬物・運動療法やカテーテル治療、バイパス手術などさまざまな治療の利点・欠点を踏まえ患者さん個々人の生活強度に合わせ、これらを選択していくことがわれわれの役割と考えています。

さらに、2023年秋からは下肢静脈瘤に対して県央地区では初めてレーザー治療が可能となりました。下肢静脈瘤の99%での主な治療法となりえるもので、皮膚切開を必要としない術式となっています。

■ 入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	(再掲) 死亡	
1,724人	4.7人	98人	101人	2人	17.3日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
80件	89.9%	156件	157.6%		

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
42人(42.0%)	29人(29.0%)	1人(1.0%)			7人(7.0%)

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
6人(6.0%)	9人(9.0%)	1人(1.0%)			

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡(小値賀)	佐々町
	1人(1.0%)		1人(1.0%)		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外		合計
1人(1.0%)	1人(1.0%)		1人(1.0%)		100人

手術件数と麻酔

総手術数	全身麻酔	腰椎麻酔・硬膜外麻酔	静脈麻酔	局所麻酔	緊急手術	待機手術
91	66	0	0	25	12	79

1. 胸部大血管 (N=13)

	総数	上行	弓部	下行	(うちopen stent)	TEVAR	基部置換	在院死亡
大動脈解離	3	3	0	0	0	0	0	0
大動脈瘤	10	2	6	0	5	1	2	0

基部置換としてDavid手術 1例、Bentall 1例

2. 虚血性心疾患 (N=9)

冠動脈バイパス手術	総数	1枝	2枝	3枝以上	OPCAB	on beating	CKD (HD)	在院死亡
	9	1	5	2	2	0	1	0

3. 弁膜症 (N=23)

	総数	弁置換	弁形成	基部置換	MAZE手術	在院死亡
大動脈弁	10	9	0	2	1	0
単弁 (MICS 3例)	3	3	0	0	0	
大動脈弁+CABG	3	2	0	1	0	
大動脈弁+上行大動脈置換術	3	3	0	1	0	
大動脈弁+僧帽弁	1	1	0		1	
僧帽弁	11	3	8	0	5	0
単弁 (MICS 5例)	7	2	5	0	4	
僧帽弁+大動脈弁	1	0	1	0	1	
僧帽弁+三尖弁 (MICS 1例)	3	1	2	0	0	

三尖弁	3	0	3	0	0	1
三尖弁+僧帽弁	3	0	3	0	0	

4. 腹部大動脈 (N=21)

	総数	(開腹)	EVAR	エンドリーク 処置	在院死亡
	21	1	18	2	0
破裂性動脈瘤	0	0	0	0	
非破裂性動脈瘤	21	1	18	2	

5. 末梢動脈手術 (N=5)

総数	(AK)	(BK)	(FF)	Interpose	血管形成 内膜摘除	血栓除去	在院死亡
5	0	0	1	1	0	4	0

6. 下肢静脈瘤 (N=15)

下肢静脈瘤手術	総数	レーザー焼灼	Stripping	高位結紮	在院死亡
	15	15	0	0	0

7. その他

ペースメーカー交換	3				在院死亡 0
-----------	---	--	--	--	-----------

手術成績

	件数	在院死亡	1ヶ月以内死亡	再手術	手術部位感染症
待機手術	79	1	0	0	1
緊急手術	12	0	0	0	0

その他診療科別の実績資料

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
循環器内科・心臓血管外科合同カンファレンス	一回/週
術前カンファレンス (心臓血管外科・ME・手術看護師)	不定期
病棟回診	一回/週
病棟勉強会	不定期
心臓リハビリテーションカンファレンス	一回/週

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	1	0	0

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類	0	0	0	0
件数	0	0	0	0

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論文発表

B：和文

B-a2：和文症例報告

- 1) 下壁心筋梗塞に合併した心室中隔解離、心室中隔穿孔に対するパッチ修復術の1例.

嶋田隆志、田崎雄一、迫史朗、三浦崇.

日本心臓血管外科学会雑誌 2025；54(1)：1-4.


National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

臨床研究センター

責任者 田川 努

診療科の特色

肝疾患高度専門医療施設：高度総合医療施設としての長崎医療センターでは、肝臓内科、肝臓外科、放射線部、病理部、救命救急センター等、関係各部署と密接に連携をとりながら、肝疾患分野での高度の専門的診療を行っています。また、多くの治験を行い、肝疾患治療薬の開発に貢献しています。

臨床研究センター：国が推進すべき政策医療の一つである肝疾患の分野での先駆的な医療や難治性の疾病等に関する診断、治療技術の機能強化を図る目的で2002年に臨床研究センターが設置されました。組織としては、治療研究部、難治性疾患研究部、病因解析研究部、外科治療研究部、機能形態研究部の5つの研究部、14の研究室から構成されています。各研究部は専任研究部長と室長および研究員が配置され、それぞれ連携を保ちながら研究を行っています。

また、2004年に国立病院から国立病院機構へと病院組織の変更に伴い、臨床研究センターは上記のような肝疾患だけではなく、リウマチなどの自己免疫性疾患、国際甲状腺病理、肝がんの外科および血管造影下治療、創傷治癒などの形成外科治療、てんかんの脳外科治療、国際医療協力、等も主たる研究テーマとして臨床研究を展開しています。

NHO肝疾患共同研究ネットワーク：国立病院機構肝疾患ネットワークのグループリーダーとして、ウイルス肝炎・肝癌、肝疾患難病に関して、参加施設から収集した情報、試料を解析して、EBMのためのエビデンスを作るべく研究を推進しています。

厚生労働省肝疾患研究班：厚生労働省科学研究費補助金により研究班を組織し、全国の研究者とともに、国が推進する肝疾患政策を支える研究を行っています。文科省・学術振興会科学研究費も獲得して、基礎的な研究も行っています。

長崎大学大学院（連携講座）：平成16年度より長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻「肝臓病学講座」として連携講座の役割を担っており、6名の教員（教授）が大学院生の教育にあたっており、これまでに16名が卒業しています。

肝疾患診療連携拠点病院：平成19年8月に、全国に先駆けて長崎県の肝疾患診療連携拠点病院としての指定を受けました。長崎県における拠点病院として、県内の肝疾患診療施設と連携してウイルス肝炎・肝癌を中心とした肝疾患の診療、診療支援、医療相談、情報発信を実施するとともに、肝疾患患者の相談に応じています。

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	実施回数
臨床研究センター運営委員会	部長、室長	11	1回/月
臨床研究実践セミナー	全職員	37	5回/年
院内臨床研究発表会	全職員	43	3回/年

競争的資金獲得状況

○厚生労働省 科学研究費補助金

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継	分担	田中 篤	小森 敦正	難治性疾患政策研究事業	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究
2	新	分担	横田 裕行	高山 隼人	地域医療基盤開発推進研究事業	医師の働き方改革を踏まえ救急医療提供制の在り方に関する研究
3	新	分担	若井 聡智	高山 隼人	厚生労働科学特別研究事業	国民保護事案発生時における要配慮者の避難に際した医療提供体制の向上に資する研究
4	継	分担	猪口 貞樹	高山 隼人	地域医療基盤開発推進研究事業	各地域救急医療体制におけるドクターヘリの適正運用と安全運航に関する研究
5	継	分担	今井 克美	本田 涼子	難治性疾患政策研究事業	希少てんかんの診療指針と包括医療の研究
6	継	代表	八橋 弘	八橋 弘	肝炎等克服政策研究事業	様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究
7	継	分担	江口 晋	八橋 弘	エイズ対策政策研究事業	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究
8	継	分担	四柳 宏	八橋 弘	肝炎等克服政策研究事業	様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究
9	継	分担	山口 照英	八橋 弘	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	C型肝炎特措法に基づく薬害C型肝炎患者救済を推進するための実態調査研究
10	継	分担	白阪 琢磨	八橋 弘	友愛福祉財団委託事業	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究
11	新	分担	田中 純子	山崎 一美	肝炎等克服政策研究事業	ウイルス肝炎eliminationに向けた全国規模の実態把握及び将来推計のための疫学研究

○国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）研究費

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	新	分担	江口 晋	小森 敦正	再生医療等実用化研究事業	非代償性肝硬変に対する低分子化合物誘導自己肝前駆細胞を用いた臨床研究
2	継	分担	本多 政夫	小森 敦正	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	肝類洞内皮のバリア破綻を契機とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症と肝発がん機序の解明
3	継	分担	國土 典宏	中村 稔	難治性疾患実用化研究事業	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践（令和6年度分）
4	継	分担	國土 典宏	中村 稔	難治性疾患実用化研究事業	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践（令和7年度分）
5	継	代表	八橋 弘	八橋 弘	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	肝硬変患者の重症度別のQOLと長期経過、予後及びその改善に関する研究
6	新	分担	竹原 徹郎	八橋 弘	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	非代償期を含むC型肝炎肝硬変患者のインターフェロンフリー DAA治療後の長期アウトカムを明らかにする研究
7	新	分担	須田 剛生	山崎 一美	肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	B型肝炎関連疾患のゲノム解析による多様性解明と個別化医療の実現を目指した研究

○日本学術振興会 科学研究費補助金

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継	代表	相葉 佳洋	相葉 佳洋	基盤 (C) 一般	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析
2	継	代表	小野 智憲	小野 智憲	基盤 (C) 一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する
3	継	代表	中村 稔	中村 稔	基盤 (C) 一般	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析
4	継	代表	原 健太郎	原 健太郎	若手研究	手術室における滅菌有効期限を事象依存型無菌性維持に設定するための基礎学研究
5	継	代表	本田 和也	本田 和也	基盤 (C) 一般	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー (NP) を活用したマンパワーの提案
6	継	代表	吉田 晴郎	吉田 晴郎	基盤 (C) 一般	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築
7	継	分担	小野 智憲	伊東 正博	基盤 (C) 一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する
8	継	分担	小野 智憲	三浦 史郎	基盤 (C) 一般	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する

○NHOネットワーク共同研究費

No.	区分	代表分担	研究代表者	分担者	研究事業名	研究課題名
1	継続	代表	中村 稔	中村 稔	R2-NHO (消化) -01	原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究
2	継続	代表	福田 雅史	福田 雅史	R6-EBM (小産) -02	子宮頸部中等度異形成の自然寛解に関する臨床研究
3	継続	代表	森 英毅	森 英毅	R5-NHO (感染) -03	グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証
4	継続	代表	安日 一郎	安日 一郎	R6-EBM (小産) -01	多職種による糖尿病女性のプレコンセプション・ケア・バンドルの開発とその有効性に関する研究
5	継続	代表	山崎 一美	山崎 一美	R6-EBM (消化) -01	急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究
6	継続	分担	吉田 功	今泉 芳孝	R5-NHO (血液) -01	80歳以上未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するボラズマプメドチン+R-miniCHP療法の有効性と安全性を検証する他施設共同非盲検無対照試験
7	継続	分担	成木 治	岡田 覚丈	R6-EBM (免アレ) -04	関節リウマチに伴う間質性肺病変の急性発症/急性増悪に関わる病原体の検索
8	継続	分担	阪森亮太郎	小森 敦正	R5-NHO (消化) -01	脂肪性肝疾患患者の自然経過とイベント発生に関する前向き観察研究
9	継続	分担	原田 洋明	松本 理宗	R6-EBM (癌呼) -01	手術前における好中球・リンパ球比の変化と肺癌術後の短期・長期予後との関連評価
10	継続	分担	菅田 健	森 英毅	R5-NHO (感染) -02	網羅的遺伝子診断技術を用いた感染性胃腸炎病原体解析
11	継続	分担	南 修司郎	吉田 晴郎	R5-NHO (感覚) -02	聞こえにくい方を対象としたオンライン聴覚検査精度に関する観察研究
12		代表	八橋 弘	八橋 弘	肝疾患	コア・グループリーダー予算

学会・論文など

1) 論文

	原著	症例報告	総説	著書	その他
英文	36	4	1	0	0
和文	2	4	13	6	2
計	38	8	14	6	2

2) 学会・研究会

	特別・教育・招待講演	シンポジウム、 パネルディスカッション	一般演題	研究会発表
国際	0	2	16	0
国内	1	8	126	8
計	1	10	142	8

3) 学術講演

種類	国際	国内
件数	0	15

4) 学会・研究会等 座長

	座長
国際	3
国内	28
計	31

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Leveraging virtual reality for advanced scrub nurse education : A non-randomized comparative study of training effectiveness.
Ichihara K, Kitagawa M, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Hara K.
Clinical Simulation in Nursing. 2025 ; 98 ; 101662. <https://doi.org/10.1016/j.ecns.2024.101662>.
- 2) Prevention of Skin Damage Using Disposable Retractors in Open Hepatobiliary Surgery : A Nonrandomized Controlled Trial Comparing Film Drapes and Sewn Gauze.
Tachibana R, Hara K, Kitasato A, Kuroki T.
Cureus. 2025 ; 17(1) : e77116. doi : 10.7759/cureus.77116. eCollection 2025 Jan.
- 3) Emotional analysis of operating room nurses in acute care hospitals in Japan : insights using ChatGPT.
Hara K, Tachibana R, Kumashiro R, Ichihara K, Uemura T, Maeda H, Yamaguchi M, Inoue T.
BMC Nurs. 2025 ; 24(1) : 30. doi : 10.1186/s12912-024-02655-9.
- 4) Changes in serum myostatin levels among patients with type C liver cirrhosis treated with direct-acting antivirals.
Suehiro T, Kozuru H, Matusmoto K, Kugiyama Y, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Hepatol Res. 2025 ; 55(5) : 631-637. doi : 10.1111/hepr.14162. Epub 2025 Jan 22.

- 5) Distinct clinical outcomes based on multiple serum cytokine and chemokine profiles rather than autoantibody profiles and ultrasound findings in rheumatoid arthritis : a prospective ultrasound cohort study.
Fukui S, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Furukawa K, Morimoto S, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Tamai M, Origuchi T, van Schie KAJ, Ueki Y, Eiraku N, Yoshitama T, Matsuoka N, Suzuki T, Okada A, Hamada H, Ayano M, Hidaka T, Tsuru T, Maeda T, Huizinga TWJ, Toes REM, Kawakami A, Kawashiri SY.
RMD Open. 2025 ; 11(1) : e005163. doi : 10.1136/rmdopen-2024-005163.
- 6) Investigation of Unavoidable Pressure Injuries in the Actively Dying Stage.
Fujioka M.
Adv Skin Wound Care. 2025 ; 38(2) : 86-89. doi : 10.1097/ASW.0000000000000274.
- 7) What degree of deformity resulting from upper auricular wedge resection in elderly patients is acceptable?
Fujioka M, Fujiwara K, Koga K, Hiyoshi N, Nishizono K.
JPRAS Open. 2025 ; 44 : 284-290. doi : 10.1016/j.jpra.2025.03.003. eCollection 2025 Jun.
- 8) Validation of PBC-10 in Japanese patients with primary biliary cholangitis.
Takeuchi A, Abe M, Furukawa S, Namisaki T, Takahashi A, Abe K, Kikuchi K, Miura R, Tachizawa N, Asaoka Y, Takaki A, Ueno Y, Honda A, Terai S, Komori A, Ohira H, Yoshiji H, Yonezawa A, Tanaka A.
Hepato Res. 2025 ; 55(7) : 986-993. doi : 10.1111/hepr.14199. Epub 2025 Apr 26.
- 9) Changes in social activity in Japan during the COVID-19 pandemic based on the number of trauma surgeries.
Fujioka M.
J Emerg Med Trauma Surg Care. 2025 ; 10(1) : 100076. doi:10.24966/ETS-8798/100076.
- 10) Lactitol may improve the prognosis of hepatocellular carcinoma through the proliferation of Megasphaera as well as Bifidobacterium.
Abiru S, Kugiyama Y, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Komori A, Yatsuhashi H.
Front Med (Lausanne). 2025 ; 12 : 1567849. doi : 10.3389/fmed.2025.1567849. eCollection 2025.
- 11) A Nonrandomized Comparative Study of the Warming Effects of Conductive-Polymer Heating Devices in Patients Undergoing Cesarean Delivery With Spinal Anesthesia.
Hagiwara H, Reika Tachibana, Kumashiro R, Ichihara K, Yamaguchi M, Kentaro Hara,
AORN J. 2025, 121(6) : 449-461. doi : 10.1002/aorn.14349.
- 12) Enhancing systemic lupus erythematosus treatment outcomes with an early initiation of belimumab : insights from a multicenter retrospective study within the first five years.
Kojima K, Ichinose K, Umeda M, Shimizu T, Sato S, Suzuki T, Nakashima Y, Okada A, Horai Y, Fujikawa K, Aramaki T, Miyashita T, Furuyama M, Matsuoka N, Kawakami A.
Arthritis Res Ther. 2025 ; 27(1) : 116. doi : 10.1186/s13075-025-03581-0.
- 13) Comparison Analysis of Lenvatinib Plus Transcatheter Arterial Chemoembolization Versus Atezolizumab Plus Bevacizumab as First-Line Therapy for Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma Beyond the Up-to-Seven Criteria.
Niizeki T, Mawatari S, Shibata M, Sasaki R, Itoh S, Shakado S, Sugimoto R, Morita Y, Kuwashiro T, Endo M, Iwao M, Motoyoshi Y, Nakano M, Shimose S, Takahashi H, Yatsuhashi H, Hirai F, Yoshizumi T, Miyaaki H, Kawaguchi T, Ido A, Harada M.
J Gastroenterol Hepatol. 2025 ; 40(8) : 2060-2067. doi : 10.1111/jgh.17024. Epub 2025 May 31.
- 14) Pretreatment serum angiopoietin-2 predicts prognosis and liver functional reserve after successful HCV eradication with sofosbuvir and velpatasvir in patients with HCV-related decompensated cirrhosis.
Kawagishi N, Suda G, Tahata Y, Hikita H, Kodama T, Mochida S, Enomoto N, Mawatari S, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Kawada N, Yamashita T, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Miyaaki H, Matsuura K,

- Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Ohara M, Sakamoto N, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; 60(9) : 1145-1156. doi : 10.1007/s00535-025-02275-3. Epub 2025 Jun 20.
- 15) Posttreatment serum CXCL10 level stratifies survival in compensated and decompensated cirrhotic patients due to chronic hepatitis C virus infection after direct-acting antiviral therapy.
Suzuki T, Matsuura K, Tahata Y, Hikita H, Sakamori R, Kawada N, Enomoto N, Miki D, Yatsushashi H, Kuroda H, Yamashita T, Yoshiji H, Kurosaki M, Mawatari S, Miyaaki H, Asahina Y, Hiasa Y, Mochida S, Nakamoto Y, Takami T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; 60(10) : 1272-1283. doi : 10.1007/s00535-025-02282-4. Epub 2025 Jul 1.
- 16) Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis : a prospective cohort study.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; 42(8) : 519-525. doi : 10.1136/emered-2024-214210.
- 17) Human Leukocyte Antigen Genotypes Affect Hepatitis B Virus Mutations Associated With Hepatocellular Carcinoma.
Sugiyama M, Nishida N, Khor SS, Shin-I T, Hino K, Honda M, Kaneko S, Yatsushashi H, Koike K, Kurosaki M, Izumi N, Tanaka Y, Murata K, Kang JH, Tanaka E, Taketomi A, Eguchi Y, Suda G, Sakamoto N, Yamamoto K, Tamori A, Hige S, Itoh Y, Mochida S, Mita E, Ide T, Hiasa Y, Watanabe M, Yamamoto K, Sakai A, Wakita T, Mizokami M, Tokunaga K.
Hepatol Res. 2025 ; 55(11) : 1445-1453. doi : 10.1111/hepr.70007. Epub 2025 Jul 29.
- 18) Lasting impact of undergraduate operating room shadowing on novice nurses : a ChatGPT-supported qualitative study.
Hara K, Tachibana R, Kumashiro R, Inoue T
BMC Nurs. 2025 ; 24(1) : 1151. doi : 10.1186/s12912-025-03770-x.
- 19) Clinical Characteristics and Long-Term Prognosis of Primary Biliary Cholangitis in Japan : Results of the 2nd-Generation Nationwide Survey.
Kugiyama Y, Abe M, Namisaki T, Yoshiji H, Abe K, Ohira H, Shirahashi R, Yokoyama K, Fukunaga A, Kawata K, Umemura M, Honda A, Ikegami T, Miyase S, Nakano T, Komori A, Tanaka A; Japan PBC Study Group.
Hepatol Res. 2026 ; 56(1) : 50-59. doi : 10.1111/hepr.70035. Epub 2025 Sep 11.
- 20) Serum Growth Differentiation Factor 15 Can Be a Novel Biomarker to Predict the Prognosis of Patients With Hepatitis C Virus Cirrhosis After Virus Elimination.
Myojin Y, Hikita H, Tahata Y, Fukumoto K, Kato S, Sasaki Y, Kumazaki S, Tsuchiya A, Enomoto M, Miki D, Yatsushashi H, Kuroda H, Uchida Y, Yoshiji H, Yamashita T, Mawatari S, Tamaki N, Miyaaki H, Asahina Y, Suda G, Matsuura K, Nakamoto Y, Hiasa Y, Takami T, Shirai K, Maesaka K, Murai K, Makino Y, Saito Y, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.
Hepatol Res. 2025 ; doi:10.1111/hepr.70041. Online ahead of print.
- 21) Identification of anti-DOK2 antibodies in patients with autoimmune hepatitis via a human protein microarray.
Abe K, Wada J, Hayashi M, Sugaya T, Abe N, Takahata Y, Fujita M, Takahashi A, Kanno Y, Kuroda M, Saito K, Nozawa Y, Migita K, Yatsushashi H, Ohira H.
Hepatol Commun. 2025 ; 9(10) : e0807. doi : 10.1097/HC9.0000000000000807. eCollection 2025 Oct 1.
- 22) Anti-*Porphyromonas gingivalis* lipopolysaccharide antibody in rheumatoid arthritis patients with emphysema.
Oka S, Higuchi T, Shimada K, Fujimori M, Hashimoto A, Komiya A, Saisho K, Yoshikawa N, Suzuki M, Matsui T, Fukui N, Migita K, Tohma S, Furukawa H.
Front Med (Lausanne). 2025 ; 12 : 1654271. doi : 10.3389/fmed.2025.1654271. eCollection 2025.

- 23) Structural and Functional Outcomes in Rheumatoid Arthritis After 10-Year Therapy with Disease-Modifying Antirheumatic Drugs Under Tight Control : Evidence from Real-World Cohort Data.
Mori S, Okada A, Shimizu T, Takatani A, Koga T.
J Clin Med. 2025 ; 14(19) : 6832. doi : 10.3390/jcm14196832.
- 24) Treatment outcomes stratified by interferon profile and autoantibodies in rheumatoid arthritis.
Fukui S, Michitsuji T, Endo Y, Nishino A, Furukawa K, Shimizu T, Umeda M, Sumiyoshi R, Koga T, Iwamoto N, Tamai M, Origuchi T, van Schie KA, Ueki Y, Eiraku N, Yoshitama T, Matsuoka N, Suzuki T, Okada A, Hamada H, Ayano M, Hidaka T, Tsuru T, Huizinga TWJ, Toes REM, Kawakami A, Kawashiri SY.
J Autoimmun. 2025 ; 157 : 103490. doi : 10.1016/j.jaut.2025.103490. Epub 2025 Sep 30.
- 25) Denosumab versus zoledronic acid for osteoporosis treatment in patients with primary biliary cholangitis (the DELTA Study) : A multicenter, non-inferiority randomized trial.
Arase Y, Okubo T, Arai T, Abe M, Namisaki T, Uojima H, Matsumoto K, Kakisaka K, Setsu T, Mishima Y, Tsuruya K, Hirose S, Deguchi R, Shiraishi K, Atsukawa M, Ikegami T, Honda A, Terai S, Yoshiji H, Komori A, Tanaka A, Kagawa T.
Hepatol Commun. 2025 ; 9(11) : e0827. doi : 10.1097/HC9.0000000000000827. eCollection 2025 Nov 1.
- 26) Urine phospholipid profiling in patients with rheumatoid arthritis and nontuberculous mycobacterial pulmonary disease.
Furukawa H, Oka S, Higuchi T, Okamoto A, Fujimori M, Matsui T, Ihata A, Hirano F, Okada A, Migita K, Tohma S.
Sci Rep. 2025 ; 15(1) : 35694. doi : 10.1038/s41598-025-19452-2.
- 27) Population-Based Molecular Surveillance of Hepatitis B Virus Genotypes in the Goto Islands, Japan : A Three Decade Study (1977-2008) of 916 Carriers.
Ko K, Ataa GA, Yamasaki K, Hirase K, Yasaka T, Shirahama S, Akita T, Sugiyama A, Fukuma S, Takahashi K, Tanaka J.
Hepatol Res. 2025 ; doi:10.1111/hepr.70060. Online ahead of print.
- 28) Subclinical Extension of Pigmented Nodular Type Basal Cell Carcinoma in Japanese Patients.
Fujioka M, Noguchi M.
J Plast Reconstr Surg. 2025 ; 4(4) : 194-197. doi : 10.53045/jprs.2024-0072. eCollection 2025 Oct 1.
- 29) Long-term changes in hepatic reserve and prognosis after direct-acting antiviral treatment in patients with hepatitis C virus-related decompensated cirrhosis : a five-year follow-up study of a Japanese phase 3 trial.
Tahata Y, Hikita H, Takaki A, Kurosaki M, Matsuura K, Yatsuhashi H, Kuroda H, Ueno Y, Maekawa S, Nakamura M, Sakamori R, Kodama T, Takehara T.
J Gastroenterol. 2025 ; doi:10.1007/s00535-025-02312-1. Online ahead of print.
- 30) Trends and issues of foreign patients undergoing plastic surgery over the past 15 year.
Fujioka M, Fujiwara K, Yoshino K, Yoshida D.
J Plast Reconstr Surg. Advance Publication by J-STAGE : November 21, 2025. [https : //doi.org/10.53045/jprs.2025-0088](https://doi.org/10.53045/jprs.2025-0088).
- 31) Preoperative Cutaneous Conditions and Postoperative Skin Injuries in Patients Undergoing Surgery in the Lateral Decubitus Position : A Prospective Cohort Study.
Hara K, Takami S, Uemura T, Tachibana R, Kumashiro R, Yuge A, Shimoyama K, Tomoshige K, Yamaguchi M, Fujioka M, Tagawa T.
AORN J. 2025 ; 122(6) : 380-392. doi : 10.1002/aorn.14441.
- 32) Factors associated with skin exposure of central venous ports in patients undergoing chemotherapy : a retrospective study.

- Tomiura M, Kurusu K, Murakami M, Inada A, Hara K
BMC Cancer. 2026 ; 26 : 37. doi.org/10.1186/s12885-025-15313-3.
- 33) Lengthened telomere length in peripheral blood leukocytes in patients with rheumatoid arthritis complicated with airway disease.
Higuchi T, Oka S, Shimada K, Tsunoda S, Ito S, Fujimori M, Nakamura T, Suzuki M, Saisho K, Shinohara S, Matsui T, Migita K, Nagaoka S, Tohma S, Furukawa H.
BMC Rheumatol. 2025 ; doi:10.1186/s41927-025-00605-9. Online ahead of print.
- 34) Response to : Correspondence on 'Diagnostic accuracy of tongue coating in identifying acute appendicitis : a prospective cohort study' by Mori et al.
Mori H, Yamasaki K, Saishoji Y, Torisu Y, Mori T, Nagai Y, Izumi Y.
Emerg Med J. 2025 ; 43(1) : 69-70. doi : 10.1136/emered-2025-215572.
- 35) The predictive factors of hypozincemia in patients with chronic liver disease.
Ando S, Komori A, Yatsushashi H, Abiru S, Yotsumoto Y.
J Nutr Sci. 2025 ; 15 : e3. doi : 10.1017/jns.2025.10062. eCollection 2026.
- 36) Endotracheal Tube Securement and Medical Device-Related Pressure Injury Incidence in the Intensive Care Unit : A Single-Center Retrospective Cohort Study.
Momoeda Y, Hara K , Nakamura Y, Kubota Y, Gon C, Nakamichi C , Fujioka M.
Cureus. 2025 ; 17(12) : e100303. doi : 10.7759/cureus.100303.

A-a2 : 英文症例報告

- 1) Perioperative Nursing Interventions for a Morbidly Obese Patient Undergoing a Cesarean Section in the Ramp Position : A Case Report.
Kusuhara K, Tachibana R, Kumashiro R, Hara K.
Cureus. 2025 ; 17(6) : e85673. doi : 10.7759/cureus.85673. eCollection 2025 Jun.
- 2) A Patient with Pustulotic Arthroostitis with Isolated Spinal Lesions Successfully Treated with Risankizumab : A Case Report.
Migita K, Matsumoto H, Yamasaki K, Mori F, Yoshida S, Asano T, Kawakami A, Isomoto I.
Intern Med. 2025 ; Aug 14. doi : 10.2169/internalmedicine.5979-25. Online ahead of print.
- 3) Anesthetic Management in a Pregnant Woman With Super Morbid Obesity and Severe Obstructive Sleep Apnea Syndrome Undergoing Cesarean Section : A Case Report.
Morimoto T, Ogino H, Hara K, Yamaguchi M, Hara T.
Cureus. 2025 ; 17(8) : e90128. doi : 10.7759/cureus.90128. eCollection 2025 Aug.
- 4) Late-onset Vitamin B6-dependent epilepsy caused by compound heterozygous pathogenic PLPBP variants.
Nakamura S, Chinen Y, Minema H, Honda R, Ono T, Mizuguchi T, Matsumoto N, Nakanishi K.
Eur J Med Genet. 2025 ; 78 : 105047. doi : 10.1016/j.ejmg.2025.105047. Epub 2025 Sep 19.

A-b : 英文総説

- 1) Epileptic drop attacks : More than just atonic seizures.
Ono T, Sato K, Honda R, Otsubo H.
Epilepsia Open. 2025 ; doi:10.1002/epi4.70136. Online ahead of print.

B：和文**B-a1：和文原著**

- 1) てんかん患者におけるペランパネル一次単剤療法に関する観察研究 (PORTABLE Study) の12 ヶ月時中間報告.
赤松直樹、中本英俊、落合卓、久保田有一、二宮宏智、花谷亮典、渡辺雅子、小出泰道、脇田雄介、兼子直、
金村英秋、小野智恵、萩原綱一、上原平、前原健寿、本岡大道、寺田清人、西本昇平、田中華鈴、鶴田大生.
てんかん研究. 2025；42(3)：635-649.
- 2) 外科専属診療看護師 (NP) による内視鏡外科手術助手の現況と信頼度調査.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、北里周、竹下浩明、黒木 保
日本内視鏡外科学会雑誌. 2025；30(5)：363-366.

B-a2：和文症例報告

- 1) 診断に難渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの1例.
原あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、岡田覚丈、岩永希、
和泉泰衛.
九州リウマチ. 2025；45(2)：71-76.
- 2) アニフロルマブ投与中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス (SLE) の一例.
中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田覚丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純.
九州リウマチ. 2025；45(2)：52-57.
- 3) 高度肥満患者 (BMI46) の呼吸器外科緊急手術における外回り看護の皮膚障害・褥瘡予防の実践と課題.
高見宗太郎、弓削亜矢香、原健太郎.
日本手術看護学会誌. 2025；21(1)：13-17.
- 4) 胸腔内穿破2週後に胸腔鏡下切除を施行した縦隔成熟型奇形腫の2例.
下山孝一郎、町野隆介、竹井大貴、山口彩、三浦史郎、田川努.
日本呼吸器外科学会雑誌. 2025；39(7)：616-621.

B-b：和文総説

- 1) 手術看護の協奏曲：実践と研究が奏でる患者ケアの未来.
原健太郎.
日本手術医学会誌. 2025；46(1)：22-27.
- 2) 【いまこそupdate! 皮膚悪性腫瘍の治療 part 1】悪性黒色腫の切除縁を再考する.
古賀一史、藤岡正樹.
形成外科. 2025；68(2)：145-152.
- 3) 医療安全 傾向と対策 当院におけるVTE予防対策ワーキンググループの取り組み.
井手時枝、黒木保、山田成美、尾崎真人、三角紳博、吉田真一郎、八橋弘.
医療. 2025；79(2)：99-103.
- 4) 【胆管細胞をとりまく病態の最新Topics】GWASで解き明かすPBCの遺伝要因.
人見祐基、中村稔.
胆と膵. 2025；46(5)：491-497
- 5) 【種類と特徴がよくわかる！物品カタログ編】被覆材・保護材の種類と特徴を理解しよう！.
原健太郎.
オペナーシング. 2025；40(6)：575-584.
- 6) Simulation-based Scrub Nurse Education (SSNE) の実践と今後の展望 ―長崎医療センターにおける教育実践
の振り返りと課題の整理―.

原健太朗.

日本手術医学会誌. 2025 ; 46(2) : 142-147.

- 7) 【肝硬変-病態と診断の最新知見】疫学・予後 肝硬変症の予後.

八橋弘.

臨牀消化器内科. 2025 ; 40(7) : 737-743.

- 8) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」四肢の手術 Gustilo-AndersonIII C型骨折は緊急遊離フロースルー皮弁で再建する.

藤岡正樹.

形成外科. 2025 ; 68巻 (13増刊) : S102.

- 9) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」体幹の手術 広範囲熱傷では初回手術でまず頸部をシート植皮する.

藤岡正樹.

形成外科. 2025 ; 68巻 (13増刊) : S86.

- 10) 【エキスパートの知恵と経験211Pearls—若手にシェアしたい私のこだわり—】手術手技における「こだわり」頭蓋・顔面の手術 顔面BCCの切除マージンは3 mm以下とする.

藤岡正樹.

形成外科. 2025 ; 68巻 (13増刊) : S69.

- 11) 手術手技 傍ストーマヘルニア、ストーマ脱出に対するVASCs (video-assisted subcutaneous surgery) による修復術.

竹下浩明、中村裕紀子、福田明子、米田晃、北里周、黒木保.

手術. 2025 ; 79(9) : 1439-1445.

- 12) 【B型肝炎の臨床検査】B型肝炎の検査の歴史と概要.

八橋弘、藤野達也.

臨床検査. 2025 ; 69(9) : 934-939.

- 13) 【肝疾患治療の最新動向-新薬の情報とともに】原発性胆汁性胆管炎・原発性硬化性胆管炎 薬物療法の現在と未来.

小森敦正.

臨牀消化器内科. 2025 ; 40(12) : 1449-1455.

B-c2 : 和文著書 [分担]

- 1) 【8. 肝・胆・膵疾患 最近の動向】原発性胆汁性胆管炎.

小森敦正.

今日の治療指針 2025年版 [デスク判] エビデンスに基づく最新治療、総編集: 福井次矢、高木 誠、小室一成、医学書院、2025 ; pp548-549.

- 2) 【II 疾患編 / 3 消化器疾患】原発性胆汁性胆管炎.

小森敦正.

今日の診断指針 デスク判 第9版、2025 ; pp705-708.

- 3) 【IV. 肝・胆・膵疾患 / A. 肝】11. 代謝性肝疾患.

小森敦正.

消化器疾患最新の治療2025-2026. 2025 ; pp275-276.

- 4) 【Session3 ; 肝硬変】C型肝硬変に対するDAA治療—生命予後と死因に関する検討.

八橋弘、山崎一美.

第34回犬山シンポジウム〜ウイルス性肝炎・脂肪性肝炎・肝硬変・肝癌、犬山シンポジウム記録刊行会編、株式会社アーツユニット. 2025 ; pp63-64.

5) 【B. 血液検査】 3. A型肝炎、E型肝炎関連検査.

山崎一美.

これ1冊でカンペキ！肝臓まるかじり～必須知識から最新概念MASLDまで完全ガイド. 診断と治療社. 2025 ; pp16-19.

6) 【B. 血液検査】 5. C型肝炎関連検査.

八橋弘、藤野達也.

これ1冊でカンペキ！肝臓まるかじり～必須知識から最新概念MASLDまで完全ガイド. 診断と治療社. 2025 ; pp26-30.

B-d：和文報告書

1) PBC-AIH overlap診療ステートメント2024 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班.

釘山有希、川田一仁、浪崎正、梅村武司、小森敦正、有永照子、高木章乃夫、高橋敦史、大平弘正、原田憲一、田中篤. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班PBC-AIH overlap診療ステートメント作成委員会.

肝臓. 2025 ; 66(1) : 1-6.

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

1) <Letter to the Editor> II度熱傷創面の「レッドポイント」は生存真皮表層の新生血管である.

藤岡正樹、古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子

熱傷. 2025 ; 51(2) : 63-64.

学会・研究会・講演

A：国際学会, 国際会議

A-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<Symposium>

1) A study of the dynamics of iTACT HBcrAg and HBsAgGi levels in patients with chronic hepatitis B who achieved HBsAg disappearance.

Yatsushashi H, Yamasaki K, Nagaoka S.

Symposium1; Hepatitis B : Controversy in Diagnosis and Treatment, The 61st Annual Meeting of the Japan Society of Hepatology (第61回日本肝臓学会総会). 東京, 2025.6.5.

2) What is an epileptic drop attack, and what should we treat surgically?

Ono T.

19th Asian Epilepsy Surgery Congress. HongKong SAR, China, 2025.11.21-23.

A-b2：一般演題

1) Tetra-combined Z-plasty for wide-scar hip contracture including the anus.

Fujioka M.

2025 John A. Boswick Burn and Wound Care Symposium. Maui, Hawaii, 2025.1.25-30.

2) Microscopic changes over time in human dermis after exposure to sodium hydroxide.

Fujioka M.

2025 John A. Boswick Burn and Wound Care Symposium. Maui, Hawaii, 2025.1.25-30.

3) Atypical histopathology in a surgical case of epilepsy due to Sturge-Weber syndrome with developmental venous anomaly.

Miyata H, Abe J, Honda R, Ono T, Miura S, Ito M.

101st Annual Meeting of the American Association of Neuropathologists. Minneapolis, Minnesota, USA, 2025.6.19-22.

- 4) A clinicopathological study of factors associated with microvacuolar changes in the cerebral white matter of patients with epilepsy.

Miyata H, Hasue K, Ono T, Osawa S-i, Nakamoto H, Kubota Y, Miura S, Ito M, Suzuki H.

36th International Epilepsy Congress. Lisbon, Portugal, 2025.8.30-9.3.

- 5) Surgical treatments for patients with bilateral perisylvian syndrome.

Goto Y, Ono T, Honda R, Sato K, Sadakata E, Haraguchi W, Anda T.

委員会企画4 ; YES-Japan English Oral Presentation Session 第3部. The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society (第58回日本てんかん学会学術集会). 宇都宮, 2025.10.4.

<Poster>

- 1) Bioinformatic analysis of the spatial transcriptomes of inflamed portal tracts in human primary biliary cholangitis.

Komori A, Kugiyama Y, Kojima T, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Miura S.

Poster; Immune-mediated and cholestatic: Experimental and pathophysiology. EASL Congress 2025. Amsterdam, Netherlands, 2025.5.9.

- 2) Clinical Statement for the Diagnosis and Management of PBC-AIH Overlap 2024: Japanese Experience.

Komori A.

Poster Oral Presentation; 1.Autoimmune Disease. The Liver Week 2025. Gyeongju, Korea, 2025.5.30.

- 3) A case of hepatic hemangioma mimicking malignant tumor.

Kitasato A, Yoshino K, Fukui S, Kugiyama T, Kuroki T.

Poster 7; Liver, Case 1. The 37th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (第37回日本肝胆膵外科学会学術集会). 軽井沢, 2025.6.13.

- 4) A Clinical Experience: Surgical Placement of Nestleap and Stereotactic Body Radiation Therapy for Recurrent Hepatocellular Carcinoma.

Yoshino K, Kitasato A, Fukui S, Kugiyama T, Kuroki T.

Poster 53; Liver, Case 4. The 37th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (第37回日本肝胆膵外科学会学術集会). 軽井沢, 2025.6.14.

- 5) Secondary epileptogenesis in human : a case with mesial temporal lobe epilepsy following childhood stroke.

Ta Hong Nhung, Ono T, Sato K, Honda R, Miyata H.

一般ポスター (英語) 3 ; English session3. The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society (第58回日本てんかん学会学術集会). 宇都宮, 2025.10.4.

- 6) Characterization of the function and phenotype of nk cells in patients with chronic hepatitis b who achieved functional cure.

Nakaya Y, Suda G, Yamasaki K, Miura K, Yamada N, Enomoto H, Inoue J, Honda T, Osawa Y, Joshita S, Onomura D, Hoshi Y, Li C, Maiorova E, Mo H, Murata K.

AASLD 2025 (American Association for the Study of Liver Diseases). Washington, D.C., USA, 2025.11.7-11.

- 7) The study examining the impact of SVR on the prognosis of patients with HCV cirrhosis.

Yatsuhashi H, Yamana H, Imai S, Naganuma A, Sugimoto R, Kojima M, Yamashita M, Iwamoto S, Ario K, Shimada M, Kouno H, Satoh T, Furuta K, Sakamori R, Yamasaki K.

Poster session 3. APDW (Asian Pacific Digestive Week) 2025 in Singapore. Singapore, 2025.11.22.

<Oral>

- 1) The pathophysiology of developmental epileptic encephalopathy may involve the selective functional immaturity of astrocytes during cortical development.
Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.
24th Annual Meeting of the Infantile Seizure Society (ISS). Kuala Lumpur, Malaysia, 2025.7.17-19.
- 2) Surgical treatments for patients with bilateral perisylvian syndrome.
Goto Y, Ono T, Honda R, Sato K, Sadakata E, Haraguchi W, Anda T.
一般口演（英語）4；English Session4. The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society（第58回日本てんかん学会学術集会）. 宇都宮, 2025.10.3.
- 3) The pathophysiology of developmental epileptic encephalopathy may involve the selective functional immaturity of astrocytes during cortical development.
Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.
一般口演（英語）3；English Session3. The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society（第58回日本てんかん学会学術集会）. 宇都宮, 2025.10.3.

<Workshop>

- 1) CXCR5 regulates disease susceptibility and activity in primary biliary cholangitis (PBC).
Hitomi Y, Aiba Y, Ishigaki K, Nakamura M.
WS18; Organ-specific Immune Diseases. The 54th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology（第54回日本免疫学会学術集会）. 姫路, 2025.12.11.

B：国内学会

B-a：特別講演, 教育講演

<特別講演>

- 1) 「いい加減目覚めなさい。論文は書かなきゃいけないものじゃありません。書きたいと思うものです」：英文論文作成の薦め。
藤岡正樹。
信州形成外科学会第91回例会. 長野, 2025.11.29.

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<シンポジウム>

- 1) Epilepsy surgery improves postoperative developmental rates in children with drug resistant seizures.
小野智恵。
シンポジウム5；てんかん外科治療の長期予後－外科治療による真の benefit を考える－. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.7.
- 2) 最良の肝穿刺画像支援を目指す造影エコー：Low-MI THI（Contrast-Enhanced Low Mechanical Index Tissue Harmonic Imaging）の応用。
本吉康英、釘山有希、小森敦正。
シンポジウム1；消化器画像診断の極意. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 3) C型肝炎変に対する抗ウイルス治療が生命予後に与えた影響に関する検討。
八橋弘、山崎一美。
シンポジウム5；実臨床における肝硬変診療ガイドラインの妥当性検証. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.5.

- 4) 原発性胆汁性胆管炎の肝組織・末梢血網羅的遺伝子発現データを用いた新たな診断マーカー・治療標的遺伝子の探索.

相葉佳洋、植野和子、中村稔.

シンポジウム 6；自己免疫性肝疾患：診療の現状と展望. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

- 5) 原発性胆汁性胆管炎におけるCXCR5遺伝子の影響.

人見祐基、中村稔.

シンポジウム 6；自己免疫性肝疾患：診療の現状と展望. 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

<パネルディスカッション>

- 1) 感染性 WON に対する鏡視補助下後腹膜アプローチの有用性 ―オーバーチューブ法の試み―.

釘山統太、又野護、福井彩恵子、古野恭平、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
パネルディスカッション 10；膵局所合併症に対する intervention 治療, 第56回日本膵臓学会大会. 東京, 2025.7.26.

<特別企画>

- 1) ベトナムにおけるてんかん診療支援：小さなつながりがいつか大きな広がりへ.

小野智恵、佐藤和明、本田涼子.

特別企画 1；アジアのてんかん診療支援. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.2.

- 2) 改革 1 年後の外科医療における診療看護師 (NP) の戦略的活用～改革の先を照らす、外科医の実感と診療看護師 (NP) の役割～.

中原未智、米田晃、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、釘山統太、森田道、原貴信、藤井美緒、竹下浩明、南恵樹、山口峻、蒲原行雄、黒木保.

学術集会特別企画 5；チーム医療による外科医師の働き方改革へのマネジメント. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.

B-b2：一般演題

- 1) DDB に対してネキソブリッド®の効果不十分であった 1 例.

古賀一史、藤原洸平、日吉尚、西園馨子、藤岡正樹.

第35回九州熱傷学会学術集会. 福岡, 2025.2.8.

- 2) 全身麻酔患者の再分布性低体温予防：短時間四肢末梢プレウォーミングの有効性に関するランダム化比較試験.

原健太郎、立花玲華、神代竜育、森本崇之、金子翔平、山口美知子.

優秀演題；麻酔科関連 2. 日本麻酔科学会第72回学術集会. 神戸, 2025.6.6.

- 3) 術前に腎癌が疑われた類上皮型血管筋脂肪腫の一例.

川島大輝、松島俊樹、近藤翼、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、添田李子、三原裕美、三浦史郎.

第282回日本泌尿器科学会長崎地方会. 長崎, 2025.6.21.

- 4) 形成外科手術を受けた外国人患者の15年間の動向と問題点.

藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.

第126回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2025.7.19.

- 5) 眼周囲発生のSCC浸潤のため眼球摘出が必要となった2症例の治療経験.

藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.

第43回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20-21.

- 6) 高齢者の上部耳介SCCは3cm幅まで単純縫縮が許容できる.

藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.

第43回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20-21.

- 7) 同門会ネットワークを利用した多施設共同臨床研究はコスパ最高でかなり美味しい。

藤岡正樹。

第三部. 信州形成外科学会第91回例会. 長野, 2025.11.29.

<口演>

- 1) 胆管内乳頭状腫瘍に対して肝切除術を施行した3例。
又野護、北里周、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、黒木保。
症例報告・一般演題1；稀な症例. 第45回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2025.1.18.
- 2) 稀な発作症状を伴う非定型欠神発作の1例。
西口奈菜子、石川太郎、池田憲呼、本田涼子、佐藤和明、小野智恵。
第32回九州山口てんかん外科研究会. 福岡, 2025.1.25.
- 3) ヘリ搬送までに時間を要した急性硬膜下血腫の1例。
定方英作、原口渉、後藤純寛、松野聡夏、吉田道春、小野智恵、案田岳夫。
一般演題4；頭部外傷. 第30回日本脳神経外科救急学会. 東京, 2025.2.6.
- 4) 傍シルビウス裂症候群のてんかん発作に対する脳梁離断術の経験。
後藤純寛、小野智恵、定方英作、吉田道春、原口渉、案田岳夫。
一般口演8；緩和的外科治療・凝固術. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.
- 5) 副腎転移と鑑別が困難であった左副腎結節を伴う肝細胞癌の1切除例。
吉岡奈那、北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保、石飛俊介。
研修医セッション；肝胆膵. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 6) 難治性胆汁瘻に対し胆管塞栓術が奏功した1例。
村橋舞、釘山統太、福井彩恵子、又野護、吉野恭平、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；肝胆膵. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 7) Child Pugh 分類 grade Bの肝硬変を伴った胃癌に対して腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した一例。
川添綾子、米田晃、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；胃・十二指腸. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 8) 周期性四肢麻痺を繰り返すバセドウ病で術後にハングリーボーン症候群を呈した1例。
犬養真衣、南恵樹、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、黒木保。
研修医セッション；乳腺・内分泌外科1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 9) 局在診断に造影CTが有用であった同時性両側副甲状腺腺腫の1例。
野田知生、森田道、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
研修医セッション；乳腺・内分泌外科1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.

- 10) 腹腔鏡下肝部分切除を施行したMulticystic biliary hamartomaの一例.
又野護、北里周、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題；肝・胆道 1. 第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 11) 術後の腹部コンパートメント症候群を念頭に周術期管理を行った両側鼠径ヘルニアの1例.
吉野恭平、米田晃、又野護、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題；ヘルニア 1.
第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.8.
- 12) 外国人就労者末期肺癌患者の治療と帰国支援の経験.
夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、池田喬哉、武田達哉、本多功一、近藤晃、迎寛.
一般演題；検査&その他. 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.9.
- 13) 気管支鏡検査で診断に至らなかった縦隔原発ホジキンリンパ腫の一例.
荻野裕行、松本理宗、田川努.
研修医セッション. 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.9.
- 14) 肺単一病変として発見され肺癌との鑑別が困難であったIgG4関連呼吸器疾患の1例.
鬼頭貴之、松本理宗、田川努.
研修医セッション. 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.9.
- 15) 当院で経験した高悪性度胎児型肺腺癌の1例.
大村直也、池田喬哉、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗、田川努、近藤晃、迎寛.
研修医セッション. 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 福岡, 2025.2.9.
- 16) 眼窩内から篩骨洞に貫通した枯れ枝状創の治療経験.
日吉尚、藤岡正樹、藤原洗平、古賀一史、西園馨子.
セッション 4. 第125回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 福岡, 2025.3.8.
- 17) 頭部外傷により発症したdirect CCFに対し血管内治療を施行した1例
松野聡夏、後藤純寛、吉田道春、小野智憲、原口渉、案田岳夫.
セッション 8；外傷・感染・その他（1）.
第149回日本脳神経外科学会九州支部会. 福岡, 2025.3.15.
- 18) CheckMate-816レジメンが奏功した腎細胞癌肺転移の1例.
中島健翔、松本理宗、田川努.
胸部（心臓血管外科/呼吸器）. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 19) 気胸術後に人工呼吸器管理で新生した肺嚢胞が誘因となった緊張性気胸の一例.
林田啓佑、松本理宗、田川努.
胸部（心臓血管外科/呼吸器）. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 20) 繰り返し再発する肝細胞癌に対する吸収性スパーサー留置術と定位放射線治療の外科的経験.
吉野恭平、北里周、又野護、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
肝胆膵/その他. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 21) 右鎖骨下動脈起始異常を伴う胸部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除術を施行した1例.
古賀万貴、米田晃、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、北里周、竹下浩明、南恵樹、

- 黒木保.
消化管/その他. 第256回長崎外科集談会. 長崎, 2025.3.15.
- 22) アニフロルマブ治療中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス (SLE) の一例.
中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田覚丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純.
初期研修医セッション 1. 第69回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会. 沖縄, 2025.3.15.
- 23) 移動性の側頭部腫脹を呈した限局性筋炎の一例.
岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、川上純.
口演6；筋炎. 第69回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会. 沖縄, 2025.3.16.
- 24) 生検が早期診断に有用であった多発筋膿瘍類似の他の医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患 (OIHA-LPD) の1例.
山領優斗、森隆浩、石飛俊介、櫛知佳、原敦子、川原知瑛子、岡田覚丈、岩永希、三浦史郎、和泉泰衛.
口演9；関節リウマチ・合併症. 第69回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会. 沖縄, 2025.3.16.
- 25) 胃印環細胞癌と同時診断された血清反応陽性多発関節炎の一例.
後藤すみれ、岩永希、添田李子、峯彩子、岡田覚丈、三浦史郎、米田晃、和泉泰衛、川上純.
口演9；関節リウマチ・合併症. 第69回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会. 沖縄, 2025.3.16.
- 26) 食道癌術前化学療法前後の免疫・栄養因子の変化は術後合併症及び予後と関連するか.
米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム115；食道-周術期管理. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.12.
- 27) 直腸癌に対してNOM (nonoperative management) /watch & waitを行った症例の検討.
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、森田道、釘山統太、米田晃、北里周、南恵樹、黒木保.
サージカルフォーラム118；直腸-術前治療. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.12.
- 28) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
一般口演23；皮膚悪性腫瘍. 第68回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京, 2025.4.17.
- 29) 外傷性肝損傷後の難治性胆汁漏に対し胆管塞栓術が奏効した1例.
相浦章吾、釘山統太、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
研修医発表；その他. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 30) 子宮頸がん再発に対する抗PD-1抗体と血管新生阻害薬による治療中にirAE 腸炎を発症し経過中に放射線性腸炎による盲腸穿孔を起こした一例.
大村直也、福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保.
研修医発表；その他. 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 31) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美、三浦史郎.
一般演題 (口演) 3. 第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎, 2025.5.17.
- 32) 脳神経外科手術の術中脳波計測とCEの業務、役割について～てんかん手術の場合～.
八尋智基、加来泰志、杉山哲司、田代博崇、小野智憲.
一般演題 I. 第17回長崎県臨床工学会. 佐世保, 2025.6.1.
- 33) 妊娠オウム病が原因と考えられた敗血症性ショックにより母体死亡に至った一例.
山下慶、山口純子、菅幸恵、濱崎創平、野々村美香、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎、添田李子、三浦史郎.
一般口演8；腔細菌叢/オウム病. 第41回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎, 2025.6.1.

- 34) 全脳梁離断術は術後 1 年間の発達を好転させる可能性がある。
西口奈菜子、本田涼子、小野智憲、池田憲呼、安忠輝、馬場啓至。
一般演題（口演）23；てんかん：その他①. 第67回日本小児神経学会学術集会. 米子, 2025.6.6.
- 35) 繰り返す心嚢液貯留の原因精査で発見された心臓腫瘍の一症例。
村橋舞、小出俊朗、福田侑甫、森彩、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治、嶋田隆志、有吉毅子男、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎。
研修医セッション 3. 第138回日本循環器学会九州地方会. 福岡, 2025.6.28.
- 36) Gustilo IIIB に対する Fix and Flap 後の delayed flap trouble に対する考察。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子。
一般演題（口演）12；顔面外傷・骨折. 第17回日本創傷外科学会総会・学術集会. 東京, 2025.7.4.
- 37) 肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療（SBRT）初回照射と再照射の比較：ALBI grade を用いた生存解析。
中村太祐、本吉康英、長岡進矢、小森敦正、東家亮。
一般口演 3；放射線治療. 第61回日本肝癌研究会. 神戸, 2025.7.10.
- 38) 運動誘発性発作を認めた反射てんかんの一例。
佐藤和明、本田涼子、西口奈菜子、池田紀憲呼、小野智憲。
一般演題 1. 第20回日本てんかん学会九州地方会. 福岡, 2025.7.12.
- 39) 食道癌患者におけるNAC中の骨格筋量及び免疫・栄養因子の変化と術後短期・長期成績との関連。
米田晃、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保。
一般演題 1；食道：栄養. 第80回日本消化器外科学会総会. 神戸, 2025.7.16.
- 40) 直腸癌に対する術前治療後の非切除対応例のサーベイランスとサルベージ手術に関する検討。
竹下浩明、福田明子、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、米田晃、北里周、黒木保。
一般演題83；大腸：悪性 9. 第80回日本消化器外科学会総会. 神戸, 2025.7.16.
- 41) Borderline resectable大腸癌肝転移に対する術前化学療法の有用性。
北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、米田晃、竹下浩明、黒木保。
一般演題129；肝臓：転移性肝腫瘍 2. 第80回日本消化器外科学会総会. 神戸, 2025.7.17.
- 42) 軟膜血管腫と同側に developmental venous anomaly を合併し、非典型的石灰化を示したスタージ・ウェーバー症候群の一手術例。
阿部純平、本田涼子、小野智憲、三浦史郎、伊東正博、宮田元。
一般演題 I. 第18回日本てんかん学会東北地方会. 秋田, 2025.7.19.
- 43) 経時的に位置変化を認めた上縦隔心膜嚢胞の一例。
野口美波、松本理宗、富山哲宏、朝重耕一、添田李子、伊東正博、田川努。
JATS Case Presentation Awards6（呼吸器 1）. 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.
- 44) 気胸術後のステープラーによる炎症性肉芽腫と肺癌の鑑別が困難であった一手術例。
富山哲宏、松本理宗、田川努、三浦史郎、三原裕美。
一般演題10；肺良性腫瘍. 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.
- 45) 積極的区域切除をやめたくなる 1 例（cT1a, (0.7cm), pT1mi (inv: 0.1cm) N0M0への右S1区域切除後胸膜播種再発）。
田川努、下山孝一郎、富山哲宏、添田李子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗。
一般演題24；肺悪性腫瘍 2. 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.25.
- 46) 胸腔鏡下左上葉切除術における術中肺静脈熱損傷後の遅発性再出血に対し再手術にて救命し得た一例。
松本理宗、富山哲宏、朝重耕一、田川努。
一般演題26；肺移植、呼吸器感染症 2. 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.25.
- 47) ヒト原発性胆汁性胆管炎における門脈域炎症および胆管細胞の空間トランスクリプトーム解析。
小森敦正、児嶋知仁、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、三浦史郎。

- 一般口演 5；肝疾患. 第32回肝細胞研究会. 北海道, 2025.7.26.
- 48) 膵癌に合併した腫瘍随伴性 RS3PE 症候群の一例.
門松英、和泉泰衛、大野渚、末廣智之、岡田覚丈、岩永希.
一般演題 5；腫瘍関連. 第70回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 福岡, 2025.9.13.
- 49) 長期寛解後に無菌性髄膜炎が再燃した再発性多発軟骨炎の一例.
岡田覚丈、岩永希、和泉泰衛、徳田昌紘、赤城翠、川上純.
一般演題 7；診断. 第70回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会. 福岡, 2025.9.14.
- 50) 同種同効薬処方に伴う院内での取り組みについて～在庫確保における薬剤部との連携～.
大久保房庫、富田英里、木村梨沙、瓦田秀美、久保三紀子、大津貴寛、川崎美幸、野田晃洋、小園晃生、小森敦正.
一般演題PⅢ-3. 第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025 in 大宮. さいたま, 2025.9.15.
- 51) 膵管ステント留置併用EPBDとESBDにおけるERCP後膵炎発生率の比較.
児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢.
口演 1；ERCP. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.2.
- 52) 薬剤抵抗性でんかんにおける外科治療後の発達割合（Developmental rate、DR）に関する検討.
西口奈菜子、小野智憲、佐藤和明、池田憲呼、本田涼子、馬場啓至.
一般口演19；発達・神経心理. 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.
- 53) 当院における胆嚢癌疑診例に対する診断的治療としての外科手術の位置付け.
福井彩恵子、黒木保、釘山統太.
口演32；胆嚢低侵襲手術（主題関連）. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.3.
- 54) 自己免疫性肝疾患共通の遺伝的要因に起因する疾患発症機序の解明.
人見祐基、植野和子、相葉佳洋、西田奈央、河合洋介、川嶋実苗、Khor Seik-Soon、安波道郎、長崎正朗、徳永勝土、中村稔.
一般口演 2；疾患・免疫・技術. 第33回日本組織適合性学会大会. 長崎, 2025.10.4.
- 55) 髄膜腫との鑑別を要した WHO grade 3 solitary fibrous tumor の一例.
森悠河、後藤純寛、案田岳夫、石飛俊介、三原裕美、定方英作、小野智憲、原口渉.
セッション10；腫瘍-2. 第150回日本脳神経外科学会九州支部会. 沖縄, 2025.10.11.
- 56) Uldag Fournier's gangrene severity index（UFGSI）はフルニエ壊疽の重症度を反映しているか.
藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
一般演題19；感染・リンパ. 第34回日本形成外科学会基礎学術集会. 鹿児島, 2025.10.17.
- 57) 胃癌術後縫合不全に伴う縦隔炎・膿胸に対する外科的治療の検討—3例の経験から—.
松本理宗、富山哲宏、田川努.
ミニオーラル 呼吸器 8；周術期管理. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.24.
- 58) 日本における母体・胎児死亡を伴う3例の妊娠オウム病症例およびMLST 解析結果.
清田敦子、名倉由起子、オブライエン悠木子、添田李子、杉井裕和、清水可奈子、三浦史郎、佐藤由美子、小玉美智子、柳原格.
一般口演. 第25回人と動物の共通感染症研究会学術集会. 東京, 2025.10.25.
- 59) 膿胸に対する3例のアルテプラーゼ使用経験.
前田康文、乗富大地、茂山航大、川崎光一、松本理宗、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田川努、迎寛.
ことはじめ甲子園. 第95回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会. 沖縄, 2025.10.31.
- 60) Uldag Fournier's gangrene severity index（UFGSI）は臨床像と大きく乖離している.
吉田大作、藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、日吉尚.
演題 1. 第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.

- 61) 母体・胎児死亡を伴った妊娠オウム病3症例のMLST解析.
清田敦子、名倉由起子、オブライエン悠木子、添田李子、杉井裕和、清水可奈子、三浦史郎、佐藤由美子、小玉美智子、柳原格.
第78回日本細菌学会関西支部総会. 大阪, 2025.11.3.
- 62) アレルギー薬剤投与によるアナフィラキシー発症予防に向けた医療安全管理室の取り組み.
西田美咲、井手時枝、松永望東子、黒木保.
口演2；医療安全 活動. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 63) 三次救急病院における曜日別手術室稼働時間と手術室看護師の超過勤務の関連分析.
稲田楓、榊原チハル、弓削亜矢香、原健太郎.
口演19；働き方改革. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 64) 手術室における滅菌有効期限を事象依存型へ移行する基礎的検討.
原健太郎、上村貴弘、市原幸大.
一般演題13；洗浄滅菌業務1. 第47回日本手術医学会総会. 広島, 2025.11.14.
- 65) 進行直腸癌に対する至適な側方郭清と術前治療についての検討～側方リンパ節郭清省略の可能性～.
竹下浩明、大石海道、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、黒木保.
一般演題（口演）20；直腸癌に対する側方郭清2. 第80回日本大腸肛門病学会学術集会. 東京, 2025.11.15.
- 66) 肝S7亜区域切除における右下肝静脈温存の意義.
原貴信、黒木保、松島肇、福井彩恵子、釘山統太、堀川修一、木下綾華、曾山明彦、江口晋.
主題セッション6；低侵襲性肝切除の手技の工夫と極み. 第19回肝臓内視鏡外科研究会. 東京, 2025.11.19.
- 67) 食道癌術後の残食道捻転に対して再吻合術を要した1例.
藤井美緒、米田晃、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、釘山統太、森田道、原貴信、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
重要演題（口演）2；食道症例報告. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.
- 68) 繰り返す胃潰瘍を契機に正中弓状靱帯圧迫症候群（Median Arcuate Ligament Syndrome：MALS）と診断された1症例.
釘山統太、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、森田道、原貴信、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
重要演題（口演）9；胃良性症例報告. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.20.
- 69) 主膵管内に結節形成を呈した膵神経内分泌腫瘍の一例.
久保飛翔、釘山統太、黒木保.
重要演題（口演）42；膵稀な疾患. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.21.
- 70) 膵切除術後膵液瘻のリスク因子としての術前栄養評価の有用性.
吉野恭平、釘山統太、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
重要演題（口演）78；膵臓術後合併症. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.22.
- 71) 経腹的な直接縫合閉鎖により治療し得た外傷性横隔膜損傷の2例.
平山奈々恵、福井彩恵子、原貴信、北里周、吉野恭平、久保飛翔、大石海道、堀川修一、森田道、釘山統太、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
重要演題（研修医セッション）17；ヘルニア3. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.22.
- 72) 経過観察後に増大し摘出術を試行した乳管腺腫の1例.
長岡倫子、森田道、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、釘山統太、原貴信、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
重要演題（研修医セッション）21；乳腺・内分泌. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.22.

- 73) 膵全体に進展したintraductal papillary mucinous neoplasm (IPMC) に対して膵全摘術を施行した1例.
宮崎咲月、久保飛翔、釘山統太、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、森田道、原貴信、藤井美緒、米田晃、南恵樹、黒木保.
重要演題(研修医セッション) 24 膵臓 2. 第87回日本臨床外科学会学術集会. 東京, 2025.11.22.
- 74) 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の胆道穿破による閉塞性黄疸に対し FC-SEMS と PS による胆道ドレナージを施行した一例.
平良瞭典、児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、小森敦正.
研修医発表; 胆膵 1. 第120回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 75) アバコパンによる薬剤性肝障害の1例.
中村祥暢、児嶋知仁、上原里衣、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表; 肝臓. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 76) 早期ドレナージと集学的治療で救命し得た Clostridium perfringens 混合感染による急性閉塞性化膿性胆管炎の1例.
前田龍弥、上原里依、児嶋知仁、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、小森敦正、八橋弘.
研修医発表; 胆膵 1. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 77) 異なる臨床経過を示した妊娠合併膵炎の2例.
大村直也、児嶋知仁、上原里依、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、小森敦正、長岡進矢、山崎一美、八橋弘.
研修医発表; 胆膵 1. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 78) 胃および横行結腸へ浸潤した腹腔内デスマイド腫瘍の1例.
吉田雄哉、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、石飛俊介、黒木保.
研修医発表; 大腸・その他. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 79) 腹腔鏡下に完全切除しえた下腹神経由来神経鞘腫の一例.
森悠河、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、三原裕美、黒木保.
研修医発表; 大腸. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 80) 総胆管内腫瘍栓を伴った肝内胆管の一例.
林田慶大、原貴信、福井彩恵子、久保飛翔、釘山統太、大石海道、堀川修一、森田道、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、石飛俊介、三浦史郎、黒木保.
研修医発表; 肝臓. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 81) 高度側弯症を伴うBarrett食道癌に対して胸腔鏡・腹腔鏡下に食道切除術を施行した1例.
米田晃、福井彩恵子、大石海道、釘山統太、原貴信、藤井美緒、竹下浩明、黒木保.
ミニオーラル69 / 食道悪性 症例報告 2. 第38回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2025.12.12.
- 82) 骨盤内後腹膜腔発生の神経鞘腫に対する腹腔鏡下手術.
竹下浩明、大石海道、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、藤井美緒、米田晃、黒木保.
ミニオーラル227; ヘルニア 神経鞘腫・癌. 第38回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2025.12.12.

<ポスター>

- 1) 破裂動脈瘤の同定に難渋した多発脳動脈瘤の一例.
後藤純寛、吉田道春、案田岳夫、定方英作、小野智憲、原口渉.
(卒外P7) ポスター 7; 出血性脳血管障害: くも膜下出血 1. 第50年日本脳卒中学会学術集会 (STROKE2025).

大阪. 2025.3.6.

- 2) 小児科病棟におけるてんかん外科看護力向上のための取り組み.

林優奈、藤中千佳、岩永恵子、菅明美、池田憲呼、西口奈菜子、本田涼子、小野智恵.

ポスター 5; 看護 1. 第12回全国てんかんセンター協議会総会 (JEPICA2025金沢大会). 金沢. 2025.3.22.

- 3) 肝細胞癌切除後再発に対する外科的治療の位置づけ.

北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.

ポスターセッション105; 肝臓-肝細胞癌-3. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台. 2025.4.11.

- 4) 肝実質への浸潤を認めた胆管内乳頭状腫瘍の1例.

中村駿吾、北里周、福井彩恵子、又野護、吉野恭平、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保.

研修医の発表セッション7; 肝胆膵脾-1. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台. 2025.4.11.

- 5) 3回の妊娠経過を観察できた抗リン脂質抗体症候群 (APS) の一例.

岩永希、岡田覚丈、和泉泰衛、川上純.

ポスタービューイング 2-35; 妊娠・出産・移行医療: 症例報告. 第69回日本リウマチ学会総会・学術集会. 福岡. 2025.5.25.

- 6) 腹腔鏡下部消化管手術における術後悪心嘔吐に対するグラニセトロン1 mgの予防効果の検討: 単施設後方視研究.

森本崇之、西垣明久、原健太郎、山口美知子.

ポスター; 術後評価と管理-術後合併症 2. 日本麻酔科学会第72回学術集会. 神戸. 2025.6.5.

- 7) Nivolumab 投与中止後も治療効果が持続している術後再発食道癌肉腫の一例.

米田晃、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、北里周、竹下浩明、黒木保.

一般演題ポスター 35; 症例報告・特殊 2. 第79回日本食道学会学術集会. 京都. 2025.6.27.

- 8) 肝切除術後の離断型胆汁瘻に対するNBCAを用いた経皮的胆管塞栓術が奏効した2例.

釘山統太、福井彩恵子、原貴信、黒木保.

ポスター 2; 術後合併症. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋. 2025.10.2.

- 9) 肝組織・末梢血網羅的遺伝子発現解析に基づいた原発性胆汁性胆管炎のバイオマーカー、治療標的遺伝子の探索.

相葉佳洋、植野和子、人見祐基、西田奈央、長崎正朗、徳永勝士、中村稔.

ポスターセッション1. 第53回日本臨床免疫学会総会. 千葉. 2025.10.9.

- 10) フローサイトメトリーと免疫組織化学染色にてCD30の発現が異なった成人T細胞白血病リンパ腫.

渡辺春香、今泉芳孝、石飛俊介、西村紗央里、添田李子、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎.

ポスター 2-17; T / NK / HL: ATL後方視的解析・症例検討. 第87回日本血液学会学術集会.

神戸. 2025.10.11.

- 11) 破裂内頸動脈blood blister like aneurysm (BBA) に対してステント併用コイル塞栓術を行った1例.

定方英作、原口渉、後藤純寛、松野聡夏、小野智恵、案田岳夫.

一般ポスター 10; 動脈瘤 3. 日本脳神経外科学会第84回学術総会. 横浜. 2025.10.29.

- 12) 頭部外傷により発症したdirect CCFに対し血管内治療を施行した1例.

松野聡夏、定方英作、後藤純寛、小野智恵、原口渉、案田岳夫.

一般ポスター 41; 各種動静脈瘻. 日本脳神経外科学会第84回学術総会. 横浜. 2025.10.30.

- 13) ラクチオールはBifidobacteriumだけでなくMegasphaeraの増殖を介して肝細胞癌の予後を改善させるかもしれない【優秀演題賞】.

阿比留正剛、小森敦正、八橋弘.

デジタルポスターセッション消048 (消化器病学会); 肝臓 (原発性肝腫瘍) 1. 第67回日本消化器病学会大会. 神戸. 2025.10.31.

- 14) カンボジアにおける医療支援活動. 形成外科Surgical outreach報告.
藤岡正樹、西條広人、野口美帆.
ポスター 58; 小児・育成医療 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 15) 超音波検査で観察し得た隆起性皮膚線維肉腫の1例.
喜多なつみ、武藤憲太、藤野達也、石飛俊介、三浦史郎.
ポスター 69; 超音波. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 16) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
ポスター 79; 皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 17) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美、三浦史郎.
ポスター 79; 皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 18) Cladosporium属による壊死性筋膜炎を伴う黒色真菌症を発症した維持血液透析患者の1例.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
ポスター 79; 皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 19) 治験患者における在庫管理に関する取り組み ～調剤室の視点から～.
大津貴寛、大久保房庫、川崎美幸、久保三紀子、木村梨沙、富田英里、瓦田秀美、小森敦正.
ポスター 88; 薬剤 1 薬剤師業務. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 20) 眼窩から篩骨洞に至る杓創により眼窩コンパートメント症候群を呈した症例.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
ポスター 108; 救急・集中治療 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 21) 前腕コンパートメントシンドロームの治療経験.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平.
ポスター 108; 救急・集中治療 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 22) 遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美.
ポスター 127; 歯科・口腔・頭頸部疾患 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 23) 術前細胞診で診断が困難であった子宮頸部原発大細胞神経内分泌癌の1例.
平野純、澤田吉人、小島真代、鹿島星林、藤野達也、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎、古賀恵、福田雅史.
ポスター 133; 病理診断・細胞診 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 24) 水痘帯状疱疹ウイルス性髄膜脳炎の加療中に血管障害を呈した1剖検例.
石飛俊介、三浦史郎、添田李子、三原裕美、山領優斗、和泉泰衛、伊東正博.
ポスター 133; 病理診断・細胞診 1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 25) 隆起状皮膚潰瘍を有する末期乳癌患者の問題点と、その解決策としての palliative plastic surgery.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
ポスター 135; 支持療法・緩和医療 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 26) 指状嵌入樹状細胞肉腫との鑑別に苦慮した耳下腺内リンパ節の原発不明無色素性悪性黒色腫の1例.
添田李子、三原裕美、石飛俊介、伊東正博、田中藤信、藤本正数、三浦史郎.
ポスター 162; 病理診断・細胞診 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 27) 形成外科手術を受けた外国人患者の15年間の動向と問題点.
藤岡正樹、藤原洸平、吉野健太郎、吉田大作.
ポスター 195; 医療の質 2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

- 28) Gustilo IIIBに対するFix and Flap後のdelayed flap troubleに対する考察.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
ポスター 212；関節・その他. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 29) 右肘関節開放脱臼骨折に対し複数再建術を要した1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
ポスター 212；関節・その他. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 30) アルカリによる化学損傷の3例.
西園馨子、藤岡正樹、藤原洸平.
ポスター 225；救急・集中治療2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 31) RS3PE 症候群に対してメソトレキセート投与中に発症した成人T細胞白血病リンパ腫.
桐野祐子、小林裕児、渡辺春香、今泉芳孝、三原裕美、三浦史郎、吉田真一郎.
第11回日本HTLV-1学会学術集会. 鹿児島, 2025.11.8.
- 32) 診断に苦慮した妊娠オウム病の一部検例.
添田李子、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、山口純子、名倉由起子、柳原格、三浦史郎.
ポスターセッション；剖検2 / Autopsy 2. 第71回日本病理学会秋期特別総会. 名古屋, 2025.11.13.
- 33) 硬膜下電極を用いた機能マッピングで補足運動野を同定できた小児薬剤性てんかん症例.
小野智憲、内田大貴、佐藤和明、本田涼子.
第55回日本臨床神経生理学会学術大会. 沖縄, 2025.11.13-15.
- 34) 診断に苦慮した妊娠オウム病の一部検例.
添田李子、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、山口純子、名倉由起子、柳原格、三浦史郎.
ポスターセッション；剖検2 / Autopsy 2. 第16回妊産婦死亡症例病理カンファレンス. 名古屋, 2025.11.14.
- 35) CXCR5陽性B細胞が原発性胆汁性胆管炎（PBC）の疾患感受性および活動性に及ぼす影響.
人見祐基、相葉佳洋、植野和子、高橋悠、河野通仁、西田奈央、河合洋介、川嶋実苗、KhorSeik-Soon、安波道郎、石垣和慶、長崎正朗、徳永勝士、中村稔.
Poster Session2-05；Complex Disorders. 日本人類遺伝学会第70回大会. 横浜, 2025.12.19.

<ワークショップ>

- 1) 進行肝細胞癌に対するIO-IOシーケンスの課題・当院ICI症例47例の検討.
本吉康英、長岡進矢、小森敦正.
ワークショップ 1；肝癌診療のupdate～集学的治療～, 第125回日本消化器病学会九州支部例会. 久留米, 2025.5.16.
- 2) C型慢性肝疾患における SVR 後肝発癌リスク因子と可溶性 PD-L1.
山崎一美、溝上雅史、八橋弘.
ワークショップ 8；肝疾患のバイオマーカー：現状と新時代への挑戦, 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.6.

B-c：研究会発表

- 1) 帯状疱疹ウイルス性髄膜脳炎の一部検例.
三浦史郎、山領優斗、和泉泰衛.
第558回大村医師会CPCカンファレンス. 大村, 2025.1.15.
- 2) Amyand's hernia に対して二期的に腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した一例.
又野護、釘山統太、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、米田晃、北里周、竹下浩明、南恵樹、黒木保.
一般演題. 第31回長崎内視鏡外科研究会. 長崎, 2025.2.1.

- 3) 最良の肝穿刺画像支援を目指して：Low-MI THI + Fusion imaging.
本吉康英.
一般演題 1. 第38回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会. 東京, 2025.4.26.
- 4) 高齢者の上部耳介欠損はどこまで耳輪の単純縫縮が許容できるか（アンケート結果報告）.
藤岡正樹、藤原洸平、古賀一史、日吉尚.
第118回長崎形成外科懇話会. 長崎, 2025.5.24.
- 5) 高度の乳酸アシドーシス、白血球増多症、肝不全を認め多臓器不全により死亡に至った症例.
三浦史郎、森英毅、今泉芳孝.
第559回大村医師会CPCカンファレンス. 大村, 2025.6.18.
- 6) 自己免疫性肝疾患のGWASとpost-GWAS 研究の現状.
中村稔.
【Session1】基礎 (1). 厚生労働省難治性疾患政策研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 第1回
金沢ワークショップ. 金沢, 2025.8.2.
- 7) 胃の症例.
森川竣介、西山仁、峯彩子、今村祥子、後藤高介、中島悠史郎、石飛俊介、三浦史郎.
第341回長崎胃疾患検討会. 長崎, 2025.8.27.
- 8) 骨折診療「基本のき」～忘れるな手術前後のレントゲン～.
吉野健太郎、藤岡正樹、藤原洸平、吉田大作.
第3回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2025.12.7.

C, D：学術講演他

C-b：学術講演[国内]

<教育講演>

- 1) 自己免疫性肝疾患 up to date.
小森敦正.
教育講演会 4. 2025年度日本肝臓学会前期教育講演会. Web, 2025.6.7.

<特別講演>

- 1) 薬剤抵抗性てんかんの最適な治療を届けるために.
小野智憲.
難治性てんかん診療Cooperation Seminar in Kyushu. WEB, 2025.2.26
- 2) 60点のてんかん診療：側頭葉てんかん編.
小野智憲.
てんかん診療セミナー in 岐阜. 岐阜, 2025.2.28.
- 3) 乳幼児・小児てんかん外科～脳梁離断・半球離断術の経験と術後発達～.
小野智憲.
第9回Kobe Epilepsy TERA KOYA. 神戸, 2025.3.11

<講演>

- 1) SenTiva の使用経験.
小野智憲.
スポンサーセミナー；“VNS is a Life Changer”：迷走神経刺激療法の今. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.

2) 消毒は毒バイ!! 傷をきれいに早く治すコツ.

藤岡正樹.

教育セミナー. 大牟田天領病院講演会. 大牟田, 2025.7.25.

3) 穿刺手技のための最良の画像支援 Fusion imaging with Low MITHI.

本吉康英.

スイーツセミナー2. 日本超音波医学会第35回九州地方会学術集会. 佐賀, 2025.10.5.

4) 糖鎖マーカー研究の最前線～肝がんとの関係はどうなっているか?～.

山崎一美.

ブレックファーストセミナー26(肝臓学会). 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.11.1.

5) 脂肪と生きる:生活習慣、肥満から脂肪肝まで.

小森敦正.

令和7年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2025.11.21.

6) 自己免疫性肝疾患と最新治療について.

小森敦正.

神戸市・神戸市難病団体連絡協議会主催 医療講演会・医療相談会. 神戸, 2025.12.7.

7) 藤岡が世界に遺した爪痕.

藤岡正樹.

第3回長崎医療センター形成外科研究会. 嬉野, 2025.12.7.

8) 知っておくべきirAE: サイトカイン放出症候群(CRS)について.

本吉康英.

中外eセミナー on Hepatocellular Carcinoma. Web, 2025.12.17.

<講義>

1) 消化器系 胃腫瘍.

三浦史郎.

長崎大学医学部 系統講義. 長崎, 2025.5.14.

<基調講演>

1) 当院におけるirAEマネジメント・CRSについて.

本吉康英.

irAEマネジメント連携セミナー in 長崎. 大村, 2025.9.12.

<招待講演>

1) UPIの実態と終末期患者に生じる創傷(慢性緩和創傷)に対する考え方.

藤岡正樹.

日本褥瘡学会. UPIに関連するミーティング. 東京, 2026.2.15.

D:学会・研究会開催

<会長>

1) 藤岡正樹.

第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.

F-a：学会・研究会座長[国際学会]

<Moderator>

- 1) Bioinformatic analysis of the spatial transcriptomes of inflamed portal tracts in human primary biliary cholangitis.
Komori A.
1. Advance in autoimmune liver disease. 第111回日本消化器病学会総会/ The 14th International Forum of The Japanese Society of Gastroenterology. 東京, 2025.4.25.

<Chair>

- 1) Komori A.
Panel Discussion3 ; PBC, 4th JSH International Liver Conference 2025. Tokyo, 2025.9.25.
- 2) 小野智憲.
一般口演 (英語) 3 ; English Session3, The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society (第58回日本てんかん学会学術集会). 宇都宮, 2025.10.3.

F-b：学会・研究会座長[国内学会]

<座長>

- 1) 小野智憲.
特別講演2 (Video 講演) ; How to write better papers. The view of a former Editor-in-Chief of Epilepsia. 第48回日本てんかん外科学会. 東京, 2025.2.6.
- 2) 黒木保.
学生セッション ; 肝胆膵1, 第61回九州外科学会 / 第61回九州小児外科学会 / 第60回九州内分泌外科学会. 沖縄, 2025.2.7.
- 3) 藤岡正樹.
一般口演3 ; 下肢 外傷・その他, 第68回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京, 2025.4.16.
- 4) 田川努.
一般演題 (口演) 39 ; 縦隔腫瘍2, 第42回日本呼吸器外科学会学術集会. 東京, 2025.5.16.
- 5) 藤岡正樹.
スポンサーセミナー1 ; レットトライ Sorbact ~患者さんのQOL向上のために~, 第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会. 長崎, 2025.5.17.
- 6) 小野智憲.
一般演題 (口演) 34 ; てんかん : その他②. 第67回日本小児神経学会学術集会. 米子, 2025.6.7.
- 7) 黒木保.
一般演題173 ; 膵臓 : 手術手技2, 第80回日本消化器外科学会総会. 神戸, 2025.7.17.
- 8) 田川努.
JATS Case Presentation Awards4 (呼吸器3), 第58回日本胸部外科学会九州地方会総会. 福岡, 2025.7.24.
- 9) 小森敦正.
一般口演2 ; 肝がん, 第32回肝細胞研究会. 北海道, 2025.7.25.
- 10) 小森敦正.
【Session1】基礎 (1), 厚生労働省難治性疾患政策研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 第1回金沢ワークショップ. 金沢, 2025.8.2.
- 11) 小森敦正.
一般演題 ; KULDSにおけるレジストリー研究の現状と課題, 肝臓病治療研究会. 福岡, 2025.9.19.

- 12) 黒木保.
ポスター 15 若手セッション. 第61回日本胆道学会学術集会. 名古屋, 2025.10.2.
- 13) 小野智憲.
シンポジウム 1 ; 小児のてんかん外科のこれから, 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.3.
- 14) 小野智憲.
シンポジウム20 ; てんかんセンターのない地域での診療連携 (シリーズ). 第58回日本てんかん学会学術集会. 宇都宮, 2025.10.4.
- 15) 本吉康英.
消化器 (肝臓 1), 日本超音波医学会第35回九州地方会学術集会. 佐賀, 2025.10.5.
- 16) 田川努.
ミニオーラル 呼吸器 3 : 縦隔・補助循環. 第78回日本胸部外科学会定期学術集会. 大阪, 2025.10.23.
- 17) 本吉康英.
基調講演 ; 当院における薬物シークエンス成績からの考察. 第 3 回Liver cancer optimal use Meeting in 長崎. 長崎, 2025.10.24.
- 18) 小森敦正.
デジタルポスターセッション肝030 (肝臓学会) ; 肝硬変 2, 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.10.31.
- 19) 八橋弘.
ブレックファーストセミナー 15 (肝臓学会) ; HCV Duo* : HCV抗体・抗原同時測定がもたらす診療フローの最適化と早期治療アクセスの向上, 第29回日本肝臓学会大会. 神戸, 2025.10.31.
- 20) 藤岡正樹.
特別講演. 第127回九州・沖縄形成外科学会学術集会. 嬉野, 2025.11.1.
- 21) 田川努.
一般演題ポスター 46 ; (胸腺腫瘍に対する) 手術手技 1, 第66回日本肺癌学会学術集会. 東京, 2025.11.7.
- 22) 小森敦正.
一般演題 9 ; 自己免疫性肝疾患, 第46回日本肝臓学会西部会. 下関, 2025.12.4.
- 23) 黒木保.
一般演題 (口演) 88 ; 胆嚢炎 成績. 第38回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2025.12.12.
- 24) 小森敦正.
特別講演. 第28回長崎肝癌研究会学術講演会. 長崎, 2026.2.12.

<司会>

- 1) 黒木保.
症例報告・一般演題 3 ; 手術の工夫・集学的治療. 第45回九州肝臓外科研究会学術集会. 福岡, 2025.1.18.
- 2) 黒木保.
ポスターセッション16 ; 胆道-良性-2. 第125回日本外科学会定期学術集会. 仙台, 2025.4.10.
- 3) 八橋弘.
講演④, 第16回DAA研究会. 山形, 2025.5.31.
- 4) Yatsunashi H.
ランチョンセミナー 9 ; これからの肝硬変診療～ CART の新たなメリットを含めて～, 第61回日本肝臓学会総会. 東京, 2025.6.5.

G：その他

<ディスカサント>

1) 小森敦正.

シンポジウム9；若手医師フォーラム. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

<長崎県責任者>

1) 小森敦正.

令和7年度 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動「市民公開講座」. 大村, 2025.11.21.


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

海外研修生リスト

責任者 小森 敦正

派遣母体

	2021年				2022年				2023年				2024年				2025年				合計 (名)
	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	
JICA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	4	0	0	0	13
合計 (名)	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	4	0	0	0	13

出身国

	2021年				2022年				2023年				2024年				2025年				合計 (名)
	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	医師	検査技師	看護師	その他	
カザフスタン	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	2	0	0	0	11
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
合計 (名)	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	0	0	0	4	0	0	0	13

※2020年～ 2022年は、COVID-19の影響により海外からの研修生受け入れ実績なし。



責任者 井上 範子

看護部の理念・方針

「その人が その人らしく」

病む人個々の生活信条を大切にし、一人ひとりに気持ちを傾け、
科学的根拠に基づいた個別的かつ専門的な看護を提供する。

【令和7年度 看護部目標】

I. 財務の視点

1. 地域のニーズに合致した医療連携の推進に貢献できる部署機能の強化
2. 経営参画【効果的かつ効率的な病床運用（診療科にこだわらない病床利用）】
3. 時間外勤務の縮減とワークライフバランスの推進

II. 顧客の視点

1. 看護ケアの充実を図り、快適な入院環境の提供
2. 退院後の生活を見据えた入退院支援の強化
3. 患者に看護を提供する専門職としてふさわしい倫理観に基づく看護実践

III. 内部プロセスの視点

1. ルールを遵守し、アクシデント及び院内感染によるアウトブレイクの未然防止
2. 看護の専門性に資するタスクシフト・シェアの体制促進
3. 看護師確保や定着のための活動継続及び一人ひとりを大切にした多様な働き方の支援

IV. 学習と成長の視点

1. 各ラダーの段階に応じた実践能力と対人関係能力等を備えた看護師の育成
2. 特定看護師、専門・認定看護師、JNPとの協働による看護職員のアセスメント力向上
3. CREATEに基づいた人と組織を大切にする看護管理者の育成

【令和7年の看護部運営】

病棟医長、看護部長を中心に自部署の病床利用率を意識した円滑な入退院、外来と病棟が連携して効果的な病床運営を目指したが今年度は1日平均入院患者数、病床利用率ともに減少し、計画を下回る結果となった。しかしながら入退院支援加算は月平均1000件を超えており、病棟看護師、退院支援看護師と連携し協働できた。今後も件数の増加及び入退院支援に関する実践の質の向上に努める必要がある。その一方で看護補助者の退職等により急性期看護補助体制加算（25：1）の取得が厳しくなっており安定的な看護補助者の配置が課題となっている。

病院機能評価受審を行い、患者の療養環境の整備、医療、看護等の提供体制を見直す機会となった。救急外来における安定した人員配置、緊急入院の受け入れについては外来、病棟と連携して取り組んでいる。今年度は内視鏡看護師の拘束体制を導入し、24時間緊急内視鏡に対応できる体制を構築した。ACPの促進や倫理カンファレンスを継続し、今後も質の高い医療、看護の提供を継続する。

医療安全管理体制として今年度はモニター管理、身体拘束最小化について重点的に取り組んだ。医療安全管理マニュアル等の改訂、記録の見直し、ラウンドの強化、リンクスタッフを中心としたカンファレンスの促進等に取り組み、レベル3以上のインシデントは昨年よりも減少している。また、「感染症に強い病院」として組織全体で手指衛生に取り組み、今年、アウトブレイクは発生していない。

個性性を重視したリーダー教育の継続、看護師長を中心に部署間交流を実施し、職員がお互いに学びあい成長する組織文化の構築を継続する。診療看護師、専門看護師、認定看護師、特定看護師等、さまざまな分野のリソースナースの活動推進や医療、看護の質の向上に貢献できるよう、看護管理者がリソースナースを単なる「相談役」に留まらず、組織の看護の質を牽引するキーパーソンとしての成長を支援し、協働する体制を構築していくことが求められている。

2025年 院外研修受講状況

【国立病院機構本部主催】

研 修 名	期 間	受 講 者
令和7年度 新任評価者研修	4/22～5/20	藤井 郁絵
ハラスメント相談員研修	6/19	沖田 典子
令和7年度第1回看護師特定行為研修指導者講習会（Web）	7/7～7/16 eラーニング 7/26（Web）	荒木 明花
令和7年度リーダー育成共同宿泊研修	9/11～9/12	穴井久美子
令和7年度第3回看護師特定行為研修指導者講習会（Web）	9/9～9/18 eラーニング 9/28（Web）	中村 裕子 磯本 莉穂
メンタルヘルス・ハラスメント研修	11/17	中村陽一郎 川畑 貴寛 玉屋さつき
治験および臨床研究倫理審査委員養成研修	11/28	隅 明子
令和7年度QC手法研修	1/18	石橋 和子

【九州グループ主催】

研 修 名	期 間	受 講 者
令和7年度新任労務管理研修 前期 後期	4/21～4/22 5/15～5/16（対面）	中村陽一郎
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修（前期）	5/15～6/29	吉川 遥 下田さやか 江濱 弥生 宮崎 千佳 中村 みさ
令和7年度九州グループ内感染管理担当看護師連絡会（Web）	5/29 7/31 10/23 2/19	中村 みさ 木場みちよ
令和7年度 副看護部長新任研修	6/5～6/6	中村陽一郎
認知症ケア研修	6/12～6/26 7/1	川畑 貴寛 吉田 茜 西山 果穂
看護師長新任研修	6/26～6/27	馬場亜希子 藤井 郁絵
副看護師師長新任研修	7/8～7/9	田嶋 智子 三輪 真理 市原 幸大 津野崎絹代
実習指導者講習会	開講式7/11 7/11～9/19 eラーニング 8/25～9/19 集合研修	松永 来実 山口 茜
院内教育担当者研修	7/24～7/25	安田 祐子 石橋 和子
がん看護エキスパートナース研修	9/1～9/3	山口 桜羅 一瀬かえで
入院支援に関する実践力向上研修	9/4～1/15	隠崎 夢野 小柳しおり
実習指導者講習会	開講式9/26 9/26～11/6 eラーニング 11/10～12/5集合研修	牧 亜里沙 辻村美希代
感染管理エキスパートナース研修	9/29～10/1	山内浩次郎

研 修 名	期 間	受 講 者
がんチーム医療研修会	10/10	小川内弥佑 廣島 楓夏 赤瀬 麻耶
副看護部長研修	10/10	穴井久美子 沖田 典子 中村陽一郎
医療安全研修Ⅱ	10/17	井手 時枝
救急看護エキスパートナース研修	10/27～10/30	山口 詩織 一ノ瀬陽介
医療安全研修Ⅰ（40時間）	11/4～12/9 12/18 集合研修	原 知里 中野 直美 村上 摩利 齊藤 昌子
緩和ケアエキスパートナース研修	11/19～11/21	梅野 香織
院内感染対策研修	11/20～11/21	市原 幸大 黒田 遥華
成育医療エキスパートナース研修	12/4～12/5	宇田川真希 森下 瞳 吉田 葵
労務管理研修	12/11	穴井久美子 沖田 典子 中村陽一郎

【その他】

主 催	研 修 名	期 間	受 講 者
長崎県看護協会	2025年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会	6/1～9/30 eラーニング 11/7～12/10 対面	野口 早世 本多 詩穂 山口 佳恋
長崎県看護協会	第2回看護管理者実践報告会	6/15	江濱 弥生 原 知里
独立行政法人国立病院機構佐賀病院	栄養サポートチーム（NST）専門療法士実地修練実習	6/19 6/26 7/3 7/10 7/17 7/18	木佐貫真子
日本集中治療医学会	RapidResponseSystem出動スタッフ養成コース	6/22～6/29	百枝裕太郎
日本移植学会	認定レシピエント移植コーディネーター	7/26～7/27 8/17	渡部 葉子
長崎県看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	10/3～1/26	中村 みさ 弓削亜矢香
長崎医療センター	看護管理者育成研修	11/27～11/28	石橋 和子 下田さやか
一般社団法人日本母乳の会	第21回赤ちゃんにやさしい病院・BFH	11/30	新納安里紗 大岡 彩乃
日本移植コーディネーター協議会（JATCO）	第24回日本移植コーディネーター協議会（JATCO）総合研修会	10/27～12/4 eラーニング 12/12、12/13	宮本 瑠美 百枝裕太郎

【災害訓練関係】

主 催	研 修 名	期 間	受 講 者
長崎県	長崎県総合防災訓練	5/31	森 勇介 上田 幸枝
済生会川内病院	第1回原子力災害派遣チーム研修	6/13～6/14	里吉 拓海 上田 幸枝
日本サバイバルトレーニングセンター	ヘリコプター乗員向け不時着対応訓練（ADC）	6/16	松尾 悠美 木崎 愛 喜岡 昭子 中村 祐子 塩塚 築 里吉 拓海 中根 秀聡
長崎県医療政策課	第1回九州・沖縄ブロックDMAT技能維持研修	6/24	塩塚 築 中根 秀聡

主 催	研 修 名	期 間	受 講 者
長崎県	日本DMAT隊員養成研修（東京）	7/22 ～ 7/25	西山河菜子
長崎大学	第 1 回原子力災害医療中核人材研修	8/22 ～ 8/23	山口 詩織 青山 育美
長崎県医療政策課	令和 7 年度大規模地震時医療活動訓練	9/5 ～ 9/6	堀 加世 塩塚 築
長崎大学	令和 7 年度第 1 回原子力災害医療派遣チーム研修	9/20 ～ 9/21	上田 幸枝 里吉 拓海
長崎県大村市	令和 7 年度大村市総合防災訓練	9/28	青山 育美 中根 秀聡 山口 詩織 河野 陽子
長崎県医療政策課	令和 7 年度長崎県原子力防災訓練（長崎医療センター）	10/5	中道 大夢 中村 裕子
長崎県	令和 7 年度第 2 回九州・沖縄ブロックDMAT技能維持訓練	10/8	青山 育美 山口 詩織
長崎県	令和 7 年度長崎空港航空機事故対処総合訓練	10/23	中道 大夢 内野 佳樹
第七管久海上保安本部 警備救難部救難課	令和 7 年度北部九州地区洋上救急慣熟訓練	11/4	堀 加世
長崎県	令和 7 年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練	11/8 ～ 11/9	百枝裕太郎 山口 詩織
佐賀県健康福祉部医務課	佐賀県DMAT隊員養成研修	12/13 ～ 12/14	宮崎 里菜
長崎県	第 4 回長崎県災害医療ロジスティクス研修会	12/21	内野 佳樹
長崎県	長崎空港内屋内救護所活動訓練	12/24	里吉 拓海 森 勇介

2025年 講師派遣等

【看護系大学専門学校講師】

日 程	依 頼 施 設	講 義 内 容	氏 名
5月14日・ 21日・28日 6月18日 7月2日	長崎市医師会看護専門学校	看護の臨床判断	江口 貴彦
7月10日・ 16日 9月12日・ 25日	長崎県央看護学校	成人臨床看護の実際Ⅱ（中枢神経障害）	中道 大夢
8月4日	長崎県医師会看護専門学校	看護の臨床判断 新任教員を含む教員 1～5年目の教員	江口 貴彦
9月18日・ 25日 10月2日	長崎県央看護学校	小児臨床看護の実際	野口 早世
12月2日・ 10日	嬉野医療センター附属看護学校	成人・老年看護学方法論Ⅳ	野口久美子
4月17日	活水女子大学	チーム医療論（高度実践看護師が実践 する多職種間の調整）	津野崎絹代
4月25日		チーム医療論（地域連携における情報 共有と患者支援の実際）	田中 圭
4月28日		チーム医療論（救急・緊急時のチーム 医療と看護師の役割）	里吉 拓海

日 程	依 頼 施 設	講 義 内 容	氏 名
5月12日 5月26日	活水女子大学	フィジカルアセスメント	津野崎絹代 溝上 佳史
6月9日		基礎看護学実習Ⅰ 病院見学	
6月16日		基礎看護学実習Ⅰ 病院見学	
5月22日		基礎看護学実習Ⅰ 導入	井上 範子
7月2日		母性看護学方法論学習	西田 莉瑚
7月14日		看護学統合実習（学内実習）複数受け持ちロールプレイ	白岩美紗里
7月28日		看護学統合実習（学内実習）複数受け持ちロールプレイ	白岩美紗里
7月9日		看護学統合演習、看護部の組織と概況	沖田 典子
7月10日		看護学統合演習、医療安全管理体制	井手 時枝
7月10日		看護学統合演習、感染管理体制	木場みちよ
10月29日		看護医療情報学	西田 美香
11月5日		看護医療情報学	田中 圭
12月5日		医療安全管理論	井手 時枝
12月18日		へりポート見学と講話	里吉 拓海 中根 秀聡 沖田 典子

【一般講師】

日 時	依 頼 施 設	講 義 内 容	氏 名
5月23日	看護師キャリア支援センター	新人看護職員研修 急変時の対応・感染管理の基本	百枝裕太郎 木場みちよ
5月29日	NHO九州グループ内感染管理担当看護師連絡会	新興感染症発生を想定した机上訓練の開催及び実施報告について	木場みちよ 中村 みさ
6月6日	NHO九州グループ令和7年度副看護部長新任研修	副看護部長に期待すること	井上 範子
6月14日	大村市地域包括支援センター	ケアマネジメント学習会	田中 圭
6月27日	公益社団法人鹿児島県済会南風病院	がん看護における倫理的課題	野口久美子
7月3日～ 7月5日	長崎県病院企業団 公益社団法人 地域医療振興協会 長崎県支部	ALSO-Japanプロバイダーコース	安田 祐子 石丸 絢 本多 菜美 泉井 綾夏
7月6日	NHO長崎医療センター	BLSOプロバイダーコース	泉井 綾夏 相川 秀美
7月10日、 7月26日	株式会社学研メディカルサポート	看護管理者向けオンラインシンポジウム～修了者×管理者の本音のクロストーク～モチベーションを引き出す育成の秘訣	中村 裕子
7月19日	高知女子大学	歴史をふまえて未来の看護学をデザインする	田中 圭
7月23日	宮崎大学	九州がんプロフェッショナル養成プラン	田中 圭

日 時	依 頼 施 設	講 義 内 容	氏 名
7月25日	公益社団法人長崎県健康事業団	令和7年度第1回長崎県移植情報担当者協議会 「令和7年度脳死下臓器提供症例報告」	宮本 瑠美
7月25日	公益社団法人長崎県健康事業団	令和7年度第1回長崎県移植情報担当者協議会 「令和7年度脳死下臓器提供症例報告」	高崎 美穂
7月26日	NHO長崎医療センター	新生児蘇生法「専門」Aコース講習会	田尻 亜希
8月30日	NHO長崎医療センター	新生児蘇生法「スキルアップ」Sコース講習会	田尻 亜希 梅野 志保
9月2日、 9日、12日、 18日	NHO九州グループ	令和7年度実習指導者講習会演習支援、発表会等	高松三穂子
9月24日	中外製薬	県央地区CRSマネジメントセミナー	富永 美希
9月30日	NHO九州グループ	感染エキスパートナース研修	木場みちよ
10月1日	NHO九州グループ	感染エキスパートナース研修	中村 みさ
10月16日	長崎県看護協会	2025年度災害支援ナース養成研修	中村 みさ
10月28日	NHO九州グループ	救急看護エキスパートナース研修	百枝裕太郎
11月1日、 2日	沖縄県立中部病院	ALSOプロバイダーコース2025	安田 祐子
11月6日	長崎県地域保健課	令和7年度感染症対応力向上研修会及び机上訓練	中村 みさ
11月22日	長崎大学病院	長崎県緩和ケア多職種研修会ファシリテーター	石丸 美幸
12月5日、 6日	長崎県看護協会	2025年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会における演習支援者	平尾 佳苗
12月12日、 16日、22日	長崎大学病院	看護師特定行為研修実技試験講師	吉岡 未智
12月16日、 23日、26日	長崎大学病院	看護師特定行為研修実技試験講師	江口 貴彦

【小中学校・高等学校講師】

日 時	依 頼 施 設	講 義 内 容	氏 名
7月1日	大村市こども家庭課/大村中学校	思春期ころとからだの健康づくり	山本 光琳
7月8日	大村市こども家庭課/桜が原中学校	思春期ころとからだの健康づくり	畠中娑也加
9月2日	大村市こども家庭課/郡中学校	思春期ころとからだの健康づくり	塚崎友佳里
9月30日	大村市こども家庭課/大村高等学校	思春期ころとからだの健康づくり	永田 雅
10月14日	大村市こども家庭課/玖島中学校	思春期ころとからだの健康づくり	宇田川真希
10月24日	大村市こども家庭課/萱瀬中学校	思春期ころとからだの健康づくり	大岡 彩乃
10月30日	大村市こども家庭課/西大村中学校	思春期ころとからだの健康づくり	原 明日香
11月7日	大村市役所国保けんこう課/西大村中学校	がん教育	田中 圭
11月27日	大村市役所国保けんこう課/三城小学校	がん教育	田中 圭
12月12日	大村市こども家庭課/桜が原中学校	思春期ころとからだの健康づくり 性講話	西田 莉瑚
12月19日	大村市立大浦中学校	がん教育	田中 圭

施設見学・研修・実習受け入れ状況

【研修・実習】

日 付	研修内容	施 設 名	人数
6月2日～1月30日	看護師特定行為研修	NHO長崎病院、NHO長崎医療センター	2
7月11日	認定看護管理者教育課程 サードレベル統合演習Ⅲ（実習）	NHO長崎病院	1
8月20日～8月29日	放射線看護専門コース 放射線看護実習	鹿児島大学保健学研究科	1
11月27日～11月28日	第13回看護管理者育成研修	長崎県内 10施設※①	12

※①上五島病院、長崎県島原病院、聖フランシスコ病院、みどりの園病院、NHO長崎病院、みさかえの園あゆみの家、JCHO諫早記念病院、愛野記念病院、宮崎病院、NHO長崎医療センター

【施設見学】

日 付	研修内容	施設名	人数
7月29日	ふれあい看護体験	大村高等学校、川棚高等学校	11
10月28日	病院見学、意見交換会	活水高等学校	10

【看護学生実習】

学 校		学年	人数	受け入れ病棟
活水女子大学看護学部	基礎看護学実習Ⅰ	1年次	67	3B, 5A, 5B, 6A, 6B, 7A, 8A, 8B, 9A
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次	33	3B, 5A, 5B, 6A, 6B, 7A, 8A, 8B, 9A
	成人看護学実習Ⅰ	3年次	63	3A, 5B, 6A, 6B, 7A, OP
	成人看護学実習Ⅱ	3年次	63	5A, 8A, 8B, 9A, 透析室, 化学センター
	小児看護学実習	3年次	63	4A, 小児科外来
	母性看護学実習	3年次	63	4B, NICU, 産婦人科外来
	統合実習	4年次	63	3B, 4B, 5A, 5B, 6A, 6B, 7A, 8A, 8B, 9A
向陽学園向陽高校 看護専攻科	小児看護学実習	2年次	40	4A
	助産学実習Ⅲ	助産学科	4	4B, 外来
西九州大学	次世代育成看護学実習Ⅰ（母性）	3年生	8	4B
京都医療センター附属 京都看護助産学校	助産学実習Ⅱ分娩期	助産学科	2	4B

リクルート活動

【病院見学、就職説明会】

令和9年度採用分

	実施回数	延べ参加人数
当院主催病院見学会	8	73
学校主催就職説明会	6	294
九州グループ主催就職説明会	1	52
長崎県主催合同説明会	1	52

【卒業生と在校生の交流会等参加】

活水女子大学
長崎市医師会看護専門学校
医療福祉専門学校緑生館
長崎県央看護学校
長崎県立シーボルト校

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Endotracheal Tube Securement and Medical Device-Related Pressure Injury in the Intensive Care Unit : A Single-Center Retrospective Cohort Study.
百枝裕太郎, Kentaro Hara, Yukiko Nakamura, Yoshihumi Kubota, Chison Gon, Chikaaki Nakamichi, Masaki Fujioka.
Cureus. 2025.12.29.
- 2) Effectiveness of thin polyurethane film dressings in preventing acute radiation dermatitis during postmastectomy radiotherapy for breast cancer: A retrospective study.
大石景子, Nakamura D, Takeda T, Shintchi M. Ashikari T.
Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing. 2025年10月11日（オンライン公開）2025 Oct 11 ; 12 : 100801.
doi : 10.1016/j.apjon. 2025. 100801. PMID : 41215874.
- 3) Factors associated with skin exposure of central venous ports in patients undergoing chemotherapy : a retrospective study.
富浦真秀, Kayoko Kurusu, Mari Murakami, Ayumi Inada, Kentaro Hara.
BMC Cancer. 2025/11/10Published online02 December 2025.

B：和文

B-a1：和文原著

- 1) 高度肥満患者（BMI46）の呼吸器外科緊急手術における外回り看護の皮膚障害・褥瘡予防の実践と課題.
高見宗太郎、弓削亜矢香、原健太郎.
Journal of Japan perioperative Nursing Academy. Vol.21.No.1 Oct.2025.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム、パネルディスカッション等

＜シンポジウム＞

- 1) 当院における母乳育児支援に関する取り組み.
木下娑也加、池田こなつ.
第33回母乳育児シンポジウム. 東京, 2025.8.30.
- 2) 周術期における体温管理（術前プレウォーミング）の現状とその課題 日本&ニュージーランドの看護現場
レポート.
上村貴弘、原健太朗.
第47回日本手術医学会総会アフタヌーンセミナー . 広島, 2025.11.15.

B-b2：一般演題

＜口演＞

- 1) 外科医師の手指衛生への意識および行動変容につながったカルバペネマーゼ賛成町内細菌目最近アウトブレイク.
木場みちよ.
第13回日本感染管理ネットワーク学会学術集会. 福岡, 2025.5.10.
- 2) 急性・重曹患者看護専門看護師が実践する移行ケア.
百枝裕太郎.
第21回クリティカルケア看護学会学術集会. 東京, 2025.7.5.
- 3) 手術室褥瘡予防対策におけるドレッシング材非貼付時の術後皮膚障害・褥瘡発生要因の検討.
上村貴弘.
第42回日本手術看護学会九州大会. 長崎, 2025.7.19.
- 4) 当院高度救命救急センターにおける医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）発生状況と課題.
宮崎里菜.
第33回長崎救急医学会学術集会. 長崎, 2025.9.6.
- 5) 手術室褥瘡予防対策における異なるタイプの多層構造シリコンフォームドレッシング材ノ比較検討.
上村貴弘.
第39回日本手術看護学会年次大会. 宮城, 2025.9.20.
- 6) 手術部看護師を対象とした針刺し・切創事故後の報告に至るまでの体験について.
神代竜育.
第39回日本手術看護学会年次大会. 宮城, 2025.9.20.
- 7) 頭頸部領域の放射線治療において急性放射線皮膚炎予防にポリウレタンフィルム貼付が効果的であった一例.
大石景子.
日本放射線看護学会第14回学術集会. 福島, 2025.9.21.
- 8) 下肢牽引台手術におけるチューブタイプの温風加温装置を用いた術中加温の効果の検討.
岡田久瑠美.
第39回日本手術看護学会年次大会. 宮城, 2025.9.21.
- 9) 入院時重症看護対応メディエーターが関与した本人の意思が尊重された臓器提供症例.
高崎美穂.
第61回日本移植学会総会. 愛知, 2025.10.11.
- 10) 脳卒中の離島在住患者との比較～離島在住の体位に関わる要因の調査～.
長野みのり.
第52回日本脳神経看護学会. 北海道, 2025.10.12.

- 11) BFNICU認可施設としての取り組み.
新納安理紗.
第83回九州新生児研究会. 長崎, 2025.10.18.
- 12) ドナーミルクを使用する母親へのケアの検討～ドナーミルクを使用する母親へのアンケートを実施して～.
野口早世.
第83回九州新生児研究会. 長崎, 2025.10.18.
- 13) アレルギー薬剤投与におけるアナフィラキシー発症予防に向けた医療安全管理室の取り組み.
西田美咲、井手時枝.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.
- 14) 三次救急病院における曜日別手術室稼働時間と手術室看護師の超過勤務の関連分析.
稲田楓、弓削亜矢香、原健太郎.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.
- 15) 生活の質を念頭に人工呼吸器装着下での施設退院を支援した筋萎縮性側索硬化症患者の一例～特定看護師の介入の意義～.
中道大夢.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.8.
- 16) ヘリコプター乗員向け不時着時対応訓練（ADC）の実施とその効果～フライトナースの視点から～.
内野佳樹.
第32回日本航空医療学会総会・学術集会. 静岡, 2025.11.14.
- 17) ドナーミルクを使用する母親への思い～ドナーミルクを使用する母親へのアンケートを実施して～.
浦結菜.
第34回日本新生児看護学会学術集会. 神奈川, 2025.11.14.
- 18) 医療的ケア児の在宅移行に向けた診療看護師の役割.
河野陽子.
第25回医療マネジメント学会長崎県支部学術集会. 長崎, 2025.11.14.
- 19) 脳血管疾患患者診療における現場滞在時間に影響を及ぼす因子の検討.
上田幸枝.
第32回日本航空医療学会総会・学術集会. 静岡, 2025.11.15.
- 20) 内視鏡の逆行性胆管膵管造影検査における看護師の放射線被ばく線量の低減を目指して.
原田由佳、大瀧彩加.
第88回九州消化器内視鏡技師会. 大分. 2025.11.29.
- 21) 中堅助産師・看護師を対象とした卒後インターシップ研修を実施して～第1報～.
西田美香.
第23回国立病院看護研究学会. 熊本, 2025.12.20.

<ポスター>

- 1) 新生児への人工乳の補足に対する助産師・看護師の認識調査～人工乳の減量・中止の判断に影響する要因について～.
金子和佳奈.
第66回日本母性衛生学会学術集会. 東京, 2025.10.10.
- 2) 頭頸部がん看護における看護師の困難感と関連要因.
杉本扇太郎、金丸萌華.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.

- 3) 術後の誤嚥性肺炎の予防に対する看護師の口腔ケアに関する意識調査～認識と実践について～.
小西由香、木佐貫真子.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.
- 4) NSTの質向上に向けた体制の構築～NSTリンクナースの育成支援および経営参画の視点を通して～.
瀧口尚.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.
- 5) 副看護師長の管理能力向上を目指して～CREATEの能力に基づいた行動指針の作成と活用による副看護師長の管理能力の変化～.
堂口香織.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.7.
- 6) 新たな精神科リエゾン患者受け入れ体制の構築～精神科リエゾン患者の受け入れ継続を目指して～.
小森みづほ.
第79回国立病院総合医学会. 石川, 2025.11.8.
- 7) 長崎県における航空医療の現状と新時代の訪れ～1施設2機体制へ N-ARMSの挑戦
中根秀聡.
第32回日本航空医療学会総会・学術集会. 静岡, 2025.11.14.

C,F：学術講演他

C-b：学術講演〔国内〕

<シンポジウム>

- 1) 放射線治療場面での看護ACP倫理的視点・新たな皮膚ケア最新情報.
大石景子.
日本放射線看護学会第14回学術集会. 福島, 2025.9.20.

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

- 1) 小浜由紀子.
第83回九州新生児研究会. 長崎, 2025.10.18.
- 2) 井上範子.
日本医療マネジメント学会 第22回九州・山口連合大会. 大分, 2025.11.28.

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

専門看護師・認定看護師・特定看護師

■専門看護師・認定看護師状況

専門看護師：4分野5名

分 野	資格取得人数	職員名
がん看護	2	田中 圭 野口久美子
感染症看護	1	中村 みさ
放射線看護	1	大石 景子
急性・重症患者看護専門看護師	1	百枝裕太郎

認定看護師：8分野12名

分 野	資格取得人数	職員名
感染管理	2	木場みちよ 中村 みさ
緩和ケア	1	石丸 美幸
がん化学療法看護	2	村上 摩利 富永 美希
皮膚排泄ケア	1	中村裕紀子
新生児集中ケア	1	野口 早世
がん放射線療法看護	2	大石 景子 新地 幸
クリティカルケア	2	平川 雅子 平原 拓馬
糖尿病看護	1	土井 広貴

特定行為研修修了者：10名

4区分8行為	8	玉屋さつき 中村 裕子 荒木 明花 中道 大夢 磯本 莉穂 平川 雅子 山口 萌 山本 真代
10区分24行為	1	中川 剛志
1区分2行為	1	新地 幸

認定看護管理者：3名

役職名	職員名
看護部長	井上 範子
副看護部長	穴井久美子 沖田 典子

■「がん看護」専門看護師活動報告

野口 久美子

■役割

7 A病棟（総合外科センター）の看護師長として勤務し、自部署のがん看護の質向上を目指し、日々の看護実践を通してがん看護教育を行う。がん患者と家族の思いを尊重し、患者の最善を中心に考えケアを提供できる看護師を育成することを役割と考えている。

また、地域の医療機関や看護師基礎教育に貢献し、地域のがん看護の質向上に務めていく。

■実践報告

＜実 践＞

担当看護師が中心となり看護方針を決定できるように支援を行っているが、看護師の経験年数やケースの困難度によっては、直接ケアを実施し、私が行ったアセスメントについて言語化し、その後のケアを担当看護師が継続できるように支援した。緊急入院時に病状が進行している乳がん患者の療養場所の意思決定などは、急いで対応が必要となるため直接介入を行った。

＜相 談＞

7 A病棟の中では、スタッフはがん看護専門看護師というよりは、看護師長としての認識が高いこともありスタッフから相談があることが少ない。そのため、スタッフステーション内での会話を気につけ、スタッフが困っていることに対し声をかけ、ともに考える姿勢を示してきた。

＜調 整＞

退院支援が困難なケース、せん妄など精神症状の緩和が困難なケースを多職種（医師・看護師・精神・リエゾンチーム、リハビリ、緩和ケアチーム、薬剤師など）とともに取り組んだ。

調整機能を活用して取り組んだケースの例

- ・肝切除術後にせん妄が遷延化した患者の退院支援
- ・認知機能低下がある独居高齢者の退院支援
- ・緊急手術後にせん妄が遷延化した患者へのケア など

＜倫理調整＞

病院機能評価の受審もあり、自部署内での倫理カンファレンスの開催をスタッフとともに取り組んだ。倫理カンファレンスを実施したケースは、認知機能の低下がある高齢がん患者の手術に関する意思決定、未就学児をもつ40代悪性疾患患者の治療方針に関する意思決定などである。

家族背景が複雑な患者、経済的な問題を抱えている患者への関わりについては、偏見を持たずに関わる姿勢を示すことを注意して実施した。

＜教 育＞

院外講師

- ・鹿児島共済会 南風病院 ステップアップ研修 テーマ「がん看護における倫理的課題」
- ・嬉野医療センター附属看護学校 「造血幹細胞移植を受ける患者の看護」

院内研修

- ・レベルⅢ研修 2回目「意思決定支援」、4回目「看護倫理」

＜研 究＞

7 A病棟看護師（小西、木佐貫）の国立病院総合医学会への演題登録、発表準備のサポートを実施。
「術後の誤嚥性肺炎の予防に対する看護師の口腔ケアに関する意識調査～認識と実践について～」

【がん看護専門看護師の介入による算定】がん患者指導管理料 イ 500点 2件

■「がん看護」専門看護師活動報告

田中 圭

■役割

がんの予防から診断・治療・共生・終末期での質の高い実践を行い、外来化学療法センター・放射線治療室・緩和ケアチーム・がん相談支援センター・がんゲノム外来などにおいて多職種による質の高い医療が提供できるように、円滑なチーム作りを推進する。また、倫理事例の検討・臨床倫理カンファレンス・倫理委員会などを担当し積極的な患者の権利擁護者の役割が求められている。

都道府県および地域がん診療連携拠点病院の整備に参画し、がん医療の均てん化や、地域医療連携を促進する。

■実践報告

<実践>

がん相談などを通してがん患者、家族の意思決定支援を行っている。また、セカンドオピニオン外来の窓口も務めており、がん患者、家族の個々の治療や生活背景にあった情報提供を行っている。

<相談>

緩和ケアチームの専従看護師、県央がんセンターのがん化学療法看護認定看護師からがん看護実践・教育の相談に応じている。また、各診療科や病棟からもがん看護のコンサルテーションを受けている。

<調整>

緩和ケアチーム、がん相談支援センターがチームとして円滑に機能するように医師、看護師、MSW等の業務をコーディネートしている。また、他医療機関や在宅医療との地域緩和ケアネットワークづくりも行っている。

<倫理調整>

院内の毎月1回開催されるがんサージカルボード、倫理カンファレンスの司会や事例検討の相談窓口を担っている。また、病棟の倫理カンファレンスへの参加や、臨床倫理委員会での議論に積極的に介入している。

<教育>

院内のがん看護教育には当院がん関連認定専門看護師の支援を行う形で間接的に関わっている。院外の県民、医療福祉従事者への教育活動としては、長崎県の小中高生にがんの予防や命の大切さを学んでもらうためのがん教育を行っており、医療福祉従事者へは研修会などの講演活動を行っている。

<研究>

2025年は院内臨床研究費を獲得し、「喉頭全摘出術を受けたがん患者の就労状況と就労支援の実態」について研究を行っている。また、看護研究の結果や看護のエビデンス、ガイドラインを実際の看護実践に活かすことができるようにスタッフ教育を行っている。

【がん看護専門看護師の介入による算定件数 特になし】

■「感染管理認定」「感染症看護専門」看護師 活動報告

中村 みさ

■役割

感染症看護専門看護師は、「病院だけでなく地域の集団に対する感染管理」と「感染症や易感染状態にある複雑で解決困難な看護問題を持つ個人または家族に対して水準の高い看護ケア」を効率良く提供する役割がある。

■実践報告

<実践>

感染管理の主な実践はサーベイランスである

サーベイランス	担 当	目 標	結 果
中心静脈カテーテル血流感染	6A・6B	感染 0件/年未満	4件/年
尿道留置カテーテル尿路感染		感染 11件/年未満	20件/年
手術部位感染	整形外科（6B）	感染 0件/年未満	0件/年
人工呼吸器関連イベント（疑）	一般病棟	感染 0件/年未満	1件/年

サーベイランスの結果、抜去不可の長期留置者等で緑膿菌や大腸菌での尿路感染があった。

7 B病棟では制限された入院生活を送る患者に対しスタッフと話し合いながら最善のケア提供に努めた。

月1～2日の活動日を利用して部署をラウンドし、環境からの感染防止に努めていった。また、行動において改善が必要な場合は、直接指導し改善を依頼していった。

<指導・教育>

・指導

病棟の感染対策マニュアル修正の相談を受けていった。電話で相談あり、訪問し直接指導を行っていった。

・教育 3件

1. 国立病院機構九州グループ主催 令和7年度感染管理エキスパートナース研修 タスク
「アウトブレイク対応」「医療関連感染管理の課題における対策の検討」
2. 日本看護協会主催 2025年度災害支援ナース養成研修（感染症）企画、講義・演習支援
3. 長崎県県央保健所主催 令和7年度感染症対応力向上研修会及び机上訓練ファシリテーター

<相談>

- ・解決可能な相談や組織的な相談と感染管理に関する相談が多かった。感染症や易感染患者の看護ケアの相談や意見交換を増やしていくことを目指している。

<倫理調整>

- ・病棟目標に沿って、病棟で感染対策だけに拘らず、看護・倫理カンファレンスを継続し、その人らしくを目標にケア向上に貢献している。多剤耐性アシネトバクター検出患者の退院にあたり、病棟や専門・認定看護師会で事例検討を行っていった。

<調整>

院外研修やカンファレンスの調整を行っていった。

<研究>

多剤耐性アシネトバクター検出患者の対応について、また、業務改善を行っての感染率の変化について研究を計画している。

■「放射線看護専門」「がん放射線療法看護認定」看護師活動報告

大石 景子

■役割

がん放射線療法看護の分野において、がん放射線療法効果を最大限に得られるよう放射線療法の治療過程に生じる患者の身体、心理、社会的問題の解決を支援しつつ長期にわたる治療を患者自身が主体的に継続し、安全に完遂することを目的とし水準の高い専門的看護を提供する。

■実践報告

<実践>

放射線治療を受ける患者に対し初診時の診察へ同席することで治療選択への支援のため放射線に対する恐怖心や副作用に対する不安への対応、放射線治療によって生じる副作用症状への処置方法や日常生活管理など、治療開始前から治療終了後まで、患者本人および家族へ直接的な処置介入及び指導など、心理的支援とともに日常生活に関わる支援などの看護活動を実施した。

<相談>

がん放射線治療を受ける患者・家族に対しての副作用に対する処置方法や看護技術について、放射線治療室および病棟看護師が対応に困った内容についてのコンサルテーションを実施した。

<調整>

頭頸部放射線治療を受ける患者の副作用予防対策としてマウスピースの作成が必須であるが、当院には歯科がなく院外歯科への紹介が必要となる。そのため、耳鼻科担当医、外来・入院看護師、放射線科の歯科受診連携システムを構築。さらに該当患者においては当院歯科衛生士介入による口腔内チェックシステム手順を作成した。

<倫理調整>

放射線治療を受ける患者の治療方針について、各診療科のカンファレンスに積極的に参加し、患者の意向や生活背景をもとに患者の代弁者として発言し治療方針が決定されるよう活動した。

<教育>

- ・令和7年度がん診療リンクナース会議の企画運営及びがん看護コース放射線治療部門を担当

<研究>

「頭頸部領域の急性放射線皮膚炎予防にポリウレタンフィルム貼付が効果的であった一例」

【学術・学会】

- ・令和7年9月20-21日 第14回日本放射線看護学会学術集会

1) 交流集会「放射線治療場面での看護ACP 倫理的視点・新たな皮膚ケア最新情報」発表

2) 口演「頭頸部領域の放射線治療において急性放射線皮膚炎予防にポリウレタンフィルム貼付が効果的であった一例」発表

- ・論文投稿：Oishi K, Nakamura D, Takeda T, et al. Effectiveness of thin polyurethane film dressings in preventing acute radiation dermatitis during postmastectomy radiotherapy for breast cancer: A retrospective study. Asia Pac J Oncol Nurs. 2025 Oct 11;12:100801. doi: 10.1016/j.apjon.2025.100801. eCollection 2025 Dec.

■「急性・重症患者看護」専門看護師活動報告

百枝 裕太郎

■役割

救急・集中治療分野において、急性・重症患者、またはその家族に対して高度な専門的知識と臨床判断力を基盤とし、重症化の予防と早期回復に向けて支援する。また多職種連携や複雑な看護問題に対するコンサルテーション、教育的支援を通して組織全体の急性期看護の質向上を目的とした支援を行う。

■実践報告

＜実践＞

生命の危機的状態にある急性・重症患者、またその家族に対して全人的苦痛の緩和に努め、人工呼吸器からの早期離脱支援やせん妄予防、早期リハビリテーションなどの直接ケアを実施した。また今年度9月よりCritical care outreach team（以下、CCOT）を立ち上げ、院内急変の予防や早期認知に向けた院内ラウンドを開始した。（CCOT 対応 2025年実績：延べ128名）

＜相談＞

一般病棟の看護師や特定看護師から重症患者対応に関するコンサルテーションを受けている。2025年度は、挿管チューブの管理方法、急変時の初期対応、呼吸ケア方法、METシミュレーションの企画などに関するコンサルテーションに対応した。

＜調整＞

救急科カンファレンスへの参加、呼吸ケアサポートチームでの活動を通して、職種間連携や重症患者へのケア提供が円滑に進むようにコーディネーションを実施した。

＜倫理調整＞

危機的状況にある患者・家族に生じる倫理的課題や不安に対して、倫理カンファレンスの企画や参加を通して、チームで問題解決に導けるように活動した。またデスカンファレンスの開催にも携わり、終末期ケアの質向上に向けた支援を行なった。

＜教育＞

高度救命救急センターの部署内ラダー教育、院内救急看護コースを担当し、急性・重症患者看護の質向上に向けた教育的支援を行なった。

＜研究＞

専門分野の学会集会において学会発表、学会誌への論文投稿を行なった。また院内臨床研究において研究費を獲得し研究を実施、部署内研究発表（2題）における研究指導を行なった。

- ・令和6年度 院内臨床研究「ABCDE Bundleの有効性に関する研究」
- ・第21回クリティカルケア看護学会学会集会発表（口演）「急性・重症患者看護専門看護師が実践する移行ケア」
- ・論文投稿：Yutaro Momoeda, Kentaro Hara, Yukiko Nakamura, et al. Endotracheal Tube Securement and Medical Device-Related Pressure Injury Incidence in the Intensive Care Unit: A Single-Center Retrospective Cohort Study . Cureus. 2025. DOI: 10.7759/cureus.

■「感染管理」認定看護師活動報告

木場 みちよ

■役割

感染管理認定看護師の主な役割として、1. 病院感染サーベイランス、2. 感染防止技術、3. 病院環境管理、4. 職業感染防止、5. 感染管理教育、6. 相談がある。自施設の現状を的確に把握し、効果的・効率的な感染対策を立案し、実践する。安全で良質な医療の提供に貢献するために、組織横断的に病院感染低減およびコントロールに努める。

■実践報告

<実践>

1) サーベイランス：厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業に手術部位感染サーベイランスの報告を行なっている。

サーベイランス	対象病棟	感染件数
手指衛生サーベイランス	全部署	—
中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス	全病棟	21件/年
尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス	全病棟	94件/年
手術部位感染サーベイランス		大腸手術 9 件/年 直腸手術 4 件/年 開頭術 4 件/年

2) 活動

- ・ICTミーティング、ICTラウンド：週 1 回、抗菌薬使用支援カンファレンス：週 1 回
- ・感染対策委員会：月 1 回、管理診療会議：月 1 回
- ・感染リンクスタッフ連絡会議：月 1 回、耐性菌対策会議：月 1 回
- ・結核DOTSカンファレンス：2 か月に 1 回
- ・感染対策向上加算 1：相互評価（加算 1 施設と相互に 1 回ずつ）、地域連携カンファレンス（4 回、うち 1 回は合同訓練）、環境ラウンド 4 回
- ・NICU感染対策会議：2 か月に 1 回
- ・病院機能評価受審への対応（院内感染対策マニュアル改訂、環境調整）
- ・9 月より ICT・AST ニュースレター発行：毎月、10 月“手指衛生強化キャンペーン”開催

<指導>

- ・病棟や部署の要望に応じた教育やラウンドでの現場教育。
- ・院内感染対策講習会、手指衛生直接観察者育成研修会の企画と開催。
- ・新採用者（看護師、医師、コメディカル）への感染対策に関する研修。
- ・感染リンクスタッフ連絡会議にてサーベイランス報告、トピックスに関するレクチャー。
- ・NICU、MRSA・ESBLアウトブレイク対応：患者ゾーン内環境調整、職員の手指衛生徹底。

<相談>

- ・メール、電話、リンクスタッフ連絡会議、ラウンド時現場等で、感染対策や環境整備等についての相談あり、必要時病棟へ出向き、現状を確認し、迅速な対応できるように心がけている。
- ・相談内容：患者、職員感染症発生時の対応、多剤耐性菌に関する内容など。

■「緩和ケア」認定看護師活動報告

石丸 美幸

■役割

がんなどの治癒が困難な進行性の疾患による病気そのものや治療に伴う様々な苦痛を抱える患者および家族に対して、苦痛を全人的に捉え、患者・家族のQOLを維持・向上するために専門的な知識・技術をもって看護を実践していくこととされている。また、患者・家族への喪失と悲嘆に対するケアの実践も求められている。緩和ケアはがんと診断を受けた段階から臨死期のケアに到るまでと長い療養期間の中で、特に緩和ケア認定看護師の特科技術は、エンゼルケア・呼吸困難・リンパ浮腫・口腔ケアとされ、より専門的な介入が求められる。

■実践報告

<実践>

2016年4月より、緩和ケア専従看護師が配置されており、緩和ケアチーム活動や院内のがん看護啓発のための活動を行っている。各部署において、がん患者の診断・告知の段階からの緩和ケアの介入の視点から、がん患者とその家族の治療に伴う全人的苦痛の緩和のための看護実践を行った。また、がん終末期にある患者・家族の苦痛緩和のための看護ケアやマネジメントの実際について担当看護師と一緒にカンファレンス等で検討し、安楽なケアを提供するための実践を行った。

<指導>

がん診療リンクスナース会議の企画・運営やがん診療システム拡充と浸透のための資料・マニュアル改定を行った。今年度はアドバンスケアプランニングやがん看護に関する質の向上に向けた部署の取り組みについて症例検討を企画した。また、がん性疼痛緩和指導管理料算定に向けたシステム運用やリンクスナースへの普及・啓発活動にも貢献できた。緩和ケア研究会や院内における教育活動は、地域も対象とした緩和ケア研究会を1月に開催し、緩和ケアに関するがん性疼痛マネジメントの講義を担当した。各部署におけるOJTを中心とした教育・指導を継続し、院内の緩和ケア研修会のファシリテーターとして参加し貢献した。

<相談>

医師・看護師を中心として、その他のコメディカルからの緩和ケア・がん看護における相談に対応した。また、苦痛のスクリーニングにおける“緩和ケアに関する相談の希望”に対して、カウンセリングなど、患者・家族と直接面談を行い、入院から外来、病院から在宅など療養の場に関わらず、継続した意思決定支援や精神的なサポートを行っている。がん診療リンクスナースにおける倫理カンファレンスにおいては、症例への介入方法や部署の看護師の対応に関するアドバイスや倫理的な視点での検討を促進するため、部署での倫理・看護カンファレンスに参加した。

【緩和ケア認定看護師の介入による算定件数】

○2025年1月～12月まで

- ・緩和ケア診療加算（390点）：1167件 ・個別栄養食事支援加算（70点）：297件
- ・外来緩和ケア管理料（290点）：39件

○2025年1月～12月まで

- ・がん患者指導管理料イ（500点）：12件
- ・がん患者指導管理料ロ（200点）：2件

■「がん化学療法看護」認定看護師活動報告

村上 摩利 富永 美希

■役割

がん薬物療法を受ける患者が、安全で安楽に治療を受けながら、QOLを維持できるように、最新の知識や専門性の高い技術を活用して、患者のニーズに応じた副作用対策やセルフケア支援を実践する。

また、病院内外でがん薬物療法看護の勉強会を開催し、その質の向上に貢献する。

■実践報告

＜実 践＞

がん薬物療法を受ける患者とその家族に対し、治療管理やセルフケア支援を実施した。治療の有害事象を含めた苦痛のスクリーニングを行い、必要な部署と連携し対応した。また、がん患者と家族に対する病状説明への同席や面談を通して意思決定を支援し、治療および療養上における不安や苦痛の軽減を図れるよう介入した。

外来と9A病棟との連携業務において、外来化学療法センターの業務やセルフケア支援に関する手順をチェックリスト化し、効率的な業務ができる体制の整備を行った。連携業務を通じて、がん薬物療法に関する看護ケアのスキルアップや、入院患者の退院支援へ活かすことができるように取り組んだ。

また、血液内科領域での二重特異性抗体薬や、固形癌領域での新たな作用機序を有する薬剤の導入に伴い、安全確実な投与管理や特徴的な有害事象に早期より対応できるよう、医師・薬剤師・当該病棟スタッフと協力しながら体制の整備を行った。

現在、抗がん薬IVナース制度導入に向けた取り組みとして、がん薬物療法委員会を中心に体制に関する検討を、看護部キャリア支援がん看護コースで抗がん薬IVナースの育成に取り組んでいる。

2025年の外来薬物療法件数：5416件

	病状説明同席	がん患者指導管理料イ算定（500点）	がん患者指導管理料ロ算定（200点）
2025年件数	225件	160件	56件

＜指 導＞

患者支援として、がん薬物療法の副作用による生活への影響が最小限となるように、皮膚障害のケアや口内炎予防、中心静脈ポートの管理などの患者指導を行った。

スタッフへの指導としては、がん薬物療法に関する情報提供や指導、各部署のがん薬物療法に関するマニュアルの見直しや新規作成への支援、がん診療リンクナースの活動支援を行った。3月に院内がん薬物療法看護マニュアルを改訂、周知を行った。がん看護コースでは、今年度【基礎編】【がん薬物療法エキスパート編】の二部構成とし、基礎編ではがん薬物療法看護の基礎、がん薬物療法エキスパート編ではより専門性を高め、抗がん薬IVナース導入へ向けた育成研修を行った。

社会活動として、製薬会社主催のセミナーで講演を行った。（村上：フェスゴ導入による患者・スタッフ体験と運用改善一切り替え前後のアンケート結果より／富永：県央地区CRSマネジメントセミナーにて二重特異性抗体導入に向けた当院の体制整備について）

＜相 談＞

がん薬物療法に伴う看護ケアに関して、スタッフからの相談に応じた。相談内容は、主に新規薬剤に関することや曝露対策、がん薬物療法薬の投与管理やレジメンに関すること、皮膚障害のケア、血管外漏出時の対応、中心静脈ポートの管理、がんゲノムパネル検査などであった。

＜学会発表＞

なし

■「皮膚・排泄ケア」認定看護師活動報告

中村 裕紀子

■役割

『創傷』、『ストーマ』、『失禁』の分野におけるケアの相談を受け、専門的な知識と熟達した技術により実践および教育を行う。

■実践報告

褥瘡管理者として活動を行っている。

<実践>

1. 褥瘡回診（毎週金曜日） 回診対象者475名/年
2. 新規褥瘡発生患者数、持ち込み褥瘡患者数、発生率、発生要因の分析
3. 体圧分散マットレスは中央管理し、各部署で過不足なく使用できるよう管理している（稼働率80%以上）
4. 褥瘡対策委員会（月1回）では、褥瘡保有患者の動向、褥瘡発生の傾向など報告を行い、予防ケアなどの対策を検討している。2025年の新規発生率は0.88%（前年度0.82%）、医療関連機器圧迫褥瘡は0.48%（前年度0.55%）であった
5. ストーマ外来 場所：外来棟2階相談室1 受診患者数 115名/年
6. 外来患者ケア（褥瘡ケア・褥瘡予防ケア・創傷ケア）11名/年（医師より相談あり対応）
7. 褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書を作成、褥瘡ハイリスク患者に対して重点的なケアを行っている

褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成 1727/年（前年比+180）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
172	148	147	136	142	147	157	123	142	140	126	147

<指導>

1. 褥瘡リンクスタッフ対象

1月	褥瘡対策について
10月	おむつの正しい着用
12月	座位時の褥瘡について

褥瘡予防のために必要なケアについてレクチャーを行い、各部署でのラウンド、スタッフへの指導を行った。今後も、予防ケアを重点に指導を継続していく。

2. 新採用者研修

- 1) 褥瘡予防ケアについて

<相談>

- 1) 創傷ケア（瘻孔ケア他含む） 336名/年
- 2) 褥瘡予防ケア 137名/年
- 3) ストーマケア（ストーマサイトマーキング含む） 119名/年

■「新生児集中ケア」認定看護師活動報告

野口 早世

■役割

急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養過程に生じる身体的及び心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的ケアを実践するため、日々、ベッドサイドケアを中心に活動を行っている。令和7年3月からは一般小児科での勤務となり、小児科病棟における活動を行っている。

■実践報告

<実践>

新生児集中ケアに関する知識・技術を用いて、急性期にあるハイリスク新生児のベッドサイドケアを行った。3月以降は、小児科病棟において、NICUからの母子同室の受け入れに関して、NICUスタッフおよび小児科スタッフとの連携を図った。NICUからの申し送り書の見直しや、必要物品の見直しなどを行った。また、NICUからの母子同室患者を担当し、直接母乳への支援や、退院後の不安感が軽減できるような関わり（NICUでの思いや退院に対する思いの確認、地域で利用できる福祉サービスの確認など）を積極的に行った。そのほか、県内の新生児医療を担っている総合母子周産期医療センターの認定看護師として行政・地域との連携強化に努めている。会議や研修会に参加し、医療的ケア児とその家族が地域で安心して生活できるためには何を行うべきか、改めて病院の役割を考える機会となった。

<指導>

日々、ベッドサイドケアを行う中で、気づいた点について病棟スタッフに対してタイムリーに指導を行った。小児科病棟では入院受け入れの際の準備物品の考え方や、急変時の対応に関する振り返りを行った。

<相談>

主に病棟スタッフからの相談活動を行った。相談を受けた際には、根拠や具体的な方法が理解できるように文献や資料などを用いてスタッフと一緒にディスカッションを行い、理解を深めることができるように関わった。医療的ケア児の退院支援について、受け持ち看護師からの相談を受け、文献の紹介および自宅におけるケアの組み立て方や家族の生活環境のアセスメント方法などに関する相談活動を行った。

【その他の活動】

- ・倫理カンファレンスの開催
- ・大村市障害者自立支援協議会医療的ケア児等支援特別部会への参加（3か月に1回）
- ・講義「NICU等における在宅移行支援の実践（オンライン）」：長崎県看護協会主催
- ・講義「小児臨床看護の実践」：長崎県県立看護学校
- ・看護研究：テーマ「ドナーミルクを使用する母親の思い～ドナーミルクを使用する母親へのアンケートを実施して～」
- ・令和7年度長崎県保健師助産師看護師実習指導者講習会への参加

■「糖尿病看護」認定看護師活動報告

土井 広貴

■役割

糖尿病看護分野において、院内のスタッフに対して教育を行い、病院全体の糖尿病看護の質の向上を図る。また、糖尿病を有する患者とその家族に対して、患者がその人らしい生活を送れるように療養支援を行う。

■実践報告

<実践>

毎週水曜、木曜にフットケア外来及び療養支援外来を実施した。糖尿病看護認定看護師1名、日本糖尿病療養指導士1名、フットケア担当看護師2名で外来を实践し、下記表のように療養支援を行い、糖尿病合併症指導管理料を算定した。

フットケア外来における実践報告

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
①フットケア (合併症指導管理)	10	16	10	10	5	12	15	14	16	18	14	12	152
②CSII / SAP指導	10	7	5	17	9	9	14	10	8	8	12	8	117
③FGM指導	36	36	26	35	27	32	37	36	32	30	28	26	381
④SMBG、注射製剤 自己注射手技	2	3	1	0	0	2	0	1	0	2	1	1	13
⑤妊娠糖尿病療養指導	6	5	4	6	4	5	5	4	6	6	4	3	58
⑥食事、運動、薬物の 療養指導	48	44	34	48	32	44	53	46	44	52	46	40	531
⑦患者総数	56	53	39	60	38	53	60	51	58	60	54	48	630

<指導>

糖尿病教育入院患者対象の糖尿病教室を5階カンファレンス室にて実施した。医師、薬剤師、検査技師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士と協力して1回の教室時間が30分、1クール2週間のスケジュールで糖尿病教室を運営した。参加者は年間を通して述べ97名が参加された。

<相談>

医師、看護師からそれぞれの所属部署の入院患者、外来患者に対する療養支援のコンサルテーション依頼を受け、適宜対応を行った。

■「クリティカルケア」特定認定看護師活動報告

平川 雅子

■役割

クリティカルケア特定認定看護師の役割は、患者の病態に応じたタイムリーで適切な看護の提供、他の看護師に対して臨床推論や病態判断を基に指導を行う、実践を通じて他の看護職に対して指導や専門的な相談を行う。

■実践報告

<実 践>

1. 特定行為

2025年4月1日より3B病棟へ異動となり、特定認定看護師活動は11月から行った。日常の業務を調整し、活動は1カ月に1回実施するようにした。気管カニューレの交換1事例、人工呼吸器離脱訓練1事例を行った。

2. NSTチームとの連携

摂食嚥下障害のある患者への経口摂取へ向けた援助、胃管を頼らない方法でのアプローチを他職種協働で実施した。

<指 導>

人工呼吸器を装着した患者の看護を若手看護師と一緒に実践し、観察点、ケア方法を指導した。

<相 談>

1年目看護師の教育夜勤の中で、患者の酸素化低下のアセスメント（慢性心不全急性増悪）、看護に新人から相談があった。

■看護師特定行為研修

責任者 本村 秀樹 記載者 斉藤 昌子

■概要

1. 看護師特定行為研修区分変更

令和7年度の研修では、4区分8行為から血糖コントロールに係る薬剤投与関連を休止し、動脈血液ガス分析関連を新たに追加とした、4区分9行為の研修を行った。

2. 実習協力施設の新設

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連の気管カニューレ交換1行為を、実習協力施設として独立行政法人国立病院機構長崎病院と連携を図り、研修生の1名は自施設で臨地実習を行った。

3. 研修受講者数と教育概要

院内と院外から各1名、計2名の研修生が本研修を受講した。そして、新たに追加した「動脈血液ガス分析関連」を、過去に当院の研修を修了している院外研修生2名が履修し、合計、4名が、研修履修した。今年度教育指導者の総数は、32名（医師24名、薬剤師1名、診療看護師4名、特定看護師2名、医療安全管理係長1名）で研修を行った。看護師特定行為の区分変更と実習協力施設の追加により、受講生便覧の改訂を行った。実習協力施設と指導者連絡会を2回開催し、円滑な実習運営となり、実習協力施設での実習は滞りなく終了した。

実習での症例確保では、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの関連）のうち、「非侵襲的陽圧換気の設定の変更」の症例に難渋した。次年度に向け、この区分についても実習協力施設の追加を検討するなど、課題である。

本研修の修了者の実績は表1に示す。受講生確保では、定員5名を満了したのは令和5年度に留まっている。受講生確保に向けた取り組みとして表2に示す。SNSなども活用し、受講者確保には努めている。本年度の取り組みを評価し、次年度の研修計画を検討する必要がある。

表1. 看護師特定行為研修修了者実績数

看護師特定行為研修修了者数					
	院内	当院以外の 国立病院機構	その他	履修免除	合計
第1期生（令和2年度）	1	0	2		3
第2期生（令和3年度）	2	0	1		3
第3期生（令和4年度）	1	1	2		4
第4期生（令和5年度）	4	1	0		5
第5期生（令和6年度）	2	1	0		3
第6期生（令和7年度）	1	1	0	(2)	2 (2)
院内修了者数 11名		院外修了者数 9名		総修了者数 20 (2) 名	

*履修免除：過去に当院の研修を修了し、新規追加区分を履修した者を（ ）に示す

表2. 看護師特定行為研修の取り組み

時期	内容
1月	研修の学びの発表会
6月	開講式 Instagram投稿
6月～7月	研修の参観日
8月	特定看護師 活動報告会
12月	リソースナース 活動報告会
	令和8年度募集案内 ホームページ公開、関係施設郵送



委員長 高松 三穂子

【目的】

教育研修プログラムに沿って、看護職員の学習と成長を支援する

【目標】

1. 担当コースの企画・運営に参画し、研修生への動機づけができる
2. 教育研修プログラムに沿って、集合教育とOJTの連動ができるような支援を実践できる
3. 教育委員として、部署でのリーダーシップを発揮し、生涯学習支援について自己の考えを示すことができる

【活動実績】

日程	実施内容
1月14日	【ワークショップ】 研修企画書について、一緒に学ぼう！
2月14日	【各コースでの活動】 集合教育研修総括（評価と課題）
3月14日	【発表・意見交換】 1. 教育委員として各部署における活動報告（最終） 2. 1年間のまとめ、次年度の課題
4月9日	1. 2025年度 教育委員会規程・年間計画（案）の検討 2. 5月委員会の打合せ
5月9日	1. 委員紹介（自己紹介）・2025年度院内研修担当者 2. 看護部教育委員会規程について 3. 2025年度 教育委員会年間計画について 4. 2024年度 ACTyナース評価報告 5. 研修案内 6. 研修報告 【講義】生涯学習支援について＊看護職の生涯学習ガイドライン
6月13日	【報告】各部署の年間教育計画（＊目標2について具体的に示す） 【発表・意見交換】教育委員としての今年度の活動（取組み）
7月11日	【ワークショップ】長崎医療センター 看護部教育リーダー・教育研修プログラムについて
9月12日	【ワークショップ】自部署における教育活動：各コース研修生の学習状況の進捗確認
10月10日	【報告】 1. ACTyナース中間評価 2. 教育委員として各部署における活動報告（中間）
11月14日	【発表・意見交換】ACTyナース中間評価をふまえた自部署の取組み
12月12日	【ワークショップ】事例を用いた倫理的問題の検討

【評価】

今年度は概ね計画通りに委員会を運営できた。集合教育（Off-JT）と機会教育（OJT）の効果的な連動に向けて教育委員が学ぶワークショップを行った。学習内容は教育委員が看護職員の学習の動機づけを行うために活用できる内容とした。「生涯学習ガイドライン」や当院の看護師に求められる14能力をもとに作成した「教育リーダー」および「教育研修プログラム」を読み研修企画の考え方、看護職の倫理などである。教育委員は委員会における学びを活用し、部署内の教育課題の解決に向けて積極的にリーダーシップを図る姿勢がみられていた。今後は、看護管理者が教育委員をサポートし、さらに画期的な教育となるよう活動を目指したい。



National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

看護部記録委員会

委員長 原 知里

【目的】

長崎医療センター看護職員における看護記録に関する内容の検討及び見直しを行い、看護実践の実施に対する記録の質の向上を図ることを目的とする

【目標】

1. 看護師が看護記録マニュアルに沿って看護記録を記載することができる
2. 個性がある看護計画を立案・評価・修正し、実施した看護をプロセスに沿って記載することができる
 - 1) 前年度の課題や記録監査結果から、自部署の記録に関する問題点を明確にすることができる
 - 2) 自部署の看護記録における問題の解決方法を委員会内で検討し、改善することができる
 - 3) 患者・家族の意向や希望、カンファレンス等の内容を踏まえた個性のある看護計画の立案・追加・修正と定期的な評価をすることができる
3. 継続看護に活用できる内容を記載した看護サマリーが2週間以内に100%承認される
4. 看護師が記載している記録と関連するツールの現状を把握し、整理をすることができる

【活動内容】

日程	内 容
4月9日	・年間活動計画計画打ち合わせ（担当副看護部長・看護師長・副看護師長のみ）
5月13日	・自己紹介・委員会規程・年間活動計画の説明・看護サマリー作成率・承認率について ・看護記録に関する自部署の問題・課題の共有・検討 【部署活動】ガイドラインの周知（看護記録の定義・位置づけ・看護計画）
6月3日	・看護記録、看護サマリーに関する各部署の年間計画発表 ・看護記録監査実施について
7月1日	・看護記録監査結果の共有 ・看護記録監査結果に対する対策検討、共有
8月	休会
9月2日	・入院関連、日々の記録に関するツールの整理
10月7日	・中間評価：年間取り組み計画の報告と後期への課題 ・看護記録関連ツールの見直し
11月11日	・看護サマリーに関する検討（見本作成に向けて）
12月2日	・看護サマリーに関する検討 ・看護記録監査の案内
1月6日	・看護サマリー記載見本の作成 ・看護サマリーを外来継続看護に活用するための検討（外来・連携室）
2月3日	・看護監査結果の分析、評価
3月3日	・最終評価及び次年度の計画の検討

【評価】

1. 前期に看護記録マニュアル周知と看護記録監査を行い、各監査項目において10-30%記載率が向上した。後期に実施した監査結果では、～ため、マニュアルを遵守した看護記録が徹底できるよう取り組みを継続する必要がある。
2. 個性のある看護計画の立案・実施・評価昨年度より監査結果は改善しているが、標準看護計画の使用が多く、看護計画の評価率も後期には低下していたため、個性のある看護計画立案と評価は課題である。
3. 2週間以内のサマリーの記載・承認率は、病棟毎また月で変動があるが、おおむね95%以上であった。
4. 看護師が記録・使用しているものを一覧にまとめた。看護記録は時間外勤務の中でも多くを占めているため、記録・書式の統一化、効率化、簡素化など業務改善につながる記録のあり方の検討が必要である。



看護部業務委員会

委員長 山下 由起子

【目的】

適切な看護を提供するために、分析・検討を行い、看護業務に必要な見直しを行う

【目標】

1. 病院機能評価受審に向けた療養環境の整備を図る
 - 1) 療養環境ラウンドを行うためのチェック項目の整備
 - 2) 療養環境ラウンドチェック項目に沿った課題の抽出
 - 3) 課題改善に向けた療養環境の整備
2. 看護業務に関わるマニュアルの整備ができる
 - 1) 「看護補助者業務マニュアル」の改訂
3. 看護業務の見直しを行い業務の効率化を図る
 - 1) 入退院チェックリスト使用状況の現状調査
 - 2) 入退院チェックリストの統一
 - 3) 改訂した入退院チェックリスト使用後の評価
 - 4) 入院時オリエンテーション「入院生活のしおり」の評価
4. 重症度、医療・看護必要度評価の精度向上を図る
 - 1) 重症度、医療・看護必要度の評価研修の実施（学研e-ラーニング）
 - 2) 重症度、医療・看護必要度の評価漏れや確認チェック漏れを減少するための取り組み

【活動内容】第2木曜日

日程	内 容
4月10日	・規定についての確認 ・年間取り組みについて話し合い
5月8日	・メンバー紹介 ・委員会規定、年間活動計画、司会・書記の説明 ・看護必要度報告（毎月実施、以降記載省略） ・病院機能評価 環境ラウンド実施後の現状把握 ・グループ活動：環境ラウンドの課題抽出と改善策の提案
6月12日	・グループ活動：課題改善に向けた療養環境の整備
7月10日	・入院生活のしおりの差し替え ・看護補助者業務マニュアルの変更 ・グループ活動：課題改善に向けた療養環境の整備
9月11日	・病院機能評価受審後の情報共有 ・退院時チェックリストの検討
10月9日	・学研e-ラーニング：重症度、医療・看護必要度 評価項目の定義②（BC2552-d） ・退院時チェックリストの検討
11月13日	・「入院生活のしおり」改訂後の評価 ・「看護補助者業務マニュアル」の改訂作業
12月11日	・「看護補助者業務マニュアル」の改訂作業

1月15日	・「入院生活のしおり」修正後の確認 ・「看護補助者業務マニュアル」の改訂作業・内容確認 ・「看護補助者業務マニュアル」チェックリストの作成 ・急性期看護補助体制加算看護補助者研修の案内
2月12日	・「看護補助者業務マニュアル」チェックリストの確認 ・退院時チェックリスト（exチャート）の確認 ・「入院生活のしおり」差し替え作業
3月12日	・退院時チェックリスト（exチャート）の評価、案内 ・「看護補助者業務マニュアル」差し替え作業

【評価】

1. 病院機能評価受審に向けた療養環境の整備を図る

病棟概要チェックリストに沿って環境ラウンドチェック表を作成し、自部署の環境ラウンド、各フロア間での相互チェックを行い、院内で統一した療養環境の整備に努めることができた。病院機能評価では環境面の指摘事項はなかった。今回、チェックリストを作成し、療養環境を整えることができたため、継続できるように定期的にラウンドチェックする必要があると考える。

2. 看護業務に関わるマニュアルの整備ができる

「看護補助者業務マニュアル」の各技術項目の内容に関しては、物品や手順が現在の実際の業務内容と相違がないか確認し、修正作業が終了した。今後、看護補助者が使用できる技術チェックリストの完成を目指し活動し、次年度使用できるよう整備予定である。

3. 看護業務の見直しを行い業務の効率化を図る

業務の効率化を目的に、退院チェックリストを全部署統一し、電子カルテ（書式記載ツール eXChart）でチェックができるよう検討中である。今後は、プレテストとして2部署で施行し、評価後に全部署で運用開始とする。

「入院生活のしおり」に関しては、昨年度QRコードを用いて電子媒体で閲覧できるように工夫し、各部署には3部、ファイルで配布し活用を促した。QRコードからの閲覧数は、月平均60件程度であり、活用できているのではないかと評価する。病院を取り巻く環境の変化があり、「入院生活のしおり」を再度改訂したため、今後も定期的に評価したい。

4. 重症度、医療・看護必要度評価の精度向上を図る

学研e-ラーニングで、重症度、医療・看護必要度の評価研修を実施し、全看護師の受講が修了した。重症度、医療・看護必要度の確認のチェック漏れは、委員会内で周知しているため減少傾向である。課題として、確認チェック実施の最終確認不足や救命病棟から一般病棟へ転出後に急一般評価票へ変更することが徹底できていない。引き続き委員会内での伝達と、最終確認の徹底など運用に関して再度検討していく。



責任者 宮本 瑠美

基本方針

1. 根拠に基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. ベッドサイドケアの充実、質の高い看護の提供
3. 病院経営を意識した看護実践と体制整備
4. 心理的安全性を確保した労働環境の整備

目標

1. OJTを重視した救命ラダー教育を行い、高い倫理観を持ち、根拠に基づいた看護が実践できる看護師を育成する。
2. ベッドサイドケアの充実を図り、安全で質の高い看護を提供する。
3. 経営参画を意識した看護実践と体制整備（計画的な病床管理と新設加算の取得）。
4. 心理的安全性を確保した労働環境を整えることにより、職員の満足度が向上する。

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 運営病床数：22床
救命センター 14床 HCU 4床 ICU 4床
救急外来 9床、救急外来隔離診療棟 2床
2. 主な疾患・治療・検査
主な疾患は、脳梗塞、脳出血、外傷性頭蓋内損傷、クモ膜下出血、心筋梗塞、高エネルギー外傷などである。治療・検査については、頭蓋内血腫除去術、コイル塞栓術、t-PA療法、血栓回収術、TPA、コイル塞栓術、PCI、PCPS、高気圧酸素療法、HD・CHDF、COVID-19感染症患者のECMO装着など行っている。

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
入院患者数	1,148	1,190
一日平均患者数	14.7	15.8
平均在院日数	8.3	8.6
平均年齢	67	59.6
病床利用率	63.5	71.2
ドクヘリ出動件数	714	536
救急搬送患者数	4,047	4,868
看護必要度	ICU 94.5	ICU 94.2
	HCU基準①39.6	HCU基準①31.3
	HCU基準②88.6	HCU基準②90.6
手術件数	385	346

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	副看護師長	看護師	看護補助者	クラーク
1名	3名	72名	3名	1名

有資格者

急性・重症患者看護専門看護師 1名
フライトナース 10名
日本DMAT隊員 12名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴

- 1) 看護方式：受け持ち看護師制（バディ制）

2) 看護の特徴

入院時重症患者対応メディエーターと多職種カンファレンスを随時行い、入院時より早期介入し退院支援を行っている。またABCDEFバンドル導入により医師と毎日カンファ行い、ケアの標準化を図り、RST介入により早期抜管・離床に向けたチーム看護を行っている。今年脳死下臓器提供が2例あり多職種と連携し対応を行った。

2. 教育

1) スタッフ教育

(1) 院外研修参加状況

日本DMAT研修 2名、長崎県DMAT研修 1名、令和7年度救急看護エキスパートナース研修 1名、日本移植コーディネーター協議会総合研修 2名

(2) 院内教育の状況

教育委員と担当者を中心に、救急看護教育に当院で作成したラダー制を導入し教育を実施。OJT強化のため令和5年3月よりバディ制を導入し先輩看護師と共に患者を看ること、若手看護師の重症患者の対応や救急外来での看護を行う場面が増えている。

2) 学生教育

成人看護学Ⅰの実習を受け入れている。担当者を専任化しオリエンテーションを実施している。2022年より見学を中心とした、実習期間を2日間行っている。術後患者の見学実習、重症患者の清潔ケアを一緒に実践している。

3) 看護研究・学会発表

(1) 第21回クリティカルケア看護学会学術集会

- ① 急性・重症患者看護専門看護師が実践する移行ケア：百枝裕太郎

(2) 第32回日本航空医療学会

- ① ヘリコプター乗務員向け不時着対応訓練（ADC）の実施とその効果～フライトナースの視点から～：内野佳樹

- ② 脳血管疾患患者診療における現場滞在時間に影響を及ぼす因子の検討：上田幸枝

(3) 第33回長崎救急医学会学術集会

- ① 当院高度救命救急センターにおける医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）発生状況と課題：宮崎里菜他



National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

3B病棟（脳神経疾患センター）

責任者 山下 由起子

基本方針

1. 脳疾患患者を積極的に受け入れ地域医療に貢献する
2. 患者・家族に適した看護の実践
3. 笑顔の見える環境の推進

目標

1. 効果的な病床運用を行う
2. 働きやすい職場をつくる
3. 安心・安全な医療を提供する
4. 急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数：48床
脳外科30床 脳神経内科18床
2. 主な疾患・治療・検査
脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳腫瘍・てんかん・頭部外傷・神経難病・脳血管内治療・動脈瘤クリッピング術・開頭腫瘍摘出術・脳梁離断術・脳血管造影検査・長時間脳波モニタリング

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
入院患者数	434人	514人
一日平均患者数	46.3人	45.1人
平均在院日数	31.0日	22.5日
平均年齢	70.01歳	67.7歳
病床利用率	97.6%	93.9%
CP利用率	14.87%	23.8%
看護必要度	①14.4%	①14.18%
	②18.1%	②17.33%
手術件数	179件	168件

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	31名
看護補助者	6名

有資格者

特定行為研修修了者 2名
てんかん診療支援コーディネーター 2名
DMAT隊員 1名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式
固定チーム＋プライマリーナーシング
 - 2) 看護の特徴
脳疾患や高齢化に伴い、誤嚥性肺炎の発症や

栄養状態の悪化のため重症化する患者が多く、多職種と協働しながら回復期に移行できるよう介入している。毎週水曜日に開催しているリハビリカンファレンスでは医師・看護師・リハビリスタッフ・栄養士・MSW等多職種でリハビリ目標や内容・予測される転帰の検討を行っている。また令和7年度よりJNP不在のため、特定看護師2名が中心となり、呼吸器患者の管理や、呼吸器離脱に向けた介入を行っている。また、病棟看護師に対しても教育的介入を行っており、看護の質の向上に努めている。

2. 教育

1) スタッフ教育

教育実地担当者が中心となり教育計画を作成し、個々の状況を加味しながらOJTを実施している。

2) 院外研修参加状況

- ・令和7年度幹部看護師任用候補者選考研修
6月～9月 山口大貴
- ・令和7年度看護師特定行為研修
6月～1月 藏満和樹
- ・2025年度 第1回てんかん診療支援コーディネーター研修 7月 長野みのり

3) 学生教育

活水女子大学看護部より、基礎看護学実習・基礎看護学実習Ⅱ・看護学統合実習の受け入れを行っている。

4) 看護研究・学会発表

- ・第52回日本脳神経看護学会各術集会
10月12日
「脳神経疾患病棟における脳卒中の離島在住患者と当院近隣在住患者との比較～離島在住患者退院に関わる要因の調査～」 長野みのり
- ・第79回国立病院総合医学会
11月8日
「生活の質を念頭に人工呼吸器装着下での施設退院を支援した筋萎縮性側索硬化症患者の一例～特定看護師の介入の意義～」 中道大夢



責任者 小浜 由紀子

基本方針

1. 安全で質の高い看護を提供する
2. 総合周産期母子医療センター、てんかん拠点病院としての機能を果たす
3. リスペクトしあえる職場風土を醸成する

目標

1. 自部署の特性を活かし、地域医療・看護との連携を図る
2. 働きやすい職場環境を作る
3. マニュアルに沿った行動を遵守し、安全な看護が提供できる
4. 個別性に応じた質の高い看護の提供とOJTでの後輩指導

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数：58床
NICU 9床 GCU21床 小児病棟28床
2. 主な疾患・治療・検査
 - 1) 主な疾患
小児：てんかん、急性気管支炎、肺炎、急性腸炎・嘔吐症、川崎病、滲出性中耳炎、血管腫等
未熟児：超出生体重児、極低出生体重児、早産児、重症仮死、新生児呼吸障害、先天性心疾患等
 - 2) 治療・検査
小児病棟では、てんかん診療拠点病院として脳波モニタリングや脳梁離断術等のてんかん手術があり、小児の耳鼻科・眼科・整形外科・形成外科の手術も受け入れている。また、未熟児病棟では人工呼吸器管理、保育器管理、点滴による呼吸・循環管理を行い、未熟児網膜症による眼底検査や光凝固治療を行っている。脳低温療法やNO吸入療法も実施している。

II. 患者の動向

項目	小児		未熟児	
	2024年	2025年	2024年	2025年
新入院患者数	1,105	1,125	108	110
一日平均患者数	14.9	14.8	13.7	14.6
平均在院日数	4.8	4.6	66.4	69.6
平均年齢	4.4	5.1	0	0
病床利用率	53.3	52.7	45.7	48.7
CP使用率	27.0	33.3	0	0
手術件数	163	175	5	3
人工呼吸器管理	861	739	1,639	1,666

III. 看護職員数 (2025. 4. 1 現在数)

看護師長	1名
副看護師長	3名
看護師	60名
看護補助者	3名
クラーク	2名

有資格者

新生児集中ケア認定看護師 1名
てんかん診療支援コーディネーター 2名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式：受け持ち看護師＋チームナーシング
 - 2) 看護の特徴
当病棟は、総合周産期母子医療センターとしてのNICUを有しており、BFNICUの認定施設である。また、小児病棟はてんかん拠点病院としての役割を担っており、24時間体制で入院患者を受け入れている。また、多職種や行政機関との様々なカンファレンス（周産期リエゾン・CPT等）を実施し、患者の個別性を重視した看護を提供している。
2. 教育
 - 1) スタッフ教育
毎月、ラダーごとの教育計画に基づき、看護実践の習得状況を確認し、個々の到達度に応じた指導を行っている。
(1)院外研修参加状況
 - ・感染管理エキスパートナース研修 1名
 - ・実習指導者養成講習会 1名
 - ・成育医療エキスパートナース研修 2名
 - ・チームで行う小児救急・成育 1名
 - 2) 学生教育
 - (1)活水女子大学看護学部
小児・母性看護学実習 3年生
 - (2)向陽高等学校看護専攻科
小児看護学実習 2年生
 - 3) 看護研究・学会発表
 - (1)九州新生児研究会：口演
「ドナーミルクを使用する母親へのケアの検討」 野口早世
BFNICU認定施設としての取り組み
新納安里沙
 - (2)母性衛生学会（ポスター発表）
「新生児への人工乳の補足に対する助産師・看護師の認識調査」 金子和佳奈
 - (3)日本新生児学会（ポスター）
「ドナーミルクを使用する母親の思い」
浦 結菜



責任者 西田 美香

基本方針

- すべての妊産褥婦・新生児と家族に安心と安全な治療と看護を提供する
- 女性のライフステージに応じて寄り添う看護を実践する

目標

- 総合周産期母子センターとして、妊産褥婦・新生児と家族に寄り添う看護を実践する
- 患者及び家族の希望に沿った支援ができるよう調整や連携、看護実践を行う

I. 病棟の特徴

- 病床数構成 総病床数：41床（MFICU 6、LDR 3含）
主な診療科：産婦人科
- 主な疾患・治療・検査
疾患（産科）：切迫流産、既往帝王切開後妊娠、子宮内発育不全 等
検査・治療：CTG、安静、薬物療法
疾患（婦人科）：卵巣癌、子宮体癌 等
検査・治療：手術療法、薬物（抗がん剤）治療、放射線治療

II. 患者の動向

項 目	2024年	2025年
入院患者数	1,352	1,426
一日平均患者数	31.1	30.8
平均在院日数	8.5	7.9
平均年齢	39.0	35.5
病床利用率	75.8	75.1
看護必要度（%）	39.7/60.2	41.1/60.6
手術件数	387	472
分娩件数	557	645
経膈分娩数（再掲）	348	418
帝王切開数（再掲）	209	227
救急搬送数	119	130

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	9名
助産師	31名
看護補助者	5名
看護補助者（派遣）	2名

有資格者

アドバンス助産師 8名（4B在籍者のみ）

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴

- 看護方式
プライマリーナーシング
2交代制勤務
- 看護の特徴

看護職員の構成は、助産師と看護師である。幅広い年齢層及びライフステージの女性を対象に看護実践をしている。特に、婦人科では、外科的治療や薬物療法や放射線治療、ターミナル期のケアを行っている。産科では、BFHの施設の認定を更新し、精神的・社会的ハイリスクの妊産褥婦・家族を支援し、行政と連携を行っている。助産師として妊娠期の保健指導、産後の母乳外来、1か月健診での支援と乳腺炎の患者へのケアを実施している。公的資源（助成券）の使用ができるよう業務改善を行っている。

2. 教育

1) スタッフ教育

- 医師等と協働でシミュレーション教育や勉強会を実施した。成育医療エキスパートナース研修を主催した。

(1) 院外研修参加状況

- がん化学療法：チーム医療推進（NHO主催：1名）

- ALSO研修：2名、NCPR研修（更新含む）：7名

- 成育医療エキスパートナース研修（NHO主催）：1名

2) 学生教育（看護学実習：母性領域、助産学科：分娩実習）

(1) 西九州大学 看護科3年生

(2) 向陽高等学校 看護学科・看護専攻科2年生

(3) 活水女子大学 看護学部看護学科3年生

ゲストスピーカー：母性看護学方法論：

西田莉瑚、看護医療情報論：西田美香

(4) 京都医療センター附属京都看護助産学校 助産学科

3) 地域活動

(1) 思春期こころとからだの健康づくり事業（大村市）における講話（高校2校、中学校6校）

4) 看護研究・学会発表等

(1) 第33回母乳育児シンポジウム「BFH活動報告」木下婆也加

(2) 第23回国立病院看護研究学会学術集会「中堅助産師・看護師を対象とした卒後インターンシップ研修を実施して（第1報）」西田美香



責任者 辻 智子

基本方針

1. 患者一人ひとりに沿った専門的で質の高い看護の提供
2. 安全で安心な療養環境の提供
3. 専門職として自己研鑽に努め責任のある看護

目標

1. 患者のニーズをとりいれた質の高い看護の提供
2. 医療事故の予防・再発防止に努め、患者の安全でできる安心できる療養環境を提供できる
3. キャリアニーズに沿った自己研鑽を図り、看護師としての役割を果たすことができる
4. 病院経営の積極的参加（糖尿病教室・腎臓病教室の拡大、退院前後訪問の検討）
5. 働き方改革の推進と良好な人間関係に基づく風土作り

I. 病棟の特徴

1. 病床統数構成 総病床数：49床
泌尿器科29床 腎臓内科10床
皮膚科5床 内分泌・代謝内科5床
2. 主な疾患・治療・検査
疾患：慢性腎不全・前立腺腫瘍・膀胱腫瘍
上部尿路疾患・2型糖尿病など
治療：手術・血液透析・腹膜透析・化学療法
献腎移植（3件）・生体腎移植（1件）
3. 保健指導

	2024年	2025年
糖尿病教室	114名	97名
腎臓病教室	6名（10月～再開）	42名

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
新入院患者数	1,461	1,455
退院患者数	1,560	1,574
一日平均患者数	41.2	42.0
平均在院日数	10	10.1
平均年齢	68.7	68.7
病床利用率	81.1	85.7
手術件数	749	823
重症度、医療 看護必要度（%）	①21.1 ②29.9	①18.0 ②29.1

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	30名
看護補助者	3名

有資格者

特定看護師 中村裕子（4区分8行為）
認定看護師 土井広貴（糖尿病看護）

IV. 看護の概要

1. 看護体制
 - 1) 看護方式：

固定チームナースング＋プライマリーナースング
夜勤体制：二交替制
 - 2) 看護の特徴

外科系・内科系の混合病棟であり、急性期、回復期、慢性期、終末期の幅広い患者を受け入れている。有資格者が多数在籍しており、腎移植前後・透析導入前後・ストーマケア・化学療法患者・糖尿病患者に対して、専門性の高い看護を実践している。腎臓病教室、糖尿病教室を開催しており、今後も継続して実施する予定
2. 教育
 - 1) スタッフ教育

個々の成長に合わせ、看護実践・患者・家族指導が行えるように業務内容の見直しや勉強会の開催を実施した。また医師、MSWと協働しカンファレンスを開催し、退院後の生活を見据えた退院指導の検討など積極的に取り組んでいる。

(1)院外研修参加状況
・実習指導者講習会 辻村美希代
本多詩穂
・入退院支援研修に関する実践力向上研修 隠崎夢野
 - 2) 学生教育

活水女子大学看護学部学生の基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱ、成人看護学実習Ⅱ、統合実習を受け入れている。



責任者 尾上 嘉周子

基本方針

1. ベッドサイドケアの充実
2. 急性期看護の実践能力を備えた看護師の育成
3. 関係の質を向上し、働きやすい職場をつくる

目標

1. ベッドサイドケアの充実と入退院支援の強化
2. 対人関係能力を備えた専門性の高い看護師育成
3. 安全・感染の視点での看護実践
4. WLBと関係の質向上

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数：48床
頭頸部耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、整形外科
2. 主な疾患・治療・検査
【頭頸部耳鼻咽喉科】
悪性疾患（咽頭、舌、上顎、口腔底、上中下咽頭、甲状腺、頸部、頬部）急性・慢性中耳炎、副鼻腔炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺
【形成外科】
熱傷、褥瘡、四肢切断、皮膚腫瘍、鼻骨・頬骨骨折、口蓋裂、口唇裂
【眼科】白内障、緑内障、網膜剥離
【整形外科】圧迫骨折、外傷で形成との併診

II. 患者の動向

項 目	2024年	2025年
入院患者数	1,550	1,573
一日平均患者数	37.6	41.3
平均在院日数	8.8	9.6
平均年齢	64.7	65.5
病床利用率	78.5	86.1
病床稼働率	87.8	95.0
CP使用率	54.8	55.3
看護必要度	33.85	44.8 (Ⅱ)
手術件数	1,114	1,063
DPCⅡ期以内	76.1	66.6

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	24名
看護助手・クラーク	2 + 1名
ナースサポーター	2名

有資格者 なし

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式 固定チームナーシング
 - 2) 看護の特徴
外科的手術治療・放射線治療・化学療法・創傷治療を行っている。喉頭摘出や四肢断裂、熱傷などによりボディイメージが変化した患者や放射線・化学療法による有害事象が生じている患者が多く入院している。退院後の生活サポートや精神的ケア、在宅療養指導などの看護実践を行っている。今年新たに「頭頸部アミノルックス治療」を導入し、他職種と連携を図り、治療・療養生活環境を整えることができた。
2. 教育
 - 1) スタッフ教育
それぞれ興味がある研修を選定し「実習指導者講習会」「入退院支援に関する実践力向上研修」「がん看護エキスパート研修」「看護管理者研修」など、知識向上を目指すとともに看護の質向上に努めた。
 - 2) 学生教育
活水女子看護大学の基礎看護学Ⅰ、Ⅱ、成人看護学Ⅰ、統合実習を受け入れ、実習指導者の専任化を実施した。
3. 業務改善
術後のベッドコントロールを円滑に図るため、業務技術員と定期的にミーティングを行い、情報交換を行った。耳鼻科診察に看護師を配置しており医師とのコミュニケーションを図った。入退院を円滑にできるよう入退院予定表・入院受け入れ時のツール作成し入退院時の煩雑さをなくした。
4. 医療事故防止
リスク感性を高めるためにRCAを行い、転倒事例はカンファレンスを実施し、情報共有に努めた。
5. 看護研究・学会発表
第79回国立病院総合医学会：杉本扇太郎
「頭頸部がんにおける看護師の困難感と関連因子」



責任者 廣瀬 智美

基本方針

1. 整形外科、総合診療内科等の患者に対する安全で質の高い医療・看護の提供
2. 地域拠点病院として地域の医療機関や行政と密に連携し患者から信頼を得る
3. 病院経営への積極的参画

目標

1. チーム医療を推進し連携を図ることで患者個々に応じた質の高い看護を提供できる
2. 病院経営を意識した病床管理を行い、病床利用率の増加を図る
3. 患者の療養環境を整え、患者、家族の思いに寄り添った看護の提供

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数：49床
整形外科25床 総合診療内科24床
2. 主な疾患・治療・検査
整形外科では、大腿骨頸部骨折をはじめとする大腿骨近位部骨折や変形性股関節、膝関節症の手術療法、脊椎や腰椎疾患、事故等による多発外傷、脊髄損傷患者を受け入れている。総合診療内科は、幅広い領域について総合的かつ高度な診断能力を有する診療科であり検査目的の患者や、膠原病、関節リウマチ等の症状コントロール目的の患者を受け入れている。

II. 患者の動向

項 目	2024年	2025年
入院患者数	721	691
一日平均患者数	39.0	43.6
平均在院日数	17.0	19.6
平均年齢	70.6	69.3
病床利用率	79.5	89.0
CP使用率	7.3	17.9
看護必要度	①29.8 ①34.8	①30.9 ②35.0
手術件数	462	443
二次性骨折予防継続管理料	155	157
緊急整復・緊急挿入加算 (人工骨頭) 件数	79	93

III. 看護職員数 (2025. 4. 1 現在数)

看護師長	副看護師長	看護師	看護補助者
1 名	2 名	25 名	4 名

有資格者：特定行為研修終了者 2 名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式
固定チームナーシング
 - 2) 看護の特徴
整形外科領域では外傷や転倒による骨折など運動機能を障害された急性期から回復期の患者のQOLの維持、向上に向け早期離床を促し日常生活が自立できるように援助している。総合診療内科領域では、疾患が幅広く症状に応じた看護を提供している。合併症や重症化しやすい症例が多く、多岐に渡るアセスメント能力や対応を求められており、他職種との連携を図りながら患者、家族支援を行い看護の質の向上に努めている。
2. 教育
 - 1) スタッフ教育
Actyのラダーコースに沿ってレベルⅠ～Ⅳの各研修生16名へそれぞれの目標が達成できるような課題を設け、1年を通して計画的に達成に向けて取り組めるように支援した。JNPや特定行為研修終了者のリソースNsを活用し勉強会を実施し、知識、技術の向上を図った。
(1)院外研修参加状況
・九州グループ実習指導者講習会：松永来実
・国立病院機構認知症研修：吉田 茜
 - 2) 学生教育
活水女子大学より、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱと成人看護学実習Ⅰ、統合実習の学生を受け入れている。



責任者 野口 久美子

基本方針

1. 外科患者の積極的な受け入れ
2. ワークライフバランスの推進
3. 寄り添ったがん看護の実践

目標

1. 効率的な病床利用を行い、経営に参画する
2. 業務見直しを行い、ワークライフバランスが充実できる
3. 関係の質の維持・向上を図り、お互いに認め合える風土の醸成
4. ルールを遵守し、院内感染によるアウトブレイクを未然に防止する
5. ルールを遵守し、安全な看護の提供を行う

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数：48床
外科・乳腺外科48床
2. 主な疾患・治療・検査
大腸癌、胃癌、食道癌、肝癌、膵癌、胆嚢癌、乳癌、甲状腺癌、急性胆嚢炎、腹腔鏡下結腸切除術、腹腔鏡下低位前方切除術、腹腔鏡下人工肛門造設術、腹腔鏡下胃切除術、腹腔鏡下肝切除術、胸腔鏡下食道切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、膵頭十二指腸切除術、乳房切除術、甲状腺切除術

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
入院患者数	1,056	1,152
一日平均患者数	36.1	41.2
平均在院日数	11.9	12.6
平均年齢	67.2	66.2
病床利用率	75.2	85.9
病床稼働率	82.0	92.9
CP適用率	65.0	77.6
看護必要度①	43.4	38.6
看護必要度②	54.4	48.7
手術件数	782	820

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	26名
看護補助者	4名

有資格者

がん看護専門看護師 1名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式
モジュール・セル方式混合
 - 2) 看護の特徴
消化器、食道、肝・胆・膵、乳房、甲状腺の予定手術や外傷・穿孔・閉塞等による緊急手術に対し、術前から術後まで全身管理を行いながら、早期離床、合併症予防を図り、安全安楽に回復が促進されるよう援助を行っている。また、がん化学療法看護、放射線療法看護やがん再発の緩和ケアについては、がん関連認定看護師に相談・介入を依頼しながら患者の状態把握、症状緩和に努め、その人らしく生を全うできるよう患者やその家族の支えとなる看護を提供している。
2. 教育
 - 1) スタッフ教育
JNPによる術後管理に関する学習会を4回/年開催。日々の看護実践を通して、JNPから根拠に基づいた看護を学ぶことができる環境である。ラダーレベルの研修生は、実地指導者のサポートを受けながら1年間の目標に到達できるように取り組んでいる。
(1)院外研修参加状況
・認知症ケア研修：山口絢風
・「NST専門療法士」認定臨床実地修練研修：木佐貫真子
・第35回九州ストーマリハビリテーション講習会：山本史奈
・看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修：江濱弥生
 - 2) 学生教育
活水女子大学看護学部より基礎看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅰ、統合実習の受け入れを行っている。
 - 3) 看護研究・学会発表
(1)院外発表
第79回国立病院総合医学会
術後の誤嚥性肺炎の予防に対する看護師の口腔ケアに関する意識調査～認識と実践について～：小西由香・木佐貫真子

基本方針

1. 第2種指定感染症病棟の役割を担っている。
2. MDRA感染患者とCOVID-19感染患者を受け入れ、感染症に強い病院としての役割を担っている。
3. 感染対策チームとして多剤耐性菌対策等の情報発信や感染管理の実践を行っている。

目標

1. 看護力を生かした経営参画
2. 他病棟応援体制の整備
3. ジェネラリスト看護師のアセスメント力向上

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成
第2種指定感染症病床4床
(空気感染予防患者対応)
MDRA病床 総合診療科3床 COVID-19病床
2. 主な疾患・治療・検査
COVID-19感染症 結核疑い
くも膜下出血後 うっ血性心不全
急性硬膜下血腫

II. 患者の動向

項 目		2024年	2025年
入院患者数	7B	238	142
	感染	16	45
一日平均患者数	7B	8.4	7.4
	感染	0.2	0.7
平均在院日数	7B	15.4	19.2
	感染	5.0	7.5
平均年齢		68.6	68.4
病床利用率	7B	13.2	14.0
	感染	4.6	16.9
CP使用率		0.8	3.8
看護必要度		①23.7	①22.0
		②28.5	②27.6
手術件数		4	8

Ⅲ. 看護職員数 (2025.4.1 現在数)

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	23名

有資格者

中村みさ	感染管理認定看護師 感染症看護専門看護師
渡部葉子	RTCレシピエント移植コーディネーター

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
- 1) 看護方式
チームナースング、受け持ち看護師制
 - 2) 看護の特徴
第2種指定感染症病棟であり、第2種感染症病床、MDRA感染患者病床、COVID-19感染患者病床を担っている。手指衛生実施率100%を保持し、感染対策の実施を行っている。また、小児科を含め、様々な診療科の治療や看護が実践できるよう、知識、技術の向上に努めると共に、多職種で連携して患者が安心して療養ができるような関わりを行っている。11/10よりCOVID-19感染患者の新規受け入れを停止し、11/21に最後のCOVID-19感染患者が退院し、以降はMDRA感染患者病床（3床）と第2類感染症病床（4床）のみでの運用となった。
2. 教育
- 1) スタッフ教育
部署内学習会状況
1回/月を計画 同じ内容を2～3回実施
内容：「倫理4分割表」「NHFについて」「身体拘束について」等
参加できないスタッフは資料を用いて自己学習。
院外研修参加状況
(1)2025年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル（長崎県看護協会） 中村みさ
(2)2025年度災害支援ナース養成研修（日本看護協会） 中原亜衣
(3)令和7年度看護補助者の更なる活用のための看護管理研修（NHO九州グループ）
中村みさ
 - 2) 学生教育
現在学生の実習受け入れなし
 - 3) 看護研究・学会発表
なし
 - 4) 施設外活動
(1)R7年度感染エキスパートナース研修（NHO九州グループ）タスク 中村みさ
(2)2025年度災害支援ナース養成研修（日本看護協会）講師・演習支援 中村みさ
(3)R7年度感染症対応力向上研修会及び机上訓練ファシリテーター（長崎県県央保健所）
中村みさ



National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

8A病棟

責任者 藤井 郁絵

基本方針

- 1. 看護の質の向上
- 2. 働きやすい環境づくり
- 3. 看護能力の開発、自己研鑽

目標

- 1. 患者・家族の意向を尊重した看護の実践
- 2. 適切な労務管理とWLBの推進
- 3. スタッフ個々の学習意欲を高め専門性のある看護の提供

I. 病棟の特徴

- 1. 病床数構成 総病床数：42床
肝臓内科：42床
- 2. 主な疾患・治療・検査
【疾患】1. 総胆管結石 2. 肝細胞癌 3. 膵癌
4. 胆管癌 5. 膵炎 6. 肝硬変
7. 胆嚢炎・胆管炎
【治療・検査】
肝疾患センターとして、肝臓・胆のう・膵臓疾患患者の検査や治療、症状緩和を行っている。最も多い検査は内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）であり、前年比18件増の491件であった。
他の主な治療・検査としては、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）、食道静脈瘤治療（EVL）、肝生検、腫瘍生検、経皮的肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）がある。

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
入院患者数	943	961
一日平均患者数	32.5	35.5
平均在院日数	12.2	12.8
平均年齢	73.12	71.50
病床利用率	77.4	84.5
入院Ⅱ期間内率	50.5	48.3
看護必要度	36.6	34.8

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	23名
看護補助者	2名
クラーク	1名

有資格者

- 特定行為研修終了者：磯本莉穂
- 肝炎コーディネーター：中野直美
今村理沙
牛田亜由美

IV. 看護の概要

- 1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式
モジュール型看護方式
ステントの定期交換や、化学療法・放射線治療などにより繰り返し入院する患者が多く、安心して入院生活ができるよう、なるべく同じ看護師が受け持つようにしている。
 - 2) 看護の特徴
肝疾患診療連携拠点病院としての役割を担い、主に肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者を受け入れている。 ERCP・RFA・TAE・TACEなどの専門的な治療に対する看護を提供している。また、肝癌や膵癌などのがん患者へ、多職種カンファレンスや緩和ケアチームの介入を通し苦痛緩和や治療の継続、看取りなど患者に合わせた支援を行っている。
- 2. 教育
 - 1) スタッフ教育
ACTyラダーⅠ～Ⅳ研修生の支援者会議を看護師長・副看護師長・教育委員・プリセプターで定期的に開催した。また、状況に合わせた個人面談を行い、積極的に研修生の状況把握に努めた。個人の進捗に合わせて夜勤やリーダー、化学療法、処置などのデビュー時期の検討を行い、スタッフ個々が出来る技術を増やすことで、病棟全体のスキルアップを図った。ERCP見学研修や医師・栄養士などからの勉強会を行い、知識や技術習得の機会とした。
(1)院外研修参加状況
 - ・実習指導者講習会 山口佳恋
 - ・緩和ケアエキスパートナース研修 梅野香織
 - ・院内感染対策研修会 黒田遥華
 - ・医療安全管理者研修Ⅰ 中野直美
 - 2) 学生教育
 - (1)活水女子大学看護学部
 - ・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
 - ・成人看護学実習Ⅱ（慢性期）
 - ・看護学統合実習
 - 実習担当者を中心に、学生のレディネスに沿った患者選定や実習内容の周知を行った。



責任者 川崎 多恵子

基本方針

1. 高い知識・技術・倫理観に基づいた看護の実践
2. 多職種と連携しチームとして適切な看護の提供
3. 専門職業人としての主体的な行動

目標

1. 専門性を発揮し医療・看護の質の向上を図る
2. 安全・安心な医療の提供
3. 各職種に応じた責任と役割を果たせる人材育成
4. 病床運営を計画的に行い経営への積極的参画
5. タスクシフトシェアを推進し、働き方の改善を図りWLBの充実させる

I. 病棟の特徴

1. 病床数構成 総病床数49床
消化管内科32床 呼吸器内科17床
2. 主な疾患・治療・検査
消化管内科の疾患として、胃・大腸・食道の悪性腫瘍、潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患が主となる。内視鏡検査や内視鏡による治療・化学療法、放射線治療を行っている。
呼吸器内科の疾患として、悪性腫瘍、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気胸がある。検査・治療は、内視鏡検査、呼吸器管理・化学療法、放射線治療、胸水穿刺などを行っている。

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
新入院患者数	1,490	1,462
一日平均患者	40.3	39.4
平均在院日数	9.7	9.5
平均年齢	69.7	68.4
病床利用率	82.2	80.6
CP利用率	35.0	43.3
重症度、医療・看護必要度	①17.7 ②37.2	①17.3 ②30.0
手術件数	52	72

III. 看護職員数 (2025. 4. 1 現在数)

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	28名
看護補助者	3名
ナースサポーター (派遣)	2名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴

- 1) 看護方式
固定チームナーシング
- 2) 看護の特徴

内視鏡による治療、化学療法、放射線治療、呼吸器管理を行う患者の管理、また確定診断に伴う検査に対しての不安の軽減に努めるなど、看護の領域は多岐にわたる。コ・メディカルと連携を図り在宅支援を必要とする患者の支援に積極的に関わり、早期介入を図っている。

2. 教育

1) スタッフ教育

レベルⅠでは「全員が指導者」というスタンスで、1回/月 実地指導者を含め指導者会議を開催し、進捗状況を確認し、個々の成長に応じた支援を行い成長に繋げることができた。レベルⅡ以上の研修生に対しては、OFF-JTで学んだことをカンファレンスや学びを発表する場を設け、スタッフ間で共有し実践に繋げるような支援ができた。

(1) 院外研修参加状況

- ・看護補助者研修 宮崎千佳
- ・実習指導者講習会 山口 茜

2) 学生教育

実習における指導者の専任化を継続し、チームメンバーとの情報共有や業務調整を行い学生のレディネスやレジリエンスに応じた関わりを通し目標が達成できるよう担当教員との連携・情報共有を図り支援を行った。臨地実習前には、実習の目的・目標、実習要綱をスタッフへ周知し、実習中は専任看護師が、看護計画の確認や清潔ケアなどの看護実践、患者の観察を共に行い、統一した指導へ繋がった。

受け入れた実習内容

活水女子大学

- 基礎看護学実習Ⅰ (1年生)
- 看護学統合実習 (4年生)
- 基礎看護学実習Ⅱ (2年生)
- 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期) (3年生)

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center

手術センター

責任者 榊原 千ハル

基本方針

1. 効率的な手術室運営
2. 安全で安心できる周術期看護の提供
3. 高い専門性を持った手術室看護師の育成

目標

1. 効果的な手術室運営（処置の取り漏れ、不動在庫削減、ME機器の破損削減）病院経営の積極的参画を行う。
2. 手術を受ける患者・家族へ安心・安全な質の高い看護を提供し、周術期看護の質の向上を図る。
3. スタッフ間の関係の質を向上し、ハラスメントのない職場風土、適切な時間管理を行い働きやすい職場にできる。
4. マニュアル遵守を徹底し、安全・安心な周術期看護の提供ができる。
5. 教育体制に沿って個々の能力向上を目指した人材育成ができる。

I. 病棟の特徴

1. 手術室数：10室（空気清浄度：クラス100 1室、10000 9室（1室は陰圧システム））
＊クラス100のBCR（バイオクリンルーム）は人工関節置換術や生体腎移植に使用
2. 主な診療科
外科・乳腺外科・呼吸器外科・脳外科・心臓血管外科・耳鼻科・整形外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・皮膚科・循環器内科・腎臓内科・麻酔科・消化器内科

II. 患者の動向

項 目	2024年	2025年
手術件数	5,210	5,124
緊急手術	907	855
全身麻酔件数	2,892	2,866
脳死下臓器摘出術	1	1
ダビンチ手術	77	133
整形 人工関節置換術（膝）		28
整形 人工関節置換術（股）		23

＊緊急手術：当日申し込み、当日手術のこと

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名	副看護師長	2名
看護師	36名	非常勤看護師	1名
看護補助者	3名	クラーク	1名

＊術後疼痛管理研修修了者：4名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴

- 1) 看護体制：2交代制、1人夜勤
（平日1名拘束体制）

＊土曜日、日曜日の日勤及び土曜日の夜間は2名

拘束体制（日曜日の夜間拘束は1名で対応）

2) 看護の特徴

安全で安心できる周術期看護を提供するために、術前、術後訪問を継続して実施し、シームレスな看護実践を行っている。また、術後疼痛管理チームは2か月に1回病棟とのミーティングを行い、術後疼痛に関する課題を抽出し、改善に努めている。外科のダビンチ手術も、着実に実績を伸ばし、令和7年8月から、整形外科のロボット支援手術～Makoシステム～を導入し、それぞれ手術を担当できる看護師の育成にも力を入れている。

2. 教育

1) スタッフ教育

新人看護師、配置換え者に対し、OJTで器械出し看護、外回り看護を行い、一人立ちできるように支援している。また、1年間3人1組のパートナー制とし、個別的に段階を踏み、進捗状況を確認しながら、全ての診療科の手術に対応できるよう教育している。

【院外研修参加状況】

①R7.7.8～7.9 副看護師長新任研修

（九州グループ）：市原幸大

②R7.10.2～R8.1.31 認定看護管理者教育課程
ファーストレベル（長崎県看護協会）

：弓削亜矢香

③R7.11.20～11.21 令和7年度院内感染対策
研修会：市原幸大

2) 学生教育

活水女子大学3年生の成人看護学実習（2日間）を受け入れており、体位固定や器械出し看護の体験、術前訪問で病棟との連携について学び、手術を受ける患者の特徴と手術看護の専門性について考えられるよう環境を整えている。

3) 看護研究・学会発表

【第39回日本手術看護学会年次大会 R7.9.20～21】

①手術部看護師を対象とした針刺し・切創事故後の報告に至るまでの体験について

：神代竜育

【第79回国立病院総合医学会 R7.11.7～8】

①三次救急病院における曜日別手術室稼働時間と手術室看護師の超過勤務の関連分析

：稲田 楓

治療検査センター

責任者 芦刈 智美

基本方針

1. 病む人個々の生活信条を大切にし、ひとりひとりに気持ちを傾け寄り添う看護を行う
2. 科学的根拠に基づいた当院にしかできない専門的治療および看護を提供する
3. お互いをリスペクトし職業人として誇りと品性をもち職務に専念する

目標

1. 他部門とのコミュニケーションを図り、協働し安心・安全な検査・治療を行う
2. わかりやすい説明と情報提供を行い患者・家族が納得のいく検査・看護ケアの提供を行う
3. 常に自己研鑽し、専門的知識・技術の向上を図る

I. 部署の特徴

1. 内視鏡、透析、放射線3部署の機能を備えている
2. 放射線科看護師は24時間拘束体制を取っている
3. 子育て世代の働きやすい職場環境

II. 主な検査・治療件数、拘束呼び出し件数

項 目	2024年	2025年
上部内視鏡	2,496	2,537
下部内視鏡	1,261	1,324
肝胆膵系 ERCP	475	491
気管支内視鏡 BF	395	323
透析総件数	3,831	3,237
腹膜透析指導件数	129	94
血管造影総件数	1,047	993
心カテ、PCI	641	618
放射線治療件数	7,086	6,375
PET/CT	883	878
拘束呼出件数 (放射線科)	89	82
拘束呼出件数(内視鏡) ※2025年10月～		37

III. 看護職員数 (2025. 4. 1 現在数)

看護師長	1名	副看護師長	1名
看護師	30名	看護補助者	4名

有資格者

- 第1種消化器内視鏡技師認定看護師 6名
 透析技術認定士 1名
 INE (インターベーションエキスパートナース) 1名
 放射線看護専門看護師・がん放射線療法認定看護師 1名

IV. 看護の概要

1. 看護師配置

内視鏡センター、透析センター、放射線科部門に配置している。常に情報交換を行い、業務の補完や人員調整を図るなどリリーフ体制を取り入れている。

2. 看護の特徴

内視鏡センターでは、精密検査及び大腸内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)・食道静脈瘤の治療、胆膵の治療・気管支内視鏡及び胸腔鏡等の高度な治療を行うと同時に、手術室にて食道ESDや、消化器外科や呼吸器外科と合同で手術を実施し、高度な医療の介助において安全で質の高い看護を実践している。時間外の緊急度の高い症例に対応できるように10月から拘束体制を導入している。

透析センターでは、外来・入院患者の透析導入と維持透析患者の専科の検査・治療後の透析を行っている。また、PD(腹膜透析)外来にて在宅腹膜透析患者への指導管理を実施している。また、他部門と協働し腎臓教室を開催している。

放射線科では、放射線看護専門看護師の活動で、放射線治療を受ける患者の意向を取り入れた看護が提供できるよう、医師・放射線技師・病棟看護師・放射線科看護師間のチーム医療・連携を図っている。

3. 教育

1) スタッフ教育

内視鏡センター、透析センター、放射線科の3セクションで各々の専門的な知識・技術の向上、介助方法の習得を行っている。配置換えや育児休業からの復帰のスタッフに対しては、担当看護師を付け、マニュアルに沿って段階的に業務の拡大を図っている。

2) 学生教育

病棟実習期間に検査・処置時の見学等で実習生を受け入れている。昨年より臨床検査技師実習生の内視鏡センター見学実習、放射線専門看護師実習生(鹿児島大学)の臨地実習を受け入れている。

3) 看護研究・学会発表

- (1)第14回日本放射線看護学会学術集会「頭頸部領域の放射線治療において急性放射線皮膚炎予防にポリウレタンフィルム貼付が効果的であった一例」大石景子
- (2)第88回九州消化器内視鏡技師学会「内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における看護師の放射線被ばく線量の低減を目指して」原田由佳



責任者 稲田 鮎美

基本方針

1. 地域住民の医療ニーズに合わせた地域・外来・病棟での連携体制の構築
2. 患者の意向を中心とした在宅診療支援の充実
3. 在宅療養支援における看護師の人材育成

目標

1. 患者にあった看護の提供を行い、外来受診を満足したものにする
2. 患者の訴えを聞き、看護観を高めていくことで、スタッフの育成ができる
3. 複数の診療科の業務ができるスタッフを増やすことで、協力体制を図る

I. 外来の特徴

1. 標榜診療科：38科
病気に対する認識や生活状況について患者に確認し、地域や病棟からの情報提供を基に継続看護を行い、患者満足度及び看護の質の向上に努めている。
2. 主な疾患・治療・検査
外来治療センターでは、医師と連携を図り患者の対応を行っている。また、化学療法では抗がん剤治療の知識を有す医師や薬剤科、看護師を配属しソーシャルワーカーなど他部署と連携を図りながら患者の情報を共有して、外来通院患者に医療を実施している。

II. 患者の動向

項目	2024年	2025年
外来診療日数（日）	186	241
外来患者数（人）	167,032	166,242
1日平均患者数（人）	684.6	689.8
新患者数（人）	14,817	14,658
新患率（%）	8.9	8.8
手術件数（件）	375	381
外来化学療法（件）	5,661	5,416

III. 看護職員数（2025. 4. 1 現在数）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	40名
事務助手	6名

有資格者

がん化学療法看護認定看護師 1名

IV. 看護の概要

1. 看護の特徴
 - 1) 看護方式
外来看護、各診療科のブースに分かれ4～6名の看護師を配置し、診療介助、各種処置介助、検査説明等を実施している。化学療法センターでは、専任看護師を配置し多職種で担当している。
 - 2) 看護の特徴
地域医療連携室や地域の医療施設と連携し診療を行っている。化学療法センターでは、がん化学療法認定看護師を中心として専門的な知識を活かし医療安全や抗がん剤曝露対策で安全な医療・看護を提供できるよう努めている。各科外来での診療介助、各種検査介助等さまざまな分野の看護知識・技術が必要とされる。入院から通院へ移行する際には、外来看護師の継続した関りができるようなシステムを整え、外来看護の質向上に努めている。
2. 教育
 - 1) スタッフ教育
各ブースでの補完業務を見直し複数診療科業務ができるように教育体制を整えた。また、可能な限り他ブース間応援ができるように改善した。今後は、化学療法看護ができるスタッフの育成が課題である。
(1)院外研修参加状況
・医療安全対策研修Ⅰ：村上摩利
 - 2) 学生教育
活水女子大学看護学部看護学科母性看護実習の産婦人科外来における実習、小児科看護学実習の小児科外来における実習について、それぞれ実習指導担当看護師により指導を行った。
 - 3) 看護研究・学会発表
(1)BMC Cancer掲載
①化学療法を受けている患者における中心静脈ポートの皮膚露出に関連する要因
：富浦真秀 久留須香代子



National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

医療相談支援センター

責任者 田中 圭

基本方針

- 1. 病診・病病連携を推進し、患者、家族が安心して治療・療養を行うことが出来るような体制を整える。
- 2. 入院前から退院後までの生活を見据えた支援を病棟と共に行う。

目標

- 1. 地域の病院や診療所などの医療施設から、新患の診療予約、検査予約を増加させ、入院患者の退院、転院などの退院支援・調整をスムーズに行うために病棟と協働して行う。
- 2. 医療相談支援の質の向上を図り、患者が安心して治療ができる環境を整える。
- 3. 入院前から退院支援までシームレスな支援を行う。

I. 部署の特徴

医療相談支援センターは地域医療連携室・患者サポート室・予約入院支援室の3部署からなる。

II. 地域医療連携室実績

項目	2024年	
全退院者数	13,825	
	病棟	地域医療連携室
入退院支援加算1 算定数	4,698	2,323
入退院支援加算1 算定率	51%	

項目	2025年	
全退院者数	14,223	
	病棟	地域医療連携室
入退院支援加算1 算定数	9,952	2,237
入退院支援加算1 算定率	85.8%	

III. 患者サポート室実績

	2024年	2025年
新規相談者	962	945
実人数	1,629	1,469
延べ件数	2,855	2,594

IV. 予約入院支援室実績

	2024年	2025年
全対応件数	4,289	4,381
療養計画書作成件数	2,307	4,257
入院時支援加算件数	1,490	3,555

IV. 医療相談支援センター職員数（2025.4.1現在）

看護職員		事務職員	
看護師長	1名	MSW	4名
副看護師長	1名	事務助手	5名
看護師	9名		
看護師（非）	5名		
クラーク	0名		

有資格者

- がん看護専門看護師 1名
- 緩和ケア認定看護師 1名
- がん化学療法看護認定看護師 1名

V. 看護の概要

1. 看護の特徴

地域医療連携室の看護師は各部署の入退院支援コアナースと共に入退院支援の質を向上させるための取り組みを行っている。2025年は1年間病棟の看護師と共に入退院支援加算1を算定し大幅に増加させることが出来た。今後は入退院支援の質の向上を目指し病棟看護師との連携を強化していく必要がある。また、院外会議を通して院外の医療福祉従事者との顔の見える連携を行っている。患者サポート室の看護師はがん関連の有資格者であり院内のがん看護や緩和ケア、がん化学療法看護の質の向上に携わっている。研修会などを通して院外の医療福祉従事者への教育活動なども行っている。予約入院支援室の看護師はケアマネージャーが介入している予定入院患者に対して入院前に情報提供を行っている。また、入退院支援加算1を病棟看護師が算定することに伴って、入院時支援加算1の算定数も大幅に増加させることが出来た。その他には、地域医療連携室に重症患者対応メディエーター（看護師）も所属し、救急外来から救急救命センターに入院した患者、家族に対して介入し、臓器移植などの意思決定支援にも関わっている。

看護研究・学会発表

- 1) 田中圭：高知女子大学看護学会創立50周年記念学会：未来にそなえた持続可能な医療体制づくり
- 2) 田中圭：宮崎大学：特別講演：九州がんプロフェッショナル養成プラン：意思決定支援～AYA世代がん患者の最期まで生き抜くことを支えた一例～


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center


診療看護師（JNP）

責任者 津野崎 絹代・本村 秀樹

診療部門の特色

1) 診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）の概要

国立病院機構では、全国に先駆けて2010年より東京医療保健大学大学院看護学研究科（NP養成大学院）と連携し、クリティカル領域で高度な看護実践能力を持ち、スキルミックスによるチーム医療を提供できる看護師の育成を行っている。5年以上の看護師経験があり、さらにNP養成大学院で特定行為研修を修了し、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の実施する資格試験に合格した者を診療看護師（Japanese Nurse Practitioner: JNP）と認証している。JNPは、医師の特徴である医学的視点と元々看護師経験で培った看護の視点を持ち合わせており、なおかつ、特定行為の実施も可能であることから臨床で様々な役割が期待されている医療職である。

当院は、2014年度よりJNPを導入している。2025年度は5名のJNPが所属している。統括診療部所属（責任者は統括診療部長）であり、JNP養成大学院修了後2年間はJNPとして成熟していくために、診療科医師・看護部からの監督下に各診療科をローテーションしながら臨床研修を行う。研修終了後は、各診療科の事情や要望、本人の希望も勘案した上で診療科への配置が決定されるシステムをとっている。JNP研修・管理運営委員会を設置し、安全面に配慮した上で、当院における一般看護師との違いをJNP業務規定として独自に定めている。

当院のJNPは、特定行為を補助的に活用しながら、臨床で培った看護師としての知識・経験を基盤とした患者の個性に合わせた全人的ケアと医師の思考（治療的視点、臨床推論の能力）の融合をイメージした活動をしている。「チーム医療の要」「地域医療の担い手」としての役割を果たすことを目標に、地域、施設の機能、診療科の特徴を踏まえ、患者・家族のニーズにあった活動を心がけている。特徴としては、①医師不在時の急変時の初期対応や患者の全身管理、処置ができること（たとえば21区分38行為の特定行為の実施が可能等）、②個々の患者に対する情報・診療方針を医師と共有し、その指示のもとに各種検査のオーダー・指示簿の変更が可能であること（電子カルテ上で医師の事後承認が必要）、③他診療科へのコンサルテーションや多職種との連携によりチーム医療の中核的役割が担えること、④離島等医療連携ヘリ事業（Remote Island Medical Co-operation Air Service: RIMCAS）ヘリや民間航空機を利用した転院搬送時の調整・患者と同乗し直接的ケアを提供する権限も与えられていること、⑤各診療科における診療データベースの構築、臨床研究等がある。JNPはこのような役割を担いながら、配属先の診療科・病棟における診療・看護の質維持、向上を図っている。

2) 構成メンバー

責任者：本村秀樹（統括診療部長）

JNP：津野崎絹代（副看護師長・小児科所属）

吉岡未智（外科所属）・江口貴彦（高度救命救急センター所属）

溝上佳史（整形外科所属）

河野陽子（JNP臨床研修中）

3) JNPの理念・目標

(1)理念

- ・チーム医療の要：患者を取り巻くあらゆる職種・環境とのコミュニケーション・連携を図り、円滑かつ安全安楽な医療の提供に寄与する。
- ・地域医療の担い手：クリティカルケア、プライマリケア両領域における患者の健康回復・保持増進に向けた思考力や実践力を養う。

(2)目標

専門性の高い判断力と実践力を持つJNPが、日々、多職種との関わりを持ちながら診療の一部分を担い、患者や家族・関わりを持つ他職種職員にとっての存在意義を高めること。

■ ■ 入院診療実績

転院搬送 6件（高度救命救急センター・NICU）

各科ともに診療補助業務として病棟の患者管理の他、外来業務、特定行為を実施している。

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
周産期リエゾンカンファレンス	1回/月
CPTカンファレンス	2回/月
周産期合同カンファレンス	1回/週
NICUカンファレンス	1回/週
術前カンファレンス	2回/週
消化管合同カンファレンス	1回/週
術後カンファレンス	1回/週
整形外科多職種カンファレンス	2回/週
特定看護師ミーティング	1回/月
身体抑制カンファレンス	1回/週

1) 院内教育

津野崎絹代

新人看護師研修講師

レベルV研修担当

BLS研修指導者

4A病棟勉強会 新生児看護の基礎 3回
急変対応について

4B病棟勉強会 新生児蘇生について
症例振り返り勉強会

吉岡未智

BLS研修指導者

7A病棟勉強会 ドレーン管理の基本と留置の目的
術後合併症予防と早期発見

溝上佳史

レベルI研修講師

院内臨床研究セミナー講師

メディカルスタッフ喀痰吸引研修

メディカルスタッフ喀痰吸引フォローアップ研修

BLS研修指導者

6B病棟勉強会講師 急変対応勉強会（METについて）

大腿骨転子部骨折の手術と周術期の看護について

江口貴彦

新人看護師研修講師

研修医採血演習

BLS研修指導者

リソースナース発表会 発表

河野陽子

新人看護師研修講師

BLS研修指導者

2) 看護師特定行為研修指導

津野崎絹代

演習・実習：身体診察基本手技

演習・実習 頸静脈、末梢動脈の診察

演習：看取り

演習：コンサルテーション せん妄

演習：コンサルテーション 高カリウム血症

演習：チーム医療～終末期患者の退院支援～

演習：手順書の作成

演習：統合実習

吉岡未智

実習：頭頸部の診察

実習：呼吸の診察

演習：インフォームド・コンセント（PICC留置）、意思決定支援

溝上佳史

実習：心音の診察

実習：高位脊髄損傷の診察、膝・肩の診察

演習：チーム医療（多職種との連携）の事例検討

演習：（手順書）気切カニューレの交換

臨床実習 気切カニューレの交換手技評価 4回

江口貴彦

演習：臨床倫理

演習：褥瘡管理

手技演習：直接動脈穿刺法による採血の手技・橈骨動脈ラインの確保

OSCE 直接動脈穿刺法による採血の手技・橈骨動脈ラインの確保

臨床実習 気管カニューレの交換手技評価 1回

橈骨動脈ラインの確保評価 6回

3) 院外活動

津野崎絹代

NHO九州ブロック成育エキスパートナース研修 講師・タスク
新生児看護学会評議委員
JEBNeo栄養ガイドライン作成委員
活水大学ゲストスピーカー フィジカルアセスメント 1回
チーム医療論 1回
愛知医科大学非常勤講師 クリティカルケア特論 1回
新生児蘇生法（NPCR）インストラクター
長崎市医師会主催 開業医・勤務医向け災害初期対応コーススタッフ 1回
長崎空港航空機事故対応訓練 参加
大村市総合防災訓練 参加

吉岡未智

日本NP学会九州地方会 役員（理事）
長崎大学病院看護師特定行為研修実技試験評価者 3項目

溝上佳史

NHO令和7年度 第5回看護師特定行為研修指導者講習会 タスク 1回
純真学園大学大学院 NP特論 2回
活水大学ゲストスピーカー フィジカルアセスメント 2回

江口貴彦

長崎市医師会看護専門学校 講義 臨床推論 5回
長崎市医師会看護専門学校 教員向け講義 臨床推論 1回
純真学園大学大学院 講義 NP特論（医療安全） 1回
長崎市医師会主催 開業医・勤務医向け災害初期対応コーススタッフ 1回
長崎大学病院看護師特定行為研修実技試験評価者 3項目
長崎空港屋内救護所活動訓練 参加
長崎空港航空機事故対応訓練 参加
大村市総合防災訓練 参加

河野陽子

長崎市医師会主催 開業医・勤務医向け災害初期対応コーススタッフ 1回
長崎空港屋内救護所活動訓練 参加
大村市総合防災訓練 参加

4) 委員会活動

(1) JNP研修・管理運営委員会

当院では2014年度、JNP養成大学院を修了したJNP 4名の実地研修（2年間）の受け入れを開始。2025年度までに計10名の臨床研修の実績がある。2014年より「JNP研修・管理運営委員会（令和4年に名称変更）」を設置し、JNPについての統括、労務管理、業務内容・体制、研修、その他JNPに関わる全ての事柄について審議・決定を行っている。

【構成メンバー】

委員長：本村秀樹（統括診療部長） 副委員長：和泉泰衛（内科部長）

構成委員：中道親昭（救命センター長）、藤岡正樹（形成外科部長）、青木幹弘（小児科医長）、

案田岳夫（脳神経外科）、北里周（外科医長）、宮本俊之（整形外科部長）、白川大（管理課長）、

沖田典子（副看護部長）、高松三穂子（教育担当係長）

JNP（津野崎絹代、中原未智、江口貴彦、溝上佳史、河野陽子）

【活動内容】

委員会：1回/2ヶ月開催

検討事項：研修内容の評価、JNP活動評価、周知、学術活動等

(2) 虐待防止委員会

参加：津野崎絹代

(3) 医療安全推進委員会

参加：吉岡未智

(4) 感染対策リンクスタッフ会議

参加：江口貴彦

(5) 特定行為研修指導者委員会

参加：津野崎絹代、吉岡未智、溝上佳史、江口貴彦

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	2	4

（内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で）

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4	1	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

3) 学術講演

（件数）

種類	企業セミナー			
件数	1			

4) 学会座長

（件数）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

（内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で）

研究業績

論文発表

B：和文

B-c2：和文著書 [分担]

- 1) CQ8処置実施前の十分な安静時間を確保することは、確保しない場合と比較して、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
米澤かおり、津野崎絹代.
第3版（2025年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2025；p73-75.
- 2) CQ10非薬理的緩和法を実施することは、実施しない場合と比較して、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
清水彩、津野崎絹代.
第3版（2025年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2025；p79-91.
- 3) CQ11処置前に口腔内に甘味液（ショ糖）投与を行うことは、新生児のベッドサイド処置に伴う痛みの緩和に貢献するか？
田中広輔、津野崎絹代.
第3版（2026年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2025；p92-102.
- 4) CQ15非薬理的緩和法を実施することは、実施しない場合と比較して、新生児の術後痛の緩和に貢献するか？
清水彩、津野崎絹代、藤本智久、木下真里.
第3版（2027年）NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2025；p126-129.

B-d：和文報告書

- 1) 外科配属診療看護師（NP）による内視鏡外科手術助手の現況と信頼度調査.
中原未智、米田晃、福井彩恵子、北里周、竹下浩明、黒木保.
日本内視鏡外科学会雑誌 2025；30：363-366.

B-e：その他（ラジオ・新聞・雑誌等）

- 1) 術後痛に対する非薬理的緩和法.
津野崎絹代.
小児看護 2025；48（10）1178-1181.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション

<シンポジウム>

- 1) 診療看護師（NP）が架け橋となる医師と看護師の信頼関係 ～整形外科診療看護師（NP）1年目の挑戦と課題～.
溝上佳史、伊藤勇人、向井順哉、下永吉洋平、梅木雅史、森圭介、太田真悟、宮本俊之.
看護師とのタスクシェア ～信頼関係をいかにして構築するか～. 第51回日本整形外傷学会学術集会. 神奈川, 2025.6.27.

＜学術集会特別企画＞

- 1) 改革1年後の外科医療における診療看護師（NP）の戦略的活用 ～改革の先を照らす、外科医の実感と診療看護師（NP）の役割～.

中原未智、米田晃、久保飛翔、福井彩恵子、大石海道、堀川修一、釘山統太、森田道、原貴信、藤井美緒、竹下浩明、南恵樹、山口峻、蒲原行雄、黒木保.

学術集会特別企画5：チーム医療による外科医師の働き方改革へのマネジメン. 第87回日本臨床外科学会総会. 東京, 2025.11.20.

B-b2：一般演題

＜Oral＞

- 1) 整形外科診療看護師（NP）の役割と多職種連携がもたらす脆弱性骨折患者ケアの質向上.

溝上佳史、伊藤勇人、向井順哉、下永吉洋平、梅木雅史、森圭介、太田真悟、宮本俊之.

大腿骨近位部骨折. 第12回日本脆弱性骨折ネットワーク学会学術集会. 福岡, 2025.3.7.

- 2) 新生児搬送中の状態悪化を契機に救急隊と連携強化を行った一例.

津野崎絹代、武田敬子、西口亮、青木幹弘.

周産期・医療システム1. 第69回日本新生児成育医学会学術集会. 神奈川, 2025.11.13.

C, D：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

＜Oral＞

- 1) 1500 g 以上の新生児に対する末梢静脈カテーテルとミッドラインカテーテルの比較検討

津野崎絹代.

第7回 Cardinal Health NICU webiner ～PIカテーテルにまつわる様々なTopics～. Web, 2025.12.2.

D：学会・研究会開催

＜司会＞

- 1) 吉岡未智.

育む力、つなぐ力～九州NP教育の挑戦～. 第2回日本NP学会九州地方会学術集会・総会. 大分, 2025.12.13.



責任者 小山田 純治

診療部門の特色

薬剤部は治療に用いられる医薬品を安全かつ適正に使用することを目的として業務を行っている。薬剤業務としては処方せんに基づく調剤・監査の他、抗がん薬・TPN調製、病棟薬剤業務・薬剤管理指導、チーム医療、DIを含めた医薬品管理、治験業務、病院経営への参画など多岐にわたっている。

入院患者に対する医薬品の適正使用に関しては、2014年7月より病棟薬剤業務実施加算の施設基準を取得し業務を展開している。病棟薬剤業務として入院時の持参薬鑑別をはじめ、服薬計画の提案や医薬品の使用状況把握、薬学的管理、副作用モニタリング等を実施し、周術期においては術前休薬・再開の確認など入院から退院まで安全な医薬品使用に寄与している。

一方、外来患者に対しては、がん薬物療法や周術期薬剤管理に関する医療安全向上を視野に外来化学療法センターおよび予約入院支援センターに専任薬剤師を配置している。がん薬物療法に対しては副作用マネジメントを軸にサポートしており、2020年6月からは保険薬局薬剤師とお薬手帳を介したレジメン情報・副作用情報等を共有し、外来化学療法における連携充実加算の算定を開始、2024年6月には専任薬剤師が「診察前面談」で得られた副作用などの患者情報を医師の診察へ活用できる体制を構築し、がん薬物療法体制充実加算の算定を開始した。予約入院支援センターでは専任薬剤師による入院予定患者の常用薬のチェック、手術目的の患者には術前休薬について医師へ継続の必要性を確認し、内服中止の場合には患者・家族へ指導している。

教育・研修に関しては、ジェネラリストとしてだけでなく、スペシャリストとして、がん、緩和ケア、感染など各種認定・専門薬剤師の資格取得を視野に日々努力を重ねている。また薬学生対象の長期実務実習（11週）受入れや、保険薬局薬剤師の研修受入れ施設（日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会の研修施設）であり、臨床薬剤師の育成に精力的に取り組んでいる。

病院経営面では医薬品費削減目的に後発医薬品・バイオシミラーへの切り替えを推進し、また2024年6月から持参薬の運用を開始した。診療報酬改定による「周術期薬剤管理加算」、「術後疼痛管理チーム加算」、「がん薬物療法体制充実加算」、「バイオ後続品使用体制加算」など新設された加算を算定する体制を構築している。

2025年は医師や薬剤師の働き方改革につながるPBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）として院内処方における疑義照会簡略化に取り組んだ。定型的な内容の疑義照会については不要とし、薬剤師が処方を修正後、医師が承認する流れとすることで診療中断や調剤遅延を防止し、時間短縮と効率化が期待できる。

2026年は診療報酬改定により新たな業務の取り組みが必要となることも考えられるが、これまで行ってきた業務は今後も継続して実施し、さらに向上に努めていきたい。

■入院診療実績

■薬剤部定員（2026年1月現在）

薬剤部（地下1階）

薬剤部長	副薬剤部長	主任薬剤師	薬剤師	薬剤助手	*治験主任	*治験薬剤師
1名	2名	8名	13名 (4名欠員)	9名 (2名欠員)	2名	1名

*治験主任及治験薬剤師は臨床研究センター治験管理室に配属

■業務実績

1. 処方箋

2023年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	14,872	13,110	13,391	13,957	14,752	13,637	14,592	14,337	13,554	14,852	13,278	13,928	168,260	14,022
	外来	2,206	2,032	2,225	2,208	2,273	2,216	2,454	2,532	2,322	2,277	2,131	2,332	27,208	2,267
処方せん枚数	入院	11,396	11,401	11,710	11,880	12,769	12,427	12,162	12,447	11,877	12,647	11,045	11,848	143,609	11,967
	院内	799	699	551	607	634	635	660	673	602	685	646	746	7,937	661
	院外	6,413	6,241	6,831	6,287	6,306	6,598	6,501	6,785	6,370	6,705	6,427	6,638	78,102	6,509
院外処方せん発行率		88.9%	89.9%	92.5%	91.2%	90.9%	91.2%	90.8%	91.0%	91.4%	90.7%	90.9%	89.9%		90.8%

2024年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	14,765	13,721	12,913	13,272	14,878	13,610	15,539	14,538	14,058	14,680	13,271	14,600	169,845	14,154
	外来	2,274	2,211	2,256	2,207	2,209	2,242	2,687	2,515	2,285	2,234	2,071	2,485	27,676	2,306
処方せん枚数	入院	12,287	11,251	11,530	11,569	12,184	11,031	12,697	12,063	11,935	11,945	10,906	12,064	141,462	11,789
	院内	743	532	489	516	546	476	635	550	460	512	462	675	6,596	550
	院外	6,380	6,200	6,301	6,108	6,150	5,793	6,310	5,917	5,942	6,304	5,840	6,125	73,370	6,114
院外処方せん発行率		89.6%	92.1%	92.8%	92.2%	91.8%	92.4%	90.9%	91.5%	92.8%	92.5%	92.7%	90.1%		91.8%

2025年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
注射処方せん枚数	入院	15,716	13,714	14,364	13,411	12,773	12,118	13,938	13,111	13,197	13,874	13,215	13,151	162,582	13,549
	外来	2,425	2,323	2,460	2,290	2,188	2,169	2,521	2,171	2,255	2,176	2,101	2,287	27,366	2,281
処方せん枚数	入院	11,767	11,190	11,576	11,766	10,797	11,259	12,527	11,636	11,958	11,849	11,064	11,834	139,223	11,602
	院内	595	463	527	466	666	555	596	647	568	622	548	732	6,985	582
	院外	6,125	5,552	5,936	6,001	5,912	5,909	5,176	5,780	5,719	6,336	5,258	5,972	70,676	5,890
院外処方せん発行率		91.1%	92.3%	91.8%	92.8%	89.9%	91.4%	91.2%	89.9%	91.0%	91.1%	90.6%	89.1%		91.0%

2. 薬剤管理指導料（件数）

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	216	278	287	283	297	362	300	300	247	316	265	209	3,360	280
②その他の患者	325	213	197	265	260	279	339	312	331	215	280	240	269	3,200	267
①②の合計		429	475	552	543	576	701	612	631	462	596	505	478	6,560	547
配置薬剤師数		14	14	14	15	15	15	15	15	17	17	17	17		15
薬剤師1人当り		31	34	39	36	38	47	41	42	27	35	30	28		36

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	294	324	259	308	269	228	222	216	225	277	272	287	3,181	265
②その他の患者	325	287	262	301	350	318	275	316	310	283	365	327	345	3,739	312
①②の合計		581	586	560	658	587	503	538	526	508	642	599	632	6,920	577
配置薬剤師数		17	17	17	16	16	16	16	16	16	18	18	18		17
薬剤師1人当り		34	34	33	41	37	31	34	33	32	36	33	35		34

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①安全管理が必要な医薬品	380	243	276	264	250	263	282	264	255	248	283	302	279	3,209	267
②その他の患者	325	322	272	298	235	277	262	302	288	309	322	308	310	3,505	292
①②の合計		565	548	562	485	540	544	566	543	557	605	610	589	6,714	560
配置薬剤師数		18	17	17	15	15	15	15	15	15	17	17	17		16
薬剤師1人当り		31	32	33	32	36	36	38	36	37	36	36	35		35

3. 病棟薬剤業務（件数）

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算(1)*	120	2,333	2,311	2,311	2,335	2,548	2,390	2,410	2,482	2,289	2,487	2,258	2,303	28,457	2,371
病棟薬剤業務実施加算(2)*	100	282	299	299	286	261	247	266	260	236	300	219	295	3,250	271
持参薬確認件数		777	780	788	792	817	820	845	798	757	860	774	788	9,596	800

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算(1)*	120	2,524	2,377	2,282	2,364	2,421	2,185	2,567	2,461	2,353	2,468	2,115	2,425	28,542	2,379
病棟薬剤業務実施加算(2)*	100	286	259	287	277	245	279	297	253	278	276	303	323	3,363	280
持参薬確認件数		903	785	795	863	827	840	1,023	899	860	893	793	927	10,408	867

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
病棟薬剤業務実施加算(1)*	120	2,595	2,394	2,494	2,433	2,236	2,256	2,491	2,340	2,429	2,389	2,279	2,332	28,668	2,389
病棟薬剤業務実施加算(2)*	100	314	288	322	289	282	282	309	300	296	293	309	323	3,607	301
持参薬確認件数		947	851	905	867	848	888	941	887	928	867	790	830	10,549	879

*病棟薬剤業務実施加算(1)：週1回120点 加算(2)（救急救命入院料病棟）：1日につき100点

4. がん診療関係（件数）

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		271	245	329	232	208	232	224	252	225	222	223	225	2,888	241
外来腫瘍化学療法診療料1イ	700	386	400	447	409	408	373	367	372	340	384	388	388	4,662	389
がん患者指導管理料ハ	200	0	0	0	2	0	0	0	2	1	1	1	2	9	1
連携充実加算*	150	166	171	157	155	155	147	150	142	164	167	169	172	1,915	160

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		215	224	226	211	226	266	267	266	278	278	253	268	2,978	248
外来腫瘍化学療法診療料1/1イ(Ⅱ)	700/800	367	386	362	398	418	335	403	412	374	412	350	367	4,584	382
がん患者指導管理料ハ	200	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4	0
連携充実加算*	150	161	168	167	178	180	180	188	187	174	193	192	193	2,161	180
がん薬物療法体制充実加算*	100						84	145	146	128	141	151	147	942	135

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
外来化学療法センター（指導）		256	233	255	259	281	279	317	291	277	282	269	246	3,245	270
外来腫瘍化学療法診療料1イ(Ⅱ)	800	365	354	357	389	338	339	350	328	333	385	289	338	4,165	347
がん患者指導管理料ハ	200	0	2	0	0	1	2	0	2	0	0	1	0	8	1
連携充実加算*	150	182	164	173	197	182	176	179	167	178	169	166	182	2,115	176
がん薬物療法体制充実加算*	100	133	124	138	129	123	132	148	128	147	152	130	140	1,624	135

2024年6月外来腫瘍化学療法診療料見直し

*2020年6月より連携充実加算算定開始 *2024年6月よりがん薬物療法体制充実加算算定開始

5. 無菌処理科（件数）

2023年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理科1 イ*	180	26	25	27	22	33	32	35	41	28	32	35	25	361	30
②無菌製剤処理科1 ロ*	45	670	703	758	719	683	673	639	689	617	703	713	656	8,223	685
③無菌製剤処理科2*	40	104	97	129	152	92	79	76	58	106	135	92	157	1,277	106
④未熟児の無菌調製(TPN)		12	15	56	77	4	26	35	14	42	130	66	157	634	53
⑤未熟児の無菌調製(TPN以外)*		206	155	187	230	112	126	119	117	201	188	195	253	2,089	174
無菌製剤処理科(①②③の合計)		800	825	914	893	808	784	750	788	751	870	840	838	9,861	822

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理科1 イ*	180	25	25	23	31	31	32	29	29	34	42	62	72	435	36
②無菌製剤処理科1 ロ*	45	678	711	693	787	753	632	731	782	731	804	656	678	8,636	720
③無菌製剤処理科2*	40	59	90	62	55	66	86	73	62	71	57	83	124	888	74
④未熟児の無菌調製(TPN)		59	47	55	62	13	16	32	21	24	40	56	76	504	42
⑤未熟児の無菌調製(TPN以外)*		103	140	121	93	75	105	96	99	118	75	166	208	1,396	116
無菌製剤処理科(①②③の合計)		762	826	778	873	850	750	833	873	836	903	801	874	9,959	830

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①無菌製剤処理科1 イ*	180	88	78	72	89	87	86	86	94	83	86	72	71	992	83
②無菌製剤処理科1 ロ*	45	614	541	606	661	614	579	661	563	578	715	561	615	7,308	609
③無菌製剤処理科2*	40	104	68	112	101	109	102	30	24	24	53	49	51	827	69
④未熟児の無菌調製(TPN)		106	83	106	99	135	96	3	13	14	40	17	26	738	62
⑤未熟児の無菌調製(TPN以外)*		166	99	185	152	140	155	81	66	36	88	75	88	1,331	111
無菌製剤処理科(①②③の合計)		806	687	790	851	810	767	777	681	685	854	682	737	9,127	761

*イ（閉鎖式接続機器を使用した場合：2015年3月より算定開始） *ロ（イ以外の場合）

*無菌製剤処理科2（無菌製剤処理科1以外のもの） *2017年11月より未熟児病棟のCVルート分の輸液調製を開始 *④⑤はRp数

6. 周術期関係 (件数)

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
術後疼痛チーム管理加算	100				33	127	113	55	60	71	128	120	88	795	88
周術期薬剤管理加算	75				0	22	32	70	91	95	124	140	115	689	77

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
術後疼痛チーム管理加算	100	97	102	97	94	88	97	108	110	110	117	87	109	1,216	101
周術期薬剤管理加算	75	126	97	151	110	104	107	158	129	123	107	107	145	1,464	122

2024年4月より術後疼痛管理チーム加算、2024年5月より周術期薬剤管理加算算定開始

7. 後発品関係 (件数)

2024年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
後発医薬品使用体制加算1*	87	810	724	735	788	738	758	923	852	790	844	709	875	9,546	796
バイオ後続品導入初期加算	150	3	2	2	1	9	13	16	19	27	19	10	12	133	11
バイオ後続品使用体制加算*	100									101	142	150	140	533	133

2025年	点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
後発医薬品使用体制加算1*	87	860	786	845	815	775	793	853	865	818	783	758	755	9,706	809
バイオ後続品導入初期加算	150	12	7	6	2	7	1	4	1	2	0	1	3	46	4
バイオ後続品使用体制加算*	100	141	118	127	130	102	115	104	94	79	85	74	82	1,251	104

*後発医薬品使用体制加算1：2024年6月に47点から87点へ変更

*2024年9月よりバイオ後続品使用体制加算算定開始

■医薬品採用数と後発医薬品の割合 (購入実績より)

年度区分		2022年度 (2022.4-2023.3)	2023年度 (2023.4-2024.3)	2024年度 (2024.4-2025.3)
採用医薬品目数 (3月末現在)	内用	825	832	834
	外用	250	248	247
	注射	673	662	663
	合計	1,748	1,742	1,744
後発品採用品目数 (3月末現在)	内用	314	331	342
	外用	72	77	77
	注射	168	174	178
	合計	554	582	597
後発品比率 (品目割合)	内用	75%	81%	88%
	外用	71%	71%	74%
	注射	73%	70%	75%
	合計	74%	76%	82%
後発品比率 (金額割合)	内用	57%	63%	47%
	外用	71%	65%	70%
	注射	45%	45%	56%
	合計	47%	48%	55%
後発品比率 (数量割合)	内用	93%	95%	96%
	外用	96%	94%	97%
	注射	89%	90%	83%
	合計	93%	94%	95%

割合は全て新指標で算出

新指標＝後発医薬品購入数量／(後発品のある先発医薬品購入数量＋後発医薬品購入数量)＊100

■病棟業務

●全病棟共通

初回面談による患者背景(持参薬服薬状況、アレルギー歴など)の確認

持参薬の確認・鑑別、院内採用薬への代替提案

処方内容の確認(用法・用量、禁忌、相互作用、配合変化、投与速度など)

TDM解析

服薬指導、薬剤説明、副作用モニタリング
 プレアボイド報告
 各医療スタッフへの医薬品情報提供
 各医療スタッフからの相談応需
 カンファレンスへの参加
 定数配置薬の確認

●RST（3 A）

呼吸ケアサポートチーム（RST）は人工呼吸器を装着している患者に対し、人工呼吸器の使用上の問題に関するサポートを多職種連携で行うことで、患者ケアを向上させ人工呼吸器の早期離脱を目指している。毎週火曜日に回診とカンファレンスを実施し、主に鎮痛薬、鎮静薬について薬剤師として助言を行うなど薬学的介入を行っている。

●両親学級（4 B）

『妊娠とお薬について』をテーマに妊娠期特有の薬の処方やサプリメントについての説明を中心に講義を行っている。

●腎臓病教室（5 A）

月に1回開催されている腎臓病教室に参加している。教室では医師・看護師・栄養士・MSWと協力し、腎臓内科に通院もしくは入院されている患者様とご家族に対して各スタッフ10分前後の講義を行っている。

●糖尿病教室（5 A）

入院患者向け糖尿病教室では、2週に1回金曜日、薬剤師担当回の講師として1名参加している。主として血糖コントロールを目的に入院した患者を対象に、薬物治療に関する講義を実施している。

●心臓病教室（6 A）

週に1回、医師・看護師・薬剤師より、心疾患で入院されている患者さんとご家族を対象に講義を行う。心疾患患者に対する薬物治療の目的、薬剤の特徴、副作用、内服における注意点、服用継続の意義に対して理解を目的とした講義を実施し、積極的な患者教育に取り組んでいる。また、心不全患者サポートの質向上を目指し、心不全療養指導士の資格取得にも取り組んでいる。

●病棟活動の事例報告について

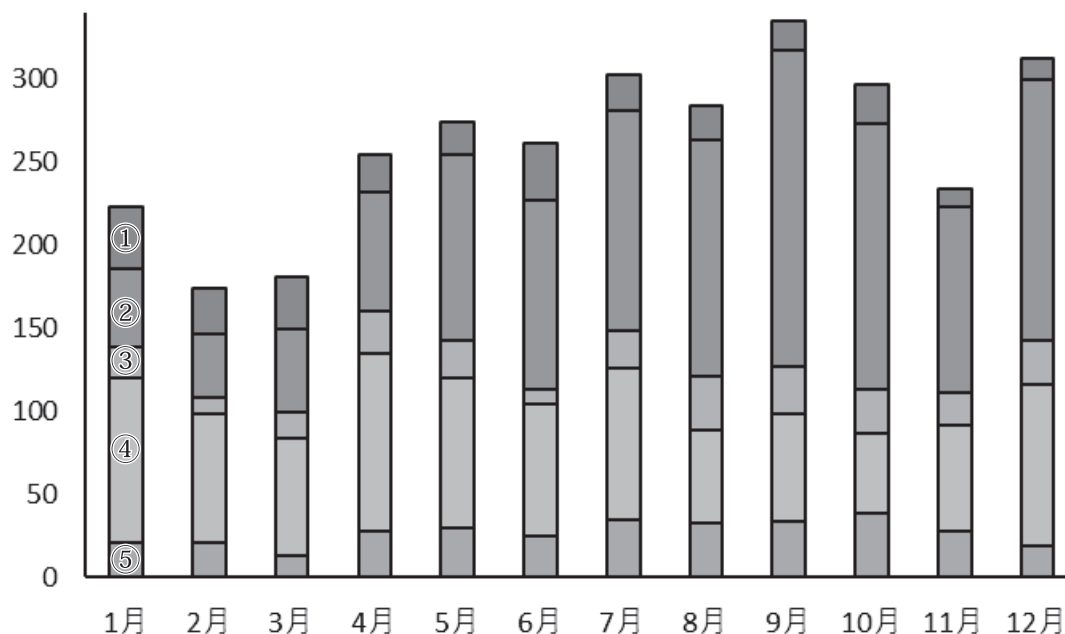
2021年6月より医療安全の質向上の観点から、「情報共有」の目的で業務の可視化を行うこととして病棟活動事例の集積を開始した。また事例を以下の5つに分類し、優良事例を薬剤管理運営委員会にて紹介している。

- ①薬学的観点（薬理作用、相互作用、配合変化等からの判断）
- ②医薬品情報（添付文書、インタビューフォーム等から確認できる情報）
- ③主観的情報（患者面談、患者の訴え、アドヒアランス等）
- ④客観的情報（副作用歴、アレルギー歴、薬歴、検査値等（腎機能低下事例を除く））
- ⑤腎機能低下（客観的情報のうち、腎機能低下）

全体の件数および採択率

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
件数（件）	223	174	181	254	274	261	302	284	335	297	234	312	261
採択率（%）	86	84	84	87	89	82	86	89	87	87	87	88	86

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
①薬学的観点	37	28	32	22	20	34	21	21	18	24	11	12
②医薬品情報	48	38	50	72	112	114	133	142	190	160	112	158
③主観的情報	18	10	16	25	22	9	22	33	29	27	20	26
④客観的情報	99	77	70	108	91	79	92	56	65	48	64	97
⑤腎機能低下	21	21	13	27	29	25	34	32	33	38	27	19



■外来業務

●外来化学療法センター

外来化学療法センターで治療を受けられる患者や家族に対し、2011年9月から薬剤管理指導を行っている。抗がん薬の投与量・投与スケジュールのチェックや化学療法前の患者のバイタル、検査値などを確認して、治療中の患者に対する薬剤管理指導を通した副作用マネジメントなどを行い、適切で安全な化学療法の実施を支援している。2020年6月から連携充実加算の算定を開始し、お薬手帳への副作用情報提供シールの貼付など、がん薬物療法における地域の保険薬局との連携強化を図っている。

●薬剤師外来

2013年10月から腫瘍内科の診察枠に薬剤師外来を開設して予約制で経口抗がん薬の初回導入時やレジメン変更時に説明を行い、治療が継続できるよう支援を行っている。2024年6月から化学療法患者を対象とした医師診察前面談用ブースを開設した。専任薬剤師が副作用の聞き取り等を実施し、医師への情報共有・副作用対策の処方提案などを行い、患者満足度上昇や化学療法の継続率向上、医師の診察時間短縮に寄与する取り組みとなっている。

外来化学療法における医師への疑義照会および処方提案件数

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
件数	128	124	102	170	212	151	161	135	156	173	110	140

●予約入院支援センター

2012年4月より予約入院支援センターにて、クリティカルパス適応患者を対象に入院前の内服薬確認を開始し、現在では対応診療科すべての患者においても適宜内服薬確認を行っている。観血的治療（手術・内視鏡などの処置）や心臓カテーテル検査、血管造影検査時に休薬が必要とされる薬剤をスクリーニングし、該当する薬があれば医師へ確認し、患者・家族へ説明を行っている。また、電子カルテに持参薬を記録し、病棟スタッフと情報共有している。2025年1月から12月までの12ヶ月の確認件数は4,755件で休薬対象薬を含んでいた件数は1,272件であった。この内、カルテに休薬等の指示がなく医師に確認後休薬となった件数は165件であった。

予約入院支援センターでの薬剤業務状況（2025年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	400	362	383	346	416	397	491	392	389	428	395	356
内服あり	311	278	292	279	321	302	374	320	306	332	291	276
休薬対象あり	103	95	92	102	101	97	133	117	114	121	105	92
休薬を確認した件数（注）	19	12	9	15	9	11	12	21	15	12	13	17

（注）：カルテに指示がなく医師に休薬するかどうかの確認をした結果、休薬となった件数

■手術室業務

チーム医療の一環として、2024年4月から手術室専任薬剤師を配置し、周術期における薬剤管理の取り組みを開始している。手術前中止薬の確認、麻酔科医・手術室看護師との連携、術中使用薬に関する対応、術後病棟の担当薬剤師との連携、術後疼痛管理チームの一員として術後疼痛管理への介入などの業務を実施している。

委員会における薬剤師の役割

■がん薬物療法及びレジメン審査委員会

院内で施行されるがん薬物治療の妥当性と科学的根拠を審査する当該委員会に薬剤師3名が参加している。薬剤師は、新規に実施される臨床研究を含むがん薬物療法のレジメン申請書・投与計画表・根拠論文を受理・審査後、事前審査委員へ審査を依頼している。レジメン審査委員会では申請されたレジメンの妥当性について答申を行い、承認レジメンを電子カルテのレジメンシステムへ登録・管理のほか、委員会議題・議事録作成、レジメン申請窓口などの事務局業務を行っている。2025年（1月～12月）は通常審査2件、迅速審査41件であった。

■ICT・AST

毎週火曜日に開催されているICTミーティングに薬剤師が参加し、抗菌薬の使用状況、指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の長期使用患者などについてICD、ICNまたはコメディカルスタッフなどに対して報告を行っている。ミーティング後の院内の環境ラウンドへも同行し、アドバイスをを行っている。毎週火曜日のASTカンファレンスでは指定抗菌薬の長期使用患者、許可制抗菌薬の使用患者および感染症コンサルテーションの対象患者に関する抗菌薬適正使用について協議している。職員対象に年に1～2回講習会を行っている。

また、毎月、全国規模の耐性菌サーベイランスであるJANIS（院内感染対策サーベイランス）、J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）への報告を行っている。

感染対策向上加算に係る合同カンファレンスを年に4回、相互評価を2施設とそれぞれ年に1回行っている。合同カンファレンスでは、抗菌薬使用状況に関する連携4施設すべてのデータ整理、情報提供を担当している。

当院では指定抗菌薬（カルバペネム系薬剤・抗MRSA薬剤）の適正使用に向けた届出率向上、使用状況確認の効率化を目的に、電子カルテの抗菌薬管理機能を用いる方法を導入しており、届出率は100%を維持している。

AUD（抗菌薬使用密度）を用いた耐性菌サーベイランスへの取り組みを行い、耐性菌検出率と抗菌薬使用量との関連性について研究を開始しており、今後に期待されている。

■NST

毎週木曜日に行われるカンファレンス・回診へ参加し、投薬状況の確認、輸液メニューの組成チェック、血液データの確認、薬剤の提案等を行っている。月1回のNST委員会ではNST加算件数や問題点等を報告している。

■緩和ケア

当院の緩和ケアチームは身体症状担当の緩和ケア科医師、精神症状担当の精神科医師、緩和ケアチーム専従のがん性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどの多職種からなるチームである。週に1回カンファレンスを行い、薬剤師は、患者の症状に合わせた適切な薬剤の選択、投与量の調節、副作用のモニタリングなどを通して、患者の苦痛緩和へ貢献している。

■医療安全

週1回開催の医療安全管理部会、月1回開催の医療安全管理委員会、医療安全推進担当者会議があり、特に医薬品関連のインシデントについてはシステム等を活用した防止策を講じ、再発防止に取り組んでいる。また部内ではインシデント発生時の対応や事例分析、対策等を共有し、部員全員で医療安全における意識の向上と業務改善を行っている。

■クリティカルパス委員会

2か月に1回のパス委員会と2か月に1回の推進部会への参加を通して、事務も含めた他職種と情報交換を行いながらよりよいパス作成に取り組んでいる。

■研修・教育

■カンファレンス・勉強会

名称	開催頻度
薬剤勉強会（製薬会社説明）	適宜

■薬学部学生実務実習

薬学部の薬剤師養成課程が6年制に移行し、5年時に病院での11週間の実務実習が義務付けられたことに伴い、当院でも2010年5月より薬学部の学生を受入れ、実習指導を行っている。2025年度も2期6名、3期6名の学生を受入れ、調剤業務、製剤業務などの基礎的なものから、服薬指導、疑義照会、TDM解析、病棟業務、チーム医療などより臨床に密着した業務を、カリキュラムに基づいて、指導・教育を行っている。

名 称	対 象	受入人数	実施月
2025年度 第2期 長崎国際大学	5年生学生	6名	5月～8月
2025年度 第3期 長崎国際大学	5年生学生	6名	8月～11月

■長崎県大村東彼地区薬剤師会講習会及び院内化学療法セミナー

名 称	参加職種	参加人数	実施日
2025年度第1回臨床連携セミナー	薬剤師	27名	7月3日
第1回がん化学療法に関する研修会	薬剤師	19名	6月27日
第2回がん化学療法に関する研修会	薬剤師	17名	8月20日
第3回がん化学療法に関する研修会	薬剤師	14名	10月8日
第4回がん化学療法に関する研修会	薬剤師	21名	12月4日

■各種研修（機構主催；本部、ブロック）

名 称	参加者	参加人数	実施月
令和6年度クリティカルパス実践研修会	野田	1	2
令和7年度新規採用者研修	江畠他	2	4
令和7年度医療職（二）等職場長管理研修	小山田	1	6
令和7年度新任中間管理者研修	中原他	2	6
令和7年度副職場長管理研修	橋本他	2	9
令和7年度薬剤師交換研修	相川	1	10
令和7年度院内感染対策研修	金松	1	11

■認定薬剤師・専門薬剤師など

名 称	氏 名
日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師	平池美香子
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	平池美香子
日本栄養治療学会 栄養治療専門療法士（がん）	橋本未雷
日本栄養治療学会 NST専門療養士	橋本未雷, 松藤敬佑, 松尾待池
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	濱野麻子
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	平池美香子, 濱野麻子
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	中原萌子
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	野田晃洋
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	野田晃洋
日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士	金松真理子
日本循環器学会 心不全療養指導士	松永望東子
日本アンチ・ドーピング機構 スポーツファーマシスト	相川実穂
日本臨床薬理学会 日本臨床薬理学会認定CRC	川崎美幸, 小園晃生
日本リウマチ財団 リウマチ登録薬剤師	大津貴寛
厚生労働省 DMAT登録	相川実穂
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師	小山田純治, 橋本未雷, 平池美香子, 副島啓司, 川崎美幸, 大津貴寛

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	4 (3)	0	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) その他

(件数)

種類	講演
件数	9

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<ポスター>

1) オピオイド回診運用変更後の実態調査（続報）.

中原萌子、高武嘉道、大橋邦央、藤瀬陽子、橋本雅司.

第18回緩和医療薬学会年会. 千葉, 2025.6.22.

2) 携帯型輸液ポンプによるブリナツモマブ療法の外来治療導入への取り組み.

小園亜希、馬場結子、松永夏恋、藤島愛華、平池美香子、齋藤巨樹、河北敏郎、三角紳博.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

3) がん薬物療法体制充実加算の算定への取り組みと実施状況について.

松尾待池、濱野麻子、中原萌子、平池美香子、橋本未雷、小山田純治.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

4) 当院における携帯型輸液ポンプを用いたブリナツモマブ外来投与導入の取り組みと導入後の経過について.

馬場結子、平池美香子、西嶋友里乃、齋藤巨樹、小園亜希、三角紳博.

第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.22.

5) 心不全治療患者における診療ガイドラインに基づく標準治療（GDMT）の実施状況に関する調査.

田中麻佑花、森山美優、副島啓司、平池美香子、橋本未雷、小山田純治、深江貴芸.

第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.22.

6) 心不全患者における診療ガイドラインに基づく標準治療（GDMT）とポリファーマシーに関する現状調査.

森山美優、田中麻佑花、副島啓司、平池美香子、橋本未雷、小山田純治、深江貴芸.

第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.23.

7) オピオイド誘発性便秘症に対する緩下剤の使用調査.

田村彩織、中原萌子、高武嘉道、大橋邦央、藤瀬陽子、橋本雅司.

第35回日本医療薬学会年会. 神戸, 2025.11.23.

B-c：研究会発表

＜口演＞

- 1) 心不全患者における診療ガイドラインに基づく標準治療（GDMT）とポリファーマシーに関する調査。
森山美優、田中麻佑花、副島啓司、平池美香子、橋本未雷、小山田純治。
第49回九州地区国立病院薬剤師会薬学研究会. 福岡, 2025.7.13.
- 2) 当院における術後疼痛管理チームの取り組み。
小園晃生、中川未菜、橋本未雷、平池美香子、弓削亜矢香、榊原チハル、山口美知子、小山田純治。
令和7年度佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会薬学研究会. 佐賀, 2025.12.13.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演〔国内〕

＜講演＞

- 1) 長崎医療センターにおける睡眠薬使用状況の変遷。
松永望東子。
不眠症診療Webセミナー in県央. 大村, 2025.2.12.
- 2) 当院におけるペムブロリズマブ+レンバチニブ併用療法におけるAEマネジメントの現状。
濱野麻子。
RCC conference in 佐世保. 佐世保（Web）, 2025.2.27.
- 3) 当院における薬剤師外来の取り組みについて。
濱野麻子。
第47回長崎県病院薬剤師会 がんと薬物療法研修会. Web, 2025.6.18.
- 4) 尿路上皮癌薬物療法、最近の話題。
松藤敬佑。
令和7年度第1回臨床連携セミナー. 大村, 2025.7.3.
- 5) てんかん治療におけるポリファーマシーの現状。
松永望東子。
第8回Lacosamide Sharing Session. 大村, 2025.7.11.
- 6) CRSマネジメントのためのレジメン管理。
堤国章。
県央地区CRSマネジメントセミナー. 大村, 2025.9.24.
- 7) 睡眠薬の適正化に向けて～長崎医療センターの事例も含めて～。
松永望東子。
壱岐・嬉野・大村トライアングル 不眠症診療webセミナー. 大村, 2025.11.12.
- 8) フェスゴを最大限に活用する～薬剤師業務の効率化と曝露対策に向けた取り組み～。
堤国章。
中外e-セミナー on Breast Cancer. 大村, 2025.11.26.
- 9) 身体拘束最小化に向けた薬剤師の関わり。
松永望東子。
長崎県病院薬剤師会 令和7年度第4回学術講演会. Web, 2025.12.11.

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

＜座長＞

- 1) 前立腺癌の診断・治療～経口前立腺癌治療薬を中心に～。
橋本未雷。
令和7年度第1回臨床連携セミナー. 大村, 2025.7.3.
- 2) ベージニオの副作用マネジメントと地域連携のためのTRの実用。
平池美香子。
Breast Cancer Seminar ～多職種で考える乳癌薬物療法～. 大村, 2025.8.1.



責任者 三浦 史郎

診療部門の特色

病理部門は常勤病理医3名、後期研修医1名、非常勤病理医1名で病理診断、病理解剖を行っています。腎生検、悪性リンパ腫の診断は特殊なため産業医科大学病理と久留米大学の専門家にコンサルトしています。てんかん病理は秋田県立脳血管研究センターの専門医に依頼しています。日本病理学会認定専門医が4名で、2名が日本臨床細胞学会認定指導医資格を有しています。がんゲノム診療についての専門資格である分子病理専門医も1名取得しています。主な病理の業務内容は①細胞診断、②生検組織診断、③手術で摘出された臓器・組織の診断、④手術中の迅速診断、⑤病理解剖、⑥臨床との合同カンファレンス、院内、大村医師会CPCの主催、⑦研修医の指導などです。病理診断は最終診断として治療方針の決定に重要な役割を担っています。当院では細胞診、組織診とも全例トリプルチェックを行い、診断精度の向上と良質な医療の提供を心がけています。さらに症例によっては国立がんセンター、日本病理学会のコンサルテーションシステムなどを積極的に活用しています。近年の傾向はがん診療の発達で、病理検体を用いた生物製剤・ホルモン受容体薬の選択の為に免疫染色検査やがんゲノムパネル検査を含む遺伝子検査が急増しています。とくに、診断治療に必要な免疫染色枚数は9,101枚と1万枚に届く勢いで、また、遺伝子検査に要する外注用組織作成枚数は、6,568枚と年々増加しています。全国的に減少傾向にある剖検は、本年は13体と県内トップクラスの数を持っています。研修医教育を兼ねたCPCは年4回実施し、複数の診療科が一堂に会し多面的に討議する貴重な教育の場になっています。

入院診療実績

病理解剖	13体	組織検体数	8,034件
組織診断	5,927件	作製ブロック数	20,863個
細胞診断	5,968件	作製標本枚数	43,489枚
迅速組織診断	294件	免疫組織枚数	9,101枚
特殊染色	4,764枚	治験・外注未染色枚数	6,568枚

研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
院内CPC	4 / 年
大村医師会CPC	2 / 年
肝病理カンファレンス	1 / 週
皮膚病理カンファレンス	1 / 月
抄読会	1 / 月
九州スラコン症例検討会	隔月

実施・参加している公費臨床試験・特定臨床研究調査表

(治験、NHO・EBM研究は除く)

No.	研究課題名	区分 (介入/観察)	同意 取得方法	研究代表者 (または依頼者)	当院の責任医師 (または担当研究者名)
1	乳癌の原発部位から転移再発部位におけるHER2再発のダイナミクスを検討する多機能共同後ろ向きコホート研究	観察	オプトアウト	公益財団法人 がん集学的治療研究財団	三浦 史郎
2	腫瘍組織登録の標準化	観察	オプトアウト	長崎県医師会	三浦 史郎
3	Liquid biopsyを用いたメトレキサート関連リンパ増殖性疾患の診断及び病態予測の検討	観察	オプトアウト	NHO (R4-NHO (多共)-01)	伊東 正博
4	悪性腫瘍に対する治療抵抗性の層別化バイオマーカーの探索	観察	オプトアウト	NHO (R7-NHO (多共)-01)	伊東 正博

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員 (それ以外)

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1	3	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員 (それ以外)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	3 (2)	13 (2)	24 (3)	1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	学術講演			
件数	2			

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	1	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a2：英文症例報告

1) A Case of type A thymoma with vascular invasion.

Shimoyama K, Fujise Y, Hida T, Sato S, Miura S, Tagawa T.

Acta Medica Nagasakiensia 2025.

B：和文

B-a2：和文症例報告

1) アニフロルマブ投与中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス (SLE) の一例.

中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田寛丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純.

九州リウマチ 2025 ; 45(2) : 52-57.

- 2) 診断に難渋した多発神経根病変を伴う神経サルコイドーシスの1例.

原あかね、安田淳、吉原聖智、最勝寺佑介、足利裕哉、原敦子、添田李子、伊東正博、岡田寛丈、岩永希、和泉泰衛.

九州リウマチ 2025 ; 45(2) : 71-76.

- 3) 胸腔内穿破2週後に胸腔鏡下切除を施行した縦隔成熟型奇形腫の2例.

下山孝一郎、町野隆介、竹井大貴、山口彩、三浦史郎、田川努.

日本呼吸器外科学会雑誌 2025 ; 39(7) : 616-621.

学会・研究会・講演

A : 国際学会、国際会議

A-b2 : 一般演題

<Poster>

- 1) Bioinformatic analysis of the spatial transcriptomes of inflamed portal tracts in human primary biliary cholangitis.

Komori A, Kugiyama Y, Kojima T, Suehiro T, Motoyoshi Y, Saeki A, Nagaoka S, Yamasaki K, Miura S.

Poster ; Immune-mediated and cholestatic : Experimental and pathophysiology, EASL Congress 2025. Amsterdam, Netherlands, 2025.5.9.

- 2) Atypical histopathology in a surgical case of epilepsy due to Sturge-Weber syndrome with developmental venous anomaly.

Miyata H, Abe J, Honda R, Ono T, Miura S, Ito M.

101st Annual Meeting of the American Association of Neuropathologists. Minneapolis, Minnesota, USA, 2025.6.19-22.

- 3) THE PATHOPHYSIOLOGY OF DEVELOPMENTAL EPILEPTIC ENCEPHALOPATHY MAY INVOLVE THE SELECTIVE FUNCTIONAL IMMATURITY OF ASTROCYTES DURING CORTICAL DEVELOPMENT.

Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.

24th Annual Meeting of the Infantile Seizure Society (ISS). Kuala Lumpur, Malaysia, 2025.7.17-19.

- 4) A clinicopathological study of factors associated with microvacuolar changes in the cerebral white matter of patients with epilepsy.

Miyata H, Hasue K, Ono T, Osawa S-i, Nakamoto H, Kubota Y, Miura S, Ito M, Suzuki H.

36th International Epilepsy Congress. Lisbon, Portugal, 2025.8.30-9.3.

<口演>

- 1) The pathophysiology of developmental epileptic encephalopathy may involve the selective functional immaturity of astrocytes during cortical development.

Ono T, Honda R, Nishiguchi N, Ikeda N, Sato K, Miura S, Ito M, Miyata H.

一般口演 (英語) 3 : English Session3, The 58th Annual Congress of the Japan Epilepsy Society (第58回日本てんかん学会学術集会). 宇都宮, 2025.10.3.

B : 国内学会

B-b1 : シンポジウム、パネルディスカッション等

<シンポジウム>

- 1) 精密検査・治療施設における子宮頸部ASC症例の臨床的意義.

鹿島星林.

シンポジウム ; HPV検診時代~改めて考えるASCの現状と意義、第39回長崎県臨床細胞学会総会・学術集会. Web, 2025.6.14.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 帯状疱疹ウイルス性髄膜脳炎の一部検例。
三浦史郎、山領優斗、和泉泰衛。
第558回大村医師会CPCカンファレンス。大村, 2025.1.15.
- 2) 右臀部軟部腫瘍。
石飛俊介。
第403回日本病理学会九州沖縄支部スライドコンファレンス。佐世保, 2025.1.18.
- 3) 胆管内乳頭状腫瘍に対して肝切除術を施行した3例。
又野護、北里周、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、釘山統太、森田道、米田晃、竹下浩明、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、黒木保。
症例報告・一般演題1；稀な症例。第45回九州肝臓外科研究会学術集会。福岡, 2025.1.18.
- 4) 副腎転移と鑑別が困難であった左副腎結節を伴う肝細胞癌の1切除例。
吉岡奈那、北里周、又野護、吉野恭平、福井彩恵子、福田明子、森田道、釘山統太、米田晃、竹下浩明、南恵樹、黒木保、石飛俊介。
研修医セッション；肝胆膵。第61回九州外科学会／第61回九州小児外科学会／第60回九州内分泌外科学会。沖縄, 2025.2.7.
- 5) 当院で経験した高悪性度胎児型肺腺癌の1例。
大村直也、池田喬哉、夫津木遼、末原照大、乗富大地、原敦子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗、田川努、近藤晃、迎寛。
研修医セッション。第65回日本肺癌学会九州支部学術集会／第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会。福岡, 2025.2.9.
- 6) 吸入ステロイド薬使用中に発症した喉頭クリプトコックス症の1例。
片山あかり、乗富大地、夫津木遼、末原照大、原敦子、池田喬哉、近藤晃、田中藤信、石飛俊介、迎寛。
一般演題8；呼吸器感染症2。第94回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部春季学術講演会。宮崎, 2025.3.8.
- 7) アニフロルマブ治療中にサルコイドーシスを発症した全身性エリテマトーデス（SLE）の一例。
中村祥暢、岩永希、石飛俊介、里見直義、乗富大地、岡田覚丈、三浦史郎、和泉泰衛、川上純。
初期研修医セッション1。第69回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会。沖縄, 2025.3.15.
- 8) 胃印環細胞癌と同時診断された血清反応陽性多発関節炎の一例。
後藤すみれ、岩永希、添田李子、峯彩子、岡田覚丈、三浦史郎、米田晃、和泉泰衛、川上純。
口演9；関節リウマチ・合併症。第69回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会。沖縄, 2025.3.16.
- 9) 生検が早期診断に有用であった多発筋膿瘍類似の他の医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患（OIIA-LPD）の1例。
山領優斗、森隆浩、石飛俊介、樺知佳、原敦子、川原知瑛子、岡田覚丈、岩永希、三浦史郎、和泉泰衛。
口演9；関節リウマチ・合併症。第69回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会。沖縄, 2025.3.16.
- 10) 子宮頸がん再発に対する抗PD-1抗体と血管新生阻害薬による治療中にirAE 腸炎を発症し経過中に放射線性腸炎による盲腸穿孔を起こした一例。
大村直也、福田明子、竹下浩明、又野護、福井彩恵子、吉野恭平、釘山統太、森田道、米田晃、北里周、南恵樹、三原裕美、三浦史郎、黒木保。
研修医発表；その他。第125回日本消化器病学会九州支部例会。久留米, 2025.5.16.
- 11) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例。
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美、三浦史郎。
一般演題（口演）3。第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会。長崎, 2025.5.17.
- 12) 妊娠オウム病が原因と考えられた敗血症性ショックにより母体死亡に至った一例。
山下慶、山口純子、菅幸恵、濱崎創平、野々村美香、末英明、小川真幸、五十川智司、杉見創、古賀恵、福田雅史、山下洋、安日一郎、添田李子、三浦史郎。
一般口演8；腔細菌叢/オウム病。第41回日本産婦人科感染症学会学術集会。宮崎, 2025.6.1.

- 13) 高度の乳酸アシドーシス、白血球増多症、肝不全を認め多臓器不全により死亡に至った症例。
三浦史郎、森 英毅、今泉芳孝。
第559回大村医師会CPCカンファレンス。大村, 2025.6.18.
- 14) 術前に腎癌が疑われた類上皮型血管筋脂肪腫の一例。
川島大輝、松島俊樹、近藤翼、鹿子木桂、大仁田亨、錦戸雅春、添田李子、三原裕美、三浦史郎。
第282回日本泌尿器科学会長崎地方会。長崎, 2025.6.21.
- 15) 繰り返す心嚢液貯留の原因精査で発見された心臓腫瘍の一症例。
村橋舞、小出俊朗、福田侑甫、松尾崇史、深江貴芸、石松卓、於久幸治、嶋田隆志、有吉毅子男、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎。
第139回日本循環器学会九州地方会。福岡, 2025.6.28.
- 16) ロミデプシン投与中に増悪を認めたもののツシジノスタットが奏効した血管免疫芽球性T細胞リンパ腫
小林裕児、今泉芳孝、西村紗央里、渡辺春香、伊東正博、三好寛明、吉田真一郎。
第65回日本リンパ腫学会学術集会・総会。名古屋, 2025.7.5.
- 17) 軟膜血管腫と同側にdevelopmental venous anomalyを合併し、非典型的石灰化を示したスタージ・ウェーバー症候群の一手術例。
阿部純平、本田涼子、小野智恵、三浦史郎、伊東正博、宮田元。
一般演題 I。第18回日本てんかん学会東北地方会。秋田, 2025.7.19.
- 18) 積極的区域切除をやめたくなる1例 (cT1a、(0.7cm)、pT1mi (inv: 0.1cm) NOMOへの右S1区域切除後胸膜播種再発)。
田川努、下山孝一郎、富山哲宏、添田李子、石飛俊介、三浦史郎、松本理宗。
一般演題24；肺悪性腫瘍2。第58回日本胸部外科学会九州地方会総会。福岡, 2025.7.25.
- 19) 気胸術後のステープラーによる炎症性肉芽腫と肺癌の鑑別が困難であった一手術例。
富山哲宏、松本理宗、田川努、三浦史郎、三原裕美。
一般演題10；肺良性腫瘍。第58回日本胸部外科学会九州地方会総会。福岡, 2025.7.24.
- 20) 経時的に位置変化を認めた上縦隔心膜嚢胞の一例。
野口美波、松本理宗、富山哲宏、朝重耕一、添田李子、伊東正博、田川努。
JATS Case Presentation Awards6 (呼吸器1)。第58回日本胸部外科学会九州地方会総会。福岡, 2025.7.24.
- 21) ヒト原発性胆汁性胆管炎における門脈域炎症および胆管細胞の空間トランスクリプトーム解析。
小森敦正、児嶋知仁、釘山有希、末廣智之、本吉康英、佐伯哲、長岡進矢、山崎一美、三浦史郎。
一般口演5；肝疾患。第32回肝細胞研究会。北海道, 2025.7.26.
- 22) フローサイトメトリーと免疫組織化学染色にてCD30の発現が異なった成人T細胞白血病リンパ腫。
渡辺春香、今泉芳孝、石飛俊介、西村紗央里、添田李子、小林裕児、三原裕美、三浦史郎、伊東正博、吉田真一郎。
第87回日本血液学会学術集会。神戸, 2025.10.11.
- 23) 髄膜腫との鑑別を要したWHO grade 3 solitary fibrous tumorの一例。
森悠河、後藤純寛、案田岳夫、石飛俊介、三原裕美、定方英作、小野智恵、原口渉。
セッション10；腫瘍-2。第150回日本脳神経外科学会九州支部会。沖縄, 2025.10.11.
- 24) アバコパン投与中に胆管消失症候群によると考えられる急性肝不全を来した血液透析患者の1例。
野口美波、岡哲、田川孝樹、中村麻衣子、児嶋知仁、添田李子、伊東正博、西野友哉。
一般演題 (口演)：血管炎1 (アバコパン、肝障害)。第55回日本腎臓学会西部学術大会。奈良, 2025.10.12.
- 25) DICER1遺伝子変異を伴う甲状腺濾胞型結節の病理学的特徴。
松田勝也、上田真由、黒濱大和、松岡優毅、コーヘン朋子、進藤久和、佐藤伸也、山下弘幸、伊東正博、中島正洋。
一般演題2；甲状腺。第29回日本臨床内分泌病理学会学術集会。宇都宮, 2025.10.17.
- 26) 日本における母体・胎児死亡を伴う3例の妊娠オウム病症例およびMLST解析結果。
清田敦子、名倉由起子、オブライエン悠木子、添田李子、杉井裕和、清水可奈子、三浦史郎、佐藤由美子、小玉美智子、柳原格。
一般口演。第25回人と動物の共通感染症研究会学術集会。東京, 2025.10.25.

- 27) 母体・胎児死亡を伴った妊娠オウム病3症例のMLST解析.
清田敦子、名倉由起子、オブライエン悠木子、添田李子、杉井裕和、清水可奈子、三浦史郎、佐藤由美子、小玉美智子、柳原格.
第78回日本細菌学会関西支部総会. 大阪, 2025.11.3.
- 28) びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する加療後に発症した成人T細胞白血病リンパ腫.
平良瞭典、西村紗央里、今泉芳孝、桐野祐子、渡辺春香、小林裕児、三原裕美、添田李子、伊東正博、吉田真一郎.
第11回日本HTLV-1学会学術集会. 鹿児島, 2025.11.8.
- 29) RS3PE症候群に対してメソトレキセート投与中に発症した成人T細胞白血病リンパ腫.
桐野祐子、小林裕児、渡辺春香、今泉芳孝、三原裕美、三浦史郎、吉田真一郎.
第11回日本HTLV-1学会学術集会. 鹿児島, 2025.11.8.
- 30) 診断に苦慮した妊娠オウム病の一部検例.
添田李子、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、山口純子、名倉由起子、柳原格、三浦史郎.
第16回妊産婦死亡症例病理カンファレンス. 名古屋, 2025.11.14.
- 31) 胃および横行結腸へ浸潤した腹腔内デスマイド腫瘍の1例.
吉田雄哉、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、石飛俊介、黒木保.
研修医発表; 大腸・その他. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 32) 腹腔鏡下に完全切除しえた下腹神経由来神経鞘腫の1例.
森悠河、大石海道、竹下浩明、富山哲宏、堀川修一、久保飛翔、福井彩恵子、釘山統太、原貴信、森田道、藤井美緒、米田晃、南恵樹、三原裕美、黒木保.
研修医発表; 大腸. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.
- 33) 総胆管内腫瘍栓を伴った肝内胆管の1例.
林田慶大、原貴信、福井彩恵子、久保飛翔、釘山統太、大石海道、堀川修一、森田道、藤井美緒、米田晃、竹下浩明、南恵樹、石飛俊介、三浦史郎、黒木保.
研修医発表; 肝臓. 第126回日本消化器病学会九州支部例会. 大分, 2025.11.28.

<ポスター>

- 1) 超音波検査で観察し得た隆起性皮膚線維肉腫の1例.
喜多なつみ、武藤憲太、藤野達也、石飛俊介、三浦史郎.
ポスター 69; 超音波. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 2) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美、三浦史郎.
ポスター 79; 皮膚疾患. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.
- 3) 水痘帯状疱疹ウイルス性髄膜脳炎の加療中に血管障害を呈した1剖検例.
石飛俊介、三浦史郎、添田李子、三原裕美、山領優斗、和泉泰衛、伊東正博.
ポスター 133; 病理診断・細胞診1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 4) 指状嵌入樹状細胞肉腫との鑑別に苦慮した耳下腺内リンパ節の原発不明無色素性悪性黒色腫の1例.
添田李子、三原裕美、石飛俊介、伊東正博、田中藤信、藤本正数、三浦史郎.
ポスター 162; 病理診断・細胞診2. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 5) 術前細胞診で診断が困難であった子宮頸部原発大細胞神経内分泌癌の1例.
平野純、澤田吉人、小島真代、鹿島星林、藤野達也、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、三浦史郎、古賀恵、福田雅史.
ポスター 133; 病理診断・細胞診1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.
- 6) 遊離空腸による竹輪大の再建食道が狭窄してマカロニになった一例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子、三原裕美.
ポスター 127; 歯科・口腔・頭頸部疾患1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

7) 診断に苦慮した妊娠オウム病の一剖検例.

添田李子、石飛俊介、三原裕美、伊東正博、山口純子、柳原格、三浦史郎.

ポスターセッション；剖検2/Autopsy 2. 第71回日本病理学会 秋期特別総会. 名古屋, 2025.11.13.

B-c：研究会発表

<口演>

1) 胃の症例.

森川竣介、西山 仁、峯 彩子、今村祥子、後藤高介、中島悠史郎、石飛俊介、三浦史郎.

第341回長崎胃疾患検討会. 長崎, 2025.8.27.

C、F：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

<講義>

1) 消化器系 胃腫瘍.

三浦史郎.

長崎大学医学部 系統講義. 長崎, 2025.05.14.

2) 甲状腺の病理・細胞診.

伊東正博.

2025年度甲状腺超音波検査者育成講習会. 郡山, 2025.12.14.

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

1) 添田李子.

一般口演. 第403回日本病理学会九州沖縄支部スライドコンファレンス. 佐世保, 2025.1.18.


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

臨床検査部臨床検査科

責任者 長井 一浩・藤野 達也

臨床検査科概要

1. 部署の紹介

臨床検査科は、検体検査部門と生理検査部門の2部門よりなります。検体検査部門では総合検査室にある一般・血液検査、生化学・免疫検査、輸血・HLA検査と細菌検査室、病理・細胞診検査室の5部署に分かれており、生理検査部門では心電図・脳波・呼吸機能・聴力等と超音波検査の2部署より構成されています。また、外来部門には外来採血室業務、病棟予約検査用の採血管準備を行うために技師および検査助手を配置しています。

スタッフは医師6名（臨床検査部長1名、臨床検査科長1名、病理診断科医師3名、臨床検査専任医師1名）、臨床検査技師37名、検査助手5名の合計48名で構成されています。当科では患者さんから得られた貴重な試料や情報を適切に用いて、診療現場に向けて「迅速で質の高い検査情報の提供（臨床検査科の理念）」を継続的に実践し医療の最前線を支えてゆくために、日々作業品質の向上に努めています。

2. 組織の構成

臨床検査部長	1名
臨床検査科長（病理診断科長）	1名
病理診断科医師	3名
臨床検査専任医師	1名
臨床検査技師長	1名
副臨床検査技師長	2名
主任技師	9名
技師	17名
非常勤職員	13名（臨床検査技師8名、業務技術員5名）

3. 臨床検査科品質方針

- 1) 常に自己研鑽に努め、高水準の技術と知識の向上を図り正確で迅速なデータを提供することをもって、診療に貢献します。
- 2) 顧客である当院医師ならびに患者に質の高いサービスを提供するために、品質保証施設認証制度審査基準を厳守し、臨床検査サービスを継続的に改善します。
- 3) 品質マネジメントシステムの有効性維持のため、品質方針に基づいた品質方針に基づいた品質目標を設定し、遂行状況をレビューすることでよりよい品質を追及し続けます。
- 4) すべての要員がこの品質方針を理解し、品質方針に沿って協調して取り組みます。

4. 令和7年運営目標

- 1) 高高度な専門知識・技術を有し、高い倫理観を伴った医療人を養成する
個人教育訓練を充実させ、力量評価にてスタッフの遂行能力を確実にレビューし、提供するデータの信頼性を担保する。また、学会・研修会への参加、専門能力の向上を図る。
- 2) 診療に貢献できる高品質なサービスを提供する
検査室利用者の声をマネジメントレビューに反映させ、利用者へのサービス改善と高品質なサービスの提供に生かす。さらに、診療科からの問い合わせに対しアドバイスサービス実施件数を増加させる。

3) 迅速な検査実施と高精度の検査情報を提供する

検査業務のTAT（検査所要時間）短縮に向けた活動計画を策定・実行するとともに、精度確保に向けた取り組みとレビューを実施する。

4) 業務環境改善と医療安全への貢献

作業環境やワークフロー管理状況の改善を図り適切な業務環境を整備する。インシデント報告の収集・分析を通じて潜在的なリスクを発掘、医療事故の発生を未然に防止する。

5. 結果と展望

令和7年における臨床検査件数は、検体検査が前年比1.00、生理機能検査が0.99と、いずれも前年度並みの水準で推移した。これまで令和5年から令和6年にかけては、検体検査・生理機能検査ともに総件数が増加傾向を示し、特に検体検査では院内実施件数の伸びが顕著であったが、令和7年はその増勢が一服し、安定した件数で推移した一年となった。検体検査については、院内検査・外来検査ともに大きな変動はみられず、引き続き一定の需要が維持された。一方、生理機能検査では、件数としては横ばいであったものの、検査内容の多様化や検査依頼の集中がみられ、運用面では引き続き効率化が求められる状況であった。診療点数（出来高換算）では、検体検査が前年比0.99と横ばいで推移したのに対し、生理機能検査は1.02と増加を示した。特に生理検査領域では、心電図検査や超音波検査などの需要が堅調であり、これらが診療点数の増加に寄与したと考えられる。総じて、令和7年は検査件数の大幅な増減こそみられなかったものの、前年度までの増加傾向を踏まえつつ、安定した検査体制を維持した一年であった。今後も検査需要の変動に対応しつつ、効率的かつ質の高い検査提供体制の強化に努めていく。輸血部門においては、令和7年の使用製剤数がRBC・FFP・PCいずれも前年比で減少した。外来・入院ともに使用件数は減少傾向を示したが、全体としては安定した供給体制が維持された。また、製剤廃棄率についてはRBC・FFP・PCともに極めて低値で推移しており、適正な在庫管理および使用計画が実施されていることが確認された。さらに、当院では輸血機能評価認定I&A（点検・視察と認証）を取得しており、輸血業務の安全性と信頼性の確保に努めている。今後も検査需要の変動に対応しつつ、効率的かつ質の高い検査・輸血提供体制の強化に努めていく。検査機器の更新としては、令和7年1月に全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、全自動血液凝固測定装置を導入し、3月には遺伝子解析・免疫蛍光分析装置、7月には肺運動負荷モニタリングシステム、12月には血液培養自動分析装置、全自動血液培養・抗酸菌培養装置、自動浸透圧分析装置をそれぞれ導入した。これらの機器更新は、検査の精度と効率の向上に寄与し、検査品質の維持・向上に大きく貢献している。また、当科は一般社団法人日本臨床衛生検査技師会および特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会による「品質保障施設認証」を取得しており、現在は令和8年6月の更新審査に向けて、各検査室において品質管理に関する書類の整備・確認を進めている。今後もクオリティマネジメントシステムを継続的に運用し、検査体制の品質向上に努めていく。令和8年度には常勤臨床検査技師が1名増員される予定であり、検体検査・生理検査に対する臨床側からの要望に的確に応えるとともに、新たな診断技術の習得、ICT・NSTをはじめとするチーム医療への参画、肝炎ウイルス拾い上げ体制の強化、さらに人材育成にも注力し、より質の高い臨床検査室の構築を目指す。

臨床検査件数

入院・外来別臨床検査件数

		令和5年				令和6年				令和7年					
		院内検査件数				院内検査件数				院内検査件数				総件数	
		入 院	外 来	請求外件数	総件数	入 院	外 来	請求外件数	総件数	入 院	外 来	請求外件数	総件数	前年比	
件数統計	合 計	853,305	1,658,874	470	2,512,649	900,903	1,682,240	537	2,583,680	894,107	1,672,950	13,657	2,580,714	1.00	
	検 体 査 査	尿・便等検査	23,427	72,712	0	96,139	23,185	71,640	0	94,825	22,979	71,491	136	94,606	1.00
		髄液・精液等	307	57	0	364	329	57	0	386	224	85	0	309	0.80
		血液学の検査	147,143	202,075	0	349,218	157,686	204,781	0	362,467	158,284	204,771	1,993	365,048	1.01
		生化学の検査	580,694	1,155,677	0	1,736,371	612,688	1,173,961	0	1,786,649	608,485	1,159,690	11,067	1,779,242	1.00
		内分泌学の検査	7,326	33,594	0	40,920	7,914	36,034	0	43,948	7,996	37,323	0	45,319	1.03
		免疫学の検査	56,468	168,212	0	224,680	58,748	168,361	0	227,109	59,898	171,039	0	230,937	1.02
		微生物学の検査	28,760	18,223	0	46,983	31,204	19,410	0	50,614	27,341	20,670	106	48,117	0.95
		病理組織検査	7,626	3,256	470	11,352	7,502	3,111	537	11,150	7,403	3,035	355	10,793	0.97
		細胞診検査	1,554	5,068	0	6,622	1,647	4,885	0	6,532	1,497	4,846	0	6,343	0.97
		臨床検査技師実施件数				臨床検査技師実施件数				臨床検査技師実施件数				総件数	
		入 院	外 来	請求外件数	総件数	入 院	外 来	請求外件数	総件数	入 院	外 来	請求外件数	総件数	前年比	
	合 計	9,259	25,276	0	34,535	9,324	25,647	0	34,971	9,722	24,987	0	34,709	0.99	
	生 理 機 能 査 査	心電図検査等	4,350	10,823	0	15,173	4,472	10,961	0	15,433	4,261	10,507	0	14,768	0.96
		脳波検査等	883	613	0	1,496	885	614	0	1,499	855	527	0	1,382	0.92
		呼吸機能検査等	852	4,615	0	5,467	924	5,023	0	5,947	799	5,328	0	6,127	1.03
		前庭・聴力機能検査等	125	1,122	0	1,247	160	1,293	0	1,453	673	1,244	0	1,917	1.32
		超音波検査等	3,045	8,094	0	11,139	2,881	7,748	0	10,629	3,111	7,362	0	10,473	0.99
		そ の 他	4	9	0	13	2	8	0	10	23	19	0	42	4.20
		穿 刺 ・ 採 取 料 等	290	151	0	441	245	119	0	364	303	3,431	0	3,734	10.26

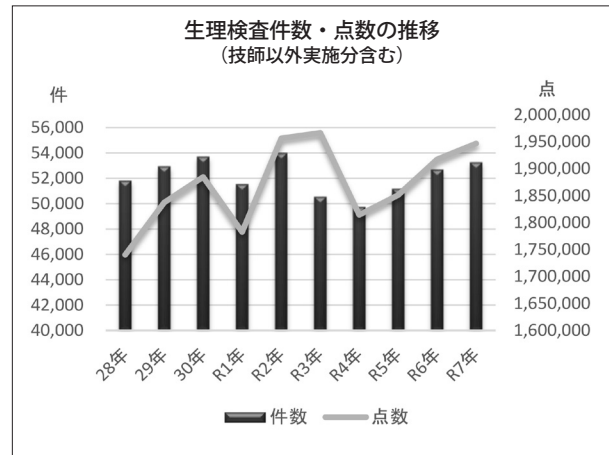
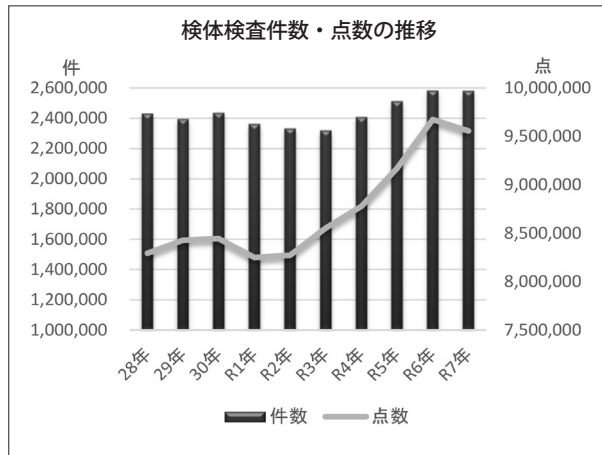
点数

		令和5年	令和6年	令和7年	前年比
点数統計	検体検査実施料	91,702,402	96,737,969	95,573,900	0.99
	生理検査実施料	18,513,060	19,175,180	19,472,330	1.02
	検体検査等判断料	32,742,302	33,057,334	32,626,395	0.99
	生理機能検査判断料	577,680	607,100	634,860	1.05
	病理（細胞診）診断料	3,072,720	3,185,040	3,102,480	0.97
	病理診断管理加算（組織＋細胞）	1,963,200	2,021,760	1,956,800	0.97
	輸血管理料Ⅰ	373,120	375,320	530,520	1.41
	検体検査管理加算Ⅰ	2,487,360	2,492,840	2,465,760	0.99
	検体検査管理加算Ⅳ	6,118,500	6,306,000	6,333,500	1.00
	検体検査時間外緊急院内検査加算	1,067,400	1,066,000	1,000,000	0.94
医事課より	外来迅速検体検査加算	2,067,830	2,283,890	2,101,300	0.92

- ※尿・糞便等検査判断料 34点、遺伝子関連・染色体検査判断料 100点、血液学的検査判断料 125点
※生化学的検査（Ⅰ）判断料 144点、生化学的検査（Ⅱ）判断料 144点、免疫学的検査判断料 144点
※生理機能検査判断料：呼吸機能検査等判断料 140点、脳波検査判断料Ⅰ 350点、脳波検査判断料Ⅱ 180点
※病理診断料：組織診断料 520点、細胞診断料 200点
※病理診断管理加算Ⅰ：組織診断を行った場合 120点、細胞診断を行った場合 60点
※病理診断管理加算Ⅱ：組織診断を行った場合 320点、細胞診断を行った場合 160点
※輸血管理料Ⅰ 220点（適正使用加算：120点）
※検体検査管理加算Ⅰ 40点、検体検査管理加算Ⅳ 500点
※時間外緊急院内検査加算 200点
※外来迅速検体加算 10点（5項目を限度）

その他

		令和5年	令和6年	令和7年	前年比
剖 検 数		17	10	13	1.30
外部 委託検査	委託検査件数	107,138	199,124	59,394	0.30
	保険適用外検査件数	3,062	2,660	1,140	0.43
	委託検査金額	236,865,124	262,342,732	135,027,535	0.51
	保険適用外検査金額	19,634,490	17,213,612	7,250,047	0.42



月別部門別検査件数

2025年			1月				2月				3月			
			入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数
一 般	尿・便検査		2,106	5,987	0	8,093	1,848	5,557	0	7,405	2,036	6,074	0	8,110
	髄液・精液等		24	6	0	30	11	12	0	23	13	9	0	22
血 液	血液学の検査		14,387	18,195	0	32,582	13,333	16,396	0	29,729	14,160	17,477	0	31,637
	生化学の検査		55,419	100,902	0	156,321	51,510	91,788	0	143,298	54,247	97,519	0	151,766
生 化 学	内分泌学の検査		729	3,185	0	3,914	713	3,080	0	3,793	782	3,164	0	3,946
	免疫学の検査		5,332	14,373	0	19,705	4,697	12,983	0	17,680	5,298	13,856	0	19,154
微 生 物	微生物学の検査		2,525	2,031	0	4,556	2,194	1,606	0	3,800	2,497	1,664	0	4,161
	病理組織学の検査		601	269	41	911	562	221	52	835	590	251	43	884
病 理	病理細胞学の検査		118	382	0	500	139	366	0	505	139	420	0	559
	検体検査合計		81,241	145,330	41	226,612	75,007	132,009	52	207,068	79,762	140,434	43	220,239
生 理	心電図検査等		368	907	0	1,275	346	851	0	1,197	336	850	0	1,186
	脳波検査等		83	55	0	138	74	39	0	113	72	65	0	137
	呼吸機能検査等		51	472	0	523	48	380	0	428	63	484	0	547
	前庭・聴力機能検査等		9	86	0	95	19	79	0	98	16	128	0	144
	超音波検査等		292	605	0	897	235	572	0	807	265	632	0	897
	その他		0	3	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0
生理検査合計			803	2,128	0	2,931	722	1,922	0	2,644	752	2,159	0	2,911
検体検査・生理検査合計			82,044	147,458	41	229,543	75,729	133,931	52	209,712	80,514	142,593	43	223,150

※ 含職員検診

			4月				5月				6月			
			入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数
一 般	尿・便検査		1,848	5,947	136	7,931	1,725	6,271	0	7,996	1,897	5,939	0	7,836
	髄液・精液等		18	6	0	24	16	4	0	20	17	3	0	20
血 液	血液学の検査		12,936	17,142	280	30,358	11,809	16,977	0	28,786	12,687	16,725	0	29,412
	生化学の検査		49,961	97,257	2,637	149,855	45,169	96,685	0	141,854	48,493	95,907	0	144,400
生 化 学	内分泌学の検査		641	3,361	0	4,002	570	3,033	0	3,603	634	3,144	0	3,778
	免疫学の検査		5,067	14,520	0	19,587	4,532	14,201	0	18,733	4,883	14,368	0	19,251
微 生 物	微生物学の検査		2,588	1,735	14	4,337	2,158	1,983	16	4,157	2,091	1,561	13	3,665
	病理組織学の検査		631	222	22	875	568	215	9	792	629	271	16	916
病 理	病理細胞学の検査		155	383	0	538	122	403	0	525	149	425	0	574
	検体検査合計		73,845	140,573	3,089	217,507	66,669	139,772	25	206,466	71,480	138,343	29	209,852
生 理	心電図検査等		395	854	0	1,249	320	927	0	1,247	401	860	0	1,261
	脳波検査等		94	69	0	163	58	34	0	92	55	27	0	82
	呼吸機能検査等		85	399	0	484	69	392	0	461	63	466	0	529
	前庭・聴力機能検査等		82	97	0	179	63	86	0	149	56	112	0	168
	超音波検査等		266	628	0	894	238	562	0	800	272	638	0	910
	その他		1	1	0	2	4	1	0	5	2	3	0	5
生理検査合計			923	2,048	0	2,971	752	2,002	0	2,754	849	2,106	0	2,955
検体検査・生理検査合計			74,768	142,621	3,089	220,478	67,421	141,774	25	209,220	72,329	140,449	29	212,807

			7月				8月				9月			
			入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数
一 般	尿・便検査		1,956	6,192	0	8,148	1,785	6,029	0	7,814	2,101	5,911	0	8,012
	髄液・精液等		25	12	0	37	14	6	0	20	20	6	0	26
血 液	血液学の検査		13,826	17,836	0	31,662	13,061	16,848	1,713	31,622	13,570	17,079	0	30,649
	生化学の検査		53,118	100,726	0	153,844	50,205	95,461	8,430	154,096	52,335	97,288	0	149,623
生 化 学	内分泌学の検査		716	3,289	0	4,005	595	2,901	0	3,496	681	2,976	0	3,657
	免疫学の検査		5,346	15,233	0	20,579	4,913	14,070	0	18,983	5,051	14,366	0	19,417
微 生 物	微生物学の検査		2,266	1,874	12	4,152	2,259	1,788	13	4,060	2,184	1,611	10	3,805
	病理組織学の検査		700	287	30	1,017	624	215	32	871	666	242	39	947
病 理	病理細胞学の検査		139	389	0	528	134	397	0	531	117	408	0	525
	検体検査合計		78,092	145,838	42	223,972	73,590	137,715	10,188	221,493	76,725	139,887	49	216,661
生 理	心電図検査等		403	961	0	1,364	345	866	0	1,211	334	888	0	1,222
	脳波検査等		86	32	0	118	71	79	0	150	77	34	0	111
	呼吸機能検査等		95	504	0	599	72	402	0	474	66	452	0	518
	前庭・聴力機能検査等		86	130	0	216	76	131	0	207	86	105	0	191
	超音波検査等		285	714	0	999	260	574	0	834	252	611	0	863
	その他		3	1	0	4	3	1	0	4	3	1	0	4
生理検査合計			958	2,342	0	3,300	827	2,053	0	2,880	818	2,091	0	2,909
検体検査・生理検査合計			79,050	148,180	42	227,272	74,417	139,768	10,188	224,373	77,543	141,978	49	219,570

			10月				11月				12月			
			入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数	入院	外来	請求外※	総件数
一 般	尿・便検査		2,044	6,220	0	8,264	1,768	5,407	0	7,175	1,865	5,957	0	7,822
	髄液・精液等		26	10	0	36	20	7	0	27	20	4	0	24
血 液	血液学の検査		13,290	17,875	0	31,165	12,578	15,329	0	27,907	12,643	16,892	0	29,535
	生化学の検査		50,381	100,959	0	151,340	47,785	88,811	0	136,596	49,862	96,387	0	146,249
生 化 学	内分泌学の検査		712	3,259	0	3,971	602	2,773	0	3,375	621	3,158	0	3,779
	免疫学の検査		5,104	14,935	0	20,039	4,724	13,213	0	17,937	4,927	14,317	0	19,244
微 生 物	微生物学の検査		2,380	1,718	13	4,111	2,066	1,477	8	3,551	2,133	1,622	7	3,762
	病理組織学の検査		638	314	31	983	541	261	10	812	653	267	30	950
病 理	病理細胞学の検査		117	450	0	567	115	384	0	499	53	439	0	492
	検体検査合計		74,692	145,740	44	220,476	70,199	127,662	18	197,879	72,777	139,043	37	211,857
生 理	心電図検査等		373	922	0	1,295	340	833	0	1,173	300	788	0	1,088
	脳波検査等		64	29	0	93	63	31	0	94	58	33	0	91
	呼吸機能検査等		58	437	0	495	54	436	0	490	75	504	0	579
	前庭・聴力機能検査等		64	107	0	171	51	80	0	131	65	103	0	168
	超音波検査等		259	653	0	912	245	594	0	839	242	579	0	821
	その他		2	3	0	5	4	1	0	5	1	3	0	4
生理検査合計			820	2,151	0	2,971	757	1,975	0	2,732	741	2,010	0	2,751
検体検査・生理検査合計			75,512	147,891	44	223,447	70,956	129,637	18	200,611	73,518	141,053	37	214,608

月別検査点数

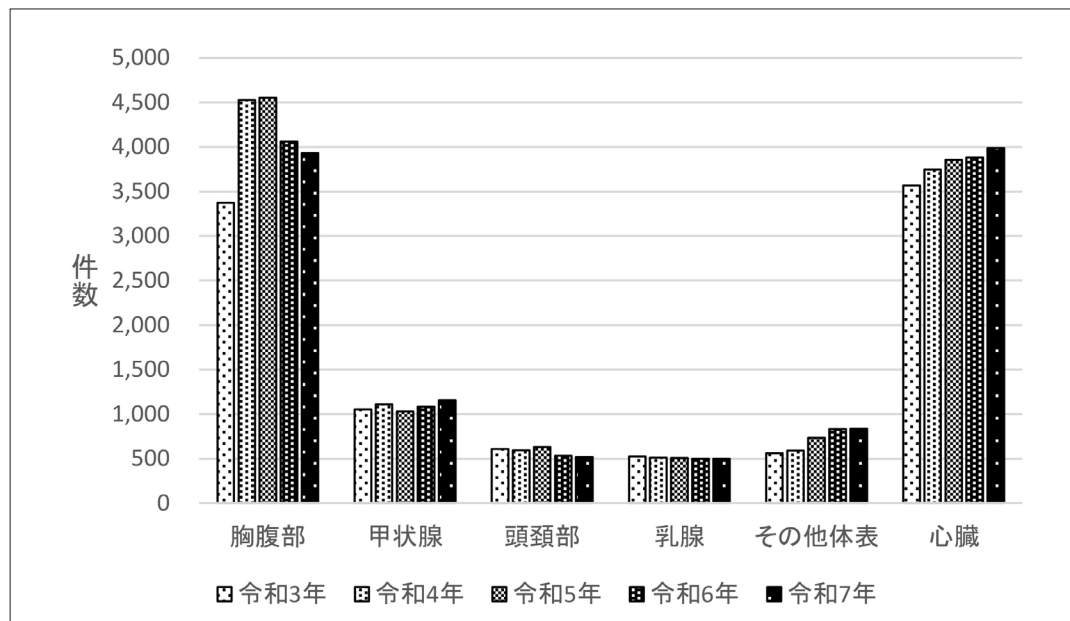
2025年

実施料・判断料・加算等(点)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	小計
検体検査等実施料	8,418,550	7,593,081	8,511,308	7,974,616	7,438,833	7,874,333	47,810,722
生理機能検査実施料	1,645,980	1,454,510	1,736,950	1,645,360	1,539,330	1,614,020	9,636,150
検体検査判断料	2,805,086	2,592,299	2,783,497	2,777,190	2,658,106	2,710,200	16,326,378
病理診断料(組織+細胞診)	256,800	250,200	247,680	251,440	232,600	267,680	1,506,400
生理学的検査判断料等	56,160	45,230	55,380	52,400	49,040	46,970	305,180
検体検査管理加算1. 4	763,600	729,660	788,600	743,320	689,300	700,480	4,414,960
国際標準検査管理加算	44,000	42,840	46,400	0	0	0	133,240
輸血検査加算	26,747	26,077	35,904	31,452	33,733	30,474	184,387
病理診断管理加算	159,680	158,720	157,120	158,080	144,160	169,760	947,520
その他加算・管理料	304,640	254,400	277,920	275,450	276,030	265,440	1,653,880
計	14,481,243	13,147,017	14,640,759	13,909,308	13,061,132	13,679,357	82,918,817

実施料・判断料・加算等(点)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計	計
検体検査等実施料	8,237,629	7,922,953	8,056,010	8,376,389	7,274,184	7,896,013	47,763,178	95,573,900
生理機能検査実施料	1,763,200	1,603,200	1,616,970	1,713,720	1,576,100	1,562,990	9,836,180	19,472,330
検体検査判断料	2,813,704	2,667,129	2,738,906	2,818,241	2,523,035	2,739,002	16,300,017	32,626,395
病理診断料(組織+細胞診)	296,840	259,360	260,200	268,280	240,320	271,080	1,596,080	3,102,480
生理学的検査判断料等	60,170	66,040	53,120	50,780	47,920	51,650	329,680	634,860
検体検査管理加算1. 4	754,200	732,300	720,540	736,100	701,640	739,520	4,384,300	8,799,260
国際標準検査管理加算	0	0	0	0	0	0	0	133,240
輸血検査加算	30,386	32,946	32,250	30,488	33,191	27,176	186,437	370,824
病理診断管理加算	185,120	164,480	165,280	169,920	152,000	172,480	1,009,280	1,956,800
その他加算・管理料	284,530	278,750	271,630	273,430	243,110	282,230	1,633,680	3,287,560
計	14,425,779	13,727,158	13,914,906	14,437,348	12,791,500	13,742,141	83,038,832	165,957,649

超音波検査件数の年度別推移

	胸腹部	甲状腺	頭頸部	乳腺	その他体表	心臓	合計
令和3年	3,372	1,054	608	526	560	3,566	9,686
令和4年	4,528	1,109	593	510	590	3,746	11,076
令和5年	4,553	1,029	631	505	734	3,853	11,305
令和6年	4,058	1,083	532	498	834	3,881	10,886
令和7年	3,929	1,156	518	497	838	3,989	10,927



輸血およびHLA検査取扱い件数

血液製剤取り扱い件数

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	前年比
RBC 入庫製剤数	3,297	3,312	3,216	2,956	0.92
使用製剤数（総数）	3,338	3,495	3,278	3,056	0.93
（外来）	842	792	762	657	0.86
（入院）	2,499	2,703	2,516	2,399	0.95
廃棄製剤数	9	2	2	2	1.00
廃棄率（％）	0.27	0.06	0.06	0.07	***
FFP 入庫製剤数	759	841	662	615	0.93
使用製剤数（総数）	757	864	675	620	0.92
（外来）	150	148	115	76	0.66
（入院）	607	716	560	544	0.97
廃棄製剤数	10	6	1	2	2.00
廃棄率（％）	1.32	0.71	0.15	0.33	***
PC 入庫製剤数	1,119	1,295	1,117	1,025	0.92
使用製剤数（総数）	1,030	1,294	1,125	1,016	0.90
（外来）	356	310	272	196	0.72
（入院）	728	984	853	820	0.96
廃棄製剤数	6	5	3	5	1.67
廃棄率（％）	0.54	0.39	0.27	0.49	***
全製剤依頼件数（外来）	1,387	1,262	1,245	1,039	0.83
（入院）	5,791	6,145	5,850	5,557	0.95
全納入製剤数	5,175	5,448	4,995	4,596	0.92
全使用製剤数（総数）	5,125	5,653	5,078	4,692	0.92
（外来）	1,348	1,250	1,149	929	0.81
（入院）	3,834	4,403	3,929	3,763	0.96
全廃棄製剤数	25	13	6	9	1.50
全廃棄率（廃棄数／納入数）％	0.48	0.24	0.12	0.20	***
自己血400ml貯血（総数）	60	42	31	70	2.26
（外来）	25	16	15	33	2.20
（入院）	35	26	16	37	2.31
200ml貯血（総数）	1	0	0	4	0.00
（外来）	1	0	0	4	0.00
（入院）	0	0	0	0	0.00
自己血400ml輸血（総数）	44	34	24	55	2.29
（外来）	3	1	1	4	4.00
（入院）	41	33	23	51	2.22
200ml輸血（総数）	0	0	0	2	0.00
（外来）	0	0	0	0	0.00
（入院）	0	0	0	2	0.00

輸血状況と交差適合試験

	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	前年比
輸血管理室取扱い患者数	3,447	3,457	3,489	3,283	0.94
輸血実施人数（総数）	2,179	2,206	2,190	1,661	0.76
RBC輸血実施人数（外来）	437	423	416	353	0.85
（入院）	1,062	1,086	1,087	1,019	0.94
FFP輸血実施人数（外来）	69	59	65	40	0.62
（入院）	210	221	239	163	0.68
PC輸血実施人数（外来）	124	123	98	78	0.80
（入院）	277	294	285	254	0.89
輸血未実施人数（総数）	1,268	1,251	1,299	1,376	1.06
（外来）	42	50	27	43	1.59
（入院）	1,226	1,201	1,272	1,333	1.05
交差適合試験件数	3,704	3,885	3,659	3,345	0.91
輸血実施	3,341	3,495	3,278	3,056	0.93
輸血未実施	363	390	381	289	0.76
（再掲） 交差適合試験件数（外来）	900	864	826	727	0.88
（輸血実施）	842	792	762	657	0.86
（輸血未実施）	58	72	64	70	1.09
交差適合試験件数（入院）	2,804	3,021	2,833	2,618	0.92
（輸血実施）	2,499	2,703	2,516	2,399	0.95
（輸血未実施）	305	318	317	219	0.69

HLA検査件数の状況

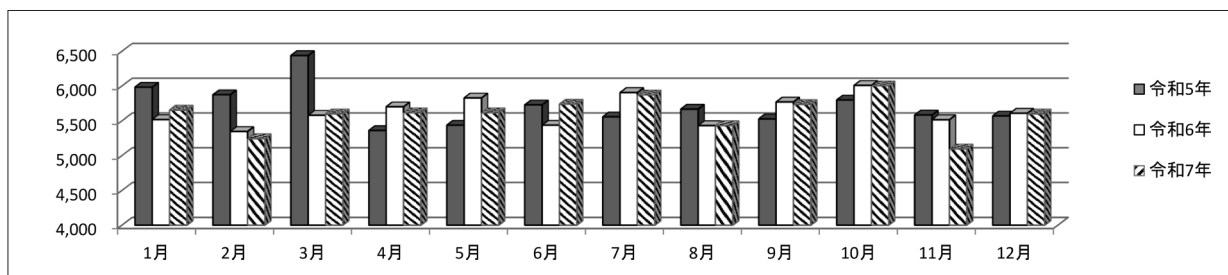
	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	前年比
HLAタイピング（総数）	22	7	16	8	0.50
長崎医療センター（外来）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター（入院）	0	0	0	0	0.00
腎移植ネットワーク登録	22	7	16	8	0.50
HLAダイレクトクロスマッチ（総数）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター	0	0	0	0	0.00
他施設受託	0	0	0	0	0.00
ドナー・レシピエントタイピング（総数）	0	0	0	0	0.00
長崎医療センター（ドナータイピング）	0	0	0	0	0.00
（レシピエントタイピング）	0	0	0	0	0.00
他施設受託（ドナータイピング）	0	0	0	0	0.00
（レシピエントタイピング）	0	0	0	0	0.00

■ 採血管準備件数の推移

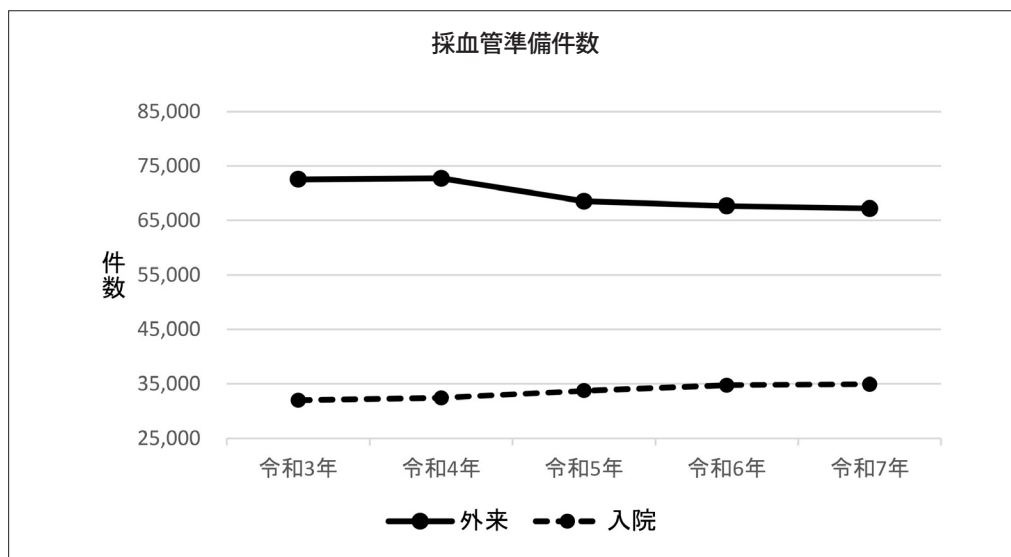
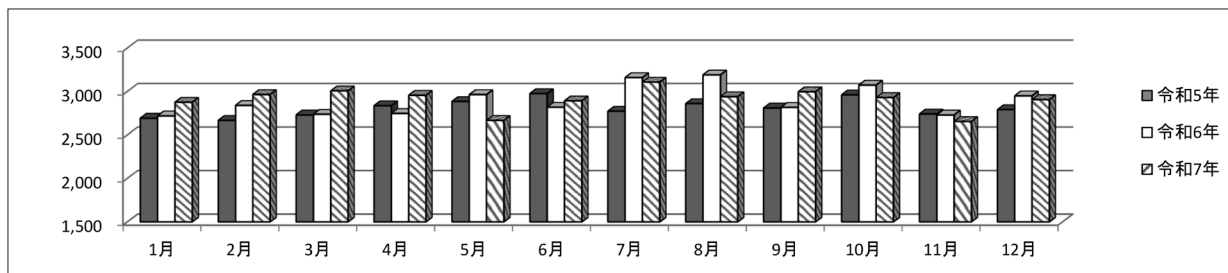
(外来)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	5,983	5,875	6,439	5,361	5,438	5,729	5,557	5,668	5,528	5,800	5,584	5,570	68,532
令和6年	5,519	5,346	5,579	5,701	5,829	5,438	5,907	5,432	5,771	6,009	5,517	5,609	67,657
令和7年	5,654	5,244	5,599	5,615	5,615	5,740	5,873	5,432	5,735	6,003	5,096	5,599	67,205

(入院)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	2,693	2,668	2,730	2,836	2,885	2,976	2,773	2,860	2,810	2,961	2,741	2,791	33,724
令和6年	2,719	2,840	2,738	2,747	2,964	2,819	3,160	3,191	2,817	3,073	2,730	2,950	34,748
令和7年	2,876	2,965	3,007	2,956	2,668	2,893	3,107	2,940	2,997	2,931	2,656	2,907	34,903

外 来



入 院



研修・教育

院内・研修教育

開催日	演 題
2025/1/27	2025年1月検査科勉強会「血液・一般」「生理」
2025/2/26	2025年2月検査科勉強会「輸血」「病理・細胞診」
2025/4/2-4/25	新任者オリエンテーション：検査部門組織、配属予定セクション、施設・設備、労働衛生サービス、休暇取得手続き、超過勤務手続き、各種提出書類の提出方法、医療安全、電子カルテ及び検査システム、感染性物質の取扱い、感染防護具の取扱い、防災対策、スタンダードプリコーション、品質マネジメントシステム、文書管理、教育訓練、設備管理、技術管理
2025/4/8	採血業務前の勉強会
2025/6/2-	虐待防止関連：子ども虐待を見逃さないために 教育関連：ハラスメント 教育関連：患者の権利
2025/7/1-	感染管理：基本を再確認！感染経路の理解 医療安全：医薬品・MRI・原子力災害・医療ガス
2025/10/6-	虐待防止関連：医療従事者が知っておきたいヤングケアラー支援 接遇：信頼関係を築く医療接遇の在り方
2025/10/30	2025年10月検査科勉強会 「血液培養について」 「輸血：交差適合試験の自己対照について」
2025/11/1-	感染管理：感染経路別にみた感染症の理解 感染管理：注意すべき感染症の動向 感染管理：インフルエンザウィルス感染症の基本
2025/11/26	2025年11月検査科勉強会 「化学物質の取り扱い」 「採血確認事項」
2025/11/27-	R7メンタルヘルス研修 R7情報セキュリティ研修 R7倫理研修
2025/11/11-12/31	2025年度身体拘束最小化に関する研修
2025/12/23	2025年12月検査科勉強会 「特定技能派遣研修報告（血液・心臓超音波）」 「細菌：VIRTUOエラーについて」

院外・研修教育

開催日	演 題
2025/1/20-1/24	令和6年度臨床検査技師特定技能派遣研修会（心臓超音波）
2025/4/17-4/18	令和7年度新規採用者研修
2025/6/13	令和7年度新任中間管理者研修
2025/9/29-10/3	令和7年度臨床検査技師特定技能派遣研修会（血液）
2025/10/6-10/10	令和7年度臨床検査技師特定技能派遣研修会（心臓超音波）
2025/10/23	DMAT長崎空港航空機事故時対応訓練
2025/11/10-11/14	令和7年度臨床検査技師特定技能派遣研修会（細胞診）
2025/10/1-10/31	2025年度てんかんに関する臨床検査技師研修会（オンライン研修）
2025/11/21	2025年度てんかんに関する臨床検査技師研修会（集合型研修）
2025/12/13-12/14	令和7年度佐賀県DMAT隊員養成研修

実習・研修受け入れ

開催日	演 題
2025/1/27-1/31	令和7年度臨床検査技師特定技能派遣研修会（生化学）
2025/5/12-8/8	九州医学技術専門学校
2025/9/1-9/10	長崎県壱岐病院
2025/10/15-10/17	令和7年度臨床検査技師特定技能派遣研修（輸血）
2025/11/25-2026/1/30	純真学園大学

治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

治験等参加研究一覧

No.	項目	研究課題名	同意書 有無	依頼者 （または試験母体）	責任医師 （または担当 研究者名）
	①治験、②医師主導治験、③GCP準拠製造販売 後臨床試験、④受託臨床研究（文書同意あり）、 ⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）、⑥公費 臨床試験、⑦製造販売後調査（文書同意あり）、 ⑧製造販売後調査（文書同意なし）、⑨その他				
1	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	各種慢性肝疾患におけるELFスコアの 基礎的検討及び臨床的有用性の検討	無	シーメンスヘルスケア・ ダイアグノスティクス（株）	八橋 弘 （波野 真伍、 藤野 達也）
2	⑤受託臨床研究（体外診断用医薬品）	エクルーシス試薬 HCV Duo の基礎 検討研究	無	ロシュ・ダイアグノス ティクス（株）	八橋 弘 （波野 真伍、 藤野 達也）

競争的研究費一覧

No.	項目（財源別）	研究課題名	研究者名	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続
	①文部科学省科学研究費、②科学研究 費助成事業（科学研究費補助金）、 ③科学研究費助成事業（学術研究助成 基金助成金）、④科学技術振興機構科 学研究費、⑤その他文部科学省関連研 究費、⑥厚生労働省科学研究費、⑦国立 高度専門医療センター等研究費、⑧そ の他厚生労働省関連研究費、⑨日本医 療研究開発機構研究費、⑩その他財団 等からの研究費、⑪民間セクターから の寄附金					
1	⑥厚生労働行政推進調査事業	科学的エビデンス等に基づき医 療環境に応じた適切な輸血療法 実施についての研究（課題番号： 23KC2009）	長井 一浩	医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイ エンス政策研究事業	分担	新規
2	⑨日本医療研究開発機構研究費	低分子化合物による自己肝前駆 細胞を用いた革新的肝硬変治療 （24bk0104152h0003）	長井 一浩	再生医療等実用化 研究事業研究開発	分担	継続
3	⑩その他財団等からの研究費	無人航空機を用いた血液製剤搬送の 実行可能性と品質への影響に関する 研究：濃厚血小板製剤搬送技術の最 適化（R07015）	長井 一浩	日本輸血・細胞治療学会 臨床研究推進事業	主任	継続

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	(2)	3	1	

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		6 (1)		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			2	4

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3		2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

その他

1) 施設認定

日本病理学会施設認定
 日本病理学会研修施設認定
 日本臨床細胞学会施設認定
 日本臨床細胞学会教育研修施設認定
 日本輸血細胞治療学会認定医制度「指定施設認定証」
 日本輸血細胞治療学会輸血検査技師制度「指定施設認定証」
 日本輸血細胞治療学会I&A認証施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
 日本臨床衛生検査技師会品質保証施設認証

2) 各種認定免許と取得者数

免許の種類	取得者数
細胞検査士	5
国際細胞検査士	1
超音波検査士	2
認定臨床化学者	1
認定輸血検査技師	1
認定一般検査技師	1
認定血液検査技師	3
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1
認定心電検査技師	1
認定救急検査技師	1
二級臨床検査士（微生物学）	2
二級臨床検査士（臨床化学）	1
二級臨床検査士（循環生理学）	1

免許の種類	取得者数
NST専門療法士	1
緊急臨床検査士	6
電子顕微鏡二級技士	1
特定化学物質等作業主任者	4
有機溶剤作業主任者	5
化学物質管理者	1
保護具着用管理責任者	1

3) 日本医師会臨床検査精度管理調査結果

過去7年間の成績

参加年度	参加項目満点数	参加項目点数	参加項目修正点	備考
30年度	590	580	98.0	
R1年度	645	635	98.4	
R2年度	655	651	99.4	
R3年度	655	649	99.1	
R4年度	655	647	98.8	
R5年度	655	644	98.3	
R6年度	655	644	98.3	

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Adverse events during preoperative autologous blood donation and its usage in obstetrical patients : A multicenter, retrospective survey in Japan.
Yokohama A, Fujita H, Nagai K, Fujiwara SI, Tanimoto K, Ushiki T, Henzan T, Hatta Y, Yanagisawa R, Watanabe K, Murakami J, Hasegawa Y, Ikeda K, Fujino K, Matsumoto M, Tanaka A, Makino S, Kino S, Takeshita A, Muroi K. Transfus Apher Sci 2025 ; 64 : 104131 doi : 10.1016/j.transci.2025.104131.

A-a2：英文症例報告

- 1) Donor lymphocyte infusion-based therapy for relapsed adult T-cell leukemia/lymphoma after HLA-haploidentical hematopoietic stem cell transplantation.
Shinichi Katsuoka, Hidehiro Itonaga, Miki Hashimoto, Hikaru Sakamoto, Takafumi Furumoto, Yuichi Yamada, Takeharu Kato, Makiko Horai, Shinya Sato, Koji Ando, Kazuhiro Nagai, Nariyoshi Matsumoto, Daisuke Sasaki, Hiroo Hasegawa, Yoshitaka Imaizumi, Katsunori Yanagihara, Yasushi Miyazaki.
Transplant Immunology 2025 ; 92 : 102262 doi : 10.1016/j.trim.2025.102262.

B：和文

B-a1：和文原著

- 1) 多施設アンケート調査による未診断C型肝炎患者拾い上げ状況に関する検討.
梅橋功征、藤野達也、伊藤葉子.
医学検査 2025 ; Vol.74 No.2 (2025) pp.362-368.

2) 科学的根拠に基づいた赤血球製剤の使用ガイドライン (改訂第3版).

園木孝志、蒸野寿紀、上田恭典、上野志貴子、大石晃嗣、大崎浩一、熊川みどり、末岡榮三朗、長井一浩、横濱章彦、松本雅則.

日本輸血・細胞治療学会誌 2024 ; 70 : 579-96.

B-b : 和文総説

1) 『これ1冊でカンペキ! 肝臓まるかじり 必須知識から最新概念MASLDまで完全ガイド』.

八橋弘、藤野達也.

診断と治療 2025 ; pp26-30.

B-c2 : 和文著書 [分担]

1) 白血病.

長井一浩.

臨床検査のガイドラインJSLM2024 2025 ; pp441-452.

学会・研究会・講演

B : 国内学会**B-b1 : シンポジウム, パネルディスカッション等**

<口演>

1) 離島医療圏への無人航空機を用いた血液製剤搬送体制の実用化へ向けて.

長井一浩.

合同輸血療法委員会によるわが国の輸血医療の適正化. 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 札幌, 2025.5.30.

2) 長崎県の離島医療の現状から見た輸血医療の未来像.

長井一浩.

各地域の血液製剤の有効利用の実態と成果・これからVer.4. 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 札幌, 2025.6.1.

3) 血液スライドカンファレンス.

弓友香.

症例3. 日臨技九州支部医学検査学会 (第59回). 大村, 2025.10.18.

4) 災害時の医療機関における輸血トリアージ.

長井一浩.

災害における輸血医療. 第32回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム. 東京, 2025.10.25.

<講演>

1) HCV肝炎検査の過去・現在・未来.

藤野達也.

日臨技九州支部医学検査学会 (第59回) ランチョンセミナー. 大村, 2025.10.19.

<座長>

1) 長井一浩.

各地域の血液製剤の有効利用の実態と成果・これからVer.4. 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 札幌, 2025.6.1.

2) 長井一浩.

優秀演題セッション. 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会. 札幌, 2025.6.1.

3) HCVDuoの意義とその臨床応用・検査技師と臨床医の視点からみえてくる新しい可能性
藤野達也.

日本医療検査科学会第57回大会共催ランチョンセミナー. 横浜, 2025.10.5.

B-b2：一般演題

＜ポスター＞

1) NHO関連施設における肝炎ウイルス検査陽性率と陽性者拾い上げの現状に関する調査.

迫田真明、橋本規雅、藤野達也、佐藤圭、丸山晃二.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

2) 不規則抗体検査試薬0.8%セルスクリーンJ Albaの検討と導入効果.

黒田拓也、栗原博未、藤野達也、長井一浩.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

3) 超音波検査で観察し得た隆起性皮膚線維肉腫の1例.

喜多なつみ、武藤憲太、藤野達也、石飛俊介、三浦史郎.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

4) 術前細胞診で診断が困難であった子宮頸部原発大細胞神経内分泌癌の1例.

平野純、澤田吉人、小島真代、鹿島星林、石飛俊介、添田李子、三原裕美、伊東正博、古賀恵、福田雅史、三浦史郎.

ポスター 133：病理診断・細胞診1. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

B-c：研究会発表

＜講演＞

1) HCV肝炎検査の過去・現在・未来.

藤野達也.

第2回ロシュ感染症セミナー in 広島. 広島, 2025.7.25.

C, F：学術講演他

C-b：学術講演 [国内]

＜口演＞

1) チーム医療で挑む肝炎拾い上げ～見逃しゼロを目指して～.

高木麻里.

臨床検査の日 肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡 (Web), 2025.11.14.

2) VITEK2新カード採用の取り組みと導入効果.

岩永真悟.

2025 BioNet 感染症検査フォーラム 九州・沖縄地区. 福岡, 2025.12.13.

＜講演＞

1) 肝障害精査目的に当院受診となった症例

喜多なつみ、十時花帆.

第18回長崎臨床検査Reversed-CPC研究会. 長崎, 2025.5.17.

<座長>

- 1) ①当院におけるDWHを用いた肝炎拾い上げの取り組み②当院消化器内科によりHBV再活性化予防と臨床検査科の関わり方.
藤野達也.
臨床検査の日 肝炎撲滅のためのWEB Seminar. 福岡, 2025.11.14.

F-b: 学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

- 1) 「臨床検査技師のChatGPT活用法～業務効率化と情報収集の新時代～」.
藤野達也.
令和7年度国臨協九州支部会卒後教育セミナー. 福岡, 2025.9.20.

診療科の特色

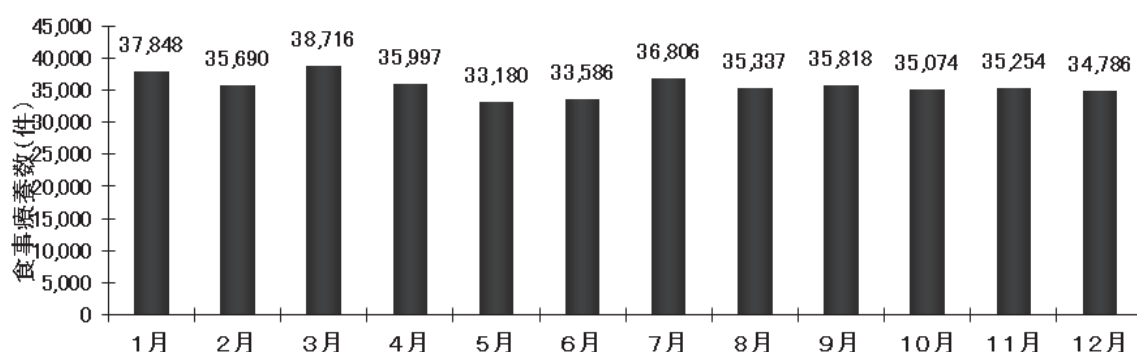
2025年栄養管理室では「安全で満足度の高い食事の提供」と「質の高い栄養管理」の両立を目標に掲げた。「GLIM基準」の導入に伴い従来のスクリーニング方法をSGA（主観的包括的アセスメント）から、客観的かつ簡便な判定が可能なMST（Malnutrition Screenig）へ移行し、実施率、低栄養患者の抽出率についてSGAとの比較検証を行っている。人員体制においては9月以降、定数8名に対し2名が退職し実数6名での部門運営を余儀なくされた。スタッフと業務体制を見直し連携をとりながらなんとか臨床栄養業務の停滞を回避することができた。また、病院の食事提供において物価高等下での質の維持にむけて、より安価な食材への切り替えや献立構成の見直しを緻密に行い取り組んできたが非常に厳しい局面を迎えている。関係部署へ協力を仰ぎながら食材ロスの最小化にも取り組んでいく。

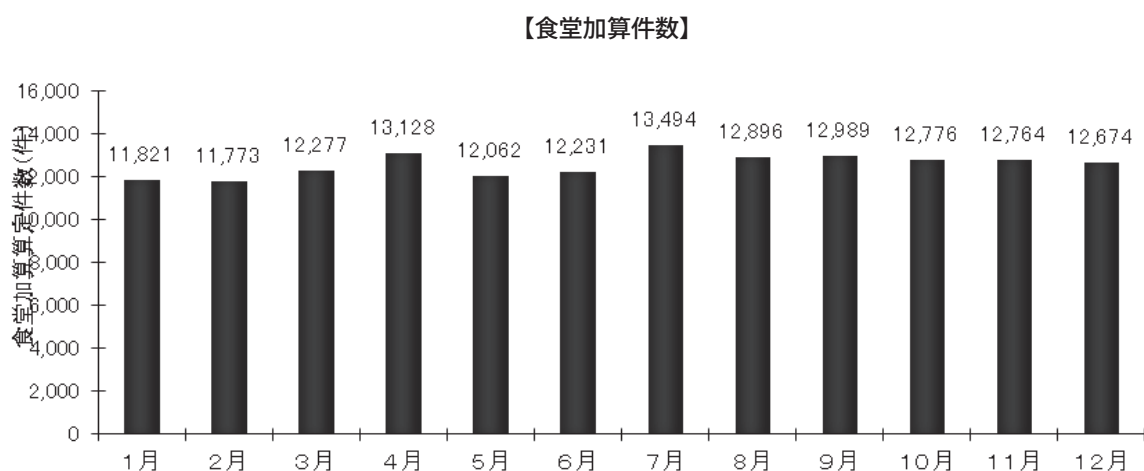
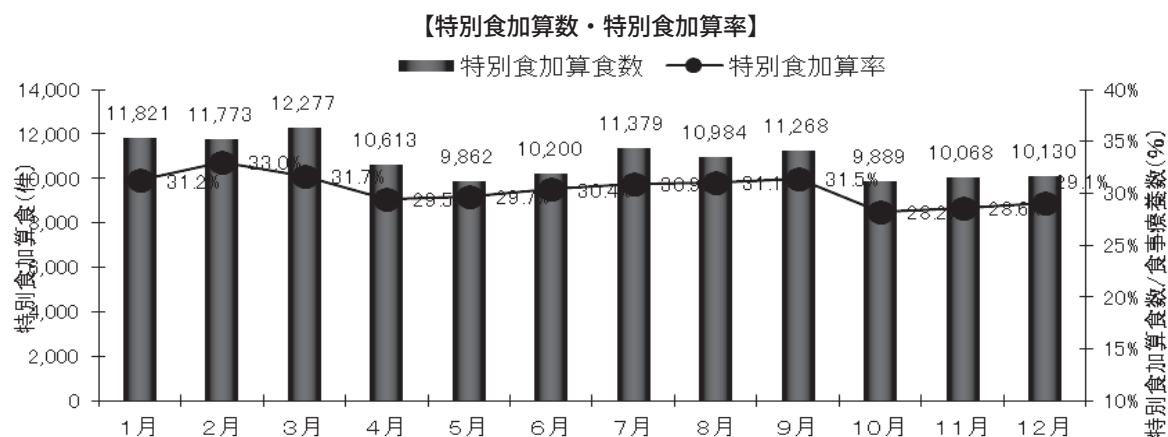
入院診療実績

1) 食事療養数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
取 扱 患 者 数	15,163	14,100	15,247	14,135	13,205	13,101	14,516	13,847	13,799	13,715	13,725	13,571	14,010
食 事 療 養 数	37,848	35,690	38,716	35,997	33,180	33,586	36,806	35,337	35,818	35,074	35,254	34,786	35,674
特 別 食 加 算 食 数	11,821	11,773	12,277	10,613	9,862	10,200	11,379	10,984	11,268	9,889	10,068	10,130	10,855
特 別 食 加 算 率	31.2%	33.0%	31.7%	29.5%	29.7%	30.4%	30.9%	31.1%	31.5%	28.2%	28.6%	29.1%	30.4%
食 堂 加 算 数	11,821	11,773	12,277	13,128	12,062	12,231	13,494	12,896	12,989	12,776	12,764	12,674	12,574

【食事療養数】

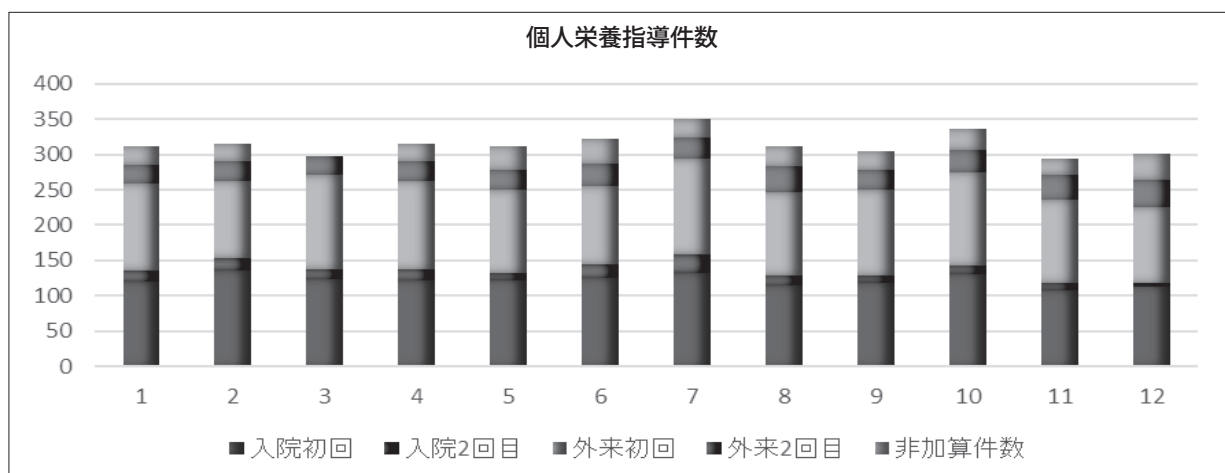




■ 栄養食事指導

2-1) 個人栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院初回	120	136	123	121	122	126	132	115	118	130	107	113	1,463
入院2回目	16	17	14	16	11	19	27	14	11	13	11	5	174
外来初回	123	109	135	126	117	110	135	117	121	131	118	108	1,450
外来2回目	26	28	25	28	29	32	30	38	28	33	35	39	371
非加算件数	27	25		24	33	35	26	27	27	29	24	36	313
指導件数合計	312	315	297	315	312	322	350	311	305	336	295	301	3,771

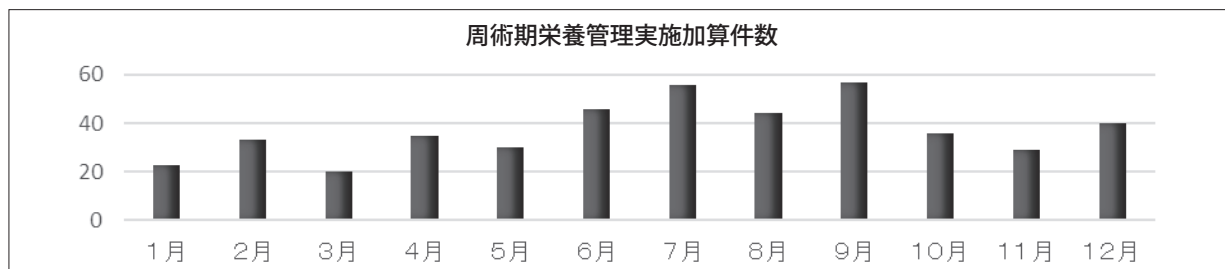


2-2) 集団栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
両親学級	2	4	0	3	1	1	2	4	2	2	3	1	25
腎臓病教室	2	4	3	0	3	3	4	4	4	4	5	5	41
糖尿病教室	0	2	3	0	2	5	9	3	2	6	5	6	43
指導件数合計	4	10	6	3	6	9	15	11	8	12	13	12	109

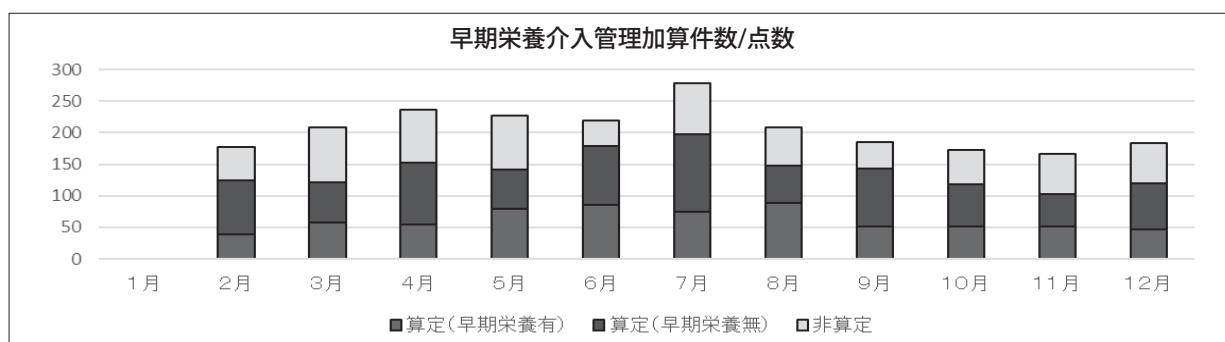
2-3) 周術期栄養管理実施加算

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
加算件数	23	33	20	35	30	46	56	44	57	36	29	40	449



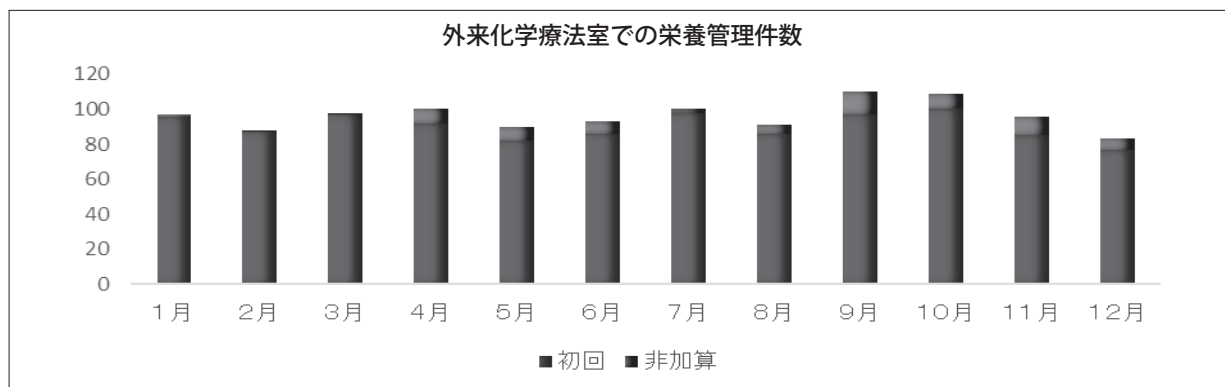
2-4) 早期栄養介入管理加算

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
算定(早期栄養有)	0	39	58	55	79	85	75	89	51	51	52	46	680
算定(早期栄養無)	0	86	64	97	62	94	123	58	92	67	50	73	866
非算定	0	53	87	85	86	41	80	61	42	54	64	64	717



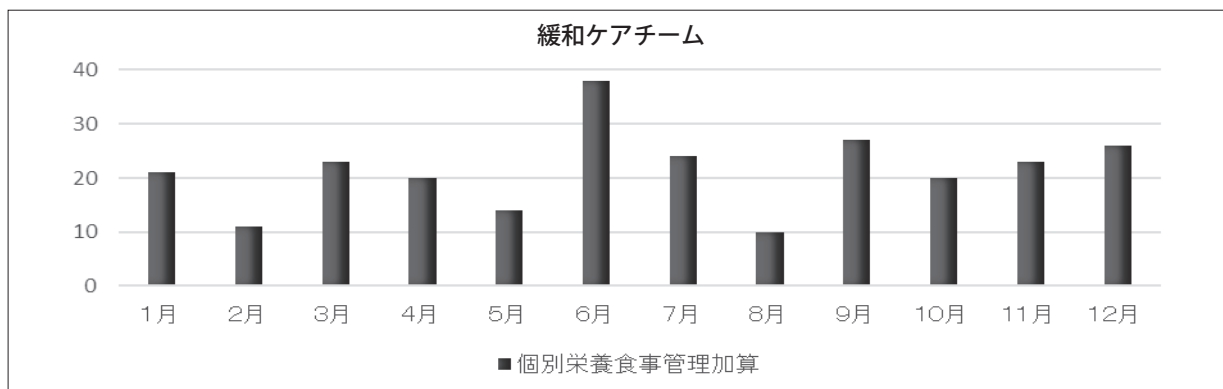
2-5) 外来化学療法室での栄養管理件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回	96	87	97	92	82	86	98	86	97	100	85	77	1,083
非加算		1	1	8	8	7	2	5	13	9	11	6	71



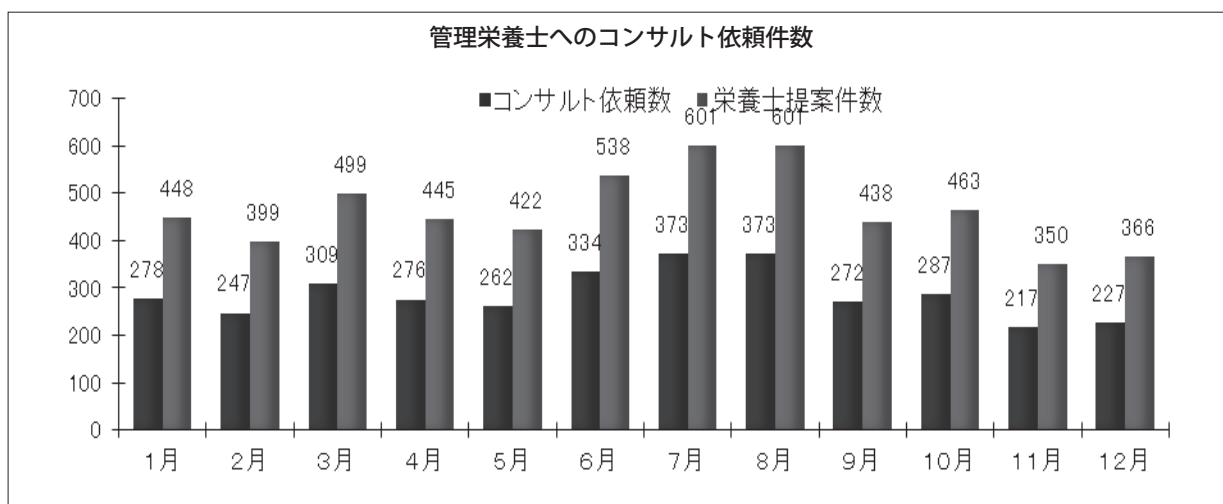
2-6) 緩和ケアチーム

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
個別栄養食事管理加算	21	11	23	20	14	38	24	10	27	20	23	26	257



2-7) 管理栄養士へのコンサルト依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コンサルト依頼数	278	247	309	276	262	334	373	373	272	287	217	227	3,453
栄養士提案件数	448	399	499	445	422	538	601	601	438	463	350	366	5,570



研修・教育



管理栄養士養成校大学臨地実習受け入れ

養成大学	学部学科	実習期間	人数
長崎国際大学	健康管理学科	6月2日～13日	1名

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				1

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-c：研究会発表

<口演>

1) 脳卒中急性期における栄養管理の影響

荒木光、荒木翔太、森塚倫也、四元有吏、白水春香、原口涉
令和6年度院内臨床研究発表会, 2025.3.10.

E：学術講演他

E：研究会世話人

1) 荒木光.

日本肝臓学会肝がん撲滅運動 市民公開講座「犯人は毎日の食卓に ～おなかの脂肪も肝臓の脂肪もまとめてバイバイ～」. 2025.12.1.



緩和ケアチーム：Palliative Care Team

責任者 錦戸 雅春・石丸 美幸

診療科の特色

がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。がん患者さんやご家族は、がんと診断されたとき、治療中、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じます。緩和ケアでは患者さんご家族が「その人らしく」過ごせるように、医学的な側面に限らず、いろいろな場面で幅広い対応をしています。また、がん治療と緩和ケアは、いつでもどちらからどちらへ移行するという類のものではなく、いつでも平行して存在しています。がん診療連携拠点病院である当院は「がんと診断された時からの緩和ケア」を推進しています。長崎医療センター緩和ケアチームは2007年2月に発足した、身体症状緩和医師、精神症状緩和医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW、臨床心理士等による専門チームです。がんと診断された時から患者さんやご家族に生じるさまざまな問題に対応しサポートしています。

【緩和ケアチーム活動】

緩和ケア依頼の患者さんやご家族に対し、週1回の多職種によるカンファレンスや回診を行っています。回診時には、病棟看護師（可能な場合は主治医）とともにカンファレンスを行い、患者さんやご家族のご要望に応えられるよう努めています。2009年4月から緩和ケア専従看護師が配置され、2011年からリハビリテーション科のスタッフ、2014年からMSW、2016年よりJNP（診療看護師）と歯科衛生士を新たに迎えサポート体制がより充実しました。2017年より緩和ケア内科医師の配置は専従より専任へ変更となりました。2023年4月より緩和ケアチーム専従看護師・専任看護師の各1名の配置で増員。2024年8月より、専従看護師1名体制へ変更となりました。

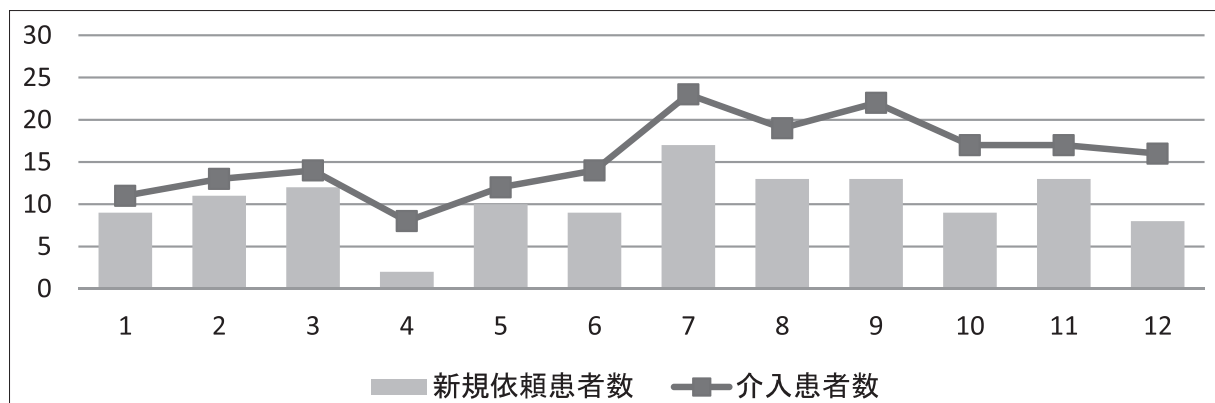
チーム依頼は、年間126件で急性期病院として特徴的ながん診断時から抗がん剤治療中の比較的早期からの相談が6割程度を占めております。依頼内容としては、消化器症状・精神症状・疼痛・しびれ・全身症状の順に多く、診療科としては、婦人科・乳腺内分泌外科・呼吸器内科の依頼数が半数を超える状況でした。2018年4月より、緩和ケア診療加算と個別栄養食事支援加算の算定を再開しました。2019年より、心不全終末期も対象疾患に加わっており、非腫瘍の患者は5件の介入依頼がありました。また、長崎大学病院麻酔科医師を招聘し、はじめて当院でも不対神経節ブロックを1例実施しました。

【緩和ケア外来】

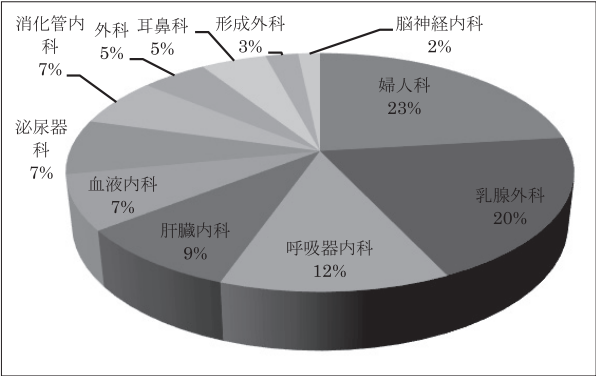
2014年に緩和ケア外来を開始し、2025年は年間延べ395名（前年312名）の患者さんの診療にあたりました。AYA世代にある患者層の増加やACPや在宅療養調整、治療意思決定における倫理社会的問題などに継続して関わる症例も年々増加傾向にあります。

入院診療実績

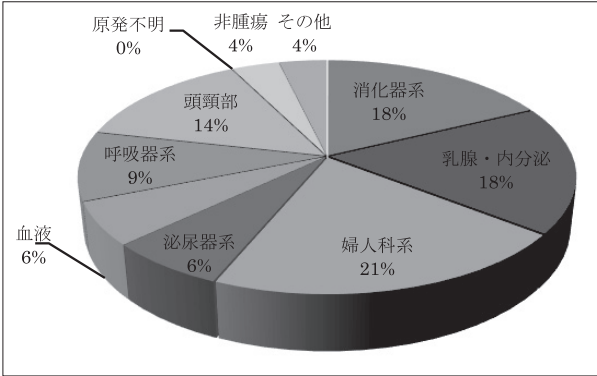
2025年 月別緩和ケア新規依頼患者数（総数126）と介入患者数の推移



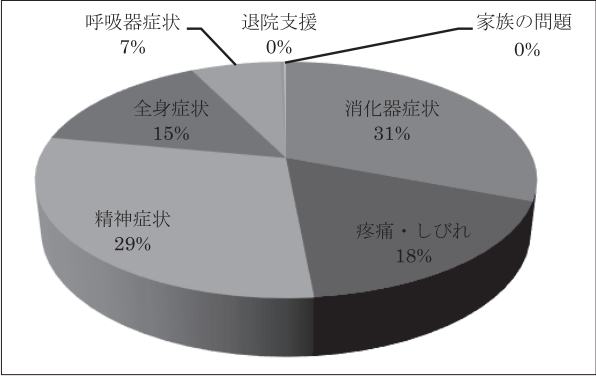
2025年 診療科別依頼数（総数126）



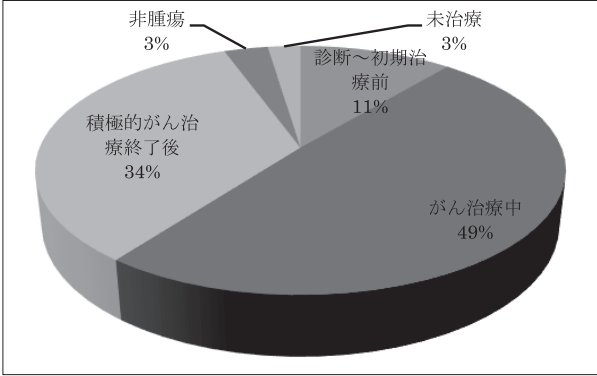
2025年 部位別内訳（総数126）



2025年 依頼内容内訳（重複あり）



2025年 緩和ケア依頼の時期（総数126）



研修・教育

カンファレンス

名 称	参 加 職 種	開催頻度
緩和ケアカンファレンス	医師（4）、薬剤師（3）、栄養士（1）、看護師（1）、理学療法士（5）、言語聴覚士（1）、MSW（1）、臨床心理士（1）	1回/週
緩和ケアラウンド	医師（3）、薬剤師（3）、栄養士（1）、看護師（1）、臨床心理士（1）	1回/週

PEACEプロジェクト（医師に対する緩和ケア教育プログラム）

開催日	研 修 名	参加数
2025年12月6日	令和7年度 長崎医療センター緩和ケア研修会 (新カリキュラム eラーニング)	14名

緩和ケア研究会

開催日	テ ー マ	参加数
第47回研究会 2025年2月28日	『がんサバイバーシップを支える緩和支援療法としての漢方治療』 演者：国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 科長 里見絵理子先生	会場：5名 Web：27名

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類				
件数				

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	1			

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

F：学術講演他

F-a：学会・研究会座長

<座長>

- 1) がんサバイバーシップを支える緩和支援療法としての漢方治療.

蓬萊彰士.

第47回緩和ケア研究会. 大村市, 2025.2.28.



責任者 藤岡 正樹・中村 裕紀子

診療部門の特色

1. 褥瘡対策活動褥瘡発生予防、適正な治療、教育・研究活動は褥瘡対策の3本柱である。

1) 褥瘡予防

褥瘡発生母体である寝たきり患者における褥瘡発生の傾向や、個々の患者の全身状態を的確に把握し、褥瘡発生危険性の高い患者に対して重点的な看護や体圧分散寝具使用などの注意を払い、発生を未然に防いでいる。2012年度の診療報酬改定にて、褥瘡対策は入院基本料算定の施設基準となり、褥瘡リンクスタッフを中心に、適切にリスクアセスメントが行われ、ケア介入ができるようスタッフ指導を行っている。

2) 適正な治療とその効果

週に一度の褥瘡回診を開始し、wound bed preparation理論に則った創処置と閉鎖療法の徹底・創傷治療教育の施行によって看護スタッフの褥瘡治療に対する意識・技術の向上と啓蒙を図った。褥瘡治癒日数は2025年7.2日であった。(前年9.2日)

発足当初は、形成外科医師、医療安全管理係長、医療安全対策の褥瘡ワーキンググループの構成メンバーのみであった。2008年からは、皮膚・排泄ケア認定看護師、2011年からは褥瘡リンクスタッフが回診へ参加し、ケアの充実を図るようにしている。

3) 教育・研究活動

褥瘡対策委員会では褥瘡リンクスタッフに対し勉強会を開催し、褥瘡に対する知識の啓蒙と処置、観察技術の向上を図っている。

2. 当院における持ち込み褥瘡患者の現状

2025年持ち込み褥瘡197名(前年184名)、褥瘡発生場所が自宅であったものが132名(前年100名)であった。介護者が高齢であることによる介護力不足や、知識不足が原因であると推測された。これら在宅・介護施設の患者を病院に搬送・受診させることは医療費、搬送手段、付添い者などの問題が存在し、介護者にとって負担となるため、早期の医療介入ができていない。また長崎県が抱える問題として、離島での寝たきり老人に対するケア、特に褥瘡をはじめとする皮膚のケアは全く体系的になされていない。

3. 褥瘡リンクスタッフ(病棟看護師)の導入と褥瘡対策委員会

2011年度より院内全体の褥瘡予防に関する知識を向上させるとともに、院内発生の褥瘡の減少、治癒期間の短縮を図ることを目的として手術室を含む各病棟に褥瘡リンクスタッフが配置された。そして、2012年10月より、発生した褥瘡に対して褥瘡リンクスタッフが認識し、安全かつ適切なケア方法を実施できるように院内の状況をスタッフに情報提供できることなどを目的に、褥瘡リンクスタッフミーティングを行っていた。2018年度からは褥瘡対策委員会との合同開催となり(第3金曜日の15時～16時)、褥瘡リンクスタッフが院内の状況について把握し、スタッフへ情報提供することでリーダーシップがとれるようになることなどを期待している。2025年も、部署でのラウンドを行い、病棟の現状の把握、スタッフ指導への指導を重点的に行った。

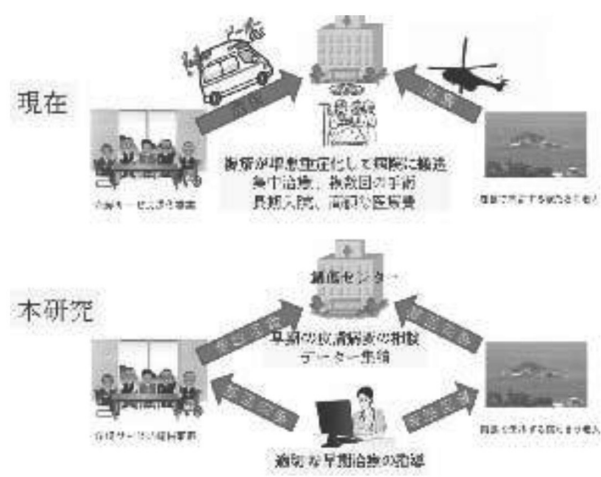
4. 体圧分散マットレスの中央管理

2007年より院内保有のエアマットレスおよび静止型マットレスの体圧分散寝具を褥瘡対策委員会で一括管理

している。各部署（3A病棟を除く）が、過不足なく適切に体圧分散寝具を使用できるような体制を整えている。

5. 創傷センターを中心とした在宅褥瘡ケアシステムの構築

在宅褥瘡発生背景の推移にいち早く対応し、在宅・介護施設の褥瘡発生を予防するため、容易に医療機関に相談できるシステムの構築が急務であった。褥瘡対策委員会では、国立長崎医療センター創傷センターを中心に県内の全ての介護サービス提供事業者（約500）をインターネット回線で結ぶシステムを構築し、各介護施設と画像送信し、専門医や専門看護師がアドバイスできるシステムの構築を行った。



6. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

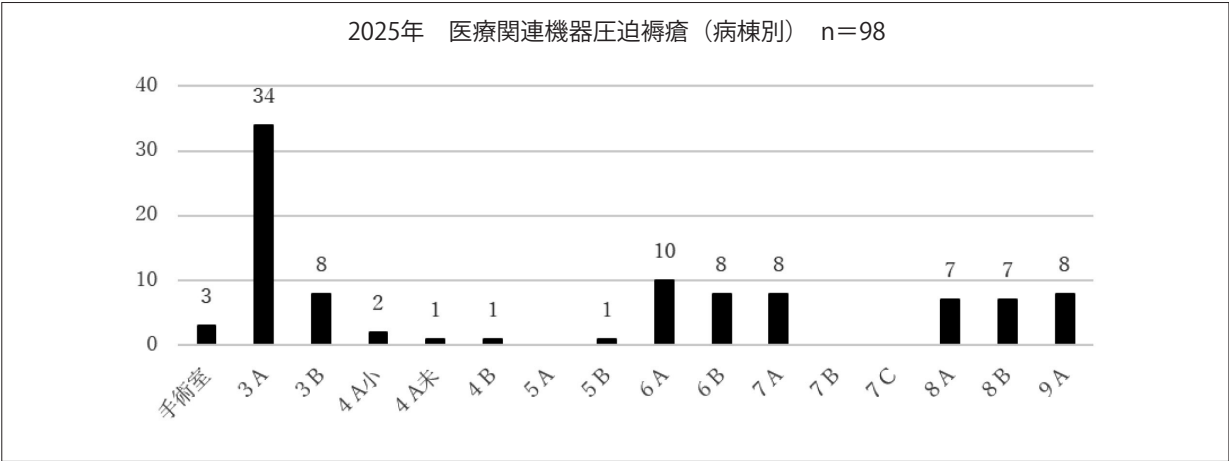
2013年5月より、褥瘡リスクアセスメントの結果を踏まえ、特に重点的なケアが必要と思われる患者について褥瘡予防等に関する治療計画書を作成し、計画に基づき重点的な褥瘡ケアを実施している。

2025年褥瘡リスクアセスメント票・褥瘡予防治療計画書の作成件数（1727件）

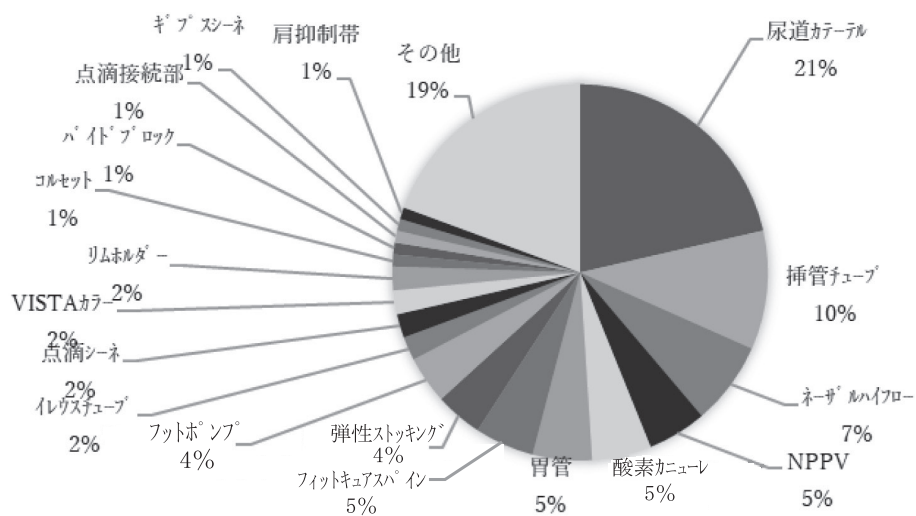
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
172	148	147	136	142	147	157	123	140	140	126	147

7. 医療関連機器圧迫褥瘡の現状

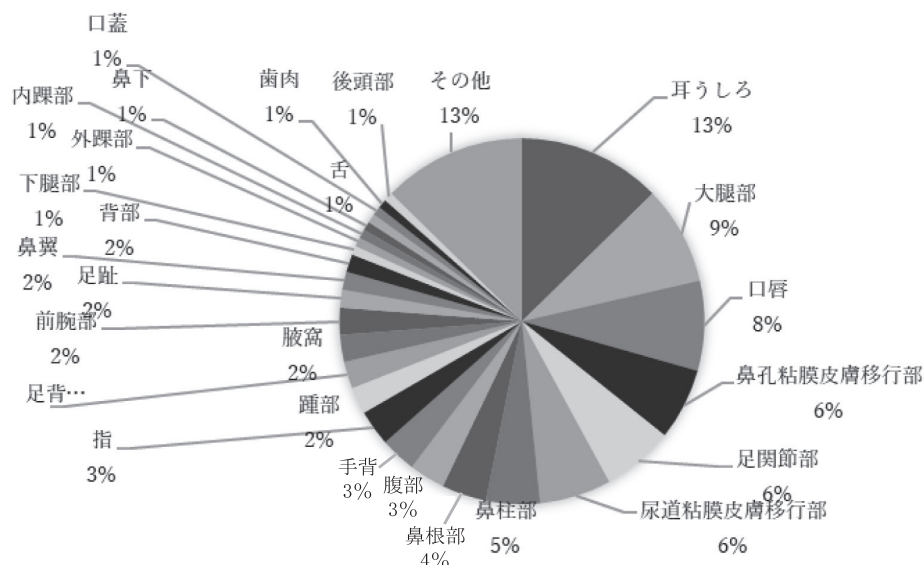
医療関連機器圧迫褥瘡とは、「機器装着時に局所的な外力によって発生する創傷」のことである。当院でも、NPPVマスクや尿道留置カテーテル、弾性ストッキングなどによる創傷が発生しており、褥瘡対策委員会においても発生予防のための対策を検討している。



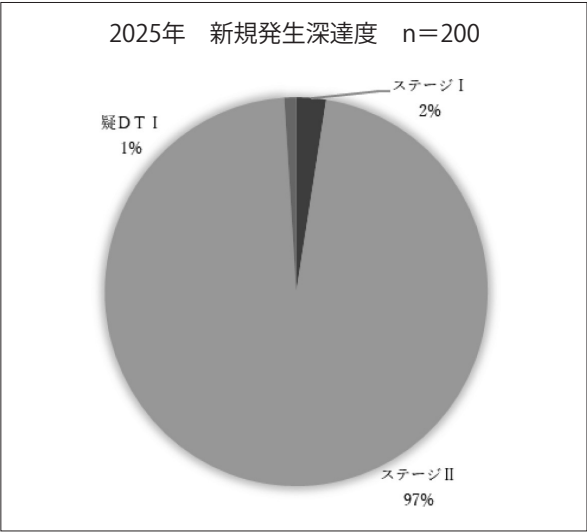
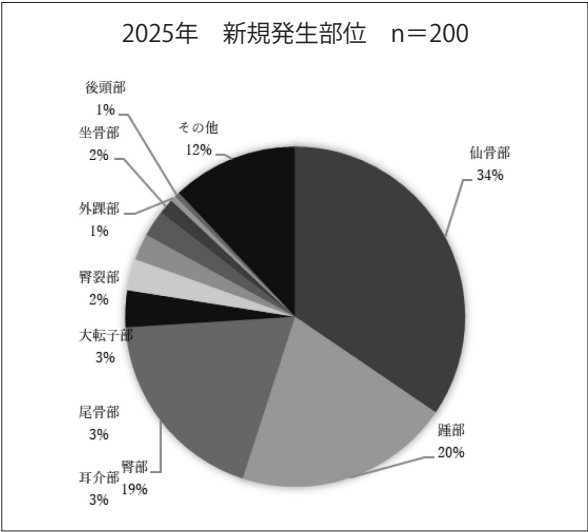
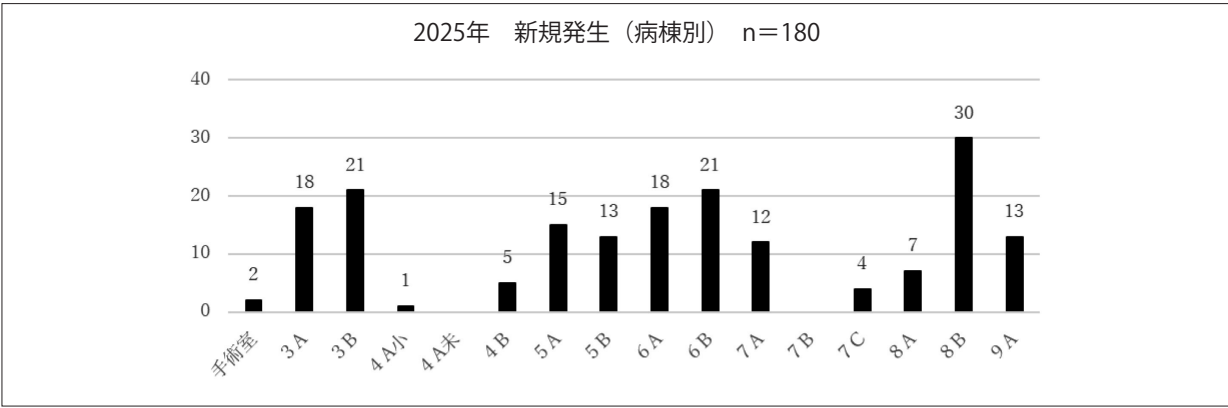
2025年 医療関連機器圧迫褥瘡 n=98



2025年 医療関連機器圧迫褥瘡 発生部位 n=126



	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
新規発症数	154	162	178	157	169	190	157	180
新規発症率	0.7	0.8	0.94	0.89	0.9	1.03	0.82	0.88
医療関連機器圧迫褥瘡数					150	126	106	98
医療関連機器圧迫褥瘡発生率					0.82	0.67	0.55	0.48
持ち込み数	167	167	180	167	157	183	184	197
持ち込み率	0.75	0.83	0.95	0.93	1.02	0.99	0.96	1.01



研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
褥瘡対策委員会	1 回/月
褥瘡回診	1 回/週

教育講演

日時	テーマ	研修内容	研修方法・準備
2025年 1月24日（金）	褥瘡対策について	アセスメント方法や テンプレートの記載方法	・ 講義 ・ 講義資料
2025年 10月16日（金）	おむつの正しい使用について	サイズの選択、着用方法	・ 講義と演習 ・ 講義資料
2025年 11月21日（金）	褥瘡と栄養について	褥瘡発生時の栄養管理	・ 講義と演習 ・ 講義資料
2025年 12月19日（金）	座位時の褥瘡について	発生要因とケア方法	・ 講義 ・ 講義資料

学会・論文など

1) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		2		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

2) 学術講演

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		1		

3) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数			1	

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a1：英文原著

- 1) Investigation of Unavoidable Pressure Injuries in the Actively Dying Stage.
Fujioka M.
Advances in Skin & Wound Care. 38(2) : p 86-89, 2025.
- 2) Preoperative Cutaneous Conditions and Postoperative Skin Injuries in Patients Undergoing Surgery in the Lateral Decubitus Position : A Prospective Cohort Study.
Kentaro Hara.
AORN Journal. 122(6) : 380-92, 2025.

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

- 1) アルカリによる化学損傷の3例.
西園馨子、古賀一史、藤岡正樹、藤原洸平、日吉尚.
第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7-8.
- 2) 脊髄損傷患者の褥瘡潰瘍に生じた有棘細胞癌の1例.
藤原洸平、藤岡正樹、古賀一史、日吉尚、西園馨子.
第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7-8.

C, F：学術講演他

C：国内学会

C-b：学術講演 [国内]

- 1) 招待講演UPIの実態と終末期患者に生じる創傷（慢性緩和創傷）に対する考え方.
藤岡正樹.
日本褥瘡学会. UPIに関するミーティング. 東京, 2025.2.15.

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

1) レットトライ Sobact-患者さんのQOL向上のために.

藤岡正樹.

第22回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会, セミナー座長, 長崎, 2025.5.27.



National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

NST（栄養サポートチーム）

責任者 安井 順一・荒木 光

診療部門の特色

『栄養サポートチーム（Nutrition Support Team（以下：NST）』は、複雑な病態下や栄養障害を有した患者に対して、最適な栄養管理を行う医療チームである。患者それぞれに応じた栄養量・栄養素・投与経路を多角的な視点で検討し、栄養状態の改善をサポートするために取り組んでいる。

長崎医療センター NSTは、2004年1月に設立され、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療看護師等の専門スタッフがチームを組んで全科型NSTとして集学的治療を行っている。

活動状況

全入院患者を対象に入院時の栄養スクリーニングおよび栄養状態の評価・判定を行い、栄養不良の早期発見と早期対応に努めた。また、主治医および看護師が「患者の栄養状態に何らかの問題がある」と判断し、NST介入を依頼した場合には、NST専任スタッフを中心に多職種メンバーが詳細な栄養アセスメントを実施し、適切な栄養補給方法を提案することで、主治医と連携しながら患者の栄養状態の改善を図っている。

2023年から、NSTラウンドには診療看護師が参加し、リンクナースも同行するようにした。これにより、所属病棟とは異なる病態や、それに応じた栄養管理について学ぶ機会が増え、スタッフの栄養管理に対する見識の向上につながっている。また、NST勉強会もWebを介して開催し、リンクナースを中心に病棟全体の栄養管理能力の向上を図っている。

本年のNST活動の特徴の一つとして、標準的な栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価、栄養管理計画、退院時を含む定期的な評価を実践し、Global Leadership Initiative on Malnutrition（GLIM）を活用した栄養管理実施体制の構築を進めた。具体的には、リンクナース合同会議においてGLIM導入に関する勉強会を実施し、3月より新たな栄養スクリーニングとしてMalnutrition Screening Tool（MST）を導入した。GLIM基準に基づく低栄養判定と、それに応じた栄養介入を実施している。現在、MST導入後の低栄養リスク抽出率の変化を踏まえ、当院におけるツールの妥当性について検討を進めている。

また、NST加算要件である「栄養管理に係る所定の実地研修」を看護師1名が修了した。今後も、栄養管理に関心を持つスタッフや専門知識を有する人材を育成し、多職種協働による栄養サポート体制のさらなる充実を目指していく。

＜NSTカンファレンス・ラウンド＞

○実施日

毎週木曜日 15：00～

○メンバー

専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）

臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療看護師および主治医、病棟看護師

○内容

必要栄養量の算出、栄養管理プランの検討、食事内容の検討、経管栄養の種類・投与方法の検討、輸液栄養の検討、報告書作成など

カンファレンス

名称	開催頻度
NST回診・カンファレンス	毎週1回
NST委員会	毎月1回

学会認定状況

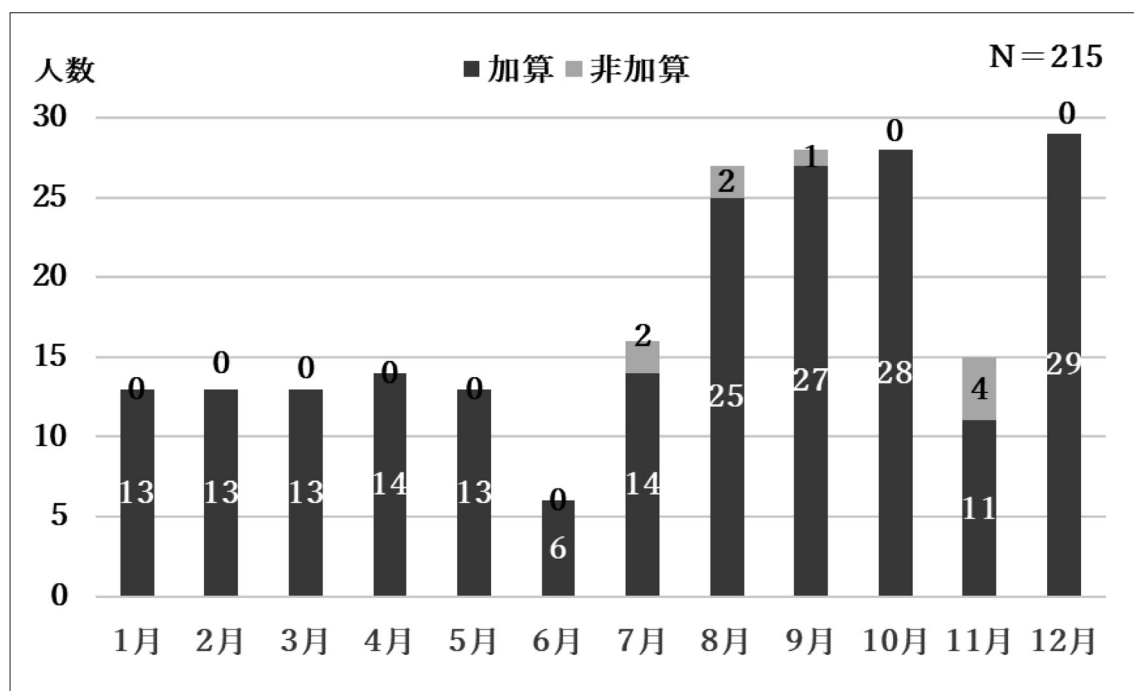
認定名称	認定学会	認定日
NST稼動施設認定	日本臨床栄養代謝学会 (旧名称：日本静脈経腸栄養学会)	2005年11月1日～ (5年毎更新)

NSTスタッフ

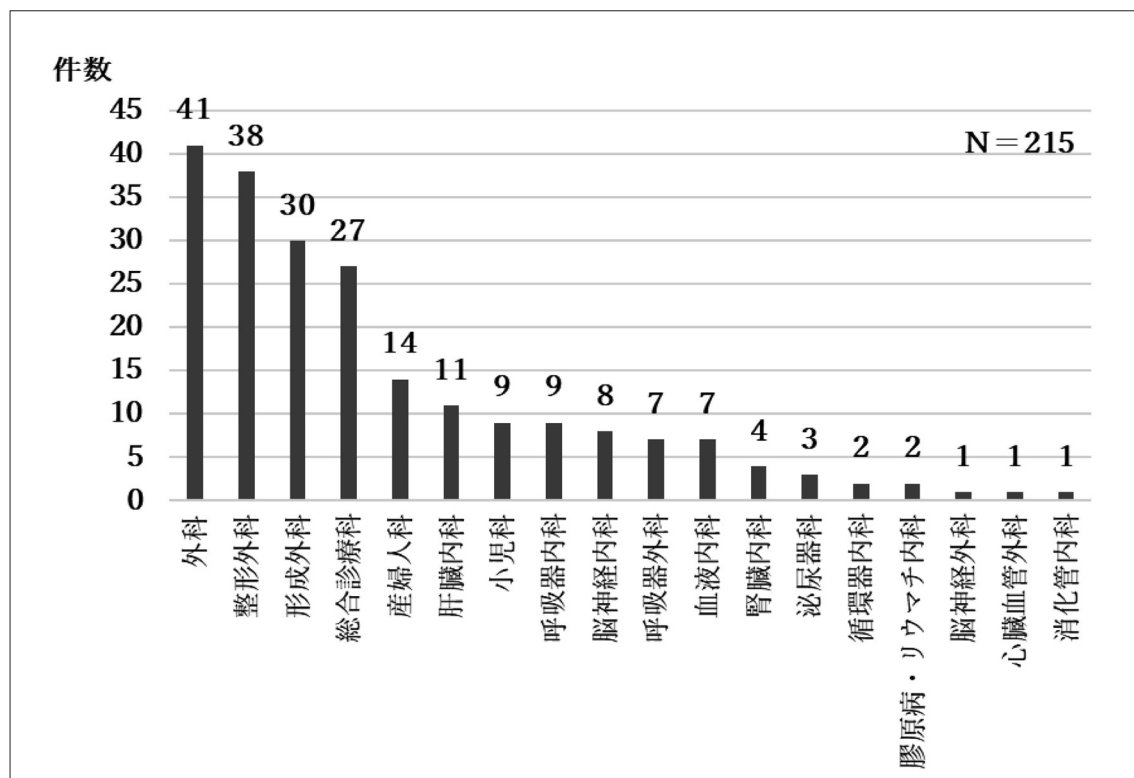
役 割	職 種	人数／（ ）内はNST加算 要件を満たす研修修了者数	NST関連認定等
スーパーバイザー	副院長	1 (0)	
チェアマン	内分泌・代謝内科医長	1 (1)	TNT 1名
ディレクター	外科部長	1 (1)	
バイス・ディレクター	栄養管理室長	1 (1)	
コアスタッフ	内分泌・代謝内科医師	2 (1)	NST医師-歯科医師教育 セミナー 1名
	副看護部長	1 (0)	
	看護師長	2 (0)	
	副看護師長	4 (2)	
	管理栄養士	4 (4)	NST専門療法士 2名
	薬剤師	3 (3)	
	臨床検査技師	1 (0)	
	理学療法士	2 (0)	
	作業療法士	1 (0)	
リンクナース	看護師	12 (2)	
事務	経営・企画係	1 (0)	

■ ■ 入院診療実績

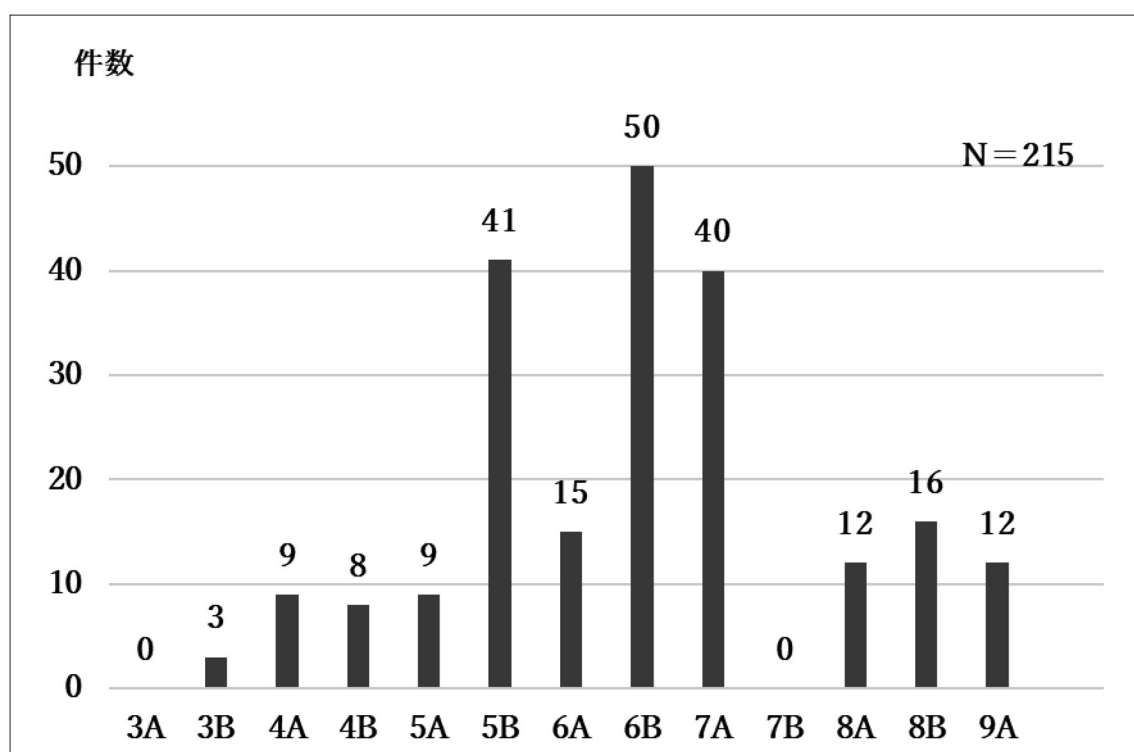
【2025年 NST介入患者数の推移】



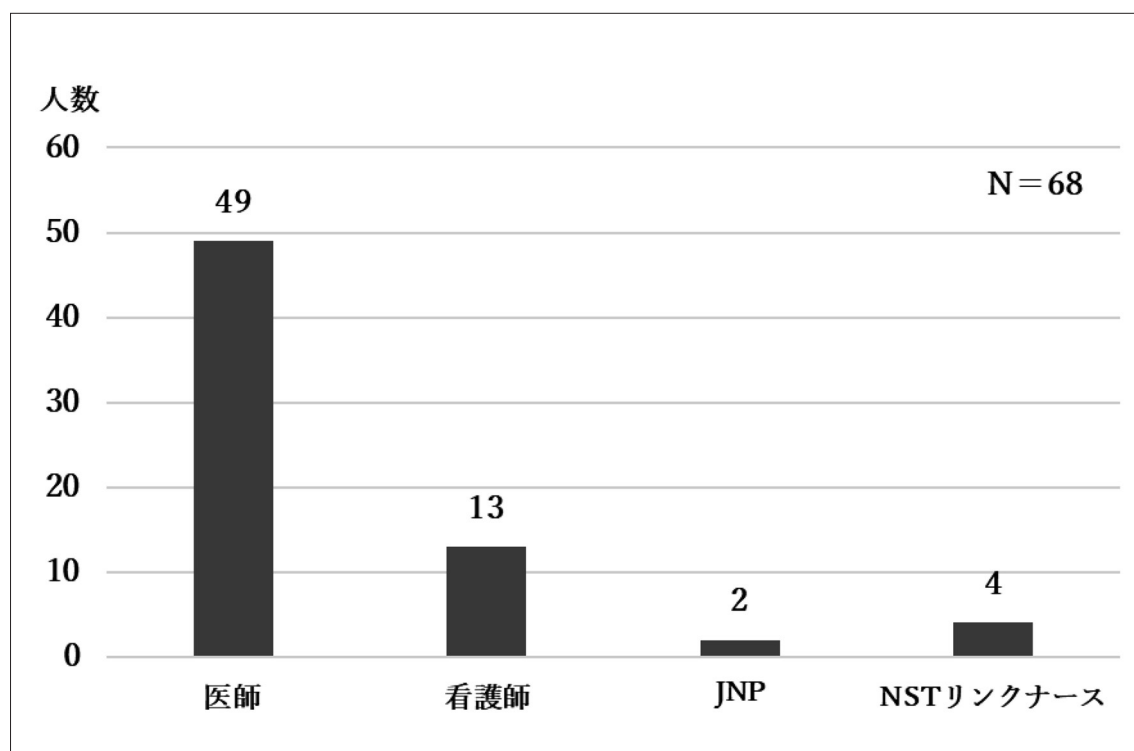
【2025年 診療科別NST介入件数】



【2025年 病棟別NST介入件数】



【2025年 NST介入依頼者】





研修・教育

NST関連勉強会・研修会

なし

NST40時間実地研修

研修施設	取得者
佐賀病院	木佐貫 真子（看護師）



責任者 中道 親昭・田代 博崇

診療部門の特色

臨床工学室には臨床工学技士が9名在籍し生命維持管理装置の操作等を行う臨床業務と、医療機器の点検等を行う医療機器管理業務を通じて高度医療の提供と医療安全に貢献している。またオンコール体制をとっており、休日や時間外の緊急症例にも24時間対応している。

臨床業務では人工透析をはじめ各種アフェレシスや末梢血幹細胞採取、心臓カテーテル検査・治療、不整脈治療、ペースメーカー、補助循環、人工心肺、自己血回収、脳神経モニタリング、ロボット支援手術などで技術支援を行っている。また毎週多職種で実施される呼吸ケアサポートチームに参加するとともに臨床工学室独自でも稼働中の人工呼吸器のラウンドを毎日行っている。

医療機器管理業務では輸液ポンプやシリンジポンプ、人工呼吸器などをME機器センターで中央管理し、日常点検や定期点検を行うことで安全で効率的な医療機器の提供に努めている。また生体情報モニターや保育器など病棟配置の機器に関しても定期点検やトラブル対応を行っている。

教育に関しては新採用の研修医や看護師に対する研修、医療安全研修や医療機器の新規採用時の研修、部署で行う研修などを実施しており、さらに臨床実習も受け入れている。また院内で医療機器の点検等を行うために必要なメーカー主催によるメンテナンス講習会も積極的に受講している。

今後も当院の理念である高度医療の提供の一翼を担えるよう、チーム一丸となって取り組んでいきたい。

入院診療実績

【2025年医療機器管理業務件数】

	輸液ポンプ	シリンジポンプ	人工呼吸器	酸素飽和度モニター	低圧吸引機	フットポンプ	経腸栄養ポンプ	バッグバルブマスク	血液浄化	生体情報モニター
日常点検	743	960	518	27	244	321	69	223	20	99
定期点検	531	431	23	34	64	139	33	0	1	283
修理	33	4	4	2	1	14	4	2	7	50
業者依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
総数	1307	1395	545	63	309	474	106	225	30	439
	高流量システム	内視鏡	除細動器	体外式ペースメーカ	電気メス	麻酔器	保育器	体温管理装置	AED	
日常点検	194	0	0	46	11	1	0	0	0	
定期点検	0	0	13	8	45	10	8	0	16	
修理	1	0	0	1	10	16	1	0	0	
業者依頼	0	0	0	0	1	11	0	0	0	
総数	195	0	0	55	67	38	9	0	16	

【2025年臨床業務件数】

	透析 (センター)	透析 (救命)	持続血液浄化	白血球吸着	血漿交換 血漿吸着	吸着式 潰瘍治療	吸着式 血液浄化	腹水濾過
定 例	3251	14	109	43	44	36	0	5
緊 急	44	3	2	0	1	0	0	0
総 数	3295	17	111	43	45	36	0	5
	幹細胞採取	NO療法	呼吸器巡回	呼吸器搬送	人工心肺	自己血回収	ロボット 支援手術	術中脳神経 モニタリング
定 例	2	0	4073	5	35	39	133	16
緊 急	0	1	9	1	4	9	0	0
総 数	2	0	4082	6	39	48	133	16
	ペースメーカ (埋込、交換)	ペースメーカ (チェック)	ペースメーカ (手術立会)	シャント PTA	IABP	ECMO	心カテ (CAG)	心カテ (PCI)
定 例	53	1136	64	16	0	0	230	180
緊 急	1	31	17	5	3	1	5	44
総 数	54	1167	81	21	3	1	235	224
	アブレー ション	高気圧治療	頸動脈 ステント治療	低体温療法	血管焼灼			
定 例	97	499	10	0	14			
緊 急	0	24	0	6	0			
総 数	97	523	10	6	14			



研修・教育



カンファレンス等

名称	開催頻度
臨床工学室カンファレンス	1 回/月
透析センターカンファレンス	1 回/週
アブレーションカンファレンス	1 回/週
呼吸ケアサポートチーム (RST)	1 回/週

講義等

名称	開催日	対象	担当講師
新研修医オリエンテーション 医療機器	4 月 2 ～ 3 日	新採用研修医	田代
新採用看護師研修 輸液ポンプ・シリンジポンプについて	4 月 25 日	新採用看護師	田代
医療安全研修 生体情報モニター使用時の注意点	7 ～ 11 月	全職員	加来
新規導入研修 人工呼吸器 (Servo n) について	3 ～ 4 月	4A (未熟児) 病棟	川満
新規導入研修 人工呼吸器 (HAMILTON C6) について	4 月 3 日	3A 病棟	川満
CHDF勉強会	10 月 28 日	透析センター	松本
新規導入研修 生体情報モニター (MX500・X3) について	12 月 12 日	4A (未熟児) 病棟	川満

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	1	1

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	1	2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) ～自施設の人工心肺（体外循環システムの紹介）～.

下野恭平.

第11回長崎県臨床工学会体外循環関連セミナー. 長崎, 2025.2.22.

- 2) 脳神経外科手術の術中脳波計測とCEの業務、役割について～てんかん手術の場合～.

八尋智基、加来泰志、杉山哲司、田代博崇.

一般演題 I. 第17回長崎県臨床工学会. 佐世保, 2025.6.1.

<ポスター>

- 1) IVUS Depth調整で血管性状を把握し得た1症例.

川満守、杉山哲司、加来泰志、八尋智基、松本育海、新垣清香、下野恭平、田代博崇.

メディカルスタッフポスターセッション4. 第33回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2025. 大阪, 2025.7.18.

<座長>

- 1) 松本育海.

口演72. 第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

F, G：学術講演他

F-b：学会・研究会座長〔国内学会〕

<座長>

1) 杉山哲司.

PCIとPhysiology and Imagingの基礎. 第8回長崎循環器関連学術セミナー. 長崎, 2025.1.12.

2) 加来泰志.

一般演題Ⅱ. 第51回長崎県人工透析研究会. 大村, 2025.3.2.

3) 松本育海.

一般演題4. 第11回全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術大会. 大分, 2025.6.8.

4) 杉山哲司.

メディカルスタッフ一般演題3：CE. 第39回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会.
鹿児島, 2025.9.5.

G：その他

<コメンテーター>

1) 川満守.

今だから聞きたい！！Physiologyの基本. 長崎, 2025.6.25.

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

医療安全管理室

責任者 黒木 保・井手 時枝

部署の特色

医療施設においては、安全な医療の提供が基本である。そのためには、全職員がその重要性を認識し医療行為を遂行しなければならない。医療安全管理室の業務としては、1) 現場の情報収集および実態調査、2) マニュアルの作成・点検・見直しの提言、3) インシデント・アクシデント報告事例の収集・分析・管理、4) 分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理、5) 改善策の提案・推進とその評価、などである。

毎週火曜日に医療安全管理部会を開催し事例検討や各部門との情報共有を行い、改善策やマニュアル改訂の必要性等を検討している。多職種間で検討することで、さまざまな観点から問題解決の糸口を見つけることができより組織横断的に医療安全に取り組むことが出来るようになった。改善内容は、看護師長会議・医療安全推進担当者会議・管理診療会議・医局会などでの伝達や独自の活動広報誌を作成し周知を図るとともに、日々のラウンドで改善および実践状況の確認を行っている。

1. 医療安全管理室活動実績

月	内 容
1 月	・医療安全Newsレター（Vol.13）発行 ・令和6年度 医療安全対策地域連携評価の開催（連携加算Ⅰ：壱岐病院を評価、連携加算Ⅱ：光武内科循環器科病院を評価） ・「ドレーン・チューブ管理に関する事例」「薬剤のアレルギー情報確認に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知
2 月	・医療安全Newsレター（Vol.14）発行 ・院内緊急コール（ドクターコール、METコール）の現状について、要請件数の推移を共有 ・「検査結果のシステム反映に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討 ・「不眠症診療Webセミナー」の開催 ・気管切開チューブMRI対応表の改訂
3 月	・医療安全Newsレター（Vol.15）発行 ・「転倒・転落による外傷事例」「酸素投与機器の接続不備に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・転倒・転落発生時の対応フローチャートの改訂 ・酸素吸入マニュアルの改訂 ・転倒・転落防止用具一覧の改訂 ・造影剤アレルギー患者へのプレドニン前投与に関する取り決め ・医療安全研修受講実績、BLS研修受講実績の報告
4 月	・医療安全Newsレター 2025年度（Vol.1、Vol.2、Vol.3）発行 ・「与薬業務中の職員負傷事例」「薬剤の保管管理に関する事例」「注射薬剤の投与手順に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・入院中の身体拘束に関する説明・同意書の改訂 ・注射マニュアルの改訂
5 月	・令和7年度医療安全研修年間計画の提示 ・令和7年度BLS研修年間計画の提示 ・「入浴設備利用中の転倒による負傷事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・病棟処置室、シャワー室の施錠管理に関する取り決め ・シャワー室の転倒注意掲示の変更 ・身体拘束マニュアルの改訂 ・転倒転落アセスメントシート運用マニュアルの改訂

6月	・医療安全Newsレター（Vol.4、Vol.5、Vol.6）発行 ・緊急号外「患者誤認」Newsレター（Vol.7）発行 ・「血糖降下薬の投与適応に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・DNAR指示フローチャートの改訂 ・ホルター心電図電極による皮膚障害の現状と対応策の検討 ・ワンショット静脈内注射に関するマニュアルの改訂
7月	・「手術部位のマーキングに関する事例」「手術室入室時の患者確認に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・医療安全管理マニュアル総論、医療安全管理マニュアル各論を更新し電子カルテ、ポータルサイトへ掲載、一部部署を除きマニュアルの電子化 ・医療法で規定された職員研修（医薬品・MRI検査・原子力災害・医療ガス・医療機器・診療用放射線）開催
8月	・病院機能評価受審（8月5日、6日） ・医療安全Newsレター（Vol.8）発行 ・7月分採血の再実施について情報共有 ・転倒・転落事例患者影響レベル3a以上の事例分析
9月	・医療安全Newsレター（Vol.9）発行 ・患者誤認防止対策に関する検討 ・BLS研修 看護部レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ、レベルⅣ研修生を対象 ・「患者持参品の破損事例」「食事介助に関連した事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・11月の患者誤認ゼロ月間の取り組みの決定
10月	・医療安全Newsレター（Vol.10、Vol.11）発行 ・患者誤認ゼロ月間に向けた各部署の対策立案 ・全職員へのBLS研修開催 ・令和7年度病院間医療安全相互チェック「転倒・転落防止策」（10月23日九州医療センターより当院評価、10月30日九州医療センターを評価） ・「採血時の患者確認手順に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討・周知 ・2025年前期の生体情報モニターに関連したインシデントの共有 ・スクリーンセーバーへの注意喚起の掲載を開始
11月	・医療安全Newsレター（Vol.12、Vol.13、Vol.14）発行 ・患者誤認ゼロ月間の取り組み ・医療安全管理部会メンバーによる「患者誤認」をテーマに全部署ラウンド ・「術前のアレルギー情報確認に関する事例」の情報共有と再発防止策の検討 ・患者問診票の改訂と問診票運用基準の作成を検討
12月	・採血等採り直し発生時のフローチャート ・生体情報モニターマニュアル・管理フローの改訂、アラーム対応責任者の役割作成 ・各病棟におけるテクニカルアラームの現状を共有 ・身体拘束最小化の指針、身体拘束の説明同意書、身体拘束実施評価表の改訂

2. 報告状況

<インシデント報告/医療事故報告>

報告件数は2,583件で、昨年より374件増加した。医療事故事例は45件であった。2024年4月より「医師のオカレンスに関する報告基準」を作成し、重症合併症・偶発症の報告促進を行った。その結果、オカレンスは19件で、昨年より11件増加した。アクシデント報告の分類は、治療・処置に関すること14件、療養上の世話に関すること16件、薬剤に関すること3件、ドレーン・チューブ類の使用・管理に関すること5件、その他7件であった。アクシデント事例や警鐘事例は、日本医療機能評価機構及び国立病院機構への報告を行った。院内で周知が必要な警鐘事例やアクシデントは、「周知・警鐘事例」として院内各種委員会やメールにてタイムリーに情報を発信し、再発防止に努めた。また、活動広報誌として年間18枚のNewsレターを作成し、各部署への配布、パソコンへアップすることで職員がいつでも閲覧できる環境を整えている。アクシデントが発生した際は、関係者間における臨時の医療安全会議を開催し、事例の共有と再発防止策の検討を行った。

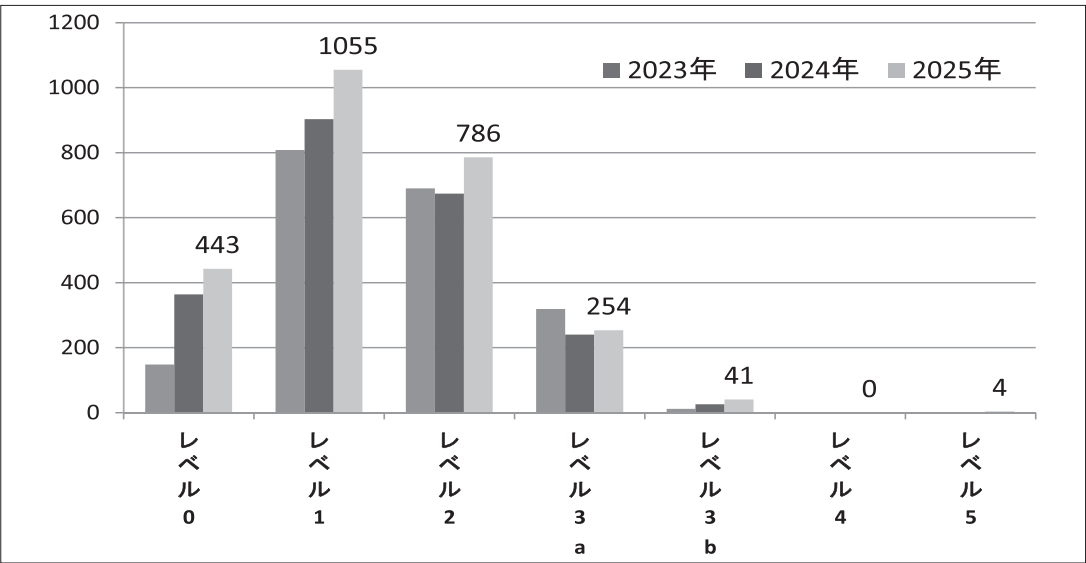
○発生件数年間推移

	2023年	2024年	2025年
発生報告件数全体	1,978件	2,209件	2,583件
医療事故等状況報告	13件	28件	45件
MP報告	7件	10件	14件

○施設外報告状況

報告管理施設	報告内容	件数もしくは報告頻度
日本医療機能評価機構	医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告	13件
	ヒヤリ・ハット事例発生件数報告	4回／年
国立病院機構	医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告	13件

<患者影響レベル別報告件数>



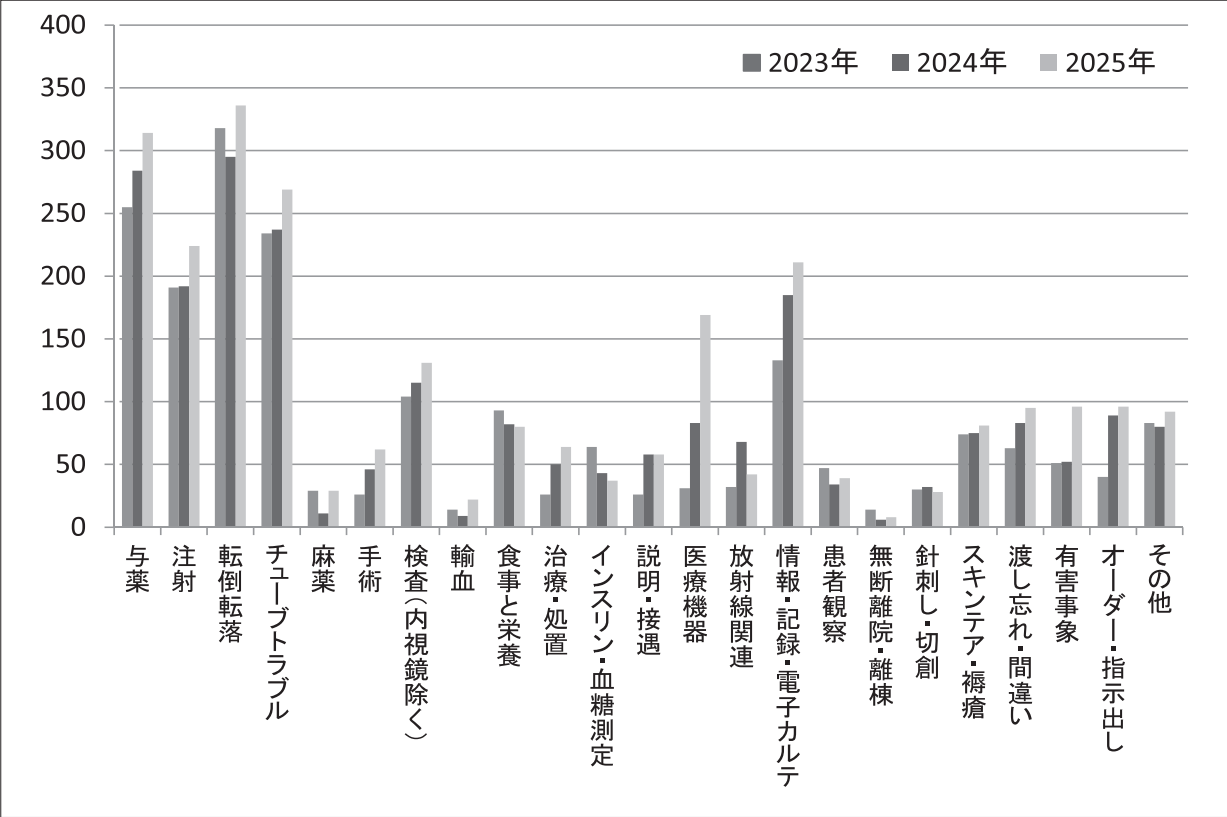
報告件数2,583件に対して各患者影響レベルの報告件数割合は、レベル0が17.2%、レベル1が40.8%、レベル2が30.4%、レベル3aが9.8%、レベル3bが1.6%、レベル5が0.2%であった。積極的なレポート提出を呼びかけた効果もあり2024年より全体件数が214件増えた。11月は患者誤認防止月間として院内での取り組みを行い、患者誤認に関するインシデントは153件（5.9%）であり、全体の報告件数に占める割合は減少したが、患者影響レベル3aの事例が発生した。

<部門別報告件数>

看護部	医師	研修医	薬剤部	放射線	リハビリ	栄養	検査	ME	事務	その他	合計
2,090	124	19	43	65	12	21	66	83	35	25	2,583

全報告件数の80.9%が看護部であり、前年より2.9%増加した。看護部以外は493件（19%）で、前年より3.0%減少した。医師部門（レジデント・研修医含む）は143件で前年より19件減少した。薬剤部は、払い出し間違いや持参薬報告に関連した内容があり前年より21件増加した。放射線科は、前年より74件減少した。リハビリは、リハビリ中の転倒やチューブトラブルがあり前年より4件減少した。栄養科は、異物混入があり前年より8件減少した。検査科は、検体の取り扱いに関する報告や検体提出の気づきの報告が多く上がり、前年より41件増加した。事務は主に書類の取り込み間違いであり、前年より3件減少した。

＜出来事分類別報告件数＞



前年と比較し、与薬・注射・転倒転落・チューブトラブルの発生傾向に大きな変化はなかったが転倒転落による骨折事例が増加した。医療機器では、生体情報モニターに関連した事例、患者影響レベル0やレベル1の報告が増え、2024年より86件増加した。情報・記録・電子カルテでは、書類の取り込み間違いや書類の紛失、誤郵送、カルテの誤記載が多く2024年より26件増加した。有害事象は、主には抗がん剤による報告、点滴や造影剤の血管外漏出があり2024年より44件増加した。

■ ■ 研修・教育

1. カンファレンス

名 称	参加職種	構成人数	実施回数
医療安全管理部会	医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師・理学療法士・栄養士・臨床工学技士・専門職・医療安全管理係長	17人	1 回/週

2. 確認行動チェック

名 称	監査委員	実施回数
確認行動チェック (内服・注射・インスリン)	副看護師長・医療安全推進担当者	6 回/年

3. 病棟ラウンド

名 称	監査委員	実施回数
生体情報モニター	副看護師長・医療安全推進担当者	2 回/年

4. 研修会開催状況

医療ガス・医薬品・医療機器・診療放射線・MRI・原子力災害の6つの分野で、医療安全職員研修を開催し、受講は研修動画の視聴、及びWeb上のテスト問題への回答にて実施した。BLS研修は、全職員を対象とし各自、自己学習を行った上で15分ずつの実技試験のみを受ける形で実施した。2024年度の診療報酬改定において、身体拘束最小化の取組みが必須化となり事務職員以外の全職員を対象に集合研修を開催した。

開催日	研修名	講師 実技試験チェック者 e-ラーニング教育媒体	対象者	実施回数	受講者数
9/3・9/5・ 9/9・9/17・ 9/25・9/29・ 10/9・10/22・ 11/13・11/26・ 12/11・12/24	BLS研修	高度救命救急センター医師、 総合診療科医師、 JNP、 医療安全管理係長、 医療安全専従看護師、 副看護師長	レベルⅠ看護師 レベルⅡ看護師 レベルⅢ看護師 レベルⅣ看護師 医療従事者 非医療従事者	12	1,041
7/1～11/30	医療ガスの取り扱い 酸素ボンベの取り扱い	公益財団法人医療機器セン ター作成動画	全職員	各自 Web	1,192
	医療安全（医薬品） 医薬品の安全使用	薬剤部作成動画			
	原子力災害医療に関する 基礎知識	国立研究開発法人量子科学技 術研究開発機構作成動画			
	MRI検査の安全使用	放射線科作成動画			
	生体情報モニター 使用時の注意点	臨床工学技士作成動画	医師・看護師		832
集合研修 11/11・11/12・ 11/18・11/20 Web 12/3～12/31	身体拘束最小化に関する 研修	聖隷三方原病院 「身体拘束ゼロ病棟達成に向 けて」動画	医師・看護師 診療放射線技師 言語聴覚士	集合 Web	860
			事務職を除く 全職員		1,010

5. 講義

- 1) 看護学統合実習「組織で取り組む医療安全の実際」活水女子大学看護学部4年生 2025.7.10
- 2) 医療安全管理論「組織で取り組む医療安全の実際」活水女子大学看護学部2年生 2025.12.5
- 3) 令和7年度看護師特定行為研修「現場におけるエラーや事故の要因と対策」2025.7.31
- 4) 令和7年度看護師特定行為研修「医療事故発生時とその後の対応」2025.8.12
- 5) 令和7年度看護師特定行為研修「医療安全体制の構築に関する事例検討」2025.8.13
- 6) 令和7年度看護師特定行為研修「医療安全に関する実習」2025.8.21

6. 学会発表

- 1) 第79回国立病院総合医学会「アレルギー薬剤投与によるアナフィラキシー発症予防に向けた医療安全管理室の取り組み」西田美咲 石川県金沢市. 2025.11.7

National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center
BLS研修・RRS

責任者 中道 親昭・井手 時枝

診療科の特色**1. 概要**

BLS（Basic Life Support；一次救命処置）は、日常生活において突発する健康危機に対して、即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムであり、反復教育が有効とされている。2020年の心肺蘇生ガイドラインでは、質の高いCPRを目標に胸骨圧迫の重要性が増し、少しでも早く胸骨圧迫を開始し中断時間を短くすることが求められている。当院では2004年より本格的にBLS研修を開始し今年で22年目となった。長崎医療センターに勤務している職員としての自覚を持ち、いつでも救命処置やAED（自動体外式除細動器）が使用できるようになることを目的とし全職員を対象に開催している。2023年より感染対策と働き方改革を考慮し、各自自己学習（動画視聴と資料閲覧）を行った上で15分ずつのBLS実技試験のみを受ける受講形式へ変更した。BLS研修受講者には、毎年色の異なる受講済シールを発行し、医療安全管理室で受講終了した職員を把握している。

当院では、急変に陥る前に患者の状態変化を察知し適切な医療介入ができるように、救急科医師を中心に2017年度よりRRS（Rapid Response System；院内急変対応システム）を導入している。RRSはMET（Medical Emergency Team；急変対応チーム）コールと時間外救急科コールで構成されている。METコールを効果的に活用するため、2024年2月よりドクターコールの要請基準を「呼びかけに反応なし」から、「呼吸・循環なし」の要請基準へ変更した。また、2025年9月より急性・重症患者看護専門看護師を中心としたCCOT（Critical Care Outreach Team）ラウンドを開始し、より早期に急変リスクの評価と介入を行うとともに、看護師のアセスメント能力の向上を図っている。

2. 実績

BLS研修の受講数は増加しており2025年の受講者数は1,021名、受講率は87.5%であった。ドクターコール件数は23件と前年より2件減少した。ドクターコールのうち心肺停止での要請は17件、DNARとDNIを除く心拍再開は5件（自己心拍再開率29.4%）であった。ドクターコールの発生場所は、病棟16件、透析室3件、正面玄関2件、外来駐車場・救急外来駐車場がそれぞれ1件ずつであった。1年間のMETコール要請件数は14件から23件へと9件増加し、要請者の内訳は医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士と多職種にわたった。1年間の時間外救急科コールは98件と前年より20件増加した。

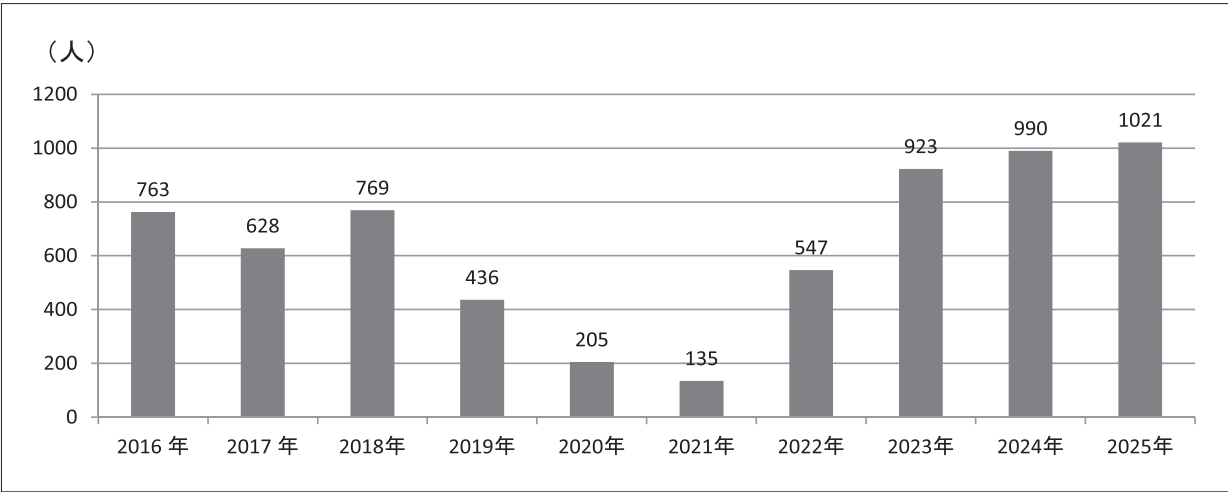
3. 効果

BLS研修の受講者数・受講率とも増加傾向にあり、院内急変時のBLSの質向上に貢献している可能性がある。

また、2025年の予期せぬ心停止（事前にDNARが明示されていない心停止）数は15件と前年より10件減少している。METコール、時間外救急科コールの増加とともに予期せぬ心停止数は減少している傾向にある。職種にかかわらず状態悪化を早期に認知しMETコールもしくは時間外救急科コールを行い複数科・多職種で適切に連携する事で、防ぎえた死を回避し患者の予後改善を図るシステムが確立されており、RRSは院内のセーフティネットとして機能している。

BLS研修受講状況

1. BLS受講者の推移（件）



2. BLS受講者の月別受講推移（人）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
2016	78	73	38	38	81	79	72	70	93	93	48	763
2017	75	64	26	10	52	62	83	80	80	48	48	628
2018	42	75	71	48	65	83	83	79	80	75	68	769
2019	47	42	33	33	17	0	0	0	82	90	92	436
2020	41	85	0	0	0	0	79	0	0	0	0	205
2021	0	0	0	0	38	0	97	0	0	0	0	135
2022	0	0	0	0	0	34	80	89	147	92	105	547
2023	125	98	99	0	0	19	133	167	118	74	90	923
2024	64	66	153	0	0	0	40	329	144	107	87	990
2025	160	103	11	0	0	0	6	206	181	182	172	1,021

3. BLS受講者数・ドクターコール・METコール・時間外救急科コール件数と予期せぬ心停止件数の推移

※予期せぬ心停止：事前にDNARが明示されていなかった心停止

	BLS受講者数 （人）	ドクターコール 件数	METコール 件数	時間外救急科コール 件数	予期せぬ心停止 件数
2016年	763	29			28
2017年	628	30	6		28
2018年	769	47	5		47
2019年	436	48	5	16	48
2020年	205	52	10	14	51
2021年	135	30	2	34	29
2022年	547	44	5	39	44
2023年	923	37	3	71	36
2024年	990	25	14	78	25
2025年	1,021	23	23	98	15

National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center
感染対策チーム

責任者 近藤 晃

診療部門の特色

安心、安全で良質な医療は、検査や手術といった診断・治療手技の充実だけでは達成できない。病院で生じる危険性のある様々な感染症（医療関連感染）を未然に防ぎ、万一の場合は迅速かつ適切に対応することが不可欠である。感染対策チーム（以下ICT）は、感染対策委員会の下部組織として、院内で起こる様々な感染症から患者さんと職員の安全を守るために活動を行う組織である。

ICTのコアメンバーは、感染制御部室の部長（副院長）、ICDの室長と副室長、専従看護師である。さらにメンバーとして、ICD、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、放射線技師、療法士、事務職員など多職種が参加し、週1回のミーティングで感染対策に関する報告や協議を行っている。

ICTの任務は、感染症の発生状況調査と報告（サーベイランス）、日頃の感染症発生予防と対策についての検討、さらに病院全職員への教育、啓発等であり、アウトブレイク時には、感染対策委員会メンバーと臨時の緊急ミーティングを開催し、収束に向けた対応を行っている。地道な作業と迅速な対応が求められる。

令和3年10月1日、第2種感染症指定医療機関の指定を受け「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」6条3号に規定する第2種感染症に対応できるように、陰圧病床を確保し空気感染予防策が必要な患者を対象に稼働している。

その他、HIV/エイズ診療拠点病院でもあり、地域連携として、長崎県内の相談を受ける体制も整えている。

【沿革】

平成11年4月	リンクナース会議に向けての準備委員会発足
平成11年10月	リンクナース会議発足。1名のリンクナースが各病棟に配置
平成16年1月	院内感染予防委員会傘下の活動部隊として感染対策チーム（ICT）発足
平成18年4月	看護部以外からもメンバー（薬剤師、検査技師、栄養士）が参加し、リンクナース会議からリンクスタッフ会議へ名称変更
平成26年4月	リンクスタッフから感染リンクスタッフへ名称変更
平成28年11月	ICT会議および感染リンクスタッフ会議に放射線科とリハビリセンターより参加
平成31年4月	院内感染予防委員会より感染対策委員会へ名称変更
令和元年9月	感染制御部室発足
令和6年4月	感染リンクスタッフ会議に診療看護師（JNP）参加

■ 入院診療実績

1. 会議

名 称	参 加 職 種	参加人数 (平均)	実施回数
感染対策委員会	医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務、研修医	14	12回/年
ICTミーティング	医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務	16	1回/週
ICTラウンド	医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、事務	5	1回/週
感染リンクスタッフ 連絡会議	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、栄養士、療法士、JNP	31	1回/月

2. ICT活動

1) サーベイランス

名 称	対 象	目 標	結 果
手指消毒回数	全部署	16回以上/患者/日	平均18.1回/患者/日
手指衛生観察数		100機会以上/月	平均317.4機会/月
手術部位感染	大腸手術	感染0件/年	9件/年
	直腸手術		4件/年
	人工関節		0件/年
	開頭術		4件/年
中心静脈カテーテル	全病棟		21件/年
尿道留置カテーテル	全病棟		94件/年
針刺し切創・粘膜汚染	全職員	13件以下/年	30件/年
インフルエンザ（院内発生）	全患者	0件/年	4件/年
新型コロナウイルス感染症（院内発生）	全患者	0件/年	10件/年
多剤耐性菌 （院内発生・持ち込み含む）	全患者	0件/年	MDRA：0件/年 MDRP：0件/年 CRE・CPE：2件/年 VRE：0件/年

耐性菌発生防止や感染症対策として基本である標準予防策の徹底、特に手指衛生の向上を目標に活動している。手指衛生直接観察法を取り入れ、観察者の育成も集合教育で実施している。観察数の目標を100機会/月以上、患者一人当たりの手指衛生回数16回/日を目標とし、ほぼすべての部署で目標観察数をクリアできるようになり、自部署の手指衛生の評価を、業務として位置付け取り組めるようになってきた。WHO手指衛生「5つのタイミング」別の手指衛生実施率は80%以上を概ね達成できているが、使用量との乖離がある部署もあり、適切なタイミングや一回使用量についての教育の継続が必要である。厚生労働省院内感染サーベイランス（JANIS）、厚生労働省委託事業AMRサーベイランス（J-SIPHE）、職業感染制御研究会（EPNET）、長崎県耐性菌ネットワーク等に参加し、近隣や全国の施設との比較を行っている。耐性菌はMRSAは減少傾向であるが、ESBL産生菌、多剤耐性菌の検出が増加傾向であり、令和7年度はNICUでのMRSA、ESBL産生菌や2部署でのCDIアウトブレイクを経験した。標準予防策の徹底とともに、抗菌薬適正使用についても教育が必要である。

2) ICTラウンド

毎週のICTミーティング後に、高度救命救急センター、小児病棟（未熟児）は毎週、他の病棟はテーマごとに毎月1回、病棟以外の部署は2か月に1回、ICTメンバーにてラウンドし、チェック表に基づき感染対策が適切に遂行されているか確認し、環境改善について指導している。ラウンド結果は報告書として部署へ提示し改善活動を行ってもらい、改善できているかについても確認を行っている。8月に病院機能評価を受審し、汚染リネンや感染性廃棄物の取り扱いなどマニュアルに沿った適切な環境となるように再度調整を行った。適切な環境を維持できているか、ラウンド時に確認を行っている。

3) アウトブレイク対応

平成31年3月、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）によるアウトブレイクが高度救命救急センターで発生した。以降保菌患者2名が入院中である。令和6年12月から令和7年2月の期間においてNICUにてMRSA 7名、ESBL 7名のアウトブレイクが発生した。原因と考えられる職員の手指衛生など標準予防策の徹底、不要なシンクの撤去など、狭い医療スペースをできる限り整理整頓し、空間的に広くすることで交差感染を防ぐことを目的にNICU全体のレイアウトを見直した。また同時に患者ゾーンを中心とした環境整備を強化し、収束させることができた。10月には2つの病棟でCDIアウトブレイクが発生し、石鹸と流水手洗いや接触予防策の実践と、職員にアルコール手指消毒だけでなく、場面に合わせた適切な手指衛生の方法と平時からの環境整備の徹底について再度教育を行い、収束させることができた。

4) 抗菌薬使用支援

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）として、感染症治療に難渋する症例に対して、感染対策チーム所属の医師が主治医と情報共有し、治療法を評価し、週1回の抗菌薬使用支援チームで検討している。血液培養陽性約600症例の治療法の評価、薬剤耐性の抑制、広域抗菌薬使用量の削減に取り組んでいる。抗MRSA薬と広域抗菌薬は、届出制または許可制としている。届出方法の改善、届出の意義の浸透により、届出率は100%である。2週間以上の長期投与薬に関しては、抗菌薬支援チームで検討、使用法の改善等を提案した。

抗菌薬使用動向調査システムに参加し、抗菌薬使用密度（AUD）を算出して、当院の抗菌薬の使用状況を確認しており、地域連携医療機関と比較検討も行っている。

検査部門においては、エンピリック治療を開始する際に重要な情報源として、当院主要臨床分離株の薬剤感受性情報であるアンチバイオグラムを作成している。これにより、当院検出菌の薬剤感受性および耐性菌の動向を把握し、現場にフィードバックしている。

5) 広報

院内外の感染症情報を収集し、9月からはICT・ASTニュースレターを発行し、院内に広報している。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に関しては「大村市パンデミック対策協議会」からの情報をまとめ、注意喚起している。また10月を“手洗い強化キャンペーン”とし、スクリーンセーバーでの呼びかけなど院内全体への手洗い習慣の教育の機会とした。

6) 医療用器材の管理

ラウンドを行い、スポルディングの分類（器具の使用目的による洗浄消毒等の処理の分類）に沿って正しく管理されているか確認している。

7) ワクチン接種

2025年度より職員のMMRV：麻疹（measles）、おたふく風邪（mumps）、風疹（rubella）、水ぼうそう（varicella）の予防ワクチン接種に関しては、入職時に証明書を提出してもらい、ICTと一緒に結果について確認し、追加接種が必要な職員には職員係により連絡、管理してもらっている。インフルエンザワクチンは接種計画に協力し、10月に実施（接種率94.9%）した。

8) 結核接触者健診

3例において患者6名、職員延べ44名を対象に結核接触者検診を行った。直後、3カ月まで経過を確認し、感染者は認めなかった。

9) 結核カンファレンス

DOTSカンファレンスを県央保健所、県南保健所と一緒に、2か月に1回実施した。

10) 地域連携

感染対策向上加算および外来感染対策向上加算の新設により狭義の感染対策に加え、抗菌薬適正使用および新興感染症対策を含めた、地域における感染対策ネットワークの構築が推進されている。連携医療機関や医師

会、保健所との連携により感染対策のレベル向上を目的に、年4回のカンファレンスや訓練に参加し、耐性菌や抗菌薬使用の報告を受け、フィードバックを行った。

(1) 相互評価

開催日	内 容
7月14日	諫早総合病院と国立病院機構嬉野医療センターが国立病院機構長崎医療センターを評価
9月29日	国立病院機構長崎医療センターが諫早総合病院を評価
10月9日	国立病院機構長崎医療センターが国立病院機構嬉野医療センターを評価

(2) カンファレンス

感染症、抗菌薬、耐性菌、手指衛生について検討している。3回目は県央地域の加算1医療機関とその連携医療機関、医師会、保健所の参加で、諫早総合病院会議室にて、新興感染症対応について合同訓練を実施した。

開催日	参加施設
5月19日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院
9月8日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院
10月16日	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院、諫早総合病院、市立大村市民病院、諫早原爆病院
2026年 2月2日予定	県央保健所、大村医師会、南野病院、国立病院機構長崎川棚医療センター、国立病院機構長崎病院

(3) 連携指導

開催日	訪問医療機関
11月13日	国立病院機構長崎病院
11月27日	南野病院
12月1日	田川小児科
12月4日	国立病院機構長崎川棚医療センター

■ 研修・教育

院内研修会

開催日	研修名称	参加数
6/4～6/9（8回）	手指衛生直接観察者育成講習会	214名
前期（7/1～9/30）	もう一度確認する標準予防策	1193名
	感染経路別予防策の基本	1192名
	新型コロナウイルス感染症の基本	321名
	抗菌薬投与の基本～患者モニタリング～	870名
	抗菌薬投与の基本～敗血症について～	870名
後期 （11/1～2026/1/31）	感染経路別にみた感染症の理解	1195名
	抗菌薬の適正使用	871名
	薬剤耐性（AMR）対策に必要な実践上の注意点	871名
	注意すべき感染症の動向～麻疹・風疹など～	323名
	インフルエンザの基本	323名
6月27日	研修医コアセミナー 抗菌薬1	27名
7月4日	研修医コアセミナー 抗菌薬2	30名
7月11日	研修医コアセミナー 抗菌薬3	29名

院外研修会

開催日	主催	テーマ	担当
7月11日	活水女子大学	看護学統合実習「感染管理体制」	木場みちよ
5月23日	長崎県看護キャリア支援センター	新人看護職員研修「感染管理の基本」	木場みちよ
7月30日	長崎県看護協会	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際	木場みちよ
8月8日	長崎県看護協会	感染対策の現状と課題 演習支援	木場みちよ
9月30日	九州グループ	感染管理エキスパートナース研修 洗浄・消毒・滅菌	木場みちよ
10月1日	九州グループ	感染管理エキスパートナース研修 演習支援	中村みさ

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3		

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b2：一般演題

- 1) 外科医師の手指衛生への意識及び行動変容につながったカルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌アウトブレイク。
木場みちよ、中村みさ、川畑貴寛、窪田佳史、永井友基、近藤晃。
第13回日本感染管理ネットワーク学会学術集会. 福岡, 2025.5.10.
- 2) 当院で経験したカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌（Carbapenemase-Producing Enterobacteriaceae：CPE）
アウトブレイク事例。
近藤晃、木場みちよ、泉川公一、田中健之、柳原克紀、迎寛。
第14回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜, 2025.7.11.
- 3) 当院で経験した：CPEアウトブレイク事例における感染対策。
近藤晃、木場みちよ、泉川公一、田中健之、柳原克紀、迎寛。
第14回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜, 2025.7.11.



クリティカルパス

責任者 松尾 崇史

委員会の紹介

本委員会は、医療の標準化、質の向上、効率化を目指し、2か月毎に定例会を開催している。定例会ではパスの使用率向上を目指し、新規パスの開発、既存パスの見直し・改訂、運用上の問題など検討を行っている。

2009年9月にパスが新電子カルテへ移行され、電子化されたパスの作成、運用方法やバリエーション分析方法の標準化を行ってきた。また、一昨年より看護師の業務効率化を図る目的でパスのアウトカム評価を看護記録として使用できるようにアウトカムの表現の見直し作業を開始し、本年も継続して作業を行ってきた。運用開始ができていないパスがまだ多く残っており、今後、すべてのパスで運用できるように作業を進めていく予定である。アウトカム評価を看護記録として使用していくためには、アウトカム未評価率やパス未終了率0%にすることが重要であり、各病棟のパス委員から診療科医師、診療にかかわるコメディカルスタッフに働きかけを行っており、パスを使用している各診療科、各病棟スタッフの方々の協力が必須である。

昨年に続き、2026年2月16日にパス大会を開催した。パスの運用にあたっては、多職種の連携・協力が必須であり、今回のパス大会では、互いの理解を深める目的に、看護部、栄養科、薬剤部、検査科より各部署での取り組み等について発表を行っていただいた。48名の参加者があり、アンケートの結果より、医師とコメディカルの連携が不十分であるために、既存のパスの改訂や新規パス作成が進んでいない実情がわかった。クリパス使用を通じた医療の標準化・質の向上・業務の効率化・病院の収益向上の為に、普段のクリパスに関する活動についての医師への働きかけや各スタッフへの周知徹底が今後の課題である。2025年度の改定パス26件、新規パス5件、削除パス4件であり、登録パス数は194件となった。

パス適用率は全体が44.0%（前年比+1.1%）。パス使用件数が100件を超える科の中で、眼科99.8%、呼吸器外科99.0%、肝臓内科95.9%、乳腺内分泌外科94.5%の4診療科が90%以上の高い適用率であった。病棟別では、適用率が高い順に7 A病棟76.8%、8 A病棟73.2%、6 A病棟67.1%、4 B病棟61.9%であった。

研修・教育

2026年2月16日 パス大会を開催

2026年2月27日 令和7年度クリティカルパス実践研修会への参加

■ 入院診療実績

1) 使用実績

2025年

病棟別	パス 開始数	新入院 患者数	適用率 (%)
救命センター	17	1,193	1.4
3 B病棟	120	504	23.8
4 A病棟 (小児)	360	1,080	33.3
4 A病棟 (未)	0	104	0
4 B病棟	870	1,357	64.1
5 A病棟	811	1,455	55.7
5 B病棟	834	1,507	55.3
6 A病棟	702	1,154	60.8
6 B病棟	124	691	17.9
7 A病棟	918	1,183	77.6
7 B病棟	6	159	3.8
7 B (感) 病棟	0	35	0
8 A病棟	659	940	70.1
8 B病棟	614	1,417	43.3
9 A病棟	55	1,079	5.1
9 B病棟	7	16	43.8
総計	6,106	13,874	44

診療科別	パス 開始数	新入院 患者数	適用率 (%)
総合診療科	15	2,039	0.7
血液内科	10	518	1.9
腎臓内科	162	279	58.1
内分泌・代謝	24	113	21.2
救急科	2	171	1.2
消化管内科	508	965	52.6
肝臓内科	720	751	95.9
呼吸器内科	71	677	10.5
循環器内科	537	671	80
脳神経内科	16	396	4
精神科	14	13	107.7
小児科	234	1,128	20.7
新生児科	0	0	0
外科	723	805	89.8
乳腺内分泌外科	274	290	94.5
呼吸器外科	103	104	99
心臓血管外科	39	104	37.5
整形外科	104	635	16.4
形成外科	27	365	7.4
脳神経外科	116	533	21.8
皮膚科	84	132	63.6
泌尿器科	548	705	77.7
産婦人科	866	1,287	67.3
眼科	470	471	99.8
耳鼻咽喉科	429	639	67.1
リウマチ科	1	81	1.2
麻酔科	0	0	0
放射線科	0	2	0
総計	6,106	13,874	44

 National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center 総合情報センター	責任者 山崎 一美
---	-----------

診療部門の特色と歴呈

国立病院機構長崎医療センターにおける病院情報システムの目的は、①医療情報の蓄積・共有化による医療の質的向上を図り、患者中心の医療に寄与すること、②国立病院等総合情報ネットワークシステム（HOSPnet）、政策医療ネットワーク等と連携しつつ高度先駆的医療をサポートすることである。

上記の目的に対し、総合情報センターでは、電子カルテの管理と運用フローの最適化、システム障害の対応と解決、機器の保守・点検、および院内向け情報の発信、病院ホームページの管理などを行っている。さらに個人情報保護およびコンピューターウイルス感染の問題などの課題に対して、職員教育、セキュリティ強化対策を日々検討している。院内の情報ネットワークはHOSPnetと独自ネットワークのNMCnet（2014年1月開始）を併用してきた。またグループウェアを用い、院内業務の作業および費用の効率化の一助を担ってきた。2018年はセキュリティ強化のため新情報系HOSPnetへ移行した。これに伴い独自のネットワークであったNMCnetは廃止され、NHO本部管理の新たなネットワークが始まった。

当院の地域医療連携の推進のために、2004年10月からNPO法人「あじさいネット」に参加した。同意が得られた当院患者の診療情報を地域診療所へ開示し情報共有をしている。運用開始から16年が経過し、この間あじさいネットを利用した連携患者数は1か月200例前後で、2020年は年間連携数が調剤薬局・在宅医療との連携も含めて1,899件で累計連携患者数は38,572件となった。地域連携システムは2011年1月からクラウド型システム（HumanBridge）に移行し、双方向性連携としてWEB紹介状や地域連携メールによる、かかりつけ医からの情報提供も行われている。2012年10月からは診療所からの放射線機器利用のWEB予約システムを稼働させ、在宅医療においても本システムを利用した運用を開始した。2017年12月あじさいネットによる長崎大学病院との病病連携の締結をし、2018年運用を開始した。当院のあじさいネット会員は24名となった。

2009年9月14日に更新した電子カルテシステム（富士通EGMAIN-GX）は順調に稼働していたが、2012年5月のV02からV04へのレベルアップを経て2014年9月16日にV06へのバージョンアップとハードウェアおよび部門システムの全面更新を行った。200を超える新機能を搭載した最新のシステムとなり、透析システムおよびモバイル端末を使用した電子カルテ参照システム（Pocket Chart）の新規追加、レジメン機能や持参薬管理システムを導入した。上記のような変更に伴い2015年3月には院内情報システム運用規定集の改定を行った。2015年8月にはリビジョンアップを行った。2016年は電子カルテの代行入力を開始。なお外来診療のみの限定とした。2016年11月には特定共同指導を受け、カルテ1号用紙の再確認を行った。2019年8月には電子カルテシステムのレベルアップを行いGX Ver.08に移行した。

また災害時対策として、2012年2月より日本で初めてとなる緊急時参照機能を装備した遠隔地バックアップシステムを稼働させ、災害時の拠点病院としての役割が果たせるようBCP（事業継続計画）の実行を進めている。

2021年8月9日あじさいネットで病病連携を開始した。

2021年12月19日病院情報システムの全面更新を行った。本部指示に対応して予定より1年3カ月遅れての更新となった。同時に看護業務支援システム（スポットチェックモニター）を導入した。当院が策定した更新の予算額にNHO本部の同意が得られず、予算を減額せざるをえず、ネットワークの更新を断念した。ネットワークは2023年で9年目を迎え、突発的に停止するリスクがあるため、緊張感をもって対応してきた。

2023年度、改めてネットワーク更新について本部に説明を行ったが、更新は終了済みとして同意いただけなかった。実際は更新できていない。診療継続に支障を来さないよう、引き続き本部に説明を継続し、理解をいただく。

2024年度も再度ネットワーク更新の費用について統括部に要望したが、いまだ同意の返事がない。経年劣化によるエッジスイッチの損傷も発生し診療に障害が発生した。引き続き説明を継続し、理解をいただく。

2025年度はネットワークのトラブルが続発し診療の継続に影響が発生した。その経過もありついに統括部および機構本部の同意が得られネットワークの更新が同意された。2014年9月から11年を経過していた。2026年8月に入札が予定されている。昨今のIT機器の高騰など時間の経過とともに機器の導入までには以前より障害が拡大している。なおネットワーク監視、EDRの装備については統括部の理解は得られていない。

■ ■ 入院診療実績

新採用者電子カルテ操作研修

	日	対象	参加人数
第1回	2025/4/3	医師	20
第2回	2025/4/8	研修医	21
第3回	2025/5/1	医師	1
第4回	2025/6/3	医師	1
第5回	2025/7/1	医師	1
第6回	2025/7/2	医師	1
第7回	2025/7/8	医師	1
第8回	2025/8/18	医師	1
第9回	2025/9/29	医師	1
第10回	2025/10/1	医師	1
第11回	2025/11/26	医学生	6
合計	11回		55名

■ ■ 研修・教育

カンファレンス

名称	開催頻度
SV会議	1回/月
情報セキュリティ講座（動画）	1回/年



責任者 本村 秀樹

診療部門の特色

診療情報管理室は、病院における診療録等を中央管理する目的で設けられました。また、インフォームド・コンセントの理念に基づいて診療録等に必要な情報を適切に記録するように、医療従事者に対して指導を行い、これを適切に保管管理するとともに診療内容の説明又は診療録等の開示の求めがあった場合には、適切・迅速かつ正確な情報提供ができるように努めています。このことで診療に対して患者さんが積極的に参加できるようになり、患者さんと医療従事者との一層強固な信頼関係の確保を図ることで、より良質な医療提供体制を構築することができると思っています。また、がん登録は、病院におけるがん診療の向上と診療への支援、患者・家族、一般への情報提供、並びに地域及び国の“がん政策”医療のための情報提供を目的としており、院内で診断・治療・受診を行ったがん患者さんについてその診断・治療・予後に関する情報を登録しています。現在のスタッフは診療情報管理士10名を含む13名です。

1. 診療録・統計委員会

診療情報管理室長を委員長とし、隔月1回の定例会を開催し以下の項目に関して審議する。

- ①診療記録等の管理
- ②DPC
- ③年報作成
- ④がん登録
- ⑤診療録多職種監査
- ⑥その他、診療録・統計

2. DST委員会（DPCサポートチーム）

診療報酬管理運営部長を委員長とし年4回開催。診療情報管理室としては適切なコーディング体制確保のため問題提起を行っている。

3. 診療情報管理室カンファレンス

診療報酬管理運営部長と診療情報管理室長、診療情報管理室スタッフで月1回、日常業務などに関してカンファレンスを行っている。

4. がん登録部門カンファレンス

診療情報管理室のがん登録部門と副院長、診療報酬管理運営部長、診療情報管理室長、経営企画室長で隔月カンファレンスを行っている。がん登録部門と医事課の情報交換の場となっている。

5. 県央がんセンター運営会議

県央がんセンター長を委員長とし、隔月開催。がん診療に関する情報を共有している。

6. 業務内容

— 診療情報管理部門 —

- ①診療録等の整理・保管・修正依頼・貸出・閲覧に関する業務

②退院サマリー受取業務

- ・退院日の翌日から14日以内に退院サマリーを完成させるよう推進・受取・督促する

③オーディット業務

- ・診療録のオーディット（診療科別）
- ・入院日から6日目、7日目に入院診療計画書をチェックする
- ・看護サマリーの作成状況を確認する

④DPCに関する業務

- ・様式1の病名を確認する
- ・様式1データを入力・確認・督促する
- ・DPCデータを厚生労働省に提出する

⑤各種統計作成

- ・年報データ作成、統計依頼データ、輸血療法委員会データ

⑥病歴管理システム・eXChartへの退院患者登録業務

⑦その他、診療録の作成、整理に関する事項（詳細は診療録等整理要綱に記載）

ーがん登録部門ー

①対象患者の登録と予後調査

長崎医療センターで運用されている各種データベース並びに診療録情報を用い、診断・治療・受診に関する腫瘍毎の登録を行なう。また、患者毎の予後調査に関する情報を登録する。

②がん登録情報の集計・報告・公開

がん登録情報の集計・解析を行ない、院内外へ報告・公開する。

③がん登録情報の院内への提供

登録情報の集計結果に関する院内への情報提供、並びに「研究者」への情報提供。

④国立がん研究センターへの届出

⑤全国がん登録への届出

⑦長崎県がん拠点病院定例TV会議・研修会・実務者会議への参加

⑧提供資料に関する問い合わせへの対応



研修・教育



<長崎県診療情報管理研究会>

名誉会長： 中原 賢一 医療法人和光会恵寿病院 院長

濱脇 正好 長崎県県北保健所 所長

顧問： 山岡 早苗

会長： 本村 秀樹 長崎医療センター 統括診療部長

副会長： 山口 真樹 十善会病院 医事課

松永 直樹 佐世保市総合医療センター 診療情報管理係

事務局長： 尾崎 真人 長崎医療センター 診療情報管理係長

事務局： 長崎医療センター 診療情報管理室

<開催日時>

・2025年1月25日（土）中止

・2025年4月12日（土）

・2025年7月19日（土）

・2025年10月18日（土）

学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数				

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数		3		2

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				1

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数				3

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-a：特別講演，教育講演

<講演>

- 1) 「スキル×チャット」による業務効率化.

尾崎真人.

令和7年度国臨協九州支部会卒後教育セミナー. 福岡, 2025.9.20.

B-b1：シンポジウム，パネルディスカッション等

<ポスター>

- 1) 新型コロナウイルス流行前後におけるがん登録データの比較検討.

馬場愛.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.8.

B-b2：一般演題

<口演>

- 1) 事務部門における業務効率化の推進.

尾崎真人、白川大、古賀昌志、村上和明.

第51回日本診療情報管理学会学術大会. さいたま, 2025.8.29.

- 2) 事務部作業における業務効率化の推進～スキル×コミュニケーション～.

尾崎真人、白川大.

第79回国立病院総合医学会. 金沢, 2025.11.7.

B-c：研究会発表

<口演>

- 1) 当院のがん登録業務について.
馬場愛.
第62回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.4.12.
- 2) 生成AIを使ってみよう.
尾崎真人.
第64回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.10.18.

E, F：学術講演他

E：研究会世話人

<研究会責任者>

- 1) 本村秀樹.
第62回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.4.12.
- 2) 本村秀樹.
第63回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.7.19.
- 3) 本村秀樹.
第64回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.10.18.

F-b：学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

- 1) 難聴、人工内耳について最近の話題.
本村秀樹.
第62回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.4.12.
- 2) まずは、自分を知ろう！それから、話を聴いてみよう！.
本村秀樹.
第63回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.7.19.
- 3) 不整脈診断の基本である12誘導心電図の臨床の現場における最近の動向.
本村秀樹.
第64回長崎県診療情報管理研究会. 長崎, 2025.10.18.



責任者 田川 努・吉田 真一郎

センターの特色

長崎医療センターは、県央地区唯一の厚生労働省指定「地域がん診療連携拠点病院」で、以前より質の高いがん医療の提供に努めて参りました。

2014年10月1日からは診療部門の一組織であった「がん診療センター」を格上げし、「県央がんセンター」を設置し、がん治療における高度医療提供をさらに推進しています。

具体的には、内科系、外科系、中央診療部門など各専門診療科に緩和ケア内科や腫瘍内科を新規開設したがん診療に加え、がん診療支援部として多職種からなる緩和ケアチームや、患者さんとその家族が安心・納得して治療を受けられるよう支援する患者サポートチームの強化、さらには最新のがん診断装置であるPET/CTと高精度放射線治療装置が導入され、がん診療に対する当院の機能が拡充されました。

2015年4月から長崎医療センターの目抜き通りともいべき病院受付から病棟に至る通路に面して、「県央がんセンター」の窓口を「患者サポート室」とともに開設しました。これによりがん相談は通常の相談とともに増加し、「県央がんセンター」の大きな目的である相談支援部門の充実が実現しました。2018年からは、「がん患者就労支援」や「Advance Care Planning (ACP)」にも相談窓口を広げています。2022年は、長崎県のピアサポーター養成研修を受講したがんサバイバーの参加によるがんサロンを開催しました。また、ハローワーク諫早による長期療養者就職支援事業に基づく出張相談に加え、患者の治療と仕事の両立を目的とした長崎産業保健総合支援センターによる出張相談も開設しました。2023年は、毎月の「がんサロンの際」に「がん関連の倫理カンファレンス」を同時に開催することとしました。これまで治療法の検討が中心であった「がんサロンの際」の内容が拡がり、医師のみでなく病棟看護師などの参加が増加することになって、さらに患者さんにより沿った議論や検討が多職種で行えるように改善されました。2024年は、診療報酬改定で、薬剤師外来に関連するがん薬物療法体制充実加算が新設され、順調に算定できています。また、相談支援部門では、県の派遣事業を利用して、ピアサポーターにご参画いただき、毎月がんサロンを実施し、患者・家族同士の交流の場を提供しております。

以上のように、県央地域の「地域がん診療連携拠点病院」としてがん診療に邁進し、地域の皆様及び連携医療機関様に対し質の高いがん医療を提供します。

がん診療支援部 診療実績

①がん登録：院内がん登録室の頁を参照

②化学療法：

2025年の入院・外来における抗がん剤無菌調製件数

2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2025年入院	277	218	239	266	282	244	302	262	247	332	281	294	3244
2025年外来	472	442	454	502	448	447	469	438	436	494	383	431	5416
計	749	660	693	768	730	691	771	700	683	826	664	725	8660
2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2024年入院	290	335	280	330	294	280	254	349	337	389	329	307	3774
2024年外来	435	468	451	500	508	444	524	516	467	499	446	485	5743
計	725	803	731	830	802	724	778	865	804	888	775	792	9517

2025年の外来における「薬剤管理指導」件数

2025年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
化学療法センター	256	233	255	259	281	279	317	291	277	282	269	246	3245
(2024年)	215	224	226	211	226	266	312	266	278	278	446	485	3433

2025年の外来における「連携充実加算」算定件数

2025年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
算定件数	193	173	183	207	190	187	184	174	193	181	176	191	2232
(2024年)	165	179	178	189	184	182	197	192	182	199	199	211	2257

2025年の外来における「がん薬物療法体制充実加算」件数

2025年外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
算定件数	140	130	146	137	131	141	153	132	156	162	138	147	1713
(2024年)	0	0	0	0	0	91	149	149	133	147	155	161	985

③緩和医療部門：緩和ケアチームの頁を参照

④相談支援・診療連携部門：

【がん相談支援】

○患者サポート室におけるがん相談件数2025年1月～12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実人数（人）	67	53	70	68	55	73	68	63	64	61	47	49	738
延べ件数（件）	82	66	95	83	63	91	88	81	83	78	66	57	933

○相談内容分類（がん相談支援センター「全国統一版 相談記入シート」に基づく）

がんの治療	8	食事・服薬・入浴・運動・外出など	6
がんの検査	2	介護・看護・養育	3
症状・副作用・後遺症	7	社会生活（仕事・就労・学業）	23
セカンドオピニオン（一般）	0	医療費・生活費・社会保障制度	693
セカンドオピニオン（受入）	0	補完代替療法	0
セカンドオピニオン（他へ紹介）	0	不安・精神的苦痛	32
治療実績	1	告知	2
臨床試験・先進医療	1	医療者との関係・コミュニケーション	8
受診方法・入院	7	患者・家族間の関係・コミュニケーション	22
転院	6	友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	1
医療機関の紹介	14	患者会・家族会（ピア情報）	1
がん予防・検診	1	生きがい・価値観	3
在宅医療	50	不明	
ホスピス・緩和ケア	36		

・就労・両立支援

就職などの雇用に関係する相談をハローワーク諫早による出張相談は毎週木曜日11時～15時開催、仕事復帰や仕事と治療の両立についての相談を長崎産業保健総合支援センターの保健師による出張相談は毎月第3火曜日11時～15時開催。

・がんサロン

長崎県のピアサポーター研修を受けたピアサポーター3名と共同でがんサロン「語らん場」を毎月第2火曜日第4金曜日10時半から12時まで開催。ピアサポーターが自身のがんの経験を話したり、患者・家族の悩みに寄り添って話を聞いたり情報交換を行っている。

⑤研修教育部門：

1) キャンサーボード実施状況（全11回・総参加者数448名）

	開催日	担当科	医師	研修医	看護師	薬剤師	PT/OT	MSW	合計
第142回	1月27日	耳鼻咽喉科	21	1	21			1	44
第143回	2月17日	呼吸器外科	13		19	2		1	35
第144回	3月24日	肝臓胆道外科	16		14	1		1	32
第145回	4月28日	消化管内科	34		24			1	59
第146回	5月26日	乳腺/内分泌内科	21	1	22	2	1	1	48
第147回	6月23日	泌尿器科泌	22		17	1		1	41
第148回	8月25日	消化管外科	24		18			3	45
第149回	9月22日	血液内科	13	1	17	1		1	33
第150回	10月27日	脳神経外科	11		25			1	38
第151回	11月17日	呼吸器内科	13		19	1		1	34
第152回	12月22日	産婦人科	13	2	23			1	39

2) 倫理カンファレンス実施状況

	開催日	担当病棟	テーマ
第21回	1月27日	5B病棟	危機管理理論を用いた長期入院患者の看護の振り返り
第22回	2月17日	6A病棟	病状未告知患者への退院支援について
第23回	3月24日	3A病棟	3 A病棟での看護実践の報告
第24回	4月28日	8B/治検	放射線治療開始後に状態が悪化し治療中止となった患者への関わりを振り返る
第25回	5月26日	7A病棟	救急搬送・緊急手術で進行がんが分かったAさんと家族へのケアを考える
第26回	6月23日	5A病棟	患者の意思決定に医療者の価値観が重視された可能性がある事例の検討
第27回	8月25日	外来/医相	経済的な問題で望んでいる治療の中断を余儀なくされた一例
第28回	9月22日	9A病棟	うつ病（自殺企図あり）の既往がある患者に対してどのようにバッドニュースを伝えるか
第29回	10月27日	3B病棟	ALS患者意思決定支援の援助
第30回	11月17日	6B/7B	突然の余命宣告 ～私たちが支援できること～
第31回	12月22日	4A/4B	子宮頸がん患者の看護を振り返る～自宅退院を目指す患者とその家族の関わり～

⑥放射線治療部門：放射線科の頁を参照

⑦地域連携パス部門：

【がん地域連携パス：連携患者数】

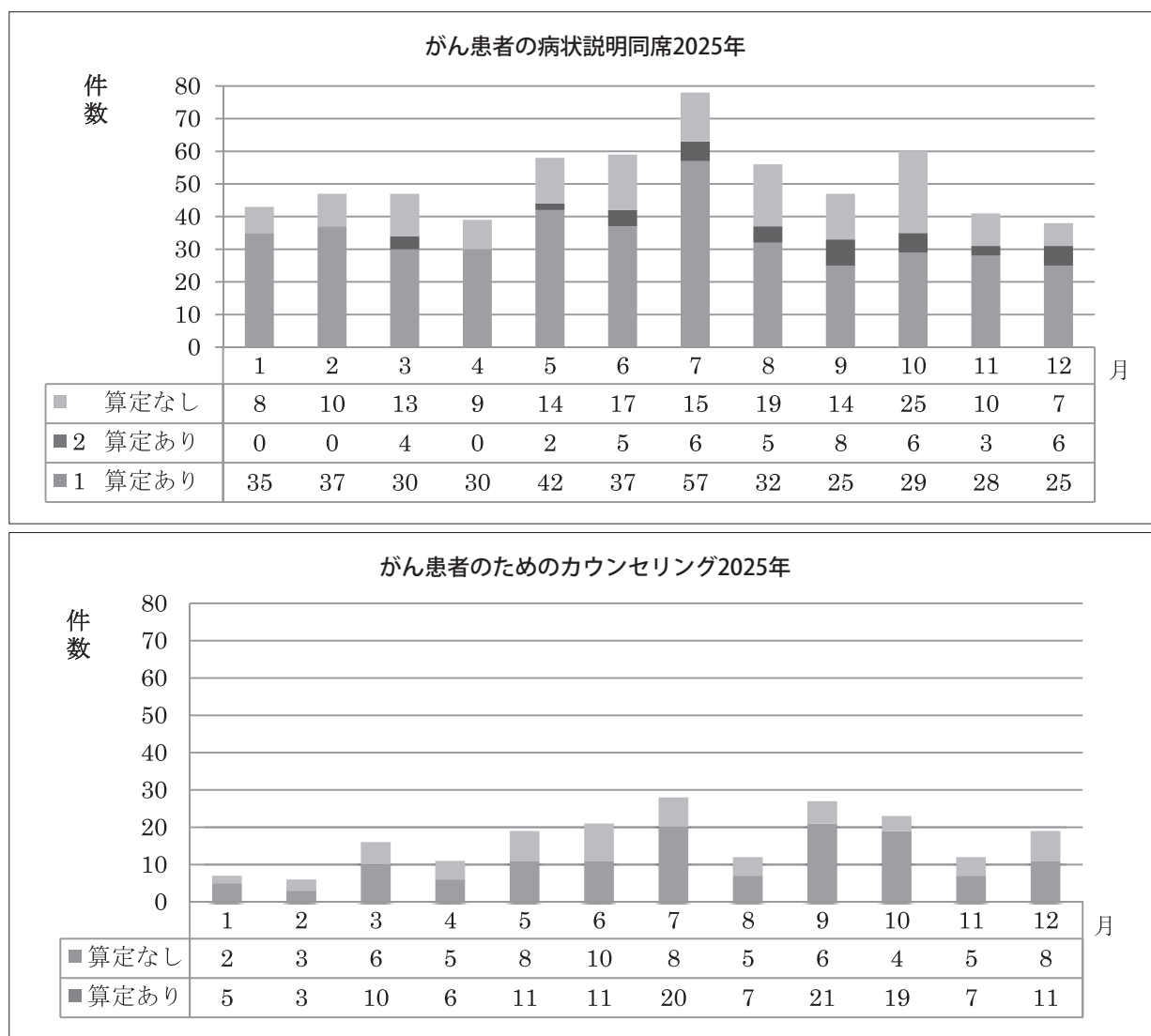
乳がん	肺がん	肝がん	胃がん	大腸がん	膵がん	前立腺がん	緩和ケア
35	0	0	0	0	0	0	1

⑧がん診療支援部門：

○がん関連専門・認定看護師による活動

がん化学療法看護認定看護師 2 名、放射線看護専門看護師兼がん放射線療法看護認定看護師 1 名、緩和ケア認定看護師 1 名、緩和ケア所定研修修了者 1 名にてがん患者の病状説明同席や精神的サポートのための面談を行う。各診療科医師と協働し、患者・家族の診療のサポートを行う。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
病状説明同席 ※1	43	47	47	39	58	59	78	56	47	60	41	38	613
がん患者 ※2 カウンセリング	7	6	12	11	17	16	22	7	19	17	9	13	156



がん患者指導管理料

※ 1 (イ) がん患者さんへの告知や病状説明にがん関連の認定看護師が同席し、患者さんやご家族の病状理解への支援や精神的サポートを行う。

※ 2 (ロ) がん患者さんの心理的不安を軽減するために認定看護師が面談を行う。

○がん看護コースの企画・担当

前期は、がん看護コースⅠ【基礎編】として、がん看護に関する基本的な知識・技術・態度を習得できることを目標に、緩和ケア・放射線治療・がん薬物療法の3領域からの研修を企画した。後期は、がん看護コースⅡ【がん薬物療法エキスパート編】として、がん薬物療法看護に関するより専門性のある知識・技術・態度を習得できることを目標に抗がん薬Ⅳナース育成へ向けた研修を企画した。

がん看護コースⅠ【基礎】

- ・第1回(4月):がん看護の基礎知識/がん患者の緩和ケア(緩和ケア:石丸)
- ・第2回(6月):がん放射線療法看護(がん放射線療法看護:大石)
- ・第3回(8月):がん薬物療法看護:基礎(がん化学療法看護:村上・富永)

がん看護コースⅡ【がん薬物療法エキスパート編】

- ・第1回（10月）：がん薬物療法看護：専門（がん化学療法看護：富永）
- ・第2回（12月）：抗がん薬曝露対策、血管アセスメントとルート確保（がん化学療法看護：村上）
- ・第3回（1-2月）：外来化学療法センターでの実習（がん化学療法看護：村上）

○がん診療リンクナース会議の運営

今年度はがん看護コースと分け、2か月に1回の開催に変更された。

内容は、1回目の会議で各専門・認定看護師より、がん看護に関する内容（ACP、がん薬物療法、がん放射線療法、緩和ケア、意思決定支援）について講義・情報発信を行い、各がん診療リンクナースが自部署のがん看護の問題点を明確にした上で、年間を通して改善活動に取り組めるよう会議の運営を行った。

○各部署がん診療リンクナース活動

16部署に各1名がん診療リンクナースを配置し、がん関連の専門・認定看護師と協力して活動を行っている。今年度は、各がん診療リンクナースが作成した年間計画書の内容に応じて、専門・認定看護師で活動を支援した。その他、部署内カンファレンスや勉強会の企画・開催、がん関連の専門・認定看護師との連携による患者ケアを行っている。

診療部門の特色

医薬品や医療機器が国（厚生労働省）に承認されるには、患者さんを対象とした臨床試験（治験）により、有効性や安全性の確認が必要である。

私たちは、GCP（Good Clinical Practice、臨床試験の実施の基準に関する省令）をはじめとする国の定めた基準を遵守し、倫理性・科学性・信頼性が確保された質の高い治験を円滑に実施することを目標とし、患者さんが安心して治験に参加いただけるよう、治験開始から終了時までサポートしている。

【本年の目標と活動】

目標：「治験・臨床研究業務の推進」を目標に、治験管理室では以下の取り組みを実施した。

- ①治験実績のデータ化・業務実績の数値化（見える化）
- ②治験に関する認知度強化
- ③募集治験の情報発信と組入れ増加
- ④臨床研究サポートチームの取り組み

①治験実績のデータ化/業務実績の数値化（見える化）

治験管理室スタッフで、治験実績のデータや進捗状況が確認できるよう共有できるファイルを作成した。これにより、

- ・各スタッフの業務状況の確認と情報共有
- ・問題点の早期発見と改善
- ・データの一元管理による効率化

が可能となり、業務の透明性と効率性が向上した。

②治験に関する認知度強化

院内外における治験の重要性や役割を広く理解してもらうため、情報提供活動を強化した。具体的には、

- ・院内スタッフ向けの啓発資料作成
- ・SENSAIへの投稿、治験室便り、デジタルサイネージによる周知強化

を実施し、治験への理解促進を図った。

③募集治験の情報発信/組入れ増加

治験参加募集情報の発信を強化した。

- ・HP上の治験参加情報の定期更新
- ・参加意向調査における診療情報管理士との連携体制の構築

今後は、医師・診療情報管理士との連携をさらに強化し、治験参加者の増加・新規治験の獲得に繋げたい。

④臨床研究サポートチームの取り組み

臨床研究支援の強化とCRC支援課題数の増加を目標に、CRC業務支援要項を作成し、支援依頼拡大を図った。

また、業務ミーティングを適宜開催し、業務改善を進めるとともに、「CRCと臨床試験のあり方を考える会議」で1演題・「国立病院総合医学会」で1演題の学会発表を行った。

研修・教育

カンファレンス

名称	参加職種	参加人数（平均）	開催頻度
治験管理室ミーティング	医師、薬剤師、 看護師、事務職員	17人	1回/月

【6年制薬学実習生への講義】

薬剤部において薬学部実務実習の実習生を受け入れている。
治験管理室では、治験及び臨床研究に関して、2時間×2期＝4時間の講義を担当した。

【研修等】

- | | |
|--|-----------------|
| 1. 7/4開催 令和7年度 実務者臨床研究コーディネーター研修 | 参加者：富田 |
| 2. 7/25開催 令和7年度 治験・臨床研究事務担当者研修 | 参加者：大津 |
| 3. 9/1～9/3開催 令和7年度 初級者臨床研究コーディネーター養成研修 | 参加者：大津 |
| 4. 10/15開催 あなたが変える治験環境
～ICH-GCP・省令改正と治験エコシステムで描く未来～ | 参加者：治験管理室スタッフ一同 |
| 5. 11/7開催 令和7年度 臨床研究・治験担当者協議会 | 参加者：小森・大津 |
| 6. 11/28開催 令和7年度 治験および臨床研究倫理審査委員養成研修 | 参加者：大津・隅 |

受託研究関連実績

1) 受託研究契約数・契約症例数

2024年度（2024年4月～2025年3月）

	新規・継続	種類	契約数	契約症例数
治 験	継続	Ⅱ相	6	17
		Ⅲ相	18	183
	継続 集計		24	200
	新規	I / Ⅱ相	1	2
		Ⅱ相	1	2
		Ⅲ相	6	12
	新規 集計		8	16
治験 合計		32	216	
受 託 研 究	継続	使用成績調査	18	450
		特定使用成績調査	33	105
		副作用	1	1
		その他	11	518
		その他（体外診）	10	8,786
		その他（特定臨床研究）	10	31
		その他（医師/研究者主導臨床研究）	3	21
	継続 集計		86	9,912
	新規	使用成績調査	6	18
		特定使用成績調査	5	21
		副作用	4	4
		その他	4	2,083
		その他（体外診）	3	2,529
		その他（医師/研究者主導臨床研究）	1	2,000
新規 集計		23	6,655	
受託研究 合計		109	16,567	
総 数 計			141	16,783

■ ■ その他

1) 日本臨床薬理学会認定CRC（認定取得年）

木村 梨沙 （2015年）
川崎 美幸 （2015年）
久保 三紀子（2016年）
大久保 房庫（2022年）
富田 英里 （2023年）

■ ■ 学会・論文など

1) 原著論文 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表 筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	2	0	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

4) 学会座長 (件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	0	0	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

■ ■ 研究業績

学会・研究会・講演

B：国内学会
B-b2：一般演題

<ポスター>

- 1) 同種同効薬処方に伴う院内での取り組みについて～在庫確保における薬剤部との連携～
大久保房庫、大津貴寛、富田英里、木村梨沙、瓦田秀美、久保三紀子、川崎美幸、野田晃洋、小園晃生、小森敦正.
第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025in大宮. 大宮, 2025.9.15.
- 2) 治験患者における在庫管理に関する取り組み～調剤室の視点から～
大津貴寛、大久保房庫、川崎美幸、久保三紀子、木村梨沙、富田英里、瓦田秀美、小森敦正.
第79回国立病院総合医学会in石川. 石川, 2025.11.7.



責任者 長岡 進矢・本村 秀樹

■ 教育センターの概要

1) 部署の紹介

教育センターは2007年4月に開設され、18年が経過しました。開設当初は、研修医教育や医学生の病院見学の支援を中心に活動を開始しました。2011年よりレジデントや専修医を対象とする後期研修委員会を立ち上げ、2012年に医学生を主な対象とする卒前研修委員会を研修管理委員会の分科会として設けました。2013年からは教育センター運営委員会を通し、看護師や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、MEなどのコメディカルの教育の支援を開始しました。2014年度は診療看護師研修病院の指定を受け、実地研修を開始しました。JNP研修管理運営委員会を設けて、診療看護師の周知や研修内容などについて検討しました。ラボ室は2009年に開設し、新人看護師、看護師、指導医、研修医、レジデントなどへのシミュレーション研修を実施しています。

2015年4月に人材育成センターが開設され、教育センターとラボ室も移転しました。今まで会議室で実施していたBLS研修や新人看護師・研修医の技術研修など、数十人の研修がラボ室でできるようになり活用件数・人数も増加しています。

2) 構成メンバー

センター長 本村 秀樹（統括診療部長兼任）1名
 室長 長岡 進矢（教育研修管理運営部長）1名
 係長 高松三穂子（教育担当係長）1名
 事務助手 一瀬 愛伽、富樫 智美、立山いずみ（11月入職）、本田 未菜（3月辞職）、
 馬場真由美（5月辞職）、大石 杏弥（10月後半より産前休暇）、
 岡 裕美（長崎県病院企業団派遣）

3) 教育センターの理念・役割

(1) 教育センターの理念

長崎医療センター教育センターは、高度で専門的な知識のみならず、人間や社会についても深い理解を有する医療人の育成を目指します。

(2) 教育センターの役割

- ①当院における臨床教育を統括し、一貫した研修教育が行われる体制を築く。 (統括機能)
- ②当院の教育理念を浸透させるために、各部署の指導者層を対象とした研修を企画する。 (FD機能)
- ③地域医療への貢献のため、当院での研修内容などについて発信し、積極的に参加を募る。 (情報発信機能)
- ④当院での研修教育修了者を組織化し、生涯教育の核となる。 (バックアップ機能)

4) 教育センター 2025年度目標

- (1) 教育センターの統括機能を強化する
- (2) 業務内容の多様化、増加に伴う業務の効率化を目的に作成した「教育センター手順書」の実用と追加、修正を行う
- (3) 看護部門：ACTナースキャリアラダーに沿った看護師の育成
- (4) メディカルスタッフ部門：各部門との職員教育・研修の支援

- (5) 医師部門：研修プログラムの検討・研修医評価表運用の検討
- (6) 診療看護師（JNP）：研修管理体制の構築、運営

5) 教育センター運営会議

<活動目的>

長崎医療センターの職員研修についての統括、各部署の指導者層育成、情報発信、臨床研修教育修了者のバックアップをするため、教育センター運営委員会を置く。

<概要>

教育センターは、医師のみならず、看護師他コメディカルの教育・研修を広くつかさどる。教育・研修において蓄積したノウハウを生かし、各部署での教育をサポートする。ひいては病院全体の教育活性化に繋げていく。会議を行うことで教育センターは各部門の研修を把握が出来た。新に各部門の研修の窓口や実習の連絡調整を行い、教育センターの経験を活かすことが出来ている。

<構成メンバー>

本村 秀樹（統括診療部長）、長岡 進矢（教育研修管理運営部長）、森 英毅・増田 幸子（臨床研修管理委員会副委員長）、中道 親昭（高度救命救急センター長）、福山雄卯介、橋本 未蕾（副薬剤部長）、山川 彩・横井 伸子（副検査技師長）、小濱 義幸・日高 智子（副放射線科技師長）、四元 有吏（栄養管理室長）、藤崎 暢・峰松 俊介（リハビリ室長）、増田 賢武・白川 大（管理課長）、穴井久美子・沖田 典子（副看護部長）、高松三穂子（教育担当係長）

<活動報告>

- (1) 運営委員会：年2回 2025年3月、2025年5月19日
- (2) 各部署の活動報告

診療部：採用時採血演習、CVC挿入講習会、NMCコアセミナー

救急科：長大医学部学生臨床実習、救急救命士病院実習、消防学校救急科病院実習、BLS・ACLS研修

薬剤科：部内勉強会、日本病院薬剤師会等主催の研究会、薬学部学生研修、学会発表など

放射線科：撮影技術・知識習得に向けた研修、医療安全・感染管理学習会など

検査科：ISO15189に沿ったトレーニング、セミナーの受講、学会発表など、実習生受け入れ

リハビリ：院外講師招聘による研修会、吸引研修、実習生受入れ、学会発表など

栄養科：院内学習会、九州管理栄養士協議会主催の研修、実習生受入れ、学会発表など

看護部：ACtyナース・キャリア支援・看護補助者の研修、生涯学習研修（発表会）

事務部：九州グループの研修計画に沿った研修（新任係長、2～4年目事務職員等）

*全職員研修は、「接遇」「患者の権利」「ハラスメント」について、学研eラーニング視聴を計画し、実施した。

6) スキルラボ室の概要

シミュレータ・備品保有状況（2025年12月現在）

	備品・シミュレーター	保有数		備品・シミュレーター	保有数
1	装着式採血静注キット SASUKE	5	27	AIRSIMエアウェイ トレーニングシステム（黒）	1
2	装着式採血静注キット かんたんくん	13	28	Pediatric Intubation Trainer	3
3	採血静注シミュレーター シンジョーⅢ	2	29	Resusci Ann Skill Guide	1
4	採血・静脈シミュレーター シンジョーⅡ	4	30	Resusci Ann	
5	新CVC穿刺挿入シミュレーター	2	31	Airway Management Trainer	1
6	CVポート穿刺トレーニングモデル	2	32	ALS skill master	1
7	装着型女性導尿シミュレーターⅡ	2	33	挿管用喉頭鏡（ハンドル）	1
8	透明男性導尿模型	1	34	挿管用喉頭鏡（ブレード）	1
9	男性導尿・浣腸シミュレーター	1	35	SCENARIO	1
10	女性導尿・浣腸シミュレーターⅡ	1	36	PHYSICO	1
11	装着式上腕筋肉注射シミュレーター	6	37	さくら	1
12	装着型摘便シミュレーター	1	38	人工呼吸器	1
13	口腔ケアモデル “セイケツくん”	1	39	縫合練習キット	1
14	吸引シミュレーター “Qちゃん”	5	40	スタンド型手洗いチェッカー BLB	4
15	CPS実習装置	1	41	輸液ポンプ TE-161SA	1
16	直結式酸素湿潤器 FS-500型	1	42	シリンジポンプ TE-351	1
17	壁掛け式吸引器 HK-500型	1	43	救急カート	2
18	低圧持続吸引器 TK-300型	1	44	除細動器（演習用）	2
19	さっぱりさん（洗髪器）	1	45	ベッド	2
20	足湯専科	2	46	ストレッチャー	1
21	褥瘡ケアシミュレーター①	4	47	処置台	1
22	Save Manアドバンス 二次救命処置訓練人形	2	48	オーバーテーブル	2
23	CardioLife AED トレーニングユニット	1	49	車椅子	2
24	動脈採血シミュレーター	1	50	点滴スタンド	4
25	フェモララインマン	1	51	床頭台	1
26	小児人形 Baby Anne	4	52	ベッドサイドモニター	1

教育センター実績

ここでは教育センターが介入した研修のみ挙げる。その他は、各部署の年報を参照する。

実習・研修

＜研修＞

- | | |
|--|---------|
| 1) 看護部教育研修（集合教育）：2025年1月～12月 | 受講生351名 |
| 2) 研修医採用時オリエンテーション 採血演習：2025年4月 | 受講生20名 |
| 3) 令和7年度 メディカル喀痰吸引研修：2025年8月～2025年1月（予定） | 受講生4名 |
| 4) CVC挿入講習会（初期研修医）：2025年1月～12月 | 受講生15名 |
| 5) キャンサーボード支援：2025年1月～12月 | 参加者448名 |
| 6) 看護師特定行為研修：2025年6月2日～2026年1月30日（予定） | 受講生4名 |

ラボ室活用状況

スキルラボ室・使用：総数1739人、92件（いずれも延べ）

年月	使用人数（延べ） /使用件数	内容	対象
2025年1月	286/11	BLS、ACLS、研修医OSCE、METシミュレーション、BLSO、パス推進委員会、急変対応シミュレーション	研修医、医療安全管理室、救急科、教育センター、4B看護師、4B助産師、救急救命士、事務職員
2025年2月	136/4	BLS、METシミュレーション、病院見学会	医療安全管理室、救急科、4B看護師、医師、事務職員、看護学生
2025年3月	18/3	BLS、病院見学会、特定行為研修、ACLS、育休明け看護師技術演習	医療安全管理室、教育センター、救急科、育休明け看護師、看護学生、特定行為研修担当者
2025年4月	10/2	技術練習、ナースサポーターオリエンテーション	3A看護師、ナースサポーター
2025年5月	25/4	BLS、技術練習、病院見学会	医療安全管理室、研修医、看護学生
2025年6月	49/5	技術練習、BLS、看護部研修、METシミュレーション	救急科、5B病棟、研修医、救急看護コース研修生、救急救命士、産婦人科医師、医療安全管理室
2025年7月	79/7	技術練習、BLS、METシミュレーション	医療安全管理室、救急科、3A看護師、3B看護師、5A病棟、臨床検査技師、作業療法士、理学療法士、臨床工学技士
2025年8月	32/6	技術練習、ACLS	救急科、研修医、手術室看護師、4A看護師
2025年9月	305/13	特定行為研修、BLS、学習会、METシミュレーション	特定行為研修、医療安全管理室、救急科、6A病棟、6B病棟、3A看護師
2025年10月	280/18	技術練習、学習会、特定行為研修、BLS、METシミュレーション、メディカルスタッフ吸引研修、BLS(AHA)	医療安全管理室、救急科、特定行為研修、研修医、手術室看護師、理学療法士、臨床工学技士、7A病棟
2025年11月	268/11	技術練習、BLS、特定行為研修、ACLS、METシミュレーション、看護研究シミュレーション、病院説明会	医療安全管理室、救急科、産婦人科医師、研修医、6A看護師、特定行為研修、8A・8B病棟、看護学生
2025年12月	251/8	学習会、BLS、病棟学習会、看護部研修、ACLS、病院見学会	医療安全管理室、救急科、事務、特定行為研修、研修医、3A看護師

その他

1) 広報活動

(1) メディア掲載

以下の媒体にて研修情報を掲載

- ・長崎県医師臨床研修ガイドブック2025年長崎医療センターの紹介（製本版・WEB版）
- ・国立病院機構ガイドブック2025年度版「長崎医療センターの紹介」（製本版・WEB版）
- ・長崎大学病院群たすきがけ病院ガイドブック2025年度版（製本版）

(2) 長崎医療センター初期・後期臨床研修Instagram2024年6月開設。フォロワー数121名。

(3) Facebookの運用（<http://www.facebook.com/nmc.kensyu>）

ブログに連動させる形で2014年4月よりFacebookに教育センターアカウントを開設。当院OBを含めた医師・コメディカルの交流の場になること、フレッシュな情報を届けることで、当院の臨床研修の認知力向上を推進している。フォロワー数：366名。

(4) 2月に長崎県内合同説明会が開催され参加。訪問者数47名 2月1日（土）長崎大学病院

(5) 6月に長崎県内合同説明会及び合同面接が開催され、説明会にのみ参加。参加者は昨年より8名増え24名だった。

(6) 前年は7月に実施されていた民間医局レジナビフェアが5月に開催され、来場者は会場全体 約771名、長崎県ブース来訪者146人、当院ブースへは28名だった。

(7) 例年6月に実施されてるNHOの臨床研修合同説明会は、今年度5月開催で当院の個別説明ブース参加者：6名。

(8) Instagramの運用（@nmckensyu）

2024年6月より教育センターアカウントを開設。臨床研修の様子や医学生見学会、採用試験など様々なイベントについて情報を発信している。フォロワー数：116名

2) 同窓会

長崎医療センター研修医同窓会「あかしや医師の会」事務局

- ・同窓会会員へ・医療センター報（毎月）・医学生向け見学会開催情報（逐次）・採用試験開催情報（逐次）送付

■ 医師関係

1) 初期研修

責任者 長岡 進矢

■ 歴史

当院では1971年より全国に先駆けてスーパーローテート方式の研修医教育を開始しました。研修医教育は主に離島へ赴く医師の初期教育が当初の目的でしたが、徐々に離島のみならず一般の医師の初期研修を重視するようになりました。2004年より新臨床研修制度が始まり、18年目を迎えるに至っていますが、採用研修医数は10名/年から19名/年に増え、市中病院では研修医数の多い病院になっています。2010年には長崎県医師臨床研修協議会（新・鳴滝塾）が設立され、長崎県主体の取り組みが始められました。研修病院見学旅費助成金給付、長崎県全体でのレジナビ参加、海外研修支援など様々な企画が行われ、県全体の研修医数の増加に寄与しています。2011年3月にあかしや新館（42個室、1会議室）が完成し研修医の居住環境は整備され、2007年から始まった中期改善計画は目標を達成しました。また広報の充実の一環としてブログ形式のホームページを2011年11月から開設し、日々の研修状況を外部向け施設ホームページとブログから全国に発信しています。研修医評価は2013年度からはEPOCに替わり新研修医手帳で運用を開始しました。2014年度から2年次修了前に全国共通試験の基本的臨床能力評価試験（全国約2,000名受験）を受験しています。2015年3月にNPO法人卒後臨床研修評価機構の2回目の審査結果を受け、ホームページの大幅な刷新、他種職種評価、ICTラウンドや医療安全推進担当者会議への参加など新たな取り組みを始めました。教育センターの効率的な運営を図るために、毎週火曜日、定例運営会議を開催し細やかな活動計画を立てています。今年度の研修医マッチングは中間発表の1位指名が14名とやや低かったですが、最終的にプライマリケア能力養成プログラム15名、周産期プログラム（小児科）2名、同プログラム（産婦人科）2名と昨年に引き続きフルマッチとなりました。来年度採用予定（第56期）は、これに自治医大の3名が加わり22名となります。内訳は長崎大9名、佐賀大2名、産業医大1名、九州大2名、久留米大2名、川崎医大2名、山梨大1名、自治医大3名、男性16名、女性6名です。現時点での志望科は特定の科に偏ることなく、外科系、内科系幅広い志望があるようです。

■ 長崎医療センターの実績

- 1) 研修修了者：1000名以上（概算）
- 2) 研修修了者の出身大学：50大学以上
- 3) 2019年7月、公益財団法人 日本医療機能評価機構の審査を受け2023年までの4年間を特に指摘事項もなく承認を得る結果となる。
- 4) 厚生労働省認定研修医指導医資格を有する割合（2025年末時点）：77.7%

2025年度 長崎大学病院群臨床研修指導医養成講習会受講	4名受講
2025年度 令和7年度NHO九州グループ臨床研修指導医養成講習会受講	2名受講

■ 臨床研修管理委員会の概要

1) 委員会の紹介

臨床研修管理委員会は、公的な基準を満たし且つ質の高い研修を行うため、本院卒後臨床研修プログラムの総合的な評価・問題点の検討等を行い、到達目標達成のために、臨床研修医自らがその能力を十分に発揮し、適正な疾病の診療に関する（とくにPrimary Careを中心とした）知識、態度ならびに技術を習得することを目的とする。

- ①臨床研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整。
- ②臨床研修医の採用・中断・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括管理。
- ③その他、臨床研修のために必要なことを審議する。

原則として年2回は定期開催とし、必要に応じ追加の開催をする。

総括責任者：高山 隼人（病院長）

委員長：長岡 進矢（プログラム責任者・肝臓内科部長）

副委員長：森 英毅（プログラム副責任者・総合診療科医長）

増田 幸子（プログラム副責任者・高度救命救急センター医長）

教育センター長：本村 秀樹（統括診療部長）

院内委員：和泉 泰衛（内科部長）、青木 幹弘（新生児科部長）、高松三穂子（教育担当係長）、

小山田純治（薬剤部長）、宮島 隆一（診療放射線技師長）、藤野 達也（臨床検査技師長）、

白川 大（管理課長）

協力型病院・施設委員：

中富 克己（嬉野医療センター教育研修部長）、福留 隆泰（長崎川棚医療センター臨床研究部長）、

八坂 貴宏（長崎県対馬病院院長）、向原 茂明（長崎県壱岐病院院長）、

一宮 邦訓（長崎県上五島病院院長）、大塚 俊弘（長崎県精神医療センター院長）、

松島加代子（長崎大学病院医療教育開発センター）、山下 雅巳（平戸市立生月病院院長）、

中桶 了太（平戸市民病院副院長）、柿添 三郎（柿添病院副院長兼診療部長）、

常光 信正（青洲会病院院長）、栗原 隆二（小値賀町国民健康保険診療所）

外部委員：牟田 幹久（長崎県医師会常任理事）、渡海 俊明（元長崎県立長崎北高等学校校長）

臨床研修運営委員会の概要

1) 委員会の紹介

臨床研修運営委員会は、医師法に基づき臨床研修を適正、かつ円滑に実施するために必要な事項を定めることを目的とする。①臨床研修プログラムの作成、内容見直し、プログラム間の調整等、全体的な管理に関すること。②臨床研修医の教育、研究、診療等の管理に関すること。③臨床研修医の受け入れ、採用、中断、評価に関することなどを審議する。原則として月1回は開催するものとして必要に応じ追加の開催をする。

2025年4月より、釘山（外科）西浦・山下（専攻医）、深堀（職員係）、松竹谷・真崎・富永（研修1年）が新メンバーとして参加することとなった。

令和2年（2019年）4月には、副委員長増田（救命救急科医師）を任命。

令和4年（2022年）4月より、構成委員の変更に伴い副委員長を森英毅（総合診療科医長）に任命。

2) 構成メンバー

委員長：長岡 進矢（教育研修管理運営部長）

副委員長：森 英毅（総合診療科医長）

増田 幸子（救命救急科医師）

委員：本村 秀樹（教育センター長・統括診療部長）、小森 敦正（難治性疾患研究部長）、福田 雅史（産婦人科部長）、蓬萊 彰士（精神科医長）、山口美知子（麻酔科部長）、中道 親昭（救命センター部長）、釘山 統太（外科医師）、和泉 泰衛（内科部長）、森 英毅（総合診療科医長）、本田 涼子（小児科医長）、青木 幹弘（新生児科部長）、西浦 壮志（後期研修医代表）、山下 慶（後期研修医代表）、相浦 章吾（2年次研修医代表）、犬養 真衣（2年次研修代表）、中島 健翔（2年次研修医代表）、松竹谷海斗（1年次研修医代表）、富永 和（1年時研修医代表）、真崎 智博（1年時研修医代表）、宮岡 良衣（庶務班長）、深堀 真由（職員係）、高松三穂子（教育担当係長）、一瀬 愛伽、富樫 智美、立山いずみ（教育センター事務）

事務職員の業務内容と臨床研修運営委員会の活動報告

A. 事務職員の業務内容

学生に関すること：病院見学会や研修合同説明会から採用試験、採用までの手続き等

研修医に関すること：研修プログラム、宿舎、進路、協力病院、その他研修中に生じる研修関連の事務業務

専攻医に関すること：後期研修説明会、後期研修プログラム、進路、同門会（あかしや医師の会）、

宿舎に関する事務業務

B. 臨床研修運営委員会の活動報告

(1) 研修委員会：毎月1回（第1水曜）定例会を開催。

①事務担当：専任事務：一瀬、富樫、立山

兼任事務：宮岡（庶務班長）、深堀（職員係）

②現研修医数は、1年次21名、2年次16名 計37名である。

(2) 医学生見学会について

		期間	申込人数 (人)	参加人数 (人)	
1	1-2月見学会	1/17-2/14	3	3	夜間見学無し
2	春の見学会	3/4-3/18	8	8	
3	5-6月見学会	5/9-6/20	11	10	1名体調不良
4	WEB説明会	-	-	-	本年は不実施
5	夏の見学会	7/1-8/21	36	36	
6	10-11月見学会	10/3-11/21	6	6	
7	冬の見学会	12/16-12/26	7	7	夜間見学無し

(3) 在籍研修医状況

2025年度（第55期）採用の研修医は男性12名、女性9名、合計21名。

出身大学の内訳：長崎大学12名、佐賀大学2名、筑波大学1名、産業医科大学1名、

自治医科大学2名、岩手医科大学1名、岐阜大学1名、琉球大学1名

(4) 研修プログラム

2026年度（令和8年度）採用については3つのプログラムで募集を行った。

①従来と同様プライマリ・ケア能力養成プログラム（募集人数15名）

②小児科医を目指すための周産期研修プログラム（小児科）（募集人数2名）

③産婦人科医を目指すための周産期研修プログラム（産婦人科）（募集人数2名）

(5) 2026年度（令和8年度）採用研修医選考試験について

①試験日程は、期間を4日間にて開催した。

②試験内容は、書類審査、小論文、対面面接（面接官は3名）。

小論文試験は対面面接と同日に実施した。

③受験者数は、32名（前年34名）であった。（長崎県養成医25名（前年23名）含む）

④第1志望中間発表数は14名（前年20名）であった。

⑤2026年4月より、マッチング採用研修医19名、自治医学生3名の併せて22名が採用予定。

(6) 2025年度研修修了者の後期研修先について（合計16名）

当院2名、長崎大学病院5名、産業医科大学病院1名、横浜市立大学病院1名、板橋中央総合病院1名、国立国際医療センター1名、横浜みなと赤十字病院1名、都立こども医療センター1名、島根大学病院1名、奈留医療センター（上五島）1名、富江病院1名

専攻診療科：総合診療科1名、救命科3名、産婦人科1名、内科1名、小児科2名、外科1名、形成外科2名、耳鼻咽喉科2名、循環器内科1名、脳神経外科1名、麻酔科1名

(7) 研修医 準夜勤・日直・深夜勤務は、1人月3～4回程度で行っている。

平日は1人体制、土日祝日は2人体制に変更。診療科ごとの区別は廃止。

(8) 研修医 コロナ患者対応の為、拘束担当者を決めて対応にあたっている。

2023年1月以降 毎日(1名)

2023年6月19日以降 平日のみ17:00～翌8:30まで(1名)

※2023年9月20日よりコロナ拘束廃止。流行した際は随時対応。

(9) 研修医・指導医合同ワークショップ

1. ワークショップテーマ【生涯学習について】

日 時: 9月13日(土)・14日(日) 諫早少年自然の家

日 程: 1日目 AM 研修医手帳及びサマリーファイル作成

PM ワークショップ(グループ作業)

2日目 AM ワークショップ(発表)

PM 帰宅

2. 参加者

研修医37名

内訳: 2年次研修医17名(長大たすき1名含む)・1年次研修医20名・指導医13名 50名参加

(10) 初期実践NMCコアセミナーは毎週金曜日に行い、2025年1月から12月末までに42回実施した。

【初期実践NMCコアセミナー年間スケジュール】

42回実施/総参加者数1013名

	開催日	講義名	担当医師		開催日	講義名	担当医師
1	1/17	急性胆嚢炎・胆管炎・急性膵炎	肝臓内科 佐伯 哲	18	7/4	抗菌薬の基礎とペニシリン系抗菌薬の使い方	総合診療科 永井 友基
2	1/24	便通異常	消化器内科 西山 仁	19	7/11	静注抗菌薬の使い方	総合診療科 永井 友基
3	1/31	胃癌・大腸癌について研修医が知っておくべきこと	消化器内科 西山 仁	20	7/18	一過性意識消失の対応	総合診療科 野口 大気
4	2/7	悪性腫瘍に対する治療学	外科 北里 周	21	7/25	心電図	循環器内科 石松 卓
5	2/21	ACPについて	総合診療科 森 隆浩	22	8/1	めまい	総合診療科 森 隆浩
6	2/28	EBM総論	総合診療科 森 隆浩	23	8/8	心不全治療へのアプローチ	循環器内科 深江 貴芸
7	3/7	排尿障害について	泌尿器科 松島 俊樹	24	8/22	高血圧へのアプローチ	循環器内科 於久 幸治
8	3/14	創傷初期対応について	形成外科 西園 馨子	25	8/29	運動麻痺・筋力低下へのアプローチ	脳神経内科 足利 裕哉
9	5/2	臨床推論と腹痛	総合診療科 永井 友基	26	9/5	痙攣患者のみかた	脳神経内科 佐藤 和明
10	5/9	カルテ(サマリ)の書き方&プレゼンの仕方	総合診療科 山中萌奈美	27	9/12	小児喘息・アナフィラキシーの対応	小児科 桑原 義典
11	5/16	プレゼンの仕方	総合診療科 山中萌奈美	28	9/19	眼科救急	眼科 前川 有紀
12	5/23	血液ガスの読み方	総合診療科 山中萌奈美	29	9/26	呼吸困難へのアプローチ	呼吸器内科 原 敦子
13	5/30	たかが風邪されど風邪	総合診療科 鳥巢 裕一	30	10/3	気管支喘息について研修医が知っておくべきこと	呼吸器内科 茂山 航大
14	6/6	発熱 入院患者の発熱にどう対応するか	総合診療科 和泉 泰衛	31	10/10	PALSに応じた小児救急対応	小児科 桑原 義典
15	6/13	こどもの発熱への初期対応	小児科 本村 秀樹	32	10/17	けいれん	小児科 本田 涼子
16	6/24	災害カルテ	救命救急科 白水 春香	33	10/24	COPD	呼吸器内科 乗富 大地
17	6/27	感染症のみかた	総合診療科 永井 友基	34	10/31	腹痛診療の原則	総合診療科 森 英毅

	開催日	講義名	担当医師		開催日	講義名	担当医師
35	11/7	グラム染色	呼吸器内科 川崎 光一	39	12/5	女性の急性腹症	産婦人科 林田 啓祐
36	11/14	小児の呼吸器感染症	小児科 石橋 信弘	40	12/12	Nausea Vomiting	総合診療科 大野 渚
37	11/21	肺炎へのアプローチ	呼吸器内科 近藤 晃	41	12/19	急性胃腸炎（急性腸炎）	消化管内科 西山 仁
38	11/28	肺がんについて研修医が知っておくべきこと	呼吸器内科 池田 喬哉	42	12/26	消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）	消化管内科 西山 仁

（11）院内CPC回数及び内容CPCは年間4回（2、7、9、10月）実施した。

開催日	臨床診断	症例担当	担当指導医	担当病理	コメンテーター
2/19 (水)	インフルエンザ感染、多臓器不全	荻野 裕行、林田 啓佑	浅野 太郎	原田 英鷹 三浦 史郎	今泉 芳孝
7/1 (火)	多発骨折	村橋 舞、中村 駿吾、 野田 知生	窪田 佳史	片山あかり 石飛 俊介	
9/17 (水)	「妊婦の発熱、帰す？帰さない？」	宮崎 咲月、吉岡 奈那、 加藤 玲奈、犬養 真衣	山口 純子 山下 慶	添田 李子	権 志成
10/21 (火)	神経性食思不振症	長岡 倫子、中島 健翔、 鬼頭 貴之、町永 栞理	森 英毅	石原 彩香 石飛 俊介	

研修会、セミナー、講習会等の参加

令和7年 第138回日本循環器学会九州地方会 研修医セッション受賞 優秀賞	6/28	村橋 舞
令和7年 第126回日本消化器病学会九州支部例会 研修医奨励賞	11/28	中村 祥暢

良質な医師

令和7年度 良質な医師を育てる研修「肺結核・非結核性抗酸菌症・真菌症に関する研修」	7/4	川原 理克
令和7年度 良質な医師を育てる研修「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」	7/11	松竹谷海斗 吉田 雄哉
令和7年度 良質な医師を育てる研修「救急・集中治療セミナー」	10/23-24	中村 祥暢
令和7年度 良質な医師を育てる研修「呼吸器疾患に関する研修」	11/13-14	川崎 佳子 真崎 智博 大村 直也
令和7年度 良質な医師を育てる研修「脳卒中関連疾患 診療能力パワーアップセミナー」	11/28-29	真崎 智博 鹿島 功暉
令和7年度 良質な医師を育てる研修「循環器疾患に関する研修」	12/11-12	中村 祥暢

研究業績

学会・研究会・講演

期間：2015年4月～2026年3月（予定含む）
（2年次研修期間での学会発表数を修了年度ごとに集計したデータ）
（年度）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
発表回数	63	71	86	83	52	15	42	31
研修医数	16	21	19	25	21	22	22	18
発表平均回数	3.9	3.4	4.5	3.3	2.4	0.68	1.9	1.7
	2023年	2024年	2025年					
	R5	R6	R7					
発表回数	48	44	21					
研修医数	23	20	16					
発表平均回数	2.1	2.2	1.3					

2）後期研修 責任者 長岡 進矢

後期研修運営委員会の概要

1）委員会の紹介

後期研修委員会は、2011年に設置され、①後期研修内容の質の向上、②後期研修医の待遇改善、③後期研修医間の親睦、④後期研修終了後の援助などを主な活動としている。

平成30年度（2018年）から開始となった新専門医制度に対応すべく、後期研修運営委員会と名称を変え、上記の活動に加え、①後期研修医の採用・中断・修了の際の評価、研修実施の統括管理、②研修協力施設との連絡、調整（各プログラムの研修管理委員会開催を含む）などを審議している。

新専門医制度における、当院の専攻医プログラムは以下の6プログラムである。

1. Nagasaki-MC内科専門医プログラム
4. ながさき家庭医療学専門研修プログラム
2. 救急科専門研修プログラム
5. 小児科専門研修プログラム
3. 形成外科専門研修プログラム
6. 産婦人科専門研修プログラム

当院管理型の専攻医は現在38名である。（2026年開始予定者含まず）

平成30年 2018年開始	総合診療科：1名
平成31年 2019年開始	総合診療科：1名、内科：2名、産婦人科：1名
令和2年 2020年開始	総合診療科：3名、内科：3名、産婦人科：2名、救急科：2名、小児科：1名
令和3年 2021年開始	産婦人科：1名
令和4年 2022年開始	総合診療科：2名、内科：3名、産婦人科：1名、小児科：2名
令和5年 2023年開始	総合診療科：1名、内科：4名、小児科：3名
令和6年 2024年開始	総合診療科：1名、内科：6名、救急科：3名、産婦人科：2名
令和7年 2025年開始	内科：5名、産婦人科：2名、小児科：1名
令和8年 2026年開始予定 ※2025年1月時点	内科：3名、救急科：3名、産婦人科：2名

2) 構成メンバー

委員長：長岡 進矢（教育研修管理運営部長）
 副委員長：本村 秀樹（統括診療部長）
 委員：和泉 泰衛（内科部長）
 中道 親昭（高度救命救急センター長）
 藤岡 正樹（形成外科部長）
 森 英毅（総合診療科医長）
 本田 涼子（小児科医長）
 山下 洋（産婦人科医長）
 宮岡 良衣（庶務班長）
 深堀 真由（職員係）
 高松三穂子（教育担当係長）
 西浦 壮志（専攻医）
 山下 慶（専攻医）
 一瀬 愛伽・富樫 智美・立山いずみ（教育センター事務）

年3回実施している。

■ 後期研修委員会の実績

院 外 広 報

病院ホームページ後期研修ページの新専門医制度に対応した刷新。

そ の 他

- 1) 新専門医制度の各プログラムの見直し及び申請、後期研修運営委員会の組織作り、規約作成。
- 2) Nagasaki-MC 内科専門医プログラム、ながさき家庭医療学専門研修プログラム管理委員会（6月、3月開催）
- 3) 6月に後期研修医に満足度アンケート実施（17名より回答）。

3) 卒前研修

責任者 和泉 泰衛

■ 卒前委員会の概要

1) 委員会の紹介

卒前研修委員会は、主に医学部学生の卒前研修教育質向上を目的として、研修委員会下部組織として2012年に新たに立ち上げられた。当院で担う医学部学生の卒前研修教育は大きく二つに分けられる。一つは長崎大学医学部・自治医科大学医学部6年生に行う高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）で、もう一つは長崎大学を含む諸大学から受け入れる1ヶ月以下の短期間の臨床実習である。定期的な委員会の開催はなく、研修管理委員会の際に当該問題について随時話し合う形式をとっている。

2) 構成

委員長：和泉 泰衛（内科部長）
 委員：中道 親昭（高度救命救急センター長）
 黒木 保（副院長）

3) 高次臨床実習（クリニカルクラークシップ）

①長崎大学

第1ターム6名、第2ターム6名、第3ターム6名、第4ターム3名、第5ターム6名、第6ターム2名

②自治医科大学

5月 3名

■ 卒前委員会の実績

2012年から受け入れ体制として、カリキュラム、手順、規約、同意書等を作成した。各診療科単位で行っている短期の医学生実習（ポリクリ）に加え、2013年5月から、長崎大学医学部6年生の高次臨床実習の受け入れを開始した。その後、2014年度からは自治医科大学などからも臨床実習の受け入れを開始した。


National Hospital Organization NAGASAKI Medical Center



高度救命救急センター

責任者 中道 親昭

診療部門の特色

- ・長崎県で3次救急医療を行う高度救命救急センターである。
- ・長崎県ドクターヘリ及び医師等乗救急車（EMTAC）に搭乗し、病院前での早期治療を行っている。
- ・24時間体制で、一次二次医療施設から紹介された重症患者を受け入れている。
- ・日本DMAT 5チーム以上の人員がおり、国内の大規模災害や集団災害に即時対応できる体制を有している。
- ・統括DMAT研修の修了者が7名在籍、県内での災害時に県庁や実際の現場での調整を担うことになる。長崎DMATの中心的役割を担っている。
- ・原子力災害拠点病院である当院の中心的役割を担い、原子力災害医療派遣チームを有する。
- ・へき地中核親元病院として、長崎県の離島で発生した救急患者を長崎県ドクターヘリや自衛隊・海上保安庁・防災ヘリにて受入を行っている。
- ・離島医療支援として、画像伝送システムを活用し、当院の専門医や救急医が支援を行っている。
- ・医師や看護師、消防関係者など医療関係者に対して救急医療に関する教育を行っている。
- ・BLS、ACLS、JMECC、JATEC、JPTEC、MCLS、DMAT、TNTなどインストラクターを擁し、多方面にわたる指導を展開している。
- ・陰圧対応病床8床対応病床を有し、集中治療を要する感染患者の受入を行っている。

入院診療実績

入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均在院日数
延患者数	一日平均		総数	（再掲）死亡	
5,720人	15.7人	1,190人	144人	42人	11.9日

紹介率		逆紹介率		剖検数	
紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	剖検数	剖検率
				3件	7.1%

診療科別入院患者住所分布

※集計の関係上、退院時（または月末時）の診療科で集計しているため、上表の新入院患者数と異なる場合があります。（入院後に転科した場合）

大村市	諫早市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	雲仙市
544人（45.7%）	267人（22.4%）	27人（2.3%）	24人（2.0%）	7人（0.6%）	94人（7.9%）

島原市	南島原市	長崎市	西彼杵郡	西海市	佐世保市
28人（2.4%）	44人（3.7%）	24人（2.0%）	6人（0.5%）	1人（0.1%）	18人（1.5%）

平戸市	松浦市	五島市	南松浦郡	北松浦郡（小値賀）	佐々町
3人（0.3%）	1人（0.1%）	16人（1.3%）	18人（1.5%）		

壱岐市	対馬市	佐賀県	その他県外	合計
14人（1.2%）	20人（1.7%）	4人（0.3%）	30人（2.5%）	1,190人

入院患者主要疾患分類

No.	ICD10	疾患名	患者数
1	S72	大腿骨骨折	116
2	S06	外傷性頭蓋内損傷	89
3	I63	脳梗塞	89
4	I61	脳内出血	86
5	I60	くも膜下出血	49
6	I21	急性心筋梗塞	47
7	T36-50	急性薬物中毒	30
8	G40-41	てんかん	27
9	S32	腰椎・骨盤骨折	25
10	I50	心不全	22

入院患者主要手術

No.	術式	手術件数
1	骨折観血の手術	101
2	人工骨頭挿入術	34
3	頭蓋内血腫除去術	29
4	テブリードマン	21
5	脳動脈瘤頸部クリッピング	20
5	脳血管内手術	20
7	一時的創外固定骨折治療術	14
7	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	14
9	腹腔鏡下胆嚢摘出術	12
9	穿頭脳室ドレナージ	12
9	分層植皮術	12

厚生労働省 救命救急センター 重篤救急患者数

	疾病名	基準	患者数(人)
1	病院外心停止	病院への搬送中に自己心拍が再開した患者及び外来で死亡を確認した患者を含む。	66
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞又は急性心筋梗塞と診断された患者若しくは緊急冠動脈カテーテルによる検査又は治療を行った患者	53
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂と診断された患者	16
4	重症脳血管障害	来院時JCS100以上であった患者、開頭術、血管内手術を施行された患者又はtPA療法を施行された患者	138
5	重症外傷	Max AISが3以上であった患者（緊急手術が行われた症例は含まない）	106
		緊急手術が行われた患者（Max AISが3以上であった患者は含まない）	13
		Max AISが3以上かつ緊急手術が行われた患者	155
6	指肢切断 （四肢もしくは指趾の切断）	四肢もしくは指趾の切断ないし不全切断と診断され、再接合術が実施された患者	0
7	重症熱傷	Artzの基準により重症とされた患者	3
8	重症急性中毒	来院時JCS100以上であった患者又は血液浄化法を施行された患者	14
9	重症消化管出血	緊急内視鏡による止血術を行った患者	44
10	敗血症	感染症によって重篤な臓器障害が引き起こされた患者	43
	敗血症性ショック	敗血症に急性循環不全を伴い、細胞組織障害および代謝異常が重度となる患者	33
11	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈した患者	11

12	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等と診断された患者	4
13	重症呼吸不全	呼吸不全により、人工呼吸器を使用した患者（1から12までを除く。）	44
14	重症急性心不全	急性心不全により、人工呼吸器を使用した患者又はSwan-Ganzカテーテル、PCPS若しくはIABPを使用した患者（1から12までを除く。）	23
15	重症出血性ショック	24時間以内に10単位以上の輸血が必要であった患者（1から12までを除く。）	10
16	重症意識障害	来院時JCS100以上の状態が24時間以上持続した患者（1から12までを除く。）	23
17	重篤な肝不全	肝不全により、血漿交換又は血液浄化療法を施行された患者（1から12までを除く。）	1
18	重篤な急性腎不全	急性腎不全により、血液浄化療法を施行された患者（1から12までを除く。）	2
19	その他の重症病態	重症肺炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群等に対して持続動注療法、血漿交換又は手術療法を施行された患者（1から18までを除く。）	88
合 計			857

■ 研修・教育

名 称	開催頻度
救命センターカンファランス	毎日 8時45分及び16時30分
脳神経カンファランス	毎週木曜日午前中
脳卒中カンファランス	毎週火曜日午後
リハビリカンファランス	毎週水曜日午後
栄養カンファランス	毎週金曜日午後
RSTカンファランス	毎週火曜日午後
抄読会	毎週水曜日17時30分
院内講義（研修医・JNP・医学生対象）	毎週木曜日夕方
院内研修会（AHA BLS、ACLS、EP等）	年間約10回
長崎県ドクターヘリ症例検討部会	3、5、7、9、11月第2水曜日
長崎県消防学校救急科教育	1～3月
県央県南MC協議会症例検討会	2月、9月

■ 治験、共同臨床研究（症例登録する研究）

- ・ICUレジストリー
- ・心停止症例、MET対応症例レジストリー
- ・外傷症例レジストリー
- ・RSTレジストリー

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	1	1	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	7	3	12

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	学術講演会			
件数	2			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	3	1	6

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

研究業績

論文発表

A：英文

A-a2：英文症例報告

1) Complications After a Mandibular Third Molar Extraction.

Yoshifumi Kubota, Yuta Fukumori, Yukitoshi Kobuchi, Hiroyuki Hiu, Yukiko Masuda, Fujinobu Tanaka, Chikaaki Nakamichi.

J Am Coll Emerg Physicians Open. 30 ; 6(6) : 100254. 2025.9.

B：和文

B-c1：和文著書〔編集〕

1) 【病棟の輸液 病態に応じた始め方、減らし方、止め時】病棟でよくみる病態の輸液 敗血症性ショックの患者への輸液（解説）.

窪田佳史.

レジデントノート. 27巻1号 : Page76-86. 2025.4

学会・研究会・講演

B：国内学会

B-b1：シンポジウム, パネルディスカッション等

<シンポジウム>

1) 長崎県における離島へき地配置医師の育成と運用の現状と課題.

中道親昭、高山隼人.

地域を救う人を育てる～へき地救急の持続可能性を考える～.

第28回へき地離島救急医療学会学術集会. 宮崎, 2025.10.4.

- 2) 通常業務を意識した救急医ロジスティック機能による臓器提供体制構築.

鳥巢藍.

第61回日本移植学会総会. 名古屋市, 2025.10.11.

- 3) 多職種連携を伴う拡大型バンドルの構築・運用に際した取り組みに関する報告.

権志成、窪田佳史、白水春香、内田雄三、中道親昭、百枝裕太郎、米永敬子、荒木翔太、相川実穂、古賀昌志、浅野太郎

救急現場における多職種連携の現状と課題. 第79回国立病院総合医学会. 金沢市, 2025.11.7.

<パネルディスカッション>

- 1) 当院のRRSにおける現状と課題～潜在RRS需要の検討～.

増田幸子、塩塚高史、池田真比人、荒木健志、松尾徳久、小淵幸稔、重野晃宏、内田雄三、鳥巢藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭.

パネルディスカッション13 Rapid response systemの最前線と未来. 第53回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪市, 2025.10.30.

<ポスター>

- 1) 長崎県における航空医療の現状と新時代の訪れ ～1施設2機体制へ N-ARMSの挑戦～.

中根秀聡、小淵幸稔、松尾徳久、松尾悠美.

第32回日本航空医療学会総会学術集会. 沼津, 2025.11.15.

<座長>

- 1) 中道親昭.

一般口演2 救急医療システム. 第28回へき地離島救急医療学会学術集会. 宮崎, 2025.10.4.

- 2) 中道親昭.

一般演題9『消防ヘリ・防災ヘリ』. 第32回日本航空医療学会総会学術集会. 沼津, 2025.11.15.

B-b2: 一般演題

<口演>

- 1) 医師が同乗する救急車と現場直近救急車との初動連携による効果と課題.

東竜二、日宇宏之.

第33回長崎救急医学会. 佐世保市, 2025.9.6.

- 2) 非癒痕性子宮破裂による産科危機的出血に対してREBOAを用い救命し得た一例.

松尾徳久.

第33回長崎救急医学会. 佐世保市, 2025.9.6.

- 3) 当院救急科研修の質評価と教育的ニーズの分析.

中村祥暢、増田幸子、塩塚高史、池田真比人、荒木健志、森貴昭、松尾徳久、小淵幸稔、重野晃宏、内田雄三、鳥巢藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭.

第33回長崎救急医学会. 佐世保市, 2025.9.6.

- 4) 長崎県へき地中核親元病院における救急科研修の質評価と教育的ニーズの分析.

中村祥暢、増田幸子、塩塚高史、池田真比人、荒木健志、森貴昭、松尾徳久、小淵幸稔、重野晃宏、内田雄三、鳥巢藍、日比野愛子、中原知之、窪田佳史、権志成、白水春香、日宇宏之、中道親昭.

第28回へき地離島救急医療学会学術集会. 宮崎市, 2025.10.4.

- 5) 地域に根差したWS型ドクターカー『EMTAC』の挑戦と展望.
日宇宏之.
第20回日本病院前救急診療医学会. 会津若松市, 2025.12.13.

<座長>

- 1) 中道親昭
一般演題F. 第33回長崎救急医学会. 佐世保, 2025.9.6.

B-c: 研究会発表

<口演>

- 1) マムシ咬傷と血液凝固異常
浅野太郎.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2025.2.7.

<座長>

- 1) 中道親昭.
県央敗血症治療講演会. 大村, 2025.2.7.

F, G: その他

F-b: 学会・研究会座長 [国内学会]

<座長>

- 1) 増田幸子.
ミニオーラル80 救急科専門医にとってのダブルボードのありかた 1.
第53回日本救急医学会総会・学術集会. 大阪市, 2025.10.30.

G: その他

<口演>

- 1) アナフラキシーショック後に交通事故を起こしドクターヘリと連携した1例.
中道親昭.
令和7年度第1回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会. 長崎市, 2025.5.14.
- 2) 交通外傷症例
白水春香.
令和7年度第1回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会. 長崎市, 2025.5.14.
- 3) 高齢男性、胸痛、肺塞栓
日比野愛子.
令和7年度第1回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会. 大村市, 2025.5.14.
- 4) 移植症例報告
内田雄三.
長崎県移植情報担当者協議会. 長崎市, 2025.7.25.
- 5) 胸痛発作の症例.
日宇宏之.
令和7年度第3回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会. 長崎市, 2025.9.10.

- 6) 急性期脳卒中疑いに対しドクターヘリが連携した1例。
松尾徳久。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.9.10.
- 7) 車同士の正面衝突事故 車内収容後意識レベル低下したためドクターヘリを要請した症例。
増田幸子。
令和7年度第3回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.9.10.
- 8) 交通外傷による重症頸部外傷に対しドクターヘリが連携した1例。
中道親昭。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.11.12.
- 9) フライトDr及びフライトNsを現場投入出来たことでROSCした外傷事案。
小淵幸稔。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.11.12.
- 10) 脳卒中を疑った症例。
小淵幸稔。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.11.12.
- 11) 若年女性、脳卒中疑い。
日比野愛子。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。大村市, 2025.11.12.

<講演>

- 1) 多死社会における高齢者救急医療体制の確立を目指して～県央県南高齢者救急医療体制連絡会設立～。
中道親昭。
諫早市救急業務協議会。諫早, 2025.11.21.
- 2) BC災害における救急処置と除染要領。
中道親昭。
消防職員第11期特殊災害科大村, 2025.12.9.

<司会>

- 1) 中道親昭。
令和6年度第5回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.3.12.
- 2) 中道親昭。
令和7年度第1回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.5.14.
- 3) 中道親昭。
令和7年度第2回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.7.9.
- 4) 中道親昭。
令和7年度第3回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.9.10.
- 5) 中道親昭。
令和7年度第4回長崎県ドクターヘリ運航調整委員会症例検討部会。長崎市, 2025.11.12.

<コメンテーター>

- 1) 中道親昭。
令和6年度長崎地域メディカルコントロール協議会検証委員会。長崎市, 2025.3.26.

2) 中道親昭.

県北地域メディカルコントロール協議会救急救命処置等症例検討会. 佐世保市, 2025.8.5.

3) 中道親昭.

令和7年度県央県南地域メディカルコントロール協議会症例検討会. 長崎市, 2025.9.16.

4) 中道親昭.

内因性外因性想定訓練. 令和6年度五島市消防本部救急業務研修会. 五島, 2025.12.9.


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

長崎県ドクターヘリ

責任者 中道 親昭

診療部門の特色

- ・長崎県事業主体で、基地病院を当院として2006年12月より開始し、要請基準として生命の危機がある場合に加え2011年よりキーワード要請方式も追加して運用している。
- ・20025年は、536件の出動を行った。
- ・運航時間は、毎日365日 8：30から日没30分前まで運航している。
- ・フライトドクターは11名、フライトナースは10名で活動を行っており、今後も育成予定である。
- ・使用機種は、エアバス社製BK117D2/H145を使用している。
- ・2014年 8月に駐機場と格納庫ができ、機体の保守点検・機体入れ替えを行っている。
- ・運航調整委員会が年 1 回行われ運営方針などを決定している。
- ・症例検討部会にて事例の検討を年 5 回実施している。
- ・安全管理部会を、年 2 回開催している。
- ・毎月フライトドクター・ナース及び運航部とミーティングを開催している。
- ・2006年12月 1 日～ 2025年12月31日にて、総出動件数13625件であった。

運行実績

2025年 1 月から12月までの運航状況

他医療ヘリ墜落事故に伴う再点検・脱出訓練、整備士不足に伴う計画運休、機体トラブル等の理由により年間77日間運休せざるを得なかった。

12 ヶ月の要請件数は723件で、出動件数は536件であった。

2025年		全要請件数	723	全出動件数	536
大項目		中項目		小項目	小計
現場要請	572	出動	289	出動	289
		出動後キャンセル	96	天候不良	3
				消防よりキャンセル	93
				その他	0
		出動前キャンセル	187	天候不良	60
				出動中	108
				日没・時間外	13
				消防よりキャンセル	4
				その他	2

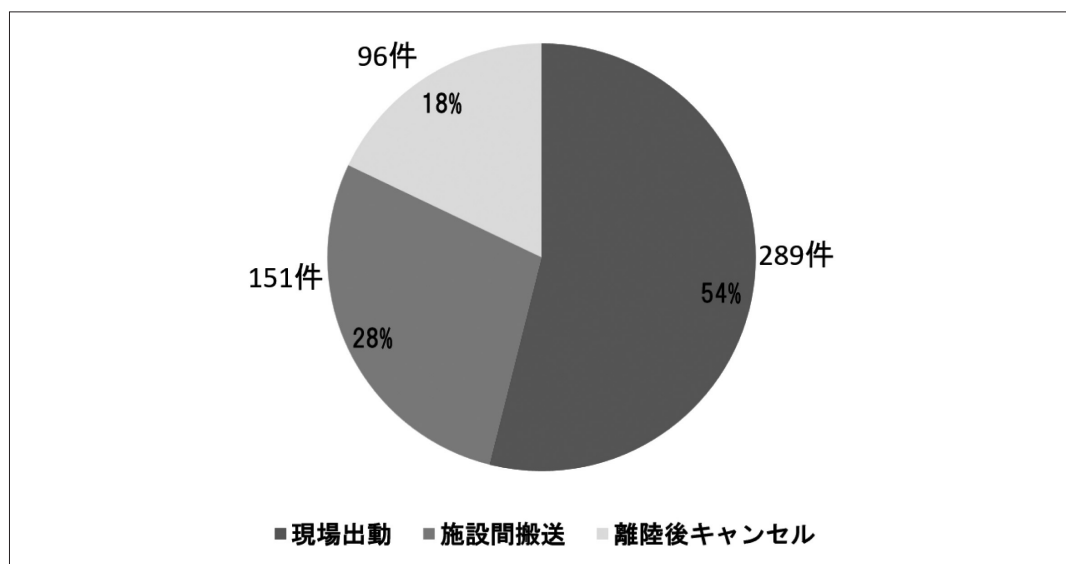
施設間	151	出動	151	出動	151
		出動後キャンセル	0	天候不良	0
				施設よりキャンセル	0
				その他	0
		出動前キャンセル	0	天候不良	0
				出動中	0
				日没・時間外	0
				施設よりキャンセル	0
				その他	0

536件の要請機関を以下に示します。

令和7年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計
長崎市	7	4	4	0	1	1	3	1	11	5	8	2	47
佐世保市	15	11	9	4	0	5	9	7	13	8	5	6	92
平戸市	3	2	4	0	0	2	3	2	5	3	1	2	27
島原	12	8	11	2	0	6	9	7	11	6	5	8	85
県央	13	15	20	5	3	10	15	7	20	1	4	6	119
松浦	0	1	7	3	1	3	4	2	1	5	4	0	31
対馬	1	1	1	0	0	1	2	5	2	2	3	2	20
壱岐	0	2	3	0	1	4	2	1	2	3	0	2	20
五島	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	6
新上五島	7	2	2	0	1	5	8	6	1	3	2	1	38
診療所・離島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他要請機関	6	6	5	0	1	3	2	5	1	8	3	5	45
佐賀広域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
唐津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊万里・有田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
杵藤地区	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	6
鳥栖・三養基地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀県その他医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他要請機関（長崎・佐賀以外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海上保安庁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	64	53	68	15	8	41	60	45	67	46	35	34	536

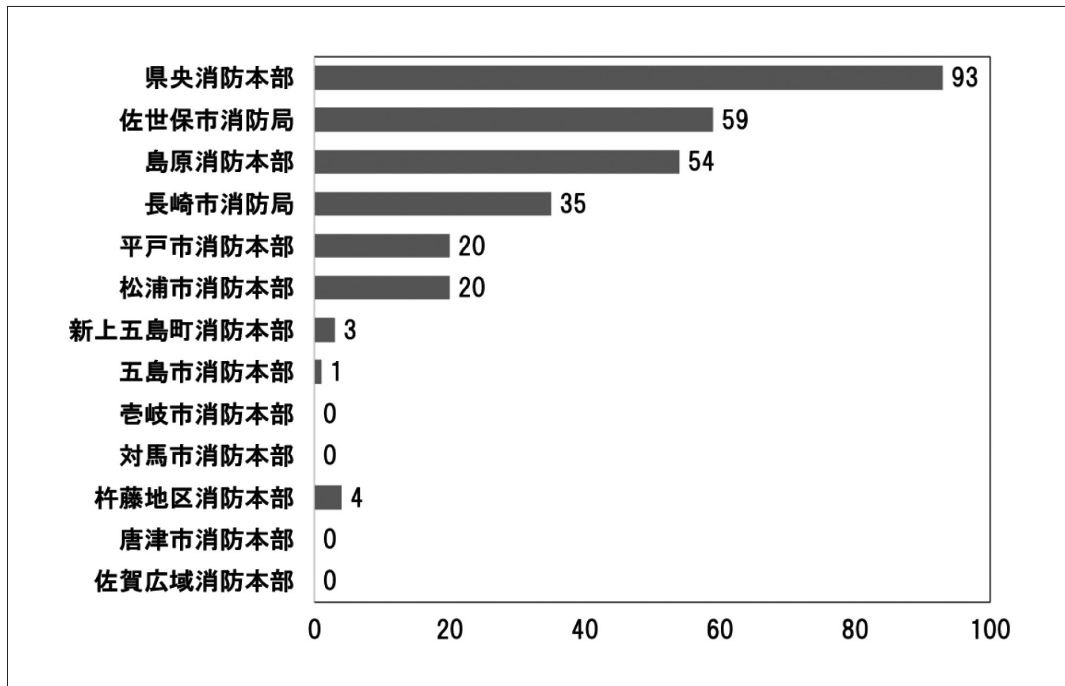
*その他の要請機関は、長崎県内のヘリポートを有する医療機関である。

現場出動と施設間搬送の割合

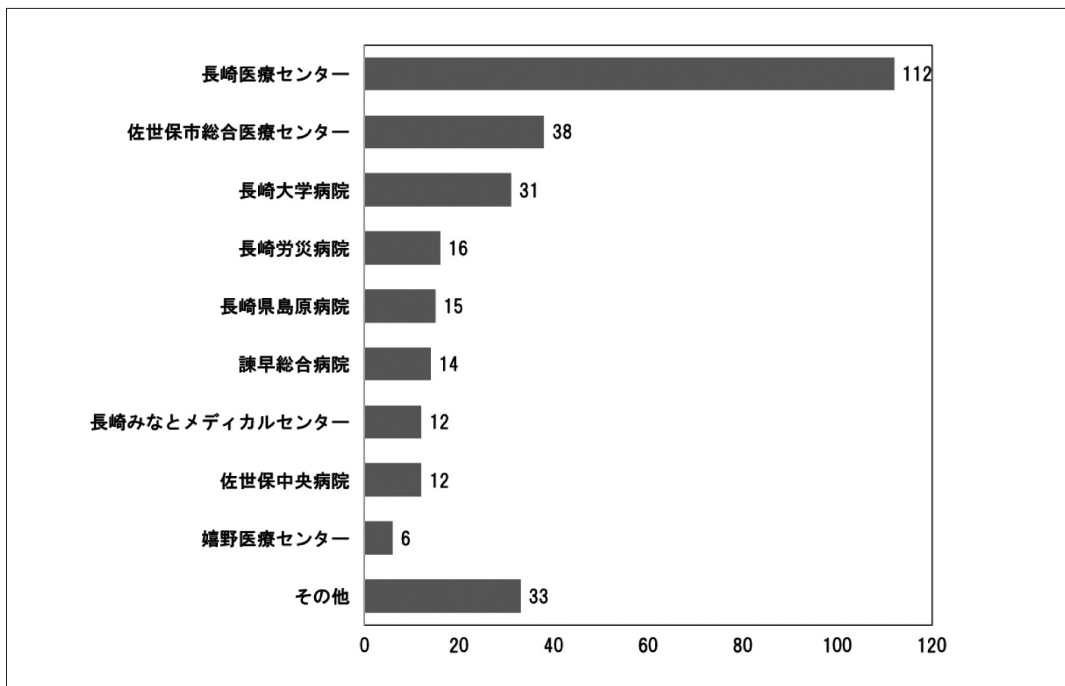


現場要請（289件）に関して

1. 消防本部別の件数

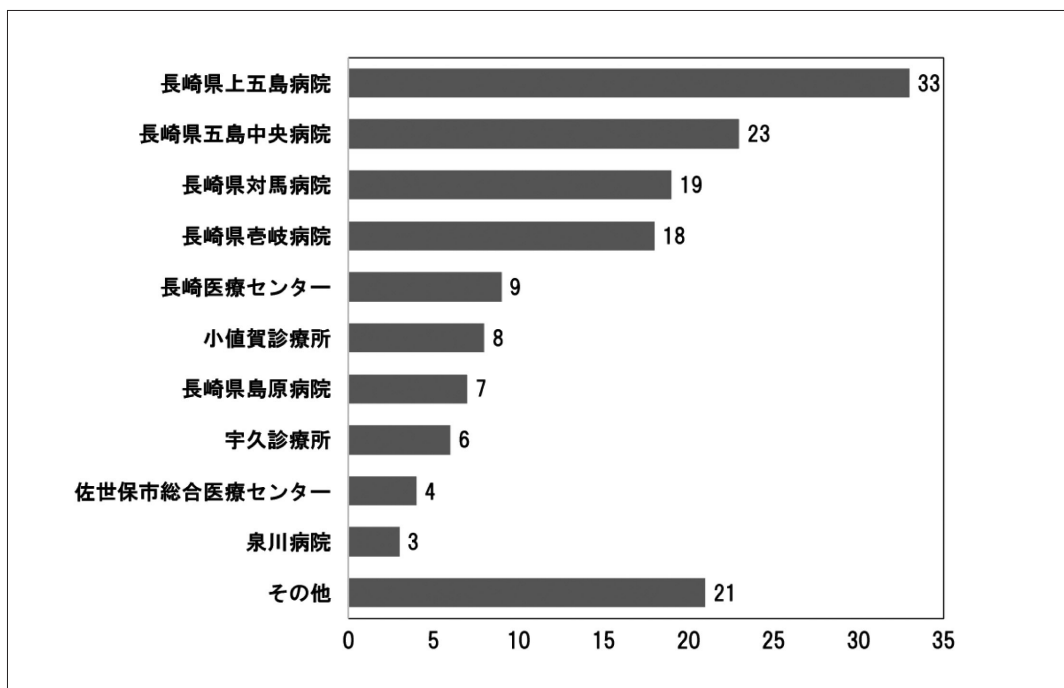


2. 受入医療機関別件数

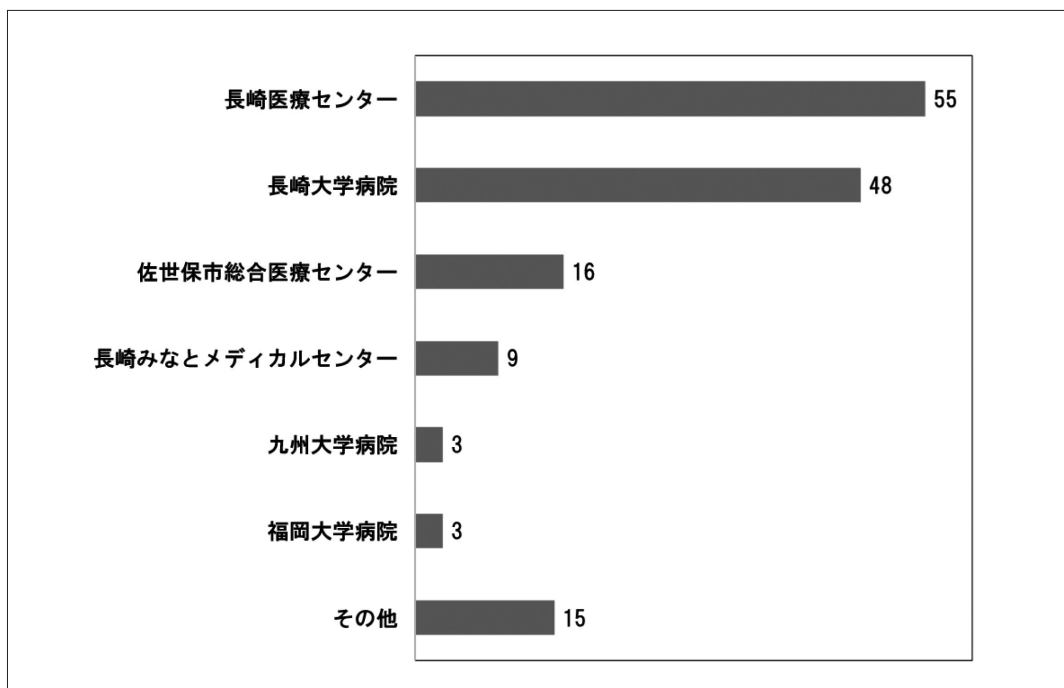


施設間搬送（151件）に関して

1. 搬送元医療機関別の件数



2. 搬送先医療機関別の件数



予後の改善効果に関して

予後の改善効果に関して（集計可能であった338例での解析）
死亡を回避できた事例（防ぎえた死亡）は、4例であった。

	ドクターヘリ転帰 (例)	救急車推定転帰 (例)	
死亡	43	47	4減
植物状態	0	1	1減
重症後遺症	46	60	14減
中等度後遺症	51	72	21減
回復・社会復帰	198	158	40増
計	338	338	

11.8% (40例/338例) に予後改善効果あり
1.2% (4例/338例) に死亡回避効果あり

学会・論文など

1) 原著論文

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	英文論文	邦文査読あり	邦文査読なし	その他
件数	0	0	0	0

(内訳－国際雑誌、邦文査読あり、邦文査読なしの順で)

2) 学会発表

筆頭者が当院職員（それ以外）

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	0	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)

3) 学術講演

(件数)

種類	学術講演会			
件数	0			

4) 学会座長

(件数)

種類	国際学会	全国学会	地方会	研究会
件数	0	1	0	0

(内訳－国際学会、全国学会、地方会の順で)


National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

防災センター・ベッドセンター・車庫

責任者 白川大

防災センター

設備年間整備計画

機械・設備名	項 目	整備回数
エネルギー設備		
ガスタービン発電機	法定・機能維持に伴う整備	2
ボイラー設備洗缶工事	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	1
第一種圧力容器	法定・機能維持に伴う整備	1
冷暖房設備		
冷凍機設備点検	法定・機能維持に伴う整備	2
排ガス測定	法定・機能維持に伴う整備	1
フィルター清掃	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	2
フィルター取り替え（空調機用）	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	2
建築設備		
受水槽清掃	法定・機能維持に伴う整備	1
消防設備点検	法定・機能維持に伴う整備	2
昇降機点検（エレベーター）	法定・機能維持に伴う整備	24
排水除外設備	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	12
9階無菌室点検	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	1
RO水製造設備点検	機 能 維 持 に 伴 う 整 備	4
医療ガス設備		
医療ガス保守点検（吸引・非治療用空気）	法定・機能維持に伴う整備	4
医療ガス保守点検（空気）	法定・機能維持に伴う整備	12
医療ガス保守点検（CE）	法定・機能維持に伴う整備	1
医療ガス保守点検（マニホールド）	法定・機能維持に伴う整備	4
医療ガス保守点検（アウトレット）	法定・機能維持に伴う整備	4

エネルギー使用量

	市水使用料	雨水使用料	都市ガス使用量	電力使用料
2025年 1 月	7,505m ³	352m ³	147,934m ³	965,309Kwh
2025年 2 月	7,447m ³	548m ³	144,251m ³	879,197Kwh
2025年 3 月	8,328m ³	403m ³	100,485m ³	947,213Kwh
2025年 4 月	7,290m ³	376m ³	62,876m ³	885,427Kwh
2025年 5 月	7,091m ³	1,048m ³	66,542m ³	909,101Kwh
2025年 6 月	7,152m ³	1,968m ³	110,760m ³	964,829Kwh
2025年 7 月	7,008m ³	1,822m ³	149,274m ³	1,077,514Kwh
2025年 8 月	7,014m ³	2,876m ³	169,637m ³	1,091,904Kwh
2025年 9 月	6,753m ³	1,843m ³	148,146m ³	1,037,414Kwh
2025年10月	6,932m ³	243m ³	99,748m ³	986,966Kwh
2025年11月	6,801m ³	0m ³	61,694m ³	853,709Kwh
2025年12月	7,510m ³	0m ³	93,107m ³	909,360Kwh
年間	86,831m ³	11,479m ³	1,354,454m ³	11,507,943Kwh



車庫



救急車患者搬送エリア別（2025年 1 月～ 12 月）

区分	エリア	搬送件数
県内	県央地域（64件）	
	大村地区	40件
	長崎空港	2 件
	航空隊	0 件
	諫早地区	22件
	県南地域（12件）	
	雲仙・小浜地区	1 件
	島原地区	9 件
	愛野地区	2 件
	長崎地域（39件）	
	長崎地区	39件
	佐世保地域（12件）	
	佐世保地区	6 件
	東彼杵地区	6 件
	五島・壱岐・対馬地域（1 件）	
	五島地区	1 件
	県内 計	128件
県外	佐賀県（1 件）	
	福岡県（6 件）	
	熊本県（0 件）	
	県外 計	7 件
	合計	135件



ベッドセンター



マットレス洗浄・消毒（2025年）

単位：枚

病棟	種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
3A	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	貸出	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
3B	清掃	33	45	45	55	46	41	59	26	43	39	41	38	511	42.6
	貸出	33	49	48	56	49	43	61	31	45	43	45	42	545	45.4
4A	清掃	1	0	0	1	0	1	1	0	0	2	1	0	7	0.6
	貸出	3	0	2	1	2	1	1	0	0	3	1	0	14	1.2
4B	清掃	78	64	75	73	53	48	59	9	21	28	20	23	551	45.9
	貸出	78	66	77	74	55	48	60	9	24	28	20	24	563	46.9
4C	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5A	清掃	77	59	91	54	66	86	67	37	35	60	52	27	711	59.3
	貸出	82	66	95	59	72	93	74	40	36	67	63	36	783	65.3
5B	清掃	97	80	108	89	81	79	85	31	53	59	50	44	856	71.3
	貸出	108	88	115	102	88	91	91	39	55	65	54	57	953	79.4
6A	清掃	54	54	62	31	38	34	26	13	8	50	41	53	484	40.3
	貸出	68	61	74	65	52	45	39	23	17	58	53	58	613	51.1
6B	清掃	51	46	73	65	18	7	7	0	0	47	63	65	442	36.8
	貸出	57	50	79	72	20	9	9	1	0	48	68	75	488	40.7
7A	清掃	74	66	56	57	61	66	52	28	37	58	36	50	641	53.4
	貸出	76	72	63	63	74	69	61	33	37	62	40	56	706	58.8
7B	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	貸出	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	6	0.5
8A	清掃	63	65	81	66	61	74	61	33	51	64	49	58	726	60.5
	貸出	67	71	91	71	56	76	67	37	61	75	54	63	789	65.8
8B	清掃	90	82	92	104	84	82	78	31	49	77	57	98	924	77.0
	貸出	105	92	100	107	93	93	90	44	59	84	67	106	1,040	86.7
9A	清掃	67	59	62	70	58	54	50	26	47	48	45	53	639	53.3
	貸出	74	67	72	76	64	61	56	34	57	56	59	61	737	61.4
透析	清掃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0.5
	貸出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0.5
計	清掃	685	620	745	685	566	572	545	234	344	532	455	515	6,498	541.5
	貸出	751	683	816	746	635	629	613	293	391	589	524	585	7,255	604.6
稼働日数		19	19	20	21	21	20	22	21	19	22	20	20	244	20.3
1日平均	清掃	36.1	32.6	37.3	32.6	27.0	28.6	24.8	11.1	18.1	24.2	22.8	25.8	年間 1日平均	26.6
	貸出	39.5	35.9	40.8	35.5	30.2	31.5	27.9	14.0	20.6	26.8	26.2	29.3		29.7

シーツ交換定期・臨時（2025年）

単位：台

病棟	種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
3B	定期	51	52	50	53	58	55	54	63	56	61	50	43	646	53.8
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4A	定期	24	25	24	31	26	27	27	22	22	32	24	25	309	25.8
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4B	定期	78	76	78	101	79	81	96	81	80	100	80	83	1,013	84.4
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5A	定期	78	63	79	81	60	83	103	77	79	82	80	85	950	79.2
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5B	定期	42	45	84	78	52	84	55	53	71	55	36	78	733	61.1
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
6A	定期	61	63	98	90	61	104	66	62	85	62	39	88	879	73.3
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
6B	定期	111	110	86	113	135	108	138	105	108	135	109	104	1,362	113.5
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
7A	定期	96	90	86	110	90	89	112	92	92	104	90	93	1,144	95.3
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
8A	定期	60	86	61	76	73	72	73	88	79	100	81	80	929	77.4
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
8B	定期	80	68	75	92	52	71	111	89	105	112	97	112	1,064	88.7
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
9A	定期	103	102	95	95	123	101	95	116	98	116	99	91	1,234	102.8
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
透析	定期	91	69	69	89	110	91	114	91	91	110	91	90	1,106	92.2
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	定期	875	849	885	1,009	919	966	1,044	939	966	1,069	876	972	11,369	947.4
	臨時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
稼働日数		19	18	20	21	20	22	22	20	20	22	18	20	242	20.2
1日平均	定期	46.1	47.2	44.3	48.0	46.0	43.9	47.5	47.0	48.3	48.6	48.7	48.6	年間 1日平均	47.0
	臨時	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0



National Hospital Organization **NAGASAKI** Medical Center

NHO共同研究、その他研究等（治験含む）【2024年度】

責任者 田川 努

1. NHO共同研究・EBM研究

区分	課題名	研究 代表者名	研究代表者 施設名	責任医師	責任医師 診療科
NHO	胎児のホルモン異常と停留精巣発生リスクに関する研究（採択課題：H28-NHO(成育)-03）	生野 猛	小倉医療 センター	青木幹弘	小児科
NHO	メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の遺伝子変異プロファイルの解析（採択課題：H31-NHO(多共)-02）	星田義彦	大阪南医療 センター	伊東正博	病理診断科
NHO	Liquid biopsyを用いたMTX-LPDの診断及び病態予測の検討（採択課題：R4-NHO(多共)-01）	星田義彦	大阪南医療 センター	岩永 希	膠原病・ リウマチ科
NHO	腎移植後BKポリオマウイルス感染症克服に向けた観察研究（採択課題：H30-NHO(糖尿)-02）	坪 尚武	千葉東病院	大仁田 亨	泌尿器科
NHO	関節リウマチに対する分子標的薬治療における免疫学的寛解のマーカーの探索（採択課題：H31-NHO(免アレ)-03）	大島至郎	大阪南医療 センター	岡田覚丈	膠原病・ リウマチ科
NHO	リウマチ性多発筋痛症の診断・治療バイオマーカーの探索（採択課題：R2-NHO(免アレ)-03）	野木真一	相模原病院	岡田覚丈	膠原病・ リウマチ科
NHO	関節リウマチに伴う肺非結核性抗酸菌症の新規バイオマーカーの探索（採択課題：R4-NHO(免アレ)-02）	古川 宏	東京病院	岡田覚丈	膠原病・ リウマチ科
NHO	体幹部定位放射線療法後の潜在的Abscopal効果による肝細胞癌再発抑制：探索的観察研究（採択課題：H31-NHO(消化)-04）	小森敦正	長崎医療 センター	小森敦正	肝臓内科
NHO	脂肪性肝疾患患者の自然経過とイベント発生に関する前向き観察研究（採択課題：R5-NHO(消化)-01）	阪森亮太郎	大阪医療 センター	小森敦正	肝臓内科
NHO	内頸動脈変位走行異常による咽喉頭異常感の把握と、その診断法の標準化を目指す研究（採択課題：R5-NHO(感覚)-01）	角田晃一	東京医療 センター	田中藤信	耳鼻咽喉科
NHO	原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究（採択課題：R2-NHO(消化)-01）	中村 稔	長崎医療 センター	中村 稔	肝臓内科
NHO	卵巣未熟奇形種の悪性度を判定するバイオマーカーの同定を目指した臨床研究（採択課題：R3-NHO(癌般)-01）	江本 郁	京都医療 センター	福田雅史	産婦人科
NHO	網羅的遺伝子診断技術を用いた感染性胃腸炎病原体解析（採択課題：R5-NHO(感染)-02）	菅田 健	三重病院	森 英毅	総合診療科
NHO	グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証（採択課題：R5-NHO(感染)-03）	森 英毅	長崎医療 センター	森 英毅	総合診療科
NHO	人工知能を用いた分娩時大量出血例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発（採択課題：H31-NHO（小産）-02）	多田克彦	岡山医療 センター	安日一郎	産婦人科
NHO	B型慢性肝疾患に対する核酸アナログ長期投与例の課題克服および電子的臨床検査情報収集（EDC）システムを用いた多施設大規模データベースの構築（採択課題：H31-NHO(消化)-03）	阪森亮太郎	大阪医療 センター	山崎一美	肝臓内科
NHO	薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究（採択課題：R3-NHO(消化)-03）	山崎一美	長崎医療 センター	山崎一美	肝臓内科
NHO	急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究（採択課題：R6-EBM(消化)-01）	山崎一美	長崎医療 センター	山崎一美	肝臓内科
NHO	聞こえにくい方を対象としたオンライン聴覚検査精度に関する観察研究（採択課題：R5-NHO(感覚)-02）	南修司郎	東京医療 センター	吉田晴郎	耳鼻咽喉科
NHO	成人初発未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるR-CHOP単独治療と放射線併用療法の治療成績、QOL、費用、費用対効果の多施設共同前向きコホート研究（採択課題：H28-NHO(血液)-02）	堤 育代	水戸医療 センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	未治療濾胞性リンパ腫におけるObinutuzumabの治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究（採択課題：H31-NHO(血液)-01）	堤 育代	水戸医療 センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	レジストリーデータを利用したAYA世代DLBCLの臨床的・生物学的特性を明らかにする後方視的研究（NHO-AYA-DLBCL研究）（採択課題：R3-NHO（血液）-01）	鈴木康裕	名古屋医療 センター	吉田真一郎	血液内科
NHO	先天性および若年性に発症する難聴の遺伝的原因および詳細な臨床的特徴の解明（採択課題：R3-NHO(感覚)-02）	松永達雄	東京医療 センター	吉田晴郎	耳鼻咽喉科

区分	課題名	研究 代表者名	研究代表者 施設名	責任医師	責任医師 診療科
EBM	膵がん切除後の補助化学療法におけるS-1単独療法とS-1とメトホルミンの併用療法の非盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験（ASMET）（採択番号：H26-EBM(介入)-03）	古川正幸	九州がんセンター	佐伯 哲	肝臓内科
EBM	我が国における左冠動脈主幹部インターベンションに対するコホート研究（LM-JANHO）（採択番号：H29-EBM(観察)-02）	村里嘉信	九州医療センター	深江貴芸	循環器内科
EBM	免疫抑制患者に対する13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体肺炎球菌ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体肺炎球菌ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験－（CPI STUDY）（採択番号：H27-EBM(介入)-01）	丸山貴也	三重病院	吉田真一郎	血液内科

2. 競争的研究資金他

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ①文部科学省科学研究費 | ⑦国立高度専門医療センター等研究費 |
| ②科学研究費助成事業（科学研究費補助金） | ⑧その他厚生労働省関連研究費 |
| ③科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） | ⑨日本医療研究開発機構研究費 |
| ④科学技術振興機構科学研究費 | ⑩その他財団等からの研究費 |
| ⑤その他文部科学省関連研究費 | ⑪民間セクターからの寄附金 |
| ⑥厚生労働科学研究費 | |

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名 （依頼業者名）	主任 分担	新規 継続	研究 種別	責任医師等 診療科
③	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】	本田和也	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	JNP
③	難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築【22K02409】	吉田晴郎	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	耳鼻咽喉科
③	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析【23K07471】	相葉佳洋	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	臨床研究センター
③	原発性胆汁性胆管炎の新たな病態解明と治療標的の同定を目指した臨床ゲノム解析【23K07366】	中村 稔	基盤（C）一般	主任	継続	補助金	臨床研究センター
③	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する【24K12277】	小野智憲	基盤（C）一般	主任	新規	補助金	脳神経外科
③	手術室における滅菌有効期限を事象依存型無菌性維持に設定するための基礎学研究【23K17255】	原健太郎	若手研究	主任	継続	補助金	看護部
③	原発性胆汁性胆管炎の門脈域におけるPOU2AF1とその関連分子の解析【23K07471】	伊東正博	基盤（C）一般	分担	継続	補助金	病理診断科
③	bFGFの組織再生能力に着目した統合失調症治療法の開発【22K07615】	藤岡正樹	基盤（C）一般	分担	継続	補助金	形成外科
③	脳卒中診療におけるナースプラクティショナー（NP）を活用したマンパワーの提案【22K10433】	森塚倫也	基盤（C）一般	分担	継続	補助金	JNP
③	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する【24K12277】	伊東正博	基盤（C）一般	分担	新規	補助金	病理診断科
③	発達性てんかん性脳症における皮質アストロサイトの未熟性を遺伝子レベルで解析する【24K12277】	三浦史郎	基盤（C）一般	分担	新規	補助金	病理診断科
⑥	様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究【23HC2004】	八橋 弘	肝炎等克服政策研究事業	主任	継続	補助金	肝臓内科
⑥	C型肝炎特措法に基づく薬害C型肝炎患者救済を推進するための実態調査研究	八橋 弘	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	分担	新規	補助金	肝臓内科
⑥	C型肝炎特措法に基づく薬害C型肝炎患者救済を推進するための実態調査研究	八橋 弘	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	分担	新規	補助金	肝臓内科
⑥	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	八橋 弘	エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金	肝臓内科
⑥	様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究【24HC2001】	八橋 弘	肝炎等克服政策研究事業	分担	新規	補助金	肝臓内科

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名 (依頼業者名)	主任 分担	新規 継続	研究 種別	責任医師等 診療科
⑥	安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築のための研究【22KC2007】	八橋 弘	医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究【22IA2004】	高山隼人	地域医療基盤開発推進研究事業	分担	継続	補助金	救急科
⑥	へき地・離島等での血液製剤の有効利用のための研究【24CA2015】	長井一浩	厚生労働科学特別研究事業	分担	継続	補助金	臨床検査科
⑥	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究事業	八橋 弘	友愛福祉財団委託事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究【23FC1026】	小森敦正	難治性疾患政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	全国規模の肝炎ウイルス感染状況把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究【22HC1001】	山崎一美	肝炎等克服政策研究事業	分担	継続	補助金	肝臓内科
⑥	希少てんかんの診療指針と包括医療の研究【23FC1013】	本田涼子	難治性疾患政策研究事業	分担	継続	補助金	小児科
⑨	肝硬変患者の重症度別のQOLと長期経過、予後及びその改善に関する研究【24fk0210153h0001】	八橋 弘	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	主任	新規	委託	肝臓内科
⑨	インターフェロンフリー治療がC型肝炎肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究【24fk0210113h0003】	八橋 弘	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの利活用【24fk0210111h0003】	山崎一美	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	Nucleotide analog製剤の宿主免疫賦活能を利用してB型肝炎のHBs抗原消失率向上を目指す治療法の開発および創薬に関する研究【243fk0210112h0003】	山崎一美	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	肝類洞内皮のバリア破綻を契機とする非アルコール性脂肪性肝炎の発症と肝発がん機序の解明【24fk0210129h0002】	小森敦正	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	継続	委託	肝臓内科
⑨	成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立【24ck0106742h0003】	今泉芳孝	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託	血液内科
⑨	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践【23ek0109617s1802】	中村 稔	難治性疾患実用化研究事業	分担	継続	委託	臨床研究センター
⑨	難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践【24ek0109618h0003】	中村 稔	難治性疾患実用化研究事業	分担	継続	委託	臨床研究センター
⑩	肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明研究	八橋 弘	公益財団法人東京医科学総合研究所感染制御プロジェクト	分担	継続	共同	肝臓内科
⑩	無人航空機を用いた血液製剤搬送の実行可能性と品質への影響に関する研究：濃厚血小板製剤搬送技術の最適化	長井一浩	臨床研究推進事業	主任	新規	共同	臨床検査科
⑩	離島圏医療機関への無人航空機を用いた血液製剤搬送体制の実用化に関する研究	長井一浩	血液製剤使用適正化方策調査研究事業	主任	新規	共同	臨床検査科
⑪	肝発癌、肝線維化、および免疫チェックポイント阻害剤を用いた肝癌治療反応の予測における、脂肪酸酸化関連メタボライト測定の意義	小森敦正	中外製薬株式会社	主任	新規	共同	肝臓内科
⑪	進行大腸癌におけるオキサリプラチン使用による肝類洞閉塞症候群の臨床的評価とバイオマーカーの関連に関する単施設前向きコホート研究	黒木 保	中外製薬株式会社	主任	新規	共同	外科

区分	研究課題名	責任医師	研究事業名 (依頼業者名)	主任 分担	新規 継続	研究 種別	責任医師等 診療科
⑪	造血器悪性腫瘍の標準的治療確立に向けた研究活動	吉田真一郎	中外製薬株式会社	主任	新規	共同	血液内科
⑪	腎疾患や透析、動脈硬化、高血圧についての研究活動	岡 哲	中外製薬株式会社	主任	新規	共同	腎臓内科
⑪	術前呼吸リハビリおよび気管支拡張剤吸入による術前術後の呼吸機能改善についての検討	田川 努	中外製薬株式会社	主任	新規	共同	呼吸器外科
⑪	腫瘍組織登録の標準化のため	三浦史郎	一般社団法人 長崎県医師会	主任	新規	共同	病理診断科
⑪	形成外科の研究への援助	藤岡正樹	医療法人城内 会新生病院	主任	新規	共同	形成外科
⑪	医療の充実のため	高山隼人	独立行政法人国立 病院機構長崎医療 センター附属看護 学校同窓会	主任	新規	共同	救急科
⑪	医療の充実のため	小野智恵	西山 華	主任	新規	共同	脳神経外科

3. 治験・医師主導治験

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師 診療科
治験	過去2年間に尿路感染症の既往がある60歳以上の成人を対象にExPEC9Vを接種したときの侵襲性腸管外病原性大腸菌感染症の予防における有効性、安全性及び免疫原性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第3相試験	ヤンセンファーマ株式会社	和泉 泰衛	総合診療科
治験	一次治療のステロイドで十分な効果が得られなかったか治療後に再発した特発性血小板減少性紫斑病（ITP）患者を対象としてエルトロンボパグに追加するianalumab（VAY736）をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、ランダム化、二重盲検試験（VAYHIT2）	ノバルティスファーマ株式会社	今泉 芳孝	血液内科
治験	抗CD38抗体及びレナリドミドを含む1～4ラインの前治療歴がある再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象として、talquetamab及びボマリドミドの併用療法（Tal-P）、talquetamab及びteclistamabの併用療法（Tal-Tec）、並びに治験責任（分担）医師が選択するエロツズマブ、ボマリドミド、及びデキサメタゾン併用療法（EPd）又はボマリドミド、ボルテゾミブ、及びデキサメタゾン併用療法（Pvd）を比較する第3相ランダム化試験（実施計画書№：64407564MMY3009）	ヤンセンファーマ株式会社	今泉 芳孝	血液内科
治験	再発又は難治性のT細胞リンパ腫患者を対象としたBMS-986369（golcadomide）の安全性、忍容性、薬物動態及び有効性を検討する国内第1/2相試験（GOLSEEK-3）	ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社	今泉 芳孝	血液内科
治験	自家幹細胞移植に非適応又は初回治療として自家幹細胞移植を予定していない未治療の多発性骨髄腫患者を対象としたteclistamabとダラツムマブ皮下投与製剤及びレナリドミドの併用（Tec-DR）並びにtalquetamabとダラツムマブ皮下投与製剤及びレナリドミドの併用（Tal-DR）と、ダラツムマブ皮下投与製剤、レナリドミド及びデキサメタゾンの併用（DRd）を比較する第3相ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	今泉 芳孝	血液内科
治験	A Multicenter, Parallel-group, Double-blind, 2-Arm, Phase III Study to Investigate the Efficacy and Safety of Anifrolumab Administered as Subcutaneous Injection and Added to Standard of Care Compared with Placebo Added to Standard of Care in Adult Participants with Idiopathic Inflammatory Myopathies (Polymyositis and Dermatomyositis) 特発性炎症性筋疾患（多発性筋炎及び皮膚筋炎）の成人被験者を対象に標準治療に上乗せしてアニフロルマブを皮下投与したときの有効性及び安全性をプラセボと比較検討する第Ⅲ相、多施設共同、並行群間、二重盲検、2群試験	アストラゼネカ株式会社	岩永 希	リウマチ科
治験	新規ホルモン剤（NHA）及びタキサン系化学療法による前治療を受けた転移性去勢抵抗性前立腺癌（mCRPC）患者を対象に、MK-5684とアピラテロン酢酸エステル又はエンザルタミドを比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験	MSD株式会社	大仁田 亨	泌尿器科
治験	一剤の新規ホルモン剤（NHA）の治療中又は治療後に疾患進行した転移性去勢抵抗性前立腺癌（mCRPC）患者を対象に、MK-5684とアピラテロン酢酸エステル又はエンザルタミドを比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験	MSD株式会社	大仁田 亨	泌尿器科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師 診療科
治験	OPC-131461 の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験	大塚製薬株式会社	於久 幸治	循環器内科
治験	心血管系リスクが高い患者を対象に主要心血管系イベントの抑制におけるMK-0616の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、無作為化、プラセボ対照試験	MSD株式会社	於久 幸治	循環器内科
治験	A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Cenobamate Adjunctive Therapy in Subjects with Partial Onset Seizures, with Optional Open-Label Extension 部分てんかん患者に対するcenobamate追加療法の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験及び非盲検継続試験	IQVIAサービシーズ ジャパン合同会社	小野 智憲	脳神経外科
治験	STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの有効性及び安全性を評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照、多施設共同、外来、並行群間比較試験	ユーシービージャパン株式会社	小野 智憲	脳神経外科
治験	STEREOTYPICAL PROLONGED SEIZUREを有する12歳以上の患者を対象として、STACCATO ALPRAZOLAMの安全性及び忍容性を評価する非盲検、多施設共同、外来継続試験	ユーシービージャパン株式会社	小野 智憲	脳神経外科
治験	A Phase 2, Multicenter Open-Label Extension Study to Evaluate the Long-term Safety of Cenobamate in Japanese Subjects with Partial Onset Seizures 部分発作を有する日本人てんかん患者を対象としたCenobamateの長期安全性を評価する第2相多施設共同非盲検継続投与試験	小野薬品工業株式会社	小野 智憲	脳神経外科
治験	Long-term Safety and Tolerability Study of Linerixibat for the Treatment of Cholestatic Pruritus in Participants with Primary Biliary Cholangitis	グラクソ・スミスクライン株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	A two-part, randomized, placebo controlled, double blind, multicenter, Phase 3 study to evaluate the efficacy and safety of linerixibat for the treatment of cholestatic pruritus in participants with primary biliary cholangitis (PBC).	グラクソ・スミスクライン株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	成人の非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたGSK4532990の有効性及び安全性を評価する二重盲検、プラセボ対照、第Ⅱb相試験 A Double-Blind, Placebo-Controlled Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy and Safety of GSK4532990 in Adults with Pre-Cirrhotic Nonalcoholic Steatohepatitis (HORIZON)	グラクソ・スミスクライン株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	Phase 3 Multicenter, Randomized, Double-Blind, Study to Assess the Efficacy and Safety of Treatment with Bepirovirsen in Nucleos (t)ide Analogue treated Participants with Chronic Hepatitis B Virus (B-Well 2) 核酸アナログ治療を受けているB型肝炎ウイルス持続感染患者を対象としたbepirovirsen投与の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、二重盲検試験 (B-Well 2)	グラクソ・スミスクライン株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	A Randomised, Double-blind, Placebo-controlled, Multi-centre Phase 2b Study to Evaluate the Efficacy, Safety and Tolerability of AZD2693 in Participants with Non-cirrhotic Non-alcoholic Steatohepatitis (NASH) with Fibrosis Who Are Carriers of the PNPLA3 rs738409 148M Risk Allele リスク対立遺伝子PNPLA3 rs738409148Mを保有する、線維化を伴う非肝硬変非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の患者を対象にAZD2693の有効性、安全性、及び忍容性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同第Ⅱb 相試験	アストラゼネカ株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	ウルソデオキシコール酸の治療で効果不十分な原発性胆汁性胆管炎患者を対象とした、K-808（ペマフィブラート）の2用量の有効性及び安全性を評価する第2相、ランダム化、プラセボ対照、並行群間比較、多施設共同、52週間継続評価を伴う12週間試験	興和株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	原発性胆汁性胆管炎 (PBC) 患者を対象に胆汁うっ滞性そう痒症に対する Volixibat の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験 (VANTAGE)	サイネオス・ヘルス・クリニカル株式会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	日本人の成人原発性胆汁性胆管炎 (PBC) 患者を対象に、Elafibranor 80 mgの有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、非盲検、単群試験	ICONクリニカルリサーチ合同会社	小森 敦正	肝臓内科
治験	ウルソデオキシコール酸で効果不十分又は不耐容の原発性胆汁性胆管炎患者を対象にしたKC-8025 の検証的試験（第Ⅲ相）	科研製薬株式会社	小森 敦正	肝臓内科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師 診療科
治験	小児及び成人レノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象とした二部構成ZX008評価試験：パート1：小児及び成人LGS患者の発作に対する補助療法として2種類の固定用量のZX008（fenfluramine hydrochloride）経口液剤を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験；後続のパート2：小児及び成人LGS患者におけるZX008の長期安全性を評価する非盲検継続試験	サイネオス・ヘルス・クリニカル株式会社	本田 涼子	小児科
治験	小児及び若年成人のドラベ症候群（DS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験	武田薬品工業株式会社	本田 涼子	小児科
治験	小児及び成人のレノックス・ガストー症候群（LGS）患者を対象に併用療法として投与したときのsoticlestatの有効性、安全性及び忍容性を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験	武田薬品工業株式会社	本田 涼子	小児科
治験	ドラベ症候群又はレノックス・ガストー症候群患者を対象に併用療法として投与したときの soticlestat の長期的な安全性及び忍容性を評価する、第3相、前向き、非盲検、多施設共同、第3相試験からの継続投与試験（ENDYMION 2）	武田薬品工業株式会社	本田 涼子	小児科
治験	An open-label study to investigate the safety and efficacy of cannabidiol oral solution (GWP42003-P) in Japanese children and adults as adjunctive treatment for seizures associated with Lennox-Gastaut syndrome, Dravet syndrome, or tuberous sclerosis complex 日本人小児および成人患者を対象にレノックス・ガストー症候群、ドラベ症候群または結節性硬化症と関連する発作に対する併用療法として、カンナビジオール経口液剤（GWP42003-P）の安全性および有効性を検討する非盲検試験	IQVIAサービシーズ ジャパン合同会社	本田 涼子	小児科
治験	A PHASE 3, RANDOMIZED, DOUBLE-BLIND, PLACEBO-CONTROLLED, FIXED-DOSE, MULTICENTER STUDY TO EXAMINE THE EFFICACY AND SAFETY OF ZX008 IN SUBJECTS WITH CDKL5 DEFICIENCY DISORDER FOLLOWED BY AN OPEN-LABEL EXTENSION / CDKL5欠損症患者を対象としたZX008の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、固定用量、多施設共同試験、及び非盲検継続投与試験	ユーシービージャパン株式会社	本田 涼子	小児科
治験	小児てんかん患者に対するBRIVARACETAM併用投与における長期安全性及び忍容性を評価する、非盲検、単群、多施設共同試験	ユーシービージャパン株式会社	本田 涼子	小児科
治験	CLCZ696B2319E1試験を完了した左室収縮機能障害による日本人小児心不全患者を対象にLCZ696の安全性情報を収集する多施設共同非盲検試験	ノバルティスファーマ株式会社	本村 秀樹	小児科
治験	成人T細胞白血病・リンパ腫を対象としたウイルス抗原を標的とする樹状細胞ワクチン療法 多施設共同非盲検無作為化比較試験（第Ⅱ相試験）	医師主導治験	吉田真一郎	血液内科

4. 製造販売後調査、受託臨床研究、公費臨床試験他

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
受託臨床研究 (文書同意あり)	メトトレキサート（MTX）抵抗性関節リウマチ患者を対象としたウパダシニブ+MTX併用による臨床的寛解達成および臨床的寛解達成後のMTX休薬における臨床的非再燃の維持を評価する他施設共同前向き試験（DOPPLER STUDY）	国立大学法人 長崎大学	岡田 寛丈	膠原病・ リウマチ科
受託臨床研究 (文書同意あり)	メトトレキサート抵抗性関節リウマチ患者を対象としたフィルゴチニブ単剤治療のトシリズマブ単剤治療に対する有用性の非劣性を検証する多施設共同ランダム化比較試験 Efficacy and safety of selective JAK 1 inhibitor Filgotinib in active rheumatoid arthritis patients with inadequate response to methotrexate: Comparative study with Filgotinib and Tocilizumab examined by clinical index as well as musculoskeletal ultrasound assessment (TRANSFORM STUDY)	国立大学法人 長崎大学	岡田 寛丈	膠原病・ リウマチ科
受託臨床研究 (文書同意あり)	間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎患者を対象とした肺病変の進行を規定するバイオマーカー探索研究（PMDM-ILD）	国立大学法人 長崎大学	岡田 寛丈	膠原病・ リウマチ科
受託臨床研究 (文書同意あり)	Comprehensive Outcomes Registry in Subjects with Epilepsy Treated with Vagus Nerve Stimulation Therapy（迷走神経刺激療法で治療されたてんかん患者における、包括的な転帰に関する登録研究：CORE-VNS）	リヴァノヴァ（株）	小野 智恵	脳神経外科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
受託臨床研究 (文書同意あり)	てんかん患者におけるペランパネル一次単剤療法の有効性・安全性に関する観察研究 (PORTABLE study) (実施計画書No: E2007-M081-515)	国際医療福祉大学成田病院	小野 智恵	脳神経外科
受託臨床研究 (文書同意あり)	新型コロナワクチン第二期追加接種 (4回目接種) にかかわる免疫持続性および安全性調査 (コホート調査)	学校法人順天堂	小森 敦正	肝臓内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	新型コロナ組換えタンパクワクチン初回シリーズおよび追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査 (コホート調査) (ノババックス)	学校法人順天堂	小森 敦正	肝臓内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	HAMRET Study 切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	小森 敦正	肝臓内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	成人市中肺炎患者における肺炎球菌の血清型分布に関する前向きサーベイランス研究	MSD (株)	近藤 晃	呼吸器内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	市中肺炎に対するラスクフロキサシン (LSFX) スイッチ療法の有効性および安全性を評価する多施設共同単群非盲検試験	国立大学法人長崎大学	近藤 晃	呼吸器内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	日本におけるカルバペネム耐性グラム陰性感染症患者に対する、細菌学的情報を付加したセフィデロコルの有効性及び安全性の評価研究	塩野義製薬 (株)	近藤 晃	呼吸器内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の有効性と安全性に関する解析	国立大学法人長崎大学	原 敦子	呼吸器内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	JBCRG-M06「HER2陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法を比較検討する第Ⅲ相臨床研究」	一般社団法人JBCRG	南 恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究 (文書同意あり)	HER2陽性及び低発現乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験 (ERICA) (WJOG14320B)	特定非営利活動法人西日本がん研究機構	南 恵樹	乳腺・内分泌外科
受託臨床研究 (文書同意あり)	小児侵襲性肺炎球菌感染症患者から分離された肺炎球菌株の莢膜血清型分布及び薬剤感受性に関する多施設共同観察研究 (実施計画書No: V114-NIS-7998)	MSD (株)	本村 秀樹	小児科
受託臨床研究 (文書同意あり)	オミクロン株対応2価ワクチンの追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査 (コホート調査)	学校法人順天堂	本村 秀樹	小児科
受託臨床研究 (文書同意あり)	新型コロナワクチン接種 (初回シリーズおよび追加接種) にかかわる免疫原性および安全性調査 (5歳から11歳)	学校法人順天堂	本村 秀樹	小児科
受託臨床研究 (文書同意あり)	新型コロナワクチン接種 (初回接種) にかかわる免疫原性および安全性調査 (6か月～4歳)	学校法人順天堂	本村 秀樹	小児科
受託臨床研究 (文書同意あり)	オミクロン株XBB.1.5対応1価ワクチンの初回接種および追加接種にかかわる免疫持続性および安全性調査 (コホート調査)	学校法人順天堂	本村 秀樹	小児科
受託臨床研究 (文書同意あり)	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブにTACE療法を追加することの有効性を検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究 (IMPACT Study)	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	本吉 康英	肝臓内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	切除不能肝細胞癌に対する薬物療法に関する前向き観察研究 (PRISM Study)	一般社団法人IIS支援センター	本吉 康英	肝臓内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討 (W-JHS AA02)	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	少量レナリドミド療法に再発・難治性となったMM患者に対するIId療法の効果と安全性 (W-JHS MM02)	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	日本における初発ホジキンリンパ腫に対するA-AVD療法の成績 前向き登録研究 (W-JHS HL01)	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者 (以下、「DLBCL」という。) に対するボラツズマブ ベドチン (以下「Pola」という。) +R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究 -W-JHS NHL03 (POLASTAR) -	一般社団法人九州臨床研究支援センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究 (文書同意あり)	術前化学療法を施行する食道癌・胃癌における十全大補湯によるQOL改善を検討するオープンラベル比較第Ⅱ相試験 (QuEST study)	一般社団法人九州消化器癌化学療法研究会	米田 晃	外科
受託臨床研究 (文書同意なし)	総合診療科を受診した患者におけるHAEの有病率および臨床的特徴の調査 (研究実施計画書番号: CSL312_5003)	(株) ヌーベルプラス	和泉 泰衛	総合診療科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
受託臨床研究 (文書同意なし)	乳癌の原発部位から転移再発部位におけるHER2発現のダイナミクスを検討する多機関共同後向きコホート研究 JFMC52-2401-N1/ENH-DS-24005 (HER2 PRIME study)	公益財団法人 がん集学的治療 研究財団	南 恵樹	外科
受託臨床研究 (文書同意なし)	Tucidinostat (HBI 8000) の開発第IIb 相試験に参加した再発・難治末梢性 T 細胞リンパ腫患者における病型と治療効果との関連についての多施設共同後方視研究（研究計画書番号：Tucidinostat-TFH）	独立行政法人国 立病院機構名古屋医療センター	吉田真一郎	血液内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意あり	レジオネラ症診断における尿中抗原検査と臨床的特徴に関する全国サーベイランス研究－多施設共同前向き観察研究－	一般社団法人 日本感染症学会	近藤 晃	呼吸器内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意あり	Semi-dry dot-blot (SDB) 法を応用した新規乳癌リンパ節転移診断キットに関する多施設共同臨床性能試験（再試験）	(株) ニッポン ジーン	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	抗ミトコンドリア抗体陰性原発性胆汁性胆管炎に対する、QUANTA Lite gp210 ELISAおよびQUANTA Lite sp100 ELISAの診断特性：多施設共同検証試験	アイ・エル・ジャ パン (株) INOVA Diagnostics, Inc.	小森 敦正	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	慢性肝疾患におけるサイトケラチン18フラグメントの有用性に関する検討	(株) 特殊免疫 研究所	末廣 智之	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	化学発光免疫測定法（CLIA法）における B 型肝炎検査試薬における基礎評価	シーメンスヘル スケア・ダイア グノスティクス (株)	藤野 達也	臨床検査科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	肝炎患者におけるM2BPGi試薬の臨床有用性の検討	シスメックス (株)	八橋 弘	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	化学発光免疫測定法（CLIA法）におけるHBs定量試薬の基礎評価	シーメンスヘル スケア・ダイア グノスティクス (株)	八橋 弘	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	慢性肝疾患におけるWFA（＋）M2BP、AFP-L3とautotaxinの病態生理学的意義の検討	東ソー (株)	山崎 一美	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	慢性肝疾患における可溶性免疫チェックポイント分子測定の有用性の検証	国立研究開発法 人国立国際医療 研究センター 国立大学法人 東 京大学 シスメックス (株)	山崎 一美	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	肝疾患関連バイオマーカーを用いたB型肝炎持続感染患者における予後予測の検討	富士レビオ (株)	山崎 一美	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	ルミパルスプレストグリピカン-3の肝細胞癌診断補助における臨床性能試験	富士レビオ (株)	山崎 一美	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	血清HBs抗原糖鎖異性体を用いた B 型肝炎持続感染患者における臨床的有用性の検討	(株) RCMG	山崎 一美	肝臓内科
受託臨床研究 (体外診断用医薬品) 文書同意なし	肝疾患関連マーカー測定試薬の性能評価に関する検討	シスメックス (株)	山崎 一美	肝臓内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ピヴラツ点滴静注液150mg 特定使用成績調査（長期観察）	ネクセラファア マジヤパン (株)	案田 岳夫	脳神経外科
製造販売後調査 (文書同意あり)	エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査－肺癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討－	第一三共 (株)	池田 喬哉	呼吸器内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	クリースピータ皮下注 特定使用成績調査－FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査－	協和キリン (株)	和泉 啓	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ボイデヤ 一般使用成績調査（全例調査）	アレクシオン ファーマ合同会社	今泉 芳孝	血液内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	アトガム点滴静注液250mg 一般使用成績調査（プロトコール No.B5411004）	ファイザー (株)	今泉 芳孝	血液内科

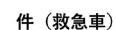
区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
製造販売後調査 (文書同意あり)	イムブルピカカプセル140mg 原発性マクログロブリン血症/ リンパ形質細胞リンパ腫を対象とした特定使用成績調査	ヤンセンファーマ (株)	今泉 芳孝	血液内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	イラリス皮下注用150mg、イラリス皮下注射液150mg 使用 成績調査 既存治療で効果不十分な家族性地中海熱, TNF 受容体関連周 期性症候群, 高IgD症候群 (メバロン酸キナーゼ欠損症)	ノバルティス ファーマ (株)	岩永 希	膠原病・ リウマチ科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ソリリス点滴静注300mg視神経脊髄炎スペクトラム障害に関 する特定使用成績調査	アレクシオン ファーマ合同会社	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	フィンテプラ内用液2.2mg/mL特定使用成績調査	日本新薬 (株)	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	エナロイ 特定使用成績調査 (長期)	鳥居薬品 (株)	岡 哲	腎臓内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	バフセオ錠150mg/300mg特定使用成績調査 (長期使用に関 する調査) VIOLET survey	田辺三菱製薬 (株)	岡 哲	腎臓内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	レクビオ皮下注 特定使用成績調査 [家族性高コレステロー ル血症又は高コレステロール血症, CKJX839A11401]	ノバルティス ファーマ (株)	於久 幸治	循環器内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	フィンテプラ内用液2.2mg/mL特定使用成績調査	日本新薬 (株)	小野 智憲	脳神経外科
製造販売後調査 (文書同意あり)	フェトロージャ点滴静注用 1g 一般使用成績調査	塩野義製薬 (株)	近藤 晃	呼吸器内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ユルトミリス®全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調 査	アレクシオン ファーマ合同会社	徳田 昌紘	神経内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセレカ錠特定使用成績調査	エーザイ (株)	中島悠史郎	消化管内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー (株)	平野 優大	呼吸器内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ゼジュラ特定使用成績調査「卵巣癌」	武田薬品工業 (株)	福田 雅史	産婦人科
製造販売後調査 (文書同意あり)	自家培養表皮ジェイスの先天性巨大色素性母斑に対する使用 成績調査	(株) ジャパン・ ティッシュエン ジニアリング	藤岡 正樹	形成外科
製造販売後調査 (文書同意あり)	サブリル散分包500mg使用成績調査 (点頭てんかん)	アルフレッサ ファーマ (株)	本田 涼子	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	フィコンパ点滴静注用 一般使用成績調査 一部分発作 (二次性全般化発作を含む) (4 歳以上) 又は強直 間代発作 (12歳以上) を有するてんかん患者に対する安全性 に関する調査	エーザイ (株)	本田 涼子	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	フィンテプラ内用液2.2mg/mL特定使用成績調査	日本新薬 (株)	本田 涼子	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	エンレスト錠/粒状錠小児用 特定使用成績調査 (小児慢性心 不全, CLCZ696F1401)	ノバルティス ファーマ (株)	本村 秀樹	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	イラリス皮下注用150mg、イラリス皮下注射液150mg 特定 使用成績調査 全身型若年性特発性関節炎	ノバルティス ファーマ (株)	安 忠輝	小児科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ハイヤスタ錠10mg 再発または難治性の成人T細胞白血病リン パ腫 (ATL) 患者における一般使用成績調査 (全例調査)	Meiji Seika ファ ルマ (株)	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ハイヤスタ錠10mg再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫 (PTCL) 患者における一般使用成績調査 (全例調査)	Meiji Seika ファ ルマ (株)	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定 使用成績調査: 低体重かつ高齢の患者における安全性の確認	MSD (株)	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意あり)	エザルミア錠一般使用成績調査	第一三共 (株)	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	イブリーフ静注20mg 一般使用成績調査	千寿製薬 (株)	青木 幹弘	小児科
製造販売後調査 (文書同意なし)	閉頭に用いる薄型チタンプレートシステムの有効性及び安全 性調査	(株) ベアーマ ディック	案田 岳夫	脳神経外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	オンデキサ静注用200mg 一般使用成績調査	アストラゼネカ (株)	案田 岳夫	脳神経外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	イジユド点滴静注25mg イミフィンジ点滴静注120mg・ 500mg 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象と した特定使用成績調査 (全例調査)	アストラゼネカ (株)	池田 喬哉	呼吸器内科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
製造販売後調査 (文書同意なし)	オンパットロ点滴静注 2 mg/mL 特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan (株)	和泉 泰衛	総合診療科
製造販売後調査 (文書同意なし)	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ 特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan (株)	和泉 泰衛	総合診療科
製造販売後調査 (文書同意なし)	タズベリク錠200mg 特定使用成績調査 ー再発又は難治性のEZH2遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫患者（標準的な治療が困難な場合に限定）における安全性に関する調査（全例調査）ー	エーザイ（株）	今泉 芳孝	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	サフネロー点滴静注300mg特定使用成績調査 全身性エリテマトーデス患者を対象とした全例調査	アストラゼネカ (株)	岩永 希	膠原病・ リウマチ科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ベンリスタ点滴静注用 ベンリスタ皮下注 特定使用成績調査（全例調査）	グラクソ・スミ スクライン（株）	岩永 希	膠原病・ リウマチ科
製造販売後調査 (文書同意なし)	オンパットロ点滴静注 2 mg/mL 特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan (株)	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ 特定使用成績調査（全例調査）	Alnylam Japan (株)	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ソリリス点滴静注300mg全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査	アレクシオン ファーマ合同会社	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	リュープリンSR注射用キット 11.25mg 特定使用成績調査 「全例調査：球脊髄性筋萎縮症（SBMA）」	武田薬品工業 (株)	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	エンスプリング皮下注 一般使用成績調査（全例調査）ー視 神経脊髄炎スペクトラム障害（視神経脊髄炎を含む）の再発 予防ー	中外製薬（株）	岩永 洋	脳神経内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	セルセプト®カプセル 副作用・感染症詳細調査	中外製薬（株）	岡 哲	腎臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	サムスカー一般使用成績調査（SIADHにおける低ナトリウム血 症）	大塚製薬（株）	岡 哲	腎臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	オンパットロ点滴静注 2 mg/mL 特定使用成績調査（全例調 査）	Alnylam Japan (株)	於久 幸治	循環器内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	アムヴトラ®皮下注25mgシリンジ 特定使用成績調査（全例 調査）	Alnylam Japan (株)	於久 幸治	循環器内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 治療切除不能な胆道 癌患者を対象とした特定使用成績調査	アストラゼネカ (株)	佐伯 哲	肝臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、 胃癌、膵癌、大腸癌〕 肝臓内科	小野薬品工業 (株)	佐伯 哲	肝臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	エドルミズ特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、 胃癌、膵癌、大腸癌〕	小野薬品工業 (株)	竹下 浩明	外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	イジユド点滴静注25mg・300mg イミフィンジ点滴静注 120mg・500mg 切除不能な肝細胞癌患者を対象とした特定 使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ (株)	長岡 進矢	肝臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	スキリージ点滴静注600mg 副作用詳細調査	アッヴィ合同会 社	中島悠史郎	消化管内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	リンヴォック®錠 副作用詳細調査	アッヴィ合同会 社	中島悠史郎	消化管内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	献血ヴェノグロブリンIH静注 一般使用成績調査（抗ドナー 抗体陽性腎移植における術前脱感作）	一般社団法人日 本血液製剤機構	錦戸 雅春	泌尿器科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ラバリムス錠 1 mg・顆粒0.2%（難治性リンパ管疾患）一般使 用成績調査（全例調査）	ノーベルファ ーマ（株）	日吉 尚	形成外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ラバリムス錠・顆粒（難治性脈管腫瘍及び難治性脈管奇形） 一般使用成績調査（全例調査）	ノーベルファ ーマ（株）	日吉 尚	形成外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ネキソブリッド外用ゲル 5 g一般使用成績調査	科研製薬（株）	藤岡 正樹	形成外科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ブコラム口腔用液 特定使用成績調査	武田薬品工業 (株)	本田 涼子	小児科
製造販売後調査 (文書同意なし)	バビースモ®硝子体内注射液 副作用・感染症詳細調査	中外製薬（株）	前川 有紀	眼科
製造販売後調査 (文書同意なし)	JMSマイクロカテーテル【販売名：ナデシコ】症例報告	（株）ジェイ・ エム・エス	宮崎 敦史	放射線科
製造販売後調査 (文書同意なし)	スピナラザ髄注12mg 使用成績調査	バイオジェン・ ジャパン（株）	安 忠輝	小児科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
製造販売後調査 (文書同意なし)	C型非代償性肝硬変患者におけるエプクルーサ配合錠の長期有効性（生存状況及び肝細胞癌の発症）を評価することが目的の特定使用成績調査	ギリアド・サイ エンシズ（株）	八橋 弘	肝臓内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ノクサフィル錠100mg及びノクサフィル点滴静注300mg特定 使用成績調査：希少真菌感染症患者における有効性の確認	MSD（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	カルケンスカプセル100mg 一般使用成績調査	アストラゼネカ (株)	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	リクシアナ錠の副作用詳細調査	第一三共（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ベルケイド注射用 3mg マントル細胞リンパ腫患者を対象 とした使用成績調査	ヤンセンファーマ（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	デファイテリオ静注200mg 一般使用成績調査	日本新薬（株）	吉田真一郎	血液内科
製造販売後調査 (文書同意なし)	ガザイバ点滴静注1000mg 特定使用成績調査 CD20陽性濾 胞性リンパ腫（GAZ180IN）	日本新薬（株）	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リン パ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のラン ダム化第Ⅲ相試験（JCOG2201）	JCOGリンパ腫 グループ	今泉 芳孝	血液内科
公費臨床試験	中等度障害の心停止後症候群に対する低体温療法と常温療法 の30日神経学的予後に関する比較：多施設無作為化比較試験	岡山大学病院	中道 親昭	救命救急科
公費臨床試験	JCOGバイオバンクジャパン連携バイオバンク	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	薬物療法非抵抗性Stage IV乳癌に対する原発巣切除の意義 (原発巣切除なしversusあり)に関するランダム化比較試験 (JCOG1017)	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテ ンシブフォローアップの比較第Ⅲ相試験（JCOG1204）	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対す る非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験 (JCOG1505)	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ 相試験（JCOG1607）	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性 原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試 験（JCOG1806）	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の 意義を検証するランダム化比較試験（OLIGAMI）（JCOG2110）	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌局所領域再発に対する根本 的治療後アベマシクリブも有効性を評価するランダム化比較 試験（JCOG2313）	JCOG乳がん グループ	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	HER2陽性の進行再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用 性を検証する第Ⅲ相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－	一般社団法人 JBCRG	南 恵樹	乳腺・ 内分泌外科
公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病（AML）の層別化により化学療法が 可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用い る第Ⅱ相臨床試験（JALSG GML219）	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	初発BCR-ABL1陽性急性リンパ性白血病（Ph＋ALL）を対象と したダサチニブ、ボナチニブ併用化学療法および造血幹細胞 移植の臨床第Ⅱ相試験（JALSG PhALL219）	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	再発または難治性のFLT3遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患 者を対象とする MEC（ミトキサントロン/エトポシド/シタラ ビン）とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、 前向き介入試験（JALSG-RR-FLT3-AML220）	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	t（8；21）およびinv（16）陽性AYA・若年成人急性骨髄性 白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オ ゾガマイシン治療介入の有効性と安全性に関する臨床第Ⅱ相 試験（JALSG-CBF-AML220）	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	本邦の初発 APL に対する ATRA＋ATO 療法の多施設共同第Ⅱ 相試験（JALSG APL220 Study）	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科

区分	研究課題名	依頼者 (試験母体)	責任医師	責任医師等 診療科
公費臨床試験	高齢者急性骨髄性白血病における遺伝子異常と予後の関連に関する研究 (JALSG GML219-Molecular)	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験 (JPLSG ALL-B19)	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	小児・AYA・成人に発症したT前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法の多施設共同第Ⅲ相臨床試験 (JPLSG ALL-T19)	Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験 ver1.0 (JCOG1411)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ+メルファラン+プレドニゾロン+ボルテゾミブ (D-MPB) 導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ+ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験 (JCOG1911)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	多発性骨髄腫に対するダラツムマブ併用化学療法における効果予測因子および抵抗性機序に関する探索的研究 (JCOG1911A1)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験 (JCOG2008)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	JCOGバイオバンクプロジェクト	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	成人T細胞白血病・リンパ腫に対する同種造血幹細胞移植療法を組み込んだ治療法に関する非ランダム化検証的試験 (JCOG0907)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	高リスクDLBCLに対する導入化学療法 (bi-R-CHOP療法またはbi-R-CHOP/CHASER療法) と大量化学療法 (LEED) の有用性に関するランダム化第Ⅱ相試験 (JCOG0908)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	Interim PET に基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量 BEACOPP 療法の非ランダム化検証的試験 (JCOG1305)	JCOGリンパ腫グループ	吉田真一郎	血液内科
公費臨床試験	移植非適応初発多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド+デキサメタゾン (Rd) 療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性 (W-JHS MM01)	西日本血液臨床研究グループ (W-JHS)	吉田真一郎	血液内科

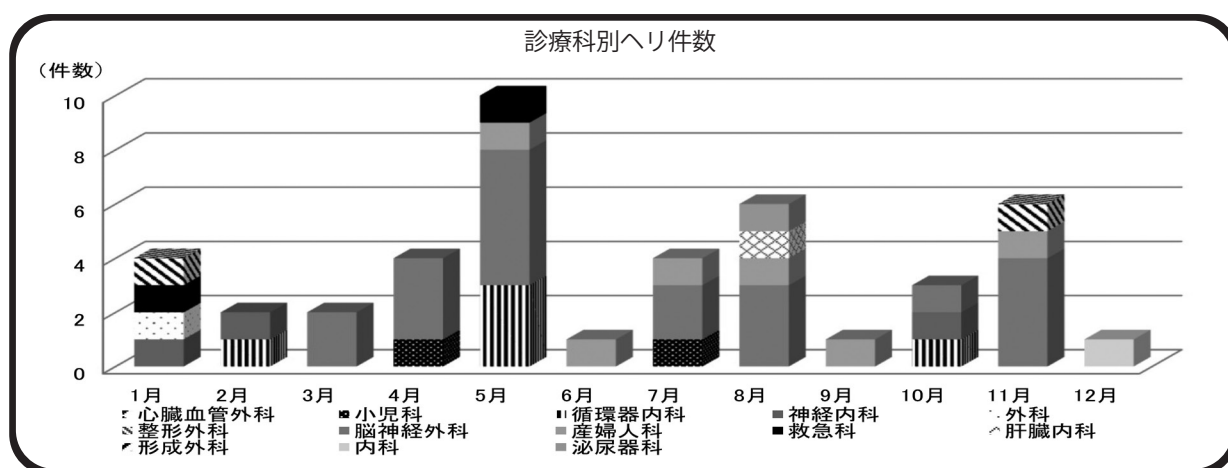
2025年

件 (救急患者)

2025年 ヘリコプター急患搬送実績【自衛隊ヘリ・防災ヘリ】

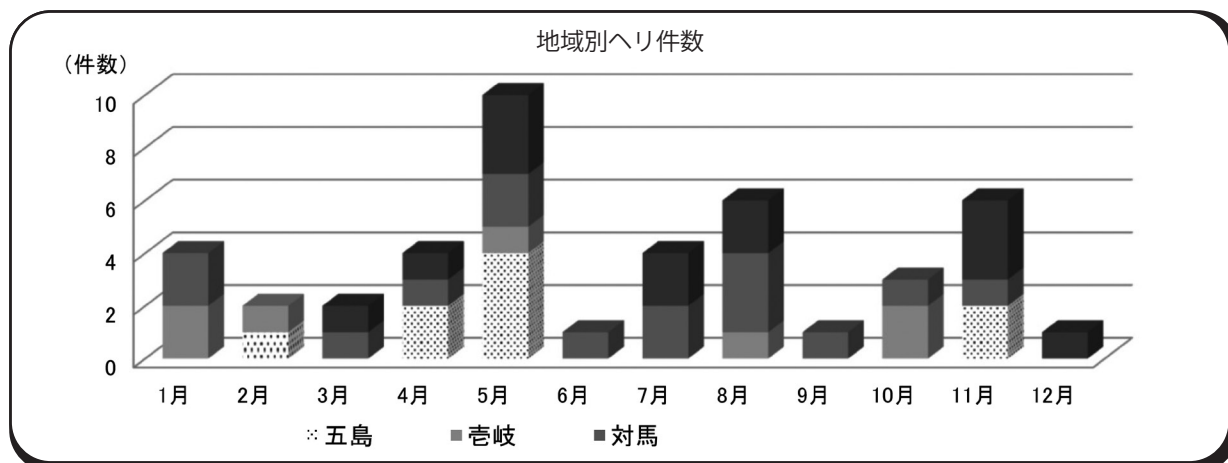
○診療科別

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓血管外科													
小児科				1			1						2
循環器内科		1			3					1			5
神経内科	1	1								1			3
外科	1												1
整形外科													
脳神経外科			2	3	5		2	3		1	4		20
産婦人科					1	1	1	1	1		1		6
救急科	1				1								2
肝臓内科								1					1
形成外科	1										1		2
内科												1	1
泌尿器科								1					1
計	4	2	2	4	10	1	4	6	1	3	6	1	44



○地域別

地区	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
五島		1		2	4						2		9
壱岐	2	1			1			1		2			7
対馬	2		1	1	2	1	2	3	1	1	1		15
新上五島			1	1	3		2	2			3	1	13
その他													
計	4	2	2	4	10	1	4	6	1	3	6	1	44



患者数 (診療科別)

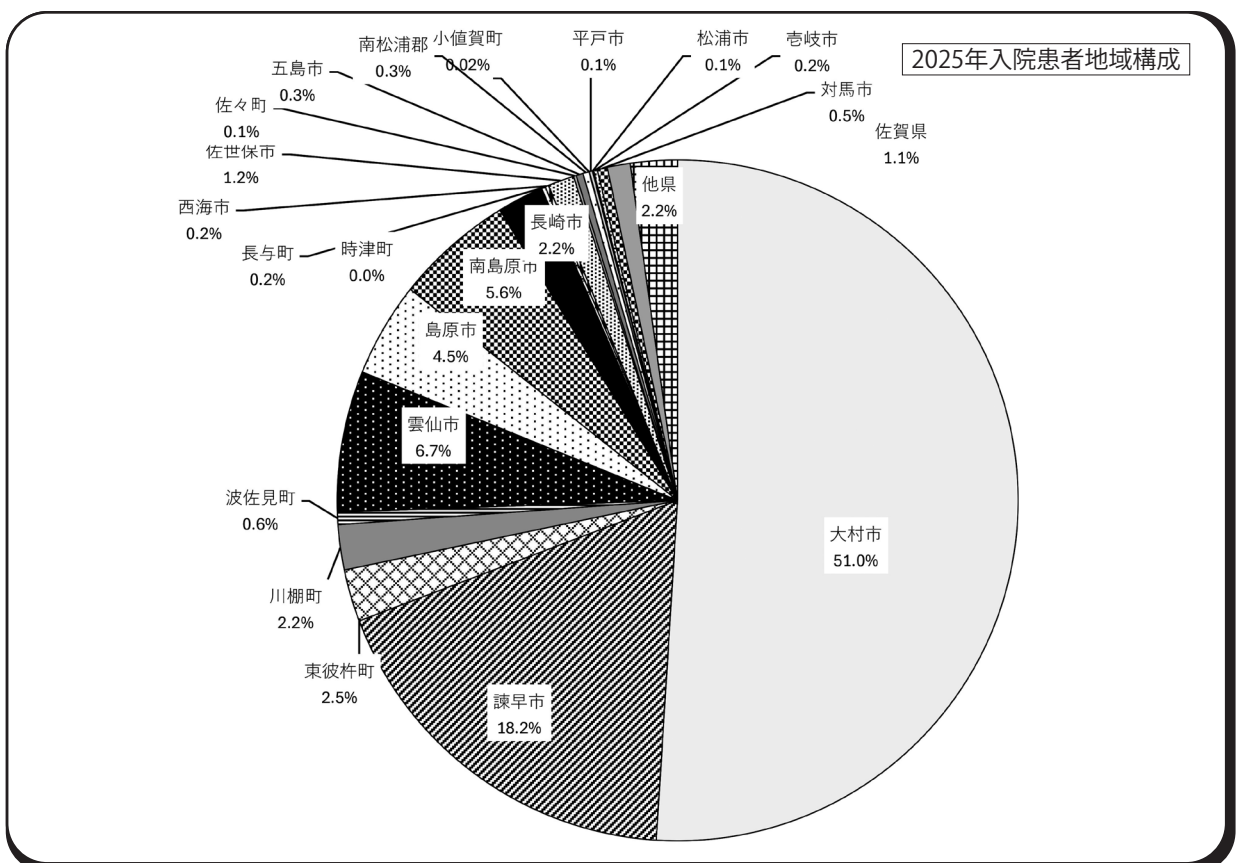
2025年

診療科	入院患者数		新入院患者数	退院患者数		平均 在院日数	外来患者数		新外来患者数		紹介状		紹介状		逆紹介状		剖検数	
	延患者数	一日平均	人	総数	(補) 死産	人	延患者数	一日平均	新患者数	新患者率	紹介された件数	紹介率	紹介された件数	紹介率	紹介した件数	逆紹介率	件	割合率
内科	21,138	57.9	人	1,255	67	人	7,211	29.9	2,317	32.1	884	94.1	1,551	105.7	10	14.9%		
血液内科	11,459	31.4	526	580	33	20.7	7,397	30.7	167	2.3	141	88.0	241	145.2	1	3.0%		
腎臓内科	4,718	12.9	256	328	19	16.2	5,231	21.7	125	2.4	106	89.7	646	512.7	0	0.0%		
内分泌・代謝内科	1,643	4.5	111	134	1	13.4	5,887	24.4	184	3.1	132	74.4	327	181.7	0	0.0%		
消化器内科	7,644	20.9	961	1,082	18	7.5	6,178	25.6	351	5.7	297	90.5	740	206.1	0	0.0%		
肝臓内科	11,242	30.8	776	931	43	13.2	11,335	47.0	466	4.1	391	86.4	622	130.1	1	2.3%		
呼吸器内科	11,101	30.4	693	872	49	14.2	8,852	36.7	335	3.8	244	78.5	484	142.8	0	0.0%		
循環器内科	7,079	19.4	670	778	13	9.8	9,209	38.2	531	5.8	422	86.3	825	152.8	0	0.0%		
脳神経内科	9,430	25.8	433	495	17	20.3	5,152	21.4	383	7.4	247	95.7	499	125.7	0	0.0%		
精神科	0	0.0	0	0	0	0.0	329	1.4	10	3.0	0	0.0	9	90.0	0	0.0%		
小児科	10,587	29.0	1,183	1,196	4	8.9	13,492	56.0	1,770	13.1	531	94.6	1,276	144.8	0	0.0%		
再) 新生児科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%		
外科	12,044	33.0	780	875	16	14.6	3,639	15.1	287	7.9	218	86.3	783	275.7	1	6.3%		
乳腺内分泌外科	1,857	5.1	275	281	2	6.7	5,363	22.3	218	4.1	206	94.9	300	138.2	0	0.0%		
呼吸器外科	1,305	3.6	107	122	0	11.4	990	4.1	40	4.0	23	63.2	56	147.4	0	0.0%		
心臓血管外科	1,724	4.7	98	101	2	17.3	1,477	6.1	98	6.6	80	89.9	156	157.6	0	0.0%		
整形外科	10,507	28.8	647	627	2	16.5	4,008	16.6	770	19.2	361	92.3	563	100.4	0	0.0%		
形成外科	4,122	11.3	374	393	4	10.7	4,330	18.0	752	17.4	442	92.4	244	49.0	0	0.0%		
脳神経外科	11,855	32.5	515	514	36	23.0	4,343	18.0	582	13.4	250	95.2	409	108.8	0	0.0%		
皮膚科	861	2.4	147	151	0	5.8	6,294	26.1	366	5.8	208	69.6	189	62.4	0	0.0%		
泌尿器科	5,041	13.8	710	746	10	6.9	11,049	45.8	390	3.5	299	85.3	343	93.2	0	0.0%		
産婦人科	11,602	31.8	1,354	1,369	4	8.5	18,489	76.7	733	4.0	650	97.1	742	108.6	0	0.0%		
眼科	917	2.5	480	481	0	1.9	6,465	26.8	593	9.2	490	88.0	1,701	305.4	0	0.0%		
耳鼻咽喉科	7,441	20.4	617	622	3	12.0	8,706	36.1	882	10.1	724	89.8	519	64.0	0	0.0%		
リハビリテーション科	0	0.0	0	0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	83	0.0	0	0.0%		
放射線科	5	0.0	1	1	0	5.0	5,291	22.0	1,261	23.8	1,236	98.4	1,535	122.2	0	0.0%		
麻酔科	0	0.0	0	0	0	0.0	119	0.5	0	0.0	0	0.0	4	0.0	0	0.0%		
リウマチ科	2,537	7.0	84	110	0	26.2	4,007	16.6	94	2.3	66	74.7	178	195.6	0	0.0%		
救急科	434	1.2	179	130	20	2.8	1,188	4.9	953	80.2	102	42.7	309	63.1	0	0.0%		
小児外科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%		
腫瘍内科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%		
感染症内科	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%		
緩和ケア科	0	0.0	0	0	0	0.0	210	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%		
合計	168,293	461.1	14,089	14,174	363	11.9	166,242	689.8	14,658	8.8	8,750	88.8	15,334	132.5	13	3.6%		

地域別新入院患者数

2025年 (単位:人)

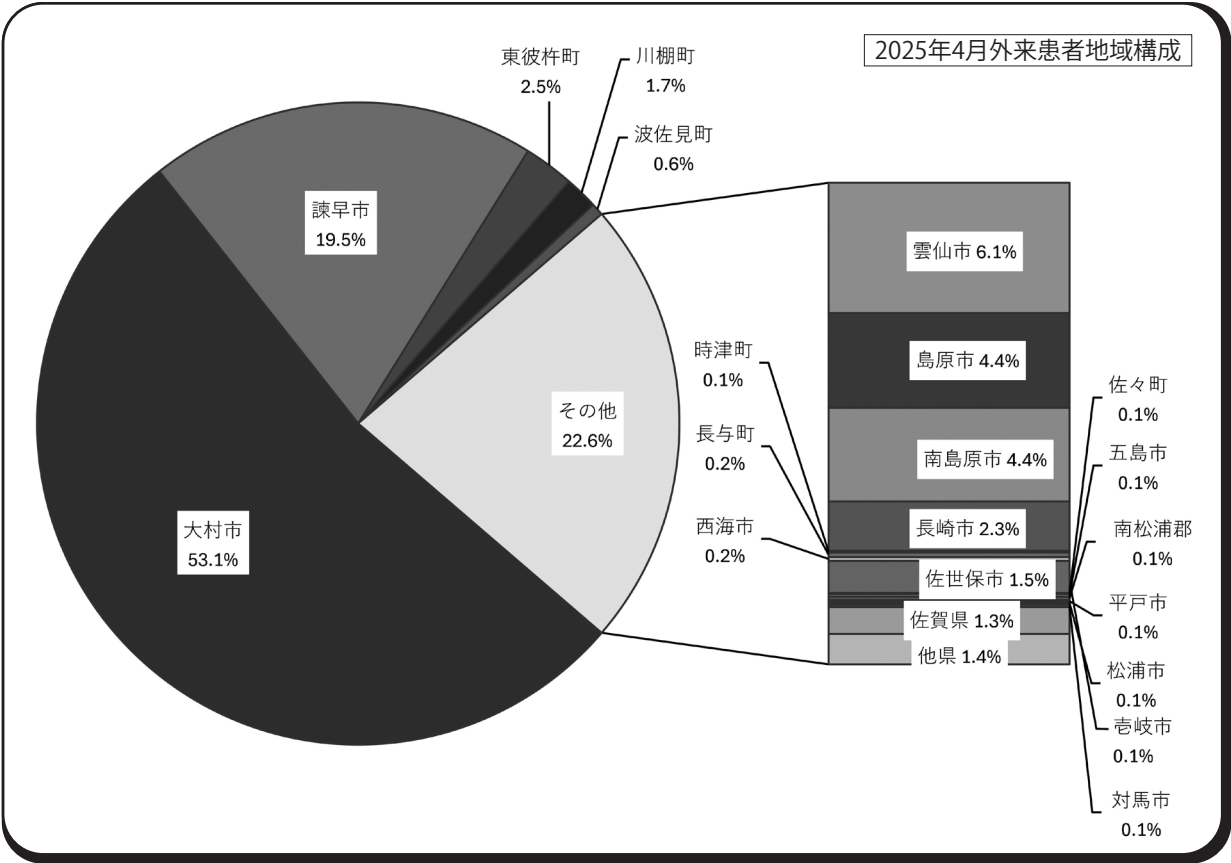
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計		
県 央	大 村 市	641	577	608	619	574	584	616	600	625	600	581	560	7,185	51.0%	10,491
	諫 早 市	245	207	226	209	187	196	247	217	222	216	196	202	2,570	18.2%	
	東彼杵町	30	27	26	32	31	28	29	35	30	21	30	30	349	2.5%	
	川 棚 町	27	31	29	28	21	22	28	27	23	29	23	15	303	2.2%	
	波佐見町	7	6	11	5	9	4	12	6	7	4	3	10	84	0.6%	
県 南	雲 仙 市	87	81	82	75	74	83	79	82	75	77	67	81	943	6.7%	2,367
	島 原 市	52	72	48	51	57	56	50	51	50	49	45	51	632	4.5%	
	南島原市	54	58	69	60	64	70	82	61	61	74	67	72	792	5.6%	
長 崎	長 崎 市	35	24	28	19	11	23	39	30	25	22	25	23	304	2.2%	358
	時 津 町	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	6	0.0%	
	長 与 町	5	4	3	2	1	0	5	0	1	1	1	3	26	0.2%	
	西 海 市	1	2	3	3	2	1	3	1	1	1	2	2	22	0.2%	
佐世保	佐世保市	14	11	15	12	22	10	18	18	24	16	7	9	176	1.2%	194
	佐 々 町	3	1	1	3	1	1	0	3	0	1	2	2	18	0.1%	
五 島・ 上五島	五 島 市	4	3	9	3	5	3	3	3	1	5	5	3	47	0.3%	91
	南松浦郡	1	1	3	6	3	1	7	5	0	3	6	5	41	0.3%	
	小値賀町	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.02%	
県 北	平 戸 市	3	4	0	3	0	1	3	2	2	0	1	1	20	0.1%	28
	松 浦 市	0	0	2	1	0	1	1	1	0	0	1	1	8	0.1%	
杵 岐・ 対 馬	杵 岐 市	2	3	2	0	3	1	2	2	1	5	2	3	26	0.2%	94
	対 馬 市	4	2	3	4	9	4	9	9	8	4	6	6	68	0.5%	
他 県	佐 賀 県	13	8	14	8	15	10	10	13	12	14	21	14	152	1.1%	466
	他 県	28	25	21	26	31	25	29	32	23	25	25	24	314	2.2%	
合 計		1,189	1,037	1,113	1,172	1,120	1,124	1,272	1,199	1,191	1,168	1,117	1,117	14,089		



地域別外来患者数

		人口（推計）	2024年 4月			2025年 4月		
		2025.12現在	延患者数（人）	一日平均（人）	構成比率	延患者数（人）	一日平均（人）	構成比率
県 央	大 村 市	97,704人	7,299	347.6	51.8%	7,634	363.5	53.1%
	諫 早 市	130,417人	3,021	143.9	21.4%	2,804	133.5	19.5%
	東 彼 杵 町	7,220人	396	18.9	2.8%	364	17.3	2.5%
	川 棚 町	12,270人	253	12.0	1.8%	241	11.5	1.7%
	波 佐 見 町	13,755人	101	4.8	0.7%	89	4.2	0.6%
県 南	雲 仙 市	38,481人	770	36.7	5.5%	881	42.0	6.1%
	島 原 市	40,249人	568	27.0	4.0%	640	30.5	4.4%
	南 島 原 市	37,573人	647	30.8	4.6%	633	30.1	4.4%
長 崎 県	長 崎 市	382,763人	313	14.9	2.2%	334	15.9	2.3%
	時 津 町	28,750人	12	0.6	0.1%	10	0.5	0.1%
	長 与 町	38,681人	26	1.2	0.2%	30	1.4	0.2%
	西 海 市	23,556人	27	1.3	0.2%	28	1.3	0.2%
佐 世 保	佐 世 保 市	226,514人	200	9.5	1.4%	215	10.2	1.5%
	佐 々 町	13,719人	9	0.4	0.1%	9	0.4	0.1%
五 島 ・ 上 五 島	五 島 市	31,229人	19	0.9	0.1%	19	0.9	0.1%
	南松浦郡	15,250人	20	1.0	0.1%	20	1.0	0.14%
	小 値 賀	2,003人	1	0.0	0.0%	1	0.0	0.01%
県 北	平 戸 市	26,173人	22	1.0	0.2%	13	0.6	0.1%
	松 浦 市	19,132人	10	0.5	0.1%	11	0.5	0.1%
壱 岐 ・ 対 馬	壱 岐 市	22,146人	12	0.6	0.1%	9	0.4	0.06%
	対 馬 市	25,235人	12	0.6	0.1%	15	0.7	0.1%
他 県	佐 賀 県	-	208	9.9	1.5%	180	8.6	1.3%
	他 県	-	139	6.6	1.0%	206	9.8	1.4%
合 計		-	14,085	670.7	-	14,386	685.0	-

※「人口（推計）」については、長崎県ホームページによる。

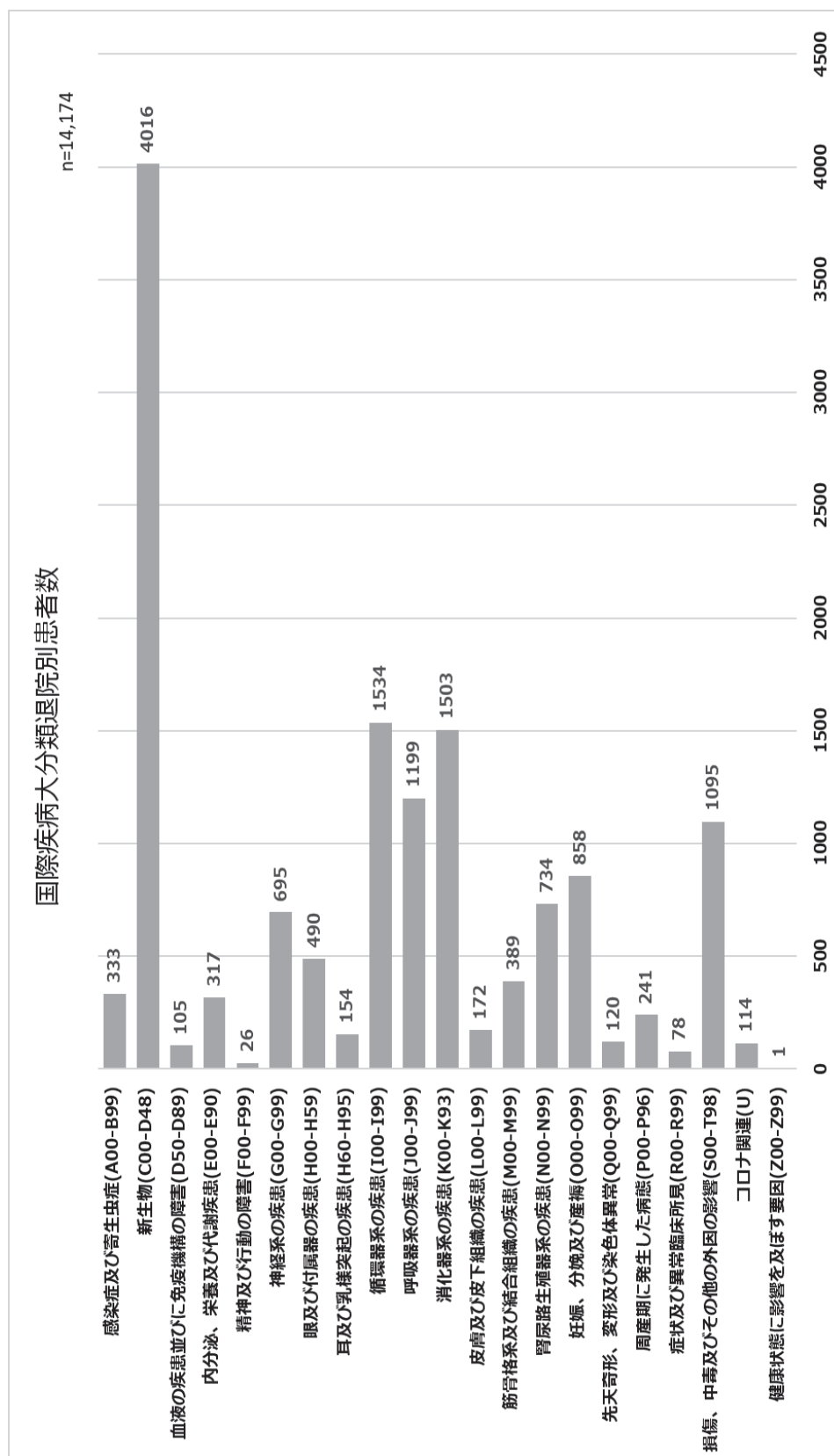


2025年 疾病統計データ ～eXChart～ 診療統計データベース

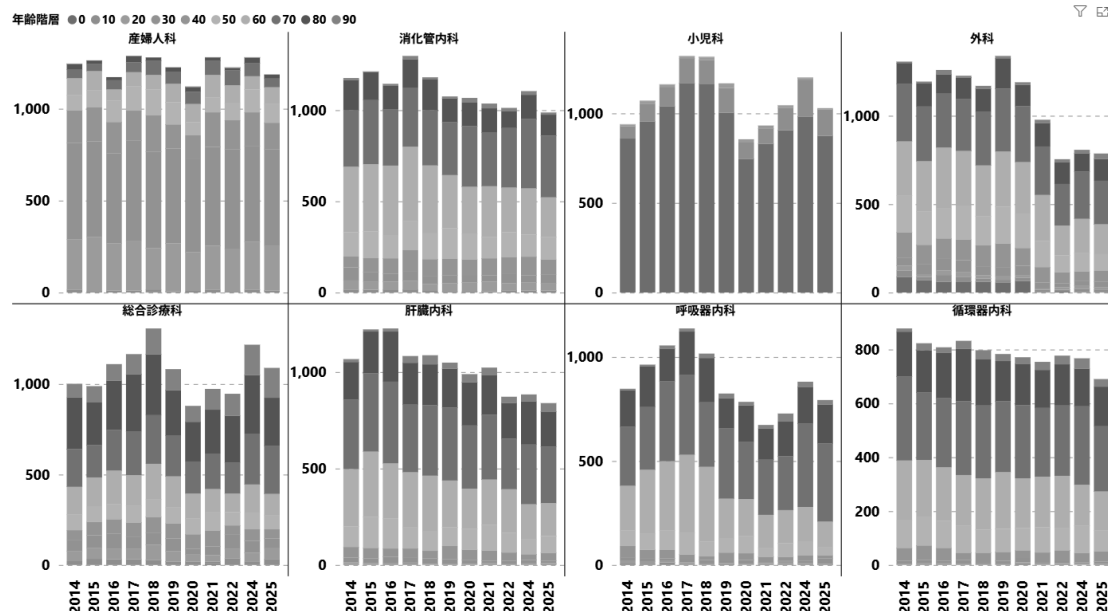


独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
診療情報管理室

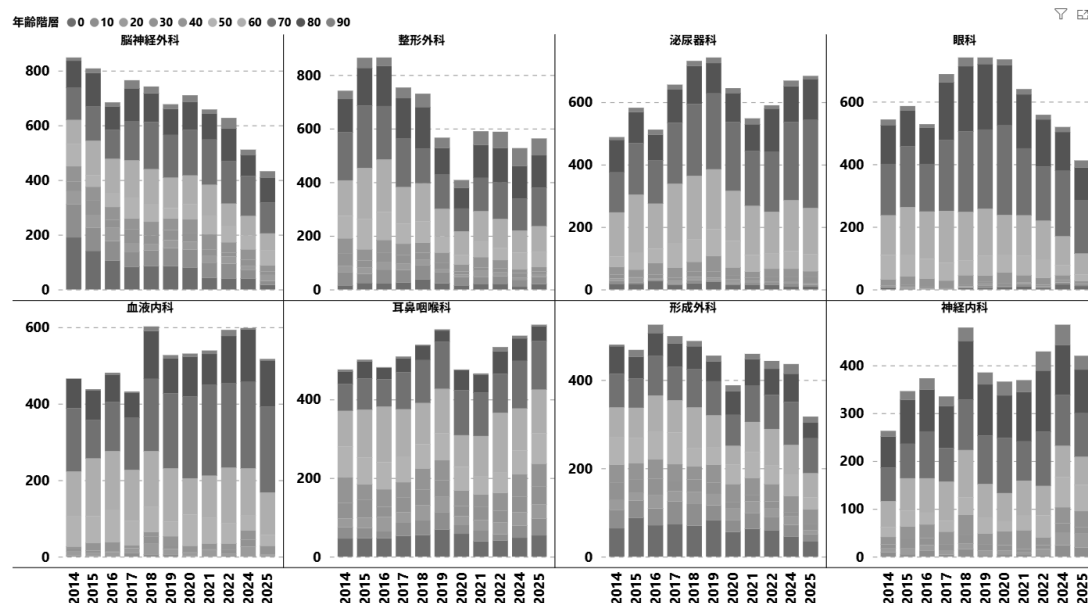
国際疾病大分類別の退院患者数



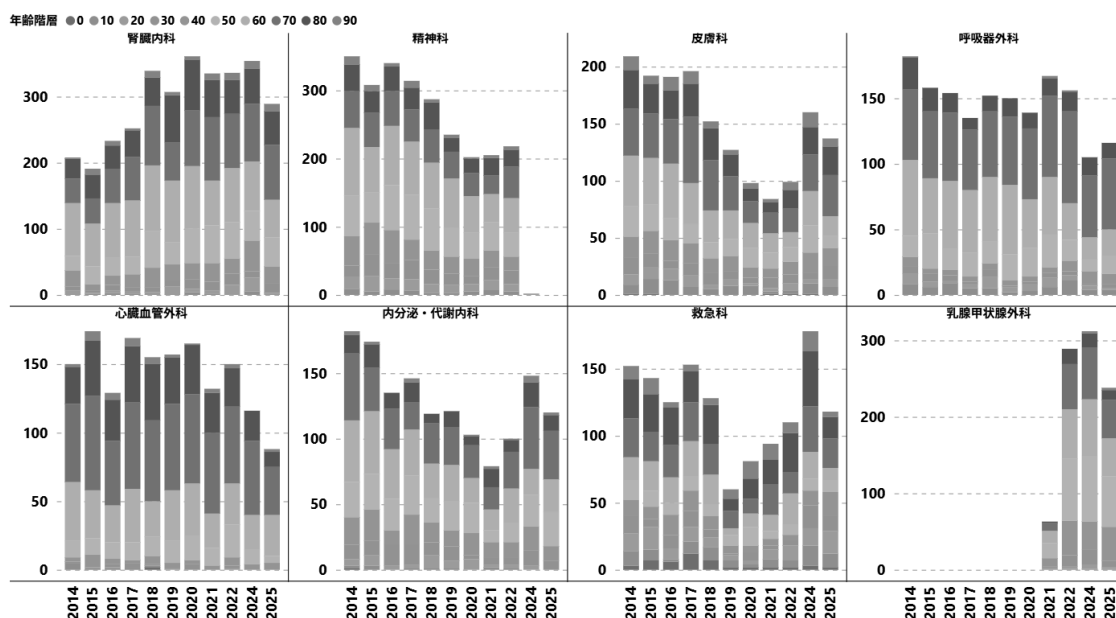
診療科別 退院患者数推移



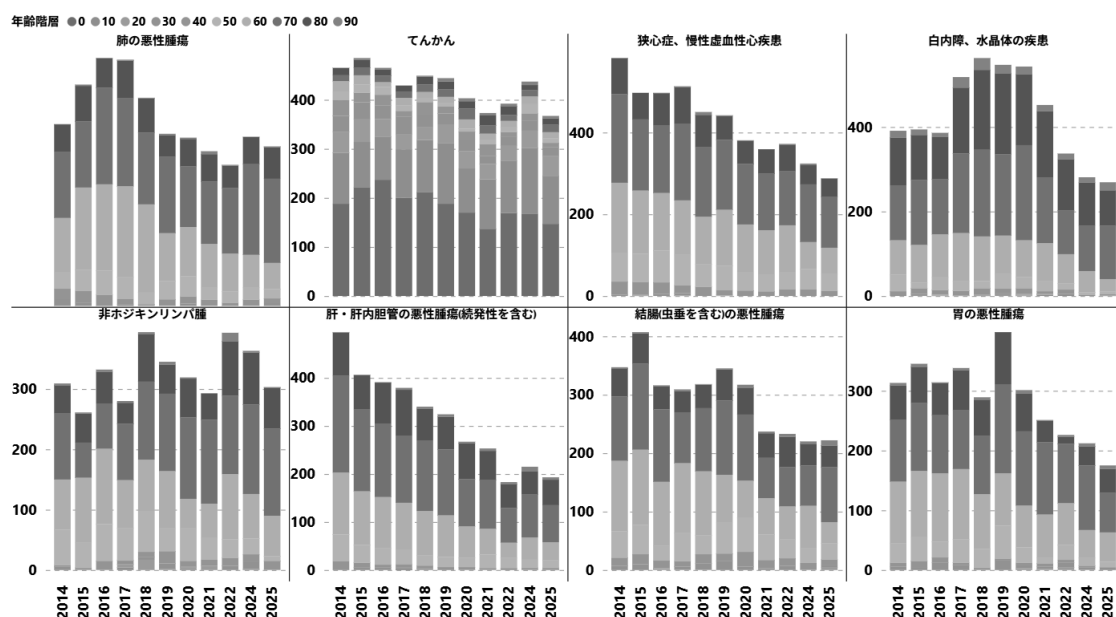
診療科別 退院患者数推移



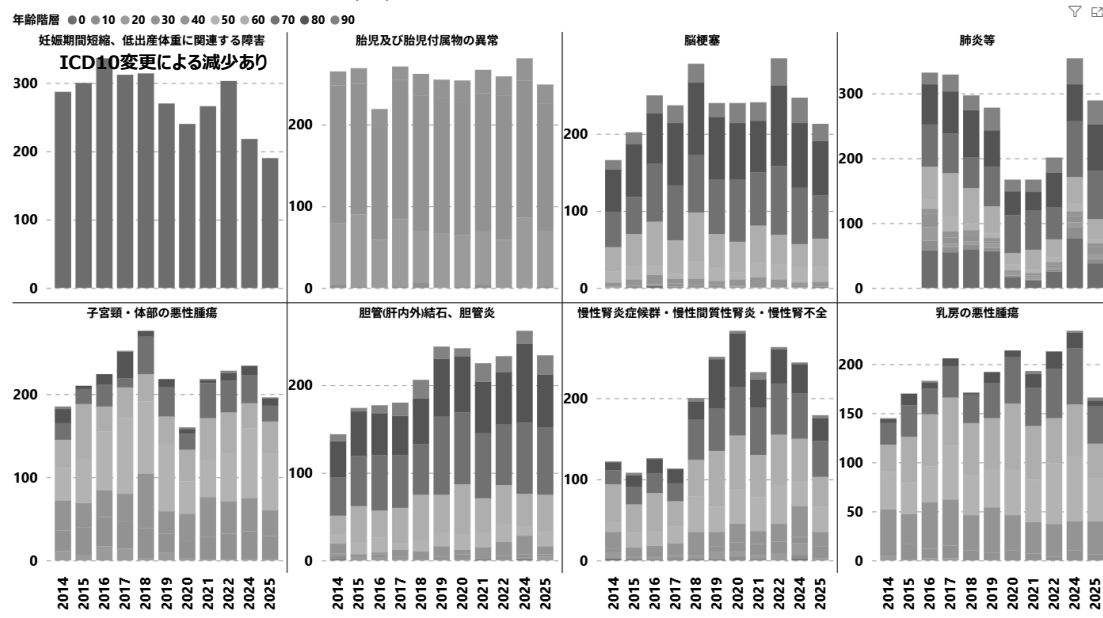
診療科別 退院患者数推移



疾患別 患者数推移



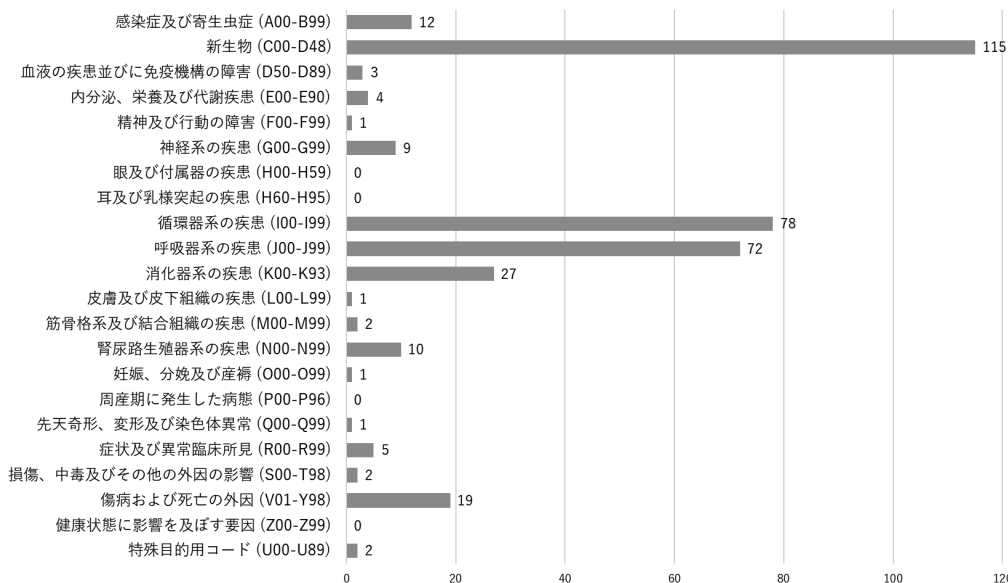
疾患別 患者数推移



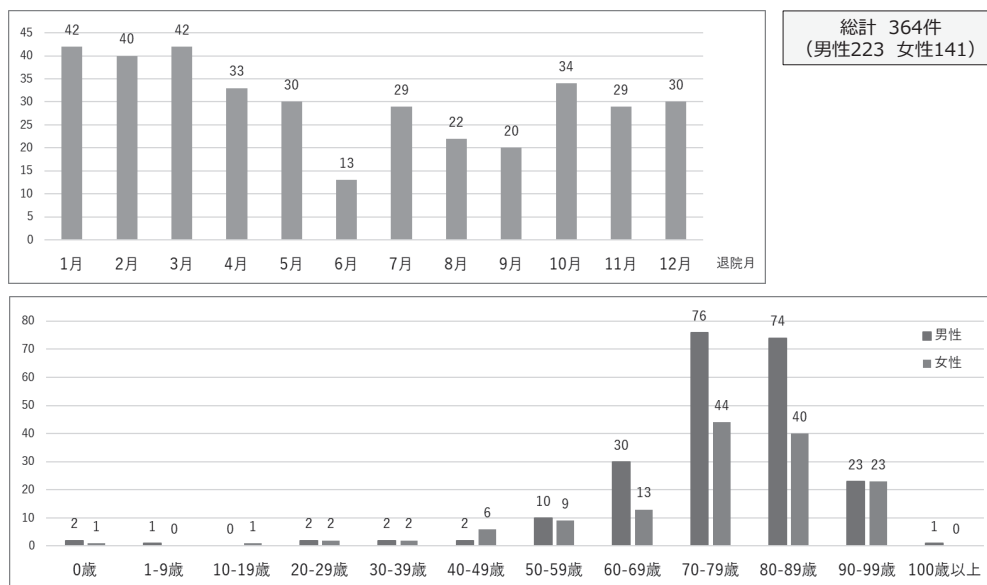
ICD10分類別 死亡退院数

総計 364件

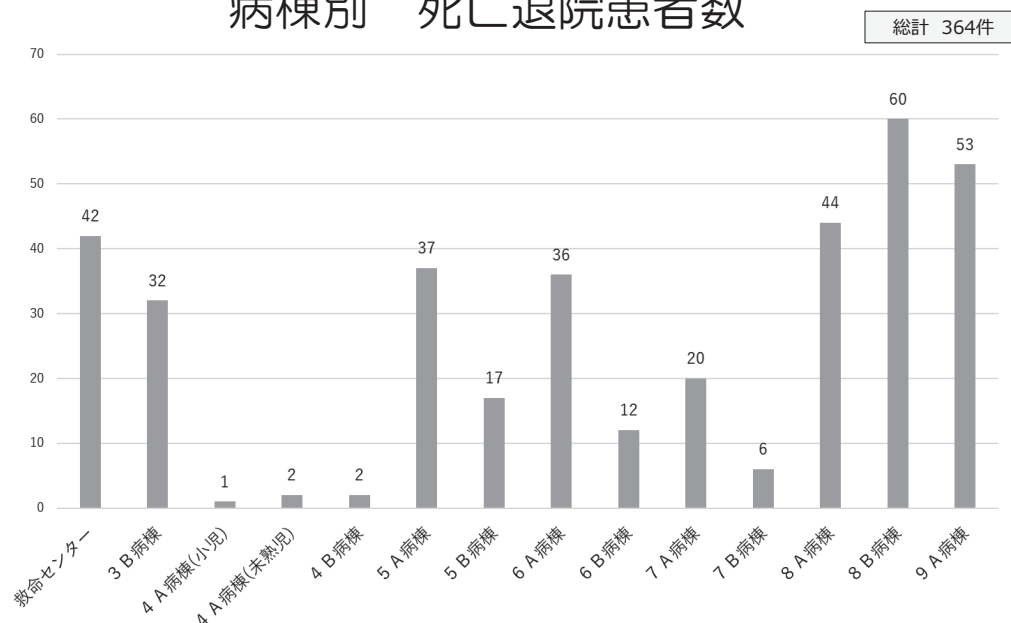
国際疾病分類



月別／性別・年齢階層別 死亡退院患者数

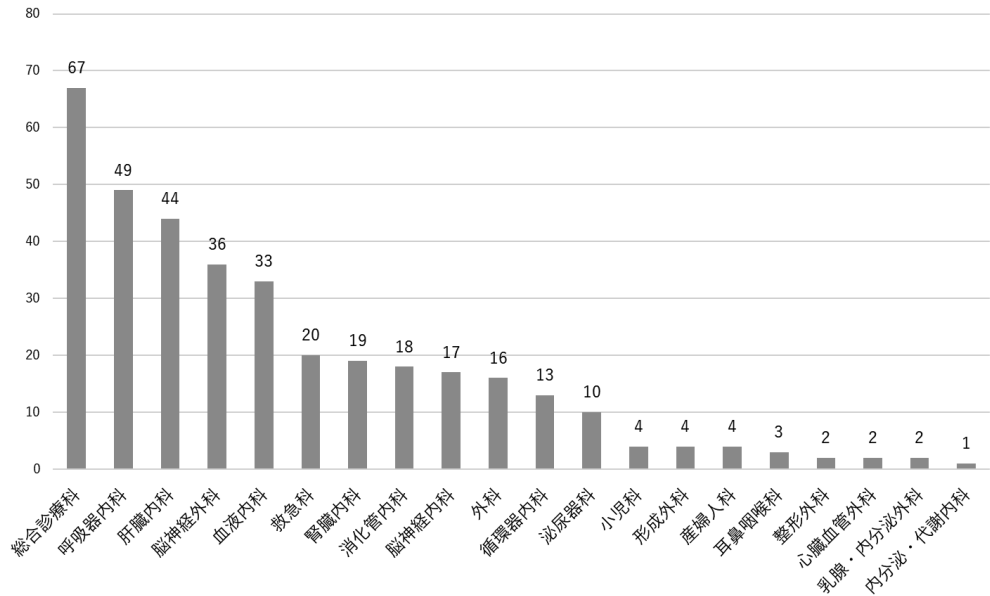


病棟別 死亡退院患者数



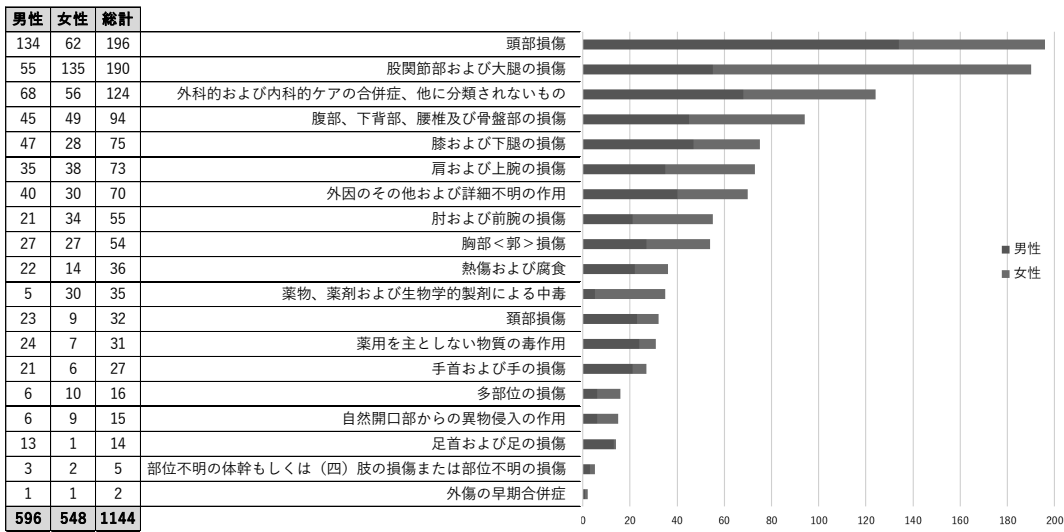
診療科別 死亡退院患者数

総計 364件



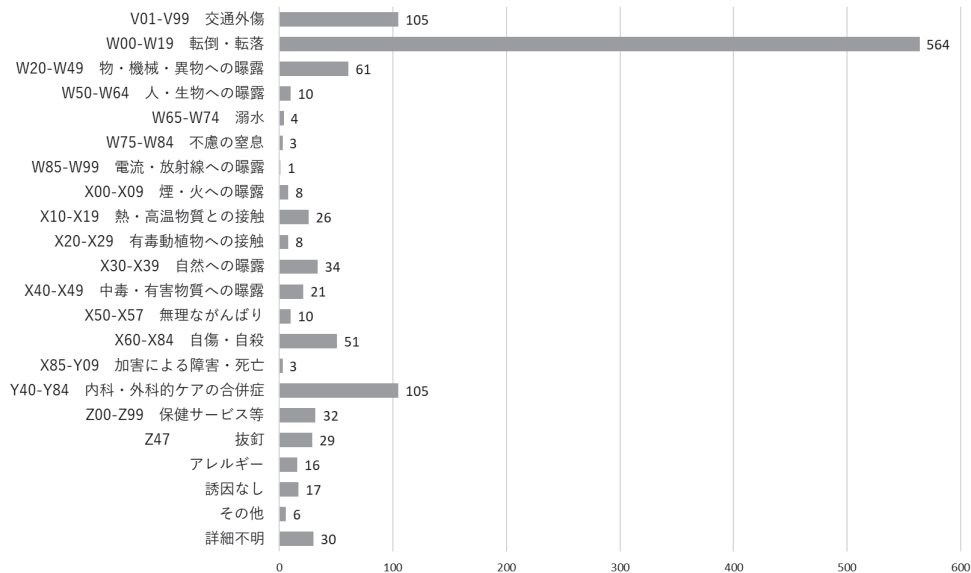
外傷：ICD10分類疾病別件数

総計 1144件
(男性596 女性548)



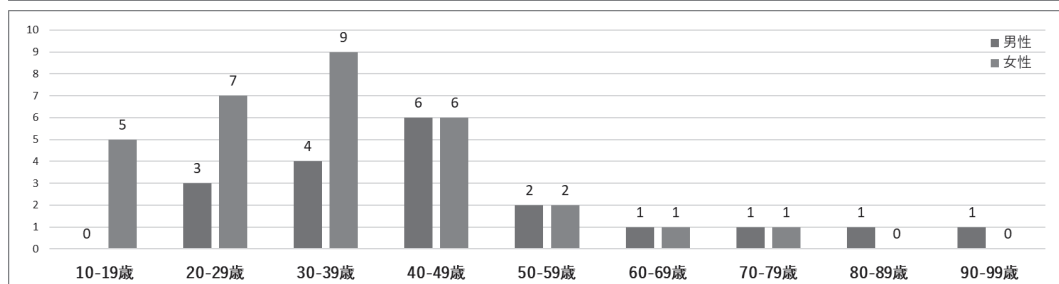
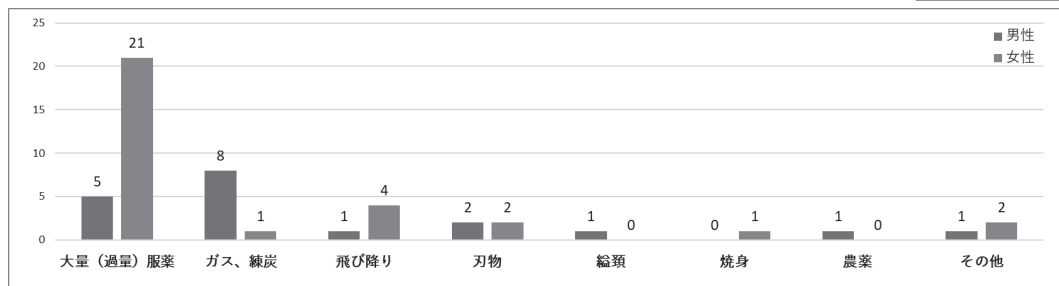
外傷：受傷機転別件数

総計 1144件



自殺・自殺企図 手段別件数／年代別件数

総計 50件
(男性19 女性31)

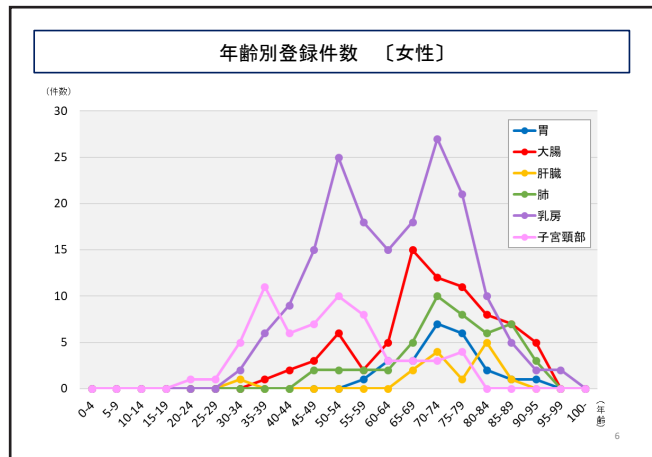
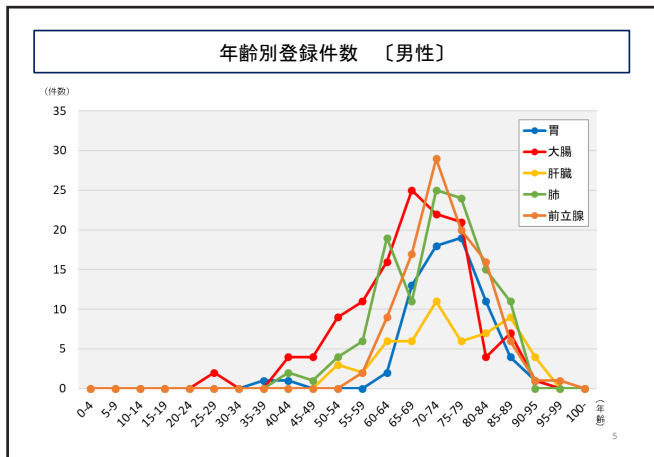
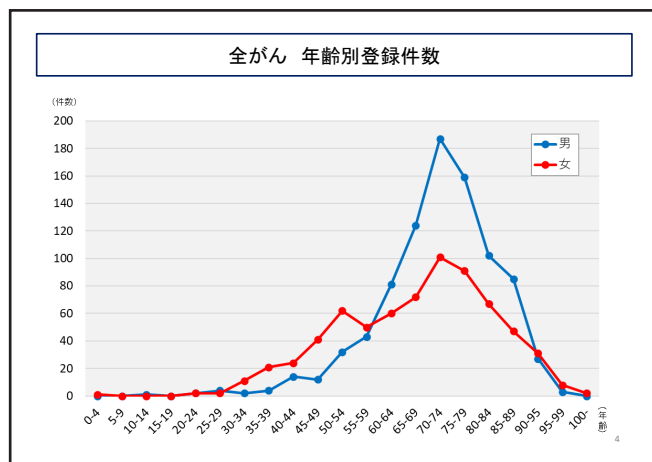
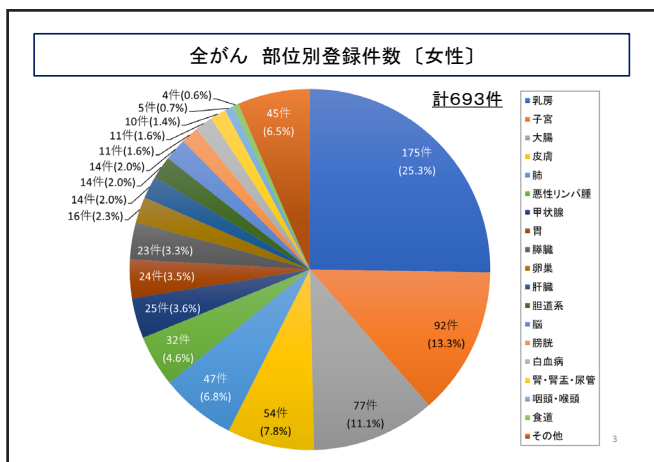
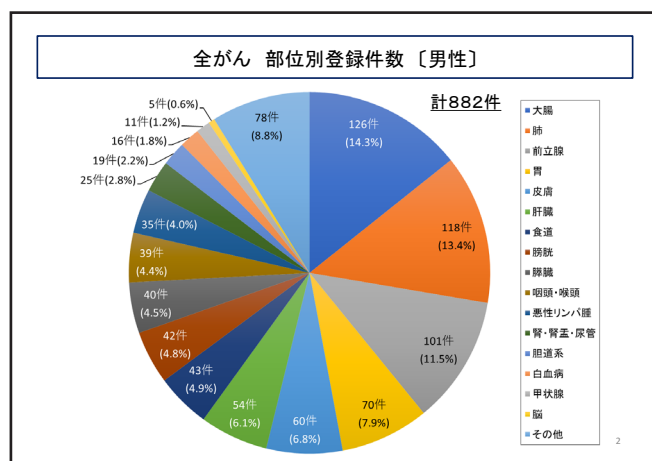
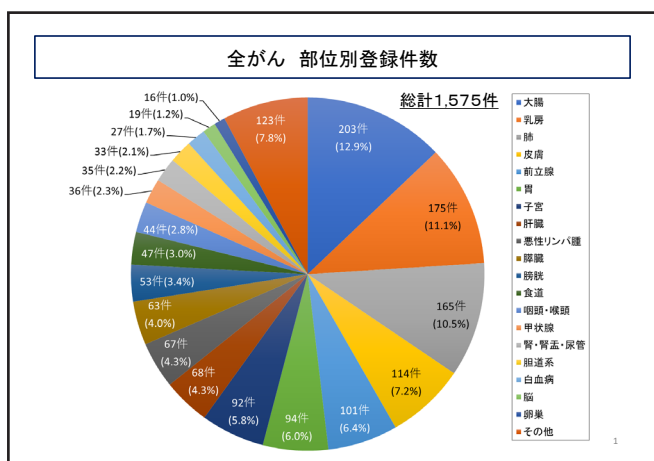


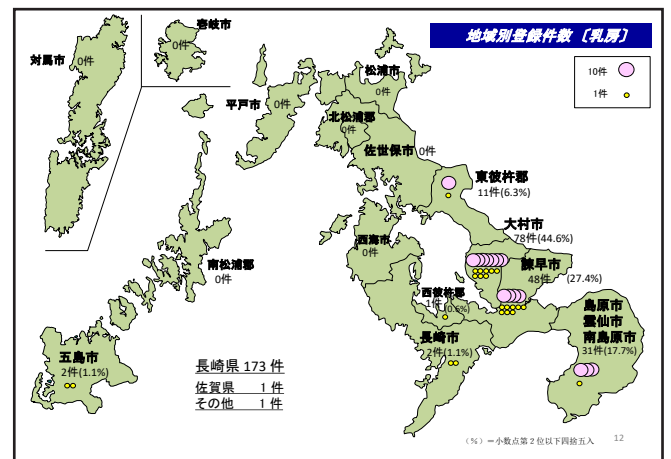
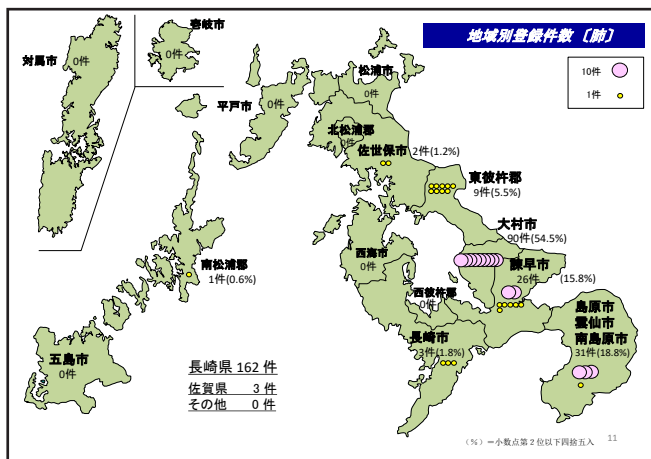
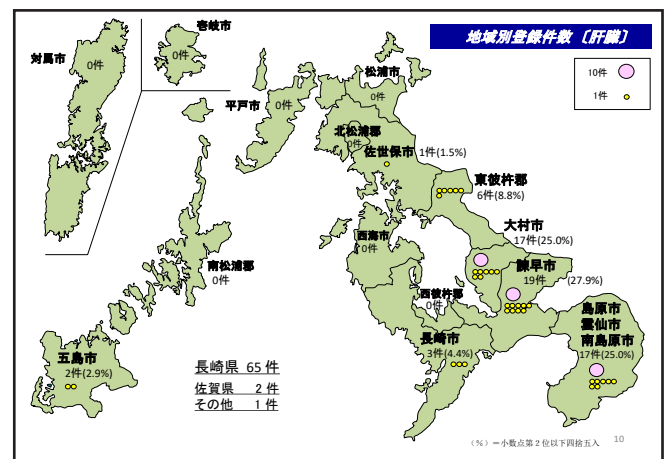
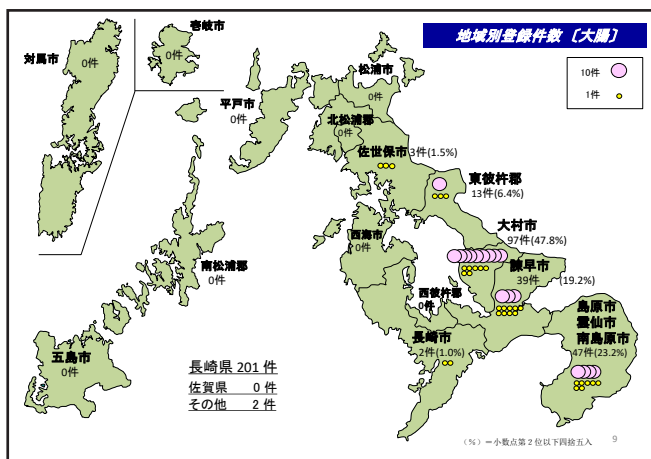
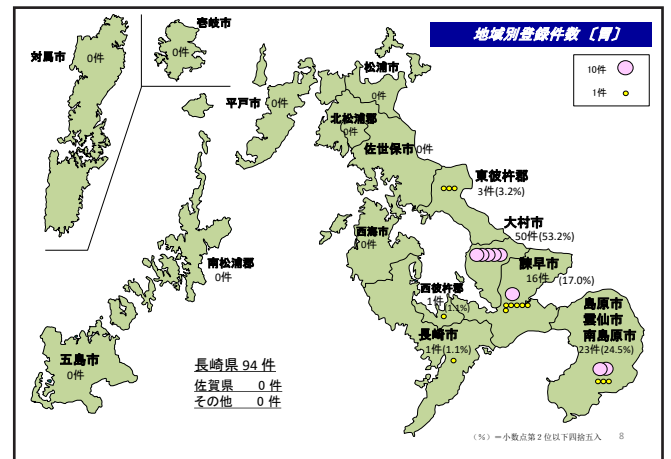
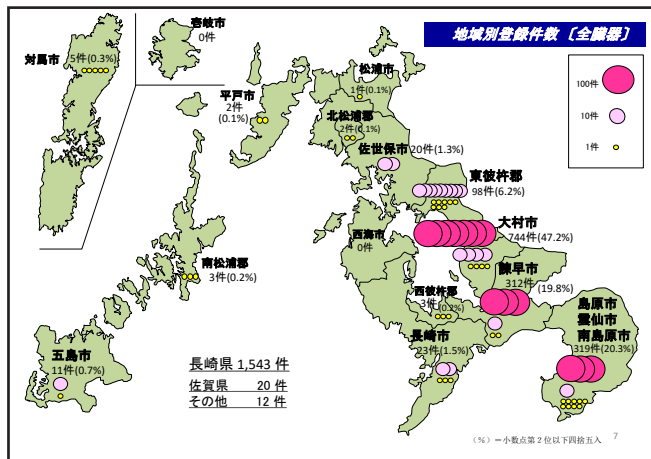
2024 年

長崎医療センター

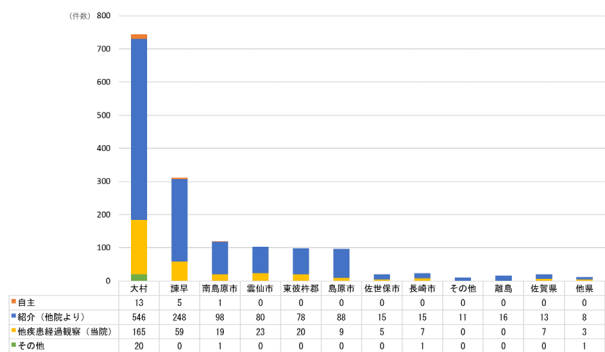
腫瘍集計報告

2024年 1 月～ 2024年12月

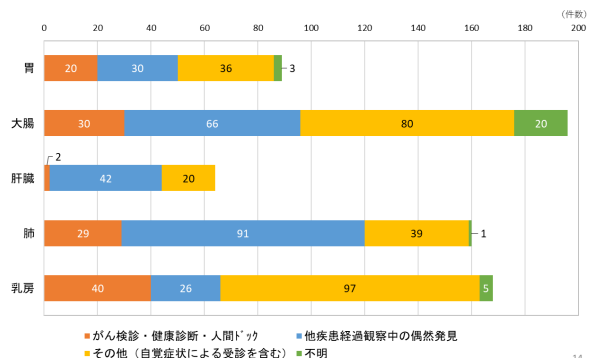




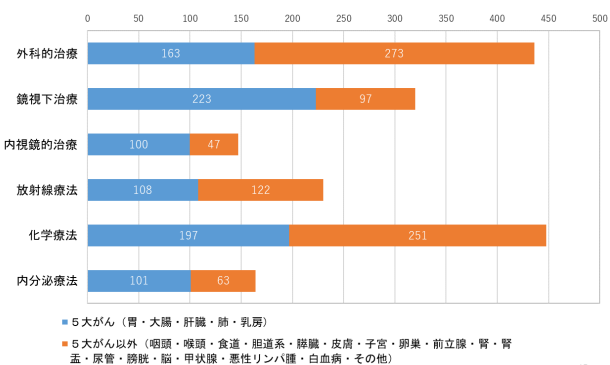
来院経路（地域別）



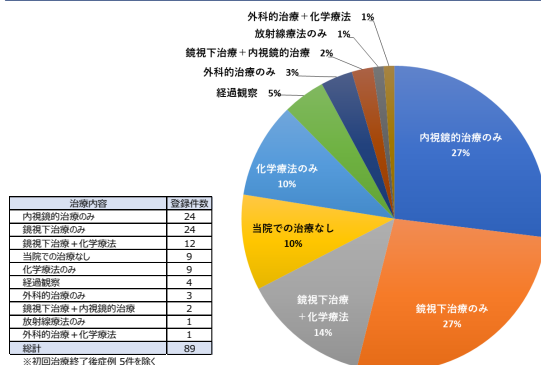
発見経緯（5大がん）



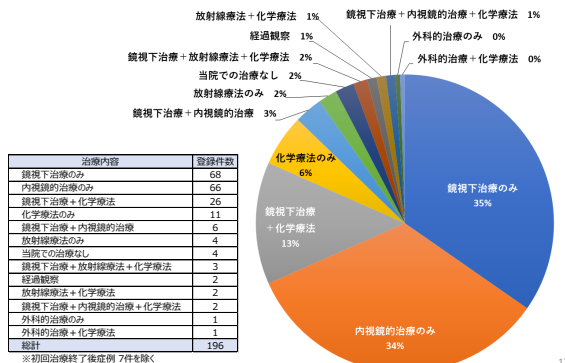
初回治療方法



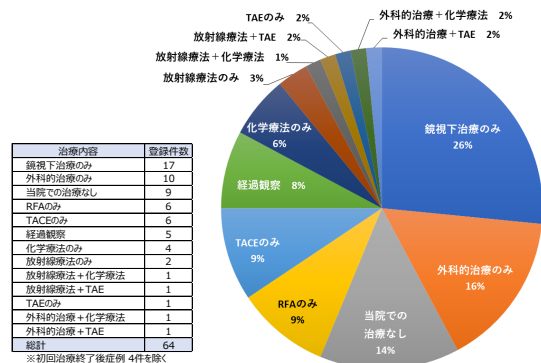
胃がん 初回治療内容 [2024年診断症例]



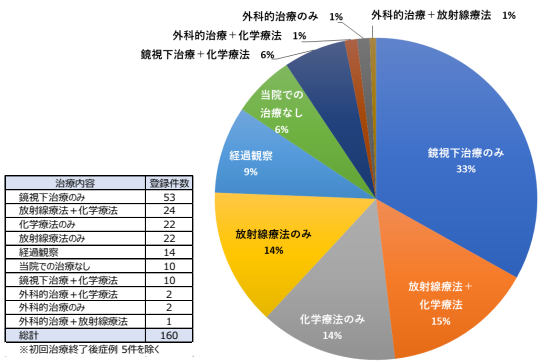
大腸がん 初回治療内容 [2024年診断症例]



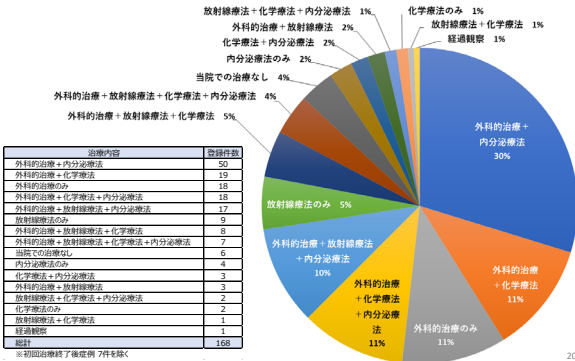
肝がん 初回治療内容 [2024年診断症例]



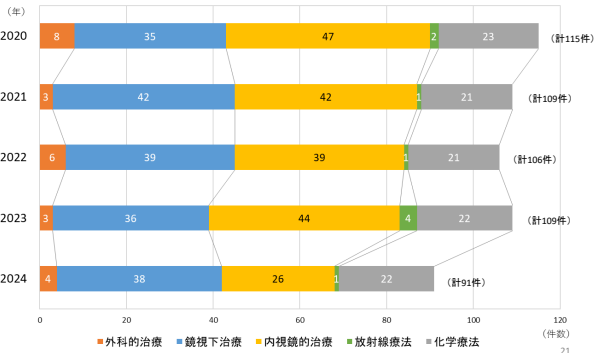
肺がん 初回治療内容 [2024年診断症例]



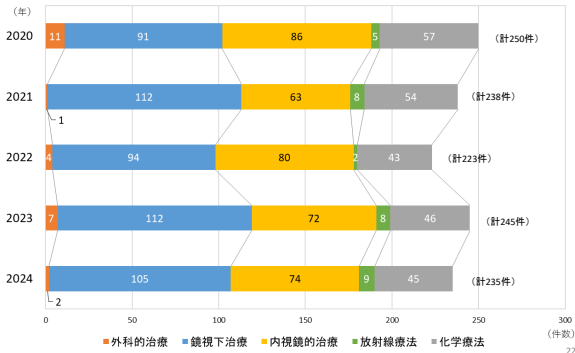
乳がん 初回治療内容 [2024年診断症例]



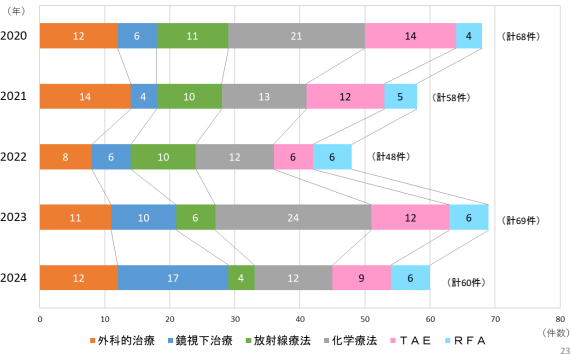
初回治療方法 (胃) の推移



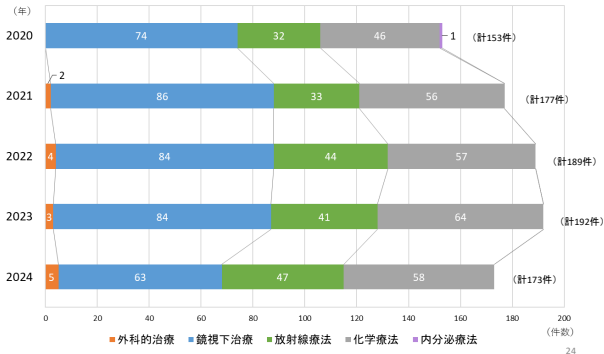
初回治療方法 (大腸) の推移



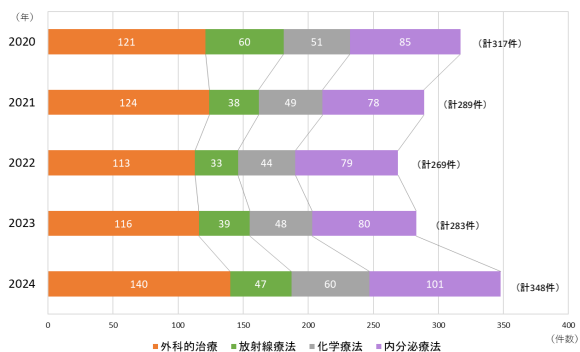
初回治療方法 (肝臓) の推移



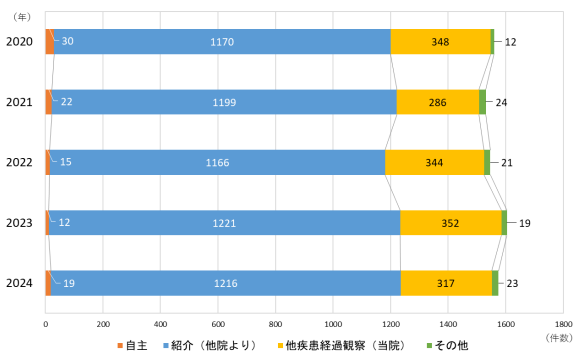
初回治療方法 (肺) の推移



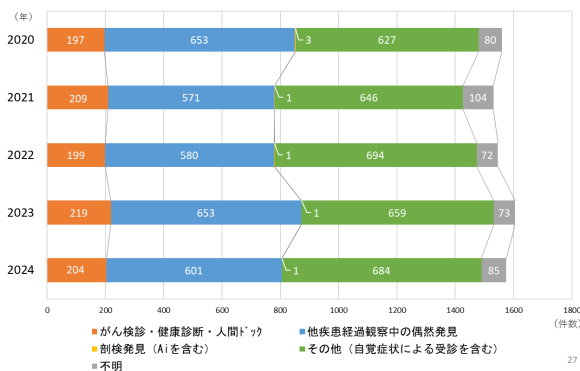
初回治療方法（乳房）の推移



来院経路の推移



発見経緯の推移



編集後記

2025年8月、当院は病院機能評価を受審し、日本医療機能評価機構認定病院として認定されました。準備は大変なものでしたが、その過程で病院内のさまざまなことを見直す良い機会となりました。

医療経済を取り巻く環境は非常に厳しい一年でした。物価や賃金の上昇により、大学病院や急性期病院は軒並み赤字となりました。当院でも病床再編について議論を重ね、2026年4月から病床数を643床から580床へ変更することとなりました。また、業務効率化を目的として電子カルテの音声入力システムや、患者さんの通院を支援するアプリ「コンシェルジュ」が導入されました。さらに、医業収支の黒字化に向けた各種プロジェクトが立ち上がり、活動を開始しています。

年度末にはそれぞれの部署を代表する先生方が退職されました。循環器内科部長の於久幸治先生は30年間勤務され、救急医療の最前線でカテーテル治療に従事し、多くの患者さんの命を救ってこられました。形成外科部長の藤岡正樹先生は23年間勤務され、多くの手術を手掛けるとともに、国内外の学会発表や論文執筆を通じて病院の名声向上に大きく貢献されました。長年にわたり当院を支えていただき、ありがとうございました。

2月7日には停電が発生しました。病棟や階段は真っ暗となり、翌朝の朝食には非常食が配られるなど、病院全体に大きな影響が及びました。そのような状況の中、私の娘の出産がありました。分娩室の照明も不安定で、こどもの回旋異常もあるため、なかなか生まれない状況でした。しかし、産婦人科病棟のスタッフの皆さんは終始落ち着いて対応され、温かい声掛けをしていただきました。そのおかげで無事に出産でき、今は元気に成長しています。両親は停電という暗闇の中でも、光となるようにと名前に「輝」の文字を入れました。

私たちの病院も一人ひとりが輝ける場所でありたいと思います。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年3月

診療情報管理室長

本村 秀樹

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

年 報

(2025年)

発 行 日 令 和 8 年 3 月

編集・発行 独立行政法人 国立病院機構 **長崎医療センター**
〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL (0957) 52-3121 FAX (0957) 54-0292

印刷・製本 株式会社 陽文社
〒812-0893 福岡県福岡市博多区那珂5丁目7番37号
TEL (092) 412-7331 FAX (092) 412-7332

独立行政法人  国立病院機構